高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

詫間電波工業高等専門学校

目 次

I	高等専門	門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
П	目的 •		2
Ш	基準ごと	との自己評価	
	基準1	高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	基準2	教育組織(実施体制) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
	基準3	教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	86
	基準4	学生の受入 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・]	114
	基準5	教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・]	139
	基準6	教育の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	329
	基準7	学生支援等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3	383
	基準8	施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	188
	基準9	教育の質の向上及び改善のためのシステム・・・・・・・・・・ 5	525
	基準10	財務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	303
	基準11	管理運営 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	325

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

詫間電波工業高等専門学校

(2) 所在地

香川県三豊市詫間町香田551番地

(3) 学科等の構成

学 科:情報通信工学科,電子工学科,

電子制御工学科,情報工学科

専攻科:電子通信システム工学専攻,

情報制御システム工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数:学 科 815人

専攻科 42人

専任教員数:62人

助手数:0人

2 特徴

本校は、香川県の西北部、浦島伝説と内海美で知られる荘内半島の中腹にあり、予讃線詫間駅からバスで20分のところにある。前方は大小の島々が点在する穏やかな瀬戸内海に面し、背後は弥生式土器で脚光を浴びた紫雲出山に続く七宝山系に囲まれた閑静な学園である。

本校の歴史は古く、昭和18年無線電信講習所の設立に さかのぼる。詫間電波高校を経て、昭和46年に時代の要 請により仙台、熊本、詫間の国立3電波高校が揃って、 高専へ昇格した。高専昇格までの変遷を概略すると、次 のようになる。

- ・昭和18年10月 官立無線電信講習所大阪支所設立
- ・昭和20年4月 官立大阪無線電信講習所に改称
- ・昭和23年8月 文部省に移管
- ・昭和24年4月 香川県三豊郡詫間町に移転
- ・昭和24年5月 詫間電波高等学校に改称
- ·昭和46年4月 詫間電波工業高等専門学校設置

電波高校時代から高専設立当初にかけては第1級無線通信士の養成を本旨としていたが、通信技術の変遷と時代の急速な技術革新により本校の使命も電子・情報系技術者の育成へと変わっていった。時代の要請により学科の改組・新設、専攻科の新設が行なわれ、現在は情報通信工学科、電子工学科、電子制御工学科、情報工学科の

4 学科の準学士課程と電子通信システム工学専攻と情報 制御システム工学専攻の2 専攻の専攻科で構成され、電 子情報系に特化した教育・研究を行っている。

- ・昭和51年4月 電波通信学科3学級のうち1学級を 電子工学科に改組
- ・昭和55年4月 電波通信学科2学級のうち1学級を 情報工学科に改組
- ・昭和60年4月 電子制御工学科の新設
- ・平成元年4月 電波通信工学科を情報通信工学科に 名称変更
- ・平成16年4月 専攻科 (電子通信システム工学専攻, 情報制御システム工学専攻) 設置

本校の校訓は、「志操高く、視野広く、身体たくましく、基礎学力を深め、創造能力を磨き、汝の使命の達成に命をかけて生きよ。」であり、この校訓を本校の教育理念として教育活動を行ってきた。専攻科設置によって地域社会との連携など本校に対する社会の要望も変わってきたので、2004年に教育目的を見直し、使命、教育目的、学習・教育目標、学習成果を明確に定めた。

本校の使命は、「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会貢献」である。創造性ある実践的な電子情報系技術者を育成するために、本校の教育課程は数学、理科、社会、国語、英語などの一般教科と電子情報系専門科目をバランスよく開講している。特に、実験実習を重視した専門教育を行い、高等専門学校卒業時に大学の学部卒業生とほぼ同等の専門的な知識や技術が身につけられるように工夫している。

本校は「ものづくり」教育を積極的に取り入れ,準学士課程の低学年の工学導入教育から,工学実験,卒業研究,そして専攻科の特別実験,特別研究まで学生が自分で考え,作り,改良することを繰り返して最終的に実現するという,創造サイクルを各学年に合ったレベルで繰り返し行えるようにカリキュラムを工夫している。また,授業以外の「ものづくり」教育として,「ロボット・コンテスト」,プログラミング・コンテスト」などの課外活動への応用も積極的に行ってきており,積極的な「ものづくり」教育の成果が「ロボット・コンテスト」,「プログラミング・コンテスト」,「キャンパス・ベンチャー」などでの好成績につながっている。

Ⅱ 目的

詫間電波高専の準学士課程では中学校卒業後の早い時期から5年間の一貫した専門教育により実践的な電子情報系の技術者を養成することを目的とし、専攻科課程では更に2年間の専門教育により、より多くの知識とより高度な技術を修得した開発型技術者を養成することを目的としている。

詫間電波工業高等専門学校の使命

- 1. 創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成
- 2. 地域における知の拠点としての社会貢献

教育目的:養成すべき人材像

- 1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 2. 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。
- 3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

準学士課程の学習・教育目標と卒業時に身に付ける学力や資質・能力

- A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける.
 - A1:3 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知っている。(技術者としての責任を果たす能力)
 - A2:2 公衆に対する責任, 有用で安全な技術の提供について知っている。(人類の福祉に貢献できる能力)
 - A3:3 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断できる。(物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
- B:日本語及び英語で共同作業を行うことができる.
 - B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。(相手の意図を理解できる能力)
 - B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。(自分の考えを相手に伝える能力)
 - B3:3 分担の作業を遂行できる。
- C:情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.
 - C1 情報機器を活用して情報収集ができる。 C2 情報機器を
 - C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
 - C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
 - C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
- D:技術者としての基礎知識を身につけ、関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる.
 - D1:3 基本的な問題が解け、基本的な法則や定理を説明できる。(数学、自然科学に関する知識)
 - D2:3 基本的な問題が解け、専門用語や現象·仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識)
 - D3:2 学んだ知識を整理できていて、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識)
 - D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
 - D5:2 予習復習でき、文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
- E:与えられた課題を達成する手法を学び、問題解決に取り組むことができるようになる.
 - E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。 (計画を立案できる能力)
 - E2:2 回路又はシステムの設計手順,手法を知っている。(設計できる能力)

- E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。 (組み立て又は構築できる能力)
- E4:2 予測値と実測値を比較して,正常な動作かどうか検証できる。(問題点を見つけることができる能力)
- E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。 (問題点を解決できる能力)
- E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(取り組む姿勢)
- F:運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。
 - F1 運動能力の維持向上に努める姿勢を身に付けている。 F2 団体の規律を守る姿勢を身に付けている。
 - F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢を身に付けている。

専攻科課程の学習・教育目標と修了時に身に付ける学力や資質・能力

- A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付け、物事の良し悪しを根拠を示して 判断できる.
 - A1:4 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知って,生命を尊重 し自他の幸福を願う姿勢が身に付いている。(技術者としての責任を果たす能力)
 - A2:4 公衆に対する責任,有用で安全な技術の提供について知り,有用性とリスクを知り,公衆の安全を最優 先する姿勢を身に付けている。(人類の福祉に貢献できる能力)
 - A3:4 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断でき,判断を多用な価値観から評価できる。(物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
- B:日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.
 - B1:3 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。(相手の意図を理解できる能力)
 - B2:3 自分の考えが相手に正しく伝わったかを確認できる。(自分の考えを相手に伝える能力)
 - B3:4 助け合いながらお互いの作業を進めることができる。
- C:情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.
 - C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
- C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
- C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
- C4:8 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約によって発表でき,質問に適切に回答できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
- D:技術者としての幅広い基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応でき、技術が社会に与える影響を考察できるようになる.
 - D1:4 応用問題が解け、専門分野に応用できる。(数学、自然科学に関する知識)
 - D2:4 応用問題が解け、実践的な問題解決に応用できる。(専門技術に関する知識)
 - D3:3 学んだ知識を整理し、他の分野に応用できる。(幅広い知識)
 - D4:2 技術の歴史を知り、技術の現状を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
 - D5:3 予習復習と文献調査ができ、目標を立てて取り組むことができる。(自ら学ぶ姿勢)
- E:与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる.
 - E1:3 目的を言え、計画案を示すことができる。 (計画を立案できる能力)
 - E2:3 回路又はシステムの設計手順,手法を知っていて,設計できる。(設計できる能力)
 - E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。 (構築できる能力)
 - E4:2 予測値と実測値を比較して、正常な動作かどうか検証できる。(問題点を見つけることができる能力)
 - E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。 (問題点を解決できる能力)
 - E6:3 作業状況に応じて計画を見直し、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(取り組む姿勢)

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①: 目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、 及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等 が、明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校では、設立時に定めた目的を学則に掲げ(資料1-1-①-1)校訓(資料1-1-①-2)を教育理念として教育を行ってきたが、平成16年4月の専攻科設置にあたって時代にあったより具体的な表現にするために検討を行った。

平成17年1月に"本校の使命",教育研究活動を実施する上での基本方針である"本校の目標"並びに"教育目的:養成すべき人材像"を定め(資料1-1-①-3, 4),更に教育目的を達成するためのより具体的な学習・教育目標,学習・教育目標を達成したとき身に付く学習成果,身に付けた学習成果の水準を示す達成度基準を定めている(資料1-1-①-5)。

資料1-1-①-5に示すように、全角のA~Fの記号がふられたものが学習・教育目標を表し、 半角のA~Fと数字がふられたものが学習成果、更に半角のA~Fと数字の後にコロンと数字がふられ たものが達成度基準を表している。達成度基準のコロンの後の数字は、学習成果 C1~C4 以外はその 数が大きくなるほど水準が高く設定されている。学習成果 C1~C4 の場合は、達成度基準はコロンの 後の数字に関係なく水準は同等である。

平成18年12月に,準学士課程と専攻科課程の"学習·教育目標と卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力"を,資料1-1-1-6に示すように学習・教育目標,学習成果,達成度基準を基に定めている(資料1-1-1-1-1-10-7,8)。"学習・教育目標と卒業(修了)時に身に付く学力や資質・能力"と"学習・教育目標と学習成果並びに達成度基準"は,それぞれの各項目に付記された記号によって対応づけられている。達成度は一部同等のものもあるが多くは専攻科課程の方が準学士課程より高く設定されている(資料1-1-1-1-10-9)。

"学習・教育目標と学習成果並びに達成度基準"の記号は、シラバスの学習到達目標の横に併記され(資料1-1-①-10)、各科目が"卒業(修了)時に身に付く学力や資質・能力"のどの能力を身に付けさせるかを示すように工夫されている。

資料1-1-①-1

詫間電波工業高等専門学校学則(抜粋)

第1章 本校の目的

第1条 本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典 学生便覧 19 頁)

資料 1-1-①-2

校訓

志操高く, 視野広く, 身体たくましく, 基礎学力を深め, 創造能力を磨き, 汝の使命の達成に命をかけて生きよ。 (出典 学生便覧 19 頁)

本校の使命

- 1. 創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成
- 2. 地域における知の拠点としての社会貢献

本校の目標

- 1. 高い創造性をもつ実践的で個性豊かな電子情報系技術者の国内最高水準の養成機関となることを目指す。
- 2. 地域における重要な電子情報系研究機関となることを目指す。
- 3. 地域における教育・文化の発展に中心的な役割を果たす機関となることを目指す。

教育目的: 養成すべき人材像

- 1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 2. 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。
- 3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

(出典 学生便覧 巻頭)

資料 1-1-①-4

第10回企画運営委員会議事要旨

日 時 平成17年1月20日(木) 16:15~17:50

場 所 管理棟第2会議室

出席者 校長,事務部長,教務主事,学生主事,寮務主事,専攻科長,一般教科長,

情報通信工学科長, 電子工学科長, 電子制御工学科長, 情報工学科長,

陪席者 庶務課長,会計課專門員(会計課長代理),学生課長,庶務課專門員,庶務係長

1. 協議事項

- (1) 詫間電波工業高等専門学校内部組織規程の一部改正について 庶務課長から資料1に基づき、改正理由及び内容について説明が行われ、審議の結果、 原案どおり了承された。
- (2) 詫間電波工業高等専門学校の使命と目標について

委員長から資料2に基づき,「詫間電波工業高等専門学校の使命,目標,教育目的,学習·教育目標と学習成果」について,説明が行われ,審議の結果,原案どおり了承された。

なお、このことについては教員会議で報告する旨、委員長より発言があった。

(3) アドミッションポリシーについて

教務主事,電子工学科長(JABEE専門部会長)及び専攻科長から資料3に基づき,本科及び専攻科のアドミッションポリシーについて説明が行われ,審議の結果,原案どおり了承された。

また,資料3の内容を教職員,学生及び受験生等広く社会へ公表する必要があり、その方法については広報委員会で検討することとなった。

公表については教員会議,学生便覧,学校要覧,Webを利用するなどの意見もあった。

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

学習·教育目標, 学習成果, 達成度基準(1/4)

A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける. ← ◎学習·教育目標

A1 技術者としての責任を果たす能力(技術者倫理規定)

A1:1 安全で有用なものを作ることの大切さを知っている。

A1:2 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。

A1:3 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。

A1:4 生命を尊重し、自他の幸福を願う姿勢が身についている。

A2 人類の福祉に貢献できる能力(文化、社会及び歴史)

A2:1 技術者は公衆に対して責任を負う立場にあることを知っている。

A2:2 技術者は有用で安全な技術を提供しなければならないことを知っている。

A2:3 技術の有用性とリスクを示すことができる。

A2:4 公衆の安全を最優先する姿勢を身に付けている。

A3 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力

A3:1 事例において,何が問題か説明できる。

A3:2 事例を通して、他者の体験をわがものとしている。

A3:3 公衆の安全, 福祉, 健康及び環境保全を優先して判断できる。

A3:4 判断を多様な価値観から評価できる。

B1 相手の意図を理解できる能力

B1:1 相手の発言を正しく理解しようという態度を持っている。

B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。

B1:3 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。

B1:4 自分の理解を確認するために質問できる。

B2 自分の考えを相手に伝える能力

B2:1 自分の考えを相手に正しく伝えようという態度を持っている。

B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。

B3 役割を分担し、相互に協力して作業できる能力

B3:2 自分の役割を理解できる。

B3:3 分担の作業を遂行できる。

B3:4 助け合いながらお互いの作業を進めることができる。

C: 情報機器を活用して情報収集や情報分析, 文書作成, 口頭発表ができるようになる.

C1 情報機器を活用して情報収集ができる能力

C1:2 電子メール,ファイル転送ツールを使用できる。

C1:3 文献検索システムを使用できる。

← ○学習成果

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

← ○学習成果

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

← ○学習成果

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

← 達成度基準

B: 日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.

B2:3 自分の考えが相手に正しく伝わったことを確認できる。

C1:1 Web 検索ができる。

学習·教育目標, 学習成果, 達成度基準(2/4)

- C1:4 情報の有用性を判断できる。
- C1:5 収集したデータを管理できる。
- C1:6 測定器からのデータを収集できる。

C2 情報機器を活用して情報分析ができる能力

- C2:1 表計算ができる。
- C2:2 表, グラフの作成ができる。
- C2:3 統計処理ができる。

C3 情報機器を活用して文書作成ができる能力

- C3:1 ワープロを用いて文書を作成できる。
- C3:2 図表を含む文書を作成できる。
- C3:3 数式を含む文書を作成できる。
- C3:4 作図ツールを使って図を作成できる。
- C3:5 HTML 文書を作成して情報を発信できる。

C4 情報機器を活用して口頭発表ができる能力

- C4:1 時間配分が適切である。
- C4:2 理解しやすい構成になっている。
- C4:3 聞き取りやすい話し方ができている。
- C4:4 情報機器を使って発表できている。
- C4:5 簡潔に表現できている。
- C4:6 図表を適切に用いている。
- C4:7 目的と成果を要約して説明できている。
- C4:8 質問に適切に回答できている。

D:技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる.

D1 数学, 自然科学に関する知識

- D1:1 基本的な法則や定理を知っている。(基本的な法則や定理と説明文の対応付けができる。)
- D1:2 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。)
- D1:3 基本的な法則や定理を説明できる。
- D1:4 応用問題を解くことができる。
- D1:5 専門分野に活用できる。
- D1:6 得られた解の矛盾を指摘できる。

D2 専門技術に関する知識

- D2:1 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。)
- D2:2 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。)
- D2:3 専門用語や現象・仕組みを説明できる。
- D2:4 応用問題を解くことができる。

学習·教育目標, 学習成果, 達成度基準(3/4)

- D2:5 実践的な問題解決に応用できる。
- D2:6 性能を評価できる。

D3 幅広い知識

- D3:1 学んだ知識が整理できている。
- D3:2 学んだ知識が応用されている分野を知っている。
- D3:3 学んだ知識を他の分野に応用できる。
- D3:4 技術が社会に与える影響を考察できる。
- D3:5 科学以外の視点から考えることができる。

D4 技術の変遷を予測できる能力

- D4:1 技術の歴史を知っている。
- D4:2 技術の現状を知っている。
- D4:3 技術の発展について展望できる。

D5 自ら学ぶ姿勢

- D5:1 予習復習している。
- D5:2 文献調査ができている。
- D5:3 目標を立てて取り組めている。

E:与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる.

E1 計画を立案できる能力

- E1:1 目的を言える。 (課題を理解している。)
- E1:2 手順を示すことができる。
- E1:3 計画案を示すことができる。
- E1:4 必要に応じて計画を改善できる。

E2 回路またはシステムを設計できる能力

- E2:1 回路又はシステムを設計するための基礎知識を持っている。
- E2:2 設計手順, 手法を知っている。
- E2:3 設計できる。

E3 回路を組み立てることができる能力、またはシステムを構築できる能力

- E3:1 回路の組み立て又はシステム構築のための基礎知識を持っている。
- E3:2 回路を組み立てる又はシステムを構築する手順, 方法を知っている。
- E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。
- E3:4 回路又はシステムを評価し、調整あるいは改良できる。

E4 回路またはシステムの問題点を見つけることができる能力

- E4:1 回路又はシステムの正常な動作を知っている。
- E4:2 正常な動作かどうか検証できる。(予測値と実測値を比較して検証できる。)
- E4:3 回路又はシステムの動作チェックリストを作成できる。
- E4:4 区分して回路又はシステムの問題点を見つけている。

学習·教育目標, 学習成果, 達成度基準(4/4)

E5 問題点を解決できる能力

- E5:1 問題点を理解している。
- E5:2 教師の助言を受けて、問題を解決できる。
- E5:3 学生間で問題を解決できる。

E6 粘り強く取り組む姿勢

- E6:1 興味を持って取り組んでいる。
- E6:2 作業状況に応じて計画を見直している。(再製作,再構築,再設計)
- E6:3 達成するまで粘り強く取り組んでいる。

F:運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。

F1 運動能力の維持向上に努める姿勢

- F1:1 自分の運動能力を把握している。
- F1:2 自分の運動能力の変化を把握している。
- F1:3 自分の運動能力の維持向上に努めている。
- F1:4 運動能力を維持向上させている。

F2 団体の規律を守る姿勢

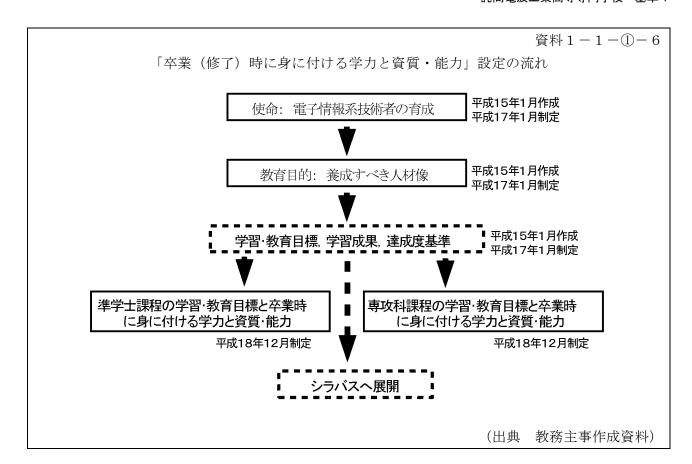
- F2:1 規定の服装を着用している。
- F2:2 整列や移動が速やかに行える。
- F2:3 人の話を集中して聞くことができる。
- F2:4 礼儀正しく挨拶ができる。

F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢

- F3:1 他の学生と協調してスポーツに取り組める。
- F3:2 各種スポーツのルールやシステムを理解している。
- F3:3 団体競技において、チームにおける自分の役割を理解できる。
- F3:4 団体競技において、その戦術を組み立てることができる。
- F3:5 団体競技において、チームの中でリーダーシップを取ることができる。

(出典 平成 18 年 2 月 24 日第 15 回教員会議資料 シラバス作成用学習・教育目標・学習成果・達成度基準)

詫間電波工業高等専門学校 基準 1



準学士課程の学習・教育目標と卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力

A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける.

- A1:3 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知っている。 (技術者としての責任を果たす能力)
- A2:2 公衆に対する責任, 有用で安全な技術の提供について知っている。(人類の福祉に貢献できる能力)
- A3:3 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断できる。 (物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
- B:日本語及び英語で共同作業を行うことができる。
 - B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。(相手の意図を理解できる能力)
 - B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。(自分の考えを相手に伝える能力)
 - B3:3 分担の作業を遂行できる。(姿勢)
- C:情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.
 - C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
 - C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
 - C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
- C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
- D:技術者としての基礎知識を身につけ、関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる.
 - D1:3 基本的な問題が解け、基本的な法則や定理を説明できる。(数学、自然科学に関する知識)
 - D2:3 基本的な問題が解け、専門用語や現象·仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識)
 - D3:2 学んだ知識を整理できていて、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識)
 - D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
 - D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
- E: 与えられた課題を達成する手法を学び、問題解決に取り組むことができるようになる.
 - E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。 (計画を立案できる能力)
 - E2:2 回路又はシステムの設計手順,手法を知っている。(回路又はシステムを設計できる能力)
 - E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力)
 - E4:2 予測値と実測値を比較して,正常な動作かどうか検証できる。(問題発見能力)
 - E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。(問題点解能力)
 - E6:3 興味を持って取り組み,達成するまで粘り強く取り組むことができる。(取り組む姿勢)
- F:運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。
 - F1 運動能力の維持向上に努める姿勢を身に付けている。
 - F2 団体の規律を守る姿勢を身に付けている。
 - F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢を身に付けている。

(出典 学生便覧 巻頭)

専攻科課程の学習・教育目標と修了時に身に付けるべき学力や資質・能力

- A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付け、物事の良し悪しを根拠を示して 判断できる.
- A1:4 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知って,生命を尊重し自他の幸福を願う姿勢が身に付いている。(技術者としての責任を果たす能力)
- A2:4 公衆に対する責任,有用で安全な技術の提供について知り,有用性とリスクを知り,公衆の安全を最優 先する姿勢を身に付けている。(人類の福祉に貢献できる能力)
- A3:4 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断でき,判断を多用な価値観から評価できる。 (物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
- B:日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.
 - B1:3 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。(相手の意図を理解できる能力)
 - B2:3 自分の考えが相手に正しく伝わったかを確認できる。(自分の考えを相手に伝える能力)
 - B3:4 助け合いながらお互いの作業を進めることができる。
- C:情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.
 - C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
 - C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
 - C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
 - C4:8 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約によって発表でき,質問に適切に回答できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
- D:技術者としての幅広い基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応でき、技術が社会に与える影響を考察できるようになる。
 - D1:4 応用問題が解け、専門分野に応用できる。(数学、自然科学に関する知識)
 - D2:4 応用問題が解け、実践的な問題解決に応用できる。(専門技術に関する知識)
 - D3:3 学んだ知識を整理し、他の分野に応用できる。(幅広い知識)
- D4:3 技術の歴史を知り、技術の現状を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
- D5:3 予習復習と文献調査ができ、目標を立てて取り組むことができる。(自ら学ぶ姿勢)
- E:与えられた課題を達成する手段を設計し,粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる.
- E1:4 目的を言え、計画案を示すことができ、必要に応じて計画を改善できる。 (計画を立案できる能力)
- E2:3 回路又はシステムの設計手順,手法を知っていて,設計できる。(設計できる能力)
- E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(構築できる能力)
- E4:3 動作チェックリストを作成でき、正常な動作かどうか検証できる。(問題発見能力)
- E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。 (問題解決能力)
- E6:3 作業状況に応じて計画を見直し、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(取り組む姿勢)

(出典 学生便覧 巻頭, 専攻科学生便覧 6頁)

準学士課程と専攻科課程の達成度の違い(1/3)

学習	習◆教育目標(Learning Objectives), 学習成果(Learning Outcome), 達成度基準(Performance Criteria/Measure)	標水準 部会(2006.2.7)確認 A-Fを設定 教務委員会(2007.2.14)	専攻科課程修了時の達成目標水準 部会(2006.2.7)確認 A-Eを設定 教務委員会(2007.2.14)
Α	技術者としての責任を自覚し,人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける.	準学士課程	専攻課程
	A1 技術者としての責任を果たす能力 (技術者倫理規定)	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3), 4) であること。
	1) 安全で有用なものを作ることの大切さを知っている。 (技術者の使命)		
	2) 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。(環境)		
	3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。(歴史,文化)		
	4) 生命を尊重し、自他の幸福を願う姿勢が身についている。(人倫)		
	A2 人類の福祉に貢献できる能力(文化,社会及びその歴史)	1), 2) であること。	1), 2), 3), 4) であること。
	1) 技術者は公衆に対して責任を負う立場にあることを知っている。		
	2) 技術者は有用で安全な技術を提供しなければならないことを知っている。		
	3) 技術の有用性とリスクを示すことができる。		
	4) 公衆の安全を最優先する姿勢を身に付けている。		
	A3 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3), 4) であること。
	1) 事例において,何が問題か説明できる。		
	2) 事例を通して,他者の体験をわがものとしている。		
	3) 公衆の安全, 福祉, 健康及び環境保全を優先して判断できる。		
	4) 判断を多様な価値観から評価できる。		
В	日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.	準学士課程	専攻課程
	B1 相手の意図を理解できる能力	日本語能力により, 1), 2)であ	日本語能力により, 1), 2), 3)で
	1) 相手の発言を正しく理解しようという態度を持っている。	ること。 英語能力により、1),2)である	あること。 英語能力により, 1),2),3)であ
	2) 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。	تا المالية	ること。
	3) 対話の状況と内容から,相手の意図を正しく理解できる。		
	4) 自分の理解を確認するために質問できる。		
	B2 自分の考えを相手に伝える能力	日本語能力により、1),2)であること。	日本語能力により、1),2),3)で あること。
	1) 自分の考えを相手に正しく伝えようという態度を持っている。	英語能力により、1),2)である	英語能力により、1),2),3)であ
	2) 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。	こと。	ること。
	3) 自分の考えが相手に正しく伝わったことを確認できる。		
	B3 役割を分担し,相互に協力して作業できる能力	日本語能力により、1),2),3)であること。	日本語能力により, 1), 2), 3), 4) であること。
	1) 作業の目的を知っている。	57 U = U	7 1030 = 20
	2) 自分の役割を理解できる。		
	3) 分担の作業を遂行できる。		
	4) 助け合いながらお互いの作業を進めることができる。		
	5) 話し合って個々の役割を決めることができる。	海光工品和	東ル 部印
С	情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.	準学士課程	専攻課程
	C1 情報機器を活用して情報収集ができる能力	1) ~ 6) のうち, 2項目以上であること。	1) ~ 6) のうち, 3項目以上であること。
	1) Web検索ができる。	-0-Co	·
	2) 電子メール,ファイル転送ツールを使用できる。		
	3) 文献検索システムを使用できる		
	4) 情報の有用性を判断できる。		
	5) 収集したデータを管理できる。		
	6) 測定器からのデータを収集できる。		

準学士課程と専攻科課程の達成度の違い(2/3)

C2 情報機器を活用して情報分析ができる能力	1) ~ 3) のうち, 2項目以上であ	1) ~ 3) のうち, 2項目以上
1)表計算ができる。	ること。	ること。
2) 表, グラフの作成ができる。		
2) 秋, フラン () FRA () できる。 3) 統計処理ができる		
		 1) ~ 5) のうち、4項目以上
C3 情報機器を活用して文書作成ができる能力	ること。	ること。
1) ワープロを用いて文書を作成できる。		
2) 図表を含む文書を作成できる。		
3) 数式を含む文書を作成できる。		
4)作図ツールを使って図を作成できる。		
5) HTML文書を作成して情報を発信できる。	1), 2), 3), 4), 5), 6), 7) であるこ	1) 2) 3) 4) 5) 6) 7) 8) 7
C4 情報機器を活用して口頭発表ができる能力	المراجع المراج	こと。
1) 時間配分が適切である。		
2) 理解しやすい構成になっている。		
3) 聞き取りやすい話し方ができている。		
4) 情報機器を使って発表できている。		
5) 簡潔に表現できている。		
6) 図表を適切に用いている。		
7)目的と成果を要約して説明できている。		
8) 質問に適切に回答できている。	74 W 1 50 40	±
技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。	準学士課程 	専攻課程
D1 数学、自然科学に関する知識	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3), 4)であること。
1) 基本的な法則や定理を知っている。		
(基本的な法則や定理と説明文の対応付けができる。)		
2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。)		
3) 基本的な法則や定理を説明できる。		
4) 応用問題を解くことができる。		
5) 専門分野に活用できる。		
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。		
D2 専門技術に関する知識	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3), 4) であること。
1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。		
(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。)		
2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。)		
3) 専門用語や現象・仕組みを説明できる。		
4) 応用問題を解くことができる。		
5) 実践的な問題解決に応用できる。		
6) 性能を評価できる。		0.0.0.=4.==:
D3 幅広い知識	1), 2)	1), 2), 3) であること。
1) 学んだ知識が整理できている。		
2) 学んだ知識が応用されている分野を知っている。		
3) 学んだ知識を他の分野に応用できる。		
4) 技術が社会に与える影響を考察できる。		
5) 科学以外の視点から考えることができる。		
D4 技術の変遷を予測できる能力	1) であること。	1), 2) であること。
1) 技術の歴史を知っている。		
2) 技術の現状を知っている。		
3) 技術の発展について展望できる。		
D5 自ら学ぶ姿勢	1), 2) であること。	1), 2), 3)であること。
1) 予習復習している。		
2) 文献調査ができている。		
	II	I

準学士課程と専攻科課程の達成度の違い(3/3)

与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組む できるようになる.	ことが 準学士課程	専攻課程
E1 計画を立案できる能力	1), 2) であること。	1), 2), 3)であること。
1)目的を言える。(課題を理解している。)		
2) 手順を示すことができる。		
3) 計画案を示すことができる。		
4) 必要に応じて計画を改善できる。		
E2 回路又はシステムを設計できる能力	1), 2) であること。	1), 2), 3) であること。
1) 回路又はシステムを設計するための基礎知識を持っている。		
2) 設計手順, 手法を知っている。		
3) 設計できる。		
E3 回路を組み立てることができる能力、又はシステムを構築できる能力	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3) であること。
1)回路の組み立て又はシステム構築のための基礎知識を持っている。 (回路部品や記述言語などの知識)		
2) 回路を組み立てる又はシステムを構築する手順, 方法を知っている。		
3) 設計どおりに組み立てる又は構築できる。		
4) 回路又はシステムを評価し、調整あるいは改良できる。		
E4 回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力	1), 2) であること。	1), 2)であること。
1) 回路又はシステムの正常な動作を知っている。		
2) 正常な動作かどうか検証できる。(予測値と実測値を比較して検証できる。)		
3) 回路又はシステムの動作チェックリストを作成できる。		
4) 区分して回路又はシステムの問題点を見つけている。		
E5 問題点を解決できる能力	1), 2) であること。	1), 2) であること。
1) 問題点を理解している。		
2) 教師の助言を受けて、問題を解決できる。		
3) 学生間で問題を解決できる。		
E6 粘り強く取り組む姿勢	1), 2), 3) であること。	1), 2), 3) であること。
1) 興味を持って取り組んでいる。		
2) 作業状況に応じて計画を見直している。(再製作,再構築,再設計)		
3) 達成するまで粘り強く取り組んでいる。		
運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。	準学士課程	専攻課程
F1 運動能力の維持向上に努める姿勢	1), 2) であること。	設定しない
1) 自分の運動能力を把握している。		
2) 自分の運動能力の変化を把握している。		
3) 自分の運動能力の維持向上に努めている。		
4) 運動能力を維持向上させている。	1) 0) 2) 4)-5-5-7-1-	
F2 団体の規律を守る姿勢	1), 2), 3), 4)であること。	設定しない
1) 規定の服装を着用している。		
2) 整列や移動が速やかに行える。		
3) 人の話を集中して聞くことができる。		
4) 礼儀正しく挨拶ができる。	1) 0) 0) == + 7 = 1	表の中によって、
F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢	1), 2), 3) であること。	設定しない
1)他の学生と協調してスポーツに取り組める。		
2) 各種スポーツのルールやシステムを理解している。		
3) 団体競技において、チームにおける自分の役割を理解できる。		
4) 団体競技において,その戦術を組み立てることができる。		
5) 団体競技において,チームの中でリーダーシップを取ることができる。		

(出典 平成 19年2月14日第12回教務委員会資料)

シラバスの例:通信工学Ⅱのシラバス

科目名	通信工学Ⅱ			担	当教員	小野安季良		
学年	情報通信5年	学期	前期	履	修条件	選択	単位数 2	
分野	専門	授業形式	講義	科	目番号	06T05_30632		
学習目標	通信方式について 形変調方式およびラ 路の詳細な動作解析 び、簡単な解説がて	ィジタル よりも,!	通信方式の 動作原理や	無線通回路の	信機器に 特徴,長	用いられる各種	の回路につい	て学ぶ。回
	各学習項目ごとに、必要なプリントを配布しながら講義する。また、各学習単元ごとに国家試							
進め方				HL III	2 10 D INT	42 / 00 6/2,	1,14,16	C (- 12 %)
履修要件	験既出問題を解きながら講義を進める。 通信工学Iを履修していること。							
	学習項	目(時間	数)			学習到	達目標	
	1.SSB 受信機 1 (2)			p.230	【AM受	受信機 (教科書	8章)】	
	2.SSB 受信機 2 (2)			•	SSB 受作	言機の回路構成,	リング復調	回路につい
	3.角度変調(FM・	PMの原理	里)(2)	p.40	て説明で	できる。		D2:1-3
	4.PM と FM の側波	帯と			【角度変	变調(教科書 2	章)】	
	上	有周波数	帯域幅(2)	p.44	角度変調	間方式について説	説明できる。	D2:1-3
	5.雑音特性(FMの	三角雑音)	(2)	p.47	角度変調	周方式による側流	皮帯の広がり。	と帯域幅に
	6.直接周波数変調回	回路(2)		p.141	ついて矢	切っている。		D2:1-3
	7.前期中間試験(1)							
	8.間接周波数変調回	回路(2)		-		送信機(教科書		
	9.IDC 回路(2) p.154 直接・間接周波数変調方式の回路構成が					戊が理解で		
	10.P 回路と D 回路(p.157	STATE OF THE PARTY			D2:1-2
学習内容	11.FM 受信機の構成					間方式特有の IDC	回路, P回路	
	12.FM 検波器 (周波			p.245	Figure Commission and			D2:1-3
	13.FM 検波器 (周波				_	受信機(教科書		
	14.クォドラチュアを							
	15.前期期末試験(1)							
	16.FM 高感度受信方	式(2)						D2:1-2
	17.FM ステレオ受信	機(2)		-	2 原理を説明でき,モノラル放送との違いを知っ 7 ている。 D2:1-2			
	18.受信機の電気的性	王能(2)		_			1 1 辛/【	D2:1-2
	19.FDM,TDM (2) 20.PCM-PSK 方式のJ	百四(2)		p.283		通信方式(教科書 多重化方法につい	· · · -	D2.1.2
	21.PSK 変調方式(BP		(2)	_		タル通信方式の		
	22.PSK 変調回路・後		(2)	p.200	l	M について説明		
	23.直交振幅変調(2)			-		ついて知っている		D2:1-3
	24.後期中間試験(1)					* 方式について説		
	25.中継方式(2)			p.314	F 45 1	y送(教科書 1		D2.1-3
	26.衛星通信方式(2)			-		送の仕組みを知っ		D2:1-2
	27.衛星放送(2)			p.340	l	亢法装置(教科書		
	28. レーダー(2)			p.367		については,回		できる。
	29.無線航法装置(2)			1				D2:1-3
	30.スペクトラム拡背	效通信方式	1 (2)	p.71	スペクト	トラム拡散通信力	式について説	明できる。
	31.スペクトラム拡制 32.期末試験(1)	汝通信方式	2 (2)					D2:1-3
評価方法	試験を80%,授業	態度など	を 20 %の日	(率で総	:合評価す	- る。		
関連科目	電子回路 I , 電子				Ipm /			
教材	教科書:堤坂秀樹,	大庭英雄	著 「テキ		ック 無総	泉通信機器」 日	本理工出版会	:
/# **	参考資料:電波受			.,	リアルナチ	1日の異点原復の	が出る上	
備考	第1級陸上特殊無	尿技士の長	: 男套成課程	Eの修「	には本本	*日の単位取得か	・必要です。	

(出典 本校ホームページ

http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2006/pdf/T/06T05_30632.pdf)

(分析結果とその根拠理由)

本校は、「電子情報系技術者の育成」と「地域における社会貢献」を"使命"として掲げ、教育研究活動を実施する上での基本方針として教育面においては「高い創造性をもつ実践的で個性豊かな電子情報系技術者の養成機関となること」研究面においては「地域における重要な電子情報系研究機関となること」を"本校の目標"として示し、育成する技術者の人材像を "教育目的"として「健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。」「自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。」「広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。」と明確に定めている。

その教育目的を達成するための学習・教育目標、それを達成したときに身に付く学習成果とその達成度が表にして明確に定められている。その表を基にして、準学士課程と専攻科課程の卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力が明確に定められている(資料1-1-①-6)。

以上のことから、高等専門学校の目的が明確に定められているといえる。

観点 1-1-②: 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校は使命に「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」を掲げ、電子情報系の技術者を育成することを目的としている。育成する技術者の人材像を定めた教育目的「1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。2. 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。」を定めている。教育目的を達成するために定めた具体的な学習・教育目標が教授する専門の学芸を表し、学習・教育目標を達成したときに得られる学習成果が育成する職業に必要な能力を表している。以上のことから、本校の目的は高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない(資料1-1-2-1)。

(分析結果とその根拠理由)

使命に「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」を掲げ、育成する技術者の人材像を教育目的として定めている。その教育目的を達成するために定められた学習・教育目標は、深く専門の学芸を教授することを示している。またその学習・教育目標の達成によって培われる学習成果には、電子情報系技術者として必要な能力や姿勢が明記されている。学習・教育目標と学習成果は学校教育法第70条の2に規定された「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」に合致しており、本校の使命と教育目的は高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

資料1-1-2-1

学校教育法第70条の2に規定された目的と本校の教育目的、学習・教育目標、学習成果の関連

	月海	Rく学芸を教授しに対応」に対応	「職業に必要な能力」に対応
教育目的	É	1然の法則をよく知り,	健全な心身を持ち,チャレンジ精神に富んだ,国際的に活躍できる自然との調和を図り,人類の福祉に貢献できる広い視野を持ち,技術の発展に対応でき,社会にとって有益なシステムを構築できる
	А	技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける.	A1 技術者としての責任を果たす能力
			A2 人類の福祉に貢献できる能力 A3 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力
	В	日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.	B1 相手の意図を理解できる能力 B2 自分の考えを相手に伝える能力 B3 役割を分担し、相互に協力して作業できる能力
	С	情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる.	C1 情報機器を活用して情報収集ができる能力
学習			C2 情報機器を活用して情報分析ができる能力 C3 情報機器を活用して文書作成ができる能力 C4 情報機器を活用して口頭発表ができる能力
教育	D	技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。	
目標,	:	D1 数学, 自然科学に関する知識 D2 専門技術に関する知識 D3 幅広い知識	D4 技術の変遷を予測できる能力 D5 自ら学ぶ姿勢
学習	Е	与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決 に取り組むことができるようになる.	E1 計画を立案できる能力
成果			E2 回路又はシステムを設計できる能力
			E3 回路を組み立てることができる能力, 又はシステ ムを構築できる能力
			E4 回路又はシステムの問題点を見つけることができ る能力
			E5 問題点を解決できる能力 E6 粘り強く取り組む姿勢
	F	運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。	F1 運動能力の維持向上に努める姿勢
		671-600	F2 団体の規律を守る姿勢
			F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り 組む姿勢

(出典 平成17年1月20日第10回企画運営委員会資料)

観点1-2-①: 目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的、校訓、養成すべき人材像(教育目的)は、学生便覧、学校要覧に記載して周知している。また、準学士課程の学習・教育目標と卒業時に身に付く学力や資質・能力は学生便覧に、専攻科課程の学習・教育目標と修了時に身に付く学力や資質・能力は専攻科の学生便覧に掲載され、年度始めに学生及び教員に配布されている。学校要覧は、6月中旬に、教職員に配布される(資料1-2-①-1)。

校内の案内掲示板の裏面に、本校の使命と養成すべき人材像を掲載し、歩行者の目に留まるように している(資料 1-2-(1-2)。

シラバスの学習到達目標の横に対応する学習成果の記号が記入されている(資料1-1-1-10)。 教科毎に、年度始めにシラバスを用いて教科の学習目標、学習内容、評価方法などを説明する。その際に、学習到達目標と学習・教育目標、学習成果、達成度基準との関係を説明し、卒業(修了)時に身に付く学力や資質・能力についても説明して、その教科ではどの能力を養成するかを説明している。学校の使命、養成すべき人材像(教育目的)、準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標と卒業(修了)時に身に付く学力や資質・能力の認知度については、アンケート調査を行っている(資料1-2-10-3-6)。

資料 1-2-①-1

使命・目標・教育理念等

Mission, Aim, Educational Philosophy

本校の使命

- 1.創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成
- 2.地域における知の拠点としての社会貢献

本校の目標

- 1.高い創造性をもつ実践的で個性豊かな電子情報系技術 者の国内最高水準の養成機関となることを目指す。
- 2.地域における重要な電子情報系研究機関となることを目指す。
- 3.地域における教育·文化の発展に中心的な役割を果たす機関となることを目指す。

教育理念:校訓

志操高く、視野広く、身体たくましく、 基礎学力を深め、創造的能力を磨き、 汝の使命の達成に命をかけて生きよ。

教育目的:養成すべき人材像

- 1.健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 2.自然の法則をよく知り,自然との調和を図り,人類の福祉 に寄与できる技術者を育成する。
- 3.広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

準学士課程入学志願者に求められる資質

1.技術や科学に夢を持っている人

2.自然を大切にする人

3.思いやりのある人

4.好奇心が旺盛な人

5.コミュニケーションがとれる人

専攻科課程入学志願者に求められる資質

- 1.国際的視野のもとで,電子情報技術を通して社会に貢献したい人
- 2.専門分野のより高度な学問を修めたい人
- 3.目標に向かって努力できる人

(出典 学校要覧 1頁)

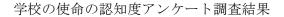
資料 1-2-①-2

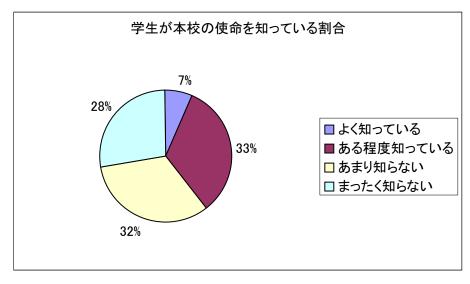
校内の案内掲示板の裏面に掲載された本校の使命と教育目的

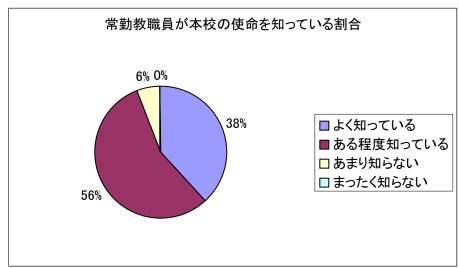


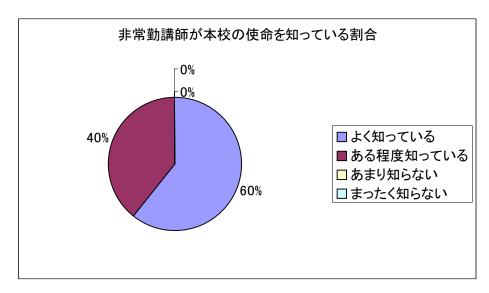
(出典 校内の案内掲示板の裏面)

資料 1-2-①-3

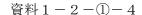




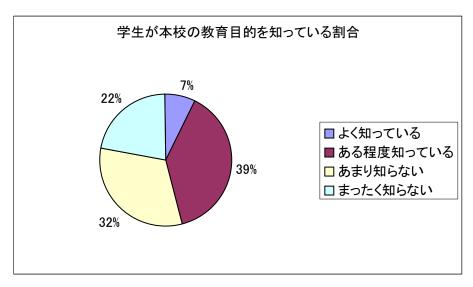


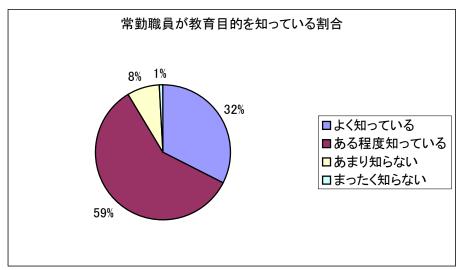


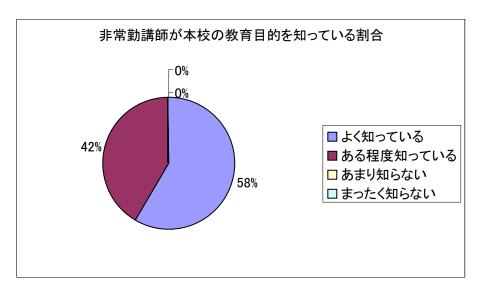
(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)



養成すべき人材像(教育目的)の認知度アンケート調査結果



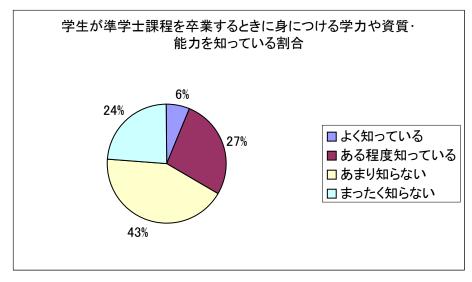


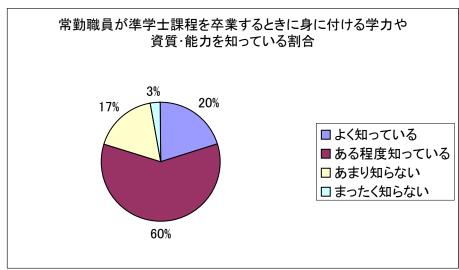


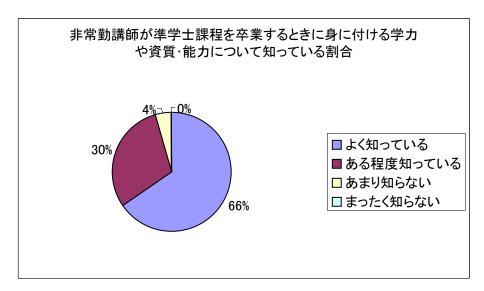
(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)

資料 1-2-①-5

準学士課程の卒業時に身に付けている学力や資質・能力の認知度アンケート調査結果

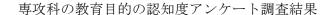


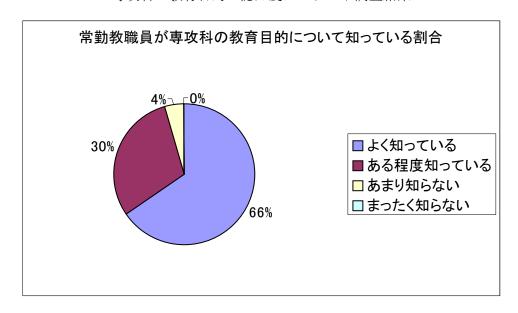




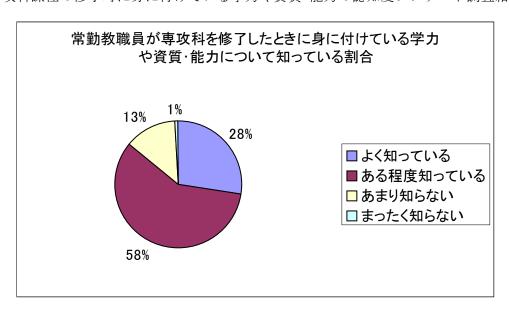
(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)

資料 1-2-①-6





専攻科課程の修了時に身に付けている学力や資質・能力の認知度アンケート調査結果



(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

年度始めに、教員と学生全員に、学校の目的、校訓、学校の使命、養成すべき人材像(教育目的)、準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標と卒業(修了)時に身に付く学力や資質・能力を記載した学生便覧を配布して周知している。教員は、シラバスの作成時に、シラバスの学習到達目標の横に対応する"学習・教育目標、学習成果、達成度の記号"を記載する。この作業を通して、教員は、教育目的、学習・教育目標と学習成果を確認する。学生は、学習到達目標の横に付記された学習成果の記号がどのような能力を表しているか学生便覧に記載された学習・教育目標と学習成果の一覧表で確認し

ている。年度の最初の授業でシラバスの説明が行われ、教育目的、学習·教育目標、学習成果が確認 されるので周知されているといえる。職員については、学校要覧の配布で周知を図っている。新入生 のガイダンスや新任教職員の研修会でも説明がなされ、周知されている。

学校の使命、養成すべき人材像(教育目的),準学士課程と専攻科課程の学習・教育目標と卒業 (修了)時に身に付く学力や資質・能力の認知度については、平成18年度2月上旬に行ったアンケー ト調査結果から、教職員の認知度は高いが学生の認知度は低いといえる(資料1-2-①-3~6)。

観点1-2-2: 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

学校の目的、校訓、養成すべき人材像(教育目的)、学習・教育目標と学習成果を学校要覧に記載し、来校者や中学校、企業に配布して公表している(資料1-2-2-1)。学生募集要項入学案内にも記載し、志願者中学生、高校からの編入学志願者、専攻科志望学生に配布して公表している(資料1-2-2-2-3)。また、本校のウェブサイトへの掲載によって、広く社会に公表している(資料1-2-2-3)。

体験入学や入学者募集説明会では、参加中学生や中学校教諭に対してはスライドと学校要覧を用いて、本校の使命、養成すべき人材像(教育目的)について説明している(資料1-2-2-4)。

資料1-2-2-1

学校要覧の配布先

配布先	冊数	配布先	冊数
文部科学省		特許庁	2
国立高等専門学校機構	5	後援会支部総会	180
香川大学	1	運営懇話会委員	9
徳島大学 鳴門教育大学	1	香川銀行との連携協力協議会	4
鳴門教育大学	1	香川銀行支店長セミナー	70
高知大学	1	専攻科記念式典来校者	40
長岡技術科学大学	1	たくま商工祭り	80
豊橋技術科学大学	1	ビジネスマッチング	100
国立高等専門学校54校	54	内田教員(東大での説明用)	50
香川県教育委員会	1	採用関係	10
香川県政策部政策課	1	機構本部訪問時説明用	10
香川県商工労働部産業政策課	1	その他本校来校者	100
香川県立図書館	3		
香川県立文書館	3		680
高松市図書館	1	体験入学(本校)	280
丸亀市立図書館	1	体験入学・オープンキャンパス(高松)	30
三豊市詫間町図書館	1	入学募集説明会(本校)	40
三豊市役所及び各支所	9	入学募集中学校訪問	170
観音寺市役所	1	中学生・保護者訪問	30
観音寺記者クラブ(新聞、放送)	11	電波祭	100
		その他	30
		学生課学生支援用	300
		求人企業	280
		編入先大学	20
		本校職員	109
小 計	103	小計	1744
		合計	1847

(出典 総務課, 学生課)

資料1-2-2-2

学生募集要項入学案内の配布先

○ 平成19年度学生募集要項入学案内配布先

本校での体験入学・オープンキャンパス参加者 280 部 高松での体験入学・オープンキャンパス参加者 20 部 入学者募集説明会 40 部

中学校訪問 1,005 部

香川県西部 (130), 香川県中部 (290),

高松·香川県東部(200),

徳島(180),愛媛(95),岡山(110)

中学校へ送付 622 部

香川県西部(13),香川県中部(29),

高松·香川県東部(40),

徳島(83),愛媛(133),高知(93),

岡山(155), 他県(16), 各高専(54),

教育委員会等 (6)

中学生·保護者訪問 50 部

中学校からの請求 60 部

進学塾·個人請求 15 部

電波祭(学園祭) 28 部

残り 380 部

計 2,500部

○ 平成 18 年度編入学生募集要項配布先

香川県西部(6),香川県中部(16),高松·香川県東部(23),

徳島県(12),愛媛県(8),高知県(5),岡山県(10),

広島県(7),山口県(12),島根県(4),鳥取県(5),

京都府(3), 滋賀県(4), 大阪府(18), 兵庫県(9),

和歌山県(4), 三重県(7), 奈良県(3), 熊本県(14)

の工業高校並びに普通高校

各高専(23), 高専機構(2)

計 195 部

○ 平成 18 年度専攻科学生募集要項入学案内配布先

各高専(29),四国地区企業(21)

準学士課程の学生 (38) 計 88 部

(出典 学生課入試係)



資料 1-2-2-4

入学者募集説明会でのスライド

詫間電波高専の使命

- 創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成
- ・地域における知の拠点としての社会 貢献
 - 三豊市との連携協力協定
 - 現代的教育ニーズ取組支援プログラム
 - 香川銀行との連携協力協定 地域企業との共同研究

平成19年度入学者募集説明会 学校要覧 p.1, p.25

教育目的:養成すべき人材像

- 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、 国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、 人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。
- 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

平成19年度入学者募集説明会

学校要覧 p.1

(出典 入学者募集説明会スライド)

(分析結果とその根拠理由)

学校の目的、校訓、使命、養成すべき人材像(教育目的)、学習・教育目標と学習成果を記載した学校要覧が、関係機関、編入先等の大学、体験入学参加中学生、入学者募集説明会参加中学校教諭、入学募集中学校訪問、求人に来られた企業関係者、本校教職員が訪問した企業等へ平成18年度は1,847冊を配布して公表している。体験入学や入学者募集説明会において、参加中学生や中学校教諭に対してはスライドと学校要覧を用いて、本校の使命、養成すべき人材像(教育目的)について説明がなされている(資料1-2-2-2-4)。

学校の使命,養成すべき人材像(教育目的)を記載した学生募集要項入学案内は中学校訪問時に持参或いは送付,体験入学・オープンキャンパス参加者や入学者募集説明会参加中学校教諭に配布するなどして,平成18年度は2,120冊を配布して公表している。

また、本校のウェブサイトにも掲載されており、本校の目的は社会に広く公表されている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

使命,養成すべき人材像(教育目的)が定められ,教育目的を達成するためにより具体的な"学習·教育目標と学習成果並びに達成度基準"が明確に定められている。準学士課程と専攻科課程の学習·教育目標と卒業(修了)時に身に付く学力や資質·能力は,この"学習·教育目標と学習成果並びに達成度基準"に対応して定められている。また,各教科のシラバスに記載された学習到達目標は"学習·教育目標と学習成果並びに達成度基準"と対応づけられているので,どの教科でどの学力や資質・能力を培うのかが明らかになっている。"学習·教育目標と学習成果並びに達成度基準"は,教育研究活動を実施する上での指針となっている。

(改善を要する点)

本校の使命,養成すべき人材像(教育目的),準学士課程の学習·教育目標と卒業時に身に付く学力や資質・能力について学生の認知度が低い点。

(3) 基準1の自己評価の概要

本校は、「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」と「地域における知の拠点としての社会 貢献」を使命として掲げ、育成する技術者の人材像を教育目的として明確に定めている。その教育目 的を達成するための学習・教育目標と、学習・教育目標を達成したときに身に付く学習成果とその達成 度基準が表にして明確に定められている。その表を基にして、準学士課程と専攻科課程毎に"卒業 (修了)時に身に付ける学力や資質・能力"がそれぞれ明確に定められている。

教育目的を達成するために定められた学習・教育目標は深く専門の学芸を教授することを示しており、またその学習・教育目標の達成によって培われる学習成果には電子情報系技術者として必要な学力や資質・能力が明記されている。このことから、本校の教育目的は、学校教育法第70条の2に規定された「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という目的に合致しており、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものではない。

"本校の使命", "教育目的:養成すべき人材像"は学生便覧,学校要覧に記載され, "卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力"と"学習・教育目標,学習成果,達成度基準"は学生便覧に記載され周知されている。学生便覧は年度始めに学生及び教員に配布され,学校要覧は6月上旬に教職員に配布される。また,校内の案内掲示板の裏面に, "本校の使命"と"教育目的:養成すべき人材像"を掲載し,歩行者の目に留まるようにしている。

教員は、シラバスの学習到達目標の横に対応する学習・教育目標、学習成果、達成度基準の記号を記載する。この作業を通して、教員は教育目的、学習・教育目標と学習成果を確認する。学生は、学習到達目標の横に付記された記号がどのような能力を表しているか、学生便覧に記載された学習・教育目標、学習成果、達成度基準の表で確認している。年度の最初の授業でシラバスの説明が行われ、教育目的、学習・教育目標、学習成果が確認されるので周知されているといえる。本校の使命、教育目的、学習・教育目標は、新入生のガイダンスや新任教職員の研修会でも説明がなされ、周知されている。

本校の目的は、ウェブページ、学校要覧や学生募集要項に掲載し、体験入学や中学校訪問時の説明 及び学校要覧や学生募集要項の学外配布によって社会に広く公表されている。

基準2 教育組織 (実施体制)

(1) 観点ごとの分析

観点 2-1-1: 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

電子情報系技術者の育成を使命とする本校は、情報通信工学科、電子工学科、電子制御工学科、情報工学科の4学科で構成され(資料2-1-①-1)、各学科の定員は40名である(資料2-1-①-2)。本校の教育目的を基に各学科の教育目的が定められ(資料2-1-①-3)、各学科の教育内容が明示されている(資料2-1-①-4)。各学科の教育目的を達成するために教育課程がそれぞれ定められている(資料2-1-①-5)。

「準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質・能力」は、本校の教育目的(養成すべき人材像)を基に定められ(資料2-1-①-6)、各学科の教育目的は、専門分野における「準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質・能力」に対応して定められている(資料2-1-①-7)。



資料2-1-①-2

各学科, 各専攻の定員と現員

◎定員及び現員 Admission Capacity and Enrollment

平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

学科	入学定員			現 Enrol	員 Iment		
Department	Admission Capacity	1年 1st.yr	2年 2nd.yr	3年 3rd.yr	4年 4th . yr	5年 5th.yr	計 Total
情報通信工学科 Dept. of Telecommunications	40	44 (11)	45 (8)	44 (8) ※1	43 (8)	36 (4)	212 (39) ※1
電子工学科 Dept. of Electronics	40	45 (1)	46 (2)	37 (8)	44 (4)	47 (7)	219 (22)
電子制御工学科 Dept. of Control Engineering	40	45 (4)	39 (2)	30 (3)	29 ※1	39 ※1	182 (9) ※2
情報工学科 Dept. of information Engineering	40	43 (11)	45 (9)	33 (10) %2 (1)	40 (12)	42 (15) ※1	203 (57) ※3 (1)
唐十 Total	160	177 (27)	175 (21)	144 (29) ※3 (1)	156 (24) ※1	164 (26) ※2	816 (127) %6 (1)

・1年生ついては、混合学級編成をおこなっている。
・()内は女子学生、※印は外国人留学生で、それぞれ内数
Four classes in the first year are organized regardless of the major of students.
() Female students ※Overseas students

専 攻 科	入学定員	現 員 Enrollment				
Course	Admission Capacity	1年 1st.yr	計 Total			
電子通信システム工学専攻 Advanced Course of Electronics and Cimmunication Systems Engineering	8	11 (1)	9(1)	20 (2)		
情報制御システム工学専攻 Advanced Course of Information and Control Systems Engineering	8	10(1)	12 (2)	22 (3)		
計 Total	16	21 (2)	21 (3)	42 (5)		

(出典 学校要覧 30頁)

資料 2-1-①-3

専門4学科の教育目的

情報通信工学科

- 1. コンピュータ,ネットワーク,エレクトロニクスの知識を基盤とした情報通信分野の技術者を養成する。
- 2. 無線・有線通信に関する資格を取得すると共に、技術の変化に対応できる技術者を養成する。
- 3. 既成概念にとらわれず、工学技術の創意工夫と向上に努力し、共同作業ができる技術者を養成する。
- 4. 情報機器を用い、情報収集、文書作成および発表ができる技術者を養成する。

電子工学科

- 1. 回路、通信、計算機、デバイスの専門技術に関する基礎知識を持つ技術者を養成する。
- 2. 広い視野を持ち、設計、製作、問題発見、問題解決ができる技術者を養成する。
- 3. 計画を立案し、継続して課題に取り組むことができる技術者を養成する。
- 4. 物事を論理的に考え、文章や口頭で発表できる技術者を養成する。

電子制御工学科

- 1. 創造力にあふれた実践的電子制御技術者を養成する。
- 2. 新しい技術に対応できる柔軟性を有する実践的電子制御技術者を養成する。
- 3. コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を有する技術者を養成する。
- 4. 自ら学習する姿勢を涵養する。

情報工学科

- 1. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解させ、コンピュータを活用できる技術者を養成する。
- 2. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる技術者を養成する。
- 3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる技術者を養成する。
- 4. 文章能力, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力を有する技術者を養成する。

(出典 平成 17 年度運営懇話会報告書 24, 27, 30, 33 頁 並びに 平成 18 年 8 月 18 日第 7 回入学試験委員会資料)

専門4学科の教育内容(1/2)



Department of Telecommunications

◎学科の紹介

インターネット、携帯電話、衛星放送など情報通信技術の進歩により私たちの生活は一変している。自宅に居ながら世界のニュースを見たり、外国の人と連絡を取ったり、個人の考えを全世界に知らせたりすることも容易である。すべての産業・社会活動は今や情報通信なしには考えられない。この社会の神経ともいうべき情報通信を支えるのが、地球上に張り巡らせた電線、光ファイバ、電磁波からなるネットワークと無数のコンピュータである。

情報通信工学科は、この広くて魅力ある情報通信分野に貢献する優秀な人材の育成を目的としている。その教育課程は情報通信工学の要であるエレクトロニクス、コンピュータ、ネットワーク技術を中心に構成され、新しい技術開発に必要な数学、物理、工学実験、卒業研究などにも力を入れて教育している。

Introduction of the department

Progress in telecommunications technology such as Internet, cellular phones and satellite broadcasting has changed our lives drastically. At home we can easily know world news in an instant, have contact with people in foreign countries and let our opinions known to the world. All the industries and our daily lives could not exist if it were not for the transmission of information. Electric wires, optical fibers and electromagnetic waves as well as a huge number of computers support a network of information transmission, which may be called a "neural network" of society.

The aim of the Department of Telecommunications is to train and educate students into promising engineers in the field of telecommunications. The curriculum is organized with much emphasis mainly on electronics, hardware, software and network technologies. In addition, the teaching staff teach mathematics, physics, experiments and graduation research, which are necessary for the development of new technologies.



Department of Electronics

◎学科の紹介

現在、電子工学はさまざまな方面に応用され、電子工学を修めた技術者はコンピュータ・通信・電子機器などの電子産業だけでなく、広く他の工業界からも嘱望されている。この社会からの要請に応えるため、電子工学科では、回路・半導体・通信・計算機の4つの分野を幅広く教育している。特に、実験教育には力を注ぎ、設計・製作して作った物を使って実験する工学的な物づくり教育を行っている。行き届いた指導体制のもとで、基礎技術を十分に修め、応用力や創造力の豊かな技術者を養成する教育を行っている。

また、卒業時に第一級陸上特殊無線技士の資格が得られる ように、そして第一級陸上無線技術士の無線従事者国家試験 に合格できるように教育課程を編成している。

Introduction of the department

Electronics has been applied in various fields of technology, and, therefore, more and more engineers with knowledge of electronics are needed in electronic industries dealing with computers, telecommunications, electronic devices and so on, as well as in other kinds of engineering industries. In order to meet this demand from our society, the Department presents four main courses in circuits, semi-conductors, telecommunications and computers. The Department places special emphasis on "education through experiments", where our students are given enough opportunities to make experiments using circuits or devices which they have designed or manufactured by themselves. With the excellent teaching staff ready to support the students, this principle of ours will definitely help to rear up those engineers with more flexible and creative abilities.

The courses are organized so that the students may be qualified as the On-the-ground I-category Special Radio Operator at the time of graduation and pass the national examination for First-class Technical Radio Operator for On-the-ground Service.

(出典 学校要覧 14, 16 頁)

専門4学科の教育内容(2/2)



Department of Control Engineering

◎学科の紹介

電子制御技術は、身近な電子機器からロポットまで、あらゆる機器、あらゆる所で使われてあり、今や我々の社会、特に、産業のハイテク化推進のために欠かすことのできないものとなっている。しかしながら、この分野で新しい技術を開発し、駆使できる制御技術者が不足しており、その育成指導は急務とされている。電子制御工学科では、制御技術の分野の急速な進展に対応するため、創造力、理解力、判断力を養い、新しい技術・研究に対応できる柔軟性を持った技術者を育成することを教育目的としている。電子制御工学科は、電子制御技術の中核である制御工学、電子工学、情報工学などを基礎からその応用までバランスよく学ぶことのできる学科である。

Introduction of the department

Electronic control technology is important for our society, being utilized in various technical fields ranging from electronic appliances to robots. Especially, it is expected to play an important role in the high-tech promotion of the industry. However, the number of control engineers who can develop and utilize new technology in this field is insufficient, and there is an immediate need for training such engineers. The educational goal is to raise engineers with creativity, comprehension, judgment and flexibility to deal with advanced technology and research under the rapid progress in the field of control engineering. We provide you with well-structured basic and advanced classes in the key branches of electronic control technology, such as control engineering, electronics and information engineering.



Department of Information Engineering

◎学科の紹介

現在, コンピュータは社会のあらゆる分野に浸透し, 私たちの世界はコンピュータ技術によって支えられていると言っても 過言ではない。このため高度情報化社会を担う創造的で実践的 な情報技術者が強く求められている。

情報工学科ではコンピュータの基礎からソフトウエア開発、ネットワーク、グラフィックス、人工知能等の基本的技術を体系的かつ実践的に学ぶことができる。特にこれらの技術を駆使して様々な応用分野へのシステムを設計開発できる能力の育成に教育の重点を置いている。また、この分野の技術は極めて進歩が著しく、その応用領域も急激に拡大しているが、このような状況に対応するために、基礎を重視しながらも学生自らが最先端の知識と技術を迅速に習得し、新しい問題に挑戦的かつ創造的に立ち向かう能力及び意欲の育成を重視している。

Introduction of the department

It is needless to say that computers have been used in every field of society and that our world is supported by computer technology at present. There is urgent need for creative and practical engineers of information who play an active role in highly informational society.

At the Department of Information students can systematically and practically acquire a wide range of knowledge and skills from computer basics to fundamental technology such as software development, network, graphics, artificial intelligence and so on. We have Placed emphasis on the development of the ability of students so that they can design and develop systems in various applicable fields, using these technologies. Technology in this field makes extremely rapid progress and its application area is widely expanding. To cope with such a situation, we aim to get our students to acquire up-to-date knowledge and technology and to challenge new problems with creativity and energy.

(出典 学校要覧 18, 20 頁)

一般教科の教育課程(1/5)

附則別表第3 一般科目

(平成15年度入学者)

	tos	娄 利 口	Y) []	当台粉	学	年	別単	位一	数	備考
	授	業科目	1,1	単位数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	加 写
	玉		語	6	3	3		D.E.		87
	国	語	A	2			2	3	7.81	191
	国	語	В	1			1	71		10.1
- 1	倫	理·社	会	2		2	1 38 1	1 1 1 1 1 1	a 12	
	政	治·経	済	2			2	10 10		4 10
必	歴		史	4	2	2		ф		100
u i	地	- 0 E E	理	2	2	8	s 11	IBI.	7.1	
	fge	基礎数学	I	4	4				pri ligit	
修	数	基礎数学	II	4	2	2		91 30	(2 0)	52 1 10 175
	学	微分積分	学	6		4	2	49	BL (V-	Water Trans.
8	-	応用解析	学	4			4	40	Le mi	
科	物		理	5	3	2		NET.		10 18
•	化		学	5	3	2	1			
	保	健・体	育	10	3	3	2	1	1	0 10
目	音		楽	2	1	1	0 1			□1科目2単
	美		術	2	1	1	C (2	T58.		一位を選択必
	書		道	2	1	1		W.		修
	英	語	I	8	2	3	3		111	
	英	語	П	6	2	2	2	THE PARTY	7.81	
	英	語	Ш	1	1					
		計	7 2	74	28	26	18	1	1	
	文	学 特	論	1			T. I		12 17	V
	社	会 特	論	1			10 1	-	1	14
	自	然特	論	1	SALT			nail.	0 1	8
選	英	語 特	論	1				1	HTTE	A 10
	数	学 概 論	Ι	1				1	176	5 95
	数	学 概 論	II	1				11		A 18
択	数	学 概 論	Ш	1				10. 10	1	
	英	語	IV	2				2		
	英	語	V	1				M	1	85
科	英	語	VI	1				pr.		W 14
	独	話	I	2			- 1	2	1117	
	独	語	II	2			8 1	The William	2	40
目	中	国語	I	2			1 2 E	2	15 T	
Н	中	国 語	П	2			7g - H	17 - 1	2	
	哲		学	2			- II	2		- 30
	法		学	2				-	2	- 1
j		4目履修単位		1以上				1	以上	
		1目履修単位		74	28	26	18	1	1	2 15 70 V
	爱 俏		数	75以上	28	26	18		以上	26 07

情報通信工学科の教育課程(2/5)

別表第2 専門科目 1 情報通信工学科

(平成17年度以降入学者)

	旧拟进行工 <i>于</i> 行							及以降八十旬
	授 業 科 目	単位数	 1年	生 年 2年	別 <u>単</u> 3年	<u>位</u> 4年	数 5年	備 考
	応 用 数 学 応 用 物 理 I	4				4		
ا بن	応 用 物 理 I	2			2	2		
必	<u>応 用 物 理 Ⅱ 基 礎 電 気 工 学</u>	2 2	2					
	情報処理Ⅰ	2	2					
	情報処理Ⅱ	4		4				
	情報処理 🎹	2			2		ļ	
修	ディジタル 回路 I 電 気 回 路 I	2 2		2 2				
	電 気 回 路 I 電 気 回 路 II	2			2			
	電気図路Ⅱ 電気磁気学Ⅰ	2			2			
	金 子 同 敗 「	2			2			
科	電気電子計測工	2 2	2		2			
111	基 礎 工 学 演 習 工 学 演 習	2			2			
	工学セミナーI	2				2		
	工学セミナーⅡ	2					2	
	基礎工学実験	2			2			
目目	通信工学実験 I 通信工学実験 I	3 4			-	3	4	1
	通信工学実験 I 通信工学実験 I 卒 業 研 究	12					12	
	計	59	6	8	16	11	18	
	電 気 磁 気 学 Ⅱ 電 子 回 路 Ⅱ	2				2	<u> </u>	
[}	電 子 回 路 Ⅱ 電 子 回 路 Ⅲ	2 2				2 2		
	電子工学工	2				2		
		2				2 2		
		2				2		
		2 2			-		2 2	-
		2				2	-	
	電 波 伝 送 学 Ⅱ	2					2	
	電 気 通 信 シ ス テ ム A	2				2		
	電気通信システム B 通信法 I	2				1	2	
選	通 信 法 I 通 信 法 II	1				<u> </u>	1	1
	技術英語人	1				1]
	技術英語 B	1					1	
	回路網理論	2				2		
択	情報処理Ⅳ ディジタル回路Ⅱ	2 2			-	2 2		
	ディジタル回路 Ⅱ 音 響 エ 学 I	1				1		
	音 響 工 学 Ⅱ	1				11		
	オペレーションズリサーチ	. 2				2	ļ	
T.,	信号処理概論	2				22	-	
科	電気電子計測 II 計算機ネットワーク I	2 2		 	 		2 2	
	計算機 ネットワークⅡ	2					2]
	惰 報 埋 論	2					2]
	電波応用工学	1					1	-
目	デ ー タ 通 信 制 御 エ 学	2 2			-		2 2	1
	電力 工学 概論	2			†		2	j
	平 導 体 工 学 画 像 工 学 I	2					2]
	半 導 体 工 学 画 像 工 学 I 画 像 工 学 I	1					1	1
	画像 工 学 II	1 2				2	1	
		2				4	2	1
	電子工学特論 情報処理特論 無線工学演習	2					2	
	情報 処理 特論	2					2	
	<u>無線工学演習</u> 環境と人間	2			1	2	1	-
	炊 	$\frac{1}{1}$				1	†	1
	校 外 実 習 特 別 講 義	1					1	
ě	情報通信特論 情報 通信等特論 情報 更	23以上				* 2	3 LI F	
選	・ 択 科 目 履 修 単 位 数・ 門 科 目 履 修 単 位 数・ 般 科 目 と の 合 計	82以上	6	8	16	5	2以上 5以上	
	- 般 科 目 と の 合 計	167以上	34	34	34	6	0以上	l

※ 選択科目の履修については、修得総単位数(5年次)が167以上になるように注意すること。

電子工学科の教育課程(3/5)

別表第2 専門科目

2 電子工学科

(平成17年度以降入学者)

拉 業 利 日	114 (-1- * /-	<u> </u>	学 年	別単	位数	汝	/
授業科目	単位数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	備考
応 用 数 学	4				4		
応 用 物 理	4			2	2		
基礎電気工学	2	2					
電気磁気学	4			2	2		
電気回路Ⅰ	2		22				
业 電 気 回 路 Ⅱ	2			2			
回路 理論	2				2		
電子工学	2			2			
半 導 体 工 学	4				2	2	
修電子回路	4			2	2		
ディジタル回路Ⅰ	2		2				
ディジタル回路Ⅱ	$\frac{1}{2}$			1			
電子計測	2			ļ	2		
科通信工学	4				2	2	
情報処理Ⅰ	2	2					
情報処理Ⅱ	4		4			-	
情報処理Ⅲ 目計質機丁学	2		! 	2			
71 /2	2				2		
制御工学	2					2	
基礎工学演習電子工学セミナー	2	2			1		
	1		·	2	1		
工 学 実 験 卒 業 研 究	10 12			3	3	4	
学 来 切 先	+	6	0	16	24	12 22	
固体物理	76 ·	6	8	16	24 2		
パルス工学	2					2	
電子材料	2					$\frac{2}{2}$	
光エレクトロニクス	2					2	
選応用計測	2					2	
音響工学Ⅰ	1				1		
音響工学 [[1				1		
画像工学	2		-		-	2	
択 電 波 伝 送 学	3				2	1	
応用通信工学	1					$\frac{1}{1}$	
情報 理論	2					2	
データ 通信	2					2	
科ロボット工学	2					2	
電力工学概論	2					2	
機械工学概論Ⅰ	1				1		
_ 機械工学概論Ⅱ	1				1		
目電波・電気法規	1				1		
電子工学演習	2				2		
環 境 と 人 間	1						
校 外 実 習	1				1		
特別講義	1				1		}
選択履修単位計	6以上				* 6.		
専門科目履修単位計	82以上	6	8	16		以上	
一般科目との合計	167以上	34	34	34	65.	以上	

※ 選択科目の履修については、修得総単位数(5年次)が167以上になるように注意すること。

電子制御工学科の教育課程(4/5)

別表第2 専門科目 3 電子制御工学科

(平成17年度以降入学者)

	+c + + 1	14 (-1- *L	3	全 年	別単	位	数	/ ** : ** /
	授業科目	単位数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	備 考
	応 用 数 学 I応 用 数 学 I	2				2		
-	応 用 数 学 Ⅱ	2					2	
-	応 用 物 理 I応 用 物 理 Ⅱ	2 2			2	2		
必	基礎電気工学	2	2					
~	制御工学工	2			2			
	制 御 工 学 Ⅱ	2				2		
L	電気回路 I 電気回路 I	2		2				
114	電 気 回 路 Ⅱ	2			2			
修	電気磁気学 [電気磁気学 [2 2			2	2		
		2			2	<u> </u>		
	電子回路 II	2				2		
	半 導 体 工 学	2				2		
科	計 測 工 学	2					2	
	ディジタル回路Ⅰ	2		2				
	情報 処理 I 情報 処理 II	2 4	2	4				
l t	<u>情報</u>	2		**		2		
目	基礎工学演習	2	2			<u> </u>		
	工 学 演 習	2			2			
	制御工学セミナー	3				2	1	
	工 学 実 験 卒 業 研 究	10			4	4	2	
\vdash	卒 業 研 究	12	F	0	1.0	20	12	
-	<u>計</u> 環境と人間	69	66	8	16	20	19	
	数 値 解 析 Ⅰ	1				1	Ī	
	数 値 解 析 Ⅱ					1		
	確率統計論Ⅰ	1				1		
	確率統計論Ⅱ	1				1		
	固体物理 工 固体物理 Ⅱ	1 1		ļ	 		1	
1	アイジタル回路 I	 	-		 	1	1	
Ì	ディジタル 回路 Ⅲ	1 1				1		
	制御機器I	1				1		
	制御機器Ⅱ	1				11		
	<u>シーケンス制御Ⅰ</u> シーケンス制御Ⅱ	1 1					1	
選	<u>シーケンス制御Ⅱ</u> 制 御 エ 学 Ⅲ	1 1	-				1	
	新 葡	1	<u> </u>			 	1	
	オペレーションズリサーチI	<u> </u>				_1	-	
択	オペレーションズリサーチⅡ	1				1		
	知識工学工	+ - ‡	ļ	ļ	-	ļ	1	
-	<u>知 識 工 学 Ⅱ</u> ロ ボ ッ ト 工 学 Ⅰ	1		 	 		1	
科	ロボット工学Ⅰロボット工学Ⅱ	1					1	
	流体 力学 I	Ī					1	
	流 体 力 学 Ⅱ	1					1	
日	<u>熱</u> 力学 I 熱 力 学 Ⅱ	1 1	-	-	-	-	1	
	シュテムT学T	1	 	-	 	1	1	
	システム工学Ⅱ	1			 	1		
	計算機工学 I	1					1	
	二計 昇 積 丄 字 Ⅱ	1					1	
-		1 1				1 1		
}	通信 理論 Ⅱ 画像 処理 Ⅰ	1			 	1	1	
	画像処理[1			 		1	
	通信システム I 通信システム I	1					i	
	通信システムI 通信システムI 校外実習	1					1	
	校 外 実 習	1		1		1		
選	特別 講義 : 択履修 単位数	13以上		-	 		1 3以上	
専	上 択 履 修 単 位 数 - 門 科 目 履 修 単 位 計	82以上	6	8	16		以上	
⊟	般科目との合計	167以上	34	34	34		以上	
		44140-4		, <u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>	. 77	. 90		

※ 選択科目の履修については、修得総単位数(5年次)が167以上になるように注意すること。

情報工学科の教育課程(5/5)

別表第2 専門科目

4 情報工学科 (平成17年度以降入学者)

授 業 科 目	単位数	+	学年	別単		数	備	考
A date of the second se		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	VIII	.,
応 用 数	学 4				4			
応 用 物	理 4			2	2			
基 礎 電 気 工 雷 気 回 路	学 2	2			11.0/201			
	I 2		2	8 110				
電 気 磁 気	学 2			0.0	2			
電 子 回	路 2			2			は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	
ディジタル回路	I 2		2					
修 ディジタル回路	II 2			2		/ 11- 12		
基礎情報工	学 2			2		Die H	110	
情報システム	I 2			2	T Sun't			
計算機システ	4 2			100	2	77 - 617		
科 情 報 処 理	I 2	2	100		a Salari			
情報処理	II 4		4	C. LT				
ソフトウェア設計			- 1	4				
情報構造	論 2			1	2			
Ale with Mr. toke	習 2	2		0 4				
目 基 億 上 字 頂 情報工学セミナ		- 4	-		6	1	-16	
工学実	験 9			2	4	3		
卒業研		-		4	4	12	CII :	
		-	0	10	00			
	67	6	8	16	22	15	-	
情 報 数	学 2		-		0	2		
数 值 解	析 2		-		2			
情報理	論 2	4				2	355	
電気回路	II 2			TE TO	2			
電子デバイ	ス 1					1		
半 導 体 工	学 2					2		
LSIシステ	4 2				TI SALE	2	tions I	
ディジタル信号処					1	100		
選 自 動 制	御 2					2		
オートマトン理						2	10 1	
プログラミング言	語 2					2	14.70	
オペレーションズリサ	-f 2			inc i d		2	04	
択 システムプログラミ	ング 2				2			
基本ソフトウェ						2		
コンパイ	9 2				B BI	2	100	
通信システム	I 2			3 1 0	2	770 10	100	
通信シュテム	II 2					2		
科情報システム	II 2		7			2		
ヒューマンインターフェ		TORREST		1977		1		
知識工学	I 2		10	1 4	2	-	107	
知識工学	II 2					2		
目データベー	ス 2					2	-	
画像工	学 2	-	-	177		2	132	
光エレクトロニク		-	-			2		
		-	-		1	4		
技術英	語 1	+	-	-	1			
情報特論	I 1	-	-	-	1	-	1 25 1	
情報 特論	II 2					2		
環境と人	間 1					1		
校 外 実	習 1		8	2	1			
特 別 講	義 1					1	-	
選択履修単位	計 15以_					以上		
専門科目履修単位			8	16		以上		
一般科目との合	計 167以_		34	34		以上		

※ 選択科目の履修については、修得総単位数(5年次)が167以上になるように注意すること。

(出典 学生便覧 30,42~45頁)

学校の教育目的と準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質・能力との対応関係

	的と準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質·能力との対応関係
教育目的:養成 すべき技術者像	準学士課程の卒業時に身に付ける学力や資質・能力
健全な心身を持 ち	A1:3 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知っている。(技術者としての責任を果たす能力)
	A2:2 公衆に対する責任,有用で安全な技術の提供について知っている。 (人類の福祉に貢献できる能力)
	A3:3 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断できる。(物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
	F1 運動能力の維持向上に努める姿勢を身に付けている。
	F2 団体の規律を守る姿勢を身に付けている。
チャレンジ精神	F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢を身に付けている。 D3:3 学んだ知識を整理し、応用されている分野を知り、他の分野に応用できる。(幅広い知識)
に富んだ	D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
	D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
	E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。 (粘り強く取り組む姿勢)
国際的に活躍で	B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。
きる(技術者を育	B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。
成する。)	B3:3 役割を分担し,相互に協力して作業できる。
	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
	C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
	C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
	C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
	D1:3 基本的な問題が解け,基本的な法則や定理を説明できる。 (数学,自然科学に関する知識)
く知り	D2:3 基本的な問題が解け,専門用語や現象·仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識)
	A1 製作物の安全性と有用性,環境保全と資源の有効利用,相互了解の確認の大切さを知っている。(技術
図り	者としての責任を果たす能力) A3 公衆の安全,福祉,健康及び環境保全を優先して判断できる。(物事の良し悪しを根拠を示して判断で
	きる能力)
	·A2 公衆に対する責任,有用で安全な技術の提供について知っている。 (人類の福祉に貢献できる能力)
を育成する。) 広い視野を持ち	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
	D3:3 学んだ知識を整理し、応用されている分野を知り、他の分野に応用できる。(幅広い知識)
	D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
	D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
応でき	C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
	D1:3 基本的な問題が解け、基本的な法則や定理を説明できる。(数学,自然科学に関する知識)
	D2:3 基本的な問題が解け、専門用語や現象・仕組みを説明できる。 (専門技術に関する知識)
	D3:3 学んだ知識を整理し,応用されている分野を知り,他の分野に応用できる。(幅広い知識)
	D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力) D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
社会にとって有	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
益なシステムを	C2 情報機器を活用して情報分析ができる。
構築できる(技術	C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
者を育成す る。)	C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成
~ · /	果の要約、によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
	E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。 (計画を立案できる能力)
	E2:2 回路又はシステムの設計手順、手法を知っている。 (回路又はシステムを設計できる能力)
	E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力)
	E4:2 正常な動作かどうか検証できる。 (回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力) E5:2 問題点を理解し,助言を受けて,問題を解決できる。 (問題点を解決できる能力)
	E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。 (粘り強く取り組む姿勢)
	EU・0 宍外で対フし取り組み, 是成り 公ま (柏り)照入取り組むことが じさる。 (柏り)照入取り組む安勢)

(出典 平成18年8月18日第7回入学試験委員会資料)

学科の教育目的と学校が掲げた教育の目的との対応関係(1/2)

情報通信工学科の教育目的と学校が掲げた教育目的との対応関係

	件の教育日的と子校が掲げた教育日的との対応関係
情報通信工学科 の教育目的	準学士課程の卒業時に身に付ける学力や資質・能力
ネットワーク	D1:3 基本的な問題が解け,基本的な法則や定理を説明できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:3 基本的な問題が解け,専門用語や現象・仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識)
4 4	D3:2 学んだ知識を整理し,学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
養成する。	D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
無線・有線通信 に関する資格を 取得すると共	D1:3 基本的な問題が解け,基本的な法則や定理を説明できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:3 基本的な問題が解け,専門用語や現象·仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識)
に,技術の変化 に対応できる技 術者を養成す	D3:2 学んだ知識を整理し,学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)
る。	D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
われず, 工学技 術の創意工夫と 向上に努力し, 共同作業ができ る技術者を養成 する。	B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。 B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。 B3:3 役割を分担し、相互に協力して作業できる。 E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。(計画を立案できる能力) E2:2 回路又はシステムの設計手順、手法を知っている。(回路又はシステムを設計できる能力) E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力) E4:2 正常な動作かどうか検証できる。(回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力) E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。(問題点を解決できる能力) E6:3 興味を持って取り組み、達成でするまで粘り強く取り組むことができる。(粘り強く取り組む姿勢)
情報機器を用い、情報機器を用い、情報収集、文書作成および発表ができる技術者を養成する。	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。 C2 情報機器を活用して情報分析ができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。 C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)

A1:3, A2:2, A3:3並びにF1, F2, F3は一般教科で培う。

雷子工学科の教育目的と学校が掲げた教育目的との対応関係

	教育日的と学校が掲げた教育日的との対応関係
電子工学科の教 育目的	準学士課程の卒業時に身に付ける学力や資質・能力
回算のすけが、 通デ技機・ 通デ技機・ があるでするでは、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、 が、	D1:3 基本的な問題が解け、基本的な法則や定理を説明できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:3 基本的な問題が解け、専門用語や現象・仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識) D3:2 学んだ知識を整理し、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力) D5:2 予習復習でき、文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢) B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。 B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。 B3:3 役割を分担し、相互に協力して作業できる。 D3:2 学んだ知識を整理し、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) E2:2 回路又はシステムの設計手順、手法を知っている。(回路又はシステムを設計できる能力) E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力) E4:2 正常な動作かどうか検証できる。(回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力) E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。(問題点を解決できる能力)
取り組むことが できる技術者を 養成する。 物事を論理的に	E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。(計画を立案できる能力) E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(粘り強く取り組む姿勢) C1 情報機器を活用して情報収集ができる。
考え、文章や口 頭で発表できる 技術者を養成す る。	C2 情報機器を活用して情報分析ができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。 C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力) A1:3,A2:2,A3:3並びにF1,F2,F3は一般教科で培う。

学科の教育目的と学校が掲げた教育の目的との対応関係 (2/2)

電子制御工学科の教育目的と学校が掲げた教育目的との対応関係

	10-15-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-
電子制御工学科 の教育目的	準学士課程の卒業時に身に付ける学力や資質·能力
創造力にあふれ た実践的電子制 御技術者を養成 する。	E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。(計画を立案できる能力) E2:2 回路又はシステムの設計手順、手法を知っている。(回路又はシステムを設計できる能力) E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力) E4:2 正常な動作かどうか検証できる。(回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力) E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。(問題点を解決できる能力) E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(粘り強く取り組む姿勢)
新しい技術に対 応できる柔軟性 を有する実践的 電子制御技術者 を養成する。	B3:3 役割を分担し、相互に協力して作業できる。 D1:3 基本的な問題が解け、基本的な法則や定理を説明できる。(数学、自然科学に関する知識) D2:3 基本的な問題が解け、専門用語や現象・仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識) D3:2 学んだ知識を整理し、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力) D5:2 予習復習でき、文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢)
コミュニケー ション能力・プレ ゼンテーション 能力を有する技 術者を養成す る。	B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。 B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。 C4:7 適切な時間配分、理解し易い構成、聞き取り易い話し方、簡潔な表現、適切な図表の使用、目的と成果の要約、によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)
自ら学習する姿 勢を涵養する。	D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢) E6:3 興味を持って取り組み,達成するまで粘り強く取り組むことができる。(粘り強く取り組む姿勢)

情報工学科の教育目的と学校が掲げた教育目的との対応関係

A1:3, A2:2, A3:3並びにF1, F2, F3は一般教科で培う。

	教育日的と手权が強いた教育日的との対応関係
情報工学科の教 育目的	準学士課程の卒業時に身に付ける学力や資質・能力
基礎から応用まで体系的に理解させ、コンピュータを活用できる技術者を養成する。	D1:3 基本的な問題が解け,基本的な法則や定理を説明できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:3 基本的な問題が解け,専門用語や現象・仕組みを説明できる。(専門技術に関する知識) D3:2 学んだ知識を整理し,学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) D4:1 技術の歴史を知っている。(技術の変遷を予測できる能力) D5:2 予習復習でき,文献調査ができる。(自ら学ぶ姿勢) C1 情報機器を活用して情報収集ができる。 C2 情報機器を活用して情報分析ができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。
ムを設計・構築 できる技術者を	B3:3 役割を分担し、相互に協力して作業できる。 D3:2 学んだ知識を整理し、学んだ知識が応用されている分野を知っている。(幅広い知識) E2:2 回路又はシステムの設計手順、手法を知っている。(回路又はシステムを設計できる能力) E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(回路を又はシステムを構築できる能力)
み、解決できる技術者を養成する。	E1:2 目的を言え、手順を示すことができる。(計画を立案できる能力) E4:2 正常な動作かどうか検証できる。(回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力) E5:2 問題点を理解し、助言を受けて、問題を解決できる。(問題点を解決できる能力) E6:3 興味を持って取り組み、達成するまで粘り強く取り組むことができる。(粘り強く取り組む姿勢)
ミュニケーショ ン能力, プレゼ ンテーション能	B1:2 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り,理解できる。 B2:2 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。 C4:7 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約,によって発表できる。(情報機器を活用して口頭発表ができる能力)

A1:3, A2:2, A3:3並びにF1, F2, F3は一般教科で培う。

(出典 平成18年8月18日第7回入学試験委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の使命「創造性ある実践的な電子情報系の技術者の育成」を達成するために、準学士課程は電子情報系の情報通信工学科、電子工学科、電子制御工学科、情報工学科の4学科で構成され、各学科の目的・内容が明記されている。「準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質・能力」は、本校の教育目的(養成すべき人材像)を基に定められている(資料 $2-1-\mathbb{Q}-6$)。各学科の教育目的は、専門分野における「準学士課程卒業時に身に付ける学力と資質・能力」に対応している(資料 $2-1-\mathbb{Q}-7$)ので、学校の教育目的と整合性が取れている。

各学科の教育課程は、専門基礎科目は共通部分が多いが、学年進行に伴って学科毎にそれぞれ通信、電子、制御、情報工学の専攻分野を教育するように専門科目と工学実験や卒業研究が編成され、各学科の教育目的を達成するように編成されている。また、学生の入学定員と現員数も適切であり(資料2-1-(1-2)、高等専門学校設置基準の規定に適合している。各学科はいずれも電子情報系の学科であり、学校の使命や教育目的を達成する上で適切な学科構成となっている。

観点2-1-②: 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で 適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

電子情報系技術者の育成を使命とする本校の専攻科課程は、電子通信システム工学専攻と情報制御システム工学専攻の2専攻で構成され、各専攻科の定員と現員が示されている(資料2-1-①-2)。専攻科の教育理念(教育目的)(資料2-1-②-1)と各専攻の教育目的が定められ(資料2-1-②-1),各専攻の教育内容が明示されている(資料2-1-②-2)。各専攻の教育目的を達成するために教育課程(資料2-1-②-3)が定められている。

専攻科の教育理念(教育目的)と各専攻の教育目的は、学校の教育目的を基に設定された"専攻科修了時に身に付ける学力や資質・能力"に対応している(資料2-1-②-4)。

資料2-1-2-1

専攻科の教育理念と各専攻の教育目的

専攻科の教育理念

開校精神を核として持ち、それに加えて、国際的なコミュニケーション能力と創造的技術開発 能力と技術者倫理・責任自覚能力とを備えた高度開発型実践技術者を養成する。

電子通信システム工学専攻の教育目的

マルチメディア通信を専門分野とする実践的な高度開発型技術者を育成する。

情報制御システム工学専攻の教育目的

IT技術を専門分野とするシステム構築能力に長けた実践的な高度開発型技術者を育成する。

(出典 専攻科学生便覧 4頁)

資料 2-1-②-2

各専攻科の内容

◎電子通信システム工学専攻

「マルチメディア通信を専門分野とする実践的な高度 開発型技術者を育成する。」

現在、情報は多様で豊かな表現内容を持つように求められている。つまり、情報はマルチメディア化している。このような状況に対応して、通信も多様化し、従来の通信より広い意味を持ったマルチメディア通信の技術が必要になっている。このマルチメディア通信の分野において実践的な技術活動をする技術者を育成する。

Advanced Course of Electronics and Communication Systems Engineering

"The course of Fostering Practical and Creative Engineers in the Field of Multi-media communication"

These days, we have a wide variety of information abundant of contents, i.e., information is sent and received via multi-media. Adapting to this situation, we now need multi-media communication technology which has a broader meaning than a traditional one. In this course, we help students become practical and creative engineers with multi-media technology.

◎情報制御システム工学専攻

「IT技術を専攻分野とするシステム構築能力に長けた 実践的な高度開発型技術者を育成する。」

本専攻はITシステム開発、保守運用などITシステムに 関連する様々な技術側面に対応できる実践的技術者を養 成することを目的としたものである。ITシステムはコン ピュータを核としたシステムであるが、その全容を理解 するためには様々な工学知識が必要である。そのために 本専攻では、ハードウエアからソフトウエアまでの幅広い 工学基礎知識を持ち、電子工学、機械工学などの基盤に 立ったシステム構築能力を備え、コンピュータネットワー クを含むIT技術を習得した創造性に富む実践的な高度開 発型技術者を育成する。

Advanced Course of Information and Control Systems Engineering

"The Course of Fostering Practical and Creative Engineers Having Good Ability of System Construction in the Discipline of Information Technology"

The aim of this course is to foster practical engineers having a broad ability of developing, designing and maintaining IT systems. To understand IT system, whose core technology lies in computers, a wide range of engineering knowledge is needed. From this viewpoint, we foster practical and creative engineers with broad basic knowledge from hardware to software and with the ability to construct IT systems, based on electronics and mechanics.

(出典 学校要覧 27, 28 頁)

資料 2-1-2-3

専攻科の教育課程(1/2)

1. 電子通信システム工学専攻

		単	学	年另	川配	当	必修	修得	
区分	授 業 科 目	位	1	年	2:	年	選択	単位	備考
		数	前期	後期	前期	後期	の別	数	-
	コミュニケーション英語 I	2	1	1			必修	2	演習
	コミュニケーション英語Ⅱ	2			1	1	必修	2	演習
般	技術者倫理	2	2				必修	2	
私	文学特論	2			2		選択		
科目	物理科学特論	2		2			選択	*	
	応用数学特論	2	2				選択		
_	知的財産権	2		2			選択		
	一般科目開設単位数	14	5	5	3	1			
	工業英語	2		2			選択		
-	工業数学	2	2				選択	1	
-	量子力学	2		2			選択		
	グラフ理論	2	2				選択		
専	情報工学基礎論	2	2				選択		
Pi		2		2			選択		
共		2	2				選択		
通	計測工学特論	2		2			選択	* -	
和		2			2		選択	I	
事 E	マルチメディア工学	2			2		選択		
	アルゴリズムとデータ構造	2	2				選択	l t	
	ソフトウェア工学概論	2				2	選択	1	
	エネルギー変換論	2				2	選択	l t	
39	特別講義	2			2		選択		
	専門共通科目開設単位数	28	10	8	6	4			
	特別研究	10		4	-	6	必修	10	実験
科	特別実験·演習I	4		4			必修	4	実験
	特別実験・演習Ⅱ	4			-	4	必修	4	実験
	集積回路工学	2			2		必修	2	244
専	応用電磁気学	2	2				必修	2	
	材料工学	2		2			選択		
T B	電子物性	2	2				選択	l I	
和	西フー シノコー州	2	-			2	選択	l t	
12	電磁波·光波工学	2		2			選択		
I	AL AND 100 - AM	2:			2		選択	*	
1	通信理論	2		2			選択		W
	システム工学	2			2		選択	l f	- 100 (80-11)
	ニューロ・ファジィ技術	2				2	選択	l	
-	事攻科目開設単位数計 事攻科目開設単位数計	38	12	6	16	4	_		
_	専門科目開設単位数計	THE OWNER WHEN	22	the Real Property lies, the last	-	4	-		
5	设•專門科目開設単位数合計	66	CHARLES SHOWING	14	22	8	-		
7	修得単位数合計	80	27	19	25 単 位	9			

*:一般科目の選択科目は2単位以上,専門共通科目と専攻科目の選択科目は,合計で 26単位以上修得すること。

(出典 専攻科学生便覧 23頁)

資料 2-1-2-3

専攻科の教育課程(2/2)

2. 情報制御システム工学専攻

			単	学	年5	引配	当	必修	修得	
区分	分	授 業 科 目	位		年		年	選択	単位	備考
			数	前期	後期	前期	後期	の別	数	nu .7
		コミュニケーション英語 I	2	1	1		50.77	必修	2	演習
		コミュニケーション英語 Ⅱ	2			1	1	必修	2	演習
AU.		技術者倫理	2	2				必修	2	
科		文学特論	2			2		選択	-	
		物理科学特論	2		2			選択	l 1	_
_	١. ١	応用数学特論	2	2				選択	*	
		知的財産権	2		2			選択	l t	
		一般科目開設単位数	14	5	5	3	1	ALL D'		A MARKET AND A
Т		工業英語	2	-	2			選択		-
1		工業数学	2	2		_		選択	1 1	
1		量子力学	2		2			選択	l l	
1	15	グラフ理論	2	2		1		選択	1 H	
1	専	情報工学基礎論	2	2	-			選択	1 1	
		数値計算論	2	-	2	-		選択	1 1	
1			2	2	-	-		選択	1 1	
1	通	計測工学特論	2	-	2	-	-	選択	*	
1	科	ディジタル信号処理工学	2	1	-	2	-	選択	1	
-	目	マルチメディア工学	2	-	-	2	-	選択	1 1	
刺		アルゴリズムとデータ構造	2	2	-	-	-	選択	1 1	
٦		ソフトウェア工学概論	2	-	-	-	2	選択	1 1	
1		エネルギー変換論	2	-	-	-	2	選択		
-1		特別講義	2	-	-	2	2	選択	1	
9	_	専門共通科目開設単位数	28	10	8	6	4	选択	\vdash	NAME OF TAXABLE PARTY.
ı	-	特別研究	10	THE REAL PROPERTY.	4	Section 2015	6	必修	10	実験
-		特別実験·演習 I	4	-	4	-	0	必修	4	実験
4		特別実験·演習Ⅱ	4	+	T		4	必修	4	実験
7		システム制御理論	2	-		2	T	選択		- 夫歌
-1		数式処理概論	2		-	2		選択	1 1	
-	専	画像処理工学	2	+-	2	-		選択	1	
3		生体工学	2	1	1	2		選択	{ }	
1	攻	電力制御機器工学	2	1		-	2	選択	1 1	
	1 -1	光エレクトロニクス	2	2	-	-		選択	*	
1	科	人工知能	2	1-	2			選択	1 1	
1	B	オブジェクト指向プログラミング	2	2	-	-		選択	l. I	
1	H	医用工学	2	-	2	-		選択	1 1	
		教育システム工学	2	-		2		選択	1 1	-
1		The second second	1		-	2	_	建扒	1 1	
			+	-	-	-	-		1 1	-
1			+-	-		-	-		-	
1	-	專攻科目開設単位数計	38	12	6	18	2	-	-	
_	-	専門科目開設単位数計	66	22	14	-	6	-		
	_	般·専門科目開設単位数合計	80	CONTRACTOR OF THE PARTY OF	THE R. P. LEWIS CO., Land	24	THE RESERVE AND PERSONS NAMED IN	-		
	-	修得単位数合計	00	27	19	単 位	7			

^{*:}一般科目の選択科目は2単位以上,専門共通科目と専攻科目の選択科目は,合計で 30単位以上修得すること。

(出典 専攻科学生便覧 24頁)

資料2-1-2-4

専攻科の教育目的と学校が掲げた教育目的との対応関係

専攻科及び各専 攻の教育目的	専攻科課程の修了時に身に付ける学力や資質・能力
技術者倫理·責任 自覚能力	A1:4 製作物の安全性と有用性、環境保全と資源の有効利用、相互了解の確認の大切さを知って、生命を 尊重し自他の幸福を願う姿勢が身に付いている。(技術者としての責任を果たす能力) A2:4 公衆に対する責任、有用で安全な技術の提供について知り、有用性とリスクを知り、公衆の安全を 最優先する姿勢を身に付けている。(人類の福祉に貢献できる能力) A3:4 公衆の安全、福祉、健康及び環境保全を優先して判断でき、判断を多用な価値観から評価できる。 (物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力)
国際的なコミュ ニケーション能 力	B1:3 対話の状況と内容から,相手の意図を正しく理解できる。(相手の意図を理解できる能力) B2:3 自分の考えが相手に正しく伝わったかを確認できる。(自分の考えを相手に伝える能力) B3:4 役割を分担し,相互に協力して作業できる。
創造的技術開発 能力, な高度 要型技術者の 育成	C1 情報機器を活用して情報収集ができる。 C2 情報機器を活用して情報分析ができる。 C3 情報機器を活用して文書作成ができる。 C4:8 適切な時間配分,理解し易い構成,聞き取り易い話し方,簡潔な表現,適切な図表の使用,目的と成果の要約によって発表でき,質問に適切に回答できる。(情報機器を活用した口頭発表能力) D1:4 応用問題が解け,専門分野に応用できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:4 応用問題が解け,実践的な問題解決に応用できる。(専門技術に関する知識) D3:3 学んだ知識を整理し,他の分野に応用できる。(幅広い知識) D4:3 技術の歴史を知り,技術の現状を知っている。(技術の変遷を予測できる能力) D5:3 予習復習でき,文献調査が,目標を立てて取り組むことができる。(自ら学ぶ姿勢) E1:4 目的を言え,計画案を示すことができ,必要に応じて計画を改善できる。(計画を立案できる能力) E2:3 回路又はシステムの設計手順,手法を知っていて,設計できる。(設計できる能力) E3:3 設計どおりに組み立てる又は構築できる。(構築できる能力) E4:3 動作チェックリストを作成でき,正常な動作かどうか検証できる。(問題発見能力) E5:2 問題点を理解し,助言を受けて,問題を解決できる。(問題点を解決できる能力) E6:3 作業状況に応じて計画を見直し,達成するまで粘り強く取り組むことができる。(取り組む姿勢)
通信を専門分野 とする, または I T技術を専門	D1:4 応用問題が解け,専門分野に応用できる。(数学,自然科学に関する知識) D2:4 応用問題が解け,実践的な問題解決に応用できる。(専門技術に関する知識) D3:3 学んだ知識を整理し,他の分野に応用できる。(幅広い知識) D4:3 技術の歴史を知り,技術の現状を知っている。(技術の変遷を予測できる能力)

(出典 平成 18 年 8 月 18 日第 7 回入学試験委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程はマルチメディア通信分野を専門とする電子通信システム工学専攻とIT技術を専門分野とする情報制御システム工学専攻の2専攻で構成され、「電子情報系技術者の育成」という本校の使命に適っている。専攻科の教育理念(教育目的)と各専攻の教育目的が設定され、その教育目的を達成するために教育課程が設定されている。教育課程の内容は、修業年限2年間で準学士課程よりも高度な内容を教授し研究を指導する内容となっており、学校教育法の規定に適合している。専攻科の教育理念(教育目的)と各専攻の教育目的は、学校の教育目的を基に設定された"専攻科修了時に身に付ける学力と資質・能力"に対応しており、学校の教育目的と整合性が取れている(資料2-1-②-4)。

以上のように、専攻科の構成は教育の目的を達成する上で適切なものになっている。

観点2-1-③: 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する 上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

全学的なセンターとして情報処理センター、集積回路実験室が設けられている(資料 2-1-①-1)。情報処理センターは、コンピュータリテラシー、プログラミング教育、インターネットを用いたマルチメディア教育に利用され、電子情報系技術者に必須の情報処理技術教育に活用されている(資料 2-1-③-1, 2)。集積回路実験室は、学生が設計した電子回路を薄膜回路で製作する学生実験や卒業研究、特別研究で使用され、電子系技術者を育成するために活用されている(資料 2-1-③-3-5)。新しい装置が購入されると、講習会を開いて安全な使用の促進を図っている。(資料 2-1-③-6)。

資料 2-1-3-1

詫間電波工業高等専門学校情報処理センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第14条第2項の規定に基づき、 情報処理センターについて必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 情報処理センターは、情報処理教育の円滑な実施のため、次に掲げる事項を行うことを 目的とする。
 - 一 情報処理教育に関すること
 - 二 計算機システムの利用に関すること
 - 三 計算機システムの操作,保守及び管理に関すること
 - 四 ネットワークの運営方針・利用に関すること
 - 五 その他必要と認められること

(組織)

- 第3条 情報処理センターに次の職員を置く。
 - 一 センター長
 - 二 副センター長
 - 三 センター員 若干名

(任命)

- 第4条 センター長及び副センター長は、校長が任命する。
- 2 センター員は、センター長の推薦に基づき、校長が任命する。

(任期)

第5条 センター長及び副センター長の任期は2年とし、センター員の任期は1年とし、それぞれ再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(任務)

- 第6条 センター長は、情報処理センター業務を掌理する。
- 2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職務を行う。
- 3 センター員は、情報処理センター業務の遂行当たる。

(委員会)

- 第7条 情報処理センターの円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校情報処理センター委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第8条 情報処理センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年11月20日から施行する。

資料 2-1-3-2

平成18年度	情報処理センター	-演習室利用状況
T/W 10 T/Z		18 日 土 111111111111111111111111111111111

			月							火							水			
		1 2	3 4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	第	知工 I	情処 I		情シ	スⅡ			応物	n I		ネッ	١٠	情	工論	情外	ē.III			
	1	4 I	1 T		5	i I			3	С		5	T	専攻	双科 1	3	T			
	第	通シス		情如	υП		実	験	知コ	. I	画	像		実	験					
前期	3	5 C		2	C		4	C	5	С	5	C		5	С					
期	高	情シスI	情処 I		構	造	実	験	言	語		アル	構造							
	度	3 I	1 I		4	I	4	С	5	I		専攻	科 1							
	サ	情処Ⅱ	情処Ⅱ	実	験		情处	LΠ	ソフ	フト	情頻	υП		情	処Ⅱ	情タ	ūΠ	数	解	
	イバ	2 T	2 E	3	T		2	I	3	I	2	Е		2	T	2	I	4	ł I	
	第	セミナ	情処 I	計工		スⅡ	知二	Ľ I	無			ネッ			処Ⅲ		ωIII	計工		
	1	5 T	1 T	4 E		I	4		4				Т		Е		T	4 E		
	第		情処Ⅱ	シキ	削Ⅱ		数角	屛Ⅱ	知コ	ΞΠ	画信	象Ⅱ		美	験	画	処工			
後	3		2 C	5	С		4	С	5	С	5	С		5	С	専攻	(科 1			
後期	高	シスプロ	情処 I	制征	卸IV				言	語				デ	一タ				セミ	ナー
	度	4 I	1 I	5	С				5	I				5	I				4	T
	サ	情処Ⅱ	情処Ⅱ	実	験		ソフ	フト	情处	ιП	数割	十論				情頻	亚Ⅱ		数	解
	イバ	2 I	2 T	3	T		3	I	2	I	専攻	科 1				2	T		4	I

					木							金			
		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	第	情如	υI			情ネ	ット論		セ	ミナ				情頻	ŪШ
	1	1	Е			専攻	科 1		5	T				3	E
	第	情如	υI						シ#	刮 I	実	験	情如	υII	
前	3	1	С						5	С	4	С	2	С	
期	高	セミ	ナー			実	験		シス	プロ	実	験			
	度	4	T			5	Е		4	I	4	С			
	サイ	ソ	フト						知二	ĽΠ	情如	ЛIV			
	ババ	3	I						5	I	4	T			
	第	情如					斗特					匚知	応物		
	1		Е				科 1		I-l- f	<u> </u>	専攻	科 1	3	С	
	第	情如					スⅡ			ŪΠ					
後	3	1	С			5	С		2	С					
後期	高					実	験		構	造	情シ	ΖΙ			
	度					5	Е		4	I	3	I			
	サイ			情如	υП	ソ	フト		情如	ūΠ	知二	ĽΠ		情外	ЛIV
	イバ			2	Е	3	I		2	Е	5	I		4	T

- 各演習室の空き時間は、一般教科(国語、歴史)のインターネットやPowerPointを利用する授業、また専門教科の実験等で単発的に利用されている。
- 平成18年度は専攻科棟が竣工し利用できるようになったため、専攻科の授業での利用が平成17年度より減少している。

(出典 情報処理センター)

資料2-1-3-3

詫間電波工業高等専門学校集積回路実験室規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第15条第2項の規定に基づき、 集積回路実験室について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 集積回路実験室は,集積回路実験の円滑な実施のため,次に掲げる業務を行うことを目 的とする。
 - 一 集積回路実験装置の利用に関すること
 - 二 集積回路実験装置の操作、保守及び管理に関すること
 - 三 その他必要と認められること

(組織)

- 第3条 集積回路実験室に次の職員を置く。
 - 一 室 長
 - 二 副室長
 - 三 室 員 若干名

(任命)

- 第4条 室長及び副室長は、校長が任命する。
- 2 室員は、室長の推薦に基づき、校長が任命する。

(任期)

第5条 室長及び副室長の任期は2年、室員の任期は1年とし、それぞれ再任を妨げない。 ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。 (任務)

- 第6条 室長は、集積回路実験室業務を掌理する。
- 2 副室長は、室長を補佐し、室長に事故あるときはその職務を行う。
- 3 室員は、集積回路実験室業務の遂行に当たる。

(委員会)

- 第7条 集積回路実験室の円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校集積回路実験室委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第8条 集積回路実験室の利用に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

						2000	ſ
ш	篡	斧			30	71 80	
ш.	推	片			29	1	
					38 2	1 22	
one -	集 回 散積 路 計		*		27	18	Ī
ロッカ 4ーダ			*		79	_	Ī
性 御曹田	スペアナ 発光特性	3	7		25	12	
8	フィルタ		美種 回路設計	ŧ	24	17	-
	篡	斧			23	3011	-
ロソカ 4ータ			架積 回路設計		22 19		맱
7	フィルタ			7/20 9	_	2 11	
	#1910E-01	御事日	発光特性	スペアナ		11 2	4¥ [
美 同 袋	音響日 スペアナ発光特性 音響日	t	32		18 19	10 10 26	雛
スペアナ 音響日 発光特性プログラスペアナ 音響日	WELL INCHA		▣		17 1		串
音響日 発光特性 スペアナタ	ロッピュータ		櫢		_	10	ı
ш	錫	粹				9 41	酃[
ads	*	スペアナ	御警日	発光特性		9	学
盆	1	発光特性	スペアナ	音響日	13	13	₹Γ H
	ת 4	谷谷子	レイクロ	航法無線	- 12	6 7	#
裁	Л	航法無線	御輩→	マイクロ	_	29 e	n.
¥ 4		レイクロ	机法無線	御難→	9 10	6 22	
口 御事一	紅法無線 マイクロ		コンピュータ	Г		6 8 15	年度
田紅法集録	値 マイクロ 作事!	۴-			2 -	25	- 1
	音響上 航法無線		720		$\overline{}$	18	-[
発光特性 スペアナ 音響日	adn .		1		S	112	出
航法無線 マイクロ 音響上	超回		স 4		4	2	F [
マイクロ 谷轡I 航法無線	*		۸			27	
音響工 航法無線 マイクロ	微		п		$\overline{}$	204	- 1
8 Y K	* + *				_	4 81	ı
						田田	
					名		
					出		
0 7 0	4 8		2	1	*	岩	t
0	м м		· «			<i>₽</i> 3-	t

資料 2-1-3-5

平成17年度集積回路実験室を使用した卒業研究と特別研究テーマ

情報通信工学科 ナノクリスタルシリコン層のカソードルミネッセンス測定

PLD 法による透明導電薄膜の作成と評価 MOS 構造のエネルギーバンド図を描画する Java アプレットの作成

電子工学科 プラズマ CVD 装置の性能改善

サブナノメータ配線用多層レジストプロセス 高分子薄膜中における電子線軌跡のモンテカルロシミュレーション 色素増感太陽電池の変換効率改善に関する基礎的検討

電子制御工学科 Cu 薄膜の堆積速度と膜厚分布評価

色素増感太陽電池の作製と評価の研究 スパッタ法によるナノシリコン薄膜の形成と評価 抵抗測定用エッチングマスクの作製 Cu 薄膜のウェットエッチング特性の評価

(出典 平成17年度卒業研究発表会予稿集より抜粋)

電子通信システム工学専攻

色素増感太陽電池の作製と評価 高周波マグネトロンスパッタ法によるナノクリスタルシリコンの発光層の作製

(出典 平成17年度専攻科特別研究論文集より抜粋)

資料 2-1-3-6

設備取り扱い講習会の実施(集積回路実験室)

集積回路技術の教育・研究の充実促進を図る機関となることを目指す。

集積回路技術および周辺技術の交流・開発援助を通して地域産業の発展に寄与することを目指す。 地域における重要な集積回路関連技術のインキュベーション機関となることを目指す。

2. 平成17年度の目標

集積回路実験室の設備の取り扱い講習会を行う。

3. 手段

新しく導入した自作薄膜製膜装置である拡散ポンプ排気の RF マグネトロンスパッタ装置に関する取り扱い説明書を作成し、それを使って卒研生を対象とした取り扱い講習会を実施した。さらに取り扱い方法の理解度を確認する問題集を作成し、講習会後それを用いて参加者の理解を確認した。講習会に参加した学生と時間数は以下の通りである。(図・1)に取り扱い説明書の抜粋を示す。

(1) 日時: 平成17年10月19日(水), 21日(金)卒業研究の時間 参加学生数:5名

1) 電子工学科卒研生: 3名(

2) 制御工学科卒研生: 2名(2)

(2) 時間:

- 3) 講習 1日 (4時間)
- 2) 試験と復習を兼ねた取扱い確認 半日 (2時間)

(出典 平成17年度年報 67頁)

(分析結果とその根拠理由)

実践的な電子情報系の技術者を育成するという本校の使命を達成するために、情報処理センター、集積回路実験室が設けられている。情報処理センター内に4室ある情報処理演習室は、週35時間の授業時間の内20時間以上授業で使用され、情報処理技術教育に活用されている。集積回路実験室は、電子工学科の工学実験と情報通信工学科、電子工学科、電子制御工学科の卒業研究、専攻科の特別研究で全学的に使用され、電子系技術者を育成するために活用されている。以上のことから、全学的に利用され、教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-2-①: 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

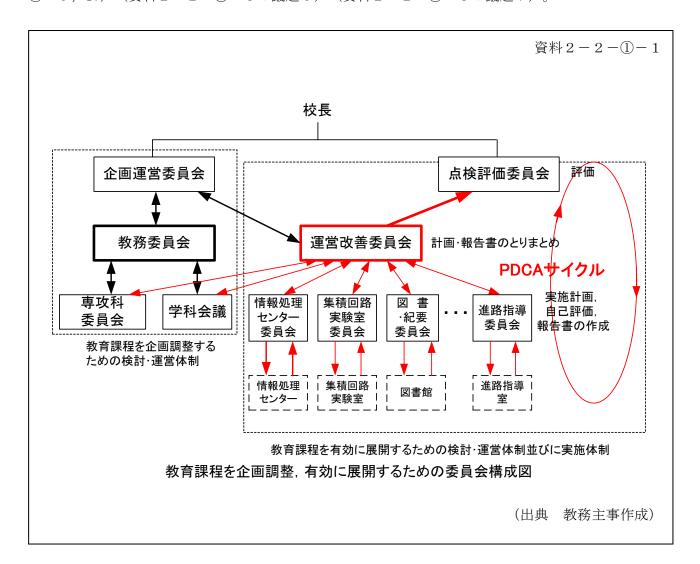
(観点に係る状況)

教育課程全体を企画調整し有効に展開するための検討を行う委員会として,企画運営委員会,教務委員会,運営改善委員会,点検評価委員会がある(資料2-2-①-1)。

教務委員会では、教育課程の編成及び改廃、授業時間の編成、学生の履修、学業成績の評価、教務に係る学校行事、教育・研究など教務に関することを審議決定する(資料 2-2-1-2)(資料 2-2-1-3 議題 8 のその他(2))。教務委員会で審議決定されたことは企画運営委員会に報告され、事項によっては企画運営委員会で審議して決定される(資料 2-2-1-4)(資料 2-2-1-5の議題 1 の協議事項(1))。

運営改善委員会は、年度始めに教育活動上の改善目標を設定して計画を立案し、年度末に実施結果を報告書にまとめて点検評価委員会に報告する。点検評価委員会は、報告書を点検評価して年報として公表している(資料 $2-2-①-6\sim8$)。

各学科,専攻科における教育活動上の情報・課題等についての報告・検討は学科会議,専攻科委員会で行われ,必要に応じて教務委員会において全学的な検討を行う体制となっている(資料 2-2-10 (資料 2-2-10 の議題 6) (資料 2-2-10 の議題 7)。



詫間電波工業高等専門学校教務委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 教務委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 教育課程の編成及び改廃に関すること
 - 二 授業時間の編成に関すること
 - 三 学生の履修に関すること
 - 四 学業成績の評価等に関すること
 - 五 教務に係る学校行事に関すること
 - 六 教育・研究及び学校運営の改善(教育に関するものに限る。) に関すること
 - 七 その他教務に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 教務主事
 - 二 教務副主事
 - 三 教務主事補
 - 四 専攻科長
 - 五 各学科長及び一般教科長
 - 六 校長指名の者(教育改善、学習支援、FD) 若干名
 - 七 学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (任命)
- 第5条 第3条第6号に規定する委員は、校長が任命する。

(任期)

第6条 第3条第6号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第7条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第8条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (報告)
- 第9条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)
- 第10条 委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。 附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

平成18年度第1回教務委員会議事要録(1/2)

平成18年度第1回教務委員会議事要録

開催日 平成18年4月12日(水) 16:15~17:45

場 所 図書館会議室

出席者。高木、松下、徳永、森孝、森本敏、福永、田嶋、今城、國井、溝下

欠席者 三崎

議題

1. 平成17年度のシラバス並びに授業の自己点検と相互点検報告について 高木委員長からこのことについて、各委員から当学科の自己点検結果に意見を 求めたが、満足な結果が得られなかったため、次回に審議することとなった。

なお、試験問題、答案等の保存は、PDF、ファイル名は専門部会案(教員手帳記載)で行うことする。PDFについては、どうしてもできない場合は、他のファイル形式でもよいこととする。その場合でも、PDF化に努める。

2. 平成18年度一般単位追認試験の日程について

徳永主事補から別紙資料に基づき、平成18年度一般単位追認試験の日程と平成17年度未修得科目について説明があり、審議の結果、原案どおりの日程で実施することとなった。

3. 平成18年度夏季集中・特別講義について

徳永主事補から別紙資料に基づき、平成18年度夏季集中・特別講義について 説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

4. 平成18年度校外実習について

徳永主事補から別紙資料に基づき、平成18年度校外実習について説明があり、 審議の結果、原案どおりの日程で実施することとなった。

5. 授業参観日について

高木委員長からこのことについて、昨年実施の経緯説明があり、審議の結果、 昨年同様、実験の多い曜日の5月9日(火)に実施することとなった。

6. の休憩場所と設備について

7. 専攻科棟の使用について

このことについて、國井専攻科長から現状の説明があり、審議の結果、当委員会で審議するのは不適なので点検評価委員会等、適切なその他の会議で審議することとなった。

- 8. その他
 - (1) 答案要旨の保存について

田嶋委員から、教員手帳に「試験問題・答案用紙の保存」についての記載があ

平成18年度第1回教務委員会議事要録(2/2)

るが、PDF ファイルの保存並びにファイル名の形式は教務委員会で認められていないのではないかという意見が述べられた。議長から、昨年 12 月の教務委員会において井上専門部会長から JABEE でも PDF ファイルによる保存を認めるとの報告があり、答案用紙を PDF 形式で保存するという部会案が述べられ、委員からの反対意見はなく認められており、専門部会で決まったことをまとめて教員手帳に掲載したと説明がなされた。

再度、各学科長に確認を取った結果、電子制御工学科を除く他学科は専門部会案の PDF 形式でよいとの意見であり、PDF 化することが確認された。どうしても PDF 化が難しい、あるいは他の理由がある場合は、他形式も認めてよいのではないかという委員長の意見に対して、反対意見はなかった。

(2) 規程の一部改正について

溝下課長から別紙資料に基づき、本校における学修に関する規程と課題研究による単位修得の認定の一部改正についての経緯説明があり、審議の結果、原案どおり了承された。

(3) 現代GPについて

現代GPへの申請について、溝下課長から、3月24日の学内締切までに電子 工学科の三崎教授から申請があり、申請形式を整え、本日提出することについて 報告があり、了承された。

なお、平成17年度に現代GP申請のためにプロジェクト経費を配分された情報通信工学科の小野講師から、セキュリティや著作権の問題等により、平成18年度の申請を取りやめたい旨、申し出があったことが報告され、了承された。

(4) 平成18年度兼業一覧について

このことについて別紙資料に基づき説明があり、審議の結果、今年度後期から 兼業することで了承された。

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

詫間電波工業高等専門学校企画運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16号第2項の規定に基づき、 企画運営委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 学則及び規程の制定、改廃に関すること
 - 二 組織の改廃に関すること
 - 三 教育・研究及び学校運営の目標・計画に関すること
 - 四 概算要求事項に関すること
 - 五 予算配分に関すること
 - 六 将来計画に関すること
 - 七 その他学校運営に係る重要事項に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長及び校長補佐
 - 三 専攻科長
 - 四 各学科長及び一般教科長
 - 五 事務部長

(会議)

第4条 委員会は、原則として月1回開催する。

ただし、必要がある場合は、随時開催することができる。

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第6条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第7条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第8条 委員会の事務は、総務課総務係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

平成18年度第1回企画運営委員会議事要旨

日 時 平成18年4月20日(木) 16:15 ~ 17:15

場 所 第2会議室

出席者 校長,高木副校長,宮城事務部長,塩田校長補佐,河田校長補佐,國井専攻科長,森本情報通信工学科長,福永電子工学科長,田嶋電子制御工学科長, 今城情報工学科長,森一般教科長,

陪席者 入木田総務課長,溝下学生課長,奈良課長補佐,河村課長補佐,今川課長補佐 白川総務係長(記録)

1. 協議事項

- (1) 詫間電波工業高等専門学校大学等における学修に関する規程の一部改正について 学生課長から資料1に基づき説明が行われ、審議の結果、原案どおり了承された。
- (2) コンピュータソフトウエアの適正な運用・管理の徹底について 総務課長から資料1に基づき説明が行われ、審議の結果、原案どおり了承された。 なお、校長から調査結果に基づき、実質的な対応を行いたい旨の発言があった。

2. 報告事項

- (1) 委員会報告について
 - ①知的財産委員会

副校長から、3月27日開催の知的財産委員会について報告があった。

②教務委員会

教務主事から、3月14日、4月12日開催の教務委員会について報告があった。

③専攻科委員会

専攻科長から、3月13日開催の専攻科委員会について報告があった。

- ④学生相談室委員会 学生相談室長から,3月13日開催の学生相談室委員会について報告があった。
- (2) 平成18年度公開講座実施計画について 総務課長から、資料4に基づき、平成18年度公開講座の実施について報告があった。
- (3) 寄附金の受入れについて 総務課長から資料5に基づき、寄附金受入れについて報告があった。

3. その他

- (1) 平成18年度運営懇話会について 総務課長から資料6に基づき,平成18年度運営懇話会について説明があった。
- (2) 平成18年度第1回後援会役員会及び通常総会等について 総務課長から資料7に基づき,平成18年度第1回後援会役員会及び通常総会等に ついて説明があった。
- (3) 平成18年度学寮保護者懇談会について 総務課長から資料8に基づき、平成18年度学寮保護者懇談会について説明があった。

以上

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

詫間電波工業高等専門学校運営改善委員会規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 運営改善委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)
- 第2条 委員会は、教育・研究及び学校運営の改善(教育に関するものを除く。) について審議 する。

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 副校長及び校長補佐
 - 二 専攻科長
 - 三 各学科長及び一般教科長
 - 四 図書館長,情報処理センター長,集積回路実験室長及び地域交流室長
 - 五 進路指導室長
 - 六 事務部長
 - 七 総務課長及び学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (報告)
- 第7条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)
- 第8条 委員会の事務は、総務課企画係において処理する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

詫間電波工業高等専門学校点検評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 点検評価委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 教育・研究及び学校運営(施設の有効利用を含む。)に関する点検・評価の実施計画の策 定及び実施に関すること
 - 二 点検・評価結果の公表に関すること
 - 三 その他自己点検・評価に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長及び校長補佐
 - 三 専攻科長
 - 四 各学科長及び一般教科長
 - 五 進路指導室長
 - 六 図書館長,情報処理センター長,集積回路実験室長及び地域交流室長
 - 七 事務部長
 - 八 総務課長及び学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第7条 委員会の事務は、総務課企画係において処理する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 目

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

資料 2-2-(1)-8

平成18年度第1回点検評価委員会議事要録

日 時 平成18年5月11日(木)16時20分から17時30分

場 所 第1会議室

出席者 校長、副校長、有馬学生主事補(塩田校長補佐代理)、河田校長補佐、専攻科長、一般教科長、情報通信工学科長、電子工学科長、電子制御工学科長、情報工学科長、図書館長、地域交流室長、情報処理センター室長、集積回路実験室長、小野進路指導室長補佐(進路指導室長代理)、事務部長、総務課長、学生課長

陪 席 者 総務課課長補佐(総務担当),総務課課長補佐(財務担当), 企画係長,企画係主任(記)

資料 1. 平成17年度年報(仮称)

2. 学科所有面積の平準化

議事

1. 平成17年度の取組みに対する点検・評価について

平成17年度の取組みをまとめた年報について、副校長から資料1のとおり各部署から提出があった旨報告があり、引き続き、各部署の記述内容に対する意見及び修正依頼があった。 校長から以下の意見があった。

- ・各部署毎に目標を定めて、取り組んでいることは結構である。
- ・認証評価の質問事項を念頭において、平成18年度の目標を立てて実施していくのが良い。目標を立てる会議を開くことにしたい。
- 教員サイドの自己点検書を作成するグループ,アクションを指摘するグループが必要と考える。
- ・JABEEを実施している学校は、根拠資料が整っている。具体的な資料を充実させ、 認証評価に対応できるようにしたい。
- ・認証評価は、11項目の基準があり、エビデンスがあれば評価書は作成できる。 まずは、PDCAがまわっていなければならない。

審議の結果,各部署は5月中に年報を修正すること,並びに,次回の委員会には認証評価等に対する本校の体制についての原案を提出することが了承された。

2. 専攻科棟の利用について

副校長から資料2に基づき、専攻科棟の利用について案1から案3までの説明があった。 審議の結果、次のことが了承された。

- ・専攻科棟は、専攻科のための施設であるが、学内の取り決めとして情報工学科が優先的に使用する。
- ・共同利用部分の使用については、規程を作成し使用願により利用する。
- ・本委員会では案3が望ましいということで、学科に持ち帰り意見を求め、次回委員会で 決定する。

以上

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

資料 2-2-(1)-9

詫間電波工業高等専門学校専攻科委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 専攻 科委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、専攻科の運営に関して必要な事項を審議する。 (構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 専攻科長
 - 二 副専攻科長
 - 三 各専攻主任

各1名

四 各学科及び一般教科教員

各1名

五 教務主事

六 学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、副専攻科長がその職務を代行する。 (任命)
- 第5条 第3条第4号に規定する委員は、各学科及び一般教科からの推薦に基づき、校長が任命 する。

(任期)

第6条 第3条第4号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第7条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させることができる。 (報告)

第9条 委員長は、必要に応じ委員会の審議事項を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)

第10条 委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

平成18年度第1回専攻科委員会議事要録

開催日 平成18年5月12日(金)16:15~17:50

場 所 図書館会議室

出席者 國井、長岡、澤田、福間、鳥越、森本敏、福永、田嶋、金澤、高木 溝下、平尾

議題

1. 平成19年度専攻科入学者選抜試験(推薦)について

長岡委員から資料1に基づき、平成19年度専攻科入学者選抜試験(推薦) について説明があり、審議の結果、一部朱書きのとおり訂正の上、実施要領 案のとおり了承された。

2. 平成19年度専攻科入学者選抜試験(学力)について

長岡委員から資料1に基づき、平成19年度専攻科入学者選抜試験(学力)について次のとおり説明があり、審議の結果、一部朱書きのとおり訂正の上、 実施要領案のとおり了承された。また、疑問点等があれば5月22日までに 連絡して欲しいとのことであった。

- 今年は学力試験と社会人選抜を同日に行う。
- 検査会場が技術者国家試験と重なるため、図書館から専攻科棟に変更する
- 3. 情報公開について

國井委員長から資料1に基づき、情報公開について説明があり、審議の結果、次のことを事前に想定するのは無理があるので、拡大入試委員会に一任することで了承された。

- 各基礎学科別の合格者の内訳をほぼ同数にする
- 選択した試験科目が異なる場合、試験問題の難易度を事前に同一にする。
- 不合格者から入学者選抜成績の開示請求あった場合、本人の総得点と受験学科の合格最低点との差を開示する

以上のことをふまえ情報開示できるように合否を決める。

- 2. その他
 - 専攻科学生の年間行事予定について

澤田委員から資料4に基づき、専攻科1・2年スケジュールをホームパージに掲載している旨の説明があり、審議の結果、特に教員限定の項目について改善、提案等があれば國井委員長まで連絡することで了承された。

○ 専攻科棟の運用について

國井委員長から現在の専攻科棟の使用状況の経緯説明があり、、審議の結果、他との建物の利用状況も見て、次回の当委員会までに上履き・下履きも含め結論を出すこととなった。

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

教務委員会が設置され、教務に関することについて審議を行っている。内容によっては、事前に学科会議あるいは専攻科会議で検討され、そこで策定された案を教務委員会で審議し決定している。教務委員会での審議内容と結果は、企画運営委員会に報告され審議決定されている。以上のことから、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。

観点2-2-②: 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。 (観点に係る状況)

教育実践シンポジウムの開催が平成18年度第6回の教務委員会で審議決定され(資料2-2-2-1),前期末試験中の9月27日に実施された。数学については,一般教科で教えられる数学と専門科目で必要とする数学について意見が交わされた。英語と専門科目担当教員による専門教科の内容を英語の教材とする取り組みで,共同で製作されたロボット工学の教材の発表がなされた(資料2-2-2-2)。

1月には、次年度のシラバス作成にあたって、一般教科の数学と専門科目担当教員間で次年度の教育内容等について話し合いがなされている。

卒業研究担当教員の要請により、英語Vで英語での発表、質疑応答方法、論文要旨の作成演習が行われた(資料2-2-2-3)。卒業論文に記載される英文による概要(資料2-2-2-4)の作成の際に、学生の要望と専門教員の依頼により、英語教員による文章のチェックがなされている。平成16年度以降は、TOEICの受験対策が要望され、内容が変わっている(資料2-2-2-5)。

資料 2-2-2-1

第6回教務委員会議事要録

開催日 平成18年7月27日(木)11:45~13:20

場 所 図書館会議室

出席者 高木、松下、徳永、森孝、、福永、田嶋、今城、國井、溝下,

欠席者 三崎、森本敏

議題

1. 大学の単位認定について

高木委員長から19年度大学単位の導入に向けて各学科で検討していた だき、9月中に実施案を取りまとめたいとの説明があった。

2. 学科の教育目的について

高木委員長から各学科の教育目的を、一般教科の授業で修得させる教育 成果を考慮して、改善するよう依頼があった。教育専門部会の方で原案を 作成し、それをもとに部会員と相談して改善していただくよう依頼された。

3. 授業評価について

松下委員から別紙資料に基づき、各教員の手間を省き客観性をますために今年度から授業評価アンケートをリドックまたはウェブ方式で実施することについて説明がなされ、承認された。また、公表の仕方も今後検討することで了承された。

4. 教育実践シンポジウムについて

松下委員から別紙資料に基づき、9月27日に本校で実施する教育実践 シンポジウムについて説明があり、審議の結果、FDの一環として原案ど おり実施する方向で了承された。

5. 授業の相互参観について

松下委員から別紙資料に基づき、従来のマルチメディアを用いた公開授業に変えての校内公開授業及び学科内授業について説明があり、審議の結果、公開授業は学校全体で実施することで了承された。しかし、学科内公開授業は過去の経緯等をふまえ、多数参加できるよう今後、実施日を検討することとなった。

6. その他

特になし。

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

資料 2-2-2-2

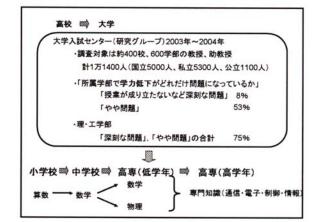
教育実践シンポジウム(1/3)

教育実践シンポジウム

第2部 テーマ

一般科目と専門科目の連携

- - ・連携について(グローバルな視野で)
 - 本校学生の実情
 - ・専門の立場から



小·中学校·高校 🔷 学習塾

- ・小学生の約1/3
- ・中学生の約1/2

- ・解くテクニック
- ・解けた自信

- ・理解は、できていない
- ・応用問題には、結び付かない ・お金が掛かる
- 単位が取れる

本校学生の意見

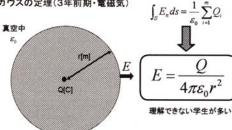
「学校の試験の点数は採れるが、実力が付いたとは思わない」

学校と整の間の連携

- (1)繰り返し、問題を解いている(反復学習)
- (2)学校の授業内容と塾で解く問題の時に整合性

1. 連携の取れていない例

ガウスの定理(3年前期・電磁気)



問題は、球の表面積が $4\pi r_{\text{を知らないこと}}^2$

学生の意見

- 知らない
- ・ 習っていない

実際は、

球の表面積
$$S = 4\pi r^2$$

$$V = \frac{4}{3}\pi r^3$$
 球の体譜

平成13年度から 中学校では、教えない

本校では、

基礎数学 I (1年)、基礎数学 II (1年・2年)、 微分積分学(2年・3年)、応用解析学(3年)

区間 $\{x, b\}$ で $f(x) \ge 0$ のとき。 曲線 $y = f(x)(a \le x \le b)$ をx 軸 のまわりに回転してできる回転面の面積 Sは $S = 2\pi \int_{a}^{b} f(x)\sqrt{1 + (f'(x))^{2}} dx = 2\pi \int_{a}^{b} y\sqrt{1 + (y')^{2}} dx$

[例題6]半径 $m{r}$ の球の表面積 $m{S}$ は次の公式で求められることを証明せよ。

$$S = 4\pi r^2$$

[解]半円 $y=\sqrt{r^2-x^2}$ を $oldsymbol{\mathcal{X}}$ 軸のまわりに回転してできる回転面の面積を求めればよい。

$$S = 2\pi \int_{-r}^{r} \sqrt{r^2 - x^2} \sqrt{1 + \frac{x^2}{r^2 - x^2}} dx = 2\pi r \int_{-r}^{-r} dx = \frac{4\pi r^2}{r^2 - x^2}$$

資料 2-2-2-2

教育実践シンポジウム(2/3)

数学と専門科目の連携

一 応用数学の観点から 一

情報通信工学科 澤田士朗

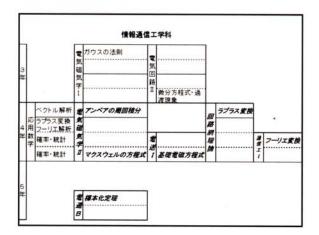
現状

- 1年から5年までの数学の内容
- 応用数学(4年、通信・電子・情報)の内容
- 応用数学と専門科目の整合性
- 専門科目との連携

課題

数学(一般) ⇔ 専門科目 応用数学

- ベクトル解析・・・・電磁気学 マクスウェルの方程式(微分形、積分形) 線積分、面積分、grad, div, rot ガウスの定理、ストークスの定理
- ラプラス変換・・・・電気回路、過渡現象、回路網 微分方程式を解く RC, RL直列の過渡現象
- フーリエ解析・・・・通信工学、信号解析 周期、非周期信号 時間 ⇔ 周波数
 x → t, u → ω, 2ℓ → T, (i → j)



				₹-	7]	C学科				
3年		42	雪灰斑灰学	ガウスの定理	電気回路Ⅱ	フーリエ級数	情報処理皿	平均、分散		
4年	応用数学	ベクトル解析 ラプラス変換 フーリエ解析 確率・統計 確率・統計	電灰磁気学	アンペアの周回積分 ファラデーの法則 マクスウェルの方程式	重波伝送学	基礎電磁方程式	回路網理論	ラブラス変換		情報量、エントロピー フーリエ変換 ラブラス変換
5年			制御工学	ラブラス変接	パルスエ学	フーリエ級数	画像工学	フーリエ級数 フーリエ変換	光エレクトロニクス	フーリエ変換

応用数学に関して(2)

- 出来ていないこと
 - 伝達関数、インパルス応答
 - 偏微分方程式の解法、歴史的な話し
 - 標本化定理
 - 離散フーリエ変換
 - _
 - (章末の)練習問題、(一部の)問
 - 幾つかの導出、証明
 - 学科(T, E, I)による内容の変更

応用数学に関して(1)

• 時期(4年)、順序

ベクトル解析→ラプラス変換→フーリエ解析→ 確率・統計(微分→積分の順と出来るので良い) (3年までの復習、編入生に良い)

- 現状(問題点)
 - 関数とグラフ
 - 合成関数の微分

 $\sin(\omega t + \varphi)$, $e^{j\omega t}$

- 置換積分
- 部分積分

資料 2-2-2-2

教育実践シンポジウム (3/3)

平成18年9月27日 詫間電波高専:教育シンポジウム

一般科目と専門科目の連携: 専門科目を題材にした英語 ビデオ教材の開発

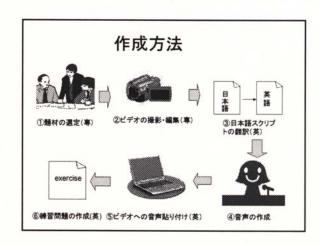
詫間電波高専森和憲 南貴之 東田洋二 野口隆 森和憲 南貴之 東田洋二 野口隆 小野安季良 長岡史郎 村上純一河田純

国専協(2003)の提言

- 4. 専門学科・社会との連携に向けて
- 中・上級学年では専門分野の英語を扱うことが多くなる。教材・内容の専門性に関して英語教員と専門学科教員が共通の理解を持ち、連携することにより、学生の学習意欲を高めて、効率の良い授業が提供できる(提言4-1)
- 工業英語教育の推進上、専門学科教員および英語教員がそれぞれ双方の分野に立ち入った知識・経験を増やしていくことが有効である。すなわち専門学科教員は、英語能力の向上と国際経験の増加に、英語教員は国際経験の上に専門学科の一般的知識に関心を持った自己啓発が授業の中で相乗効果を生み出していく。(提言4-6)

詫間電波高専 の回答

- ①専門科目の実験などをビデオ撮影し、
- ②その音声を全て英語に吹き替えして、
- ③専門科目の授業または英語授業で視聴させてはどうか。



Contents (予定)

- 情報通信工学
 - 1. オームの法則について
 - 2. アンテナについて
 - 3. いろいろな電池を作ってみよう。
 - 4. -196℃の世界を見てみよう
 - 5. 共振って何?
- 電子制御工学
 - 1. 歩行ロボットの制御
 - 2. マイクロコンピュータの仕組み
 - 3. マイクロコンピュータ組み込みシステムの応用
 - 4. マイクロマウスを用いたメカトロニクス実験
 - 5. FPGAによるディジタル回路の設計

Contents (予定)

- 電子工学
 - 1. 電子ビームリソグラフィープロセス
 - 2. 蒸着による製膜
- 3. スパッタリングによる製膜
- 4. ウェットエッチング
- 5. ドライエッチング
- 数学
 - 1. y= sin x
 - 2. 数学的帰納法
- 3. 順列
- 4. 組合せ
- 5. 二項定理

(出典 平成 18 年度教育実践シンポジウム配布資料)

資料2-2-2-3

科		の区	分	一般科目	授業科目	英語 V							
	目 =	1 —	k	GH153559	欧 文	English V							
8	当 教	官	名	平岡禎一									
¥ ¥	14名	・学	年	5年		選択・必修	選択		単位数	1		期間	通年
				大学、ある	いは企業に	おいて必要と	される実	践的な	英語力	」を習	得するだ	ための演習	を行う。
既			略										
				科学技術や	環境問題な	どに関する一	般的な芽	を文を記	売み,	内容を	正しく	把握する	とともに、
-	般	目	標	の内容を口	頭で発表で	きる力を養う	0						
				(1)過去に出	出題された	大学編入学試	めの問題:	を解く	ことが	できる	5		
置	別	目	標	(2)科学技術	析や環境問	題などを扱う3	英字新聞·	や大衆	雑誌の	記事を	を読むこ	とができ	る
				(3)科学技術	ドや環境問	題などについて	て,資料	をもと	に、ロ	頭発表	長ができ	る	
				(4)英語論又	文の要旨の	形式に慣れる							
				(5)卒業研究	アの英文要	旨を書くこと	できる						
受	講	要	件	就職後, 英	語を使う仕	:事に携わるこ	とを希望	する者	f, \$1	とは大	学への	編入学を目	目指す者。
- /	Mr L	σ ÷		なるでする	四巻かのフ	で、授業への出	(時) 4	コマブリ	宝羽 (舞 題 /	も行 -	7/3-	レた前坦レ
1	上	O) Z			技术なのし	. 技業への位	1/市は, 1	七八	川 白 (承思/	& 11 2	(190	こを別なこ
_			_	る。									
- 1	5.~			例や環境同	組なとにこ	いての英文読	件 便 省 ((3)					
263	9.~1 12.~	語で 1. プ 13. 諸	レセ	シテーショ	ン演習(1) 寅習と作成	演習(1)~(2)	どの方法	ま につい	ヽてのタ	解説			
<u></u>	8. 英 9.~1 12.~	語で 1. プ 13. 諸	レセ	シテーショ 要旨の読解で	ン演習(1) 寅習と作成	~(3) 演習(1)~(2)	:どの方袖	ま につい	いてのが	解説			
内容	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で 1. プ 13. 記 15. ²	や文	ジンテーショ 要旨の読解が 研究の要旨が	ン演習(1) 寅習と作成 作成(1)~(2	~(3) 演習(1)~(2)					満点と	して評価	する。
内容	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で 1. プ 13. 記 15. ²	や文	ジンテーショ 要旨の読解が 研究の要旨が	ン演習(1) 演習と作成 作成(1)~(2	~(3) 演習(1)~(2))	点麟点 0	定期			満点と	して評価	する。
内容成	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で 1. プ 13. 計 15. ²	レセ文楽	ジンテーショ 要旨の読解が 研究の要旨作 演習 (課題 年4回の定	ン演習(1) 演習と作成 作成(1)~(2	~(3) 演習(1)~(2))))) 組みにより 2	点麟点 0	定期			満点と	して評価・	する。
内容成	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で 1. プ 13. 計 15. ²	レセ文楽	ジンテーショ 要旨の読解が 研究の要旨作 選習 (課題) 年4回の定	ン演習(1) _{寅習と作成} 作成(1)~(2 「) への取り 期試験を引	~(3) 演習(1)~(2))))) 組みにより 2	0 点満点	定期	試験を	点 08:			
内容成関	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で 1. プ 13. 記 15. ²	レヤ文業 価 目	ジンテーショ 要旨の読解が 研究の要旨作 (で)国際的	ン演習(1) _寅 習と作成 作成(1)~(2 (1) への取り 期試験を引 かに通用す	~(3) 演習(1)~(2))))) 組みにより 2 ^z 均し、最終が	0 点満点績とする-ション	定期	試験を力:科	80点	析や工学	生, あるい	は環境問題
内容成関	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で1.プ13.計15.2	レヤ文業 価 目	アンテーショ 要旨の読解が研究の要旨が 研究の要旨が 第4回の定 (C)国際的 どについて	ン演習(1)	~(3) 演習(1)~(2))))) 組みにより 2 ² 均し、最終が るコミュニケー	0点満点續とする一ションEしく読。	定期	試験を力:科だけで	学技術はない	析や工学 く, その	≠, あるい)内容を適	は環境問題 切に口頭で
内容成関	8. 英 9.~1 12.~ 14.~	語で1.プ13.計15.2	レヤ文業 価 目	アンテーショ 要旨の読解が研究の要旨が 研究の要旨が 第4回の定 (C)国際的 どについて	ン演習(1) 演習と作成 作成(1)~(2 i) への取り がは 対に がは 動に がは きさます。 まする。 まずる。 までる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 まずる。 までる。 までる。 までる。 までる。 までる。 までる。 までる。 までる。 までる。 もでる。 もで。 もで。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もでる。 もで。 もで。 もで。 もで。 もで。 もで。 もで。 もで	~(3) 演習(1)~(2)))) 組みにより 2 ² 均し、最終が るコミュニケ・ 英文の内容をi	0点満点續とする一ションEしく読。	定期	試験を力:科だけで	学技術はない	析や工学 く, その	≠, あるい)内容を適	は環境問題 切に口頭で
内容成関学	8. 英9.~1 12.~ 14.~	語で1.プ13.計15.2	レヤ文業 価 目	アテーション 要には 要に で で で で で で で で で で で で で の 要 に で の で の で の で の で の で の で の で の で の で	ン演習(1) 演習と作成 (1)~(2 (2) (2) (3) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	~(3) 演習(1)~(2)))) 組みにより 2 ² 均し、最終が るコミュニケ・ 英文の内容をi	0点満点續とする一ションEしく読。	定期	試験を力:科だけで	学技術はない	析や工学 く, その	≠, あるい)内容を適	は環境問題 切に口頭で
内 容 成 関 学と	8. 英9.~1 12.~ 14.~ 積連 変の対応	語で1.プ13.計15.2	かく 文業 価 目 標	アテーション 要研究の要旨を 資年4回国際ののと でではず併れ を付きます。 は、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	ン演習(1) 演習と作成 (1)~(2 (2) (2) (3) (4) (5) (5) (6) (7) (7) (7) (8) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9) (9	~(3) 演習(1)~(2))))) 組みにより 2 之均し、最終が るコミュニケー 英文の内頭で伝え	0点満点續とする一ションEしく読。	定期	試験を力:科だけで	学技術はない	析や工学 く, その	≠, あるい)内容を適	は環境問題 切に口頭で

- 67 -

(出典 平成 15 年度シラバス)

資料 2-2-2-4

平成 15 年度電子工学科卒業研究論文要旨

No.12

電源電流テスト法による狭ピッチ CMOS IC のピン浮きの検出

Detection of pin open of CMOS ICs with narrow pin pitch using a supply current test method



指導教官 高木 正夫

Abstract: In this study, we have proposed a supply current test method for detecting pin opens of CMOS ICs. It is our test method that observes supply current of CMOS IC to be tested, which flows when AC electric field of sine waveform is applied from the outside of the IC. If a pin open occurs at an input pin, the voltage of the faulty pin temporally changes according to its electric field. The change in voltage generates supply current, which is larger than one of the unfaulty ICs. The pin open can be detected by measuring the elevated supply current in our method. We examined how large voltage should be supplied to the electrode in order to detect pin opens in CPLD LSIs of PLCC, PQFP, and TQFP packages. As a result, it is found that the amplitude VE of AC electric field that detects pin open depends on the difference in the voltage level of the both of the neighboring pins in only TQFP 100 pins package. This phenomenon can be a result of the stray capacitance between the faulty pin and the both of the neighboring pins.

1. まえがき

CMOS IC 回路に発生するピン浮きのテスト法として外部から交流電界を印加する電源電流テスト法を提案した。この検査法では、IC 外部から交流電界を印加して電源電流の波形の変化を観測する。正常回路では電源電流の変化は現れないので、電源電流波形を観測することでピン浮き検出が可能となる。この方法を用いて既に PLCC、PQFP、TQFP パッケージの CPLD でピン浮き検出ができることを報告した。しかし、パッケージの小型化に伴ってピンのピッチが狭くなったときの影響を調べていない。容量は距離に反比例して大きくなるので、ピンのピッチが狭くなると故障ピンと両隣のピンとの間の浮遊容量は大きくなる。実験をした結果、薄型の TQFP ではピンのピッチが狭くなると、両隣のピンの電位の違いによってピン浮きを検出する交流電界の振幅が変化することが確認された。その場合でも、ピン浮きは検出できることを確認した。

2. ピン浮き検出の原理

図1に示す装置を用いてピン浮き検出を行う。IC 外部

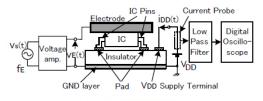


図1 ピン浮き検出装置

から交流電圧 $v_E(t)$ を電極に印加して電極間に交流電界を発生させる。その電界によって故障ピンに交流電圧を誘導させる。図2にピン浮き(ピンa)を持つ等価回路を示す。これは外部から電圧 $v_E(t)$ を印加するとき、ピンaとその電極間に浮遊容量が存在すると考えたモデルである。電圧 $v_E(t)$ によってピンaの電位に変化を与えると、その電位が関値に近づくにつれてPath#1 の経路を通って貫通電流が流れ始める。回路に流れる貫通電流をipp(t)、正常時に回路に流れる静的電流を I_{DDQN} 、故障発生時にのみ流れる電流の変化分を Δ $i_{DD}(t)$ とすると、故障判定は(1)式で行う。 I_{tt} は故障判定関値である。また $I_{DD}(t)$ 、 Δ $i_{DD}(t)$ 、 I_{DDQN} の関係は(2)式で表すことができる。

$$\Delta i_{DD}(t) > I_{th}$$
 (1)

$$\Delta i_{DD}(t)=i_{DD}(t)-I_{DDQN} \qquad (2)$$

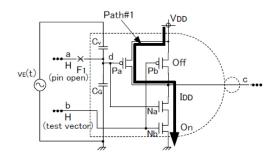


図2 ピン浮き発生の NAND IC の等価回路

(出典 平成 15 年度電子工学科卒業研究発表予稿集)

資料2-2-2-5

5 年全学科 一般 TOEIC 試験は「リ 験に向けての学修?	学期 授業形式	通年 講義	履修条件	選択	単位数	1
TOEIC 試験は「リ 験に向けての学修		議美				
験に向けての学修	V. W.	PPT 寻发	科目番号	GH164559		
	スニンク」	と「リーディ	ング」とい	う 2 つの部門に	分かれている	. TOEIC
	を通して、英	語の4技能	こ関する基本	的な能力を養成	し、英語運用	能力のたる
の学力をつける。						
2 種類のテキス						
10 (0)						t、問題演習
を行い、その後解詞	说を行う。ま	た、前期10	回、後期 10	回の宿題を課す	0	
	T - / - +	,				
			(=))\(#\			
The second secon						の文法事項
			(1) を確認し	ン、定看させる。		- 0 .)
					B (1) 1)	B 2 1)
4.Unit 3 及び Unit 4			riew			
SIII I O HONE OF A			(*) *** -t-	. mt An + 17 10 -	War de ar	
- ^ 한국에는 여명 ^ H - 프린티 경험을 15.0 (1985)						
			り、既省	目の又法事項を何		_
	其问超④(K)	(1)			B (I) 1)	B (2) 1)
	+ (D)					
The state of the s						
		All Property				
	and the state of t					
		-				
			1 - 1 - 1 -			
22.Unit 11 Review Te						
23.Unit 12 読解問題	③ (R)	(1)				
24.		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •				
25.Unit 13 読解問題	(4) (R)	1)	1			
26.Unit 12 説明文問	題①(L)	(1)				
27.Unit 14 読解問題	⑤ (R)	(1)				
28.Unit 13 説明文問	題②(L)	(1)				
29.Unit 15 Review Te	est (R)	(1)				
30.Unit 14 説明文問	題③(L)	(1)				
31.Unit 15 説明文問	題④及び Rev	view Test (L)	(1)			
年2回の定期試験を	と80%、年	20回の宿題	を20%の比	本で総合評価で	トる。	
46.				18		
	hi -l- 1 · 1 ·					
	敢底対策 TOE	IC TEST U	スニング』	音羽書房鶴見書		
	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	学習項目 (時間数)

(出典 平成 16 年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

教育実践シンポジウムが開催され、数学教育についての討論、専門教科の内容を英語で教育する教 材開発の成果の発表等がなされている。1月には、次年度のシラバス作成にあたって、一般教科の数 学の教員と専門学科の教員で次年度の教育内容等について話し合いがなされている。専門科目担当教 員からの要請を受けて、平成15年度までは英語の教員によって英語での発表、質疑応答、論文の書き 方の教育が、平成16年度からはTOEICの試験対策の教育が行われている。

以上のことから、一般科目及び専門科目を担当する教員の連携が行われているといえる。

観点2-2-3: 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

学習や教育課程に関することは教務委員会が、生活指導、授業料免除、課外活動に関することについては厚生補導委員会が、就職・進学については進路指導委員会が諸問題を審議し、教務主事・主事補、学生主事・主事補、進路指導室長・副室長が学級担任や専攻主任の支援を行っている。学生の精神面での問題等については学生相談室員が支援を行っている(資料2-2-3-1, 2)。

学級運営や学習・生活指導,教育課程の展開,特別活動を企画・実施するための指針として学級担任のしおりが配布されている(資料2-2-3-3)。

学生への連絡事項,生活指導上の注意,行事予定などの伝達のために,毎週,学級担任連絡事項 (資料2-2-3-4)が学生主事から全教員にメール配送されている。

ロボコン,プロコン,地域イベントへの出展などの指導については,指導教員を技術教育支援室の技術職員が協力して支援に当たっている(資料2-2-3-5)。

学生相談室は、学生への対応の仕方等について外部カウンセラーによる講演会を催している(資料 2-2-3-5)。また、保護者から学生の精神的な問題について相談され対応が難しい場合はカウンセラーを紹介するように、学生相談室長から学級担任に指示されている(資料 2-2-3-6)。LD·ADHD·高機能自閉症等の精神障害や身障者に対する接し方の講習会には、毎年複数名の教職員が参加している(資料 2-2-3-7)。

進路指導室長が代表して企業あるいは大学関係者と応対し、求人情報、就職試験や進学の願書受付期間、合否などの情報を本校のウェブに掲載して迅速に学生や進路指導を行う5年の担任と専攻科主任に伝えている(資料2-2-3-8)。

ロボコン、プロコン、地域イベントへの出展などの指導については指導教員を技術教育支援室の技 術職員が協力して支援している。以上のことから、支援体制が整備され、活動しているといえる。

資料 2-2-3-1

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程(1/2)

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第11条の規定 に基づき、事務組織を除く内部組織について必要な事項を定めるものとする。 (副校長)

- 第2条 副校長を置く。
- 2 副校長は、教授の中から校長が任命する。
- 3 副校長は、校長の命を受け、校長を補佐する。 (校長補佐)
- 第3条 校長補佐を置く。
- 2 校長補佐は、教授又は准教授の中から校長が任命する。
- 3 校長補佐は、校長の命を受け、学校運営に係る特命事項について校長を補佐する。 (専攻科長及び副専攻科長)
- 第4条 学則第38条に定める専攻科に専攻科長及び副専攻科長を置く。
- 2 専攻科長は、教授の中から校長が任命する。
- 3 副専攻科長は、教授又は准教授の中から校長が任命する。
- 4 専攻科長は、専攻科の教育・研究及び運営に関し、連絡調整に当たる。
- 5 副攻科長は、専攻科長を補佐する。 (学科等)
- 第5条 学則第7条に定める学科のほか、一般教科を置く。
- 2 学則第8条に定める教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「教員」という。)は、学則第7条に定める学科及び一般教科(以下「学科等」という。)のいずれかに属するものとする。

(学科長等)

- 第6条 学科に学科長を置き、一般教科に一般教科長(以下「学科長等」という。)を置く。
- 2 学科長等は、当該学科等に所属する教授の中から校長が任命する。
- 3 学科長等は、当該学科等の教育・研究及び運営に関し、連絡調整に当たる。 (副主事)
- 第7条 学則第9条に定める教務主事,学生主事及び寮務主事の下に,それぞれ教務副主事,学 生副主事及び寮務副主事(以下「副主事」という。)を置くことができる。
- 2 副主事は、教員の中から校長が任命する。
- 3 副主事は、必要に応じて当該主事の職務を行う。

(主事補)

- 第8条 学則第9条に定める教務主事,学生主事及び寮務主事の下に,それぞれ教務主事補,学生主事補及び寮務主事補(以下「主事補」という。)を置く。
- 2 主事補は、教員の中から校長が任命する。
- 3 主事補は、当該主事の職務を補佐する。 (専攻主任)
- 第9条 学則第40条に定める専攻に専攻主任を置く。
- 2 専攻主任は、教員の中から校長が任命する。
- 3 専攻主任は、当該専攻の運営及び学生の指導に当たる。 (学級担任及び学級副担任)
- 第10条 学則第7条に定める各学級に学級担任及び学級副担任を置く。
- 2 学級担任及び学級副担任は、教員の中から校長が任命する。
- 3 学級担任は、当該学級の運営及び学生の指導に当たる。
- 4 学級副担任は、当該学級担任を補佐する。

資料 2-2-3-1

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程(2/2)

(進路指導室)

- 第11条 学生の進路指導を行うため、進路指導室を置く。
- 2 進路指導室に関し必要な事項は、別に定める。

(学生相談室)

- 第12条 学生の相談にあたるため、学生相談室を置く。
- 2 学生相談室に関し必要な事項は、別に定める。

(環境マネジメント室)

- 第13条 環境に配慮した取り組みを行うため、環境マネジメント室を置く。
- 2 環境マネジメント室に関し必要な事項は、別に定める。

(任期)

第14条 第4条,第6条,第8条及び第9条に定める者の任期は1年,第7条に定める者の任期は2年とし、それぞれ再任を妨げない。

ただし, 欠員が生じた場合の任期は, 前任者の残任期間とする。

(共同利用施設)

- 第15条 図書館,情報処理センター,集積回路実験室及び地域交流室(以下「共同利用施設」 いう。)を置く。
- 2 共同利用施設に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会等)

- 第16条 次の委員会等を置く。
 - 一 教員会議
 - 二 企画運営委員会
 - 三 各種委員会
 - 四 学科長会議
- 2 委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

資料2-2-3-2

平成19年度校務分担表(抜粋)

主事,副主事,主事補

教	務	į	主	事	高	木	Œ	夫
教	務	副	主	事	松	下	浩	明
教	務	主	事	補	=	崹	幸	典
					徳	永	修	_
学	4	:	主	事	鰆	目	Œ	志
学	生	副	主	事	有	馬	弘	智
学	生	È	事	補	森		和	憲
					月	本		功
寮	矜	į	主	事	河	田		進
寮	務	主	事	補	畑		伸	興
					Ξ	河	通	男
					與	Ш	真	吾

副校長, 校長補佐

副	ŧ	交	長	高	木	īE.	夫
校	長	補	佐	鹼	目	TE.	志
校	長	補		河	田		進

学科長, 専攻科長, 専攻主任

-	般	幸	ķ	科	ļ.	長	森		孝	宏
情	報通	信	I	学	科	長	森	本	敏	文
電	子	I.	学	Ŧ	4	長	福	永	哲	也
電	子 制	御	I.	学	科	長	田	嶋	眞	-
情	報	I.	学	7	4	長	今	城		夫
専	ñ	Ĺ	釆	+		長	國	井	洋	臣
副	専	13	(科	1	長	長	岡	史	郎
電子	- 通信シ	ステ	ムエ	学専	攻	主任	澤	田	±:	朗
情報	限制御シ	ステ	ムエ	学専	攻	主任	福	間	-	E

学級担任及び副担任

			1	組			2	組			3	組			4	組	
1年	正	長	谷台	部一	気	鳥	越	秀	知	谷	П	浩	朗	東	田	洋	次
	副	細	谷		守	南		貴	之	笠	井	健	吉	塩	田	政	義
	,	情	報通	言工学	料		電子	L学科		電	子制	卸工学	科	- 5	情報	工学科	į.
2年	Œ	畑		伸	興	内	田E	由理	子	富	士ル	原 伸	弘	有	馬	弘	智
	副	橋	本	竜	太	須	那		聰	井	Ŀ.		斌	森		和	憲
3年	īE.	Ξ	闸	通	男	天	造	秀	樹	山	本章	幸 一	郎	金	澤	啓	Ξ
	副	草	間	裕	介	増	田		隆	奥	山	真	吾	川	染	勇	人
4年	Œ.	青	海	惠	之	月	本		功		色	弘	Ξ	松	下	浩	明
	副	辻		琢	人	長	岡	史	郎	徳	永	修	_	野	中	清	孝
5年	Œ	森	本	敏	文	福	永	哲	也	村	Ŀ	純	_	河	田		純
	副	井	Ŀ	忠	照	矢	木	Œ	和	田	嶋	眞	-	宮	武	明	義

進	路	指	導	室	室			長	室	長	補	佐									室			員							
					辻		憲	秀	小	野多	: 季	良	森	本	敏	文	福	永	哲	也	村	上	純		μJ	田		純		_	
学	生	相	談	室	室	VILLE SECO	WHEELS:	長			delle let	Water 1	S1838	85985	25555			1	相	10	Æ	員	l		Marie S		Western		20556	nautures	
					_	色	弘	Ξ	細	谷		守	内	H	白 珰	子	青	海	惠	之	木	下	敏	治		色	弘	三里	j r	户 清	孝
									古	Ш	信	子	島	原	-	恵	Ξ	崎	保	子	(補	助相	目談	員)		-	- 1	T		-	

(出典 本校グループウェア総務課人事係)

資料 2-2-3-3 平成19年度 学級担任のしおり(抜粋) 目 次 1. 学級担任の主な業務(項目別) 1 1.1 学級担任の心得・心構え 1.2 学生指導の要点 1.3 ホームルーム 1.4 学習支援 2. 学級担任の主な業務(全学年共通) 3 2.1 年度の授業開始前の業務 2.2 学年始め (後期始め) の業務 2.3 日常の業務 2.4 各種行事 2.5 次期担任との引継ぎ業務等 3. 学級担任の主な業務(学年別) 8 3.1 第1学年 3.2 第2学年 3.3 第3学年 3.4 第4学年 3.5 第5学年 付録 I. 週番の任務 12 Ⅱ. 中間試験・定期試験受験上の注意事項 13 Ⅲ. 中間試験・定期試験監督の実施要 14 1. 学級担任の主な業務(項目別)

1.1 学級担任の心得・心構え

(1) 勉学の動機づけ

学生の本分は勉学であり、本校学生としてのプライドを持たせ、また社会情勢等の情報を提 供し、学生が夢や希望を持ち勉学に励むよう動機づける努力をする。

(2) 人間形成

目線を学生に合わせ、信頼関係を構築し、一人ひとりを大切に育てるよう努め、良識を持っ た若者としての人間形成の助けとなる。

(3) カウンセリング

人格は千差万別であるから日常的に学生と時間を共有し、一人ひとりの思考や悩みをしっか り聞き、学生の心を開かせるように心がける。

(4) 保護者とのコミュニケーション

(出典 学級担任のしおり)

資料 2 - 2 - ③ - 4 平成 1 8 年 1 2 月 2 2 日

学級担任

教 員 各位

学生主事

学級担任連絡事項

別紙の学生連絡事項の周知並びにご指導をお願いいたします。

1. 月例清掃について

本日7限終了後のホームルームの時間を利用して全クラス月例大掃除を行うようご指導よろ しくお願いいたします。

教室の清掃を行う学生は、冬期休業期間中に業者による教室の清掃を実施しますので、机の上に椅子にのせて、教室後方に移動させてください。また、教室内の私物は、必ず持ち帰るようご指導ください。

2. 冬期休業中の生活について

冬期休業中は、生活のリズムが不規則になりがちです。しっかりした生活をするようご指導ください。また、他の迷惑になる行為や校則に違反する行為などは、絶対にしないよう(始業式で、茶髪の学生がいないよう)ご指導よろしくお願いいたします。

3. 冬期休業中の車の持ち込みについて

冬期休業中であっても、車もしくは許可されていないバイクで学校に来た場合は、持ち込みの 違反になります。違反をした学生は、2ヶ月の免許預かりになります。絶対に持ち込まないよう ご指導ください。

4. 始業式について

来年の始業式は、1月9日(火)9:10から第2体育館で行います。5分前には集合して整列をするようご指導よろしくお願いいたします。

1限目の授業開始は9:50となるため、午前中の授業は40分の短縮授業とし、午後の授業は平常どおりとします。ご連絡お願いいたします。

5. 四国地区共通試験について

1月11日(木) 9:10から14:10の間,3年生を対象とした四国地区共通試験を行います。それに伴い授業時間の変更がありますので、連絡をお願いします。関係される教員にはご迷惑をお掛けいたしますが、ご協力よろしくお願いいたします。また3年生以外の学生は、教室移動などで試験の妨げにならないようご指導お願いいたします。

6. AEDの設置場所の移動について

本校には、現在2基のAEDが設置されています。場所は、図書館玄関を入って右側の壁面と 寄宿舎管理棟2階寮事務室前に変更し、専用のAEDボックスを設置しましたのでご周知よろし くお願いいたします。

緊急事態発生時のみ使用してください。 (周囲への緊急事態発生連絡および盗難防止のため,アラーム・警報灯が点滅しますので,注意してください。)

(出典 平成 18 年 12 月 22 日の学級担任連絡事項)

資料2-2-3-5



TAKUMA DENPA MONTHLY 128



93号 掲載記事

諸 報 行事日誌(9月) 行事予定表 (10·11月)

諸 報

仁尾八朔人形祭り2006

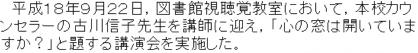


本校は、平成18年9月22日(金)~9月24日(日)において 三豊市仁尾町で開催された仁尾八朔人形祭り2006の出展に 協力した。

八朔人形祭りは、店舗や座敷に舞台を設け、石、砂、草木な どで箱庭風の山川渓谷を作り、人形を置いて歴史上の物語や お伽話の名場面を再現するもので、本校では毎年、地域交流 の一環として、展示物の制御機構などの製作に協力している。

今年度は「はなさかじいさん」の製作の技術協力を行った。今 回の製作は、垂水技術職員、村上技術職員、三崎教員の3名 の教職員と、電子工学科5年の学生1名の協力の下で行われ た。具体的には「はなさかじいさん」のストーリー中、犬(シロ)と の出会いのシーン、犬(シロ)が「ここほれわんわん」と鳴くシー z,枯れ木に花を咲かすシーンなどの制御をマイコンを使用し て行うもので、その完成度の高さに多くの見物者の関心を集め ていた。

平成18年度カウンセラー講演会を実施





本講演会は, 学生相談室委員のみならず, 教職員の学生相 談に対する幅広い知識を習得することを目的として開催された もので,計69名もの教職員が参加した。

講演は、「思春期危機」、「カウンセリングとは」等の内容のほ か、途中出題された演習問題では教職員各自が真剣に取り組 み,最後に班別発表までを行うなどの充実した内容で、盛況の 内に終了した。

学生へのメンタルサポート等の重要性が叫ばれている今. 本 講演会は教職員にとって大変有意義なものとなった。

(出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/kouhou/93/kouhou93.htm)

資料2-2-3-6



コンサルテーションのお知らせ

学生相談室から

本校は学生のカウンセリング担当に2名の臨床心理士の先生に来ていただい ております。

ところで、最近、問題行動を示す学生が目につくように感じております。そこでそのような行動を示す彼らには、学校全体で対応しておりますが、それでも問題が解決されない場合、カウンセラーの先生とお話をしませんかと話しかけているのですが、必ずしも行ってくれません。

そこでこれは学校だけの問題ではなく、ご家庭でもお子様との対応に苦慮しておられる保護者の方もおられるのではと考え、カウンセラーの先生に相談しましたところ、お子様との対応で苦慮されている保護者の方々の相談にもぜひ応じたいとの快諾を得ました。

このような面談を「コンサルテーション」と言います。

そこで、保護者の方々でお子様との間で例えば【以下のような問題※】等の ある方は遠慮なく本校の学生相談室にご相談下さい。相談室よりカウンセラー の先生にお取り次ぎします。

そこでの内容をご家庭でのお子様との対応の参考にしていただければと考えています。

なお、保護者の方々のご氏名、相談内容等に関しましては 厳秘事項として 処理されますので、保護者の方々より要請がない限り、一切カウンセラーの方 以外には知らされません。

- ※ 1. お子様との対応でストレスを感じている。
 - 2. お子様にうまく対応できない。すぐに怒る等。
 - 3. 言い過ぎている気がしているが、程度がわからない。
 - 4. 不安な行動をとるが、ほとんど接触できない。
 - 5. 子どもが怖い、言っても聞かない。
 - 6. その他

□ 相談曜日 :月曜日 午後2時~午後5時30分(休業期間を除く)

□ お問合せ : 詫間電波工業高等専門学校 学生相談室

室長 細谷 守

Tel 0875-83-8523

E-mail hosotani@dg.takuma-ct.ac.jp



(出典 保護者懇談会配布資料)

資料 2-2-3-7

障害者の学生がいるクラス担任の支援 (1/2)

第9回 患者のための講習会

- 平成16年7月28日(水)10時~15時 1. 日 時
- 2. 場 所
- 3. テーマ

児・者の食事を考える」

①「炸 医療 ここがポイント」

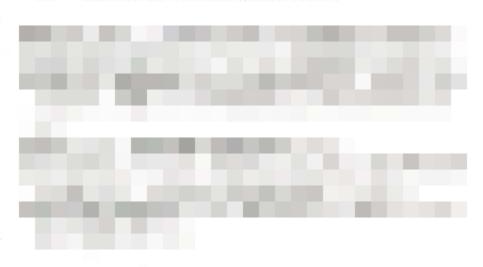
徳島病院小児科 多田羅勝義先生

- ・ 医療の進展状況及び現状について
- ②「食事で育むこどもの未来」 徳島病院栄養管理室 藤原育代先生
 - ・現在の子供の食に関する問題点について
- ③「■ 医療の今昔、未来」

先生

・ 医療を取り巻く社会状況の変化について

4. その他



資料 2-2-3-7

障害者の学生がいるクラス担任の支援(2/2)

校	長	事務部長	庶務課長	庶務係長	庶 務 係
Ć.	D	9	能圖		P

主 事(主事補) 学 科 主 任 所属(担当)課長 所属(担当)係長

復

命

書

平成16年 7月30日

詫間電波工業高等専門学校長 殿

)

 所 属 官職名
 氏名

 一般教科
 教授

 情報通信工学科
 講師

 三河通男

 学生
 専門職員

 今川文昭

 学生
 課教務保主任

 学生
 課教務保主任

 学生
 課教務保主任

 三崎保子

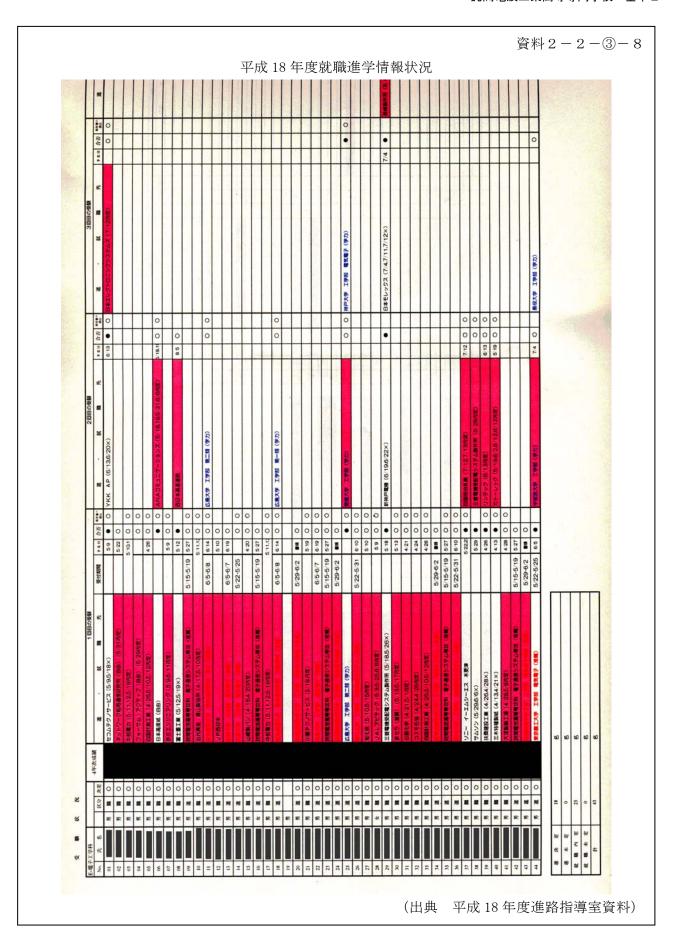
さきの出張命令による旅行を完了しましたので、下記のとおり復命します。

記

出

旅	行	期	間	平成16年 7月28日 ~ 平成16年 7月28日
用	ŧ		先	
用	務(の概	要	第9回在宅 患者のための講習会参加のため
概			要	

(出典 出張報告書)



(分析結果とその根拠理由)

学級担任のしおりが年度初めに配布され、学級担任連絡事項が毎週メールで配信され、学級担任の 必要な業務が伝達されて学級担任の教育活動を支援している。また、学生相談室や進路指導室が設置 され、学級担任に適切な支援がなされている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

進路指導のために,進路指導室長,副室長と5年生の学級担任で進路指導室が構成され,5年の学級担任の進路指導を支援している。進路指導室長が代表して企業あるいは大学関係者と応対し,情報を本校のウェブに掲載して迅速に学生や教員に伝えている。対外的な窓口の一本化により,来校者の手間が省け,的確な情報が公平に学生に伝えられ,学生と担任は迅速に対応できるようになっている。

(改善を要する点)

一般教科と専門科目の科目間連携については、教育についての総論的な意見交換はなされているが、 各論的な意見交換は十分にできていないので改善を要する。

(3) 基準2の自己評価の概要

本校の使命「創造性ある実践的な電子情報系の技術者の育成」の達成のために準学士課程は情報通信工学科,電子工学科,電子制御工学科,情報工学科の4学科で,専攻科は電子通信システム工学専攻と情報制御システム工学専攻の2専攻で構成されている。電子情報系技術者を育成するために定めた本校の教育目的と各学科及び各専攻が定めた教育目的は整合がとれている。各学科及び各専攻はいずれも電子情報系の学科であり、学校の使命や教育目的を達成する上で適切な構成となっている。

実践的な電子情報系の技術者を育成するために、情報処理センター、集積回路実験室が設置されて おり、全学的に利用され、教育目的達成のために機能している。

教育活動を展開するために、企画運営委員会、教務委員会、専攻科委員会が設けられている。教務委員会では、教育課程の編成及び改廃、授業時間の編成、学生の履修、学業成績の評価、教務に係る学校行事、教育・研究など教務に関することについて審議を行っている。内容によっては、事前に学科会議あるいは専攻科委員会で検討され、そこで策定された案を教務委員会で審議し決定している。教務委員会での審議内容と結果は、企画運営委員会に報告され審議決定されている。以上のことから、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っている。

進路指導の世話をする進路指導室、精神面の世話をする学生相談室、ロボコン、プロコン、地域イベントへの出展などの指導の補助をする技術支援室が設けられており、担任やクラブ顧問の教育活動の支援を行っている。以上のことから、支援体制が整備され、機能していると言える。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①: 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校は「健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。」、「自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。」、「広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。」の3つを教育目的に掲げている。この教育目的を達成するための基礎となる健全な心身、コミュニケーション能力、自然科学の基礎学力、技術者倫理、教養を養成する教育課程を遂行するために、一般科目担当の18名の専任教員と18名の非常勤講師が配置されている(資料3-1-①-1)(「学習・教育目標」と担当科目の対応については、観点5-1-①で説明)。また、各教員の専門分野と担当授業科目との整合性がとれた配置となっている(資料3-1-①-2)。

資料3-1-①-1

一般科目担当教員

Staff

教育職員 Academic Staff

●一般教科 Genaral Education

職 名 Post	学 位 Degree	氏 名 Name	専攻科担当科目 Major subjects at this course	担当科目	Subjects in Charge
教 授 Professor		塩田 政義 SHIOTA, Masayoshi		保健·体育	Health and Physical Education
	文学修士 M. Lit	森 孝宏 MORI, Takahiro	文学特論 Literature	国語、日本語 国語A	Japanese Japanese A
	理学修士 M. Sc.	笠井 健吉 KASA, Takeyoshi		化学	Chemistry
	博士(工学) D. Eng. 文学修士 M. Lit	鳥越 秀知 TORIGOE, Hidetomo	コミュニケーション英語 II Communicative English II	英語 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	English II • III • IV
	修士(学術) M. Ph.	細谷 守 HOSOTANI, Mamoru	技術者倫理 Engineering Ethics	地理 倫理·社会	Geography Ethics and Social Studies
	博士(理学) D. Sc.	谷口 浩朗 TANIGUCHI, Hiroaki	応用数学特論 Topics in Applied Mathematics	基礎数学 I・Ⅱ 微分積分学 自然特論	Mathematics I · II Differential and Integral Calculus Topics in Natural Science
	理学修士 M. Sc.	南 貴之 MINAMI, Takayuki		基礎数学 I 微分積分学 応用数学 I 数学概論 I・Ⅲ	Mathematics I Differential and Integral Calculus Applied Mathematics I Mathematics Seminar I ⋅ II
准教授 Associate Professor	理学修士 M. Sc.	須那 聰 SUNA, Satoshi		基礎数学 I 微分積分学 応用解析学	Mathematics I Differential and Integral Calculus Mathematical Analysis
		井上 斌 INOUE, Akira	技術者倫理 Engineering Ethics	政治·経済 法学 世界史	Politics and Economics Law World History
	文学修士 M. Lit.	畑 伸興 HATA, Nobuoki		英語 I·V·VI 英語特論 文学特論	English I · V · VI English for TOEIC Literature
		有馬 弘智 AR I MA, Hirotoshi		保健·体育	Health and Physical Education
	教育学修士 M. Ed.	内田由理子 UCHIDA. Yuriko	技術者倫理 Engineering Ethics	日本史 世界史	Japanese History World History
	修士(文学) M. Lit.	富士原伸弘 FUJIHARA, Nobuhiro	文学特論 Literature	国語、日本語	Japanese
講師 Assistant Professor	博士(学術) D. Ph.	橋本 竜太 HASHIMOTO, Ryuta		基礎数学Ⅱ 微分積分学 応用解析学 数学概論Ⅱ	Mathematics II Differential and Integral Calculus Mathematical Analysis Mathematics Seminar II
	工学修士 M. Eng.	森岡 茂 MORIOKA, Shigeru		基礎数学 I 微分積分学 応用解析学	Mathematics I Differential and Integral Calculus Mathematical Analysis
	博士(理学) D. Sc.	長谷部一気 HASEBE, Kazuki		物理 化学	Physics Chemistry
	博士(理学) D. Sc.	東田 洋次 HIGASHIDA, Yoji	物理科学特論 Advanced Physical Science	物理 応用物理	Physics Applied Physics
	修士(文学) M. Lit. 修士(娴譜学) MA	森 和憲 MORI, Kazunori	コミュニケーション英語 I Communicative English I	英語I・Ⅱ	English I · II

非常勤講師 Part-time Lecturer

非吊勤講師	Part-time Lecturer		
氏 名	Name	担当科目	Subjects in Charge
野口 雅澄	NOGUCHI, Masazumi	国語 B	Japanese B
高木 保之	TAKAGI, Yasuyuki	国語 A	Japanese A
森 正幸	MORI, Masayuki	哲学	Philosophy
中空 大幸	NAKASORA, Hiroyuki	基礎数学Ⅱ	Mathematics II
篠丸 憲三	SHINOMARU, Kenzou	基礎数学Ⅱ	Mathematics II
本田 正	HONDA, Tadashi	保健·体育	Physical Education
松本 澄夫	MATSUMOTO, Sumio	保健·体育	Physical Education
横山 学	YOKOYAMA, Manabu	保健·体育	Physical Education
穴吹 昌子	ANABUKI, Masako	音楽	Music
永井 崇幸	NAGAI, Takayuki	美術	Art
寺坂 文和	TERASAKA, Fumikazu	書道	Calligraphy
宮西比呂志	MIYANISHI, Hiroshi	英語Ⅱ	English II
鳥越 洋子	TORIGOE, Hiroko	英語 Ⅱ	English II
土屋 紀子	TUCHIYA, Noriko	英語 I·V	English I · V
下林千賀子	SHIMOHAYASHI. Chikako	英語Ⅱ	English II
張 文	CHO. Bun	中国語I	Chinese I
前崎 麗	MAESAKI. Rei	中国語Ⅱ	Chinese II
小阪 清行	KOSAKA, Kiyoyuki	独語I・Ⅱ	German I · II

Takuma National College of Technology • 7

(出典 平成19年度学校要覧)



(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当の専任教員は18名であり、高等専門学校設置基準に定められた相当数を配置している。 技術者として必要な自然科学の基礎学力を養成する数学に5名、理科に3名、技術者倫理並びに教養 を養成するために社会3名、国際的に活躍できるコミュニケーション能力を養成する英語に3名、国 語に2名、健全な心身を育成するために体育に2名が配置され、非常勤講師も交えて、教育目的を達 成するために教員が適切に配置されている。

観点3-1-②: 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

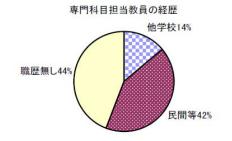
本校の3つの教育目的を達成するため、情報通信工学科11名、電子工学科11名、電子制御工学科10名、情報工学科11名の計43名の常勤教員が配置されている(「学習・教育目標」と担当科目の対応については、観点5-1-①で説明)。教員の中には技術資格や実務経験を有する者が含まれている(資料3-1-②-1)。特殊な専門的知識・技術を必要とする授業の実施及び授業内容の一層の充実を図るため、民間企業や大学から非常勤講師を各学科4名程度採用している(資料3-1-②-2)。各教員の専門分野と担当科目の整合性はとれている(資料3-1-②-3)。

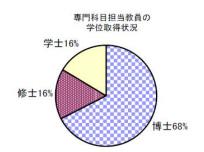
資料 3-1-2-1

教員の経歴と資格について(平成19年5月1日現在)

1. 教員の経歴及び学位取得状況

学 他学校 民間企業等 本校以外職歴なし 計 科 博士 情報通信工学科 0 5 6 11 電子工学科 1 5 5 11 6 子制御工学科 4 5 10 9 1 1 報工学科 11 6 2 般教科 12 10 18 10 20 17





2. 資格等の状況

資格の名称	人数(人)
第一級陸上無線技術士	1
ソフトウェア開発技術者試験	5
工事担当者アナログー種	1
工事担当者デジタル一種	1

(出典 総務課人事係)

資料3-1-2-2

専門科目担当教員(1/4)

職員

●情報通信工学科 Department of Telecommunications

職 名 Post	学 位 Degree	氏 名 Name	専攻科担当科目 Major subjects at this course	担当科目	Subjects in Charge
教 授 Professor	博士(工学) D. Eng.	森本 敏文 MORIMOTO, Toshifumi	グラフ理論 Graph Theory 特別実験・演習 I Experiments and Exercise I 電磁波・光工学 Radio and Light Wave Engineering 特別研究 Thesis Research	電気磁気学 I 電波伝送学 I エ学セミナー I・II 通信工学実験 II 卒業研究	Electromagnetics I Antennas and Propagation II Seminar in Electronic Engineering I • II Experiments in Communication Engineering II Graduation Research
	理学博士 D. Sc.	澤田 士朗 SAWADA, Shiro	工業英語 English for Engineers 量子力学 Quantum Mechanics 特別実験・演習 II Experiments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	応用数学 工学セミナー I・Ⅱ 卒業研究	Applied Mathematics Seminar in Electronic Engineering I · II Graduation Research
	博士(工学) D. Eng,	井上 忠照 INOUE, Tadaaki	通信理論 Communication Theory 特別実験:演習 I Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	情報処理 II・IV 基礎工学実験 工学セミナー I・II 通信工学実験 II 通気通信システムB 卒業研究	Information Processing II · IV Experiments in Elementary Engineering Seminar in Electronic Engineering I · II Experiments in Communication Engineering I · I Communication System B Graduation Research
	工学博士 D. Eng.	青海 惠之 SEIKAI, Shigeyuki	光通信工学 Optical communication 特別実验·演習 II Experiments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	基礎工学実験 電気学路I·II 工学演習 基礎工学実験 工学セ学実験 工造信研究 卒業研究	Fundamentals of Engineering Exercise Electric Circuits I · II Engineering Exercise Experiments in Elementary Engineering Seminar in Electronic Engineering I · I Experiments in Communication Engineering I · II Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	塩沢 隆広 SHIOZAWA, Takahiro		基礎電気工学 基礎工学演習 ディジタル回路 I 基礎工学実・I・II 通信エ学実験 I・II 卒業研究	Elementary Electronic Engineering Fundamentals of Engineering Exercise Digital Circuits Experiments in Elementary Engineering Seminar in Electronic Engineering I - Experiments in Communication Engineering I - Graduation Research
准教授 Associate Professor	工学修士 M. Eng.	真鍋 克也 MANABE, Katsuya	応用電磁気学 Applied Electromagnetism 特別実験・演習 I Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	電波伝送学 I 無線工学演習 工学セミナーI・II 基礎工学実験 基礎工学実験 I・II 卒業研究	Antennas and Propagation I Seminar on Radio Engineering Seminar in Electronic Engineering I · II Experiments in Elementary Engineering Experiments in Communication Engineering I · I Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	三河 通男 MIKAWA, Michio	材料工学 Materials Science 特別実験·演習 I Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	情報処理 I 基礎工学演習 電子学生活 エエー エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エ	Information Processing I Fundamentals of Engineering Exercise Electronic Circuits I · II Seminar in Electronic Engineering I · II Data Communications Experiments in Elementary Engineering Experiments in Communication Engineering I Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	辻 琢人 TSUJI, Takuto	電子デバイス工学 Electronic Device Engineering 特別実験・演習 I・II Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	工学演習 電子工学 I・II 工学セミナー I・II 通信工学実験 II 卒業研究	Engineering Exercise Electronics I · II Seminar in Electronic Engineering I · II Experiments in Communication Engineering II Graduation Research
講 師 Assistant Professor	修士(工学) M. Eng.	小野安季良 ONO, Akira	特別実験・演習 I Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	通信工学 I・Ⅱ 工学セミナー I・Ⅲ 通信工学実験 I・Ⅲ 工学演習 工学演習学演習 卒業研究	Communication Engineering I · II Empirication in Electronic Engineering I · I Experiments in Communication Engineering I · I Engineering Exercise Radio Engineering Exercise Graduation Research
助 教 Reseach Associate		梶 久夫 KAJI, Hisao		電気通信システムA 通信法 II 工学セミナー I・II 基礎工学決決 基礎工学実験 I・II 卒業研究	Communication System A Telecommunications Law II Seminar in Electronic Engineering I · II Fundamentals of Engineering Exercise Experiments in Communication Engineering I · II Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	草間 裕介 KUSAMA, Yusuke	特別実験·演習 I·II Experiments and Exercise I·II 特別研究 Thesis Research	基礎工学実験 工学セミナー I・Ⅱ 通信工学実験 I・Ⅲ 電気磁気学Ⅱ 電気で表計測 I 卒業研究	Experiments in Elementary Engineering Seminar in Electronic Engineering I · II Experiments in Communication Engineering I · II Electromagnetics II Electromagnetics II Electric and Electronic Measurements I Graduation Research

非常勤講師 Par	rt-time	Lecturer
-----------	---------	----------

21 .12 -73 1				
氏	名	Name	担当科目	Subjects in Charge
曽根	康仁	SONE, Yasuhito	通信法I	Telecommunications Law I
横澤	明良	YOKOZAWA, Akiyoshi	電力工学概論	General Electric Power System
新庄	猛	SHINJO, Takeshi	電気電子計測 Ⅱ	Electric and Electronic Measurements II
真鍋	久志	MANABE, Hisashi	情報処理Ⅲ	Information Processing III

^{8 •} Takuma National College of Technology

資料 3-1-2-2

専門科目担当教員(2/4)

Staff

●電子工学科 Department of Electronics

職 名 Post	学位 Degree	氏 名 Name	専攻科担当科目 Major subjects at this course	担当科目	Subjects in Charge
教 授 Professor	博士(工学) D. Eng.	高木 正夫 TAKAGI, Masao	情報工学基礎論 Introduction to Information Tecnology 特別講義 Special Lectures 特別実験:演習 II Experiments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	ディジタル回路 II 計算機工学 データ通信 電子工学セミナー 工学実験 卒業研究	Digital Circuits II Computer Engineering Data Communications Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	福永 哲也 FUKUNAGA, Tetsuya	ディジタル信号処理工学 Digital Right Ri	回路理論 画像工学 電子学 工学 で 事業 研究	Network Theory Image Engineering Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
		辻 憲秀 TSUJI, Norihide		応用物理 応用物理 I・II 電子工学セミナー 卒業研究	Applied Physics Applied Physics I • II Seminar in Electronic Engineering Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	三﨑 幸典 MISAKI, Yukinori	知的財産権 Intellectual Property Right 特別実験·演習 I · II Experiments and Exercise I · II 特別研究 Thesis Research	電子工学 半導体学 基礎工学学 電子工学 電子工実験 卒業研究	Electronics Semiconductor Electronics Exercises in Elementary Engineering Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
	工学博士 D. Eng.	長岡 史郎 NAGAOKA, Shiro	集積回路工学 Integrated Electronics 特別講義 Special Lectures 特別実験·演習Ⅰ·Ⅱ Experiments and Exercise Ⅰ·Ⅱ 特別研究 Thesis Research	半導体工学 通信工学 電子工学 電子学実験 卒業研究	Semiconductor Electronics Communication Engineering Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
准教授 Associate Professor	工学修士 M. Eng.	木下 敏治 KINOSH II TA, Toshiharu	システム工学 System Engineering 特別実験・演習 I Experiments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	制御工学 パルス工学 ロボット工学 電子工学セミナー 工学実験 卒業研究	Control Engineering Pulse Engineering Robot Engineering Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
		增田 隆 MASUDA, Takashi		音響工学 I・II 電子回路 電子子計測 電子工実験 卒業研究	Audio Engineering I · II Electronic Circuits Electronic Measurements Seminar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
		矢木 正和 YAGI, Masakazu	電子物性 Solid State Physics 電子デバイス工学 Electronic Device Engineering 特別研究 Thesis Research 特別実験・演習 I Experiments and Exercise I	電気回路 I 電子工学セミナー 工学実験 卒業研究	Electric Circuits I Seninar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
講 師 Assistant Professor	修士(工学) M. Eng.	月本 功 TSUKIMOTO, Isao	特別研究 Thesis Research 特別実験·演習 I·II Experiments and Exercise I·II	電子回路 ディジタル回路 I 電子工学セミナー 基礎工学演習 工学実験 卒業研究	Electronic Circuits Digital Circuits 1 Seminar in Electronic Engineering Exercises in Elementary Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
助 教 Reseach Associate	博士(工学) D. Eng.	天造 秀樹 TENZO, Hideki	数值計算論 Numerical Computation 特別研究 Thesis Research 特別実験:演習 I Experiments and Exercise I	電気回路Ⅱ 情報短型単 電気を選単 基礎工学学 を 基礎工学 で 実 で 実 で ま で ま で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、 で 、	Electric Circuits II Information Processing III Electromagnetics Exercises in Elementary Engineering Semiuar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research
	博士(工学) D. Eng.	森宗太一郎 MORIMUNE, Taichiro		基礎電気工学 電気磁気学 電子工学セミナー 工学実験 卒業研究	Elementary Electric Engineering Electromagnetics Semiuar in Electronic Engineering Experiments in Electronic Engineering Graduation Research

非常勤講師 Part-time Lecturer

2 L 112 120 H12 H15	Tart time Ecotarci		
氏 名	Name	担当科目	Subjects in Charge
曽根 康仁	SONE, Yasuhito	電波·電気法規	Radio and Electric Laws
石丸伊知郎	ISHIMARU, Ichiro	光エレクトロニクス	Optoelectronics
新庄 猛	SHINJO, Takeshi	応用計測	Applied Measurements
横澤 明良	YOKOZAWA, Akiyoshi	電力工学概論	General Electric Power System

Takuma National College of Technology • 9

資料 3-1-2-2

専門科目担当教員(3/4)

職員

●電子制御工学科 Department of Control Engineering

職 名 Post	学 位 Degree	氏 名 Name	専攻科担当科目 Major subjects at this course	担当科目	Subjects in Charge
教 授 Professor	工学博士 D. Eng.	山本幸一郎 YAMAMOTO, Koichiro	システム制御理論 Control Theory 特別実験:演習 I Exeriments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	制御工学 I・Ⅲ・Ⅳ 制御工学セミナー 工学演習 工学実験 卒業研究	Control Engineering I • III • IV Seminars on Control Engineering Engineering Exercise Control Eng. Laboratory Advanced Studies
	工学博士 D. Eng.	田嶋 眞一 TASHIMA, Shinichi	エネルギー変換論 Energy Conversion 電力制御機器工学 Power Control Machinely 特別実験・演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	制御工学Ⅱ 環境と人間 シーケンス制御Ⅰ・Ⅲ ロボット工学Ⅰ・Ⅲ 制御工学セミナー 工学実験 卒業研究	Control Engineering II Environment and Human Society Sequence Control I · II Robotics I · II Robotics I · II Seminars on Control Engineering Control Eng. Laboratory Advanced Studies
	博士(工学) D. Eng.	村上 純一 MURAKAMI, Junichi	計測工学特論 Industrial Instrument Engineering 特別講義 Special Lectures 特別実験·演習 I·II Exeriments and Exercise I·II 特別研究 Thesis Research	計測工学 ディジタル回路II・III オペレーションプリサーチ I・II 工学実験 制御工学セミナー 卒業研究	Instrument Engineering Digital Circuits II : III Operations Research I ⋅ II Control Eng. Laboratory Seminars on Control Engineering Advanced Studies
	博士(理学) D. Sc.	福間 一巳 FUKUMA, Kazumi	工業数学 Engineering Mathematics 特別講義 Special Lectures 特別実験·演習 I·II Exeriments and Exercise I·II 特別研究 Thesis Research	電気磁気学 I 情報処理 I 固体物力学 I・Ⅱ 工学実研究	Electromagnetics I Information Processing I Solidstate Physics I · II Fluid Dynamics I · II Control Eng. Laboratory Advanced Studies
	博士(工学) D. Eng.	德永 修一 TOKUNAGA, Shuichi	画像処理工学 Image Processing 特別講義 Special Lectures 特別実験・演習 I · II Exeriments and Exercise I · II 特別研究 Thesis Research	機械力学 熱力学I·II 画像処理I·II 工学実験 卒業研究	Mechanical Dynamics Thermodynamics I ⋅ II Image Processing I ⋅ II Control Eng, Laboratory Advanced Studies
准教授 Associate Professor	工学修士 M. Eng.	一色 弘三 ISSHIKI, Hiromi	生体工学 Bioengineering 特別講義 Special Lectures 特別実験·演習 I·II Exeriments and Exercise I·II 特別研究 Thesis Research	電気回路 I·II 電気気勢 II 工学実理論 I·II 卒業研究	Electric Circuits $I \cdot II$ Electromagnetics II Control Eng. Laboratory Communication Theory $I \cdot II$ Advanced Studies
講 師 Assistant Professor	博士(理学) D. Sc.	奥山 真吾 OKUYAMA, Shingo	特別実験・演習 I Exeriments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	確率統計論 I・Ⅱ 基礎工学演習 工学演習 制御工実験 に用研研研究 本業研究	Probability and Statistics I · II Fundamental Engineering Exercise Engineering Exercise Seminars on Control Engineering Control Eng. Laboratory Applied Mathematics II Advanced Studies
	博士(工学) D. Eng.	白石 啓一 SHIRAISHI, Keiichi	数式処理概論 Computer Algebra	情報処理Ⅱ 知識工学Ⅰ・Ⅲ 計算機工学Ⅰ・Ⅲ 工学実験 卒業研究	Information Processing II Knowledge Engineering I • II Computer Engineering I • II Control Eng. Laboratory Advanced Studies
助 教 Research Associate	博士(情報学) D. Inf.	雛元 洋一 HINAMOTO, Youichi		電子回路 II ディジタル回路 I 数値解析 I・II 制御工学セミナー 工学実験 卒業研究	Electronic Circuits II Digital Circuits I Numerical Analysis I · II Seminars on Control Engineering Control Eng. Laboratory Advanced Studies
	博士(工学) D. Eng.	清水 共 SHIMIZU, Tomo		基礎電気工学 電子回路 I 制御学とナー 工学実験 半導株・安 卒業研究	Fundamentals of Electricity Electronic Circuits I Seminars on Control Engineering Control Eng. Laboratory Semiconductors Advanced Studies

非常勤講師 Part-time Lecturer

氏 名		Name	担当科目	Subjects in Charge
加藤 英泽	洋	KATO, Hidehiro	通信システム Ⅰ・Ⅱ	Communication System I • II
山地 祐-	-	YAMAJI, Yuichi	制御機器I	Control Devices and Equipments I
近藤 満加	広	KONDOH, Mitsuhiro	システム工学 Ⅰ・Ⅱ	System Engineering I · II
小野 尊5	史	ONO, Takashi	制御機器Ⅱ	Control Devices and Equipments II

^{10 •} Takuma National College of Technology

資料 3-1-2-2

専門科目担当教員(4/4)

Staff

●情報工学科 Department of Information Engineering

●情報工学科	Department of Information Engineering				
職 名 Post	学 位 Degree	氏 名 Name	専攻科担当科目 Major subjects at this course	担当科目	Subjects in Charge
教 授 Professor	博士(工学) D. Eng.	國井 洋臣 KUNII, Hiroomi	医用工学 Medical Engineering 特別講義 Special Lectures 特別実験·演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	電子回路 ディジタル回路II 情報工学 時報工学 中 本業研究	Electronic Circuits Digital Circuits II Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
	工学修士 M. Eng.	野中 清孝 NONAKA, Kiyotaka	人工知能 ArtificiaIn Intelligence 特別実験·演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	情報処理 I 知識エ学 I 情報エ学セミナー エ学実験 卒業研究	Information Processing I Knowledge Engineering Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
	工学博士 D. Eng.	松下 浩明 MATSUSHITA, Hiroaki	アルゴリズムとデータ構造 Algorithms and Data Structures 特別実験・演習 I Exeriments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	情報処理 I 情報構造論 情報工学セミナー 工学実験 卒業研究	Information Processing I Data Structures and Algorithms Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
		今城 —夫 IMAJO, Kazuo	情報ネットワーク論 Information Networks 特別実験・演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	システムプログラミング 基本ソフトウェア 情報工学セミナー 工学実験 卒業研究	Systems Programming Basic Software Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
	博士(工学) D. Eng.	宮武 明義 MIYATAKE, Akiyoshi	特別実験・演習 I Exeriments and Exercise I 教育システム工学 Educational System Engineering ソフトウェア工学概論 General Software Engineering 特別講義 Special Lectures 特別研究 Thesis Research	ソフトウェア設計論 知識工学II 情報工学セミナー 工学実験 卒業研究	Software Design and Development Knowledge Engineering Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
准教授 Associate Professor		河田 進 KAWATA, Susumu	オブジェクト指向プログラミング Object Oriented Programmin 特別実験・演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	情報処理 II コンパイラ 情報工学セミナー 工学実験 卒業研究	Information Processing Compiler Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
		鰆目 正志 SAWARAME, Masashi	特別実験・演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	計算機システム 情報システム I データベース 情報工学セミナー 工学セミナ 主 事業研究	Computer system Information System I Data Base Management System Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
	博士(工学) D. Eng.	河田 純 KAWATA, Jun	特別実験·演習 I Exeriments and Exercise I 特別講義 Special Lectures 特別研究 Thesis Research	基礎工学演習 電気磁気学 情報学学をシナー 工学験析 卒業研究	Basic Engineering Exercise Electromagnetics Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Numerical Analysis Graduation Reseach
	博士(工学) D. Eng.	金澤 啓三 KANAZAWA, Keizo	マルチメディア工学 Multimedia Engineering 特別講義 Special Lectures 特別実験・演習 II Exeriments and Exercise II 特別研究 Thesis Research	情報処理II 画像工学ンプトウエ学とシナー 工学実験 卒業研究	Information Processing II Image Processing Software Design and Development Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Graduation Reseach
	情報工学修士 M. Comp. Scien	高城 秀之 TAKAJO, Hideyuki	特別実験·演習 I Exeriments and Exercise I 特別研究 Thesis Research	情報処理Ⅱ 基礎情報工学 情報工学 でまるステムⅡ 計算機ネットワークⅠ 卒業研究	Information Processing II Fundamental Information Engineering Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering Communication System II Computer Networks I Graduation Reseach
助教 Research Associate	博士 (エネル ギー科学) D. Energy.Sci.	川染 勇人 KAWAZOME, Hayato		基礎工学演習 情報処理II 応用物理 応用物理 I 情報工学セミナー 工学実験	Basic Engineering Exercise Information Processing II Applied Physics I Applied Physics I Seminar in Information Engineering Experiments in Information Engineering

非常勤講師 Part-time Lecturer

氏 名	Name	担当科目	Subjects in Charge
安藤 一秋	ANDO, Kazuaki	情報システム Ⅱ	Information Sysem II
石丸伊知郎	ISHIMARU, Ichiro	情報特論Ⅱ	Information Science II
真鍋 久志	MANABE, Hisashi	プログラミング言語	Programming Languages

Takuma National College of Technology • 11

(出典 平成19年度学校要覧)





(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準が定める専任者数29名を上回る43名の専門科目担当教員が配置されている。 実践的な技術者を育成するために民間企業等経験者,博士の学位や高度の資格を持つ者が配置され, 情報通信工学科には第一級陸上無線技術士,情報工学科には情報処理技術者など技術資格を有する教 員も配置されている。各教員の専門分野と担当授業科目には整合性が有り,教育目的の実現にとって 適切である。

観点3-1-③: 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の 授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

平成16年度に電子通信システム工学専攻と情報制御システム工学専攻の2専攻で構成される専攻科が設置された。独立行政法人大学評価・学位授与機構による審査では、授業科目を担当する教員の経歴・講義要目・個人調書を提出し、認定を受けるに至った。専攻科専任の教員はおらず、すべて一般教科と専門4学科の教員の兼任である。各教員の専攻科担当科目は(資料3-1-①-1、資料3-1-②-2)に示すとおりである(「学習・教育目標」と担当科目の対応については、観点5-5-②で説明)。本校専攻科では研究開発能力・コミュニケーション能力の充実及び技術者倫理の強化を教育理念としており、特に重要な特別研究には学位を有した研究実績のある専門性の高い教員が指導に当たるなど、教員の配置は適切である。

(分析結果とその根拠理由)

専攻科設置申請時に大学評価・学位授与機構による審査を受けており、教育の目的を達成するための適切な科目の配置及び教員の資格について審査され承認されている。マルチメディア通信を専門分野とする電子通信システム工学専攻では、情報通信工学科と電子工学科の多くの教員が授業科目を担当し、IT技術を専門分野とする情報制御システム工学専攻では、電子制御工学科と情報工学科の多くの教員が授業科目を担当し適切な担当区分となっている。

以上により、必要な専攻科授業科目担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-④: 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置(例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。)が講じられているか。

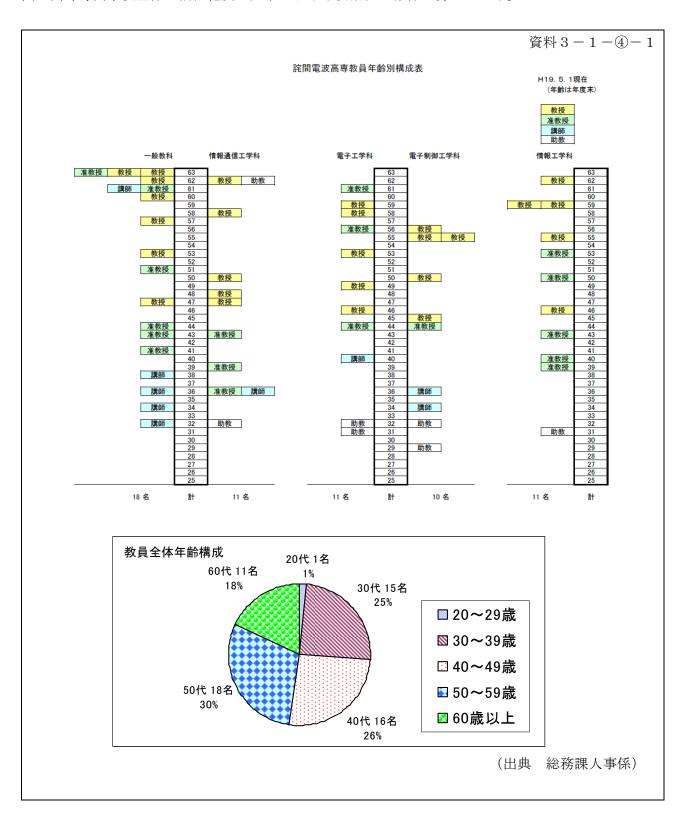
(観点に係る状況)

年齢構成は平成19年5月1日現在(資料3-1-4-1)のようになっている。教員全体では年齢分布に極端な偏りはないものの一般教科において若干高齢者が多い構成となっている。欠員が生じた場合の後任補充では、教員の年齢構成を考慮した応募資格で公募を行っている(資料3-1-4-4-1)。教員の選考には教員選考基準(資料3-1-4-1)、教員選考基準に関する申合せ(資料3-1-4-1)及び教員選考に係る評価基準を設け、教育経歴・実務経験を含む職歴や、留学等による経歴の総合評価を行っている。過去5年間の採用状況(資料3-1-4-1)に示すとおり、多様な経歴を持つ者を採用している。

詫間電波工業高等専門学校 基準3

また、専門科目担当教員43名のうち博士号取得者は29名でその割合は68%である(資料3-1-2-1)。未取得者については大学への研修など学位取得に対する配慮を行っており、過去6年間の取得実績は博士9名、修士1名である(資料3-1-4-6)。

更に平成18・19年度には高専間教員交流制度により受入れ1名派遣2名の教員の人事交流を行い、 国立高等専門学校全体の活性化及び人事における流動性の確保に努めている。



教員公募

記問電波工業高等専門学校Takuma Naffondi College of Technology 学校紹介 入試情報 地域連携 学生生活 学科・施設

1. 職名及び人員 助教 1名

※学校教育法の一部改正により平成19年4月1日から置く職で、「専攻分野について、教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授する」ものをいう。

2. 所属学科 電子工学科

3. 専門分野 電子回路, 情報通信, 半導体

4. 応募資格 (1)博士の学位を有する方、若しくは採用時に博士の学位を取得見込みの方

(2)上記専門分野の授業が担当できる方 (3)採用時における年齢が30歳以下の方

(4)高専での教育・研究・学生指導に熱意をもち、心身ともに健康な方

5. 採用予定日 平成19年4月1日

6. 提出書類 (1)履歴書(自筆, 写真貼付)

(2)著書·論文等一覧表

(著書, 論文, 口頭発表等に区分すること) (3)主要論文の別刷り5編以内(コピー可)

(4)上記主要論文の概要(5編以内,各1000文字以内)

(5) 高専教育に対する抱負(1000字以内)

(6)担当できるクラブ指導あるいはクラブ指導の経験

(7)推薦書

(応募者に関する照会のできる方1名の連絡先をもって替えることができる)

7. 提出期限 平成18年9月29日(金)必着

8. 選抜方法 第1次選考(書類審査), 第2次選考(面接)

9. 応募書類提出先 〒769-1192

香川県三豊市詫間町香田551

詫間電波工業高等専門学校 総務課人事係

電話 0875-83-8507

10. 問合せ先 詫間電波工業高等専門学校 電子工学科長 福永哲也

電話:0875-83-8558 FAX:0875-83-8563

E-mail: fukunaga@de.takuma-ct.ac.jp

11. その他 応募書類は書留とし、封筒に「電子工学科教員応募書類在中」と朱書きすること

詫間電波工業高等専門学校

ホームへ | 前に戻る | アクセス | お問い合わせ

(出典 総務課人事係)

詫間電波工業高等専門学校教員選考基準

- 第1 詫間電波工業高等専門学校の教授,准教授,講師,助教及び助手の採用,昇任に係る選考 に当たっては、この基準に定めるところによる。
- 第2 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。
 - 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
 - 二 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位(外国において 授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務 についての実績を有する者
 - 三 大学 (短期大学を含む。以下同じ。) 又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の 講師の経歴 (外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。) のある者
 - 四 学校,研究所,試験所,調査所等に在職し,教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し,技術に関する業務についての実績を有する者
 - 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
 - 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者
- 第3 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校にお ける教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。
 - 第2各号のいずれかに該当する者
 - 二 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者
 - 三 修士の学位または学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者
 - 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
 - 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者
- 第4 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - 一 第2及び第3に規定する教授又は准教授となることのできる者
 - 二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高 等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
 - 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者
- 第5 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。
 - 一 第2各号又は第3各号のいずれかに該当する者
 - 二 修士の学位(医学を履修する課程,歯学を履修する課程,薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位)又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位を有する者
 - 三 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者
 - 四 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者
- 第6 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
 - 一 学士の学位若しくは短期大学士(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)又は準学士の称号(外国におけるこれに相当する称号を含む。)を有する者
 - 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると校長が認めた者
- 第7 この基準に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、別に校長が定める。 附 則
 - この基準は、平成16年4月1日から施行する。 附 則
 - この基準は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

詫間電波工業高等専門学校教員選考基準に関する申合せ(1/2)

詫間電波工業高等専門学校教員選考基準に関する申合せ

平成13年12月18日校長裁定 平成18年12月25日一部改正

詫間電波工業高等専門学校教員選考基準(以下「教員選考基準」という。)第7の規定に基づく教員選考の運用については、この申合せの定めるところによる。

- 第1 教員の採用選考及び昇任選考にあたっては、人事委員会に次の選考調書を提出するものと する。
 - (1) 第1号様式 教員選考個人調書
 - (2) 第2号様式 著書・論文等一覧表
 - (3) 第3号様式 著書・論文等の概要
 - (4) 第4号様式 高専教育に対する抱負
 - (5) 第5号様式 企業等での研究・業績等
 - (6) その他必要とみとめられる調書
- 第2 教員の採用選考(以下「採用選考」という。)にあたっては、一般公募を原則とする。 ただし、学科長及び一般教科長(以下「学科長等」という。)から人事委員会に推薦すること ができる。
- 第3 採用選考にあたっては、応募者から当該学科及び一般教科で、採用候補者を選考し、選考 経過を付して人事委員会に上申するものとする。ただし、応募者が複数の場合は、3名程度の 採用候補者を選考する。
- 第4 採用選考にあたっては、人事委員会は採用候補者の面接を行うものとする。
- 2 採用候補者の面接は、人事委員会委員のうち次の者が行うものとする。
 - (1) 人事委員会委員長
 - (2) 教務主事
 - (3) 当該学科長等
 - (4) その他人事委員会委員長が必要と認めた者
- 第5 教員の昇任選考(以下「昇任選考」という。)にあたっては、各学科長等から第1の選考 調書及び推薦書を付して昇任候補者を人事委員会に推薦するものとする。
- 第6 昇任選考にあたっては、人事委員会は昇任候補者の面接を行うものとする。
- 2 昇任候補者の面接は、人事委員会委員のうち次の者が行うものとする。
 - (1) 人事委員会委員長
 - (2) 教務主事
 - (3) 当該学科長等
 - (4) その他人事委員会委員長が必要と認めた者
- 第7 教員の採用選考及び昇任選考にあたっては、人事委員会は教員選考基準第2から第6に定めるもののほか、面接及び次の各号について総合的に審議し、校長に上申するものとする。
 - (1) 研究業績等
 - (2) 学内外における教育・研究活動状況及び学校運営に対する貢献度
 - (3) 学生指導状況
 - (4) その他校長が必要と認める状況
- 第8 教員の採用選考及び昇任選考にあたっては、特に以下の項目について考慮するものとする。

詫間電波工業高等専門学校教員選考基準に関する申合せ (2/2)

(1) 一般教科(理数系を除く。)

教 授	・大卒後8年以上の教育・研究歴を有する者 ・准教授以後の著書・論文数 ・主事・主事補歴
准教授	・大卒後5年以上の教育・研究歴を有する者 ・講師以後の著書・論文数 ・主事補歴
講師	・大卒後3年以上の教育・研究歴を有する者 ・助教及び助手以後の著書・論文数 ・主事補歴
助教	・大卒後2年以上の教育・研究歴を有する者

(2) 一般教科の理数系及び専門科目

教 授	・大卒後8年以上の教育・研究歴を有する者・准教授以後の著書・論文数・博士の学位取得・主事・主事補歴
准教授	・大卒後5年以上の教育・研究歴を有する者・講師以後の著書・論文数・博士の学位取得・主事補歴
講師	・大卒後3年以上の教育・研究歴を有する者・助教及び助手以後の著書・論文数・博士の学位取得・主事補歴
助教	・大卒後2年以上の教育・研究歴を有する者 ・博士の学位取得

附則

この申合せは、平成13年12月18日から施行し、平成13年6月29日から適用する。 附 則

この申合せは、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

過去5年間の採用状況

採用年度	(採用時年齡)	職名	学位等(取得年月)	教育経歴	実務経験	備考
平成15年度	(48)	教授	博士(理学)(H14.3.22)	公立高校	なし	
平成16年度	(34)	講師	博士(学術)(H13.3.26)	国立大学TA 私立大学非常勤講師	なし	
	(58)	助手	工学士(S43.3.25)	なし	民間企業	
	(30)	助手	博士(工学)(S12.3.17)	なし	日本学術振興会,国立大 学非常勤研究員	
平成17年度	(59)	教授	工学博士(S49.3.25)	私立大学教授	民間企業	
	(58)	講師	工学修士(S47.3.29)	なし	民間企業	
	(29)	助手	博士(工学)(H16.9.25)	なし	民間企業	
平成18年度	(32)	講師	博士(理学)(H14.6)	なし	日本学術振興会特別研究員, 国立大学共同利 用機関法人研究協力 員, ポストドクター研究員	
	(34)	講師	博士(理学)(H13.3)	国立大学非常勤講師	なし	
	(27)	助手	博士(情報学)(H18.3)	なし	なし	
	(29)	助手	博士(エネルギー科学)(H16.3)	なし	(独)研究開発機関	
平成19年度	(49)	教授	博士(工学)(H17.3)	なし	民間企業	
	(30)	助教	博士(工学)(H19.3)	私立大学非常勤助手	民間企業	
	(31)	助教	博士(工学)(H18.3)	なし	国立大学博士特別研究 員	

(出典 総務課人事係)

資料 3-1-4-6

過去の学位取得状況

取得年度	職名	取得学位(取得年月)	大学名	備考
	助教授	博士(工学)(H13.11)	徳島大学	
	助教授	修士(学術)(H14.3)	徳島大学	
平成13年度	助教授	博士(理学)(H14.3)	大阪市立大学	
	助教授	博士(工学)(H14.3)	岡山大学	
	助手	博士(工学)(H14.3)	愛媛大学	
平成14年度				
平成15年度	教授	博士(工学)(H15.9)	岡山県立大学	
平成16年度	助教授	博士(工学)(H17.3)	長岡技術科学大学	
1/2/104/2	助手	博士(理学)(H17.3)	岡山大学	
平成17年度	教授	博士(工学)(H18.3)	徳島大学	
十八八十尺	助教授	博士(工学)(H18.3)	徳島大学	
平成18年度				

(出典 総務課人事係)

(分析結果とその根拠理由)

教員の採用にあたっては公募制を導入し、年齢構成及び教育経験や実務経験への配慮がなされている。また、学位未取得者については大学へ研修に行く機会を与える等の配慮がなされ、取得実績は上がっている。高専間の教員交流制度も導入し、教員組織の活動を活発化するための適切な措置が講じられている。

観点3-2-①: 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

本校では校長、副校長、各学科長及び一般教科長、事務部長で構成される人事委員会において教員の採用及び昇格等が審議される(資料3-2-①-1)。教員の採用・昇格は設置基準に基づき定められた教員選考基準(資料3-1-④-3)、教員選考基準に関する申合せ(資料3-1-④-4)及び教員選考に係る評価基準に従って行われている。採用については原則公募とし、多数の応募者であれば書類審査で3名程度に選考し、模擬授業及び面接により1名の候補者に絞っている。また、昇任の場合は教育、学生指導、研究業績はもちろんのこと、地域貢献やボランティア活動など学内外における学校への貢献度についても審査されている。

なお非常勤講師についても、教員選考基準の講師の資格を有するものを人事委員会の審議を経て採用している。

資料 3-2-①-1

詫間電波工業高等専門学校人事委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 人事委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 教員の採用及び昇任選考に関すること
 - 二 非常勤講師の採用に関すること
 - 三 その他教員の人事に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長
 - 三 各学科長及び一般教科長
 - 四 事務部長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第7条 委員会の事務は、総務課人事係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

- この規程は、平成17年4月1日から施行する。 附 則
- この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

(分析結果とその根拠理由)

高等専門学校設置基準に基づく本校教員選考基準、教員選考基準に関する申合せ及び教員選考に係る評価基準により教員の採用や昇格等に関する規定や基準が明確に定められている。教育上の能力を 考慮・評価した適切な運用がなされている。 観点3-2-②: 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、 実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取 組がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の教育点検システムは、各教員が年度末に教科毎の自己点検をした後に相互点検を行い、翌年度の教育に役立てるというものである(観点9-1-①で説明)。毎年、学生による授業評価アンケートも実施しており(観点9-1-②で説明)、その結果は図書館閲覧室で公開され、教員各自の教育方法改善に役立てられている。ウェブ入力・結果の0CR読取等、実施方法の改善にも取り組んでいる。

また,前にも述べたとおり教員の昇任の際には,研究業績,教育業績,学内外における貢献度及び 学生指導状況を評価している。

国立高等専門学校機構において実施されている国立高等専門学校教員顕彰では、教員による自己評価と相互評価・学生による評価の総合評価に基づき候補者を推薦し、平成15年度には三崎幸典「ものづくり・ひとづくり教育の実践における顕著な功績」が国立高等専門学校協会会長賞を受賞している。本校では年度当初に各学科、進路指導室、共同利用施設の年度目標を運営改善委員会で作成し(観点11-3-②で説明)、取組成果を年度末に点検評価委員会で点検し、翌年度の目標に反映させる点検評価体制を取っている。また運営懇話会を開催し、教育・研究及び学校運営等について助言を求めて学校改善に役立てている(観点11-2-①で説明)。

(分析結果とその根拠理由)

毎年,国立高等専門学校機構が実施する教員顕彰に,教員による自己評価と相互評価,学生による 評価の総合評価により,候補者を推薦している。

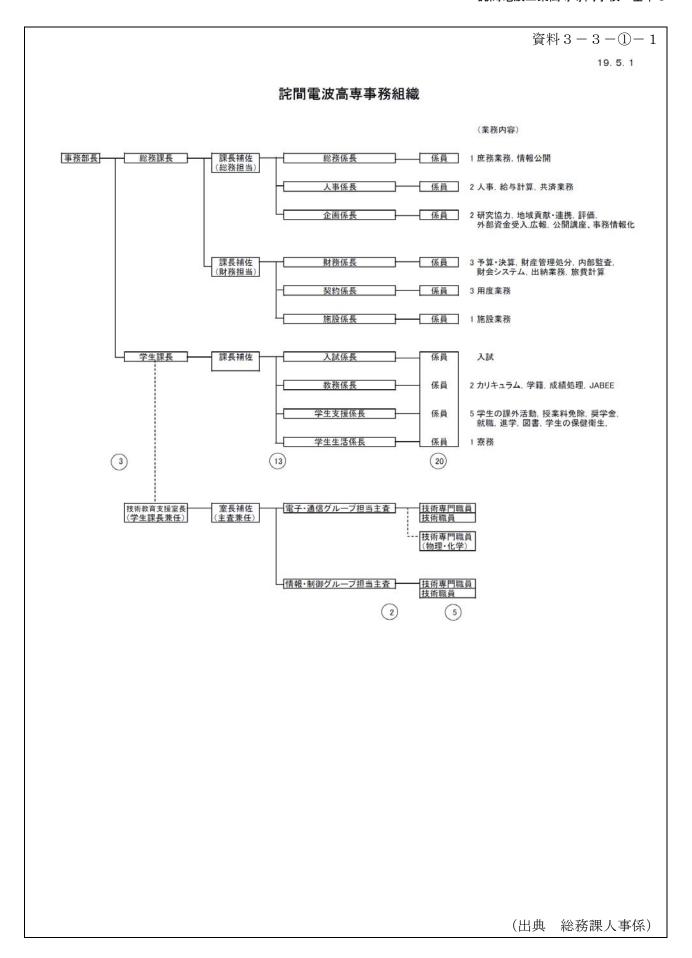
また,教育点検システムの一貫として毎年学生による授業評価アンケート,教科毎の自己点検を行っている。

教員の昇任の際には、研究業績、教育業績、学内外における貢献度及び学生指導状況を評価しており、教員の教育活動に関する評価を行う体制が整備され、実際に評価も行われている。

観点3-3-①: 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員,技術職員等の 教育支援者が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校の事務組織は、平成18年度からこれまでの3課体制を改め、総務課、学生課の2課体制で管理運営を担当している(資料3-3-①-1、2)。教育課程を担当する学生課は、学生課長、課長補佐、入試係1名、教務係3名、学生支援係6名、学生生活係2名、技術教育支援室7名からなる。技術支援室では技術専門職員及び技術職員計7名が、学生の実験・実習及び卒業研究支援、技術教育支援のための技術開発及び技術業務等を行っている(資料3-3-①-3)。学生支援係には司書を1名配置し、計画的な収書や学生に対するアドバイスを行っている。



資料 3 - 3 - ① - 2

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(1/5)

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 10条第3項及び詫間電波工業高等専門学校学則(平成16年4月1日制定)第11条の規定 に基づき、詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)における事務組織、職制及び 事務分掌に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

(事務組織)

第2条 本校事務部に、事務部長、総務課及び学生課を置く。 (職制)

- 第3条 事務部長は、上司の命を受け、事務部の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 2 総務課及び学生課に課長を置く。
- 3 課長は、上司の命を受け、当該課の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 4 課に課長補佐を置くことができる。
- 5 総務課に置くことができる課長補佐は、総務担当及び財務担当とする。
- 6 課長補佐は、上司の命を受け、課長を助け、課の事務を整理する。
- 7 係に係長を置く。
- 8 係長は、上司の命を受け、当該係の事務を処理する。
- 9 事務部に専門職員を、係に主任を置くことができる。
- 10 専門職員は、上司の命を受け、事務部の事務のうち専門的事項を処理する。
- 11 主任は、上司の命を受け、係長を補佐し、当該係の事務のうち特定の事項を処理する。
- 12 学生課に、技術専門職員を置き、技術専門員を置くことができる。
- 13 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、上司の命を受け、技術教育支援に関する業務を処理する。
- 14 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、上司の命を受け、技術教育支援に関する業務を処理する。

第3章 事務分掌

(総務課の所掌事務)

- 第4条 総務課に、次の2課長補佐及び6係を置く。
 - 課長補佐(総務担当)
 - 二 課長補佐 (財務担当)
 - 三 総務係
 - 四 人事係
 - 五 企画係
 - 六 財務係
 - 七 契約係 八 施設係
- 2 課長補佐(総務担当)においては、次の事務をつかさどる。
- 一 本校の事務に関し、連絡調整すること。
- 二 中期目標・中期計画に関すること。
- 三 各種評価に関すること。
- 四 情報公開に関すること。
- 五 労務管理に関すること。
- 六 組織に関すること。
- 3 課長補佐(財務担当)においては、次の事務をつかさどる。
 - 財務に関する企画及び分析に関すること。

資料 3-3-(1)-2

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(2/5)

- 二 予算要求に関すること。
- 三 予算及び決算に関すること。
- 四 施設設備の整備に関すること。
- 五 会計検査及び監査に関すること。
- 4 総務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 機密に関すること。
 - 二 儀式その他の会議(他の係の所掌に属するものを除く。)
 - 三 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
 - 四渉外に関すること。
 - 五 公印の制定、改廃及び管守に関すること。
 - 六 文書類の接受、発送、編集及び整理保存に関すること。
 - 七 教職員の福祉厚生に関すること。
 - 八 教職員の出張に関すること。
 - 九 校内の警備及び取締に関すること。
 - 十 沿革史等の編さん及び保存に関すること。
 - 十一 個人情報保護及び情報公開に関すること。
 - 十二 自動車の配車及び運行に関すること。
 - 十三 秘書業務に関すること。
 - 十四 後援会との連絡調整に関すること。
 - 十五 職員集会所に関すること。
 - 十六 指定統計並びに所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 十七 その他他の課、係の所掌に属さない事項に関すること。
- 5 人事係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 教職員の任免、懲戒及び服務に関すること。
 - 二 教職員の人員管理に関すること。
 - 三 教職員の給与及び手当に関すること。
 - 四 教職員の研修に関すること。
 - 五 教職員の勤務評価に関すること。
 - 六 教職員の栄典及び表彰に関すること。
 - 七 教職員の健康管理に関すること。
 - 八 教職員の業務災害及び通勤災害に関すること。
 - 九 教職員の人事記録に関すること。
 - 十 教職員の勤務時間及び休暇に関すること。
 - 十一 教職員の身分証明、その他諸証明に関すること。
 - 十二 教職員退職手当に関すること。
 - 十三 共済組合に関すること。
 - 十四 労働組合及び過半数代表者会議に関すること。
 - 十五 海外渡航に関すること。
 - 十六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十七 その他人事に関すること。
- 6 企画係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 中期目標・中期計画に関すること。
 - 二 認証評価に関すること。
 - 三 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
 - 四 産学連携及び地域連携に関すること。
 - 五. 受託研究及び共同研究に関すること。
 - 六 寄付金に関すること。
 - 七 科学研究費補助金に関すること。
 - 八 各種研究員及び研究助成に関すること。
 - 九 発明及び知的財産に関すること。

資料 3-3-①-2

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(3/5)

- 十 学術団体等との連絡調整に関すること。
- 十一 専攻科の再審査に関すること。
- 十二 広報に関すること。(学生課所掌に属するものを除く。)
- 十三 国際交流に関すること。(学生課所掌に属するものを除く。)
- 十四 公開講座に関すること。
- 十五 事務情報化に関すること。
- 十六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 十七 その他企画に関すること。
- 7 財務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 予算及び決算に関すること。
 - 二 予算要求に関すること。
 - 三 資産の管理に関すること。
 - 四 土地、建物の借入れ及び処分に関すること。
 - 五 支出契約決議(他の係の所掌に属するものを除く。)に関すること。
 - 六 教職員の安全管理に関すること。
 - 七 防災に関すること。
 - 八 職員宿舎に関すること。
 - 九 会計検査及び監査に関すること。
 - 十 会計の諸規程に関すること。
 - 十一 収入及び支出に関すること。
 - 十二 債権の管理に関すること。
 - 十三 旅費及び謝金等の支出決議に関すること。
 - 十四 給与の支給に関すること。
 - 十五 所得税等の徴収に関すること。
 - 十六 有価証券に関すること。
 - 十七 外部資金(科学研究費補助金等)の経理に関すること
 - 十八 所掌事務に関する統計調査及び報告に関すること。
 - 十九 その他他の係の所掌に属しない総務課財務関係の事項に関すること。
- 8 契約係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 資産(物品)の管理(図書館資料を除く。)に関すること。
 - 二 資産(図書を含む。)、役務等の支出契約決議に関すること。
 - 三 物品(図書館資料を除く。)の寄付受入に関すること
 - 四 構内の清掃に関すること
 - 五 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 六 その他契約に関すること。
- 9 施設係においては、次の事務をつかさどる。
 - 施設の整備計画及び環境整備に関すること。
 - 二 施設関係の予算要求資料の作成に関すること。
 - 三 営繕工事及び施設管理に係る役務の支出契約決議に関すること。
 - 四 土地、建物及び工作物等の整備、復旧及び維持保全に関すること。
 - 五 教職員の安全管理(施設)に関すること。
 - 六 資産(不動産)の管理に関すること。
 - 七 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 八 その他施設に関すること。
- (学生課の所掌事務)
- 第5条 学生課に、次の1課長補佐、4係長及び1室を置く。
 - 一 課長補佐
 - 二 入試係
 - 三 教務係
 - 四 学生支援係

資料 3-3-(1)-2

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(4/5)

- 五 学生生活係
- 六 技術教育支援室
- 2 課長補佐においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生課の事務に関し、連絡調整すること。
 - 二 JABEEに関すること。
 - 三 学生課所掌の広報に関すること。
 - 四 留学生及び学生の海外派遣に関すること。
- 3 入試係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の募集に関すること。
 - 二 専攻科の入試に関すること。
 - 三 入学者の選抜に関すること。
 - 四 編入学に関すること。
 - 五 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 六 その他入試に関すること。
- 4 教務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の修学指導に関すること
 - 二 JABEEに関すること。
 - 三 教育課程の編成及び実施に関すること。
 - 四 学位申請に関すること。
 - 五 資格取得に関すること。
 - 六 学生の校外実習等の課外教育、広報及び学校行事に関すること。
 - 七 学籍及び学業成績の記録、保存に関すること。
 - 八 学生の入学、退学、転学及び卒業に関すること。
 - 九 学生並びに卒業生の学籍及び成績等の証明に関すること。
 - 十 学生の出欠に関すること。
 - 十一 留学生及び学生の海外派遣に関すること。
 - 十二 教科書その他教材に関すること。
 - 十三 教室の管理に関すること。
 - 十四 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十五 その他教務に関すること。
- 5 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
 - 二 学生の団体、集会、掲示及びその他行事に関すること。
 - 三 学生会に関すること。
 - 四 学生の課外活動に関すること。
 - 五 学生の規律及び賞罰に関すること。
 - 六 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
 - 七 学生の保健衛生及び保健施設の管理運営に関すること。
 - 八 日本スポーツ振興センターに関すること。
 - 九 入学料の免除に関すること
 - 十 授業料の免除、月割分納及び徴収猶予に関すること。
 - 十一 奨学生に関すること。
 - 十二 学生の生活相談に関すること
 - 十三 就職指導及び就職あっ旋に関すること。
 - 十四 学生の進学に関すること。
 - 十五. 学生の旅客運賃割引及び通学証明に関すること。
 - 十六 図書館資料の管理に関すること。
 - 十七 図書館資料の選定に関すること。
 - 十八 図書館資料の閲覧及び貸出に関すること。
 - 十九 図書館資料の分類及び目録の作成に関すること。

資料 3 - 3 - ① - 2

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程 (5/5)

- 二十 図書館資料の寄付受入れに関すること。
- 二十一 研究紀要に関すること。
- 二十二 参考奉仕(検索指導、読書相談、文献の調査等)に関すること。
- 二十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 二十四 その他学生支援及び学生生活(学寮に係るものを除く。)に関すること。
- 6 学生生活係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 寄宿料の免除に関すること。
 - 二 学寮の管理運営に関すること。
 - 三 寮生の生活指導に関すること。
 - 四 寮生の集会及び諸行事に関すること。
 - 五 学寮の生活環境の整備に関すること。
 - 六 寮費等の経理に関すること。
 - 七 寮費等の出納事務に関すること。
 - 八 学生の入寮及び退寮に関すること。
 - 九 学寮の衛生管理に関すること。
 - 十 学寮の給食及び栄養管理に関すること。
 - 十一 学寮指導当直に関すること。
 - 十二 寮生の郵便物の接受及び配布に関すること。
 - 十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十四 その他学生生活(学寮に係るものに限る。)に関すること。
- 7 技術教育支援室に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

資料 3 - 3 - ① - 3

詫間電波工業高等専門学校技術教育支援室要項

(趣旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)の事務組織等に関する規程第5条 第7項の規定に基づき、技術教育支援室(以下「支援室」という。)に関し必要な事項を定め る。

(目的)

第2条 支援室においては、本校の技術に係る教育・研究活動等を支援するため、技術に関する 業務等を行う。

(組織)

- 第3条 支援室に、技術教育支援室長(以下「支援室長」という。)、室長補佐,電子・通信グループ担当主査,情報・制御グループ担当主査,技術専門職員及び技術職員を置く。
- 2 支援室長は、学生課長が兼任し、支援室を総括する。
- 3 室長補佐は、上司の命を受け、支援室の業務を処理する。
- 4 電子・通信グループ担当主査及び情報・制御グループ担当主査は、上司の命を受け、支援室の業務を処理する。
- 5 技術専門職員及び技術職員は、技術業務に従事する。 (業務)
- 第4条 支援室においては、次の技術業務及び事務をつかさどる。
 - 一 学生の実験・実習及び卒業研究の技術支援に関すること。
 - 二 技術教育支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
 - 三 技術の承継及び保存に関すること。
 - 四 技術研修に関わる調査研究に関すること。
 - 五 実験室及び実習室等の安全管理に関すること。
 - 六 実験室及び実習室等の設備・備品等の維持管理に関すること。
 - 七 その他技術業務に関すること。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

(分析結果とその根拠理由)

定員削減に対応して、事務組織を庶務、会計、学生の3課体制から総務、学生の2課体制に変え、 事務分掌も定められ十分な教育支援体制ができている。学校において編成された教育課程を展開する 為に必要な事務職員、技術職員等が適切に配置されている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

多様な経歴を持つ教員が、年齢構成上もバランス良く配置されている。学位取得者も増加しつつあり、採用及び昇格は明確な基準の下で適切に運用されている。

教員の力量を高め、学校全体としての教育力を向上させるための教員の人事交流も実施している。

(改善を要する点)

国立高等専門学校機構中期計画では、専門科目(理系の一般科目を含む。)教員のうち70%以上を博士の学位や技術士等の職業上の資格を持つ者とし、理系以外の一般科目については、修士以上の学位や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者を80%以上とすることを掲げている。本校も達成できるように努力していく。

(3) 基準3の自己評価の概要

本校の使命である「創造性ある実践的な電子情報系技術者育成」を果たし、「健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。」、「自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。」、「広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。」の3つの教育目的を達成するため、一般科目担当教員、専門科目担当教員ならびに専攻科授業科目担当教員が適切に配置されている。教員数は高等専門学校設置基準に定められた数を十分満たしている。多様な経歴を持つ教員を配置し、年齢構成のバランスもとれており、教員組織の活動をより活発化するための措置が取られている。高等専門学校設置基準に基づき教育能力や研究業績を考慮した採用や昇格等の基準も明確に定められ、適切に運用されている。

教育点検システムが構築され、学生によるアンケート、授業参観、教員の自己点検・相互点検を通 して教育活動を定期的に点検評価し、教育改善に役立てている。また、運営改善委員会、点検評価委 員会、運営懇話会といった評価体制も整備されている。

教育活動に関わる事務分掌が定められ、教育課程遂行のため教育支援者である事務職員、技術職員 が適切に配置され、教員と協力して教育の目的を達成できる体制ができている。

基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜(例えば、準学士課程入学者 選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。)の基本 方針などが記載された入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定 められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表 されているか。

(観点に係る状況)

平成17年度に入試委員会の議を経てアドミッション・ポリシーが明確に定められ、平成18年度の準学士課程の学生募集要項(資料4-1-①-1)、編入学生募集要項(資料4-1-①-2)並びに専攻科募集要項(資料4-1-①-3)に掲載され、将来の学生に配布され(資料4-1-①-4)、公表されている。アドミッション・ポリシーは入学者選抜試験実施要領の中にも記載され、入試前の教員会議において入学者選抜試験(学力)実施要領の説明の際に周知されている(資料4-1-①-5)。また、本校のウェブサイト(資料4-1-①-6)と学校要覧(資料1-2-①-1)へ掲載して本校の教職員に周知すると共に、社会に公表している。入学生に求める資質については、中学校を訪問して入試について説明する際のスライドにも記載して、説明している(資料4-1-①-7)。本校教職員のアドミッション・ポリシーについての認知度を把握するためにアンケート調査を行っている(資料4-1-①-8)。

資料4-1-①-1

本校のアドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

詫間電波工業高等専門学校は、次のような技術者を育成することを教育の目的としております。

- 1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 2. 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。
- 3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシステムを構築できる 技術者を育成する。

このような教育目的のもとに、情報通信工学科、電子工学科、電子制御工学科、情報工学科では、それぞれの専門分野の技術者を育成しています。

詫間電波工業高等専門学校では、中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し、技術者を志す次のような人を広く求めています。

- (1) 技術や科学に夢を持っている人
- (2) 自然を大切にする人
- (3) 思いやりのある人
- (4) 好奇心が旺盛な人
- (5) コミュニケーションがとれる人

入学者選抜は、以上のような観点から行います。

一般選抜入試では、国語、英語、数学、理科、社会の学力試験を課し、入試の成績および提出書類で総合的に判断します。推薦入試では、面接と提出書類から総合的に判断します。

きりとりせん

アドミッション・ポリシー

受験番号	
ふりがな	
氏 名	
記載責任者	印

	アドミッション・ポリシー	チェック欄						
番号	(本校が求める資質)	不十分	←	→	十分			
1	技術や科学に夢を持っている	1						
2	自然を大切にする							
3	思いやりがある							
4	好奇心が旺盛							
5	コミュニケーションがとれる							

*印は記入しないでください

(※注意)本校のアドミッション・ポリシー(求める資質)を確認して頂きそれぞれの項目ごとに該当する欄にチェック(レ)を入れて下さい。

(出典 平成 19 年度学生募集要項入学案内)

資料 4-1-①-2

本校のアドミッション・ポリシー (入学者受け入れ方針)

詫間電波工業高等専門学校は、次のような技術者を育成することを教育の目的としております。

- 1, 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者を育成する。
- 2, 自然の法則をよく知り, 自然との調和を図り, 人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。
- 3, 広い視野を持ち, 技術の発展に対応でき, 社会にとって有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

このような教育目的のもとに,情報通信工学科,電子工学科,電子制御工学科,情報工学科では, それぞれの専門分野の技術者を育成しています。

詫間電波工業高等専門学校では,高等学校卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し,技術者を志す次のような人を広く求めています。

- (1)技術や科学に夢を持っている人
- (2)自然を大切にする人
- (3)思いやりのある人
- (4)好奇心が旺盛な人
- (5)コミュニケーションがとれる人・

入学者選抜は、以上のような観点から行います。

一般選抜入試では、国語、英語、数学、志望学科別科目の学力試験を課し、入試の成績および提出書類で総合的に判断します。推薦入試では、小論文、面接と提出書類から総合的に判断します。

きりとりせん

アドミッション・ポリシー

受 験	番	号	*
ふり	が	な	
氏		名	
記載責	任任	者	Ħ

番号	アドミッション・ポリシー	チェック欄					
班づ	(本校が求める資質)	不十分	←	\rightarrow	十分		
1	技術や科学に夢を持っている						
2	自然を大切にする						
3	思いやりがある						
4	好奇心が旺盛						
5	コミュニケーションがとれる						

* 印は記入しないでください

(※注意)本校のアドミッション・ポリシー(求める資質)を確認して頂き それぞれの項目ごとに該当する欄にチェック(レ)を入れて下さい。

(出典 平成 19 年度編入学生募集要項)

資料4-1-①-3

入 学 案 内

1. 設置

平成16年4月

2. 目 的

本専攻科は、高等専門学校を卒業した者、または、これと同等以上の学力があると認められた者に対して、より精深な専門の学術を教授し、その研究を指導するとともに、国際化時代にふさわしい幅広く深い教養と総合的判断力を持ち、高度な技術を創造・開発する能力を有する人間性豊かな技術者を養成することを目的としています。

3. アドミッションポリシー

詫間電波高専専攻科は、電子通信システム工学、情報制御システム工学分野において、技術者倫理を身に付け、日本語および実用英語のコミュニケーション能力を持ち、充実した基礎学力を有し、創造性豊かな技術者の育成を目指します。

この趣旨に沿い、次のような人を広く求めています。

- 1. 国際的視野のもとで、電子情報技術を通して社会に貢献したい人
- 2. 専門分野のより高度な学問を修めたい人
- 3. 目標に向かって努力できる人

4. 入学定員

電子通信システム工学専攻 8名情報制御システム工学専攻 8名

5. 各専攻の内容

電子通信システム工学専攻

現在、情報は多様で豊かな表現内容を持つように求められています。つまり、情報はマルチメディア化してきています。この様な状況に対応して、通信も多様化し、従来の通信より広い意味を持ったマルチメディア通信の技術が必要になっています。本専攻では、このマルチメディア通信の分野において実践的な技術活動をする技術者を養成します。

具体的には、有線・無線のネットワーク技術、衛星通信技術、光通信技術のようなネットワーク指向の技術や、集積回路のような電子回路指向の技術、及び電子デバイスのような電子技術指向の技術分野で活動する技術者を養成します。さらに、技術者の能力としては、本科で鍛えた実践的な技術力をさらに磨きながら、独創的で創造的に新しい問題に取り組むことが出来る高度開発型技術者を養成します。

情報制御システム工学専攻

本専攻はITシステムの開発、保守運用などITシステムに関連する様々な技術側面に対応できる実践的技術者を養成することを目的としています。ITシステムはコンピュータを核としたシステムですが、その全容を理解するためには様々な工学的知識が必要であります。そのために本専攻では、ハードウェアからソフトウェアまでの幅広い工学基礎知識を持ち、電子工学、機械工学などの基盤に立ったシステム構築能力を備え、コンピュータネットワークを含むIT技術を習得した、創造性に富む実践的な高度開発型技術者を養成します。

6. 修業年限及び修了要件

- (1) 修了年限 2年(長期履修学生は4年の範囲内)
- (2) 修了要件 62単位以上及び本校で指定する修了要件を満たしていること

-8-

(出典 平成 19 年度専攻科学生募集要項入学案内)

資料 4-1-①-4

平成 19 年度学生募集要項入学案内配布先

本校での体験入学・オープンキャンパス参加者 280 部 高松での体験入学・オープンキャンパス参加者 20 部

入学者募集説明会

40 部

中学校訪問

1,005部

香川県西部 (130), 香川県中部 (290), 高松·香川県東部 (200)

徳島(180),愛媛(95),岡山(110)

中学校へ送付

622 部

香川県西部(13),香川県中部(29),高松·香川県東部(40),

徳島(83),愛媛(133),高知(93),

岡山(155), 他県(16), 各高専(54),

教育委員会等 (6)

中学生•保護者訪問 50 部

中学校からの請求 60 部

進学塾·個人請求 15 部

電波祭(学園祭) 28 部

残り 388 部

計 2,500 部

平成 18 年度編入学生募集要項配布先

香川県西部(6),香川県中部(16),高松·香川県東部(23),徳島県(12),

愛媛県(8), 高知県(5), 岡山県(10), 広島県(7),

山口県(12), 島根県(4), 鳥取県(5), 京都府(3),

滋賀県(4),大阪府(18),兵庫県(9),和歌山県(4),

三重県(7), 奈良県(3), 熊本県(14)の工業高校,

各高専(23), 高専機構(2)

平成 18 年度専攻科学生募集要項入学案内配布先

各高専(29),四国地区企業(21)

準学士課程の学生 (38) 計 88 部

(出典 学生課入試係)

資料4-1-①-5

平成18年度第17回教員会議議事要録の抜粋

日 時 平成19年2月13日(火) 16時15分~17時00分

場 所 第1会議室

出席者 別紙のとおり

- 1. 校長連絡事項 (内容は省略)
- 2. 教務関係連絡事項
 - (1) 教務関係 (内容は省略)
- (2) 入試関係

三崎教務主事補から,次の事項について説明等があった。

- ①推薦入試の結果について
 - ・推薦入試結果の報告があった。

応募者 情報通信工学科 16名, 電子工学科 30名,

電子制御工学科 6名,情報工学科 23名 計 75名

- ・昨年より15名増であったこと。応募者は昨年より増加したが、各学科のばらつきが大きく定員16名×4学科=64名にもかかわらず21名の不合格者が出たこと。
- ・他高専の推薦基準,推薦合格者数を調査し,入学試験委員会で検討する必要があること。
- ・合格内定者について報告があった。

内定者 情報通信工学科 16名,電子工学科 16名,

電子制御工学科 6名,情報工学科 16名 計 54名

- ②入学者選抜試験(学力検査)について
 - ・資料 平成19年度入学者選抜試験(学力)実施要領,同監督要領に基づき,説明があった。

(- 以下省略 -)

資料4-1-①-6 🌌 詫間電波高専 アドミゥション・ポリシー - Microsoft Internet Explorer ファイル(E) 編集(E) 表示(Y) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H) ◆戻る・→ - ② ② △ □ ②検索 函お気に入り ③メディア ③ □ □ ■ ■ ・ 🗐 アドレス(D) @ http://www.takuma-ct.ac.jp/nyuushi/admissionpolicy.htm ▼ 🔗移動 ■詫間電波工業高等専門学校■ アドミッション・ポリシー (準学士課程入学者の受け入れ方針) 詫間電波工業高等専門学校は、次のような技術者を育成することを教育の目 的としております。 1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる 技術者を育成する。 2. 自然の法則をよく知り,自然との調和を図り,人類の福祉に寄与できる技術者を育成する。 3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって有益なシス テムを構築できる技術者を育成する。 このような教育目的のもとに,情報通信工学科,電子工学科,電子制御工学 科,情報工学科では,それぞれの専門分野の技術者を育成しています。 詫間電波高専では、中学卒業生としての基礎学力と学習意欲を有し、技術者 を志す次のような人を広く求めています。 (1) 技術や科学に夢を持っている人 (2) 自然を大切にする人 (3) 思いやりのある人 (4) 好奇心が旺盛な人 (5) コミュニケーションがとれる人 入学者選抜は,以上のような観点から行います。 一般選抜入試では,国語,英語,数学,理科,社会の学力試験を課し,入試 の成績および提出書類で総合的に判断します。推薦入試では,面接と提出書 類から総合的に判断します。 専攻科のアドミッション・ポリシー 詫間電波工業高等専門学校専攻科は,電子通信システム工学,情報制御シ ステム工学分野において、技術者倫理を身に付け、日本語および実用英語の コミュニケーション能力を持ち,充実した基礎学力を有し,創造性豊かな技術 者の育成を目指します。 この趣旨に沿い、次のような人を広く求めています。 (1) 国際的視野のもとで、電子情報技術を通して社会に貢献した い人 (2) 専門分野のより高度な学問を修めたい人 (3) 目標に向かって努力できる人 ② ページが表示されました ● インターネット

(出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/nyuushi/admissionpolicy.htm)

資料 4-1-①-7

中学校訪問時の入試説明スライド



本校の教育目的:養成すべき人材像

- 1. 健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に
- 活躍できる技術者を育成する。 2. 自然の法則をよく知り、自然との調和を図り、人類の福 祉に寄与できる技術者を育成する。
- 3. 広い視野を持ち、技術の発展に対応でき、社会にとって 有益なシステムを構築できる技術者を育成する。

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)

詫間電波高専では、中学卒業生としての基礎学力と学習意 欲を有し、技術者を志す次のような人を広く求めています

- (1) 技術や科学に夢を持っている人
- (2) 自然を大切にする人
- (3) 思いやりのある人
- (4) 好奇心が旺盛な人
- (5) コミュニケーションがとれる人



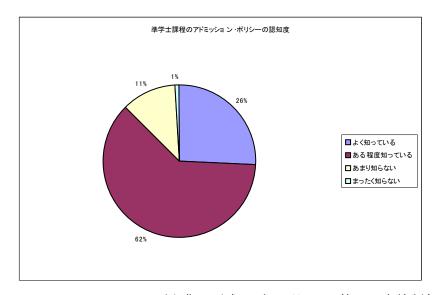
(出典 中学校訪問,入試説明会スライド)

資料4-1-①-8

アドミッション・ポリシーの認知度

(2007年3月 アンケート調査実施)

	アドミッション・ポリシー												
常勤 教職員		程のアドミッ 方針)を知・				のアドミッシ 5針)を知っ		一(受入れ 。	専攻科課	程のアドミッ 方針)を知・	ッション・ポリ っていますヵ	シー(受入 か。	回答数
	よく知ってい る	ある程度知っ ている	あまり知らな い	まったく知らな い	よく知ってい る	ある程度知っ ている	あまり知らな い	まったく知らな い	よく知ってい る	ある程度知っ ている	あまり知らな い	まったく知らな い	
総務課	3	14	6	1	3	8	11	2	2	12	9	1	24
学生課	10	11	0	0	5	7	8	1	9	10	2	0	21
一般	3	15	1	0	3	10	5	1	3	11	5	0	19
情報通信	2	7	2	0	0	5	5	1	0	8	3	0	11
電子	3	7	0	0	2	6	1	1	2	6	2	0	10
電子制御	1	6	2	0	1	3	4	1	1	6	2	0	9
情報	5	5	1	0	2	4	5	0	4	5	2	0	11
計	27	65	12	1	16	43	39	7	21	58	25	1	105
П	25.7%	61.9%	11.4%	1.0%	15.2%	41.0%	37.1%	6.7%	20.0%	55.2%	23.8%	1.0%	100.0%



(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーは明確に定められ、学生募集要項、編入学生募集要項並びに専攻科募集要項に「技術や科学に夢を持っている人」のように中学生にも分かり易い表現で掲載されている。教員に対しては、入学者選抜試験実施要領の中に記載して教員会議の席で周知されている。また、ウェブサイト、学生募集要項、学校要覧に記載されて、将来の学生を含め社会に公表されている。アドミッション・ポリシーとして入学生に求める資質が記載された学校要覧は全教職員に配布され、教員以外の職員にも周知されている(資料 4-1-①-8)。

観点4-2-①: 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の推薦入試実施要綱並びに学力入試実施要綱、編入学の推薦入試実施要綱並びに学力入 試実施要綱、専攻科課程の推薦入試実施要綱並びに学力入試実施要綱が定められ、アドミッション・ ポリシーに沿って面接や書類審査などが行われており入学者選抜が適切に実施されている。

アドミッション・ポリシーに記載された入学生に求める資質については、準学士課程の推薦入試 (資料4-2-1-1)、編入学の推薦入試と学力入試(資料4-2-1-2)、専攻科課程の推薦 入試と学力入試(資料4-2-1-3)の面接で、資質を備えているかどうかの検査を行っている。

準学士課程推薦入試について(1/2)

平成18年度 第12回拡大入学試験委員会議事要録

日 時 平成19年1月17日(水) 16時20分から17時15分

場 所 図書館会議室

出席者

欠席者 なし

議題

1. 平成19年度入学者選抜について

■■教務主事補から別紙資料「平成19年度入学者選抜試験(推薦)実施要領等」に基づき説明があり、審議の結果、原案どおりで了承された。

続いて、 教務主事補から口頭試門事項を記録に残したい旨と、面接の評定が確定しだい至急入試係に連絡の依頼あった。

なお、電子工学科・情報工学科は受験者が多いので、2室で別紙面接順番表ですることとなり、追加面接官は電子工学科(情報工学科は追加なしで実施することになった。

- ・ 委員長から本校のアドミッション・ポリシーの確認の報告があった。
- ・ 障害生徒の受験について

推薦選抜の出願資格 (4) 人物が優れ、<u>健康であること。</u> 健康であることについては、推薦選抜試験の実施に際して、身体上特段の配慮を 要しない者を「健康である」と解釈するものとする。

入学試験委員会

教務主事補から別紙資料「平成19年度入学者選抜試験(学力)実施要領等」に基づき説明があり、審議の結果、原案どおりで了承された。

続いて、チャイム故障を想定、検査室の監督者のうち1名をタイムキーパーとし、 検査開始・終了等の時刻に誤りがないことを確認させることとなった。

■■教務主事補から別紙資料「平成19年度入学者選抜試験(学力)監督要領」に 基づき説明があり、別紙のとおり一部分追加し、了承された。

2. その他

・平成19年度年間行事予定表について

委員長から別紙資料「平成19年度年間行事予定表」に基づき説明があり、 別紙のとおり一部分日程変更し、了承された。

平成19年度準学士課程推薦入試について(2/2)

平成18年度 第13回拡大入学試験委員会議事要録

日 時: 平成19年1月22日(月)16:15~17:00

場 所:図書館会議室

411430

BANK SHIP . BANKETS . DR SHIP . GR CERT ATTEN

議 事:

1. 平成19年度入学者選抜(推薦)の合否について

平成19年度入学者選抜(推薦)の合格者の判定について審議された。

情報通信工学科から順次面接評価・総合所見及び口頭試問内容についての報告があり、 続いて推薦入学審査表により個々の合否判定が行われた。その際、アドミッションポリシーに 掲げた入学者に求める資質については、全員が要件を満たしていることを面接総合評定票の項目をもと に確認された。

審議の結果、別紙のとおり合格内定者を決定した。 以上を委員長が校長に報告、説明の結果合否を決定した。

2. その他 なし。

平成19年度編入学試験について(1/2)

平成18年度 第8回拡大入学試験委員会議事要録

日 時: 平成18年8月22日(火)14:00~14:30

場 所:図書館会議室

MARKSON CYCL TYPE

欠席者:

議事

1. 平成19年度編入学試験(推薦)の合否について

委員長から、平成19年度編入学試験(推薦)受験者の合否判定資料に基づき、説明があった。

学科長から意見・意向等を踏まえ慎重に審議した結果、下記の項目によって次のとおり 合否を決定した。



情報通信工学科 受験番号 1001 合格

以上を委員長が校長に報告、校長の決裁を受けて、合否を決定した。

2. その他

- (1) 委員より、オープンキャンパス・体験入学(高松)開催にあたり、各学科で使用する机・椅子、本校から出席する教員・学生数の報告があった。また、荷物の積込みに対して協力の依頼があった。
- (2) 委員より、先日の体験入学に対して各コーナー最初出発時間が早かったので、 来年度には検討してほしい依頼があった。

平成19年度編入学試験について(2/2)

平成18年度 第9回拡大入学試験委員会議事要録

日 時:平成18年8月24日(木)15:00~15:35

場 所:図書館会議室

出席者:

MARKET, AND US. HAR STATEMENT

欠席者:

議事

1. 平成19年度編入学試験(学力)の合否について

委員長の指示により、電子制御工学科長から別紙面接総合評定票の所見の報告があり、全員アドミッション・ポリシーに合致している。

各意見・意向等を踏まえ慎重に審議した結果、合否を決定した。

以上を委員長が校長に報告、校長の決裁を受けて、合否を決定した。

2. その他 なし

平成19年度専攻科入学試験について(1/2)

平成18年度 第3回拡大入学試験委員会議事要録

日 時:平成18年5月29日(月)16:15~17:05

場 所:図書館会議室

出席者:南平等等景。和下、三吨、磁车、恒、闸闸、闸闸、闸门、闸门、闸门、闸

建一个人的

MER CHAST - MIR THER PARTIES - MARRIED THE MARRIED.

IN A STREET . COM DESIGNATION.

欠席者:

議事

1. 平成19年度専攻科推薦入試の合否判定について

委員長の指示により、電子通信・情報制御システム工学専攻主任から審査書に基づき面接結果について説明がなされた。アドミッションポリシーに掲げた入学者に求められる資質については、面接総合評定票をもとに説明がなされ、要件を全員が満たしていることが報告された。



なお、電子通信システム工学専攻の募集人員は8名であるが、本校のホームページでは、 学力による選抜は募集する旨を掲載することとなった。

電子通信システム工学専攻 受験番号 102~109 合格 受験番号 101 不合格 情報制御システム工学専攻 受験番号 201~205 合格

本委員会の意向を踏まえ、委員長が校長に報告、説明の結果、了承を得た。

----- 以下, 省略 -----

平成19年度専攻科推薦入試、学力入試について(2/2)

平成18年度 第5回拡大入学試験委員会議事要録

日 時: 平成18年7月27日(木)10:00~11:40

場 所:図書館会議室

第17年前

Mer chair , large chair exception , balorieros, coloranteros,

欠席者:

議事

1. 平成19年度専攻科入試(学力)合否判定について

電子通信システム工学専攻主任、続いて情報制御システム工学専攻主任から面接試験結果ついて審査書に基づき説明がなされた。両専攻ともアドミッションポリシーの適性に欠ける受験生はいなかった。

委員長から、合格者数、選考方針、審査方法についての基本方針が確認された。

電子通信システム工学専攻受験番号303・304合格リ受験番号301・302不合格情報制御システム工学専攻受験番号402・404~407合格リ受験番号401・403・408不合格

以上を委員長が校長に報告、校長の決裁を受けて、合否を決定した。

2. 体験入学実施要領(案) について

続いて入学試験委員会に入り, 委員より配付資料の「体験入学」実施要領(案) 及び高松オープンキャンパス・体験入学実施案について説明があり、変更・追加事項等があれば早急に連絡するよう依頼があった。

なお、当日配付資料で各学科のパンフレットに学科の目標を入れることとなった。又高松オープンキャンパスでの各学科テーマは2項目で7月末までに連絡及び応援学生の名簿を提出するよう依頼があった。

3. 平成19年度編入学者選抜実施要領(案)について

委員より配付資料の平成19年度編入学者選抜実施要領(案)について説明があり、 空白部分・変更及び追加事項等があれば早急に連絡するよう依頼があった。

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程,編入学,専攻科課程の入学者選抜の入試実施要綱が明確に定められ,実施要綱にした がって入学者選抜が適切に実施されている。 観点4-2-②: 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行 われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立ててい るか。

(観点に係る状況)

アドミッション・ポリシーに沿った資質と学力とが適切に評価できているかどうかを入学試験委員 会において検証し、準学士課程における推薦入試基準の見直しを行っている(資料4-2-2-1)。 中学校での成績と入学後の本校での成績の相関関係の調査結果を基に学力入試における入学者選抜の 改善を図っている(資料 $4-2-2-2-2\sim4$)。

専攻科課程の学力入試におけるTOEIC400点以上の受験者に対する英語の学力検査の免除と得点への 換算の見直しを行い、入学者選抜の改善を図っている(資料4-2-②-5~7)。

資料 4-2-2-1

推薦入試基準見直しに関する入学試験委員会議事要録 (1/2)

平成18年度 第1回入学試験委員会議事要録

平成18年5月1日(月) 16時15分から18時10分 日時

場所 図書館会議室

出水、松下、油水、二烷、油、蒸油、洗油、水上、油干 (水油)、油干干干水 出席者 4.00

欠席者

議題

- 1. 平成18年度の取り組み(目標)・・・高松での体験入学の実施について
 - ■委員から, 別紙資料に基づき「平成18年度体験入学提案」について次のと おり説明があった。
 - ・6月の平日に会場を借上げてロボコン・簡単ロボット(プロコン含む)教室を 行い, 借上バスにて来場(小学校3校)してもらう。
 - ・8月26日(土)に体験入学を実施、午前は小学生、午後は中学生向けとする。
- 2. 年間行事予定について

■委員から、別紙資料に基づき平成18年度入学試験委員会予定の報告があっ た。

- 途中省略 -

6. その他

- 委員長から,池田地区(徳島県)で四国5高専(除弓削)で合同入学試験 を実施するにあたって参加の要・否について提案があり、検討した結果、参加 しないこととなった。
- 委員から、別紙平成19年度編入学募集要項・学生募集入学案内の説明が あり原案どおり作成し、なお、別紙の身体に障害を有する入学志願者との事前 相談を追記することとした。
- 委員から, 本年度専攻科学力試験の専門科目の問題作成は, 情報通信工学 科は電子回路,電子工学科は電磁気学,電子制御工学科は電気回路の依頼があ った、なお、数学・英語も長岡委員から科目主任に依頼する報告があった。
- 委員から、別紙推薦基準の見直しについて説明があり、検討した結果、本 年度より「第2学年及び第3学年における5教科(国・社・数・理・英)の5 段階評定で平均が3.8以上の者」に決定した。

推薦入試基準見直しに関する入学試験委員会議事要録(2/2)

平成18年度 第4回入学試験委員会議事要録

日 時:平成18年6月22日(木)16:15~17:40

場 所:図書館会議室

MICHAEL MYSER.

欠席者:

議事

1. 平成19年度推薦(本科)の出願資格について

委員長より推薦(本科)の出願資格について,第2回の入学試験委員会では. 第2学年及び第3学年における5教科(国・社・数・理・英)の5段階評定 平均が3.8以上であることと決定していたが,校長の意向もあり別紙資料を 参考に再度検討した結果,<u>第3学年</u>における5教科(国・社・数・理・英) の5段階評定平均が4.0以上であることと決定した。

2. 平成19年度専攻科入試(学力・社会人) 実施要領(案) について 委員から、別紙資料のNo1-1~4に基づき「平成19年度専攻科 入学者選抜試験(学力による選抜・社会人特別戦選抜)実施要領」について説明があり、案どおり了承された。

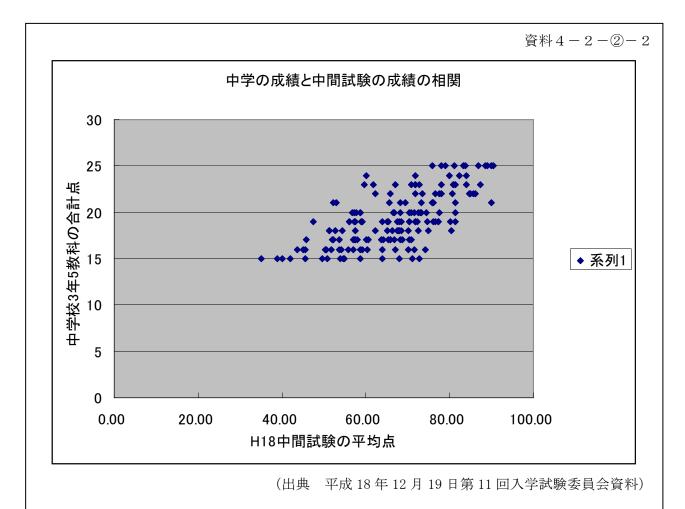
3. その他

- (1) 委員から、別紙資料の三野津中学生徒の職場体験学習について、本校においても機会を与えてほしい旨の要望がある旨紹介があり、学生募集にもつながることから、入試委員会としても前向きに協力することとなった。
- (2) 委員から、別紙の学生募集ポスターについて各学科の写真の変更依頼をしていたが、要望がなかったので印刷する旨の報告があった。
- (3) **委員から**,別紙の学校案内について各学科に写真等の変更がある場合は,来週中までに連絡するよう依頼があった。
- (4) 委員から、8月26日(土)実施の体験入学における変形 労働時間(参加教員は未定)について、対処してもらいたい旨の依頼があ り、学生課長が総務課と検討することになった。 (その後、1ヶ月前までに参加教員を取りまとめて総務課人事係に変更依

(その後、1 $_{7}$ 月前までに参加教員を取りまとめて総務課人事係に変更依頼することとなった。)

(5) **委員から**,学校紹介用DVD作成の撮影等について,準備等があるので事前に連絡をしてほしいと要望があった。

(出典 本校グループウェアのサーバ内の各種委員会議事要旨より)



平成18年度入学者選抜検査データと定期試験データの相関について(1/3)

1. 目的

平成 18 年度入学者の入学者選抜検査データと入学後の定期試験のデータの相関を調べ、入学者選抜方法の妥当性を検証する。

- 2. データの解析
- 2. 1 入学者選抜試験の基礎データ

平成18年度の入学者数はつぎのとおりである。

	情報通信 工学科	電子工学科	電子制御 工学科	情報工学科	合計
推薦入学者	10	16	9	16	51
学力入学者	31	25	32	25	113

資料 4-2-②-3

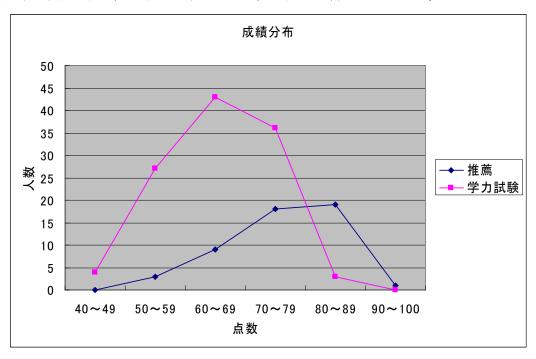
平成18年度入学者選抜検査データと定期試験データの相関について(2/3)

2. 2 前期期末試験の得点分布と平均

下表は平成18年度入学者の前期期末試験の得点分布である。

	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89	90~100
推薦入学者	0	3	9	18	19	1
学力入学者	4	27	43	36	3	0

(注) 推薦入学者のうち、1名は退学したため、上記表に含まれていない。



下表は平成18年度入学者の前期期末試験の平均点である。

	平均
推薦入学者	76. 8
学力入学者	65. 1

2. 3 入試データと定期試験データの相関

(1) 相関の意味

2 つのデータ群の相関係数は-1 から 1 の値を持ち、負の値のとき、負の相関を持つ。正の値のとき、正の相関を持つ。その絶対値の意味は下表のとおりである。

相関係数	意味
0~0.2	ほとんど相関関係がない。
0.2~0.4	やや相関関係がある。
0.4~0.7	かなり相関関係がある。
0.7~1	強い相関関係がある。

資料4-2-②-3

平成18年度入学者選抜検査データと定期試験データの相関について(3/3)

(2) 推薦入学者

推薦選抜検査は調査書と面接の合計で行われる。推薦選抜検査と前期期末試験の相関は以下のとおりである。

			相関係数
調査書+面接	:	前期期末試験	0. 55
調査書	:	前期期末試験	0. 54
面接	:	前期期末試験	0. 16
調査書	:	面接	0. 17

(2) 学力入学者

学力選抜検査は調査書と学力試験の合計で行われる。学力選抜検査と前期期末試験の相関は以下のとおりである。

			相関係数
調査書+学力試験	:	前期期末試験	0. 32
調査書	:	前期期末試験	0. 48
学力試験	:	前期期末試験	0. 14
調査書	:	学力試験	0. 22

3. 考察

3. 1 推薦選抜検査

前期期末試験において,推薦入学者は学力入学者より,平均で約12点高い得点を得ており,成績優秀者を選抜しているといえる。

また,推薦選抜検査(調査書と面接の合計)と前期期末試験の相関係数は0.55であり、かなり相関がある。したがって,推薦選抜検査は妥当であるといえる。

3.2 学力選抜検査

学力選抜検査(調査書と学力試験の合計)と前期期末試験の相関係数は0.32であり、やや相関がある。したがって、学力選抜検査はほぼ妥当であるといえる。

なお、調査書と前期期末試験はかなり相関がある(0.48)ため、調査書の配点比率を上げると、相関係数は向上する。試みに、現在の配点比率(調査書■■■点、学力試験■■■点)を等分比率(調査書500点、学力試験500点)にしたときの相関係数を計算すると、0.43となる。

(出典 平成 18 年 12 月 19 日第 11 回入学試験委員会資料)

平成18年度 第11回入学試験委員会議事要録

日 時 平成18年12月19日(火) 16時20分から18時10分

場 所 図書館会議室

出席者

欠席者

議題

1. 中学校訪問の結果について

まず、 委員長から、別紙配布資料に基づき中学校訪問について報告があり、続いて各委員から順次報告があった。全体として募集はやや良い感じであった。

- 2. 平成19年度入学試験について
 - (1) 教務主事補から別紙資料「平成19年度入学者の選抜に関わる事前協議 事項」に基づき説明があり、原案どおりで了承された。
 - ・推薦面接の学科選出及び一般選出教員を,12月26日までにメールで 教務主事補まで連絡するよう依頼があった。
 - ・3月2日の面接及び入学説明会会場については、昨年どおり図書館及び第二体育館で実施する報告があり、面接官割当のため来年度の1年担任・副担任の一般教科教員を、数務主事補まで連絡するよう依頼があった。 続いて、委員長から別紙の日程表・日程調整表・志願者状況及び県内の生徒・児童数の報告があった。
 - (2) 教務副主事より別紙資料「平成18年度入学者選抜検査データと定期試験データの相関について」に基づき次の説明があった。推薦入学者と学力選抜入学者の定期試験の得点分布から、推薦入学者は学力選抜入学者よりも定期試験の成績がよいこと、中学の内申書の成績と定期試験の成績はかなり相関があること、学力試験の得点と定期試験の成績は殆ど相関がないと説明された。学力選抜においては中学の内申書の点数と学力試験の得点の和で合否を判定しているが、前述のことより内申書の配点を高くすべきかどうか審議した。その結果、検定や他の要素についても分析する必要があるので、「推薦・学力の採点基準」については、昨年どおりで行うことで了承され、来年度再検討することとなった。
 - (3) 委員長から、アドミッションポリシーを認識してもらうために、入学者 選抜試験要領の中に掲載して、入試直前の教員会議で周知することが提案され、協議の結果了承された。
- 3. 平成20年度専攻科学生募集要項(案)について 長岡委員から、別紙「平成20年度専攻科学生募集要項・入学案内」に基づき説明 があり、別紙のとおり一部分訂正し、了承された。

平成16年度第9回専攻科委員会議事要録

日 時: 平成16年12月9日(木)14:00~16:00

場 所: 図書館会議室

出席者: 住友専攻科長, 福間副専攻科長, 森本専攻主任, 野中専攻主任, 細谷委員,

新庄委員, 高木委員, 田嶋委員, 金澤委員, 教務主事, 学生課長

議事

1. 平成18年度専攻科募集要項について

福間副専攻科長より別紙資料に基づき、平成18年度専攻科募集要項の具体的な内容 の説明及び確認があった。

- ○英語の試験免除制度の追加について
 - ・TOEIC において、400点以上の取得者は英語学力検査を申し出により免除する。
 - ・その際成績は満点として扱う。
- ○募集要項は入試委員会にかけて、正式に決定する。
- 2. 来年度年間行事予定表について

専攻科修了式に学位授与取得の連絡が学生にできるようにするためには、2月中に 学位授与機構に単位修得証明書を提出する必要がある。そのため、専攻科2年生の単 位認定を2月中に行い、2月末日までに学生に単位修得証明書を発行することとした。

また、授業時間数の確保が問題となり、年間30週を確保できるということを前提として来年度行事予定表(案)を検討した結果、下記のとおりとなった。

2月15日(水) ----- 成績評価表提出

2月23日(木) ----- 予備審査

2月24日(金) ------ 修了審査

3. 専攻科2年生の特別講義について

学位授与機構に出した特別研究担当者が,交代で一人1回の講義をすることとし, 各学科より各3名(専攻科長,副科長,主任以外)だしてもらうこととした。

4. 来年度, 専攻科授業の講義室について

次回検討する。

5. 特別研究の指導体制について

次回検討する。

6. その他

國井教務主事より、専攻科棟の建設について、現在図面を作成している段階であり、 教官室及び講義室は各2部屋になる旨の現状報告があった。

平成17年度 第7回拡大入学試験委員会議事要録

日 時:平成17年7月28日(木)10:00~11:00

場 所:図書館会議室

出席者:圖中圖圖具、圖子、圖具、圖圖、圖圖、圖圖、圖圖、圖具、圖具、

A-10 (1-10 PK

U.S. Div. And Salvini, Addition, 1984 Engine, 201 (School

欠席者:

議事

1. 平成18年度専攻科学力入試の合否判定について

委員長から、合格者数、選考方針、審査方法についての基本方針が確認された後、席上配布資料に基づき、平成18年度専攻科学力入試受験者の合否について次のとおり審議を行った。

まず,電子通信システム工学専攻主任,続いて情報制御システム工学専攻主任から 審査書に基づき説明があった。両専攻ともアドミッションポリシーの適性に欠ける受 験生はいなかった。

第2志望の関係で、まず情報制御システム工学専攻について、専攻及び学科の意見 ・意向等を総合して慎重に審議した結果、5名全員を合格とする。

次に,電子通信システム工学専攻について,専攻及び学科の意見・意向等を総合して慎重に審議した結果,上位4名を合格とする。

本委員会の意向を踏まえ、委員長が校長に報告、説明の結果、了承を得た。

TOEIC の得点 を英語の入試得点 に置き換えているが、来年度に向けて検討を要することとなった。

2. その他

- ① 学生課長から、高専機構からの「入学者選抜の実施体制の検討状況について(依頼)」文書について説明があり、別紙2の各項目の現状を教務部で記入して次回委員会で検討することとした。
- ② 学生課長から「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律の施行により学生募集要項等への記載が必要となる事項について(通知)」文書について説明があった。審議の結果,募集要項1頁の本校の使命の下に掲載することで了承された。
- ③ 教務主事補から、配付資料の「平成18年度編入学者選抜実施要領」、「体験 入学参加者名簿」について説明があった。
- ④ 学生課長から,配付資料「平成17年度体験入学・オープンキャンパス必要経費」 については、予算措置ができた旨の報告があった。

また、補助学生については、「学生表彰規程」により一人1日1、000円の図書カードを補助するため、推薦者を5学科まとめて、学生課から8月24日の学科長会議に報告する旨説明があった。

資料4-2-②-7

平成17年度 第13回入学試験委員会議事要録

日 時 平成17年9月29日(木) 14時00分から14時50分

場 所 図書館会議室

出席者

欠席者

議題

1. 平成18年度入学者募集説明会について

教務主事補から、別紙資料に基づき入学者募集説明会の変更点等について説明があった。

学生の学校紹介については、15日の企画運営委員会で了解を得たので実施することとなった。学生の選出については、学科ごとでなく分野ごと(別紙資料)に選出することで了承された。

また、各学科の入試委員は時間の許す限り出席することとなった。

日程については、時間の関係で学科長の説明時間を5分とし、説明の順番を一部変 更することで了承された。

2. その他

委員から、12月12日又は13日の午後に香川県高校教育研究会の「情報教育について」の研究会を本校で開催したい旨の依頼について説明があった。併せて■教員に講師の依頼、本校の施設等(各学科)の見学の依頼について説明があり、了承された。

委員から、平成19年度専攻科入試に関する次の3件についての意見をメールで連絡いただくよう依頼があった。

- ・社会人特別選抜を推薦入試と同日に行なうことについて
- ・英語の学力試験におけるTOEIC400点以上取得者の取扱いについて
- ・推薦による選抜の人数枠について

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程の推薦入試では推薦基準を上位15%以内としていたが、少人数校では曖昧な基準となるため理科、数学、国語、英語、社会の5教科の5段階評価で4.0以上と改め、推薦入試におけるアドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れが行われるよう改善を行っている。また、学力入試では中学3年次の5教科の5段階評価成績と学力入試成績を総合して選抜を行っているが、5教科の5段階評価成績と入学後の定期試験の成績とを検証した結果両者に相関関係が存在することが認められたので、内申書の5段階評価成績と学力入試成績の比率の見直しを入試委員会において検討している。アドミッション・ポリシーに沿った学生受け入れ実態の検証結果が入学者選抜の改善に役立てられている。

観点4-3-①: 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程は,160名の入学定員に対して平成15年度から平成17年度は168名の入学者,平成18,19年度は164名が入学している。

専攻科課程は、16名の入学定員に対して平成16年度は20名、平成17年度は20名、平成18年度20名が 入学している。

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程は、平成15年度から平成17年度の入試では入学辞退による定員割れを防ぐために各学科40名の定員に対し42名、平成18、19年度は41名を合格させている。過去5年間に渡り入学辞退者が出なかったため、平成18年度からは合格者を168名から164名に減らしたことにより、実入学者数と入学定員数がより近づき適正化が図られている。

専攻科課程は、少人数教育という特徴を維持しながら入学辞退による定員割れを防止するために、 推薦入試で12名以内、学力選抜で8名以上、計24名以内を合格させる方針で入試を実施してきた。入 学辞退者が出なかったため実入学者数が入学定員を上回っている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

アドミッション・ポリシーが明確に定められており,アドミッション・ポリシーに沿った学生の受 入を行うために実施要項が作成され,入学者選抜が適切に実施されている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準4の自己評価の概要

準学士課程,専攻科課程ともに教育目的を達成するために必要な資質と学力を備えている学生を受け入れるためのアドミッション・ポリシーが明確に定められ,学生募集要項,学校要覧,Webサイトに掲載されている。準学士課程のアドミッション・ポリシーは,中学校訪問や入試説明会において中学生や中学校教諭に説明がなされている。

本校の教職員にも学生募集要項,学校要覧でアドミッション・ポリシーが周知され,入試委員会に おける合否判定ではアドミッション・ポリシーに則した実施要項によって入学者選抜が適切に実施さ れている。

入試委員会では、準学士課程における推薦基準見直しや学力入試における内申書の成績と入試の成績の比率改正を中学校での成績と入学後の成績との相関を検証した結果に基づいて審議しており、入学者選抜の改善を図っている。

準学士課程では入学定員に平成17年度までは5%増,平成18年度からは2.5%増の実入学者数となっており入学定員と実入学者数の適正化が図られている。専攻科課程では,入学定員に対して25%増の実入学者数となっており,適正化を図る余地がある。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①: 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置(例えば、一般科目 及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、 教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課 程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっている か。

(観点に係る状況)

本校は、一般科目と専門科目の授業時間配当を各学科とも同じとして、いわゆる楔形科目配置(資料 5-1-(1-1) を行っている。授業概要と開講科目の時間割を示す(資料 5-1-(1-2-8) 。教育課程(資料 2-1-(1-5) の編成では、まず $1\cdot 2$ 学年に全学科共通の理数系一般科目と専門科目を配置して、本校の使命とする「電子情報系技術者の育成」の基礎としている。そして、第 3 学年からは専門科目を学科ごとに設定して、専門分野別の技術者教育を実施する編成としている。

資料 5-1-①-1

一般科目と専門科目の学年配当

	1 学年	2学年	3学年	4 学年	5学年
一般科目	28	26	18	7	6
専門科目	6	8	16	28	29
特別活動	1	1	1	0	0
一週計	35	35	35	35	35

(時間)

(出典 授業時間割から集計)

資料 5-1-①-2

一般科目の概要と授業内容

1. 概要

21 世紀を迎えた現代は、過去のどの時代にも見られないほど科学・技術が発達し、また国際化が進んできた。それに比して、人間性はむしろ希薄となり、個人の能力を超えて発達していく科学・技術によって従来の価値観が変えられ、その急激な変化にとまどいを感じている人が少なくない。一方、教育現場では対人関係やアイデンティティの問題にうまく適応できない学生をはじめ、新たに様々な問題が生じているのが現状である。

いかに科学・技術が発達しても、その科学・技術を用いる人間そのものが、優れた識見と豊かな人間性を備えていなければならないということは過去の歴史が明確に示しているところである。ところが、今日の社会では、すべての分野で細分化と専門化が進行しており、その結果、学校教育もまた細分化、専門化がなされている。これは全人教育という面において少し軽視される状況が出てきているのではないかと我々は危惧している。

そうした点から、本校においては「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成(学校教育法第70条の2、本校学則第 1条)」する専門教科とあいまって、豊かな人間性と優れた識見を備えた学生を育成することが、一般教科に課せられた教育理 念と捉えている。

本校の校訓には「志操高く、視野広く、身体たくましく、基礎学力を深め、創造的能力を磨き、汝の使命の達成に命をかけて生きよ」と謳っているが、まさにこれこそ、一般教科の目指す目標なのである。

高等専門学校は、中学校を卒業した若い15歳の学生を受け入れ、僅か5年間で社会人として必要な一般教養を修得させ、専門の学芸と職業に必要な能力を身につけさせ、専門の技術者として実社会へ送り出さなければならないので、大学等に比して一般教科の任務は重大である。

更に、一般教科では新指導要領によるゆとり教育等の導入を踏まえて、教科内容を点検し、見直しすることが行われている。

2. 授業内容

本校の一般科目では、人間教育、人格形成を重視し、志操高く、視野広い人間を育成するために、国語、歴史、哲学、倫理・社会、政治・経済、法学、地理の緒科目、健全な心身を形成するために体育科目、豊かな情操を育てるために美術、音楽、書道の芸術科目、さらに、専門教育につながる基礎学力の向上を図るものとして、数学、物理、化学の緒科目が課されている。また、ますます国際化していく社会に適応できる人間を育成するために、英語、ドイツ語の外国語を重視しており、特に、数学においては習熟度別授業を導入することによりきめの細かい指導を行っている。これにより、従来不足しがちであった演習を積極的に取り入れた授業を行うことに努めている。

(出典 http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2007/pdf/G/07GSYLLABUS.pdf)

資料 5-1-①-3

情報通信工学科の科目の概要と授業内容

1. 概要

情報通信工学科は、長い歴史と伝統をもった電波通信学科を平成元年に名称の変更をすることになり、これを機に従来のカリキュラムを一新し、社会情勢の変化を先取りした情報通信工学科に生まれ変わったものである。

社会ではいま、21世紀を迎え高度情報化社会に対応する次世代通信網として、全国の各家庭にまで光ファイバー通信網の整備を進めている。これにインターネット技術が融合して映像・データ・音声などの情報や、それらを組み合わせた情報など、さまざまなマルチ情報がオフィスや家庭から相互にしかも簡単に取り出せるような社会になってきた。情報通信基盤や情報ネットワークの整備は、いわゆる社会資本整備として重要な役割を占めている。今後のインターネット技術の展開や光ファイバー通信網の全国的な整備は、内需拡大、産業振興などにとって欠くことの出来ないものである。

情報通信工学科では,通信関連企業をはじめ広範囲の魅力ある産業分野から嘱望されている技術者を育成するため,『通信工学』と『コンピュータ技術』の両分野を修得した有能な実践的技術者の育成を目的としている。

2. 授業内容

低学年ではエレクトロニクスの基礎理論を多くの演習を通じて学び、実際にコンピュータの操作もしながら情報処理を中心に情報工学の基礎を学ぶことになる。高学年では、これらをベースに情報理論、通信工学、電波伝送、通信方式、データ通信、コンピュータのソフトウェア・ハードウェアなどの高度な専門科目を学べるように編成している。

専門科目の履修に併せて実験実習を組み込み、電気・電子現象の計測や情報・通信端末機器の操作を通じて、講義で学んだ原理 や理論の理解を深めている。更に学年進行とともに、理論と実験結果との対比検討やソフトウェアの開発を通じて洞察力と応用 力の育成を行っている。また、実験実習をすることによって作業手順を体で覚え、問題点の解決および処理能力などを育成して いる。

卒業研究においては、自主的に選んだテーマについて情報通信工学科の教員の指導のもとに、一年間にわたって研究調査・製作・実験を行い、その成果を論文にまとめて提出する。この卒業研究を通して論理的な思考能力、問題解決能力、情報活用能力など研究開発のための基本的な能力を育成する。

(出典 http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2007/pdf/T/07TSYLLABUS.pdf)

電子工学科の科目の概要と授業内容

1. 概要

現在はエレクトロニクスの時代といわれているが、これは電子工学がさまざまな方面に応用されている成果の現れであるといえる。したがって、電子工学を修めたエレクトロニクスエンジニアはコンピュータや通信機器や電子機器などの電子産業だけでなく、広く他の工業界からも嘱望されている。

電子工学科では、電子工学の基礎から、レーザー、集積回路、コンピュータ、データ通信メカトロニクスなどの応用までを学び、技術を修得することを教育目標としている。実験は少人数のグループで行うなど、行き届いた指導体制のもとで、自主性や 創造性の豊かな技術者を育成する教育を行っている。

また、第一級陸上無線技術士の無線従事者国家試験に合格できるよう教育課程を編成している。

2. 授業内容

低学年では電気・電子工学の基礎を確実にするために、電気磁気学、電気・電子回路、および情報処理の科目が根幹をなし、それらの内容を体験により確実に習得するために、工学実験を行っている。講義による授業と実験による授業は車の両輪の様なもので、高専教育では特にこのシステムを大切にしている。したがって、工学実験では少人数で一つの実験グループをつくり、一人一人が実験に能動的に参加できるようにしている。情報処理では、1学年でコンピュータに慣れ親しむようにし、2学年でプログラミング言語を扱えるようにし、そして3学年で技術活動に必要な数値解法を習得させるように体系化している。つまり低学年ではソフトウェアを中心にコンピュータが扱える能力が身に付くようにしている。その後、4学年以降ではハードウェアを中心に教育し、コンピュータを組み込んだ機器の設計・製作が出来る能力を教えている。

高学年になると選択科目数が増して、学生個人個人により履修科目は異に出来るが、全体を大まかにグループ分けすると、計算機関係、通信関係、デバイス関係、および画像、音響、制御工学、ロボットなどの応用関係の科目になる。

一般教科とは別に専門科目として,応用数学,応用物理などの電子工学のどの分野にも共通する基礎的な必修科目がある。さら に電子工学の周辺科目として,電波・電気法規,機械工学,電力工学などが選択科目として履修できるようにしている。

卒業研究は、学生一人一人が自分の研究テーマをもち、担当教官の指導の下で一年間にわたって研究を行うものである。ここでは新しい知識を得るだけでなく、エンジニアとしての研究も含めての仕事の方法、また仕事に対する態度も修得することを重要視している。

(出典 http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2007/pdf/E/07ESYLLABUS.pdf)

資料 5-1-①-5

電子制御工学科の科目の概要と授業内容

1. 教育目標

エレクトロニクスを用いて様々な機器やシステムを制御する技術は、社会のあらゆる所に用いられており、我々の生活のためになくてはならないものになっている。さらに、近年の集積回路やコンピュータの急速な小型化により、コンピュータを用いて各種電子機器を高度に制御することが求められるようになってきた。このような状況の下で、制御するシステム全体を総合的に理解し、設計・運用できる技術者が求められている。

電子制御工学科では、このような技術的・社会的状況を適確に把握でき、設計・開発や製造部門の中枢を担える技術者の育成を 目的としている。

電子制御工学科の教育目標は以下の通りである。

(1) 5年間の一貫した教育により、一般教育と専門教育を有機的に関連させて、効果的な技術教育を行う。また、制御技術の基礎として電子工学及び情報工学の素養を身につけさせるとともに、制御、計測等に関連する教育を行う。

- (2) 基礎的な科目を重視し、工学実験や卒業研究等を通して、それらの知識を応用し、自ら学習する姿勢を涵養する。
- (3) 電子制御技術の急速な進展に対処するため、理解力、創造力、判断力を育成し、新しい技術に対応できる柔軟性を有する技術者を養成する。
- 2. 授業内容
- (1) 専門科目の授業
- ●低学年の工学基礎では、基礎電気工学、情報処理をはじめ電気回路、応用物理、制御工学、電気磁気学、電子回路、デジタル 回路等を通して、広い範囲の専門科目を修得できるように配慮されている。
- ●高学年では、工学基礎の延長線上にある上級科目及び即戦力として必要な情報処理技術、ロボット工学を含むメカトロニクス や制御技術などの専門科目を修得できるように配慮されている。

すなわち,応用数学,半導体工学,機械力学及び計測工学などの必修科目に加えて,数値解析,確率統計論,制御機器,オペレーションズリサーチ,システム工学,通信理論,固体物理,シーケンス制御,知識工学,ロボット工学,流体力学,熱力学,計算機工学,画像処理及び通信システムなどの選択科目が準備されている。

- ●平成16年度から、自ら学習する姿勢を身につけるため、高学年の選択科目を細分化し、前期および後期それぞれの学期において単位を認定することとした。
- (2) 工学実験及び卒業研究

第3学年では毎週4時間,第5学年では毎週2時間の工学実験が配当されている。1クラス4グループ制を採用し,第3学年では8テーマの実験を行う。第5学年では3テーマの実験を行う。実験内容としては,ハードウェア関係のテーマとソフトウェア関係のテーマがバランスよく配備されている。

第4学年では毎週4時間の工学実験が配当されている。第4学年の前期は制御工学実験及びプログラミング演習を,後期は各教員に配属し、それぞれのテーマについて実験(課題研究)を行う。実験内容には、技術者として必要な基礎的なものと応用的なものを含む。さらに、最新の高度専門技術を体験し、社会的責任を自覚し自立した技術者を育成するために、企業の工場見学及び校外実習などを積極的に取り入れている。

卒業研究では、各教員に配属し一つのテーマについて研究を行わせる。研究計画の立案、実験に関する検討及び実験結果の考察などを通して、創造性を活かした独力解決型の探求力の習熟を図るとともに、報告書の作成や口頭発表など発表能力・コミュニケーション能力の強化について指導する。

(出典 http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2007/pdf/C/07CSYLLABUS.pdf)

資料 5-1-(1)-6

情報工学科の科目の概要と授業内容

1. 教育目標

本学科の専門教育では、計算機の基礎と応用についての知識と技術を教授するとともに、実際に計算機を利用して様々な問題解決ができる能力を育成する。さらに、計算機システムおよびソフトウェアシステムに対して、工学的な技量によるシステムの設計、開発および実現に関する能力の育成をめざす。

教育目標は,以下の通りである。

- 1. コンピュータの基礎から応用まで体系的に理解させ、コンピュータを活用できる技術者を養成する。
- 2. 広い視野を持ち、社会の要求する情報システムを設計・構築できる技術者を養成する。
- 3. 主体的に問題を提起し、継続して課題に取り組み、解決できる技術者を養成する。
- 4. 文章能力,コミュニケーション能力,プレゼンテーション能力を有する技術者を養成する。
- 2. 教育内容

- (1) 基礎工学・理論、電気・電子工学、計算機システム、ソフトウェア、情報・通信システムおよびマルチメディア等関連技術の分野をバランスよく系統的に配置する。
- (2) 実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力あるいは意欲を養うために、講義では、できる限り実習・演習をとりいれる。また、「卒業研究」等の問題解決型の教育効果を重視し、基本的に同じ形式で運用する「情報工学セミナー」を第4学年に導入する。
- (3) 工学実験では、実験を大きなテーマとして実施することにより、その中の個別の実験項目の意義を理解させる。また、テーマに対するマクロスコピックな把握と理解を促し、これらを基礎に実践的かつ創造的な応用能力を育成するようにする。
- (4)情報工学関連技術の急激な進歩に対応できるように、選択科目の一部について科目内容については柔軟な対応がとれるようにしている。

(出典 http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/syllabus/2007/pdf/I/07ISYLLABUS.pdf)

開講状況 平成18年度前期時間割(1/3)

平成	18				月				I			火			
前		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	1	物理東田	歴史内田	情	別授業 処 I 三河	数	I Fi	H. R. 南	保体 塩田		或洋	英Ⅱ 森和		t II I中	国語 富士原
1	2		合併教室 学 井	基 天	<u>寅習室</u> 電 造 2教室		理 田	H. R. 冨士原		(Z II i那	数	I I 中	英Ⅱ森和		I 或洋 4)
'	3	地理細谷	保体 塩田	基新	2 <u>教主</u> 電 f海 4)	数森	I M	H. R. 森岡		I I中	英Ⅱ 森和	鳥	L E I 越洋 4)	数	
	4	英Ⅲ 野口 メディア	物理東田	情经 松	<u>*/</u> 処 I ふ下 手ラボ	歴史 内田 合併教室	英Ⅱ 森和	H. R. 森和]理 [田		語上原	化学 笠井	地理細谷	保体 塩田
	т	情外井上	L忠	英	E II 家沢	倫社 細谷	英 I 鳥越秀	H. R. 細谷		路 I ·海	微	積	倫社 細谷	保体 有馬	英 I 鳥越秀
	E	サイ 歴史 内田 合併教室	ハー 英 I 鳥越秀	河田	処Ⅱ 田進 バー		II 沢	H. R. 有馬	倫社 細谷	英 I 鳥越秀		那		│ 処Ⅱ 田進 バー	保体 有馬
2	С	英 I 鳥越秀	国語森孝	倫社 細谷	保体有馬	情奴 近 第3消	藤	H. R. 橋本		語孝		有	英 I 鳥越秀	化	学 井
	I	デ回 月	I 本		語 孝	英 I 鳥越秀	歴史 内田 合併教室	H. R. 笠井	金澤,高	処Ⅱ 「城, 川染 「バー	森	岡	保体 有馬		理
	т	須	那	±	屋	真鍋克,森 草間,	青海	H. R. 辻琢	国語A 高木保	英 I 畑	Щ	回 I 河	政経 井上斌	谷	積 口
	E		屋	=	I工 E崎		造	H. R. 三崎	デ回Ⅱ 高木	国語A 高木保	保体 山本澄	電磁 住友	辻	· 憲	政経 井上斌
3	С	P	有	一色, 田嶋	、奥山、雛元	橋	本	H. R. 奥山	一色,田嶋	以 、奥山、雛元		田	Œ	卸 I I嶋	英 I 畑
	C留	富士原	ト語 上原 教員室	一色. 田嶋	、奥山、雛元	第3演	藤 『習室	H. R. 奥山	一色, 田嶋	、奥山、雛元	2:	<u> </u>	E	卸 I I嶋	英 I 畑
	I	情シ 籍 高情	目		三 (宮武,川染 電二	須	那	H. R. 鰆目 数	英 I 畑 通法 I	保体 山本澄 電回 II	宮 サイ	가 武 <u>バー</u> スA	国語A 森孝	実験	ョ u 井
	Т	小阪 (5)	張 (2) 中国語 I	石川進計工		:琢	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		を を 音響 I	三河 音Ⅱ·法規	† (!	尾 5)		女, 森本峯, 艺, 梶, 草間 実験	
	Е		張 (2) ・システム I	高木 独 I・	石川 中国語 I	確率I・通理I	友 電回	増田	増田	増田綾		·岡 ·力		k, 高木, 増 岡, 矢木, ラ セミ	
4	С	村上 (4) 知二	近藤満 E I	小阪 (5) 独 I・	張 (2) 中国語 I	奥山 一色		海 		・ 村上 		永 シス	山本	奥山, 山本,	新海,雛元
	I	野 第1河 知二	室智道	小阪 (5) 独 I・	張 (2) 中国語 I	河田純電磁	高情	下 iラボ 造		:憲	結計	シス		数	森和
	I留	野 第1消 デ		小阪 (5) 通	張 (2) エII	河田純電	松 高情 力	下 ラボ 英 V		:憲	鮪 通二		保体	田	森和 トI
	Т		河 光エレ		·野 御		澤 <u>徳覚</u> ・ ロエ	畑電送	視耳	南 徳 <u>覚</u> 既Ⅲ		像	塩田 英 V	第1簿	城 <u>[習室</u> 算体
	E	新庄 (専)第1 応計・	石丸 光エレ	視耳	下 聴覚 ll御	横澤 視聴覚 電力	木下 (2) · 口工	真鍋克 電送	視耳	南 徳覚 既Ⅲ		·永 ·像	畑 英 V		崎
5	E留	新庄 (専)第1 通:	石丸 シス	視耳	下 聴覚 -測	横澤 視聴覚 固体 I・	木下 (2) ロボット I	真鍋克 保体	視耳	南 徳覚 既Ⅲ		·永 ·工	畑	三 i像	崎 英 V
	С	第3测	藤 賀 <u>宮室</u> ンス		†上 	福間 固体 I・	田嶋 (5) ロボット I	塩田 保体	視耳	南 徳覚 既Ⅲ	第3漢	·藤 寅習室 工	第32	永 _{寅習室} ī像	野口 メディア 英 V
	C留	第3测	藤 寛習室 バフト		†上 ·特	福間 保体	田嶋 (5) 情シ	塩田スⅡ	視耳	南 徳 <u>覚</u> 既Ⅲ	第3%	·藤 寅習室 ·語		永 _{東習室} 実験	野口 メディア
	I		城 特実験		丸	塩田 電物	高 第1河 物性	城 資習室		南 徳 <u>覚</u> 特実験		渦久 ラボ エ:	金澤, 野中	. 今城. 鰆目.	宮武, 川染構造
	電通	真鍋克	, 辻琢, 草間 特実験	引, 住友			木 第2		真鍋克	, 辻琢, 草間 特実験	引, 住友	福 (専)	間 演習 <u>室</u> 業数	松 高情	下 <u>ラボ</u> 構造
専攻	情制		上,福間,復 今城.鰆目.河 特実験			河田	日進 第3 特別研究			上,福間,德 今城.歸目.河 特実験		(専)	間 演習室 工学	松 高情	下 ラボ 講義
科	電通	森本敏,清高木,福永,					田,森本峯 増田,木下, 特別研究			器田,森本峯 , 增田,木下, 特実験		木 (専	下)第2 体工		講義
	情制						徳永, 一色, 宮武, 金澤			, 徳永, 一色, 宮武, 金澤		_	·色)第3	140	

開講状況 平成18年度前期時間割(2/3)

前					水						,	木	,		
	期	1 学科別	2	3	4	5	6	7	1 学科5	2 引授業	3	4	5	6	7
	1		工 本峯, 梶	格技 松 /本 武 /武	歴史 内田 合併教室	地理 細谷	富士	語 上原	基	電 本 峯	長名	;学 谷部	·	I 有	英Ⅲ 野口 メディア
1	2		工 元, 天造 教室		I i那	物理 東田	格技 松 /本 武 /武	英田 野口 メディア		D. I 中 で習室	国語富士原	保体 塩田	化学 笠井	地理 細谷	歴史 内田 合併教室
	3		上山	物理 東田	格技松 /本武 /武	化学 長谷部	地理 細谷	歴史 内田 合併教室	情夕 福			· 理 [田		語 上原	保体 塩田
	4		工		I I	格技 松 /本 武 /武		I I	基	電造	英Ⅱ 森和	国語富士原	保体 塩田		I I
=	т	情処 井」 サイ		英 I 鳥越秀	国語森孝	歴史 井上斌		理		語。孝		II 久間		国 I 本峯	保体 有馬
	E	国森	語		II 久間	デロ 月	回 I 本	保体 有馬	回路	各 I ·木	英 I 鳥越秀	保体 有馬	倫社 細谷		.学 .并
2	С	保体 有馬	歴史 内田 合併教室	デロ 雛	回 I 元		II 本	倫社 細谷		各 I 色		沢	英 I 鳥越秀]理 谷部
	I	歴史 内田 合併教室	英 I 鳥越秀	金澤,高	処Ⅱ 城, 川染 バー	保体 有馬		学 井		本	保体 有馬	英 I 鳥越秀	英 藤	II 沢	倫社 細谷
	т	回路Ⅱ 青海	保体 山本澄	真鉅	処Ⅲ 渦久 賀習室	英 I 畑	国語B 野口	回路Ⅱ 青海		習 海, 辻琢	電磁 I 森本敏	英 I 畑	政経 井上斌		勿 I :憲
	E	電増	<u> </u>	国語B 野口			析岡	電磁 住友	国語A 高木保	保体 山本澄		積本	英 I 畑		析
3	С	電磁	族 I 色		II 屋	国語B 野口	演習 山本·奥山	電回 I 雛元	政経 井上斌	国語A 高木保	保体 山本澄	演習 山本·奥山	,	各Ⅱ 色	英 I 畑
•	C留	電磁			II 屋	日本語 森孝 森孝教員室	山本·奥山	電回 I 雛元		の I 間 で習室	保体 山本澄	演習 山本·奥山		各Ⅱ 色	英 I 畑
	I		II 屋	保体 山本澄	国語B 野口		折那	英 I 畑	宮	ント 武 バー		· 積 ·岡	国語A 森孝	英 I 畑	政経 井上斌
	т	哲学 文特 畑 数 I 南			兹Ⅱ :間	英Ⅳ 森和		河	井_	ナー L忠 iラボ		勿Ⅱ :憲		数 田	英Ⅳ 森和
	E	哲学文特 畑数 I 南			数田		·信 ·岡	計工 高木		本		数田	英Ⅳ 森和		理 永
4	С	数I南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	英Ⅳ 森和	保体 石川進	確率 I·通理 I 奥山 一色 (專)第1		憲		幾 I 地		滋耳	数解 I 雛元 (專)第1	・ デ回 II 村上	制御I 山本
	I		英特 畑 数Ⅱ 橋本	保体 石川進	英Ⅳ 森和	宮 サイ	解 武 バー	電磁河田純	河田純,	國井, 松下	·験 ·,今城,高	城, 川染		セミナー全教員	
	I留		英特 畑 数Ⅱ 橋本	保体 石川進	英Ⅳ 森和	宮 サイ	解 武 バー	電磁 河田純		國井, 松下		i城, 川染		セミナー全教員	
	т		N阪 前崎 第1 5E	電送Ⅱ 真鍋克		全葬	·研 教員		真鈍	差Ⅱ 渦克 	通法Ⅱ	井上	忠, 森本敏 小野, 草	間,青海	辻琢
	Е		N阪 前崎)第1 5E	パルス 木下 視聴覚		全葬	·研 枚員		高	ータ :木	パルス 木下 視聴覚		木,住友, 曾田,長岡,	三崎, 月2	
5	E留		N阪 前崎)第1 5E	パルス 木下 視聴覚			·研 枚員 ————		高	ータ i木	パルス 木下 視聴覚	İ	木,住友, 曾田,長岡,	三崎, 月2	*
	С	福間,村		(5) (専	小阪 前崎)第1 5C		全教員		今	井	徳	l力 i永		.Щ	セミナー 村上・田嶋・新海
	C留	福間,村		井上斌 / (5) (専	Ⅱ·中Ⅱ 小阪 前崎)第1 5C		全教員		今	第一	徳	l力 i永		Щ	セミナー村上・田嶋・新海
	I	鰆	ータ :目	井上斌 / (5) (専	Ⅱ·中Ⅱ 小阪 前崎)第1 5C		全教員		河田	パイラ 田進	今	·スII ·井	英 ♥ 野口 メディア	全	:研 枚員
	電通	情』 高 第1湖	木	森本	里論 本敏 寅習室		特研究 草間,澤田 泳,増田,三		谷	数特 口 寅習室	細谷 井	侖理 上斌 内田 ○教室	今	ッ論 城 『習室	
界	情制	情コ	C論 木	グ ³ 森 ²	型論 本敏 寅習室	田嶋,村.	特研究 上,福間,德 今城.歸目.河	永, 一色	応参 谷	数特 口 寅習室	技術細谷 井上	<u> </u>	情ネ 今	·ッ論 ・ 域 電習室	
攻 科	電通 2	マルラ 金	チメエ	光道 青	M信 通信 海)第2	森本敏,澤	特研究 第田,森本峯 増田,木下,	, 小野, 梶	二		デイ 福	<u>水上</u> 言処 泳 寅習室	27.73		
	情制	マルラ		シス 山	制御 本 第3	田嶋,福間,	特研究 徳永, 一色, 宮武, 金澤	近藤, 奥山	二鳥		デイ 福	<u> </u>	近	见論 藤 第2	

開講状況 平成18年度前期時間割(3/3)

珃	-	<i>1</i> 0L -	十八八	0 十万	之刊为	1641日1	台り (で	3/3
平成前		1	2	3	金 4	5	6	7
נים	793	'			-			
	1	英Ⅱ 森和	地理 細谷		理 田	化学 長谷部	芸術 穴/川/石 視/美/書	保体 塩田
1	2	保体 塩田	英Ⅱ 森和	歴史 内田 合併教室		語 上原	芸術 穴/川/石 視/美/書	地理 細谷
	3		;学 谷部	英Ⅱ 森和	歴史 内田 合併教室	芸術 穴/川/石 視/美/書	英Ⅲ 野口 メディア	国語富士原
	4	地理 細谷	歴史 内田 合併教室	. –	学 井	芸術 穴/川/石 視/美/書	英 鳥走 (4	业洋
		習熟度	別授業	F +	++ 41-	/0./4		
	т		ī積 :□	歴史 井上斌	芸術 穴/川/石 視/美/書	保体 有馬	笠	学 井
2	E	須	i那	芸術 穴/川/石 視/美/書	国語森孝	歴史 内田 合併教室	物 長名	理 }部
	С		本	芸術 穴/川/石 視/美/書	保体 有馬	情例 近 第3》》	藤	歴史 内田 合併教室
	I			国語森孝	芸術 穴/川/石 視/美/書	倫社 細谷	回路	
•	т	国語A 高木保	保体 山本澄	解須		電磁 I 森本敏	計算	
	E	三崎, 住之	実験 友,木下,月	本, 天造	政経 井上斌	英 I 畑	情奴 住 第1河	友
3	С	政経 井上斌	国語A 高木保	保体 山本澄	電回 I 雛元		析 本	英 I 畑
	C留		· 積 年	保体 山本澄	電回 I 雛元		型Ⅱ 藤 電習室	英 I 畑
	I		回 井		物染	基	情城	政経 井上斌
	т		滋Ⅱ □間	情処IV 井上忠 サイバー	・ 回理 福永	電: 辻	I I 琢	電回Ⅱ 三河
	Е		計	電	送 k 敏	英IV 森和	応 辻	物憲
4	С		i i 海	実 山本	験 ・ 村上	応参 F	牧 I 有	英Ⅳ 森和
	I	今	プロ ・城 詩ラボ		数 田		セミナー 全教員	
	I留	シス 今	,プロ :城 !ラボ		数 田		セミナー 全教員	
	т	セミ 井上	ナー 忠他 電習室	電送Ⅱ 真鍋克			研 数員	
	E	通	(百 <u>至</u> (工 :岡	保体 塩田			研数員	
	E留		i工 :岡	保体 塩田			·研 数員	
5	С	田嶋	・制御皿 山本			卒研 全教員		
	C留	第3演習室 シ制 I・ 田嶋 第3演習室	・制御皿 山本			卒研 全教員		
	I	知 宮	エII は バー		像澤		卒研 全教員	
	電通	応管 真銀	, 電磁 鍋克)第2	コミ 鳥 メデ	越		特別研究 草間,澤田 永,増田,三	
専	情制	(号)	/ お 4	二二	英 I 越	田嶋, 村.	特別研究 上,福間,徳	永, 一色
· 攻 科	電通	森孝・	学特 冨士原	集回 長	イア	森本敏, 灣	今城、鰆目、河 特別研究 器田,森本峯	, 小野, 梶
	2 情制	文 ⁴ 森孝・	ディア 学特 冨士原	教育 宮	第2 シス 武	田嶋,福間,	增田, 木下, 特別研究 徳永, 一色,	近藤, 奥山
<u></u>	2	メデ	・イア	(専)	第3	松下,	宮武, 金澤	, 高城

(出典 平成 18 年度前期時間割)

開講状況 平成18年度後期時間割(1/3)

後	100				月							火			
	州	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	1	物東		情多	引授業 処 I :河 実習室	英Ⅱ森和	歴史 内田 合併教室	H. R. 南	保体塩田		I 逃洋 4)	物理東田	数田	II 中	地理細谷
1	2	歴史 内田 合併教室	英Ⅱ 森和	三崎, 月	工 元, 天造 2教室	数 须	I 那	H. R. 冨士原		;学 :井		t II I中	物理東田	鳥走	[I 越洋 4)
	3	保体塩田	歴史 内田 合併教室	基新	電 海 4)	数森	I 岡	H. R. 森岡		II I中	化学 長谷部	鳥走	· I 或洋 4)	英Ⅱ森和	国語富士原
	4	化学 笠井	英Ⅲ 野口 メディア		型 I :下 !ラボ	地理 細谷	英Ⅱ 森和	H. R. 森和]理 [田		語 士原	地理 細谷		
-			2111	PIF	17/1			l	習熟度	別授業					
	т	歴史 井上斌	国語 森孝		⊍Ⅱ 上忠 バー	英 藤	沢	H. R. 細谷		ī積 :口	森	回 I 本峯 徳覚	保体 有馬		.学 .并
	E	英 I 鳥越秀	保体 有馬		沢	物 長名	理	H. R. 有馬	纫	i那		路 I ÷木	デロ 月		保体 有馬
2	С	数 橋		近	処Ⅱ 藤 観習室		学 :井	H. R. 橋本		南	倫社 細谷	保体 有馬	国森	語孝	英 I 鳥越秀
	I	情処 金澤,高 サイ		回题 矢	格 I :木	国語 森孝	保体 有馬	H. R. 笠井	森	岡	金澤, 高	処Ⅱ 「城, 川染 'バー	英 I 鳥越秀		理 谷部
	т	応物 辻			屋	実 真鍋克. 森 草間,		H. R. 辻琢		溜 海, 辻琢		則 I I間	英 I 畑		析 i那
	Е	英 土			析 :岡	電増	田田	H. R. 三崎	国語A 高木保	保体 山本澄		路Ⅱ 造	応 辻	物憲	政経 井上斌
3	С	実近藤. 山本.			有		析本	H. R. 奥山	政経 井上斌	国語A 高木保	保体 山本澄	演習 山本·奧山	回 2 -	各Ⅱ 色	英 I 畑
	C留	実近藤. 山本.			心Ⅱ :藤 寅習室	富士	本語 上原 教員室	H. R. 奥山	Ī	i積 有 年	保体 山本澄	演習 山本·奧山	回 2 -	各Ⅱ 色	英 I 畑
	I	解須		実	験 宮武,川染	デロ		H. R. 鰆目	ソ	フト :澤	国語A 森孝	英 I 畑	政経 井上斌		回 井
	т	独 I· 小阪 (5)	中国語 I 張 (2)	保体 石川進	電流森本	Ĕ I k 敏		数 田	通法 I 綾	英Ⅳ 森和	辻琢	・無線 真鍋・小野 第1演習室		実験 7、森本峯, 5、梶, 草間	
	Е	独 I · 小阪 (5)	中国語 I 張 (2)	半導体 長岡	保体 石川進	計工 高木 第1演習室		滋友	英IV 森和	音 Ⅱ·法規 増田 綾	電	回 本	福永	実験 (, 高木, 増 団, 矢木, ヨ	計田 ,
4	С	村上 (4)	・システムⅡ 近藤満	小阪 (5)	張 (2)	^{確率I・通理I} 奥山 一色 (5)		勿Ⅱ :憲	数解Ⅱ 雛元 第3演習室	・デ回Ⅲ 村上		回Ⅱ f海		ナー 新海. 雛元	^{確率I・通理II} 奥山 一色 (5)
	I	今	プロ 城 ラボ	独 I · 小阪 (5)	中国語 I 張 (2)	計注		電磁河田純	野	I I 中 演習室		物 :憲	応澤	数 田	英IV 森和
	I留		プロ 城 ラボ	独 I· 小阪 (5)	中国語 I 張 (2)	計注		電磁河田純	野	I I 分 第四室		物 :憲	応澤	数 田	英Ⅳ 森和
	т	セミ 全 第1演	ģ 員		則Ⅱ ·庄	電 横 視耶		通シスB 井上忠		則 II i庄		·通 :河	保体 塩田	高	ト I i城 g習室
	Е	応計 ・ 新庄 視聴覚	光エレ 石丸		像 永	横澤	· 口工 木下 (2)	パルス 木下 視聴覚	木	御 :下 徳覚		I工 E間	パルス 木下 視聴覚		尊体 ∴崎
-	E留		光エレ 石丸		像 永	電力 横澤 視聴覚	· 口工 木下 (2)	パルス 木下 視聴覚	木	御 :下 徳覚		I工 E岡	パルス 木下 視聴覚	Ξ	導体 ∴崎
5	С	応数		固体 II ・ 福間	ロボット II 田嶋 視聴覚	シ制 I ・ 田嶋	制御IV 山本	保体 塩田	流体Ⅱ 福間		近	エⅡ i藤 寅習室	画信 徳 第3湖	象Ⅱ 永	英 V 野口 メディア
	C留	応数 奥	牧Ⅱ :山	固体Ⅱ・ 福間	ロボット II 田嶋 視聴覚	シ制 II・ 田嶋	制御IV 山本 高情ラボ	保体 塩田	流体Ⅱ 福間	・ 熱力Ⅱ 徳永	近	エ Ⅱ i藤 寅習室	画作 徳 第3湖	永	英 V 野口 メディア
	I	コン/ 河田	ペイラ 日進	情 石	特 丸	保体 塩田	情シ	スⅡ 城		/フト ·城	真	語 鍋久 持ラボ	金澤, 野中,	実験 今城. 鰆目.	宮武, 川染
	電通		特実験 草間,澤田 永,増田,三			英 I 越 ィア	計2 村	<u>*日王</u> Ľ特 Ľ上 寝習室		特実験 草間,澤田 永,増田,三	,青海		数i 河 B サイ	日純	
専	情制	田嶋,村」	<u> 特実験</u> 特実験 上,福間, 徳 今城, 鰆目, 氵	永, 一色	二ミ	英 I 越 イア	計二	Ľ特 '上	田嶋、村	<u> 特実験</u> 特実験 上,福間, 徳 今城. 鰆目. 氵	恵永, 一色		数i 河E	†論	
攻科	電通	森本敏,澤	特実験 田,森本峯 増田,木下,	, 小野, 梶		森本敏,澤	特別研究 田,森本峯 増田,木下,	4, 小野, 梶	森本敏, 湯	特実験 罪田,森本峯,增田,木下,	£, 小野, 梶		ニュフ 住	ファ技 友 第2	
		田嶋、福間、	特実験	近藤, 奥山		田嶋、福間、	特別研究	近藤. 奥山	田嶋。福間。	特実験 . 徳永. 一色. 下, 宮武, 高	近藤, 奥山		, (-4 <u>f</u>)		

開講状況 平成18年度後期時間割(2/3)

	18				水							木			
後	期	1 学科5	森本 第 情	3	4	5	6	7	1 学科5	2 引授業	3	4	5	6	7
	1	基 三河, 森	:工 :本峯, 梶	格技松 /本武 /武	地理 細谷	数 [F	Ţ I 有	国語 富士原	基森	電 本峯 徳覚		.学 谷部	数		英皿 野口 メディア
1	2	天	造	数 須	那	国語富士原	格技 松 /本 武 /武	地理 細谷		処 I ;中 実習室		田	保体 塩田		国語 士原
	3	奥	.山	物理 東田	格技松/本武/武		(I E岡	歴史 内田 合併教室		ル I i間 ig習室		語 上原	地理 細谷	英Ⅱ 森和	保体 塩田
	4	河田純	1. 川染	英Ⅱ 森和	物理 東田	格技 松 /本 武 /武		I	天	電 造 1教室		I	国語富士原	保体 塩田	歴史 内田 合併教室
	Т			情例 井 ₋ サイ	L忠	倫社 細谷	保体 有馬	英 I 鳥越秀		語孝		II 入間	英 I 鳥越秀		物理 谷部
2	Е			数 佐?	II ス間	歴史 内田 合併教室)語 孝	保体 有馬	倫社 細谷		UⅡ H進 バー	国語 森孝		比学 5.井
2	С		内田		各 I 色	英 I 鳥越秀)理 谷部	英 I 鳥越秀	歴史 内田 合併教室	デ回 雛 第3%	元	英藤		保体 有馬
	I			英 I 鳥越秀	歴史 内田 合併教室	保体 有馬	笠	学 :井 ·	倫社 細谷	保体 有馬	藤	沢	歴史 内田 合併教室		女Ⅱ 喬本
	т	電磁 I 森本敏			ルⅢ 渦久 眞習室	回路Ⅱ 青海	国語B 野口	政経 井上斌	回路 II 青海	国語A 高木保	電磁 I 森本敏	政経 井上斌	微谷		英 I 畑
	Е	住	友	国語B 野口	デ回Ⅱ 高木	英 I 畑	橋	·積 本	国語A 高木保	電磁 住友	保体 山本澄	英 I 畑	政経 井上斌	₹	¥析 ₩間
3	С	雛	元		屋	国語B 野口	田	卸 I I嶋	梧	析 本		験 徳永,新海	英 I 畑	-	磁 I -色
	C留	雛	元		屋	日本語 森孝 森孝教員室	田	卸I I嶋	第3派	間 實習室	近藤, 山本,		英 I 畑		磁 I -色
	I	±	屋	保体 山本澄	国語B 野口	須	析 i那	英 I 畑	英 I 畑	保体 山本澄	森	積岡	サイ	澤 <u>バー</u>	国語A 森孝
	т	文特 畑数 I 南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	· 視耶		通信 I 小野	全 高情	ナー 枚員 !ラボ		野		憲	英Ⅳ 森和		5数 署田
	Е	文特 畑数 I 南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	澤	数 田	計工 高木 第1演習室	全	ナ ー 教員	福	理 i永	澤	数田		憲	英IV 森和
4	С	文特 畑数 I 南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	制御I 山本	保体 石川進	英Ⅳ 森和	徳	力 i永		機 II 野尊		牧 I 有	電磁福	間	制御Ⅱ 山本
	I	文特 畑数 I 南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	保体 石川進	英Ⅳ 森和	電磁 河田純	宮 サイ	解 武 バー	河田純,	國井, 松下	!験 「,今城,高	城, 川染		セミナー全教員	
	I留	文特 畑数 I 南	英特 畑 数Ⅱ 橋本	保体 石川進	英Ⅳ 森和	電磁 河田純	宮 サイ	解 武 バー		國井, 松下	験, 今城, 高	城, 川染		セミナー全教員	
	т	井上斌 / (5) 5	ト阪 前崎 5T 5E	英語 V 畑		全教	・研 教員		井。	/スB 上忠	通法Ⅱ	井上忠	3, 森本敏, 小野, 草	間, 青海	土琢, 梶
	Е	井上斌 / (5) 5	小阪 前崎 ST 5E	真鍋克		全孝) 数員		高	ータ i木	保体 塩田		未,住友, 曾田,長岡,	三崎, 月	
5	E留	井上斌 / (5) 5	小阪 前崎 5T 5E	真鍋克			研 教員 ————		高	ータ i木 	保体 塩田	±	木,住友, 曾田,長岡,	三崎, 月	本
	С	福間, 村 第3演	上, 徳永 資習室	(5)	ト阪 前崎 5I 5C		全教員		今	算 II ·井	村	上		藤 [習室	セミナー 村上・田嶋・新海
	C留	福間, 村 第3消	上, 徳永 寶習室	(5)	小阪 前崎 5I 5C		全教員		今	算 II ·井	村	上	第3演	藤 [習室	セミナー 村上・田嶋・新海
	I	· 籍 高情	目 ラボ	(5)	小阪 前崎 5I 5C		全教員		金	澤		·#	英 V 野口 メディア	全	教員
	電通 1	井_ (専)	上忠 第2	(専)	料工 崎 第2		特研究 草間,澤田, 連田, 三崎,		長 (専)》	内財 :岡 <u>電習室</u>	森z (専)》		物和 東 第1河	田 資室	
専攻	情制	國(専)	井 第3		ルエ 永 寛 <u>習室</u>		特研究上,福間,復今城,歸目.3		長 (専)》	内財 :岡 <u>電習室</u>		業英 本峯 <u>電習室</u>	東	4特 田 資習室	
科	電通 2	宮 (専)派	工論 '武 寶習室				特研究 第田,森本峯 ,增田,木下		矢木 (専)	デエ ・辻琢 9第2					
	情制 2	宮	工論 武 資室				特研究 , 徳永, 一色, 下, 宮武, 高		田	制機 嶋 第3					

開講状況 平成18年度後期時間割(3/3)

	‡18				金			
後	期	1	2	3	4	5	6	7
		Ξ	語	歴史	保体	化学	芸術	英Ⅱ
	1	富士	士原	内田	塩田	長谷部	穴/川/石	森和
		地理	歴史	合併教室 英Ⅲ	英Ⅱ	保体	視/美/書	化学
	2	細谷	内田	野口	森和	塩田	芸術 穴/川/石	11.子 笠井
1			合併教室	メディア			視/美/書	
	3		;学 ※却		理 田	芸術 穴/川/石	地理 細谷	英Ⅲ 野口
	3	反1	部谷	果	.ш	祝/美/書	神台	野口 メディア
		歴史	保体		学	芸術	英	
	4	内田 合併教室	塩田	笠	井	穴/川/石 視/美/書	鳥起	或洋 ↓)
		口げ牧主					別授業	*/
		保体	歴史	英I	芸術	微	積	倫社
	Т	有馬	井上斌	鳥越秀	穴/川/石 視/美/書	谷		細谷
		情兒		芸術	英I			歴史
	E		田進	穴/川/石	鳥越秀	須	那	内田
2			バー I	視/美/書 芸術	倫社	Ē	有	合併教室 国語
	С	近	藤	穴/川/石	細谷			森孝
	-		室留實	視/美/書	世体	橋	本	25 T
	I		語孝	倫社 細谷	芸術 穴/川/石	森	岡	英 I 鳥越秀
L	_				視/美/書			
	т	国語A 高木保	保体 山本澄		!析 i那	英 I 畑	電回	_
	Ľ	同小体	山平湿			АШ		/~I
			実験		英I	電磁		I.
	E	二岭,住7	友, 木下, 月	4、大适	畑	住友	=	崎
		政経	国語A	保体	演習	応特	勿 I	英I
3	С	井上斌	高木保	山本澄	山本·奥山		H	畑
		情頻	I л п	保体	演習	第1清	積	英I
	C留	近	藤		山本·奥山	F	有	畑
	_		室習室	i+.	7.7		年	TL 47
	I		:情 i城	情シ 鯖			物 染	政経 井上斌
				高情	ラボ			
ĺ	т	_	無線小野·真鍋		送I 本敏	通信 I 小野	情処Ⅳ 井上忠	・ 回理 福永
	ļ '	江坳	(4)	***	平 城	11.7k	サイバー	TELIA
			送		信		ā†	半導体
	E	森本	本敏	長	:岡	増	H	長岡
		半草		英Ⅳ		実	験	
4	С	新	海	森和		全		
		構	造	応	数		セミナー	
	I	松	下		田		全教員	
	\vdash		<u>ラボ</u> 造	床	数		セミナー	
	I留	松	下		田		全教員	
!	_		ラボ *****	'A'	ı	L	ZΠ	
	т	自然 谷口	・ 英Ⅵ 野口	通シスB 井上忠			研 枚員	
	Ĺ	(5)	(2)					
	E	自然 谷口	・ 英Ⅵ 野口	英 V 畑			研 枚員	
	Ľ	(5)	(2)	Ж		±9	^ _	
	- str	自然	· 英Ⅵ	英V			研	-
1.	E留	谷口 (5)	野口 (2)	畑		全	教員	
5		自然	· 英Ⅵ			卒研		
	С	谷口 (5)	野口(2)			全教員		
			· 英VI			卒研		
	C留	谷口	野口			全教員		
	\vdash	(5)	(2) · 英VI	知二	ΣП		卒研	
	I	谷口	野口	宮	'武		全教員	
\vdash		(5)	(2) 子力	サイ 電 ²	<u>バー</u> 七工		特別研究	
	電通		田		元工 過克	辻琢,	草間,澤田	青海
	1	(専)消	室智道	(専)	第2		増田, 三崎,	
	情制		子力 田		正知 ∶中	田峰村	特別研究 上,福間,徳	永 — 伍
専攻	_{1सका} 1		室室		中 資習室		上,個间,提 今城, 鰆目, 氵	
以科			英 II +#		変論	*+	特別研究	11. May 10.
	電通 2		越 ィア		嶋 習室		間,森本峯 増田,木下,	
	É		<u>1</u> / 英Ⅱ	エネ	変論		特別研究	
	情制		越		嶋		徳永, 一色,	
	2	メテ	・イア	(専)消	室智道	松	下,宮武,高	1-城

(出典 平成 18 年度後期時間割)

各学科とも学校の教育目的を具体化した「学習・教育目標」(資料1-1-①-5) $A\sim F$ を科目に展開して、卒業までに「学習・教育目標」を達成できるよう科目の授業を実施している(資料5-1 $-①-9\sim12$)。

学習・教育目標A(技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける)の達成のために、「特別活動(HR)の履修が良好であること」を進級の条件と定めるほか入学時から国語、歴史、倫理・社会、政治経済の必修科目を設定している。また4・5学年での科目「環境と人間」を実施している。

学習・教育目標B(日本語及び英語で共同作業を良好に行なうことができる)の達成のために、入 学時から国語と英語の教育を展開し、学年進行につれて発表や共同作業をともなうセミナーや工学実 験の科目を取り入れている。

学習・教育目標C(情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表ができるようになる)の達成のために,入学時からの情報処理教育で早期に情報機器活用の素地を育成するほか,各学年で情報機器を使った授業を展開している。

学習・教育目標D(技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる)の達成のために、3学年までの科目を全て必修科目とすることで基礎知識を与え、4・5学年の専門科目に選択科目を取り入れることで高度で幅広い専門教育が可能な教育課程としている。

学習・教育目標E(与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる)の達成のために、各学科とも3年間(3~5学年)に渡って実験実習の科目を実施する教育課程としている。

学習・教育目標F (運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる)の達成のために、5年間を通して体育科目を必修とした教育課程を編成している。

科目連携においては、一般科目、専門科目とも平易な内容から入って順に高度な内容に授業を進めてゆく科目展開としている。一般科目は内容の系統性が確保される教育課程とし、専門科目は専門知識の深さと広がりが得られる教育課程としている。科目進行表(科目関連図)を示す(資料 5-1-1 ①-13~17)。表では関係の強い科目が矢印で示され、上下関係で授業内容(分野)の違いが示されている。

情報通信工学科では、「電気・電子計測 I」により計測分野の授業をおこなって工学実験科目の基礎とし、学科の教育目的(資料 2-1-(1-7) に沿って、コンピュータとネットワークを含んだ通信分野の技術者が必要とする広範囲の専門知識を与える多くの選択科目を開講している。選択的に科目履修が可能なように、学年進行と科目接続を配慮している。

電子工学科では、「電気回路 II」や「ディジタル回路 II」で専門知識を深め「電気磁気学」や「電子回路」で知識を広げるカリキュラムとしている。電子工学科では、回路、通信、計算機、デバイスに関係する知識を持つ技術者を養成するという学科の教育目的(資料 2-1-①-7)に沿って、1年間または2年間に渡る専門科目の授業が展開されている。

電子制御工学科では、「制御工学Ⅰ」「制御工学Ⅱ」「制御工学Ⅲ」と3年間に渡って専門的授業を行なう一方、この分野で必要な「機械力学」「熱力学」「流体力学」の機械工学分野の科目も開講して専門分野の体系性を確保している。

情報工学科では、特にコンピュータの基礎から応用までを体系的に理解させることを学科の教育目的(資料 2-1-1-1-1)とし、資料 5-1-1-1-10 とおりに、1 学年の科目「情報処理 1」から順

次接続する科目を各学年で11科目にわたって開講している。

各学科とも専門性に合致した科目の体系性を確認できる。

各科目のシラバスに記載された「学習・教育目標」($A\sim F$)「学習成果」(A1,A2,B1 等)と「達成度基準」(資料1-1-1-1-5)をまとめると、資料 $5-1-1-1-18\sim 21$ となり、教育課程が「学習・教育目標」に沿って展開され、実際の授業科目の内容に適切に反映されていることを確認できる。

「学習・教育目標」と科目の対応 情報通信工学科

学習·	教育目標	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
		国語	国語	国語A		
	.iv.l/ s	歴史	倫理·社会	国語B		
	必修	地理	歴史	政治経済		
Α		音楽/書道	音楽/書道	微分積分学		
					哲学	法学
	選択				文学特論	
						と人間
		国語	国語	国語A		
			物理	国語B	通信工学実験 I	通信工学実験 Ⅱ
	必修	音楽/美術/書道	音楽/美術/書道	日本語	工学セミナー I	卒業研究
	北顺	英語 I	英語 [英語 [
В		英語Ⅱ	英語 Ⅱ	英語Ⅱ		
		英語Ⅲ		基礎工学実験		
					英語特論	英語V
	選択				英語Ⅳ	英語Ⅵ
					独語I	独語Ⅱ
		国新	国新	□≒↑	中国語 I	中国語Ⅱ
С	必修	国語	国語 物理	国語A		
	الانكاد	情報処理 I	情報処理Ⅱ		エ学セミナー I	灰
		基礎数学 I	微分積分学	微分積分学		1 7 9176
		基礎数学Ⅱ	基礎数学Ⅱ	応用解析学	 応用数学	
		物理	物理	応用物理 I	応用物理Ⅱ	
		化学	化学			
			情報処理Ⅱ	情報処理Ⅲ		
	必修	基礎電気工学	電気回路I	電気回路Ⅱ	工学セミナー I	工学セミナーⅡ
		基礎工学演習	ディジタル回路 I	電気磁気学I		卒業研究
				電子回路 I		
				電気電子計測 I		
				工学演習	7	7 <i></i>
				基礎工学実験	通信工学実験Ⅰ	通信工学実験Ⅱ
D					数学概論 I 数学概論 II	自然特論 数学概論Ⅲ
ט					┃数字做論Ⅱ ┃電気磁気学Ⅱ	数字做論业 電気電子計測Ⅱ
					电风磁式子Ⅱ 電子回路Ⅱ	电双电弧可测皿
					電子工学 I	
					電子工学Ⅱ	
	,55 T⊔				通信工学 I	通信工学Ⅱ
	選択				電波伝送学 I	電波伝送学Ⅱ
						電気通信システムB
						通信法Ⅱ
					回路網理論	計算機ネットワーク エ
					情報処理Ⅳ	データ通信
					無線工学演習	
-		* 45	*	# T# T # C TA		と人間
	心板	美術	美術物理	基礎工学実験	週信工子美験 	通信工学実験 Ⅱ 卒業研究
	必修		物理 情報処理 Ⅱ	 情報処理Ⅲ		平未切先
E			日刊(火火土土	旧刊汉华王山	英語Ⅳ	英語 Ⅴ
-					\^m-v	英語 VI 英語 VI
	選択					電気電子計測Ⅱ
						計算機ネットワークI
F	必修	保健•体育	保健•体育	保健•体育	保健•体育	保健•体育

*日本語は留学生対象の科目

「学習・教育目標」と科目の対応 電子工学科

学習·	教育目標	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
		国語	国語	国語A		
	או עין	歴史	倫理·社会	国語B		
	必修	地理	歴史	政治経済		
		音楽/書道	音楽/書道	微分積分学		
Α					哲学	法学
	222 LE				文学特論	
	選択				電波電気法規	
						上人間
		国語	国語	国語A		
			物理	国語B		
		音楽/美術/書道		日本語		
	必修	英語Ⅰ	英語I	英語 I		
	10.12	英語Ⅱ	英語Ⅱ	英語Ⅱ		
В		英語Ⅲ			工兴中 縣	ナツ中 野
					工学実験	工学実験 卒業研究
					英語特論	英語V
	.== '-				英語Ⅳ	英語 V 英語 VI
	選択				独語I	独語Ⅱ
					中国語I	中国語Ⅱ
		国語	国語	国語A		
			物理			
С	必修	情報処理 I			通信工学	通信工学
		基礎工学演習		工学実験	工学実験	工学実験
		E-4				卒業研究
		歴史 基礎整備 5	ᄵᄼᄼᅩᆂᄼᄼᆇ	ᇪᇧᆂᇧᆇ		
		基礎数学 I 基礎数学 Ⅱ	微分積分学 基礎数学 Ⅱ	微分積分学 応用解析学	応用数学	
		基啶数子Ⅱ 物理	物理	心用解析子 応用物理	応用数字 応用物理	
		物理 化学	化学	電気磁気学	電気磁気学	
		10-7-	電気回路 I	電気回路Ⅱ	回路網理論	
	必修		EXIDE 1	電子工学	半導体工学	半導体工学
		基礎電気工学		電子回路	電子回路	
		基礎工学演習	ディジタル回路 I	ディジタル回路Ⅱ	通信工学	通信工学
		情報処理 I	情報処理Ⅱ	情報処理皿	電子計測	制御工学
					計算機工学	
D					電子工学セミナー	卒業研究
				工学実験	工学実験	工学実験
					数学概論 I	数学概論Ⅲ
					数学概論 Ⅱ 音響工学 I	自然特論 パルス工学
					百審工字Ⅰ 音響工学Ⅱ	ハルスエ字 光エレクトロニクス
					百音工子	応用計測
	選択				電波電気法規	画像工学
					电// 电/////////////////////////////////	電波伝送学
						データ通信
						ロボット工学
					環境。	上人間
		美術				
	\		物理	電子回路	電子回路	通信工学
	必修	基礎工学演習	ディジタル回路I	ディジタル回路Ⅱ	計算気工学	
Е			情報処理Ⅱ	工兴中 卧	電子工学セミナー	卒業研究
				工学実験	工学実験	工学実験
	選択				英語Ⅳ	英語 V 英語 VI
	选扒				 音響工学Ⅱ	英語 VI 応用計測
F	必修	 保健∙体育	保健•体育	 保健・体育	保健・体育	保健・体育
	とう	PINAL IT'D	FENAL IT'D		- 1 T	PINIAL IT'II

*日本語は留学生対象の科目

「学習・教育目標」と科目の対応 電子制御工学科

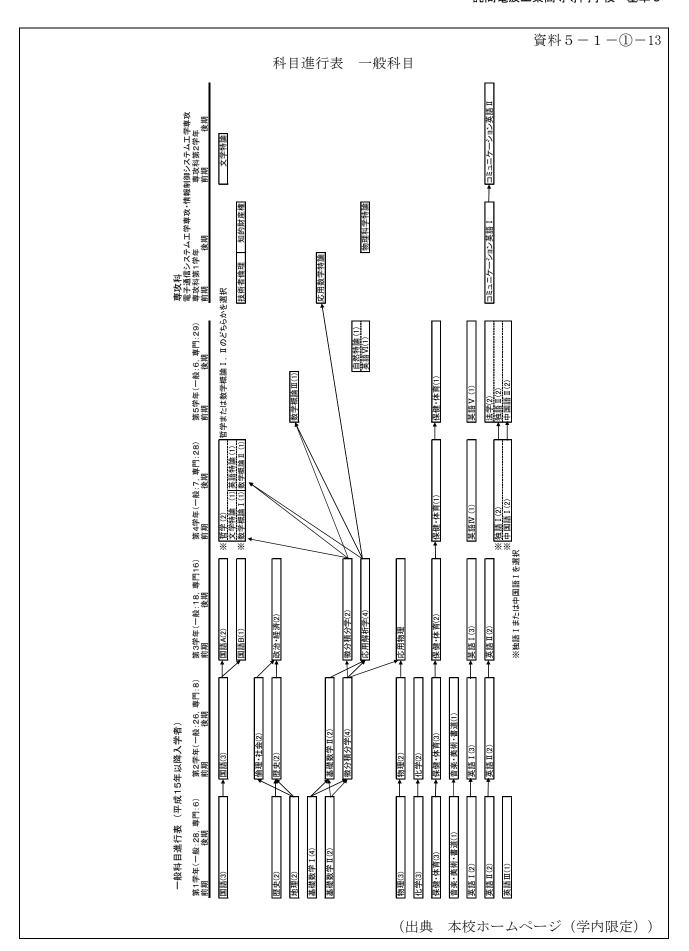
学習·	教育目標	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
		国語	国語	国語A		
	St 14+	歴史	倫理·社会	国語B		
	必修	地理	歴史	政治•経済		
Α				微分積分学		
		音楽	音楽		環境と人間	計算機工学I
	選択	書道	書道		哲学	法学
					文学特論	数学概論Ⅲ
		国語	国語	国語A	制御工学セミナー	制御工学セミナー
		英語 I	物理	国語B		
	必修	英語Ⅱ	英語I	英語I		
		英語Ⅲ	英語Ⅱ	英語Ⅱ		
В				日本語		
		 音楽	音楽	工学実験	制御機器 I	英語 Ⅴ
		美術	美術		英語特論	夾語 VI 英語 VI
	選択	書道	書道		英語Ⅳ	独語Ⅱ
	~				独語I	中国語Ⅱ
					中国語 I	
	.V. 160	国語	国語	国語A		工学実験
С	必修	情報処理 I	物理			卒業研究
ļ	選択				制御機器 I	通信システム Ⅱ
		基礎数学 I	基礎数学Ⅱ	微分積分学	応用数学 I	応用数学Ⅱ
		基礎数学Ⅱ	微分積分学	応用解析学	応用物理Ⅱ	計測工学
		物理	物理	応用物理I	制御工学Ⅱ	制御工学セミナー
	必修	化学 基礎電気工学	化学 電気回路 I	制御工学 I 電気回路 II	電気磁気学Ⅱ 電子回路Ⅱ	工学実験 卒業研究
	火沙	基礎電丸工字 基礎工学演習	電気凹路 I ディジタル回路 I	電気四路Ⅱ 電気磁気学 I	電子四路 半導体工学	十 未
		圣诞工于 演日	情報処理Ⅱ	電子回路Ⅰ	一等 体工子 機械力学	
			旧私处生工	工学演習	制御工学セミナー	
				工学実験	工学実験	
					環境と人間	固体物理 I
					数値解析 I	固体物理Ⅱ
					数値解析Ⅱ	シーケンス制御 I
					確率統計論I	シーケンス制御 Ⅱ
					確率統計論Ⅱ	制御工学Ⅲ
					ディジタル回路Ⅱ	
_					ディジタル回路Ⅲ	
D					制御機器I	知識工学Ⅱ
					制御機器Ⅱ	ロボット工学I
					オペレーションズ リサーチ I オペレーションズ リサーチ II	ロボット工学Ⅱ
					システム工学 I	流体力学 I 流体力学 Ⅱ
	選択				システム工学Ⅱ	無体のチェ 熱力学Ⅰ
					通信理論Ⅰ	熱力学Ⅱ
					通信理論Ⅱ	計算機工学I
					数学概論 I	計算機工学Ⅱ
					数学概論Ⅱ	画像処理 I
					英語Ⅳ	画像処理Ⅱ
						通信システム Ι
						通信システム Ⅱ
						数学概論Ⅲ
						自然特論
						英語Ⅴ
-			物理	制御工学 I	電子回路Ⅱ	英語Ⅵ 卒業研究
	必修		物理 ディジタル回路 Ⅰ	工学実験	電ナ凹路 工学実験	十未听九
			美術	一十六叔	制御機器Ⅱ	 シーケンス制御 I
					システム工学 I	シーケンス制御Ⅱ
					システム工学Ⅱ	制御工学Ⅲ
Е					英語Ⅳ	制御工学Ⅳ
	選択					ロボット工学 I
						ロボット工学Ⅱ
						通信システムI
						英語Ⅴ
_	مارا راج. مارا راج.	原体. 牛李	原体. 牛李	原体. 生安	原体. 牛李	英語Ⅵ
F	必修	保健•体育	保健・体育	保健・体育	保健•体育	保健•体育

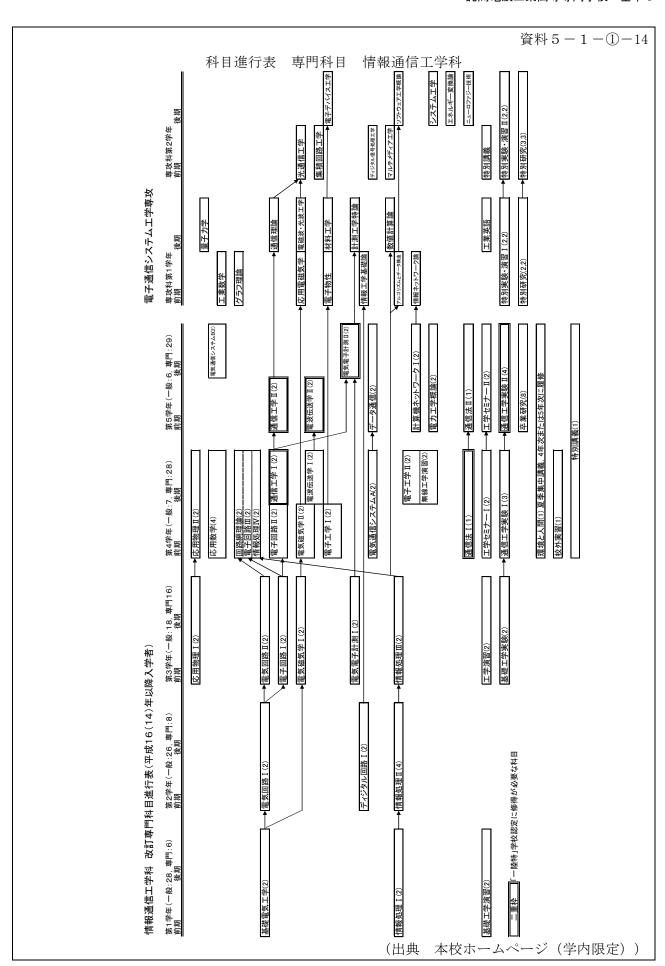
*日本語は留学生対象の科目

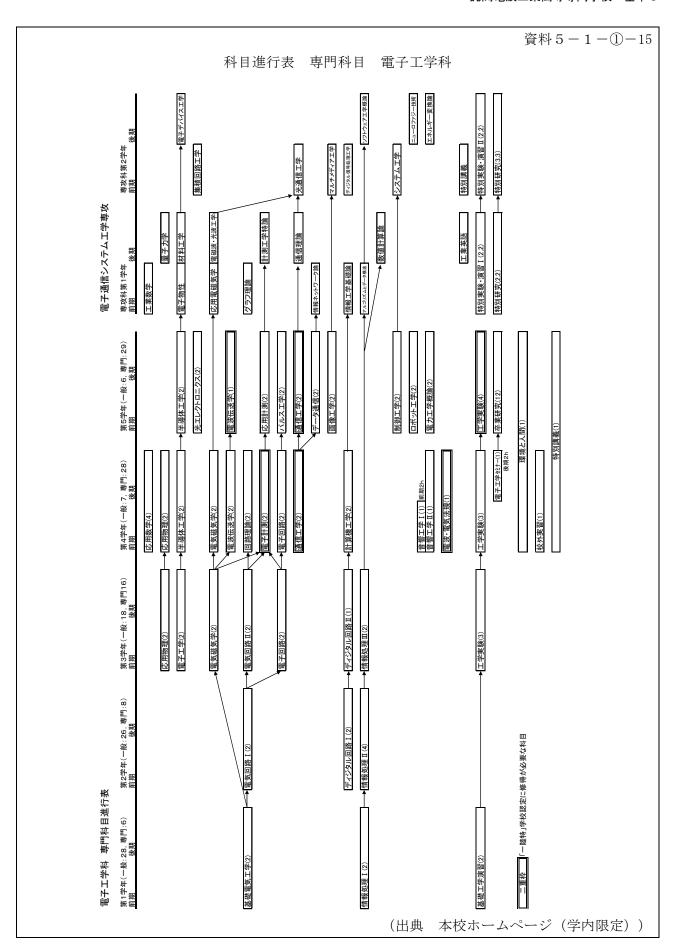
「学習・教育目標」と科目の対応 情報工学科

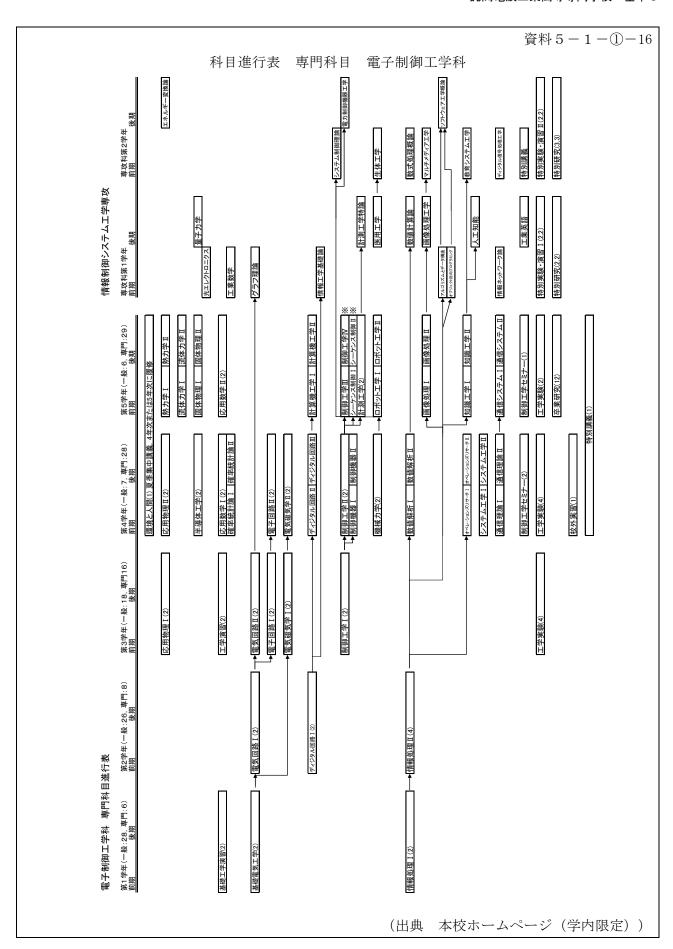
₩25 ·	教育目標		秋月日/示」 C		[ケード ケー
字省•	教育日標 	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年
		国語	国語	国語A		
	必修	歴史	倫理·社会	国語B		
		地理	歴史	政治経済		
Α		音楽/書道	音楽/書道	微分積分学	+= 224	_ <u>_ _ \</u>
	\== I=				哲学	法学
	選択				文学特論	
		-			東現	と人間
		国語	国語	国語A		
		音楽/美術/書道	物理	国語B		
	必修	英語I	音楽/美術/書道	日本語		
		英語Ⅱ	英語 [英語Ⅰ		
В		英語Ⅲ	英語Ⅱ	英語Ⅱ	工兴中 段	<u> </u>
					工学実験	卒業研究
					英語特論	英語V
	選択				英語Ⅳ	英語Ⅵ
					独語Ⅰ	独語Ⅱ
	-	国 钰	国転	国転△	中国語 I 情報工学セミナー	中国語Ⅱ
_	א עין	国語	国語 物理	国語A 情報システム I	「「一」 「一」 「一	工学実験
С	必修	/	70年		工子天駅 	卒業研究
		情報処理 I 基礎数学 I	基礎数学Ⅱ	工学実験		
		基礎数字Ⅰ 基礎数学Ⅱ	基礎釵字Ⅱ 微分積分学	微分積分学 微分積分学		
		基礎数字Ⅱ 物理	物理	成分負分子 応用解析学		
		が埋 化学	物理 化学	心用胜机子		
		16子	16子	ct == #m === 1		
	 必修			応用物理 I 電子回路	応用数学 応用物理Ⅱ	
	必修			電子凹路 Ⅱ	電気磁気学	
				基礎情報工学	電気磁気子 計算機システム	
		基礎電気工学	電気回路 I	基礎情報エ子 情報システム I	情報構造論	
		基礎电気工子 情報処理 I	電気凹路 I ディジタル回路 I	ソフトウェア設計論	情報性温調 情報工学だナー	工学実験
		基礎工学演習		工学実験	工学実験	本子夫級
D		空 陇工于	I I H T X X L X L	工士大歌	<u>本于天歌</u> 数学概論 I	数学概論Ⅲ
					数字概論Ⅱ	自然特論
					X T-1M IM II	プログラミング言語
						基本ソフトウェア
						コンパイラ
					数値解析	通信システム Ⅱ
	選択				システムプログラミング	情報システムⅡ
					知識工学 I	知識工学Ⅱ
					八中成土丁工	ガ酸エチェ
						画像工学
						情報特論Ⅱ
					環	と人間
		美術	物理		******C	- / NH)
		 	後			
	S	基礎工学演習	ディジタル回路I	ディジタル回路 Ⅱ	電気磁気学	
	必修		情報処理Ⅱ	情報システムI	情報工学セシナー	
				ソフトウェア設計論	工学実験	工学実験
				工学実験		卒業研究
_					英語Ⅳ	英語V
Е						英語VI
						プログラミング言語
	,55 T⊔				数値解析	基本ソフトウェア
	選択				システムプログラミング	通信システム I
					知識工学 I	情報システムⅡ
					<u> </u>	知識工学Ⅱ
						データベース
F	必修	保健·体育	保健•体育	保健∙体育	保健•体育	保健•体育
				-	-	

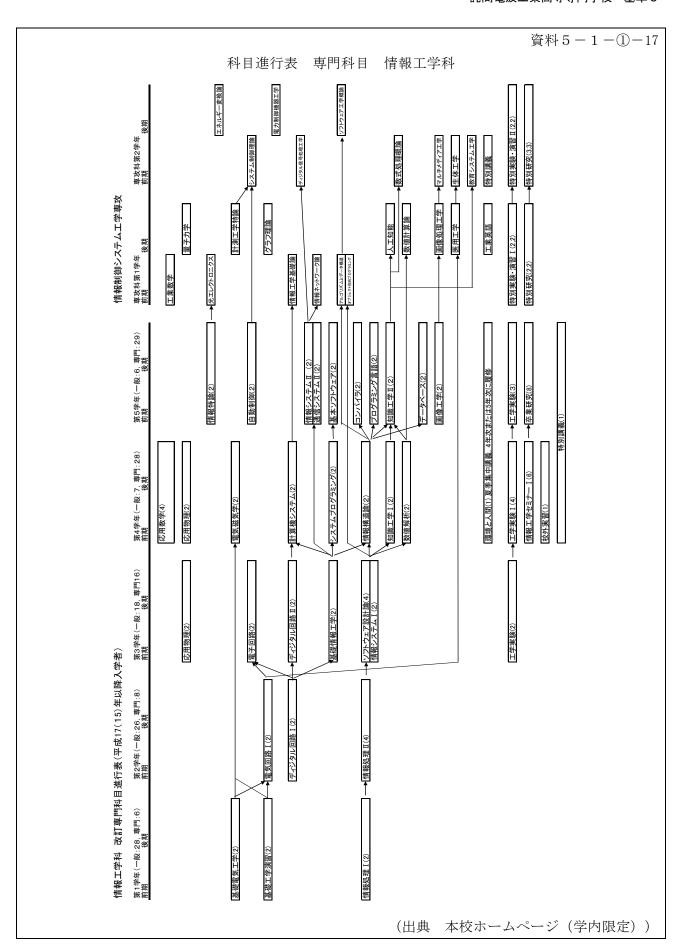
*日本語は留学生対象の科目











科目と「学習・教育目標」の対応 情報通信工学科

	本科 科目	学年	選択	単位	履修	修得	A1	A A2	A3	B1	B B2	B3	C1	C2	C C3	C4	D1	D2	D D3	D4	D5	E1	E2		E E4	E5	E6	F1	F2	F3
	国語	1	必	3	0	_	3	2	2	· .	1-2	2	1	_		2		Ĺ		Ĺ	_								_	
	歴史 地理	1	必必	2			1,3	1,3	1-4																					\vdash
	基礎数学 I	1	业业				3,4	1,3	1-4								2.4													t
Ŀ	基礎数学Ⅱ	1	必	2	0												1,2,4													
	物理	1	必														1,2													╀
	化学 保健·体育	1	必必														3											1-4	1-4	1
Ŀ	音楽	1	選	1			3			1	1,2																			Ľ
	美術	1	選	1	!	-	2		1		1																1			H
ŀ	書道 英語 I	1	選必	1 2	0	1	3		1	1-3	1-3																			H
	英語Ⅱ	1	必	2						1-3	1-3																			İ
ŀ	英語皿	1	必	1			_			1,2	1,2																			Ļ
	国語 倫理·社会	2	必必	2			3 1-4	-	1,2,4	1,2	1,2	1-3	1	-		1-4				-	-					-	-			H
	歴史	2	必必	2	0		1,3	2	1,2,4																					t
	基礎数学Ⅱ	2	必	2	0												2													I
	微分積分学 物理	2	必必	4						4	2	4	1,5,6	1-3			2,4 1-3				1.3	1-4				2.3	1-3			╀
	化学	2	必必	2	ŏ	T				7	Ĭ	1	1,0,0	, ,			3				1,5	1 7				2,0	, ,			t
Ŀ	保健·体育	2	必	3	0																							1-4	1-4	1
	音楽	2	選選	1		┢	3,4	<u> </u>		1,2	1				ļ				ļ											╀
	美術 書道	2	进選	1		1		-	1.2		1																-			t
Ŀ	英語 I	2	必	3	0				.,_	1,2																				I
	英語Ⅱ	2	必	2			0.4			1,2	1																			ł
	国語A 国語B	3	必必			H	3,4		4	1-2	1-2		4		1-2															t
1	政治·経済	3	必	2	0		3,4																							İ
ŀ	微分積分学	3	必	2		1	<u> </u>	1	1,4	-	<u> </u>	-	-			<u> </u>	4						<u> </u>	<u> </u>						H
ŀ	応用解析学 保健·体育	3	必必	4			 	1	+		1	1	1	 		-	4	l l		 			-				 	1-4	1-4	1
Ŀ	英語 I	3	থ	3	0					1-3	1-3																	Ė		ľ
Ŀ	英語Ⅱ	3	必	2	0		F	\vdash	\vdash	1-3	1-2								L						L					ſ
	日本語 基礎電気工学	3 1	必必		0	⊢		1	1	1-3	-		\vdash				-	2.4			-	-	-			-		\vdash		+
	<u>幸促电式工子</u> 情報処理 Ι	1	必必	2	0								1	1.2	1-4			2,4												t
Ŀ	基礎工学演習	1	必	2	0												2,4													F
	電気回路 I ディジタル回路 I	2	必必	2	0			1	+	-	 	1	-		 		-	1-4 2,4	 		 	-			 	 		-		+
Ŀ	情報処理Ⅱ	2	必必		0	Ħ	L	L						1.2.3				1,2,4,5					1,2				L			t
Į	応用物理 I	3	必	2	0												1,2,3													Į
	情報処理Ⅲ 電気回路Ⅱ	3	必必	2	0	⊢		1	1	-	-		-	-		-	2 5	1,2,4		-	1	-	-		-	-	3	-		ł
	電気磁気学 I	3	必	2													2,5 1	2,3 1-4												t
E	電子回路 I	3	宓	2	0													1,2,3												I
ŀ	電気電子計測 I	3	必	2	0	-		1	1	-	-		-	-		-	1,2	2-6		1,2	-	-	-	-		-	-			ł
	工 <u>学演習</u> 基礎工学実験	3	必必									1,3,4					3	1,2,3 1-4,6	1,2	1,2	2		1	1-4	2	1,3	1,3			t
[応用数学	4	থ	4	0							<u> </u>					1,2,3,4			Ė										İ
Ų	応用物理Ⅱ	4	必	2	0		l -	1	1	1.7	100	1.5	101	1.0	ļ	1.0	1,2,3	<u> </u>		_			_				<u> </u>			Ŧ
	工学セミナー I 通信工学実験 I			3				1	1	1-4	1,2,3	1-5 1-4	1,3,4	1,2	1-4	1-6		<u> </u>			3 1-3	1		1-3	1.2	1,2				t
Ľ	電気磁気学Ⅱ	4	選	2		L						Ľ					1-4	1-4	1,2		Ľ	Ė		Ľ	Ë					t
	電子回路Ⅱ	4	斑!	2														3,4												L
H	電子工学 I 電子工学 II	4	選選	2	┢	┢		-										1,2,3												ł
	通信工学 I	4	選	2	T	T											1	1,2,3												t
E	電波伝送学 I	4	羢	2													1,2	1,3,4	1,2	1,2										I
Ľ	電気通信システムA 通信法 I	4	選選	1		-												1	1											+
	回路網理論	4		2		H												1,2,3	1.2											t
Ŀ	情報処理IV	4	羢	2														1,2,3	1											L
	無線工学演習 環境と人間	4	選選	2		-	0	-	104						ļ			1-4		-	-				<u> </u>	<u> </u>				╀
	^{現現と人间} 校外実習		担 選			H	2		1,3,4										-											t
	特別講義	4	選	1																										L
Ŀ	保健·体育	4	必要			\vdash	2.4	1	<u> </u>	-	<u> </u>	<u> </u>	_		<u> </u>			<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>				<u> </u>	<u> </u>		1-4	1-4	1
ŀ	哲学 文学特論	4	選選	1		H	3,4		4									 					l —							t
3	英語特論	4	選	1		L			Ė	1,2	1,2																			İ
Ŀ	数学概論 I		羢	1		F	H	\perp	\vdash	\perp	\vdash	1	\vdash	\vdash	\vdash	H	4		\vdash	\vdash	\vdash	\vdash	H	\vdash	\vdash	\vdash	\vdash	H		Ĺ
Ľ	数学概論Ⅱ 英語Ⅳ	4	選選	2	H	H				4	1-3						2,3,4										1			t
1	独語I	4	選	2						1-3	1-2																			İ
	中国語Ⅰ	4	選々	2	_	H		-	<u> </u>	1,2	1,2	<u> </u>			<u> </u>			100	100	1.0	1.0				<u> </u>	<u> </u>				ŀ
	<u>工学セミナーⅡ</u> 通信工学実験Ⅱ	5	必必	4	00	H		1	1			1-5	 					1,2,3	1,2,3	1,2	1,2	2	1	1-4	1.2	1,2,3	1			t
1	卒業研究	5	必	12	0					1-4	1,2,3	1-5	1-4	1,2,3	1-4	1-8			1,2,3	1,2	1,2,3	1,2,3		1,2,3		1,2,0				İ
Ŀ	通信工学Ⅱ	5	選	1 2		L	<u> </u>	1			_							1,2,3		_										ļ
Ľ	電波伝送学II 電気通信システムB	5	選霍	2	۰	H		1	1				 					1-3 1,2,3	1,2	1	1		-							t
	通信法Ⅱ	5	巍	1		L												1	1,2	Ė	Ė									İ
Ľ	電気電子計測 Ⅱ	5	羢	2		Г												1,3,4	1				1							ſ
	<u>計算機ネットワーク I</u> データ通信			2		\vdash		1	-		-		-			-		1-5 1,2	1,2	1,2			1,2,3	1,2,3	1,2	1,2				+
ŀ	アータ通信 電力工学概論	5	遊選	2	t	L	L	L	L		L	L	L			L		1,2					L							t
Ŀ	保健·体育	5	必	1	0																							1-4	1-4	ŀ
ŀ	法学 数学摒論Ⅲ	5	選	2	H	H		1	1,3,4	-	-	-	1	-	-	-	4	 	-	<u> </u>	 	-	-		-	 	<u> </u>	-		+
1	数学概論Ⅲ 自然特論		进選	1	H	H		 	 		\vdash						2,4	\vdash												t
	英語Ⅴ	5	斑	1		L				1,2	1,2																1			İ
	英語VI	5	選	1	Ľ	F					1,2		\vdash														1			ľ
	独語 I 中国語 I	5	選選	2	H	H		1	<u> </u>	1-3	1,2												-							t
Т	達成度チェック 履修科目の達成度を 修得科目の達成度(£07	7囲	ŧ			123 4	1 2 3 4	1 2 3 4	日 1 2 3 4 英 1 2	日 1 2 3 英 1 2	3 4 5 英 1 2		123			123 456		1 2 3 4 5	123	123	123 4	123	1 2 3 4	1 2 3 4	123	123			1
ļ	**学士課程の達成度 **学士課程の達成度			110	,		1-3	1,2	1-3	3 4 日1.2 英1.2	3 日1,2 英1,2	3 4 5 日 1-3	2項 目以	2項目 以上	3項 目以	1-7	1-3	1-3	1,2	1	1,2	1,2	1,2	1-3	1,2	1,2	1-3	1,2	1-4	1
	達成度水準を満たして 必修科目のみで満た 必修と選択科目で満	こせに	ť ()	エック	ל	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	İ

科目と「学習・教育目標」の対応 電子工学科

		学	選	単	履	修		Α		l .	В		l .		3				D						E				F	
	本科 科目	年	択必	位	修〇	得	A1	A2	A3	B1	B2 1-2	B3	C1	C2	C3	C4	D1	D2		D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	F1	F2	F3
	歴史	1	必	2	0		1,3	2			1 2																			
	地理 基礎数学 I	1	必必				3,4	1,3	1-4								2,4													
	基礎数学Ⅱ	1	必	2	0												1,2,4													
	物理 化学	1	必必		0												1,2													
	保健·体育	1	必	3	0																							1-4	1-4	1,2
	<u>音楽</u> 美術	1	選選			┢	3			1	1,2																1			
	書道	1	選	1			3		1	1	1																			
	英語 I 英語 I	1	必必							1-3 1-3	1-3																			
	英語皿	1	必	1	0					1.2	1.2																			
	国語 倫理·社会	2	必必	2	0	+	3 1-4		1,2,4	1,2	1,2	1-3	1			1-4														
— én	歴史	2	必	2	0		1,3	2																						
般科	基礎数学Ⅱ 微分積分学		必必		0												2.4													
Ħ	物理	2	必	2	0					4	3	4	1,5,6	1-3			1-3				1,3	1-4				2,3	1-3			
	化学 保健·体育		必必		0												3											1-4	1-4	1-5
	音楽	2	選	1		L	3,4			1,2	1																			
	美術 書道	2	選選	1		+			1,2		1																1			
	英語 I	2	刻	3	0				.,_	1,2																				
	英語 II 国語A	3	必必			╁	3,4			1.2 1-2	1-2		4		1-2															
	国語B	3	必	1	0				4	1-2	_				_															
	政治·経済 微分積分学	3			0		3,4		1,4	1							4													
	応用解析学	3	必	4	0				Ė								4													ļ.
	保健·体育 英語 I	3	必必	3	0	+				1-3	1-3		1															1-4	1-4	1-5
	英語Ⅱ	3	必	2	0					1-3	1-2																			
	日本語 基礎電気工学	3	必必	2	0	╁	\vdash	\vdash		1-3		\vdash	<u> </u>	_	_	\vdash	1,2			 	\vdash		\vdash	\vdash	\vdash		\vdash	<u> </u>		\vdash
	情報処理 I	1	必	2	0								1,2	1,2	1,2,5		<u> </u>	1	1											
	基礎工学演習 電気回路 I	2	必必										1-3		1-5	1-8	1,2	1,2			1	1-4				1-3	1-3			
	ディジタル回路 I	2	必	2	0												.,_	1,2,4			1		1							
	情報処理 II 応用物理	3	必必		00												1 1-3	1,2,4							2					
	電気磁気学	3	必	2	0													1-4												
	電気回路 II 電子工学	3	必必		0												1,2 1-3	1,2			1									
	電子回路	3	必	2	0													1-3					1,2							
	ディジタル回路Ⅱ 情報処理Ⅲ	3	必必	2	0	1				1							1-4	1-3 1-4					1-3							
_	工学実験	3	必	3	0									1,2				1,2			1	1-3	1-3	1-4	1-4	1-3	1-3			
専門	応用数学 応用物理	4	必必														1-4													
科	電気磁気学	4	必	2	0													1,2,4												
Ħ	回路理論 半導体工学		必必														1,2	1-3	1,2											
	電子回路	4	必	2	0												.,.	1-3					1-3							
	電子計測 通信工学		必必										1-4				1-3	1-3 1-3	1,2		2									
	計算機工学	4	必	2	0													1-3					1-3	1-2	1-2		1			
	電子工学セミナー工学実験	4	必必	3	00	\vdash					2		1	1,2	1,2			3			1		3	4	2,4	2	3			
	音響工学 I	4	選	1											-,-			1-3	1,2											
	音響工学Ⅱ 電波伝送学	4	選選	2		┢											1.2	1-3	1-3	1,2			1							
	電波·電気法規	4	選	1																										
	環境と人間 校外実習		選選			┢	2		1,3,4										1											
	特別講義	4	選	1																										
	保健·体育 哲学		必選	2		┢	3,4																					1-4	1-4	1-5
_	文学特論	4	選	1			Ė		4																					
般	英語特論 数学概論 I		選選			H	1	\vdash	\vdash	1.2	1.2		\vdash			<u> </u>	4			\vdash			 	\vdash	\vdash	-		 		\vdash
科目	数学概論Ⅱ	4	選	1						4	1- 2						2-4													
_	英語IV 独語 I	4	選選	2		t	L	t		4 1-3	1-3 1,2					Н				\vdash			Н	\vdash			Ľ			L
	中国語I	4	選	2		F					1,2							1-2	1. 2	1.0										
	半導体工学 通信工学	5	必	2	0								1-4				1-3	1-3 1-3		1,2 1,2	2		1							
	制御工学	5	必	2	0						1.0	1- 2		1- 2				1-3					1. 2	1-4	1. 4	1.0	1. 2			
専	工学実験 卒業研究	5	必	12	0	t				2	1,2	1-3 2	1	1-3 1,2	1-4	1-8		1-5 3	1-3		2	3	1-3	1-4	1-4	1,2	1-3 1			
門	パルス工学	5	選	2		F												1-3												
科	光エレクトロニクス 応用計測	5 5	選	2		Ħ	L		L				L			L	L	1,2	1	L	L		1	L	L	L	L	L	L	L
Ħ	画像工学	5	選	2		F												1-3	3	2										
	電波伝送学 データ通信	5	選	2		t												1-3	_											
	ロボット工学 電力工学概論	5	選	2		F	H	H								H		1-3					H	H			H			H
	保健·体育	5	必	1	0	t																						1-4	1-4	1-5
_	法学 数学概論Ⅲ	5	選	2		F	H	H	1,3,4							H	4					H	H	H			H			
般	自然特論	5	選	1													2,4													
科	英語 V 英語 VI	5		1		F	1			1,2	1,2	\vdash	\vdash											<u> </u>			1			
п	独語Ⅱ	5	選	2						1-3	1,2																Ľ			
	中国語Ⅱ	5	選	2	<u> </u>	<u> </u>	123	1 2 3	123	1-3 日 1 2	1,2 日 1 2	日 1 2	123	123	123	123	123	1234	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123	123
	達成度チェック 履修科目の達成度で 修得科目の達成度(5		4	4	4	3 4	3 英12 3	3 4 5	456		4 5	456 78	456	5 6	45			4		4	4			4	4	45
	準学士課程の達成度			<i>t</i> ~		_	1-3	1,2	1-3	日1,2 英1,2	日1,2 英1,2	日1-3	2項 目以	2項目 以上	3項 目以	1-7	1-3	1-3	1,2	1	1,2	1,2	1,2	1-3	1,2	1,2	1-3	1,2	1-4	1-3
	達成度水準を満たして 必修科目のみで満た 必修と選択科目で造 水準を満たしていな	とせに あたせ	ぱ (C A	エック	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

科目と「学習・教育目標」の対応 電子制御工学科

	本科 科目	学年	選単択位	履修	修得	Δ1	A A2	43	R1	B B2	R3	CI	C2 (C C2	C4	D1	D2	D D2	D4	DE.	E, 1	E2	E	F4	cc	F6	F1	F F2	E2
1	国語	1	ø∑ 3	-		3	A2 2	A3 2	d)	B2 12		1	C/Z	G3	C4 2	UI	υZ	D3	υ4	υb	E1	EZ.	ЕЗ	E4	Eð	Εģ	r1	r2	гЗ
	地理	1	必 2 必 2			13 34	13	1234																Ш					
	基礎数学 I 基礎数学 II	1	Ø 4													24 124													
	物理化学	1			F		E	E	E	E			H	E		12 3			=	\equiv	\exists	Ⅎ		H	-1	E	H	_	
	保健·体育音楽	1	必 3 選 1			3				12																	1234	1234	12
	美術書道	1	選 1		F	3		1	1	1									=					H	=	1			
	英語 I	1	Ø 2			3			123	123																			
	英語 II 英語 II	1	£ 2 £ 1						123 12	123 12																			
	国語 倫理·社会	2	Ø 2			3 1234		24 124	12	12	123	1			1234														
#0	歴史 基礎数学Ⅱ	2	必 2			13	2									2													
科目	微分積分学 物理	2	Ø 4		F				4	3	4	156	123			2,4				13	1234				23	123			
Н	化学	2	Ø 2									130	123			3				13	1234				23		1234		
	保健·体育 音楽	2	必 3 選 1			34			12	1																	1234	1234	12345
	美術 書道	2	選 1		E			12		1																1			
	英語 I 英語 II	2		t	H				12	1																			
	国語A 国語B		Ø 2		_	34		4	12	12		4		12															
	政治·経済 微分積分学	3	Ø 2			34		14								,													
	応用解析学	3	iii 4	Т												4											1004	1004	10045
	保健·体育 英語 I	3	Ø 2 Ø 3						123	123																	1234	1234	12345
	英語 II 日本語	3		t	H				123	12																			
	基礎電気工学 情報処理 I	1	£ 2 £ 2		H	_							123	1234			1234				_							_	
	基礎工学演習	1	Ø 2										.20	1234		12													
	電気回路 I ディジタル回路 I	2			H			L		\vdash			Н	L		23	124		_			12		Н	_				
	情報処理Ⅱ	2	Ø 4		E												234		1										
	応用物理 I 制御工学 I	3	® 2 ® 2	H	H		H	E					Н	E		123	1236	2	1_		_	1_						_	
	電気回路II 電気磁気学I	3	Ø 2		F											2	12				=		=					=	
	電子回路 I	3	ø5 2		E												12 123												
	工学演習工学実験	3	必 2		F	H	F	F	F	F	3		H	H		12	1	H	4		- [12	123	П	2		H		
	応用数学 I	4	Ø 2								<u> </u>					4						12	123						
	応用物理Ⅱ 制御工学Ⅱ	4	£ 2 £ 2		H			\vdash	<u> </u>	-				<u> </u>		12 25	12345	H	-			\vdash		H			H		
	電気磁気学Ⅱ	4	必 2													1234		1											
専	電子回路 II 半導体工学	4															123							1					
門科	機械力学	4	 Ø 2	L													12												
目	制御工学セミナー工学実験	4	£ 2 £ 4						3	12							13	1		12					12				
	環境と人間 数値解析 I	4	選 1			2		134									1234	1											
	数値解析Ⅱ	4	選 1		E												23												
	確率統計論 I 確率統計論 II		選 1													1234													
	ディジタル回路 Ⅱ	4	選 1													-	123	1											
	ディジタル回路Ⅲ 制御機器Ⅰ	4	選 1 選 1	t	H				1	1	1				1		1234	1		1									
	制御機器Ⅱ オペレーションズ リサーチ	4	選 1														1234					12	123	1					
	オペレーションズリサーチ		選 1 選 1														12 123	12 12	2										
	システム工学 I システム工学 II	4	選 1 選 1		┝												14 34				_	2						_	
	通信理論Ⅰ	4	選 1													2	2					_							
	通信理論 II 校外実習	4	選 1 選 1	H		_											2		-										
	特別講義																												
		4	選 1			34																					1234	1234	12345
	保健·体育 哲学	4	逃 1 遊 2	t																									
_	保健·体育 哲学 文学特論	4 4 4	必 1 選 2	-				4	12	12																			
一般科	保健·体育 哲学 文学特論 英語特論 数学概論 I	4 4 4 4	必 1 選 2 選 1 選 1					4	12	12						4													
一般科目	保健·体育 哲学 文学特論 英語特論 数学概論 I 数学概論 I	4 4 4 4	必 1 選 2 選 1 選 1 選 1					4	12	12						4 234													
科	保健·体育 哲学 文学特論 英語特論 数学概論 I 数学概論 I 英語IV 独語 I	4 4 4 4 4 4 4	必 1 選 2 選 1 選 1 選 1 選 2					4	4	12 123 12						4 234										1			
科	保健·体育 哲学 文学特論 英語特論 数学概論 I 英語IV 独語 I	4 4 4 4 4 4 4 4 4 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 選 2 選 2 選 2 選 2 必 2					4	4							4 234										1			
科	保健·体育 哲学 文学特論 英等概論 I 数学概論 I 独語 I 中国語 学 計測工学	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 選 2 選 2 2 遂 2 2 必 2					4	4	12						123	12	1	2							1			
科	保健・体育 哲学 文学特論 英学特論 数学概論 I 英語IV 独語 I 中応用数学 I 計測工学セミナー 工学験	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 2 選 2 2 2 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2					4	4	12			123			123	12 3 2	1 1 1	2	2						1			
科	保健·体育 哲学 文学特論 数学概論 I 数等概論 I 数选話 I 中国話 I 応用数学 I 動御工学 制御工学セミナー	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 2 選 2 2 2 必 2 2 必 1 2 必 1 2 必 1 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 1 2 必 2 2 必 1 2 必 2 2 必 1 2 必 2 2 必 1 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2 2 必 2	2				4	4	12		1	123	1234	123456	123		1 1 1 1 1 1	2	2	4				1	1 123			
科	保祉 体育 哲学 文字特論 英語特論 数字概論 I 数字概論 I 数字概論 I 表語 IV 執語 I 中国語・I 手 新刺工字 新刺工字 表語 I 平実験 卒業研究 国体物理 I 国体物理 I	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 選 2 2 必 2 2 必 1 2 必 1 2 選 1 必 2 2 必 1 2 返 1 2 返 1 2 返 1 2 返 1 2 返 1 2 返 1 1					4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123	3 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2	4				1	1 123			
科	保祉・体育 哲学 文字特論 英語特論 数字報論 1 数字報論 1 数字報論 1 数字 2 数語 1 世国話 1 世別王学 計測王学 日 計測王学 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 選 2 選 1 選 1 選 2 選 2 選 2 選 2 必 2 必 2 必 1 必 2	22				4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2	4	123	1234	12	1	1 123			
科	保健・体育 哲学 文学特施 英語特施 安学報施 I 数学報施 I 女師 I 中国廷 I 応用数学 I 計画工学 学実験 学工学実験 学工学実験 学工学 団体物理 I レーナンス制御 I シーナンス制御 I	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 返 1 返 1 返 1					4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234 123	3 2 5 12345 1245 3	1 1 1 1 1 1 3	2	2		123 2		12	1	1 123			
科目	保健・体育 哲学 文学特施 英語特施 英語特施 数学報施 I 数学報施 I 中間話 I 応用数学 I 計画工学 財子工学業研究 団体物理 I 加生物理 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンス制御 I シーケンストリーケード	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 2 2 1 1 選 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2					4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234 123	3 2 5 12345	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2				12	1	123			
科目専門科	保健・体育 哲学 文学性論 支手性論 支子概論 1 支子概論 1 支子概論 1 支子概論 1 支子概論 1 支子概論 1 支持 1 支持 1 支持 1 支持 1 支持 1 支持 1 支持 1 支子表 1 支持 1 支子表 1 支持 1 支子表 1 支子表 1 支子表 1 支持 1 支子表 1 支子 1 支子 1 支子 1 支子 1 支子 1 支子 1 支子 1 支子	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 2 2 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2					4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234 123	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2		123 2 2		12	1	123			
科目	保量・休育 哲学 文字特強 英語特益 を字整論 を字整論 を字整論 技術 技術 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の原発 対象工学 中の形象工学 対象工学 中の形象工学 対象工学 対象工学 対象工学 対象工学 対象工学 対象工学 対象工学 対	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1					4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2	13	123 2		12	1	123			
科目専門科	保量・休育 哲学 文字特論 英語特論 数字機能: 数字機能: 中国語: 中国語: 中国語: 中国語: 中国語: 中国語: 中国語: 中国語	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 2 2 2 2 2 2 2 2 2	222				4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234 123 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目専門科	保量・休育 哲学 文学物論 英語物語 教学趣語と 教学趣語と 教学趣語と 一年 新述 一年 新述 一年 新述 一年 第二 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年 一年	4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2	22				4	4	12		1	123	1234	123456	78 1234 1234 123 3 1234 1234	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目専門科	保証・休育 世子 文字物論 英語物論 歌字報論! 歌字報論! 歌字報論! 英語び 地話! 中国話! か測正字 計測正字 日本報音! 日本報音! 一一二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二	4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	 必 1 返 2 2 2 3 1 3 2 4 2 6 2 6 2 7 2 8 3 8 4 8 5 8 6 9 7 9 8 9 9 9 1 1 2 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 3 1 3 4 1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4			3		4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3 1234 1234	3 2 5 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目	保証・休育 世子 文字特論 英語特論 数字機能! 数字機能! 英語が 地話! 中国話! か当別工学 計別工学 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報目 日本報報日 日本報 日本報	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2			3		4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 122 1245 1245 1245 1234 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目	保量・休育 哲学 文学物論 英語物語 安華趣』 教学趣識」 世年版記 中版記 中版記 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2			3		4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1245	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目	保量・体育 世学 工学特別 気性物語 数字機能 1 数字機能 1 長語 2 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 3 大語 4 大語 3 大 3 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 5 大 3 3 大 3 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3 大 3	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3		4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1	123			
科目	保証・体育 世学 工学特別 気能特別 数字機能! 数字機能! 以	4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3		4	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1		1234	1234	12345
科目	保証・休宵 世子 文学物語・ 数字無額! 数字無額! 数字無額! 数子語物: 数子語》 連証! 中国話! 中国話! 計測工学 日本報報! 日本報報! 日本報報! 日本報報! 日本報報! 日本報報! 日本報報: 日本報: 日本	4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3		134	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1		1234	1234	12345
科目専門科目	保証・休育 世子 文字物論 英語物論 数字無論! 数字無論! 数字無論! 数字無論! 英語び 地語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語! 小中国語: 小中公元等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本等 日本	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3		134	4 123 12 4 4	22		1	123	1234	123456	123 78 1234 123 3 3	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1		1234	1234	12345
科目専門科目	保証・体育 世学 工学特別 気が開始する 数字開始する を実施的 を実施り は一年の に自己を は一年の に自己を は一年の に自己を に自己を に自己を に自己を に自己を に自己を に自己を に自己を	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5	 必 1 選 2 2 2 3 2 4 3 5 2 6 6 6 2 6 2 6 2 6 2 6 2 6 2 6 2 7 2 8 2 8 3 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 2 9 3 9 3 9 3 9 4 9 2 9 2 9 3 9 4 9 2 9 2 9 3 9 4 9 2 9 3 9 4 9 4 9 2 9 2 9 3 9 4 9 4 9 5 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 6 9 7 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9			3		134	4	12		1	123	1234	123456	123 78 1234 1234 1234 1234 1234	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1		1234	1234	12345
科目専門科目	保量・体育 世学 工学特別 気能物語 数字機能 1 数子機能 1 数 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3		134	4 123 12 4 4 123 12 12 12 12 12 12 12 12 12	12 12 2 2 12 12 12 12 12 12		1	123	1234	123456	123 78 1234 1234 1234 1234 1234	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2 2	2	13	123 2 2 123		12	1		1234	1234	12345
科目専門科目	保量・体育 世学 文学特強 英語特強 影響時期 1 数字報道 1 数字報道 1 新選び 1 対面 1 中国語 1 大学校 1 中国語 1 大学校 1 中国 1 大学校 1 大学大学校 1 大学校 1 大	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5				3	123	123	4 123 12 4 4 123 12 12 12 12 12 123 123 123 123	12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	B 123	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	123	1234	3	78 1234 123 3 3 1234 1234 1234 1234	3 2 5 12345 1245 3 34 123 12 1245 1245 1245 1245 1245 1212 12 12 12 12 12	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 2 2 2	2	13	123 2 2 2 123 123	1	12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1			12345
科目専門科目	保量・体育 世学 文学特強 英語特益 数字機能! 数字機能! 英語 7 地區 7 地區 7 地區 7 地區 7 地區 7 地區 7 地區 7 地區	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5				3	1234	123	4 123 12 4 4 4 123 12 12 12 12 12 12 12 12 13 13 13 14	12 12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12 12	45	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2	3	123 778 1234 123 3 3 1234 1234 1234 4 24	3 2 5 5 12345 1245 1245 1245 12245 12245 12245 122 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12		2 1 1 2 2 2 3	2	13	123 2 2 2 123 123	1	12 12 12 12 12		1 1			
科目専門科目	保証・体育 世学 工学特別 英語特別 教学報謝 数数字報謝 数数字報謝 数数字報謝 数数字報謝 数	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5				3 3 4	4	123	123 124 4 125 12 12 12 12 12 123 123 123 123 13 12 3 4 12	12 12 12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12	45 英123 45	56	123	2 2 1 2 3 4 5	3 1 2 3 4 5 6 7 8	78 1234 1234 123 3 3 1234 1234 1234 1234	3 2 2 5 5 12345 1245 1245 1245 1245 1242 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	5	3		123	123 2 2 2 123 123 123	1 1 1 2 3 4	12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 13 14 14 15 15 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	123	1 1 1 1 1 2 3	123	123	1234
科目専門科目	保量・体育 世学 工学特別 英語特別 教学報謝! 教学報謝! 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用表学主 社中国用来学生 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型 大型	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必 2 2 2 2 2 2 2 2 2	22		3	1234	123	4 123 12 4 4 4 12 12 12 12 12 12 12 12 13 3 4 12 12 13 12 12 13 12 14 14 15 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	45 英123	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		2 2 1 2 3 4 5	3	78 1234 123 3 3 1234 1234 1234 1234	3 2 5 5 12345 1245 3 3 34 122 1212 1245 1224 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12		3	1 2 3	13	123 2 2 2 123 123 123	1 1 1 2 3 4	12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 13 14 14 15 15 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	123	1 1	123	123	
科目 専門科目 一般科	保量・体育 世学 工学特別 大学特別 教学問題 1 教学問題 1 教学問題 1 教子問題 1 特別 1 大学 1	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	必 3 2 3 1 1 3 2 3 2 3 2 2 2 2 6 6 5 1 1 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3			3 3 1 2 3 4	1,2	1 2 3 4	123 124 4 4 125 12 12 12 12 12 12 12 13 14 12 13 14 14 15 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	12 12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12 13 14 15 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	45 英123 45 日1-3	5 6 2項目 以上	1123	2 2 3項目以上	1 2 3 4 5 6 7 7 8 1 1 - 7	78 1234 1233 3 3 1234 1234 1234 1234 1 2 3 4 5 6	3 2 5 5 12345 1245 1245 1224 122 122 12 2 2 2 1 1 2 3 4 5 6 6 6 6 1 -3	1,2	1	1,2	1123	123 2 2 123 123 123 1 2 3	1 1 1 2 3 4	12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 1	1 2 3	1 1 1 1 1 1 1 1 3 1 2 3	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4 5
科目 専門科目 一般科	保量・体育 世学 文学特強 英語特益 秘字機能! 数字機能! 数子通知: 数子通知: 如子· 一个以上, 一一以上, 一一, 一一, 一一, 一一, 一一, 一一, 一一, 一一, 一一, 一	4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 5	必 型 2 2 2 3 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			3 3 4	4	123	4 123 12 4 4 4 12 12 12 12 12 12 12 12 13 13 14 12 13 13 14 14 15 16 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	12 12 12 2 2 12 12 12 12 12 12 12 12 13 3 3 3	45 英123 45	5 6 2項目	1123	2 2 3 4 5 5	3 1 2 3 4 5 6 7 8	78 1234 1234 123 3 3 1234 1234 1234 1234	3 2 2 5 5 12345 1245 1245 1245 1245 1242 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	5	3		123	123 2 2 2 123 123 123	1 1 1 2 3 4	12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 13 14 14 15 15 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16	123	1 1 1 1 1 2 3	123	123	1234

科目と「学習・教育目標」の対応 情報工学科

	本科 科目	学年	選択	単位	履修	修得		Α			В			_	С			1	D					Е	_				F	_
	国語	1	必必	3	® C	得	A1	A2	A3	B1	B2 1-2	B3	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	F1	F2	F3
	歴史	1	必	2	0		1,3	2	Ĺ		1 2	Ĺ	Ľ			_														t
	地理	1	必		0	4	3,4	1,3	1-4																-					╀
	基礎数学 I 基礎数学 II	1	必必	4	0	-											1,2,4								+	1	-	1		╀
	物理	1	必	3	ŏ	7				1	1						1,2,4								+	1	\vdash	1		t
	化学		必	3	0												3													L
	保健·体育	1	必		0	-	2			1	1,2		ļ												+	<u> </u>	-	1-4	1-4	1,
	音楽 美術	1		1	ГŤ	1	3			ľ	1														+		1	1		t
	書道		選	1			3		1	1	1																			I
	英語I	1	必	2	0	_				1-3	1-3		1												-	-	-	ļ		Ļ
	英語Ⅱ 英語Ⅲ		必必			+				1-3 1,2	1-3 1,2		-												+	1	-	1		t
	国語	2	必	3	0		3		2,4	1,2	1,2	1-3	1			1-4														t
	倫理·社会		必	2	0		1-4		1,2,4																					Į
_ 设	歴史 基礎数学Ⅱ	2			00	\dashv	1,3	2		-	-		-				2								+-	1	-	1		╀
4	<u>幸啶奴子□</u> 微分積分学	2	必必	4	0	1											2.4								+	1				t
1	物理	2	必	2	0					4	3	4	1,5,6	1-3			1-3				1,3	1-4				2,3	1-3			İ
	化学 生奈	2	必	2	0	4											3								+			1.4	1.4	Ļ
	保健·体育 音楽	2			0	+	3.4			12	1		-												+			1-4	1-4	1
	美術		選	1	П		0,4			1,2	1																1			t
	書道	2	選	1					1,2		1																			I
	英語 I	2	必	3	0	4		 	-	1,2			-	-		-		-							+-	-	-	-		ł
	<u>英語 Ⅱ</u> 国語A		必必			1	3,4			1-2	1-2		4		1-2										+	1	\vdash	+		t
	国語B	3	必	1	0				4	1-2																				İ
	政治·経済	3	必	2	ŏ	_]	3,4	\vdash	ļ	1	1		1												F	1	\vdash	1		Ĺ
	微分積分学 応用解析学	3	必必	2	0	-1		1	1,4	1	 	1	1	 		-	4	1	1	Н			<u> </u>	1	+	1	1	1	-	t
	保健·体育	3	必	2	0	╛											Ė								T			1-4	1-4	1
	英語 I	3	必	3	0			\vdash	\vdash	1-3	1-3		L	\vdash			\vdash	\vdash		П			L	\vdash	F	\perp	\vdash			ſ
	英語 II 日本語			3	0	+		-	-	1-3	1-2	-	+	-			1	-	-	Н			-	-	+	1	-	+		t
٦	日本語 基礎電気工学	1			0	1		1		1-3	t	\vdash	t				1,2			Н					T	1	\vdash	t		t
	情報処理I	1	必必		0	1				1	i –	1	5	3	4,5	1		1,2		П				1	T	1	T	1	Ì	t
	基礎工学演習	1			0	1				1	1		Ĺ	ſ	.,0		1-3	1		П	1				Т	1-3	1,3	1		t
	電気回路I	2	必		0												1,2	1,2			1				T	Ľ	L			Ī
	ディジタル回路 I	2			0	∄												1,2,4			1		1		Γ					Ι
	情報処理Ⅱ	2	必	4	0	I												1-4						1-3	1,2	1,2				Γ
	応用物理	3			0												1-3								Ε					Ĺ
	電子回路	3	必	2	0	_[lacksquare				$ldsymbol{oxed}$		$ldsymbol{oxed}$				1-4		Ш						1				Ĺ
	ディジタル回路 Ⅱ	3	必		0	_		<u> </u>	_	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	_				1-3					1		_	<u> </u>	_	1		Ļ
	基礎情報工学	3			0	_[—	—	ļ	ļ	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>			<u> </u>	1-3		1			<u> </u>	<u> </u>	1	1	_	1		Ļ
	情報システム I	3			0	_										3-5		1-4				1,2	1,2		4	ļ				L
ij.	ソフトウェア設計論	3	必		0	4							ļ				-	1,2,4					2,3	2,3	2	1	<u> </u>	1		Ļ
9	情報工学演習(留)	3			0	-				-	-	-	1		1	-	-	2,3					1	2	+-	-	<u> </u>	+	-	ł
4	工学実験	3			0	4		-	-	-	-	-	-	-	5	-		1,2					1,2	1,2	1	-	-	-	_	╀
1	応用数学	4	必		0	-		-	-	-	-		-				1-4								+	-	-	-		ł
	応用物理 電気磁気学	4	必必	2	0	+											1-3	1 0	1.0	1,2	1.0				+	1.0	1.0	1		t
	电気燃丸子 計算機システム	4	必必		0	1					-						1-3	1-3	1,2	1,2	1-3				+	1-3	1-3			t
	情報構造論	4			0	+				-	-		1					1-3 1-4							+	1	 	+		t
	情報工学セミナー	4	必必		0	1								1,2	1-4	1-8		1-4	1,2			1-3		1-4	+	1,2		1		t
	工学実験	4	必必	4	0	7				1-4	1-3	1-5	1	1,2	1.7	1 0		1-3	1,2		1,2	1.2	1-3	1-3	1-4		1-3	1		t
	数値解析	4		2	Ť	1				T .		1 3		1,2				1	1,2		1,2	1,2	2	3	1 -	1 3	1 3	1		t
	システムプログラミング	4	選	2	Πİ	T												1-3					2							t
	知識工学 I	4		2	П	ı												1-4					1							T
	環境と人間	4		1			2		1,3,4										1											T
	校外実習	4	選	1																										Ι
	特別講義	4	選	1																										I
	保健·体育	4	必	1	0																							1-4	1-4	1
	哲学	4	選	2	П	1	3,4			oxdot										П					Г					ſ
	文学特論	4	選	1	Ц				4	$ldsymbol{oxed}$																				L
	英語特論	4	選	1	Ы					1,2	1,2		_							Ш					\perp					Ļ
ì	数学概論 I	4	選	1	Н	_[Ь.	_	1	1	_	<u> </u>	_		<u> </u>	4		1	Ш			<u> </u>		_	1	_	1		1
	数学概論Ⅱ	4		1	\dashv	_		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>	—	-	<u> </u>			2,3,4	-		Ш			-	<u> </u>	+	1	<u> </u>	1		ļ
	英語[V	4	選	2	\vdash	_		├	-	4	1-3	\vdash	_	-	-		-	-	-	Н			-	-	+	-	1	1		ł
	独語Ⅰ	4		2	\vdash	-1		├	\vdash	1-3	1-2	1	1	\vdash	-		 	-	1		_		\vdash	 	+	1-	1	1-		ł
4	中国語 I	4				+		-	\vdash	1,2	1,2	-	┢	-	1.0	<u> </u>	 	1.0	 	H				1.0	+	1	\vdash	+-		╀
	工学実験 卒業研究	5	必必		0	+		t		1-3	1,2	1	1	<u> </u>	1,2,4	1-8		1-3	1	H		1-3	1-3	1-3	1-3	1.2	+	1		t
	午来研究 プログラミング言語		迎選			-1			†	1-3	1,4	 	ť	<u> </u>	1,2,4	1-8		1,2,4	ľ	Н		1-3		1-4	+	1,2	 	1		t
	基本ソフトウェア		選		\sqcap	1				t	t		t					1,3		Н				1	T	1,4		1		t
F	コンパイラ		選		П	7				1	1							1,3,4	1	П				ľ			1	1		t
9	通信システム II	5			Ħ	1				1	1							1-5	1,2	1,2			1-3	1-3	1,2	1,2		1		Ť
	情報システムⅡ	5			П	1												1	2					3	Ť	Г		1		T
4	知識工学Ⅱ	5		2	♬			L		L	L	L	L	L				1	2	1	1		1,3				L	L	L	I
4	データベース		選		J	╛			L_{-}									1-4		1				1-3	I	Ĺ			Ĺ	Γ
1			選		J	J												1-3		1,2					$oldsymbol{\square}$					Γ
1	画像工学		選	2	┛	╛												1,2												Γ
1	画像工学 情報特論 Ⅱ				0	╝		oxdot	oxdot	oxdot	oxdot			oxdot										oxdot	匚	$oldsymbol{ol}}}}}}}}}}}}}}}}}$	\perp	1-4	1-4	1
1		5 5	必			-7		1	1,3,4																Г					ſ
+	情報特論Ⅱ 保健·体育 法学	5 5 5	必選	2	Щ						<u> </u>						4								┖					L
##	情報特論 II 保健·体育 法学 数学概論 III	5 5 5	必選選	2	Н				-		1	1	ı				2,4	.		Ш					1				i	L
+	情報特論 I 保健·体育 法学 数学概論 II 自然特論	5 5 5 5 5	必選選選	1						_	+		1			i	1	I							+	-	_			
+	情報特論 I 保健·体育 法学 数学概論II 自然特論 英語 V	5 5 5 5 5	必選選選選	2 1 1						1,2	1,2					_											1			ļ
+	情報特論 I 保健 体育 法学 数	5 5 5 5 5 5	必選選選選選	1 1 1						1,2	1,2																1			L
+	情報特論 I 保健·体育 法学 数学概論 II 自然特論 英語 V 英語 VI	5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選	2 1 1 1 2						1,2 1-3	1,2 1,2																1			
+	情報特論 I 保健 体育 法学 数	5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選	2 1 1 1 2						1,2 1-3 1-3	1,2 1,2 1,2																1			ļ
+	情報特論 I 保健·体育 法学 数学概論 II 自然特論 英語 V 英語 VI	5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選	2 1 1 1 2			123	123	123	1,2 1-3 1-3 日 1 2	1,2 1,2 1,2 日 1	日 1 2 3 4 5		123		123					1 2 3	123	1 2 3	1234		1 2 3	1 1 2 3	123		
+ +	情報特論 I 保健 体育 法学 数学概論 I 自然特論 英語 V 英語 I 独語 II 中国語 I 違成度をエック 履修料目の違成度を〇でご	5 5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選選	2 1 1 1 2			1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1,2 1-3 1-3 日 1 2 3 4	1,2 1,2 1,2 日 1 2 3		123456	123		1 2 3 4 5 6 7 8	1234	1 2 3 4 5 6		1 2 3	1 2 3	123	1 2 3	1234	1 2 3 4	1 2 3	1 1 2 3	123		
	情報特論 I 保健・体育 法学 数学概論Ⅲ 自然特論 英語 V 英独語 II 中国語話 II 達成度チェック	5 5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選選	2 1 1 1 2			123	1 2 3	1 2 3	1,2 1-3 1-3 日 1 2	1,2 1,2 1,2 日 1 2 3	3 4 5		123		456					123	123	1 2 3	1 2 3 4		1 2 3	1 1 1 2 3	123		
+	情報時論 I 保健・体育 法学 数学概論 I 自然特論 英語 V 英語 V 英語 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 単位 II 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基	5 5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選選	2 1 1 1 2			1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1,2 1-3 1-3 日 1 2 3 4 英 1 2 3 4	1,2 1,2 1,2 日 1 2 3 英 1 2 3	3 4 5 英 1 2	456	2項目	4 5	456 78						1 2 3 4	1 2 3	1 2 3 4	3 4	1 2 3	1 1 2 3	1 2 3 4		4
1 2 4 1	情報特論 正 保健・体育 法学 数学概論 回 自然特論 英語 V 英語 V 英語 中国語 正 成修科目の違成度を○で 修得科目の違成度 に 本学 本学士課程 の違成度 に 本学 本学士課程 の違成度 成本	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 7 5 7 7 7 7 7 7 7	必選選選選選選選	2 1 1 1 2 2			4	4	4	1,2 1-3 1-3 日 1 2 3 4 英 1 2 3 4	1,2 1,2 1,2 日 1 2 3 英 1 2 3	3 4 5 英 1 2 3 4 5 日1-3	456		4 5	456 78	5 6	5 6	5	3		4			3 4			4	4	1 4
	情報時論 I 保健・体育 法学 数学概論 I 自然特論 英語 V 英語 V 英語 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 連続 II 単位 II 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基 基	5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	必選選選選選選選	2 1 1 1 2 2			4	4	4	1,2 1-3 1-3 日 1 2 3 4 英 1 2 3 4	1,2 1,2 1,2 日 1 2 3 英 1 2 3	3 4 5 英 1 2 3 4 5 日1-3	456	2項目	453項目	456 78	5 6	5 6	5	3		4			3 4			4	4	4

(分析結果とその根拠理由)

学校の目的を具体化した「学習・教育目標」が資料 $5-1-①-9\sim12$ のとおりに展開されており、資料 $5-1-①-13\sim17$ のとおりに専門技術者の教育がおこなわれていることから、教育課程が体系的に編成されていると判断する。また 4 学科それぞれ、学科の専門性に照らして適切な教育課程となっていると判断できる。

授業の内容は、資料 $5-1-①-18\sim21$ に示されたように「学習・教育目標」に沿っており、目標を達成できる適切な教育課程となっていることが確認できる。

以上の資料によって、授業の内容は準学士課程の卒業者が身に付ける学力や資質・能力(資料1-1-1-6)として定めた「学習・教育目標」の水準を満たしており、教育の目的を達成するために適切な教育課程となっていると判断できる。

観点 5 - 1 - ②: 学生の多様なニーズ,学術の発展動向,社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば,他学科の授業科目の履修,他高等教育機関との単位互換,インターンシップによる単位認定,補充教育の実施,専攻科教育との連携等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況)

本観点について、(1)他学科の授業科目の履修、(2)他高等教育機関との単位互換の制度、(3)資格取得を学修と見なしての単位認定、(4)インターンシップ、(5)留学生対象の補充教育として「日本語」科目の開講、を実施している。これらは高専や大学等に求められる社会的な要請及び学生の動向を鑑みて取り入れられたもので、教育課程の編成上無理のない制度の導入を学校として進めている。

- まず (1) ついては、各学科で「特別講義」を開講し、所属学科によらず履修可能としている。他学科の特徴的授業内容、たとえば「無線従事者国家試験対策」を受講したいという学生ニーズに応えて、夏季休業期間の約1週間(30時間)で開講している(資料5-1-2-1)。
- (2), (3) については、授業科目以外の学習を卒業単位の一部に認めようとする社会的な動向を捉えて「大学等における学修に関する規程」による単位互換と、各種資格取得を学修と見なした単位認定を行っている。また、香川大学と相互単位互換に関する協定を締結している(資料 5-1-2-2-4)。
- (4)については、就業経験が専門知識や技術の修得に有効と考えて、選択科目「校外実習」の1単位をあてて単位認定を行っている(資料5-1-2-5-6)。
- (5) については、日本語学習を継続することで正しい授業理解につながると考え「日本語」の授業を3単位の科目として開講している(資料5-1-2-7)。また別に、近年入学者の急激な学力低下対策として、補充的教育が可能なように「基礎工学演習」の科目を各学科第1学年に設定している(資料5-1-2-8)。

また本校では、学校設置の歴史的経緯から、情報通信工学科と電子工学科の教育課程で無線従事者等の国家資格取得が可能なように配慮されている(資料 5-1-2-9)。

上記(1)~(4)及び資格関係の運用実績を資料5-1-2-10~15に示す。

特別講義履修届

選択科目	(特別講義) 履	100 / 100	
		平成18年	月日
詫間電波工業高等専門学校長	殿		
	氏名	工学科	年
下記の科目のうち○印の和 ます。	斗目を選択履修	いたしますので、	お届けし
	記		
選択科目「特別講義」		単位数	
()無線従事者国家試験 開講期間:平成18年 教科書: 購入する((「1・2陸技受験 東京電機大学出版	F8月25日(金)〜)購入した 教室①無線工学	ない () 学の基礎」	
() コンピュータ実務7 開講期間:平成18年 教科書:プリント		(1) ~31日(木)	V-74 BB 34
()機械システム解析論 開講期間:平成18年 教科書:プリント		(1) ~31日(木)	並列開講
() Excelによるグ 開講期間:平成18年 教科書:プリント			
○印すること () 自	。 宅通学 宿通学	項に学科主任	壬 学級担

(出典 学生課教務係)

詫間電波工業高等専門学校 大学等における学修に関する規程

(趣旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第13条の3第1項に規定する大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(以下「大学等における学習」という。)については、この規程の定めるところによる。

(文部科学大臣が別に定める学修)

第2条 学則第13条の3第1項に規定する文部科学大臣が別に定める学修とは、次の各号の一に掲げる学修をいう。

- (1) 大学における学修
- (2) 高等専門学校の専攻科における学修

(学修手続)

第3条 学生は、大学等における学修を行おうとするときは、大学等における学修許可願 (別紙様式1) に、その学修を証明する書類を添えて、校長に願い出なければならない。

(単位認定申請)

第4条 学生は、大学等における学修を行い、単位の認定を受けようとするときは、大学等における学修単位認定願(別紙様式2)に、次の各号の一に掲げる書類を添えて、校長に願い出なければならない。

- (1) 当該学修を行った教育施設等の長の交付する単位修得証明書又は成績証明書
- (2) その他学校が必要と認める書類
- 2 校長は、前項の規定により申請のあった学修について、相当する単位数を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 平成 19 年度 学生便覧 66 頁)

課題研究による単位修得の認定について

- 1. 課題研究は、本校が適当と認める課題について、学生が自ら選択して学修するものとし、教員の指導及び 外部で受けた評価をもって単位の修得を認定するもので、別表に定めるものの中から選択して行うものとする。
- 2. 課題研究を履修しようとする学生は、学期の始めに、学級担任に相談の上、指導を受けようとする教員の 許可を得て、「課題研究履修届」(別紙様式1)を教務係へ提出するものとする。
- 3. 指導教員は、指導を行った学生の課題研究を「課題研究評価報告書」(別紙様式2)により学期末(2月末日まで)に教務係へ提出するものとする。
- 4. 教務委員会は、指導教員から提出された「課題研究評価報告書」に基づき単位認定を行い、認定結果を指導教員を経て当該学生に通知するものとする。
- 5. 単位認定については、2月末日までに課題研究評価報告書において合格の評価を得たものは、申請のあった年度内で認定するものとする。
- 6. 修得を認定された課題研究の科目名は、「課題研究(試験の種類、級)」と標記するものとし、当該学生の 成績表に科目名、単位数及び評価を記載するものとする。
- 7. 課題研究によって修得を認定できる単位数は、大学における学修を含め 30 単位を超えないものとする。
- 8. 既に単位の修得を認定された課題研究について、さらに別表太枠内において、上位の課題研究を履修した場合は、当該上位の課題研究の単位数を修得単位数とする。
- 9. この取扱いにより単位を認定する対象学生は、1年次学生から5年次学生とする。

(出典 平成 19 年度 学生便覧 69 頁)

香川大学との相互単位互換に関する協定



平成15年3月16日(火),本校と香川大学との間で相互単位互換に関する協定書調印式が,香川大学において行われた。

これは、本校が香川大学全学部との間で、相互に交流と協力を促進するとともに、教育内容の充実を図ることを目的としたものである。

これまでに、明石、小山、仙台、宮城高専等が大学の工学部、理学部と取り交わしているが、今回のように高専と大学の全学部間を対象とした締結は全国でも初めてである。

対象となる学生は、それぞれに在籍する学生(ただし、本校においては、本科4年生以上及び専 攻科学生)で、身分は「特別聴講学生」となり、入学料、検定料は徴収しないこととしている。

同様の協定は、香川大学と高松高専との間でも取り交わされ、調印式では、香川大学木村学長、 高松高専早野校長と本校竹内校長がそれぞれ協定書に調印し、握手を交わした。



参照URL http://www.takuma-ct.ac.jp/kouhou/63/kouhou63.htm

(出典 本校ホームページ)

校外実習の履修に関する規則

(5) 詫間電波工業高等専門学校校外実習の 履修に関する規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、詫間電波工業高等専門学校の校外学習の履修に関し必要な事項を定める。

(校外実習機関)

第2条 学生が校外実習を履修する機関(以下「校外実習機関」という。)は、教務委員会の議を経て校長が選定する。

(校外実習の授業)

第3条 校外実習の授業は、校外実習機関における実習とする。

(校外実習願

第4条 校外実習を履修しようとする学生は、校外実習願を学級担任を経て、校長に提出しなければならない。

(校外実習の申込み)

- 第5条 校外実習を許可された学生は、校外実習申込書及び誓約書を、校長を経て校外実習機関 に提出しなければならない。
- 2 前項の校外実習申込書及び誓約書について、校外実習機関所定の様式がある場合は、その様式をもって代えることができる。

(傷害保険の加入)

第6条 校外実習を履修する学生は、学校が指定する傷害保険に加入しなければならない。

(校外実習の履修)

第7条 校外実習を履修する学生は、校外実習機関の定める諸規則及び校外実習機関における実習の責任者(以下「校外実習責任者」という。)の指示に従って、校外実習を行わなければならない。

(校外実習期間及び校外実習時間)

- 第8条 校外実習の期間は、原則として2週間以上とする。ただし、校外実習機関の都合でやむ を得ない場合でも、実働30時間以上とする。
- 2 校外実習の時間は、校外実習機関において定める時間又は校外実習責任者の指示する時間と する。

(校外実習報告書)

第9条 校外実習を履修した学生は、校外実習報告書を校外実習責任者の認印を得て、校外実習終了後速やかに、学級担任を経て校長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第10条 校長は、教務委員会の議を経て、校外実習を履修した学生に1単位を認定する。 (遵守事項)

- 第11条 校外実習を履修する学生は、本校の学生であることを十分に自覚し、行動しなければならない。
- 2 前項の規定する遵守事項に関し必要な事項は、この規則に定めるものを除いて、校外実習機 関の定めるところによる。

(雑 則)

第12条 この規則に定めるもののほか、校外実習に関し必要な事項は別に定める。

附貝

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 平成19年度学生便覧74頁)

校外実習実施要領

(6) 詫間電波工業高等専門学校校外実習 実施要項

1 趣 旨

企業等における製造,設計,技術開発,工事等の実務を行うことにより,学校で修得した知識及び技能を裏付け,技術者として,また社会人としての自覚を持たせることによる教育的意義を認め,正課としてこれを実施する。

2 目的

- (1) 組織の中で働くことによって技術に対する社会の要請を知り、学問の意義を認識するとともに、自己の創造性発揮の場を模索すること。
- (2) 技術に対する問題意義を養い、卒業研究における自立性を高めること。
- (3) 学問と生産との総合的関連を体験することにより、実践的・技術的感覚を養うこと。

3 実習の時期

原則として、第4学年の夏季休業中に行う。

4 実習の内容

実習内容は、校外実習機関の業務のうち、学生が所属する学科の教育内容に照らして、教育 効果があると判断される業務とし、あらかじめ校外実習機関と協議するものとする。

5 委員会等

- (1) 校外実習に関する事項の処理は、教務委員会がこれに当たる。
- (2) 校外実習は、教務主事主管の下に各学科長が計画し、校長の許可を得て実施する。

6 学級担任の任務

学級担任は、教務委員会の方針に基づき、学生の指導及び校外実習機関との連絡に当たる。

7 校外実習責任者の任務

- (1) 校外実習責任者は、原則として校外実習機関の配属先組織の長とする。
- (2) 校外実習の実施に当たり、校外実習機関における校外実習責任者として指導計画を立て、 その計画に基づいて校外実習中の指導を行い、終了後指導結果として校外実習証明書を作成し、校長に通知する。
- (3) 校外実習に関し、学校への希望事項等関連事項について連絡協議する。

8 成績の評価

各学科長は、各学科毎に校外実習学生全員の校外実習報告書及び校外実習証明書が提出された後、速やかに校外実習報告会を開き、その報告状況を総合して成績の評価(合格又は不合格)を行うものとする。

附則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 平成19年度学生便覧75頁)

留学生「日本語」

科目名	日本語			担当教官	富士原伸弘,	森 孝	宏
学年	3年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07FG3_40009)	
	日本の文化・	習慣・歴史	・伝説を教材と	して, 日	本への理解に	資する。	
				卜 国人留学	生にとって,	最も理解	昇し難い「助詞」の用法と
学習目標	漢字の読み書き	に習熟する	0				
	and the second s			describe the state of the			
進め方			、大意の把握、				- 64 mm) - w
	711111111111111111111111111111111111111		日常、多く使用	,			- 171. [7 0 0
	「助詞」の用	ハカを, 例	文等によるドリ	ルで演習	U, EUND	平譜の衣	現を百侍する。
房收更处	特になし						
极沙女工		項目(時間	数)			学習到達	日標
	1.論述「私の家族		~ /	日本語の			しの習慣・考え方を理解す
	2. 「日本の姿」(る。	JULY C BUNTY O	, 649	B1:1-2
	3.「日本人は貯蓄		いるのか」(2)	0			
	4. 「冠婚葬祭」(, , ,				
	5.「接待天国ニ	ッポン」(2))				
学習内容	6.論述「日本の生	上活での失!	敗談」(2)	日本での	生活で生じた	取り違え	え経験等を発表し,場面場
	7. 「コミュニケー	-ション・	スタイル」(2)	面での誤	解の原因を理	解する。	B1:3
	8.「日本語の発送	室」(2)					
	9.「日本たたき」	(2)					
	10.「貿易摩擦っ	て何」(2)					
	11.論述「日本人	の変な習慣	(2)	600 字程	度の文章を書	き,不自	目然な点を理解する。漢字
	12. 「規制で何が	起きている	のか」(2)	練習をド	リルによって	,反復終	東習する。 B2:1-2
	13.「社内文書」	(2)					
	14. 「日本式ビジ	ネス交渉術	i」 (2)				
	15.漢字練習(16)						
	16.前期期末試験						
	17.論述「私のお		2)				
	18. 「日本の昔話						
	19.「日本の昔話						
	20. 「日本の昔話	_					
	 11.「日本の神話 22.「日本の神話 	_					
	23. 「日本の神話 23. 「日本の神話	_					
	24. 「日本の神話	_					
	25. 「日本の神話						
	26.論述「近頃思		2)				
	27. 「日本の古典	,	,				
	28.「日本の古典						
	29.「日本の古典	文学3」(2	2)				
	30.論述「日本の						
	31.漢字練習(16)						
	32.後期期末試験			1			
評価方法	定期試験によ	る。					
mm and a single	44						
関連科目	特になし	the few pro-	.				
教材	ドリル教材。	流解用長文	教材。				
備考	特になし。						

(出典 シラバス)

情報通信工学科「基礎工学演習」

科目名	基礎工学演習			担当教員	梶 久夫,	塩沢隆広, 三河	可通男							
学年	情報通信1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2							
分野	専門	授業形式	演習	科目番号	07T01_302	70								
	数学、物理、基	礎電気等の	科目は、『	専門教科を学んて	いく上で基礎	姓となる科目で は	ある。これ り							
学習目標	に関して、演習を	通して学生	の理解を消	そめるとともに学	生生の考える	力を養うことを目	目的とする。							
	学習した内容に関	する演習問	題を繰り込	豆し解くことによ	こり、その内容	容および解法を習	3得する事に							
	重点をおく。													
	数学 I, 数学Ⅱ	,物理,基础		その講義が終わっ	た項目につい	へて問題を作成し								
進め方	う。多数の教員を	割り当てる	ことで学生	上個人個人の質問	月に対して対対	処を行う。また 針	を体的に理解							
	されていない項目	については	講義を行う) _。										
履修要件														
		項目(時間	数)			習到達目標								
	1.一般的な数学問	月題(2)		数学の	式展開ができ	:、関数をグラフ	に表すこ							
	2.中学校の数学復	[習(2)		できる。	>		D1:2,4							
	3.回路実習(2)													
	4.回路実習(2)													
	5.数と式(2)													
	6.三角比(2)			公式を	さも用いて三角	角関数の基本的問	引題を解け							
	7.直線運動(2)			ように	する。		D1:2,4							
	8. 前期中間試験((2)												
	9.回路実習(2)													
	10.回路実習(2)													
	11.回路実習(2)			直流回	路の計算がで	きるようにする	0							
	12.三角関数(2)						D1:2,4							
	13.三角関数(2)													
学習内容	14. 方程式(2)													
	15. 重力による運動	勣 (2)		基本的	な物理公式を	用いて計算でき	るように							
	16. 前期末試験(2)			る。			D1:2,4							
	17.回路実習(2)													
	18.回路実習(2)													
	19.回路実習(2)													
	20.2 次関数(2)													
	21.分数関数・無理	2関数(2)												
	22.力学的エネルキ	- (2)												
	23. 後期中間試験((2)												
	24.プログラミンク													
	25.プログラミンク	*実習(2)												
	26.指数関数(2)													
	27.対数関数(2)													
	28.2 次曲線(2)													
	29.斜法投射, 円運	重動(2)												
	30.学年末試験(2)													
評価方法	定期試験 60%, 1			(出席状況,授	業態度など)	40 %で総合評価	する。							
関連科目	数学Ⅰ,数学Ⅱ,			to the case of										
教材	数学Ⅰ,数学Ⅱ,		電気工学の)各教科書										
	教員作成プリント													
備考	特になし													

(出典 シラバス)

認定校となっている国家資格一覧

情報通信工学科

資格	認定の別	要件
第一級陸上特殊無線技士	資格認定	長期養成課程の修了
第二級陸上特殊無線技士	資格認定	指定科目の履修と卒業
第二級陸上無線技術士	国家試験科目免除	指定科目の履修と卒業
第二級海上特殊無線技士	資格認定	指定科目の履修と卒業
工事担任者	国家試験科目免除	指定科目の履修と卒業

電子工学科

資格	認定の別	要件
第一級陸上特殊無線技士	資格認定	長期養成課程の修了
第二級陸上特殊無線技士	資格認定	指定科目の履修と卒業
第二級陸上無線技術士	国家試験科目免除	指定科目の履修と卒業

*「長期養成課程」とは、準学士課程の教育課程に含まれる形で設定されている養成課程であって、高等専門学校卒業者に対して通常は資格認定されない国家資格を教育課程の修了とともに得ることが出来る課程である。

(出典 教務係,認定書・確認書)

「特別講義」の履修状況

平成 18 年度

平成18年度選	択科目	「特別詞	構義」受	講者数	ζ(7/25	~31)			
	,	第4学年	三(169名	1)	Á F	第5学年	三(163名	<u>'</u>)	
講義内容	情報 通信	電子	電子 制御	情報	情報 通信	電子	電子 制御	情報	計
無線従事者国家試験対策 (情報通信)	14	1	0	0	0	0	0	0	15
コンピュータ実務入門 (電子)	3	24	5	8	2	1	2	0	45
機械システム解析論 (電子制御)	0	2	4	2	0	0	0	0	8
EXCELによるグラフ表示と数値計算 (情報)	6	12	7	19	0	0	0	0	44
計	23	39	16	29	2	1	2	0	112
ĦI		107	(63%)				5		112

平成 17 年度

平成17年度選	択科目	「特別詞	構義」受	講者数	ζ(7/25	~31)			
	A.F.	第4学年	三(170名	1)	<u> </u>	第5学年	三(153名	1)	
講義内容	情報 通信	電子	電子 制御	情報	情報 通信	電子	電子 制御	情報	計
無線従事者国家試験対策 (情報通信)	11	11	0	0	0	0	0	0	22
コンピュータ実務入門 (電子)	23	15	3	2	0	0	0	0	43
機械システム解析論 (電子制御)	0	7	19	6	0	0	3	0	35
ネットワークプログラミング基礎 (情報)	3	6	7	32	0	0	0	0	48
計	37	39	29	40	0	0	3	0	148
р		145	(85%)			,	3		140

(出典 学生課教務係)

「大学等における学修に関する規程」の利用状況 平成 17 年度

(文部	科学省	思定)			217年度資格等取得者一覧表		
学年	学科	氏	名	学籍番号	名称	请接写电信 标题	単位
3	Е			_	ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	
3	E	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17. 6.26	1
3	Е	1			ディジタル技術検定 2級 糾御部門	17. 6.26	1
3	1	1			実用英語技能検定 準2級	17.11.18	1
3	I	1			実用英語技能検定 準2級	17.11.18	
4	Е	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17.11.27	3
4	E	1			ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	Е	1			情報処理活用能力検定 2 級	17, 6.19	2
4	Е	1			ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	E	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17.11.27	2
4	E	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17. 6.26	2
4	E	1			情報処理活用能力検定 2 級	17, 6.19	2
4	E	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17.11.27	2
4	E	1			実用英語技能検定 準2級	17, 7,15	1
4	Е	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17.11.27	2
4	Е	1			ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	Е	1			ディジタル技術検定 2級 制御部門	17. 6.26	2
4	Е				ディジタル技術検定 2級 別御部門	17, 6.26	2
4	Е			П	ディジタル技術検定 2級 制御部門	17. 6.26	2
4	Е			- 17	ディジタル技術検定 2級 制御部門	17.11.27	2
4	Е			П	ディジタル技術検定 2 級 制御部門	17.11.27	2
4	E	1		П	ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	С	1			ディジタル技術検定 2級 情報部門	17, 6,26	2
4	С	1		I	情報処理活用能力検定 2級	17. 6.19	2
4	С	1		- 17	ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	C.	1		H	ディジタル技術検定 2級 情報部門	17. 6.26	2
4	C	1		- 17	ディジタル技術検定 2級 情報部門	17.11.27	2
4	C				ディジタル技術検定 2級 情報部門	17.11.27	2

学年	学科	氏	名	学籍番号	名 称		请报告报报年 报日	単位数
4	1				実用英語技能検定 準2級		17.11.18	1
5	т			- 1	ディジタル技術検定 2 級	Material	17.11.27	2
							1	
	-						1	
	\rightarrow	-	_	-				
-		_						
-	-						-	-
	-						-	-
_	-							-
		1711						
						11		
	\Box							
-								_
	$\overline{}$		_					-
							-	
-	-						-	
_	-		_					
- 4	\rightarrow							
						- 11		

(注意) 平成 17 年度については、文部科学省認定資格を当該年度の規程により「大学等における学修に関する規程」で単位認定した。平成 18 年度にあっては、規程の変更により同資格を「課題研究による単位修得の認定」の定めにより単位認定した。

(計 30件)

(出典 平成18年2月10日 教務委員会資料)

資料5-1-2-12

「課題研究による単位修得の認定」の利用状況(1/2) 平成 18 年度

平成18年度資格取得状況

学年·学科	氏 名	名	称	資格等取得年月日	単位数
5T		TOEIC(425点)		18.4.7	1
		TOEIC(415点)		18.4.7	1
		TOEIC(400点)		18.4.18	1
		TOEIC(400点)		18.4.17	1
5E		TOEIC(415点)		18.4.26	1
5C		TOEIC(460点)		18.6.24	2
50	-	TOEIC(440点)			
E1				18.6.24	1
5I		TOEIC(440点)		18.4.25	1
4T		TOEIC(860点)		18.12.12	6
		TOEIC(565点)		18.12.12	2
		TOEIC(475点)		18.12.12	2
		TOEIC(420点)		18.12.12	1
4E		TOEIC(445点)		18.12.12	1
		TOEIC(405点)		18.6.24	1
		TOEIC(400点)		18.6.24	1
4I		TOEIC(725点)		18.12.12	4
		TOEIC(630点)		18.12.12	4
		TOEIC(500点)		18.12.12	2
		TOEIC(465点)		18.12.12	2
		TOEIC(465点)		18.12.12	2
		TOEIC(415点)		18.12.12	1
		TOEIC(410点)		18.6.24	1
	·	TOEIC(400点)		18.12.12	1
	}	TOEIC(400点)			1
	}	TOEIC(400点)		18.6.24 18.12.12	1
	-				
		TOEIC(400点)	公古 。初	18.12.12	1
5E		情報処理活用能力		18.12.10	2
4C		情報処理活用能力		18.6.18	2
5E		基本情報処理技術		18.11.8	2
5I		基本情報処理技術		18.5.16	2
		基本情報処理技術	者試験	18.6.9	2
4I		基本情報処理技術	者試験	18.5.16	2
		基本情報処理技術	者試験	18.6.16	2
		基本情報処理技術	者試験	18.6.16	2
		基本情報処理技術	者試験	18.6.12	2
		基本情報処理技術		18.11.8	2
		基本情報処理技術		18.5.16	2
5I			ニストレータ試験		1
4E		初級システムアドミ			1
4I	-		ニストレータ試験	18.5.16	1
41	-	初級システムアドミ		18.11.8	1
	-		ニストレータ試験	18.11.8	1
21		初級システムアドミ	ニストレータ試験		1
3I		初級システムアドミ	ニストレータ試験	18.11.8	
4C		ディジタル技術検定		18.11.26	4
5C	ļ ,	ディジタル技術検定		18.6.25	2
4C		ディジタル技術検定		18.11.26	2
		ディジタル技術検定		18.6.25	2
		ディジタル技術検定		18.6.25	2
		ディジタル技術検定		18.11.26	2
		ディジタル技術検定		18.6.25	2
		ディジタル技術検定		18.11.26	2
	Ţ	ディジタル技術検定	2級制御部門	18.6.25	2
	ļ	ディジタル技術検定		18.11.26	2
	l j	ディジタル技術検定		18.11.26	2
	l j	ディジタル技術検定		18.6.25	2
3C	ļ	ディジタル技術検定		18.11.26	2
4E	 	ディジタル技術検定		18.11.26	2
4I		ディジタル技術検定		18.11.26	2
7.		ディジタル技術検定		18.11.26	2
3E	}	ディジタル技術検定		18.11.26	2
3 <u>L</u>	}			18.11.26	2
		ディジタル技術検定			2
	,	ディジタル治術検定		18.6.25	2
	ļ ,	ディジタル治術検定		18.11.26	2
		ディジタル技術検定		18.6.25	2
	<u> </u>	ディジタル技術検定		18.11.26	2
		ディジタル技術検定		18.6.25	2
4T	Ţ	電気通信主任技術	者試験(線路)	18.7.31	4
4T		工事担当者試験デ		18.12.18	4
			, ,		

(計 68 件)

資料 5-1-2-12

「課題研究による単位修得の認定」の利用状況(2/2) 平成 17 年度

(文)	8科学省	認定外)		平成17年度資格等取得者一覧表		
学年	学科	氏	名	学精番号	名 称	有格等联络 年前日	単位
1	E				TOEIC (405点)	17. 6.18	1
3	т			1	陸上無線技術士試験 第1級	17. 8.25	1
3	т			İ	電気通信主任技術者試験(伝送交換)	18. 2.13	4
3	Т			-	TOEIC (615A)	17. 2.12	4
3	1			- 1	TOEIC (530点)	17. 6.18	2
3	1			Ī	初級システムアドミニストレータ試験	17.11.11	1
3	1				初級システムアドミニストレータ試験	17.11.11	1
3	1			- 1	基本情報処理技術者試験	17.11.11	2
3	1			- 1	初級システムアドミニストレータ試験	17.11.11	- 1
3	1				基本情報処理技術者試験	17.11.11	2
4	Т				TOEIC (435点)	17. 6.18	1
4	т			1	TOEIC (415点)	17. 6.18	1
4	Т				初級システムアドミニストレータ試験	16. 5.18	1
4	Т			- 1	TOEIC (400点)	17. 6.18	- 1
4	E			1	TOEIC (460点)	17. 6.18	2
4	Е				TOEIC (410点)	17. 6.18	1
4	С			1	TOEIC (875点)	17. 2.12	6
4	С				TOEIC (910点)	17. 2.12	6
4	1				基本情報処理技術者試験	17. 5.16	2
4	1			- [基本情報処理技術者試験	17.11.11	2
4	1			1	基本情報処理技術者試験	17,11,11	2
4	1				基本情報処理技術者試験	17.11.11	2
5	Т			1	TOEIC (405点)	17, 6.18	1
5	Т			Ī	TOEIC (430点)	17. 2.12	1
5	Е				TOEIC (415点)	17. 2.12	1
5	1				TOEIC (425点)	17. 2.12	1
5	1			- 1	基本情報処理技術者試験	17. 5.16	2
5	1				TOEIC (465点)	17. 6.18	2
5	1				TOEIC (460 M)	17. 2.12	2

5 I 基本情報処理技術者試験 17.5.16 2		学科	氏	2	学籍番号	名	称	非新华和华 年日日	単位数
	5	I				基本情報処理技術	者試験	17. 5.16	2
									_
									-
	_	-			-				-
	-	-							-
	-	-							+
	-	-		-	-				+
	-	-							+
	-	-					777.		-
	-	-			-				+
		-			0				+
									1
									_
								-1	
								H.	
					(-
	$\overline{}$								
	\dashv	-						-	-
					ļ				
	\exists								+
		-		_					+

(計 30件)

(出典 平成18年2月10日,平成19年2月22日 教務委員会資料)

資料5-1-2-13

「香川大学との相互単位互換に関する協定」の利用状況 平成 18 年度

学年	学科	科目名	評価	単位数
5	情報工学科	ランドスケープデザイン	優	2

(計 1名)

(出典 平成 18 年 10 月 27 日 教務委員会議事要録, 資料 5 - 3 - ① - 11 参照)

資料 5-1-2-14

「校外実習」の状況

平成18年度 校外実習先企業一覧

	企 業 名	実習場所	日程	人数
1	NECテレネットワークス株式会社	東京都	$7/24 \sim 7/28$	1
2	越智技研工業株式会社	四国中央市	$7/31 \sim 8/4$	1
3	オリエンタルモーター株式会社高松事業所	高松市	8/7 ~ 8/11	1
4	香川大学工学部	高松市	$7/24 \sim 8/4$	1
5	株式会社加卜吉	観音寺市	8/7 ~ 8/11	1
6	株式会社CRCシステムズ	東京都	$7/31 \sim 8/2$	1
7	四国計測工業株式会社	多度津町	7/31 ~ 8/4	2
8	四国電力株式会社	高松市外	7/31 ~ 8/11	2
		広島県尾道市	8/7 ~ 8/11	1
9	中国電力株式会社	倉敷市	8/1 ~ 8/11	1
	个国电 力体入 安位	山口県柳井市	7/31 ~ 8/4	1
		広島市	8/21 ~ 8/25	1
10	中部電力株式会社	名古屋市	8/7 ~ 8/11	3
11	豊橋技術科学大学	豊橋市	7/31 ~ 8/4	2
12	NHK高松放送局	高松市	$7/24 \sim 7/27$	1
13	富士通サポート&サービス株式会社	高松市	8/7 ~ 8/11	1
14	隆祥産業株式会社	高松市香南町	$7/24 \sim 7/28$	3
15	株式会社エフエム徳島	徳島市	7/31 ~ 8/4	1
16	山陽新聞社	岡山市	8/7 ~ 8/11	2
17	株式会社JALアビテック	千葉県成田市	$8/21 \sim 8/25$	1
18	株式会社アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド	広島県呉市	$8/21 \sim 8/25$	2
19	岩谷瓦斯株式会社	滋賀県守山市	8/7 ~ 8/11	1
20	(株)エステンナイン京都	京都市	$8/21 \sim 8/25$	1
21	株式会社芙蓉ビデオエイジェンシー	横浜市	8/2 ~ 8/8	1
22	コスモ石油株式会社坂出製油所	坂出市	8/21 ~ 8/23	2
23	株式会社イーシーエス	愛知県刈谷市	8/1 ~ 8/11	1
24	ムラテックC.C.S株式会社	愛知県犬山市	$7/24 \sim 7/29$	1
25	スパイシーソフト株式会社	東京都	7/18 ~ 7/21	1
26	NECネッツエスアイエンジニアリング(株)	東京都	8/21 ~ 8/25	3
27	株式会社メイテックフィルダーズ	神戸市	8/21 ~ 8/31	1
28	NTTデータカスタマサービス株式会社	高松市	8/7 ~ 8/11	3
29	中外製薬工業株式会社	栃木県宇都宮市	8/21 ~ 8/25	1
30	瀬戸内オール印刷株式会社	坂出市	8/21 ~ 8/24	1

計 51名

(出典 学生課教務係)

資料 5-1-2-15

「学校認定による資格等の認定」の状況

情報通信工学科

資格	数字の則	認定要件を満足	して卒業した人数
貝俗	認定の別	平成 18 年度	平成 17 年度
第一級陸上特殊無線技士	資格認定	3 8	2 9
第二級陸上特殊無線技士	資格認定	4 0	3 8
第二級海上特殊無線技士	資格認定	3 5	なし(H19.3 卒業生から)
第二級陸上無線技術士	国家試験	3 7	3 3
第二 	科目免除	5 /	ა ა
工事担任者	国家試験	3 9	なし(H19.3 卒業生から)
上 尹 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	科目免除	3 9	なし(119.3 年来生/19)

電子工学科

資格	認定の別	認定要件を満足し	して卒業した人数
貝俗	配足り方	平成 18 年度	平成 17 年度
第一級陸上特殊無線技士	資格認定	4 0	2 5
第二級陸上特殊無線技士	資格認定	4 3	3 8
第二級陸上無線技術士	国家試験	3 2	3 0
第二 <u>网</u> 医工無關权例工	科目免除	3 2	3.0

(出典 学生課教務係)

(分析結果とその根拠理由)

学生の学習要望を単位認定する制度やインターンシップの単位認定制度が整備運用されている。また、補充的教育や資格取得を意識した教育課程を編成運用している。

学校をとりまく情勢を配慮して教育課程を編成し、また単位の認定を行なっていることから、観点 を満足していると判断する。 観点5-2-①: 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。)

(観点に係る状況)

いずれの学科も、 $25\sim29$ 単位を演習、実験・実習、セミナー、研究の必修科目として(資料 5-2-(1-1) 講義以外の科目を積極的に取り入れた教育課程を展開している。また、情報処理関連科目など授業形態を主として演習形式で行っている科目が多くある。各科目の授業形態を資料 $5-2-(1-2\sim6)$ に示す。学科間で授業形態のバランスは異なるものの特別な偏りはなく、学科の専門性を考慮すると妥当なバランス状況であるといえる。

「学習・教育目標」と授業形態のバランスと工夫は以下のようである。

学習・教育目標Aは倫理観の育成であり、主として一般科目における講義を中心とした授業を行っている。直接に関係する科目「環境と人間」を設定し、学生に地球環境問題から技術者の責任と人類の福祉を問いかける授業内容(資料5-2-1-7)としている。

学習・教育目標Bに関しては、英語能力について一般科目の講義形式主体で、また日本語での共同作業能力について国語や実験・実習科目で授業されており、語学と共同作業の観点に沿って偏ることのない妥当なバランスと判断できる。マルチメディアラーニングラボでの語彙習得システムの利用(資料 5-2-(1-8)、 TOEICスコアを意識した英語授業(資料 5-2-(1-9) の展開によって、学習動機を高める工夫をしている。

学習・教育目標Cについては、講義より演習、実験・実習での授業形態が多く、情報機器の操作が身につくように配慮した実践的な授業形態をとっており、形態上のバランスは適切である。英語や国語(資料5-2-(1))、歴史(資料5-2-(1))においても授業展開を工夫して、学生が情報機器を扱う授業を実施している。さらに、本校では一人1台のコンピュータ環境を利用した授業が多数開講され(資料5-2-(1)12)、情報処理演習を適時に取り入れながら効果的な授業を展開することで、「情報機器を活用できる」技術者の育成に努力している。

学習・教育目標Dについては、低学年は講義形式主体であるが高学年では演習、実験・実習の割合が増え、講義での知識と実験・実習での経験を持った実践的技術者の育成のために適切なバランスである。学生の基礎知識の習得と確実な知識・技術の修得に配慮して、一部の授業にチームティーチングや習熟度別授業を採用している(資料 5-2-①-13)。

学習・教育目標Eの問題解決能力の育成には、講義よりも演習、実験・実習に重きを置いて学生自らが取り組む授業形態とすることが重要であるので、形態のバランスは妥当なものと判断できる。実験・実習では、可能な限り少人数の班編成としたり、教員あたりの学生数を減らしたりする工夫を行なっている(資料 $5-2-①-14\sim15$)。

学習・教育目標Fについては体育科目がこれにあたっており、バランスの適切性に問題はない。

演習,実験・実習等の必修科目単位数

		情報	₿通信工 [:]	学科		
	1 学年	2学年	3 学年	4学年	5学年	計 (単位)
演習	2		2			4
実験・実習			2	3	4	9
セミナー				2	2	4
研究					12	12

合計 29

		Ē	電子工学:	科		
	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5学年	計 (単位)
演習	2					2
実験・実習			3	3	4	10
セミナー				1		1
研究					12	12

合計 25

		電-	子制御工	学科		
	1 学年	2学年	3 学年	4学年	5学年	計 (単位)
演習	2		2			4
実験・実習			4	4	2	10
セミナー				2	1	3
研究					12	12

合計 29

		ψ	青報工学	科		
	1 学年	2学年	3 学年	4学年	5学年	計(単位)
演習	2					2
実験・実習			2	4	3	9
セミナー				6		6
研究					12	12

合計 29

(出典 教育課程表から集計)

「学習・教育目標」に対する授業形態の割合

学科名	学年	合計単位数 割合	技術を 覚し、	音・教 者として 人類の 倫理観	で 面 祖 祖 記 を 身に	ffを自 二貢献	業を良好に行なうことがで きる 収集や情報分析、文書作 7 成、口頭発表ができるよう 技						技術を を身に 技術を 持って	者として こつけ, 修得し 技術の	育目標の基礎高度ない。 広いの発展に	を知識 は関連 視野を に対応	与えら る手段 問題	かれた記 役を設言 解決に	育目標果題を選 計し、粘 取り組ま	達成す り強く むこと	運動能	*習・教 8力の約 健律正し とれる。	推持向_ い団体	上に努 は行動		
			講義	演習	実験 実習	累計	講義	演習	実験 実習	累計	講義	演習	実験 実習	累計	講義	演習	実験 実習	累計	講義	演習	実験 実習	累計	講義	演習	実験 実習	累計
	1年	合計単位数	7	2	0	9	8	3	0	11	3	2	0	5	14	2	0	16	0	1	0	1	0	0	3	3
	·	割合	78%	22%	0%	26%	73%	27%	0%	32%	60%	40%	0%	15%	88%	13%	0%	47%	0%	100%	0%	3%	0%	0%	100%	9%
	2年	合計単位数	7	2	0	9	10	3	0	13	5	4	0	9	14	4	0	18	2	5	0	7	0	0	3	3
		割合	78%	22%	0%	26%	77%	23%	0%	38%	56%	44%	0%	26%	78%	22%	0%	53%	29%	71%	0%	21%	0%	0%	100%	9%
	3年	合計単位数	7	0	0	7	8	0	2	10	2	0	0	2	18	2	2	22	0	2	2	4	0	0	2	2
情報通信 工学科		割合合計単位数	100%	0%	0%	21%	80%	0%	20%	29%	100%	0%	0%	6%	82%	9%	9%	65%	0%	50%	50%	12%	0%	0%	100%	6%
	4年	割合	4 00%	0	0	4	7	2	3	12	0	2	0	2	23	6	3	32	2	0		5	0	0	1 200%	1
		合計単位数	100%	0%	0%	11%	58%	17%	25%	34%	0%	100%	0%	6%	72%	19%	9%	91%	40%	0%	60%	14%	0%	0%	100%	3%
	5年	割合	100%	0	0 0%	2	4	0	16	20	0	0	12	12	15	0	18	33	6	0		22	0	0	100%	- 1
		合計単位数	100% 27	0% 4	0%	6% 31	20% 37	<u>0%</u> 8	80% 21	57% 66	10	0% 8	100%	34%	45% 84	0% 14	55% 23	94% 121	27% 10	<u>0%</u> 8	73% 21	63% 39	0% 0	0% 0	100% 10	3% 10
	全学年	割合	87%	13%	0%	19%	56%	12%	32%	40%	33%	27%	40%	18%	69%	12%	19%	72%	26%	21%	54%	23%	0%	0%	100%	6%
		合計単位数	7	2	0/0	1970	8	3	32 /s 0	11	33%		40%	7	14	1270	19%	18	20%	3	0	3	0/0	0/0	3.00%	3
	1年	割合	78%	22%	0%	26%	73%	27%	0%	32%	43%	57%	0%	21%	78%	22%	0%	53%	0%	100%	0%	9%	0%	0%	100%	9%
		合計単位数	7	2	0	9	10	3	0	13	5	0	0	5	14	4	0	18	4	4	0	8	0	0	3	3
	2年	割合	78%	22%	0%	26%	77%	23%	0%	38%	100%	0%	0%	15%	78%	22%	0%	53%	50%	50%	0%	24%	0%	0%	100%	9%
	0Æ	合計単位数	7	0	0	7	9	0	0	9	2	0	3	5	18	1	3	22	3	0	3	6	0	0	2	2
電子	3年	割合	100%	0%	0%	21%	100%	0%	0%	26%	40%	0%	60%	15%	82%	5%	14%	65%	50%	0%	50%	18%	0%	0%	100%	6%
工学科	4年	合計単位数	5	0	0	5	7	0	3	10	2	0	3	5	28	0	4	32	7	0	4	11	0	0	1	1
	44	割合	100%	0%	0%	14%	70%	0%	30%	29%	40%	0%	60%	14%	88%	0%	13%	91%	64%	0%	36%	31%	0%	0%	100%	3%
	5年	合計単位数	2	0	0	2	4	0	16	20	2	0	16	18	23	0	16	39	5	0	16	21	0	0	1	1
	54	割合	100%	0%	0%	6%	20%	0%	80%	57%	11%	0%	89%	51%	59%	0%	41%	111%	24%	0%	76%	60%	0%	0%	100%	3%
	全学年	合計単位数	28	4	0	32	40	6	19	65	14	4	22	40	97	9	23	129	19	7	23	49	0	0	10	10
		割合	88%	13%	0%	19%	62%	9%	29%	39%	35%	10%	55%	24%	75%	7%	18%	77%	39%	14%	47%	29%	0%	0%	100%	6%
	1年	合計単位数	7	2	0	9	8	3	0	11	3	2	0	5	15	1	0	16	0	1	0	1	0	0	3	3
		割合	78%	22%	0%	26%	73%	27%	0%	32%	60%	40%	0%	15%	94%	6%	0%	47%	0%	100%	0%	3%	0%	0%	100%	9%
	2年	合計単位数	7	2	0	9	10	3	0	13	5	0	0	5	15	3	0	18	4	1	0	5	0	0	3	3
		割合	78%	22%	0%	26%	77%	23%	0%	38%	100%	0%	0%	15%	83%	17%	0%	53%	80%	20%	0%	15%	0%	0%	100%	9%
T = 4.4%	3年	合計単位数 割合	7	0	0	7	8	0	4	12	2	0	0	2	17	1	4	22	2	0		6	0	0	2	2
電子制御 工学科		合計単位数	100%	0% 0	0% 0	21%	67%	0% 2	33% 0	35%	100%	0% 0	0% 0	6%	77%	5% 2	18%	65%	33%	<u>0%</u> 0	67%	18%	0% 0	0% 0	100%	6%
	4年	割合	100%	0%	0%	11%	80%	20%	0%	10 29%	100%	0%	0%	3%	33 85%	5%	10%	39 111%	64%	0%	36%	11 31%	0%	0%	100%	3%
		合計単位数	4	0/0	0%	4	6	20%	0.0	23/0	1	0/0		15	23	6	14	43	6	3		21	0/0	0/0	1.00/0	1
	5年	割合	100%	0%	0%	11%	86%	14%	0%	20%	7%	0%	93%	43%	53%	14%	33%	123%	29%	14%	57%	60%	0%	0%	100%	3%
	V 374 P-	合計単位数	29	4	0	33	43	9	4	56	12	2	14	28	103	13	22	138	19	5	20	44	0	0	10	10
	全学年	割合	88%	12%	0%	20%	77%	16%	7%	34%	43%	7%	50%	17%	75%	9%	16%	83%	43%	11%	45%	26%	0%	0%	100%	6%
	1/=	合計単位数	7	2	0	9	8	3	0	11	3	2	0		13	5			0	3				0	3	3
	1年	割合	78%	22%	0%	26%	73%	27%	0%	32%	60%	40%	0%	15%	72%	28%	0%	53%	0%	100%	0%	9%	0%	0%	100%	9%
	2年	合計単位数	7	2	0	9	10	3	0	13	5	0	0	5	15	3	0	18	6	3	0	9	0	0	3	3
	-+	割合	78%	22%	0%	26%	77%	23%	0%	38%	100%	0%	0%	15%	83%	17%	0%	53%	67%	33%	0%	26%	0%	0%	100%	9%
	3年	合計単位数	7	0	0	7	8	0	0	8	2	2	2	6	16	4	2	22	4	4	2	10	0	0	2	2
情報	- '	割合	100%	0%	0%	21%	100%	0%	0%	24%	33%	33%	33%	18%	73%	18%	9%	65%	40%	40%	20%	29%	0%	0%	100%	6%
工学科	4年	合計単位数	4	0	0	4	7	0	4	11	0	0	10	10	18	3	10	31	7	3	10	20	0	0	1	1
		割合	100%	0%	0%	11%	64%	0%	36%	31%	0%	0%	100%	29%	58%	10%	32%	89%	35%	15%	50%	57%	0%	0%	100%	3%
	5年	合計単位数	2	0	0	2	6	0	12	18	0	0		15	15	5	15	35	9	5		29	0	0	1	1
		割合	100%	0%	0%	6%	33%	0%	67%	51%	0%	0%		43%	43%	14%	43%	100%	31%	17%		83%	0%	0%	100%	3%
	全学年	合計単位数	27	4	0	31	39	6	16	61	10	4	27	41	77	20	27	124	26	18	27	71	0	0	10	10
		割合	87%	13%	0%	19%	64%	10%	26%	37%	24%	10%	66%	25%	62%	16%	22%	74%	37%	25%	38%	43%	0%	0%	100%	6%

各学年の累計欄のパーセントは、累計単位数を1週の授業時間数(1,2,3年=34;4,5年=35)で割った値を示す。 全学年の累計欄のパーセントは、累計単位数を卒業単位167で割った値を示す。 留学生対象科目は含まれていない。

情報通信工学科の授業形態

本科 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本						学	習·希	育目	標			授業形態	\	学生が情報
歴史 1 必 2 1 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3	本科 科目	学年	選択	単位	Α	В	С	D	Е	F		(単位時間) 演習		機器を利用
無理					_	1	1							
展報学工 1 夕 2 1 0 0 2 1 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	地理			_	_									
知理							⊢	_						
任学 1 20 3 1 1 3 3 3 3 3 3 3							H	_						
音楽 1 選 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	化学	1	必	3										
表稿					1	1	⊢		-	1		1	3	
					Η-		H		1			1		
	書道	1	選	1	1	1						1		
議論Ⅲ	英語Ⅰ				_		<u> </u>		_					
□語	英語皿						H							
歴史 2 必 2 1 1 1 1 2 2 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	国語		必			1	1							0
議職教学目 2 必 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1							⊢		-	Н				
世の理					-		Н	1						
任学 2 必 2 1 1 2 3 3 3 4 4 1 1 3 3 3 3 3 3 3 3	微分積分学		必					_						0
保健・体育					_	1	1		1					
音楽 2 選 1 1 1 1 1 1 3 5 5 5 5 2 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1							Н	<u> </u>		1			3	
審道 2 週 1 1 1 1 1 1 2 2 3 3 1 1 1 1 2 2 3 3 3 2 3 3 3 3	音楽	2	選	1	1									
蒸語 I 2 Ø 3 1 1 1 1 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	美術				1		H		1					
接替Ⅱ	英語 I				ť				Н	Н	3			
国語A 3 必 2 1 1 1 1 1 2 2 回路	英語Ⅱ	2	必	2		1					2			
股治・経済・	国語A						1	L		Щ				
衆分替分学						+	\vdash	\vdash	\vdash	Н			 	
	微分積分学	3	必	2				_			2			
英語I 3 必 3 1 3 公 と 1 2 日本語 3 図 3 1 2 日本語 3 図 3 1 1 2 日本語 3 図 3 1 1 2 日本語 3 図 3 日本語 3 図 3 日本語	応用解析学				Ē	L	匚	1		Ļ	4			0
対している。	体健·14月 革語 I				\vdash	1	Н	\vdash	\vdash	-	3		2	0
日本語	英語Ⅱ	3				1					2			
情報処理 I	日本語		留		F	1		Ţ						
議院工学演習 1 必 2	基礎電気工字 情報処理 T				_		1	1			2	2		0
電気回路 I 2 必 2 1 1 2 2 7 7 7 7 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	基礎工学演習						Ė	1						
情報処理Ⅲ 3 必 2 1 1 1 1 2 4 ○ C D	電気回路 I		必											
原用物理 I 3 必 2							1		1		2	4		
情報処理Ⅲ 3 必 2							H		r-		2	4		
電気磁気学I 3 必 2	情報処理Ⅲ	3	必	2				1	1			2		0
電子回路 1 3 必 2 1 1 2 2 金銭電子計測 1 3 必 2 1 1 2 2 3 3 2 2 5 5 3 2 2 5 5 2 5 2 5 2 5 2	電気回路Ⅱ 電気団路Ⅱ				_		H							
審気電子計測 I 3 必 2							H							
基礎工学実験	電気電子計測I													
応用数学	工学演習 まみてめ 中野					1	_		1		2		,	
伊藤田田田 4 必 2				_		<u> </u>	H		+	H	2			
通信工学実験 I 4 必 3 1 1 1 1 2 3 3 雷雲無数等で A 2 2 1 1 2 2 3 1 3 1	応用物理Ⅱ	4									2			
電気磁気学I 4 選 2 1 1 2 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1							1		_			2		0
電子回路 I 4 選 2					_		Н		_		2		3	
電子工学 I 4 選 2 1 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3														
通信エ学 I 4 選 2														
電波伝送学1 4 週 2 1 1 2 1 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 2 2 1	電子工字Ⅱ 涌信工学 I													
電気通信システムA 4 選 2 1 1 2 3 通信法 1 4 選 2 1 1 1 2 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	電波伝送学 I													
回路網理論	電気通信システムA		選					1						
情報処理V 4 選 2 1 1 2 ① ① 無線工学演習 4 選 2 1 1 1 2 ② ② ① ② ② ② ② ② ② ② ② ③ ② ② ③ ③ ③ ③ ③ ③					\vdash	-	\vdash	1	 	Н			 	
無緒工学演習 4 選 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1								_		Н		2		0
校外集留	無線工学演習	4	選	2				1				2		
特別議義	環境と人間			_	1	-	\vdash	1	<u> </u>	Н	1		1	ļ — —
保健・体育 4 Ø 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1										Н	1			
英語特論 4 選 1										1			1	
英語特論 4 選 1	哲学 文学特論	4	選	2	1	\vdash	L	\vdash		Ы	2		<u> </u>	
数学概論 1 4 選 1 1 1 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			選		H	1	Н	\vdash	Н	Н				
乗請IV 4 選 2 1 1 2 2 1 1 2 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 2 1	数学概論 I	4	選	1		Ė					1			
独語 I 4 週 2 1 2 1 2 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1	数学概論Ⅱ		選		F	Ļ	Г	1	Ļ	Щ				
中国語 I 4 選 2 1 1 2 1 1 2 T学セミナーⅡ 5 必 4 1 1 1 1 1 1 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0			選弾		_		\vdash	\vdash	_	H				
工学セミナーⅡ 5 必 2	中国語 I	4	選											
卒業研究 5 必 12 1 1 1 1 1 2 通信工学II 5 選 2 1 1 2 電波伝送学II 5 選 2 1 2 電波通信システムB 5 選 2 1 2 運賃施工 5 選 2 1 1 2 運賃施工 5 選 2 1 1 1 1 1 2 電気電子計測II 5 選 2 1 1 1 2 計算機ネットワークI 5 選 2 1 1 2 2 データ通信 5 選 2 1 1 2 2 電力工学概論 5 選 2 2 2 2 保健・休育 5 返 2 2 2 2 医健・休育 5 返 2 1 1 2 2 2 2 2 医燃料論 5 選 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	工学セミナーⅡ	5	必			Ę	Г		Ę	П				
通信工学 I 5 選 2 1 1 2 2 電波伝送学I 5 選 2 1 1 2 2 電波伝送学I 5 選 2 1 1 2 2 3 1 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 2 2 3 1 3 1					H		1			H				
電波伝送学Ⅱ 5 選 2 1 1 2 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	通信工学Ⅱ	5	選			Ė			Ė		2			
通信法日 5 選 1 1 1 2 1 電気電子計測Ⅱ 5 選 1 1 1 2 2 計算機ネットワーク 1 5 選 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 2 2 1 1 1 1 2 1	電波伝送学Ⅱ	5	選	2			Г	1		П				
電気電子計測 5 選 2 1 1 1 2 1 1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1	電気通信システムB 通信注 π		選		-	\vdash	\vdash		-	Н			 	
計算機本小ワーク I 5 選 2	電気電子計測 II		選			L			1	Ħ				
電力工学概論 5 選 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	計算機ネットワークI	5	選	2				1			2			0
保健・体育 5 必 1 1 1 1 1 1 1	データ通信 電力工学概論				\vdash	\vdash	\vdash	1	<u> </u>	Н			 	
法学 5 選 2 1 2 数学概論Ⅲ 5 選 1 1 1 6 然特論 5 選 1 1 1 英語V 5 選 1 1 1 1 英語VI 5 選 1 1 1 1 1 独語 II 5 選 1 1 1 1 1	保健・体育				-	\vdash	Н	\vdash		1			1	
自然特論	法学	5	選	2	1									
英語V 5 選 1 1 1 1 1 数語V 5 選 1 1 1 1 1 数語					H	<u> </u>	L			Ш			ļ	
英語VI 5 選 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2					\vdash	1	\vdash	⊬	1	Н			 	
独語	英語VI	5	選	1		1					1			
中国昭 1 2 送 1 1 1 1 1 1 1 1 1	独語Ⅱ		選		F		Е	Ľ		Щ				
	中国語Ⅱ	5	選	1			Ц	L	<u> </u>	Ш			L	

(注) 科目が対応する学習・教育目標の欄に1を記入して表示。他学科の資料も同じ。 (出典 平成19年5月7日 教務委員会資料)

電子工学科の授業形態

			学習·教育目標			授業形態 (単位時間)			学生が情				
本科 科目	学 年	選択	単 位	Α	В	С	D	E	F	講義	演習	実験·実習	報機器を 利用する 科目
国語	1	必	3	1	1	1				3			0
歴史	1	必	2	1						2			0
地理 基礎数学 I	1	必必	4	1			1			4			
基礎数学Ⅱ 基礎数学Ⅱ	1	必必	2				1			2			
物理	1	必	3				1			3			
化学	1	必	3				1		_	3			
保健·体育 音楽	1	必選	3	1	1				1		1	3	
美術	1	選	1	Ė	1			1			1		
書道	1	選	1	1	1						1		
英語 I	1	必必	2		1					2			
英語Ⅱ 英語Ⅲ	1	必必	1		1		H			1			
国語	2	必	3	1	1	1				3			0
倫理·社会	2	必	2	1						2			_
歴史 基礎数学Ⅱ	2	必必	2	1			1			2			0
微分積分学	2	必	4				1			4			0
物理	2	必	2		1	1	1	1		2			
化学	2	必	2				1		1	2		3	
保健·体育 音楽	2	必選	1	1	1		H		_		1	3	
美術	2	選	1	Ė	1						1		
書道	2	選	1	1	1						1		
英語 I	2	必必	3		1					3			
<u>英語 Ⅱ</u> 国語A	3	必必	2	1	1	1	Н	H	Н	2	1		
国語B	3	必	7	1	i	Ė				1			
政治·経済	3	必	2	1			Ļ			2			
微 <u>分積分学</u> 応用解析学	3	必必	4	1	\vdash	\vdash	1	\vdash	Н	4	1		0
保健・体育	3	必必	2				r		1	7		2	
英語 I	3	必	3		1					3			0
英語Ⅱ	3	必	2		1		L			3			
日本語 基礎電気工学	1	留必	2	H	H		1			2			
情報処理I	1	必	2			1	1				2		0
基礎工学演習	1	必	2			1	1	1			2		0
電気回路 I	2	必	2	_			1	-		2			
ディジタル回路 I 情報処理 II	2	必必	4				1	1			4		0
応用物理	3	必	2				1			2			Ŭ
電気磁気学	3	必	2				1			2			
電気回路Ⅱ 電子工学	3	必必	2				1			2			
电丁二子 電子回路	3	必必	2				1	1		2			
ディジタル回路 Ⅱ	3	必	1		1		1	1		1			
情報処理Ⅲ	3	必	2			_	1	_		1	1		00
工学実験 応用数学	3	必必	4			1	1	1		4		3	0
応用物理	4	必必	2	H	Н		1			2			
電気磁気学	4	必	2				1			2			
回路理論	4	必	2				1			2			
半導体工学 電子回路	4	必必	2	-			1	1		2			
電子計測	4	必	2				1	Ė		2			
通信工学	4	必	2			1	1			2			
計算機工学 電子工学セミナー	4	必	2				1	1		2		1	0
电サエチセミナー 工学実験	4	必必	3		1	1	1	1				3	0
音響工学 I	4	選	1		Ĺ	Ċ	1			1			Ŭ
音響工学Ⅱ	4	選	1	F	F	Ľ	1	1	Щ	1			
電波伝送学 電波·電気法規	4	選選	1	1	\vdash	\vdash	1	\vdash	Н	<u>2</u> 1	 		
環境と人間	4	選	1	1			1			1			
校外実習	4	選	-	Ė								1	
特別講義	4	選			\vdash	l -	Н	L	Н	1	ļ	-	
保健·体育 哲学	4	必選	2	1	\vdash	\vdash	Н	\vdash	1	2	 	1	
文学特論	4	選	1	1						1			
英語特論	4	選	1		1					1			
数学概論 I 数学概論 Ⅱ	4	選選	1	-	\vdash	\vdash	1	\vdash	\vdash	1	 		
数字概論Ⅱ 英語Ⅳ	4	選	2	Н	1	\vdash	1	1	Н	2	 		
独語 I	4	選	2		1			Ė		2			
中国語 I	4	選	2	L	1	L	ĻĪ	L	Щ	2			
半導体工学	5	必必	2			1	1	1		2			
通信工 <u>学</u> 制御工学	5	必必	2	Н	H	1	1	1	Н	2	1		
工学実験	5	必	4		1	1	1	1				4	0
卒業研究	5	必	12	L	1	1	1	1	Щ			12	0
パルス工学 光エレクトロニクス	5	選選	2	\vdash	\vdash	\vdash	1	\vdash	Н	2	 		
元エレクトロークス 応用計測	5	選	2		\vdash	L	1	1		2			
画像工学	5	選	2				1			2			
電波伝送学	5	選	1				1			1			
データ通信 ロボット工学	5	選選	2	_	_		1	_	H	2	 	-	
ロハットエ子 電力工学概論	5	選	2		<u> </u>	<u> </u>	۲	<u> </u>	H	2		1	
保健·体育	5	必	1						1			1	
法学	5	選	2	1	F	F	F	F	Д	2			
数学概論Ⅲ 自然特論	5	選選	1	-	\vdash	\vdash	1	\vdash	Н	1	 		
旦 <u>於付⊪</u> 英語Ⅴ	5	選	1		1	\vdash	ť	1	Н	1			
英語Ⅵ	5	選	1		1			1		1			
独語Ⅱ	5	選	-		1		匚		Щ	1			
中国語 I	5	選	1	ı	1	I		i		1	i	1	

電子制御工学科の授業形態

		Г	Г		т р:	SP. 46	育目	155			授業形態		学生が情
本科 科目	学年	選択	単 位	A	В	c c	D	E	F	講義	(単位時間)	実験·実習	報機器を 利用する
国語	1	Ø.	3	1	1	1	Ľ	Ĺ	Ŀ	3	,A.B	X4X : X B	科目
歴史	1	必	2	1	Ė	Ė				2 2			ŏ
基礎数学 I	1	必必	4	Ė			1			4			
基礎数学Ⅱ 物理	1	必必	3				1			3			
化学 保健·体育	1 1	必必	თთ				1		1	3		3	
音楽	1	選	1	1	1			1	Ė		1	Ů	
美術 書道	1	選選	1	1	1			_			1		
英語 I 英語 Ⅱ	1	必必	2	_	1	-	-	Н		2			
英語皿	1 2	必必	1	1	1	1				1 3			0
倫理·社会	2	必	2	1	Ė	Ė				2			
歴史 基礎数学Ⅱ	2	必必	2	1			1			2			0
微分積分学 物理	2	必必	2	-	1	1	1	1		4 2			0
化学 保健·体育	2	必	2		Ė	Ė	1	Ĺ	Ę	2		_	
音楽	2	必選	1	1	1				Ľ		1	3	
美術 書道	2	選選	1	1	1	-	-	1			1		
英語I	2	Ň	3		1					3			
英語 II 国語A	3	必必	2	1	1	1				2			
国語B 政治·経済	3	必必	2	1	1_	H	H	H	H	2			
微分積分学	3	Ň	2	1			1	H		2			0
応用解析学 保健・体育	3	<u>&</u>	2				1	Н	1			2	0
英語 I 英語 II	3	必必	2	H	1	H	H	H	H	3			0
日本語	3	留	3		i		Ļ	П		3			
基礎電気工学 情報処理 I	1	必必	2			1	1	Н		2	2		0
基礎工学演習	1	必	2			Ė	1	П		1	1		
電気回路 I ディジタル回路 I	2	必必	2	-	\vdash	\vdash	1	1	\vdash	2			\vdash
情報処理Ⅱ	2	必	4				1	Ė		1	3		0
応用物理 I 制御工学 I	3	必必	2	-	\vdash	\vdash	1	1	\vdash	2			
電気回路Ⅱ	3	必	2				1	Ė		2			
電気磁気学 I 電子回路 I	3	必必	2	-	\vdash	\vdash	1	Н	\vdash	2			
工学演習	3	必	2				1			1	1		
工学実験 応用数学 I	4	必必	4	_	1		1	1		2		4	0
応用物理Ⅱ	4	必必	2				1			2			
制御工学Ⅱ 電気磁気学Ⅱ	4	必	2				1			2			
电风燃风子Ⅱ 電子回路Ⅱ	4	必必	2		H	H	1	1	H	2			
半導体工学	4	必	2				1			2			
機械力学 制御工学セミナー	4	必必	2	_	1		1	Н		2	2		
工学実験	4	宓	4		Ė		1	1				4	0
環境と人間 数値解析 I	4	選選	1	1	-	-	1	H		1			
数値解析Ⅱ	4	選	-				1			1			
確率統計論 I 確率統計論 Ⅱ	4	選選	1	-	H	H	1	Н		1			
ディジタル回路Ⅱ	4	選	1				1			1			
ディジタル回路Ⅲ 制御機器 I	4	選選	1		1	1	1	H	-	1			
制御機器Ⅱ	4	選	1				1	1		1			
オベレーションズ リサーチ I オベレーションズ リサーチ II	4	選選	1				1	Н		1 1			
システム工学 I	4	選	-				1	1		1			
システム工学 II 通信理論 I	4	選選	1	_	-	-	1	1		1 1			
通信理論Ⅱ	4	選	1				1			1			
校外実習	4	選	1.					Ш				11	
特別講義 保健·体育	4	選必	1 1		H	H	H	H	1	1		1	
哲学	4	選	2	1				П		2			
文学特論 英語特論	4	選	1	1	1	Н	Н	Н	H	1	L	\vdash	
数学概論 I	4	選	1				1	П		1			
数学概論Ⅱ 英語Ⅳ	4	選選	2	\vdash	1	\vdash	1	1	\vdash	2	L		
独語 I 中国語 I	4	選	2		1			П		2			
中国語 I 応用数学 II	4	選必	2		1	Н	1	Н		2			
計測工学	5	必	2				1	П		2			
制御工学セミナー工学実験	5	必必	2	H	1	1	1	Н	\vdash		1	2	0
卒業研究	5	必	12			1	1	1				12	ō
固体物理 I 固体物理 II	5	選選	1 1	-	\vdash	\vdash	1	Н	\vdash	1		-	\vdash
シーケンス制御 I	5	選	1				1	1		Ė	1		0
シーケンス制御Ⅱ 制御工学Ⅲ	5	選選		H	H	H	1	1	H	1	1	<u> </u>	0
制御工学Ⅳ	5	選	1				1	1			1		0
知識工学 I 知識工学 II	5	選選		H	H	H	1	H	H	1		<u> </u>	
ロボット工学 Ι	5	選	1				1	1		1			
ロボット工学 II 流体力学 I	5	選選		F	F	F	1	1	F	1			
流体力学Ⅱ	5	選	1				1			1			
熱力学 I 熱力学 II	5	選選	1 1	F	F	F	1	F	F	1			
計算機工学 I	5	選	1	1			1			1 1			
計算機工学Ⅱ	5	選	-	Ė			1	П		1			_
画像処理 I 画像処理 II	5	選選	1	Н	H	H	1	Н	H		1 1		0
通信システム I	5	選	1				-1	1		1			Ť
通信システム Ⅱ 保健・体育	5	選必	1			- 1	1	Н	1	1		1	\vdash
法学	5	選	2	1					Ľ	2			
数学概論Ⅲ 自然特論	5	選選		1	H	H	1	Н	H	1			
英語 V	5	選	-		1		1	1		1			
英語VI 独語 II	5	選	1	ĻĪ	1	F	1	- 1	F	1			
独語 II 中国語 II	5	選選	2	L	1	L	L	Ħ	L	2			
									_	′ Ш ф		TT L	

情報工学科の授業形態

	<u>'</u>	1.7	- /			習・勢			~/	ペカクス	授業形態		学生が情
本科 科目	学年	選択	単位		_	B - 45		1175			(単位時間)) 	子生が旧 報機器を 利用する
	_	אנ	122	Α	В	С	D	Е	F	講義	演習	実験·実習	科目
国語 歴史	1	必必	3	1	1	1				3			0
地理	1	必必	2	- 1						2)
基礎数学 I	1	必	4			П	1			4			
基礎数学Ⅱ 物理	1	必必	3			\vdash	1			3			
化学	1	必	3				1			3			
保健・体育	1	必	3	,	٠	Н	Н	_	1			3	
美術	1	選選	1	1	1	Н	Н	1			1		
書道	1	選	1	1	1						1		
<u>英語 I</u> 英語 II	1	必必	2	Н	1	Н	Н	_	Н	2			
英語皿	1	必必	1		- 1					1			
国語	2	必	3	1	1	1				3			0
倫理·社会 歴史	2	必必	2	1						2			0
基礎数学Ⅱ	2	必	2				1			2			Ŭ
微分積分学	2	必	4				Τ,			4			0
物理 化学	2	必必	2	_	1	1	1	1		2	1		
保健・体育	2	必	3				ĺ		1			3	
音楽	2	選	1	1	1	Ц	Į	Ļ	Ш		1		
美術 書道	2	選選	1	1	1	Н	Н	1	Н	H	1	 	
英語 I	2	必	3	Ė	1					3			
英語Ⅱ	2	必	2	Ę	1	ĻĪ	f	F	Ħ	2			
国語A 国語B	3	必必	1	1	1	1	Н	\vdash	Н	1	1	 	
政治·経済	3	必必	2		É		F	Е		2			
微分積分学	3	必	2	1		П	1		Щ	2			00
応用解析学 保健·体育	3	必必	2	Н	\vdash	Н	1	\vdash	1	4	 	2	0
英語 I	3	必必	3	Н	1		H	E	Ë	3			0
英語Ⅱ	3	必	2		1					2			
日本語 基礎電気工学	1	留必	2	Н	1	Н	H	H	Н	3	- -	-	
を収电スエチ 情報処理 I	1	必必	2			1	1			1	2		0
基礎工学演習	1	必必	2			-	1	1			2		0
電気回路I	2	必	2			Н	1	Ė		1	1		
ディジタル回路 I	2	必	2				1	1		2			
情報処理Ⅱ	2	必	4				1	1		2	2		0
応用物理	3	必	2				1			2			
電子回路	3	必	2				1			2			
ディジタル回路Ⅱ	3	必	2				1	1		2			
基礎情報工学	3	必	2	Н	_	H	1	_		2			_
情報システム I ソフトウェア設計論	3	必必	4			1	1	1		_	2		0
工学実験	3	必必	2	Н		1	1	1		2	2	2	0
応用数学	4	必	4			Ė	1	Ė		4			
応用物理	4	必	2				1			2			
電気磁気学	4	必	2				1	1		2			
計算機システム	4	必	2				1			2			
情報構造論	4	必	2				1			2			
情報工学セミナー	4	必	6		<u>.</u>	1	1	1				6	0
工学実験 数値解析	4	必選	2		1	1	1	1				4	0
システムプログラミング	4	選	2	Н		Н	1	1		1	1		0
知識工学 I	4	選	2	Н	Н	Н	1	1	Н	1	1		0
環境と人間	4	選	1	1	Т	П	1	ť	П	1	<u> </u>		
校外実習	4	選	1									1	
特別講義	4	選	1							1			
保健・体育	4	必	1	Щ	Ĺ	Ц	Ĺ	Ĺ	1			1	
哲学	4	選	2	1	<u> </u>	ш	Н	<u> </u>	Н	2	ļ		
文学特論	4	選	1	1	-	Н	H	-	Н	1	 		
英語符譜 数学概論 I	4	選選	1	Н	1	Н	1	\vdash	Н	1	1	 	
数字概論Ⅱ	4	選	1	Н	H	Н	1	H	Н	1			
英語IV	4	選	2	Н	1	Н	ŕ	1	Н	2	1		
独語I	4	選	2		- 1			Ĺ		2			
中国語 I	4	選	2		1					2			
工学実験	5	必	3			1	1	1				3	0
卒業研究	5	必	12		1	1	1	1	Ш			12	0
プログラミング言語	5	選	2	Н	<u> </u>	Щ	1	1	Щ	1	1		0
基本ソフトウェア	5	選	2	Н	-	Н	1	1	Н	2	 		0
コンパイラ 通信システム II	5	選選	2	Н	\vdash	Н	1	1	Н	1	1	—	0
情報システムⅡ	5	選	2	Н	\vdash	Н	1	1	Н	1	1	-	0
知識工学Ⅱ	5	選	2	Н	Н	Н	1	1	Н	1	1		0
データベース	5	選	2				- 1	- 1		1	1		0
画像工学	5	選	2				1			2			0
情報特論Ⅱ	5	選	2				1			2			
保健・体育	5	必	1	Щ		Ш	\Box		1			1	
法学	5	選	2	1	<u> </u>	ш	Н	<u> </u>	Щ	2	ļ		
数学概論Ⅲ	5	選選	1	Н	—	Н	1	—	Н	1	 	—	
自然特論 英語 V	5	選選	1	Н	1	Н	1	1	Н	1	1	 	
英語 VI	5	選	1	Н	1	Н	Н	1	Н	1	 		
独語Ⅱ	5	選	2	П	1	Н	Н	Ľ		2	l		
中国語I	5	選	2		- 1					2			
										LLette	ਹਵ-		_

「環境と人間」シラバス

科目名	環境と人間			担当教員	田嶋	眞一		
学年	全学科4,5年	学期	前期集中	履修条件	選択		単位数	1
分野	専門	授業形式	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	科目番号		_		
学習目標	環境科学は広い分問である。気圏、水 人間活動に起因する 響、対策、とくに地 国内における大気で び、さまざまな化学 なかで、科学技術が 識ある環境評価がで	圏, 地圏, さまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	生物圏の4つ な環境問題を オゾン層破壊 汚染,土壌洗 る環境汚染問 生と限界を理	の圏からな 理解する。 寝,酸性雨の 染の現状, 題を理解す	さ地球シフ 具体的には)メカニズス 発生メカニ る。成長の	マテムでの エ地球環境 ムについて - ズム, 影 - 持続と環	物質循環問題の現 理解を深響,対応 境の保全	に基づいて, 伏,原因,影 める。また, 策について学 との綱引きの
進め方	教科書に沿った講 期間中 6 回程度の			程度のレポ	ート提出を	課す。		
履修要件		- /	lu. s			W 77 - 1 vd		
		目(時間	数)		b m tota	学習到達		
	 ガイダンス(1) 人間活動と環境 環境悪化をもた 公害から環境問り エネルギー問題 	らす要因 題へ (1)	(1)		ĸ環境での 意への影響≀		1る。	て,人間活動 3:3,A3:4,D3:1
	6. 大気環境 (1) 7. オゾン層破壊 (1) 8. 地球温暖化・酸 9. 森林の減少・砂汗 10. 海洋汚染・有害	l) 生雨 (1) 莫化・野生		その原	求温暖化, ス 原因物質と		について	雨について, 知る。 3:3,A3:4,D3:1
学習内容	11. 大気汚染 (1) 12. 水質汚染 (1) 13. 廃棄物問題とリ			'	と含む化学:		景を通し′	競汚染を食物 て考えること 3:3,A3:4,D3:1
	14. まとめ (2) 15. 自浄作用・残留(16. ダイオキシン類 17. 有機リン化合物 18. 重金属・微量元 19. 薬物代謝酵素 (1 20. 生物機能による! 21. 化学物質の作用	(1) (1) 素 (1) l) 環境浄化 点・毒性評	(1) i価 (1)	への景				の負荷や生体 3:3,A3:4,D3:1
	22. 内分泌撹乱化学 23. 環境保全 (1) 24. 地球の限界性 (1 25. 環境教育・環境 26. まとめ (2) 27. 授業評価アンケ	l) 学習 (1) ート(1)		の保全する多	全とのトレ 姿勢を身に、	ードオフ(つける。	のなかで	の持続と環境 豊かさを追求 A1:2,D3:1
評価方法	小テストを40% る。	, レポー	トを40%,	平常点(授	業態度など	**)を20	%の比率	で総合評価す
関連科目	# 40 + 4	there ?	1 34 - 44	F. Andre or Unit -			ado a com	51 31 - 1 · ·
教材 	教科書:川合 真 化学同人							
備考 	授業中は A4 レホ 課後は,E-mail[tashi						適宜質問`	すること。放

							資料 5 - 2 - ① - 8
	マルチ	メディア	ラーニン	グラボ利	月用状況		
	表示 器グル		₽ 日表示 🖳	週表示 🗐 月	表示		
マルチメディアラ	ラ ーニングラボ の	予定	2006年11月			◆ 今月	1 ▶
B	月	火	水	木	金	±	
29		31] 9:10-10:50授 9:10-10:50授 業:英語V 4 ET(森 和憲)* 15:10-16:00授 業英語V:5-C (野口 隆)*	1] 11:00-11:50授 業-英語III: 1-2 (野口 隆) 11:50-14:15授 素-英語IV 4 C-1(森 和志) * 15:10-16:00授 素-英語III: 1-3 (野口 隆)	2] 13:25-14:15授 業.英語V: 5-1 (野口 隆)* 15:10-16:00授 素.英語II: 1-1 (野口 隆)*	_3 文化の日	4	
5	<u>業:英語Ⅲ: 1-4</u> <u>(野口 隆)*</u>	7 9:10-10:50授 業.英語Ⅳ 4 ET(森 和憲)* 15:10-16:00授 業.英語V: 5-C (野口 隆)*	8] 11:50-14:15授 業:英語Ⅳ 4 C·I(森 和憲) *	業:英語V: 5-I (野口 隆)*	10 11:00-11:50授 業:英語III: 1-2 (野口隆)* 15:10-16:00授 業:英語III: 1-3 (野口隆)*	11	
12	10:00-10:50授 業:英語III: 1-4 (野口 隆)*	14] 9:10-10:50授 業:英語IV 4 ET(森 和憲)* 15:10-17:30授 業-英語V: 5-C (野口 隆)	15 11:50~14:15授 業英語IV 4 C・1(森 和憲)	業:英語Ⅱ(森 和憲)	17] 11:00-11:50授 業英語Ⅲ: 1-2 (野口修)* 15:10-16:00授 業英語Ⅲ: 1-3 (野口修)*	18	
19	10:00-10:50授 業:英語III: 1-4 (野口 隆)* 15:10-16:00授 業:英語 エ お よびHR(森 和 憲)	21] 9:10-10:50授 聚英語IV 4 ET(森 和憲)* 14:15-15:05授 衆英語II 1 -3(森 和憲)* 15:10-16:00授 聚英語V:5-C (野口 隆)*	22] 11:50-14:15授 秦英語IV 4 C-1(義 和憲) * 16:00-17:00会 議:中央委員会 (金澤啓三)	23] 勤労感謝の 日	24] 11:00-11:50授 秦英語Ⅲ:1-2 (野口隆)* 15:10-16:00授 秦英語Ⅲ:1-3 (野口 降)*	25	
26	10:00-10:50授 業:英語III: 1-4 (野口 隆)*	28 9:10-10:50授 業:英語IV 4 ET(森 和憲)* 14:15-15:05授 業:英語II 1 -3(森 和憲)	29 11:00-11:50授 <u>業英語II 1</u> -4(森 和憲) * 11:50-14:15授 業:英語IV 4	<u>業:英語V: 5-I</u> (野口 隆)* 15:10-16:00授	1] 11:00-11:50授 業英語III: 1-2 (野口 隆)* 11:50-12:40授 業英語II 1 -2(森 和憲)	2	
					日)	は典 ス	本校グループウェア)

4年「英語Ⅳ」シラバス

科目名	英語 IV			担当教員	鳥越秀知	1	
学年	4 年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20270		
学習目標	 様々な話題の英 文法知識を定着 リスニング力を 	fさせ,TOI rつける。	EIC に対応可能	能な力をつけ	`る。		
進め方	リーディングの教系 解問題,文法問題,				法問題などを行う	。また,T	OEIC 用の読
履修要件	特になし						
	学習項	[目(時間数	汝)		学習到遺	主目標	
	 イントロダクシ Immigration the Immigration the 	e 21st Centur	-	l l	解を通して,語彙 をつけることがで	きる。	内容を把握 1-4 B2:1-3
	4. Immigration the 5. Immigration in the	e 21st Centur	ry (2)				
	6. Challenging a Mo 7. 試験範囲のまと 8. 前期中間試験	: め (2)	aboos (2)	l l	題を通じて,文法 せることができる。	,	t,文法を停 1-4 B2:1-3
	 前朔中间試験 試験の解説(2) Challenging a Mo 		nboos (2)			ы:	1-4 B2:1-3
	11. Challenging a Mo12. Challenging a Mo	ountain of Ta	aboos (2)	l l	題の練習によって けることができる。		なリスニング
学習内容	13. The Past (2) 14. The Past (2) 15. 試験範囲のまと 16. 前期末試験 (1) 17. 試験の解説とア 18. The Past (2) 19. The Past (2) 20. Christian Orphana 21. Christian Orphana 22. Christian Orphana 23. 試験範囲のまと 24. 後期中間試験 25. 試験の解説 (2) 26. Christian Orphana 27. Providing Empath 28. Providing Empath 29. Providing Empath 29. Providing Empath 30. Providing Empath 31. 試験範囲のまと 32. 学年末試験 (1)	ages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunages for Tunagetic Medical metic Medical metic Medical metic Medical	ami Orphans (2) ami Orphans (2) ami Orphans (2) ami Orphans (2) ami Orphans (2) 1 Care (2) 1 Care (2) 1 Care (2))		B1:	1-4 B2:1-3
評価方法	定期試験 90 %, 取	紅態度・誤	果題などを 10	 %の比率で約	※合評価する。		
関連科目					- *		
教材		-	World Affairs ridge Test』 A	-	sachika Ishida, 桐原 ⁼ oto, 桐原書店	書店	
備考							

2年「国語」シラバス

科目名	国語			担当教員	富士原伸弘		
学年	2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G02_20010)	
学習目標	1 学年までの を通して, それ きる能力を養う。	うの能力を高	める。近代文	学・古文・漢	文の基礎知識	を身に付け	・話し・聞く),理解・鑑賞で
進め方	教科書を基に,				- 国际している)	
) JE (7) /	特に、学習目標				おいて授業をi	生める。	
履修要件	特になし	,, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	, 21, 22 - 2	(H (- <u>H</u> // H		> 000	
	学習	習項目 (時間	数)		学習	到達目標	
	1論述「新学年の 2評論「恐怖とは		う」(1)	する力を			知り,文書作成 B2:1-2 jを考える。
学習内容	3.古文「枕草子」	(7)		1	東・中国古典/)学び人間とす		B1:1-2 性を養い,先人 ** 考える
1 9 7 7	4. 漢文「孟子,看	页子」 (7)		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	子し大幅でク		A1:3, A3:2
	5. 前期中間試験((1)					
	6.小説「こころ」	(8)		近代文学	どの代表作に触	はれ,自我意	識を再考する。 A1:3, B1:1-2
	7.古文「源氏物語	引 (7)					
	8. 漢文「四面楚鄂	(7)					
	9.前期期末試験(1)					
	10.プレゼンテー	ション(3)		1	ィテーション? 〔説明する術を	工夫する	共同作業と,
	11随想「「ぞうる	さん」とまど	さん」(6)	先入観に	二囚われない考		C1:1, C4:1-4 文性を養う A3:4, B1:1-2
	12.古文「私の百」	人一首」(8)					213.1, 191.1 2
	13.漢文「老子,	茌子」(6)					
	14.後期中間試験	(1)					
	15 評論「聴くと	いうこと」(6)				
	16.評論「未来世	代への責任」	(6)				
	17.古文「古事記」	(8)					
	18.後期期末試験						
評価方法	年4回の定期記 総合評価する。	式験 8 0 %, :	および毎週の	小テスト10	%, レポー ト	・提出物等	10%の比率で
関連科目	特になし。						
教材	副教材:「速修	分照彦 他 著	「新編古典」	東京書籍	都書房		
備考	特になし。						

1年「歴史」シラバス

科目名	歴史			担当教員	内田由理子
学年	1年	学期	通年	履修条件	単位数 2 単位
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G01-20040
	我が国の歴史の展				どとも関連づけながら世界史的視野に立
学習目標					ついての認識を深めさせることによって,
,	歴史的思考力と国際				
					歴史の展開を、世界史的視野に立って多
進め方	面的・多角的に考察			. 3/1/1	
~	1		_ , . ,	多様な資	資料に親しみコンピュータやデジタルメデ
					5学習活動を重視するとともに、観察・見
					つたりする作業的・体験的な学習を取り入
	れ学習効果を高める				The state of the s
履修要件	401 D 303/4 G 14143 @	5, 7 = 7,	, \$0		
NZ IV X II	学習項	目(時間第	対)		
	, , ,	((())	~ /	年間の	授業を通して、学習教育目標「粘り強く
					む姿勢」等の学習態度を培っていく。
	1.原始社会の生活と	・ 縄 ナ ナ ル	(2)		代の社会にについて学ぶ。
	2 農耕社会の形成と			I	代の社会にについて学ぶ。
	3.ヤマト王権と古墳		(2)	1 **	王権,古墳文化について学ぶ。
	4.古代国家の確立(工権,口領文化に シャミテジ。 の政治,飛鳥文化,大化の改新と壬申の乱
	1 4. 日 1 (国家 2) 唯立 (7)		1	の以前,水為文化,久化の改称とエテの品 家,白鳳文化について学ぶ。
	 5.古代国家と天平文	r (2)		1	と律令体制,天平文化について学ぶ。
	5.6 (B	C1L (2)			と律令体制の動揺について学ぶ。
	0.貝族政府(2) 7. 前期中間試験(1)			十女乐	
			//× (2)	 +pt pp x/x	A1:3,
	8.試験返却,貴族政? 9.古代から中世へ()		11 (3)	I	治,国風文化について学ぶ。
				I	平氏政権,院政期の文化について学ぶ。
学習内容	10.武家社会と鎌倉文	(1)(2)		武永以	権の誕生,執権政治,鎌倉文化について学
子首内谷	11 安町黄麻の武士/	2)		1 . *	の中科ト学町草原について冷と
	11.室町幕府の成立(2				の内乱と室町幕府について学ぶ。
	12.下剋上の社会と室		,	1	衰退,室町文化について学ぶ。
	13.中世から近世へ(2)		=	ッパとの接触について学ぶ。
	14. 前期末試験(1)	fort week 1 2) -L-10 > 8 N		A1:3,
		曲アンケー	ト,,甲世かられ		動乱,織豊政権の全国統一,南蛮文化と栁
	~(5)	+ L/2 / 4\		I	について学ぶ。
	16.幕藩体制の成立と	1 転換(4)			制の成立,政治改革,元禄文化について学
	15 NO 110 2 2 25 NO 16	•)		\$.	# 1 //- 7/ // > 2/- 20
	17.近世から近代へ()	2)		1	革と化政文化について学ぶ。
	18.明治維新(2)			學呈機:	夷,討幕運動,明治維新について学ぶ。
	19. 後期中間試験(1)	man late the	7.5		A1:3,
	20.近代国家の成立と	: 国際情勢	(4)	I	兵政策,自由民権運動,明治憲法体制の成
				7	情勢について学ぶ。
	21.日清・日露戦争,第	第一次 世界	大戦と日本(3	I	近代化と日清・日露戦争,第一次世界大戦
				1	国際秩序と政党政治の実現について学ぶ。
	22.近代から現代へ(I	争,太平洋戦争,戦後改革について学ぶ。
	23.新しい国際秩序と	日本の課	題(2)		会への復帰,激変する世界と日本について
				学ぶ。	
	24.ものづくり教材り	7ーク(3)			料(史料)の再現を通して歴史と技術を
]理解し	またプレゼンテーション能力を培う。
	25.学年末試験(1)			A1:1, A	A1:3, A2:2,
	26.試験返却(1)				
評価方法	定期試験、提出物((ノート,プ	リント,レポー	ト等) や学	習活動などを総合評価する。
関連科目	世界史、国語				
教材	教科書:伊藤純郎	他著「日々	k史B」清水書	-	
備考					
	1				

平成 19 年度 情報処理センター演習室利用科目一覧

		平成194	下度 们	育報処均	里センター復	【習室 利用授業			資料 3
学年	クラス	科目名	時間割コマ数	人数	担当教官	使用ソフトウェア	実習前期	期間後期	演習室
1	Т	情報処理 I	2	44	三河	タイプ練習, MS office	2	2	第1
1	Е	情報処理 I	2	45	野中	タイプ練習, MS office, Basic	2	2	第1
3	Т	英語	1	44	森 和憲	Windows XP	1		第1
3	Т	情報処理Ⅲ	2	44	真鍋久志	Linux C	2	2	第1
3	E	情報処理Ⅲ	2	37	天造	Linux C	2	2	第1
4	T	無線工学演習	4	43	真鍋克也	Windows XP(I.E)	0	2	第1
4	Е	計算機工学	2	44	高木	Windows XP	0	2	第1
4	C	応物 I	2	29	東田	Mathematica	2	2	第1
5	Т	計算機ネットワーク	2	36	高城	Windows XP Network Visualizer	2	2	第1
5	Т	工学セミナーⅡ	2	36	井上	Windows XP, MS office	2	2	第1
5	Ī	通信システムⅡ	2	42	高城	Windows XP Network Visualizer	2	2	第1
5	I	情報システムⅡ	2	42	安藤	Windows XP Network Visualizer	2	2	第1
専1	全	情報工学基礎論	2	20	高木	Windows XP	2	0	第1
専1	全	物理科学特論	2	20	東田	Mathematica	0	2	第1
専1	全	情報ネットワーク論	2	20	今城	Windows XP Network Visualizer	2	0	第1
専1	IC	人工知能	2	10	野中	Az Prolog	0	2	第1
-17-I	10	/ LAPING	33	10	201	I E I Tolog	23	26	NII
1	С	情報処理 I	2	45	福間	MS Office XP , 独自ソフト	2	2	第3
2	С	情報処理Ⅱ	4	40	白石	MS Visual Studio	4	4	第3
4	С	数値解析 I	2	20	4	独自ソフト	2	0	第3
4	С	数値解析Ⅱ	2	20	4 元	独自ソフト	0	2	第3
4	C	工学実験	4	15	山本	独自ソフト (工学実験(村上)と並列)	4	0	第3
5	С	工学実験	2	39	福間	MS Visual Studio, Maple 他	2	2	第3
5	С	セミナー	1	39	田嶋	M3 visuai Studio, Mapie 18	1		第3
5	С	シーケンス制御 I	2	20	田嶋	独自ソフト	2	0	第3
5 5	C	シーケンス制御Ⅱ	2	20	田嶋	独自ソフト	0	2	第3
5	С	知識工学I	2	39	白石	独自ファト Windows XP MS Visual Studio	2	0	第3
5 5	C	知識工学Ⅱ	2	39	白石	Windows XP MS Visual Studio	0	2	第3
5 5	_		2						
5 5	C	計算機工学I	2	39	白石	Windows XP MS Visual Studio Windows XP MS Visual Studio	2	2	第3
	_	計算機工学Ⅱ		39	白石			_	第3
5	С	画像処理I	2	39	徳永	MS Visual Studio	2	0	第3
5	C	画像処理Ⅱ	2	39	徳永	MS Visual Studio	0	2	第3
専1	IC	画像処理工学	2	10	徳永	MS Visual Studio	0	2	第3
専1	IC	数式処理論	2	10	自石	MS Visual Studio	2	0	第3
		Ltr +n An em x	37	40	4v	W. 1 D 1 I	25	20	
1	I	情報処理I	2	43	松下	Word, Excel, Java	2	2	高度
3	I	情報システム I	2	33	鰆目	Visual Basic	2	2	高度
4	T	工学セミナー I	2	43	井上	Windows XP, MS office	2	2	高度
4	С	工学実験	4	15	村上	Linux C (工学実験(山本)と並列)	4	0	高度
4	I	情報構造論	2	40	松下	C Java	2	2	高度
4	I	システムプログラミング	2	40	今城	Linux C	2	2	高度
5	T	工学セミナーⅡ	2	36	井上忠	Windows XP, MS office	0	2	高度
5	Е	工学実験	4	20	月本	WindowsXP : Micro Wind 2	4	4	高度
				20	長岡	Windows Linux			
5	С	制御工学IV	2	20	山本	独自ソフト	2	2	高度
5	С	セミナー	1		村上		1		高度
5	I	プログラミング言語	2	42	真鍋久志	Visual Basic	2	2	高度
5	I	データベース	2	42	鰆目	Access	0	2	高度
専1	全	アルゴリズムとデータ構造	2	20	松下	C Java	2	0	高度
	_		29		1		25	22	
2	Т	情報処理Ⅱ	4	46	井上	Linux	4	4	サイバー
2	Е	情報処理Ⅱ	4	46	河田進	Linux C	4	4	サイバー
2	I	情報処理Ⅱ	4	47	金澤·高城	Linux C	4	4	サイバー
3	Т	基礎工学実験	2	20	真鍋克也	Solaris	2	2	サイバー
3	I	ソフトウェア設計論	4	33	宮武,金澤	Linux C	4	4	サイバー
4	Т	情報処理 IV	2	20	井上忠	Linux	2	2	サイバー
4	I	数値解析	2	40	宮武	Linux C	2	2	サイバー
	I	知識工学Ⅱ	2	42	宮武	Linux Lisp (Scheme)	2	2	サイバー
5	1	VI-100/ 1							

(出典 情報処理センター資料)

チームティーチング, 習熟度別授業



写真は、平成19年4月18日 「微分積分学」γクラス授業風景

- * チームティーチング実施科目: 「基礎工学演習」(T, E, I) , 「情報処理 II 」(I), 「微分積分学」(2 年 γ クラス)
- * 習熟度別授業科目:「微分積分学」(2年)

(出典 数学科,授業時間割)

資料 5-2-①-14

実験科目の担当教員数

学科	学年	科目	単位数	担当教員 人数
	3	基礎工学実験	2	6
情報通信	4	通信工学実験 I	3	7
	5	通信工学実験Ⅱ	4	9
	2	工学実験	3	5
電子	4	工学実験	3	7
	5	工学実験	4	8
	3	工学実験	4	8
電子制御	4	工学実験	4	2
	5	工学実験	2	3
	3	工学実験	2	3
情報	4	工学実験	4	5
	5	工学実験	3	5

(出典 授業時間割から集計)

電子工学科4年「工学実験」

科目名	工学実験			担当教員	高木,福	永,長岡,矢木	, 月本, 天造
学年	電子 4年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3
 分野	専門	授業形式		科目番号	07E04 30		
学習目標	1. 回路,通信,計算問題発見,問題 2. 物事を論理的に 3. 学習目標を立て	算機,ディ 解決に応用 考えて,文	バイスの専門 できる能力を 章で記述でき	技術に関する 注待う。 きる能力を培う) _。	を学習し、それに	うをデザイン
進め方	1 班 2 名 (一部 3 設計製作したもの して仕様を満たして	名) で, s)を使って	全員が同じ実 次の実験を行	験を行う。 うので, 各回	の実験でき		し,特性を測
履修要件	24 777	F.D. / 8+ 88	44. \			¥ 33 7/1 = C 1 =	
		目(時間	数)	4		学習到達目標	
	1. 講義			1	出力特性	を説明できる	D2
	2. ディジタル回路3. ディジタル回路4. 回路動作確認,	I (入出力 レポート作	7特性測定)(5成,講義(3)	3) 素子の料	持性を使っ	て,設計できる	D2:3, E2
	5. ディジタル回路 6. ディジタル回路			<u> </u>	:回路を製	作できる	D2:3, E2:3, E
	7. 回路動作確認, 8. 前期中間試験最				か作を説明	できる	D:
	9. ディジタル回路				11により同	路動作を確かめ	スニレがで
	10. ディジタル回路				6見できる	PE 293 C RE 10 09	D2:3, E4
	11. 回路動作確認,						D2.3, E
	12. トランジスタ増				- 思考して	,実験で確かめ	って問題占を
	13. トランジスタ増		.) (3)	決できる			E4:4, E5:2, E6
学習内容	14. トランジスタ増					D2.3,	D 1. 1, D3.2, D
,,	15. 前期末試験(1)	тш (57					
	16. 回路動作確認,	レポート作	成, 講義(3)	 論理的に	こ考え,それ	れを報告書に記	述できる B2
	17. CR 発振回路(3) 18. CR 発振回路(3)			/丰 表D 1984 D	見む活用し	て報告書を作成	できる
	19. 回路動作確認,	レポート作	: 武	月 和 炒发 右	かで伯用し		, C2:1-2, C3:1
	20. 振幅変調回路(3		- // X ,			C1.1	, C2.1-2, C3.1
	21. 振幅変調回路(3						
	22. 回路動作確認,		: 战 議美(2)				
	23. 検波回路(3)	N. 1.11	· //X ,				
	24. 後期中間試験最	終日午後	補充実験(3)				
	25. 回路動作確認,						
	26. 双安定マルチバ						
	27. 双安定マルチバ						
	28. 回路動作確認,						
	29. オペアンプ(3)		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
	30. オペアンプ(3)						
	31. 回路動作確認, 32. 学年末試験(1)	レポート作	成(3)				
 評価方法	全ての実験テーマ	を実験し	設計製作し	た回路が正常	に動作し.	レポートが各っ	テーマごとに
	出されれば合格とす						
	内容によって行う。	- 0		. ,		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-
	評価点は低くなる。						
関連科目	電子回路,ディジ		通信工学				
教材	自作テキスト						
 備考	第二級陸上無線技	年 L 団 字 封	EA 「何·伯一)	きの甘が この到	日名吟に)	ナー 大利日の単	上 時 俎 . い w #

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的を具体化した「学習・教育目標」を作成し、これに沿って各学科の特質に合わせた授業 形態が考慮されている。また、教育課程は学年進行とともに実験・実習の時間配分を増加させて実践 的な電子情報系技術者の育成を行なおうとするもので、「学習・教育目標」ごとに授業形態上のバラ ンスも考慮されている。

情報機器の活用、複数教員をあてての授業や、少人数での実験など、授業の展開において個々の学生に手厚く対応しようとする学習指導上の工夫や努力が行われている。

以上のことから観点を満足していると判断できる。

観点5-2-②: 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

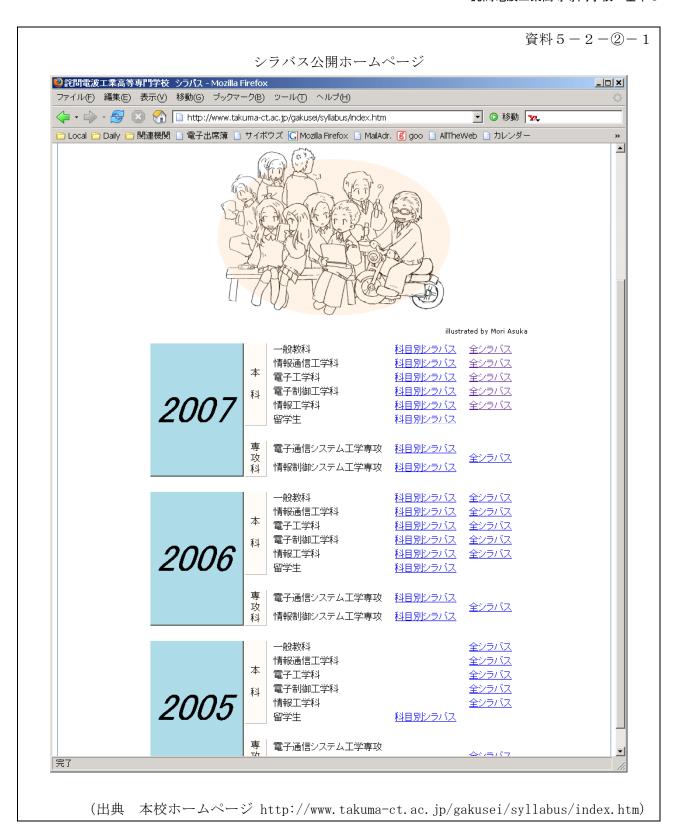
シラバスは毎年見直しをおこなって改定され、授業で配布されるほか、過年度分も含めてホームページ上で公開されている(資料5-2-2-1)。

シラバスは、学習到達目標や評価方法等の社会的に記載が求められる事項を含み、学習項目と「学習・教育目標、学習成果と達成度基準」の対応、科目間の接続、また学修単位の適用や資格取得に関わる情報など、科目履修の便を考えた不足のないシラバス様式としている(資料5-2-②-2)。

シラバスの活用状況についてアンケート調査を実施した結果を資料として示す(資料 5-2-2-3、4)。

学生からのアンケート回答を見ると、授業内容説明の際に用いられた後にシラバスを参照利用している学生は少数(問3~6、8、9)で、試験や成績評価の際にシラバスを参照している状況が理解できる(問7、10)。シラバスはインターネット上で入手確認できる状況にあり、印刷物としてのシラバス保存の必要性や、授業でのアナウンスと合わせてシラバス記載事項確認が必要であるとは感じていない状況である。資格についての確認や授業内容の説明書として活用されている姿も見える(問10)。

教員からのアンケート回答を見ると、シラバスの印刷配布の状況は良く、シラバスに示した授業計画を確実に実施しようとする姿勢が理解できる。シラバスに大きな変更が生じたときに再作成・再配付を行なう教員は約半分で(問8)、口頭やシラバスに代わる文書によっての変更連絡が多い様子である。



資料 5-2-2-2

シラバスの例(45時間の学修を1単位とする計算方法を行なう科目シラバス)

科目名	電気磁気学 II			担当教員	草間裕介			
学年	情報通信4年	学期	前期	履修条件	選択	単位数	2	
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	07T04_30070	<u> </u>		
	3 学年の電気磁気	学 I (静電	気)に続くも	ので,その後	半部である静	磁界について質	全習する.静	
学習目標	電界との比較を意	哉しながら	静磁気や電磁	:誘導を学び,	電磁現象が最	終的にマクスウ	アェルの方程	
	式にまとめられる。	ことを学ぶ	本授業では	, 電気電子,	通信工学の基準	礎となる電磁理	見象について	
	式にまとめられることを学ぶ. 本授業では、電気電子、通信工学の基礎となる電磁現象について 根本理論を習得する. また、電磁界の基礎計算ができるようになることを目標とする.							
	教科書に沿った講	義を行う.	基本理論,	例題などは講	義を行うが、	教科書の章末演	質問題の一	
進め方	部と演習書の問題は							
履修要件	特になし							
	学習3	項目 (時間:	数)		学習	到達目標		
	1. 磁界,電流による	る磁界と磁	束(2)	電磁気:	現象を学び,電	 這流によって生	ずる磁界お	
	2. 磁束, ビオ・サ	則(2)	よび磁気	束を理解する.		D1:1		
	3. 円形ループ電流に							
	4. アンペアの周回科	アンペ	アの周回積分を	理解して適用	ができる.			
	5. ソレノイド内の	•				D1:1,2		
	6. 電磁力(2)		フレミ	ングの左手の法	:則を説明でき	る. D1:3		
	7. 演習問題(2)		応用問題	題を解くことが	できる.	D1:4		
	8. 小試験(1)							
	9. 物質の磁気的性質	質(2)		磁気誘導	算現象を学び,	物質の磁化を	理解する.	
	10. 磁界の強さと透					D2:1		
	11. 磁性体の境界条		磁性体	の磁化率および	透磁率の問題	が解ける.		
	12. 磁気回路(2)					D2:2		
	13. 強磁性体の磁化(2)			磁力線,	磁束の屈折が	説明できる.	D2:3	
学習内容	14. 磁石と磁極(2)		磁気回	路を学び、計算	問題が解ける	. D2:2		
	15. 演習問題(2)		応用問題	題を解くことが	できる.	D2:4		
	16. 前期中間試験(1							
	17. ファラデーの法		ファララ	デーの電磁誘導	の法則を理解	する. D1:1		
	18. 渦電流,表皮效							
	19. 演習問題(2)							
	20. 自己および相互	ンス(2)	自己・村	相互インダクタ	ンスの定義を	説明できる.		
	21. インダクタンス					D2:3		
	22. 磁界のエネルギ		自己・相	相互インダクタ	ンスの導出法	を習得する.		
	23. インダクタンス					D2:2,D3:2		
	24. 小試験(1)							
	25. 演習問題(2)							
	26. 変位電流(2)			変位電	流を学び,マク	フスウェルの力	程式の意味	
	27. マクスウェルの	方程式(2)		を理解で	する.		D1:1	
	28. 電磁波(2)			マクス	ウェルの方程コ	じと波動方程式	この関係を理	
	29. 平面電磁波(2)			解する.			D1:1	
	30. ポインチングベクトル(2)			平面波	と伝送電力の関	係を知る.	D1:3	
	31. 演習問題(2)			学んだタ	知識が整理され	ている.	D3:1	
	32. 前期期末試験(1)]				
	33. 試験問題の解答	と授業評価	iアンケート					
評価方法	小試験と定期試験			ノートと授業	態度を6%の比	北率で評価する		
関連科目	電気磁気学 I,電	皮伝送学 I,	電波伝送学	II				
教材	教科書:安達三郎	,大貫繁雄	「電気磁気	気学」 森北	出版			
	演習書:大貫繁雄	安達三郎	(「油羽雷冬	京磁気学」 3	秦北出版			
	0.177	<u>,, ,,</u> ,, ,, ,,		VINA ACT J	M 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10			

資料 5-2-2-3

学生に対しての「シラバスの活用についてのアンケート」結果

- 問1. 配布されたシラバスを保存している。 問2. 授業全体の内容をシラバスで確認した。
- 問3. 科目の授業内容と「学習・教育目標、学習成果、達成度基準」との 関係の理解にシラバスが役立っている。
- 問4. 予習するとき、シラバスの学習項目を確認している。 問5. 復習するとき、シラバスの学習項目と学習到達目標を確認している。 問6. 定期試験の勉強の際に、シラバスの学習到達目標を確認している。
- 問7. シラバスの評価方法を意識して勉強をしている。

- 問8. シラバスどおりに成績評価されているかの確認をしている。 問9. 学習成果の自己評価にシラバスを役立てている。 問10. 「シラバスを〇〇に利用している」という,活用事例がありましたら, 紹介してください。(記述欄に回答)

学生	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	回答数
子工	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	計
1学年	79	62	23	9	8	17	28	17	10	167
1子牛	47%	37%	14%	5%	5%	10%	17%	10%	6%	100%
2学年	71	39	20	11	14	16	38	22	16	151
2 7 +	47%	26%	13%	7%	9%	11%	25%	15%	tilde tild	100%
3学年	74	57	12	6	7	13	42	24	8	156
3 7 4	47%	37%	8%	4%	4%	8%	27%	15%	5%	100%
4学年	100	61	31	9	14	23	49	33	12	163
4子牛	61%	37%	19%	6%	9%	14%	30%	20%	7%	100%
5学年	59	57	19	7	6	13	36	24	10	126
5子牛	47%	45%	15%	6%	5%	10%	29%	19%	8%	100%
専1年	12	11	7	0	3	5	8	7	6	17
サーナ	71%	65%	41%	0%	18%	29%	47%	41%	35%	100%
専2年	15	9	4	0	0	2	6	3	0	17
守2平	88%	53%	24%	0%	0%	12%	35%	18%	0%	100%
計	398	285	109	42	49	84	199	123	56	780
áΤ	51%	37%	14%	5%	6%	11%	26%	16%	7%	100%

問10 (活用に関する主なもの)

- ・単位数の確認に使っている(6)
- ・教師の評価, 生徒に対する気持ちを考えるため(1)
- ・授業内容,順番の確認(2)
- ・テスト範囲の確認する(2)
- ・資格を取れるかどうかの確認(1)
- •残り授業数(1)
- ・試験までの内容の確認(2)
- ・科目選択の目安として使っている(1)
- ・どのような授業を受けているかを説明するときに活用する(1)
- ・成績のつけ方について確認(1)

(出典 平成19年4月19日 点検評価委員会資料)

資料 5-2-2-4

教員に対しての「シラバスの活用についてのアンケート」結果

- 問1. シラバスを授業時間に印刷配布した
- 問2. 授業内容の説明にシラバスを用いた. 問3. シラバスの学習到達目標と,

本校の「学習・教育目標、学習成果、達成度基準」との関係を説明した。

- 問4. 授業の進度をシラバスによって確認している.
- 問5. 授業の進度がシラバスから大きくずれた場合は、学生に変更を説明する.
- 問 6. 試験問題を作成する際に、シラバスの学習到達目標を確認している.
- 問7. 成績評価を行う際に、シラバスの評価方法を確認している.
- 問8. 成績評価方法を変更するときにはシラバスを再配布して周知する.
- 問9. 授業に関する自己評価にシラバスを活用している.
- 問10. シラバスを活用している事例がありましたらお書きください.

教員	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	回答数
教員	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	計
一般	74	77	29	95	82	72	97	81	88	97
一万又	76%	79%	30%	98%	85%	74%	100%	84%	91%	100%
情報通信	38	38	8	37	29	24	39	17	27	39
1月10世16	97%	97%	21%	95%	74%	62%	100%	44%	69%	100%
電子	26	30	18	31	25	22	31	14	30	31
电丁	84%	97%	58%	100%	81%	71%	100%	45%	97%	100%
電子制御	44	53	10	53	26	35	45	16	47	53
电工咖啡	83%	100%	19%	100%	49%	66%	85%	30%	89%	100%
情報	34	35	14	34	27	29	38	20	38	38
1月 ŦX	89%	92%	37%	89%	71%	76%	100%	53%	100%	100%
H18非常勤	9	14	10	20	15	18	20	6	19	21
口10折吊到	43%	67%	48%	95%	71%	86%	95%	29%	90%	100%
計	225	247	89	270	204	200	270	154	249	279
āl	81%	89%	32%	97%	73%	72%	97%	55%	89%	100%

問10 (活用に関する主なもの)

- ・ 資格試験の受験を説明するときに使用する。
- ・時間調整, 他科目のシラバスを見ての割愛項目の検討

(出典 平成19年4月19日 点検評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの作成、収集、保存、公開の作業が組織的に行われて、過年度分のシラバスも含めてイン ターネットで公開されている。在学生と卒業生に配慮した対応が行われている。シラバスの記載項目 は、要求される事項を含んだ過不足のないものである。

シラバスは教員による授業内容の説明や学生達の試験範囲の確認などに活用されており、観点を満 足していると判断する。

観点5-2-③: 創造性を育む教育方法(PBLなど)の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

教育課程上で創造性を育む教育は、本校の学習・教育目標Eに対応している。創造性教育へのアプローチはさまざまにあり(資料5-2-3-1)、本校でも学科によって対応が異なる。

本観点に関係する報告資料を資料5-2-3-2~13に示す。

情報通信工学科では、学生が個別に製作を行う電子回路の設計・製作・測定の実験テーマを計 3 テーマ(34 時間)設定して創造性教育を実施している。個別に製作させる実験を複数回繰り返し、自ら電子回路製作できるように教育することで、その後の研究活動を創造的に展開してゆける素地を与え、具体的な研究作業の中で創造力を育もうとしている(資料 $5-2-3-2\sim4$)。

電子工学科では、「創造性の中心の能力は物事を体系的に考えまとめ上げる構想力(想像力)である。構想力を培うためには、自由な発想で創作し、その過程で何故という疑問を持ち、問題を発見・解決して完成させる工学的色彩の強い工学実験教育が有益である。」と考え、実験教育に力を注いでいる。1学年で工学導入教育を行い、3学年でロボットコンテストを取り入れている。4学年では回路設計、製作、特性測定を行い、問題を発見して知識と実験によって得られた事象を基に体系的に考えて解決し、実験を完成させている。5年生では、フィルタの設計・製作、薄膜回路の設計・製作、VHDLによるディジタル回路設計・製作、集積回路設計等を行っている(資料5-2-③-5~7)。

電子制御工学科では、第4学年の工学実験でテーマ「古典的制御理論に基づく制御系設計演習」について、PBLに基づく運営を実施している。実験の運営に心理学的な性格検査を取り入れる工夫を行い、マイヤーズ・ブリッグス・タイプ指標をもとに4つのチームに分け、それぞれのチームに異なる課題を与えて実験を行なっている(資料 $5-2-3-8\sim10$)。

情報工学科では、3学年から学生一人ひとりが独自に課題を設定したオリジナルのプログラム開発やプレゼンテーションを経験させることで、研究活動における課題設定や問題解決能力等の創造性を具体的経験によって育もうとしている(資料 $5-2-3-11\sim13$)。

インターンシップは、学生と教職員の前で発表する報告会を開催することにより、学生のプレゼンテーション機会として活用している(資料 5-2-3-14)。

資料 5-2-3-1

創造性を育む学習テーマの例

- 情報通信工学科:3 年基礎工学実験での「電子工作実習」,4 年通信工学実験Ⅰでの「低周 波増幅回路」「中間周波増幅回路の製作」,5 年通信工学実験Ⅱでの「FMワイヤレスマイ クの製作」
- 電子工学科:1年での工学導入教育,4年工学実験での「回路製作実験」
- 電子制御工学科:4年工学実験での「古典制御理論に基づく制御系設計演習」
- 情報工学科:第3学年情報システムIでの「オリジナルのプログラム作成」

(出典 平成 18 年度運営懇話会報告書, 平成 17 年度年報, シラバスからの集約)

情報通信工学科の「創造性を育む教育の工夫について」の取り組み

創造力を高める要素

- 1. 科学技術へのあこがれ・夢
- 2. 不思議・面白がる心
- 3. 基礎的な知識・自ら考える力
- 4. 試す・製作する行動力
- 5. 失敗・成功・新展開の経験
- 6. 身近な環境

工学セミナー

- 1. 能動的な授業
 - <課題の例>
- ・問題解決技法の一つである KJ法を用いた演習(写真上)
- ・電気回路の問題を作成する 課題(写真下)



2. 知財教育

山口大学との連携(遠隔授業)

工学実験

1つの回路を一人が製作するテーマ

- ・低周波增幅回路(4年2週)
- ・中間周波増幅回路(4年2週)
- ・FMワイアレスマイク(5年4週)







プリント基板製作組立 特性測定





野外での特性測定

共同研究

プロジェクト的な卒業・特別研究例

- ・5年生と専攻科生の共同作業
- ・複数の教員・学生のチーム
- ・大学・企業との共同研究
- ・具体的なニーズを解決するために教員・学生・企業技術者が協力



<共同研究例>

電波計測装置の研究, DNMの研究

透明導電膜の研究

(出典 平成18年度運営懇話会報告書23頁)

情報通信工学科での創造性を育む教育の例

- 「通信工学実験Ⅱ」テキスト例-

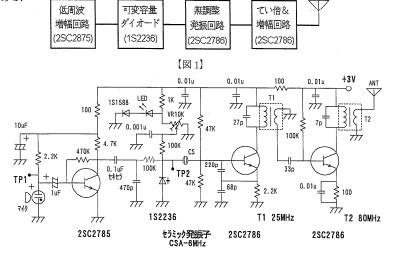
FM ワイヤレスマイクの製作及び特性測定

【目的】

FM ラジオで簡単に受信できるワイヤレスマイクを製作し、その特性を測定することにより FM の原理を再確認する.

【仕様·構成】

FM ラジオで受信するため、送信周波数を国内の FM 放送パンドである 76MHz ~ 90MHz のなかで近隣の放送局と重ならないよう設定し、その出力は電波法で許容されている範囲内とする.図 1 が製作するワイヤレスマイクのブロック図であり、図 2 が回路図である.



[図 2]

A.低周波增幅回路

コンデンサマイクからの音声信号を増幅して可変容量ダイオードに加える.周囲の温度上昇によるトランジスタの熱暴走を防ぐため、自己バイアス回路を用いている. B.可変容量(バリキャップ)ダイオード

PN 接合の空乏層すなわち容量が印加電圧により変化する素子で、バラクタダイオードとも呼ばれる.増幅された音声信号の電圧変化は、可変容量ダイオードの働きにより容量変化に変換される.また可変容量ダイオードは発振回路のコンデンサの一部であるから、容量変化は周波数変化となり、FM 変調波を発生させる.

- 19 -

(出典 情報通信工学科「通信工学実験Ⅱ」テキスト)

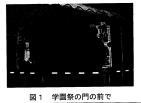
創造性を育む「卒業研究」の例

		高専名: 詫間電波工業高等専門学校
. 1	研究題目	PICを用いた大型表示器の製作
2	指導教員(学科名)	小野安季良(情報通信工学科)
3	学生氏名 (学科名)	
4	講演・論文発表学会	平成 1 6 年度卒業研究発表会

5 研究概要

技術の進歩と共に、電子製品は高機能・高速化され、データの入出力を制御するマイコ ンを学ぶことは学生にとって有益である。また、平成16年度、指導教員である小野は情 報通信工学科3年の担任となり、学園祭の門作りの担当をすることになった。本校の場合、 例年、木工作業により門を作る場合が多かったが、本校が電子・情報系の学科で構成され ていることを考慮して、電子部品による光る掲示板を作ることとした。卒業研究と結び付 けて掲示板を製作し、通常の卒業研究とは別の観点から、卒研生(上級生)による下級生 のテーチィングアシスタントの要素を含みとしてもたせた。

卒研生2名と3年生43名が協力をしながら 作業を進めた。3年生が表示させる文字や配置 を提案し、卒研生が製作可能か確かめながら、 また実際の製作には、卒研生が文字点灯の制御 基盤のパターンを作り、大量生産には3年生の 学生が担当した。約1万個のLEDにより光る 掲示板を完成した。図1は、学園祭で実際に展 示したときの様子である。



6 研究課題設定・学生指導で配慮した点、学生に期待した点

研究課題は、「電子掲示板の製作」であり、研究テーマとしてはそう難しくないと思うが、 単純な繰り返しの作業工程が多く、粘り強さを要求する課題である。3年生と協力して作 業するため、グループのリーダとして、また、ハンダ付けなどの作業では、見本となるこ とを期待した。

7 研究遂行過程で学生が期待に応じて発揮した創造性、チャレンジ性など、セールスポ イント

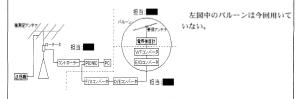
10月末の学園祭に文字点灯ができるようになった。これ以降、学生が自主的に課題を 見つけ問題解決に取り組んだ。1つには、マイコンの空きピンを利用して、文字を点滅さ せたり、流れる文字(文字が横に移動する)の課題に取り組んだ。個々のマイコンの同期 をとる作業が、学生達には難しそうだったが、発表までには完成させた。

		同分句· <u>此间电似工来向分分门于7</u>
1	研究題目	アンテナからの空間的電磁界放射の測定に関する研究
2	指導教員(学科名)	井上忠照 (情報通信工学科)
3	学生氏名(学科名)	
4	講演・論文発表学会	なし
5	研究概要	

本研究の目的は、アンテナからの空間的電磁界放射の様子(指向特性)を容易に測定可 能とする小型の計測システムを開発することである。

測定用の受信アンテナを固定し、被測定アンテナ自体を水平方向に回転させて電界強 度を計測する。同じ作業を測定点の地上高を変えながら繰り返すことで3次元のアンテ ナ指向特性を測定するシステムとしている。

電界強度計部と、測定値を地上まで伝送する伝送部と、アンテナの回転を制御し測定 を自動化する制御部に分割して設計製作した。



6 研究課題設定・学生指導で配慮した点、学生に期待した点

3名の卒業研究配属があり、チームを作っての卒業研究課題を設定した。学生のうち 1名は無線部に所属しアンテナ及び無線機に興味が強い。また1名はプログラミングの 仕事に従事することを希望している。さらに1名は卒業後に放送局勤務が予定されてい る。進路、興味の対象をうまく組み合わせて意欲的に作業を進められるように配慮した。 当初の指導教員の思惑とは別に、3名は適時役割分担を相談して変更し、上手く連携 して作業を行った。期待以上の成果であった。

7 研究遂行過程で学生が期待に応じて発揮した創造性、チャレンジ性など、セールス ポイント

(1) 小型軽量の電界強度計を製作して、(2) 測定値をアナログ伝送して、(3) 地上の装 置で表示する研究課題テーマにたいし、(1)では3種類の測定回路を設計製作評価して 高感度な電界強度計を、(2)では乾電池動作のV/F, E/0, 0/E, F/V回路を用いた直線性の極 めて高いアナログ光伝送系を、(3)では、アンテナ回転角と電界強度の測定結果から指 向特性を表示できる自動計測システムを製作できた。当初には自動計測の計画がなかっ たが、学生が意欲的に追加した。学生の創造性によるところ大であった。

(出典 平成 16, 17 年度 創造性を育む「卒業研究」集)

電子工学科の「創造性を育む教育の工夫について」の取り組み

電子工学科における現状

無からの創造ではなく.

問題発見,問題解決によって創造性を育むことから始めている

学年 (科目)	主目的	創造性を育む工夫
1学年 (基礎工学演習)	工学導入教育	Mindstormを用いた 自由なロボット作製
3学年 (工学実験)	測定方法の習得	創造実験(ロボットコンテスト等)
4学年 (工学実験)	回路設計, 製作 特性測定, 評価	製作回路の誤り発見 回路の改善

1学年(基礎工学演習)

工学導入教育(平成13年度より)として

- 1. パソコン自作(現在は、機材の関係で実施していない)
- 2. マインドストームを使用した自由なロボット作製
- 3. 自作ロボットのプレゼンテーション
- 4. 自作ロボットのホームページ作成





3学年(工学実験)

主目的:測定機器を用いた測定法の習得

実験テーマ例(前期)

- •ホイーストンブリッジを使用した抵抗の測定
- ・交流ブリッジによるL・Cの測定
- ・電池の起電力と内部抵抗の測定
- •交流電力の測定
- マインドストームによる創造実験(ロボットコンテスト) 簡単なテーマ(解決方法が沢山ある) 自由な発想でロボット作製・動作プログラム作成



創造性へ

4学年(工学実験)

回路製作を中心として

3. 特性測定

1. 回路の設計

2. 回路の製作

主目的 動作原理の理解 (講義内容の理解)

4. 回路の評価と改善

動作しなかったら、その誤りを発見しようとする 決められた特性・出力波形となるように回路定数を変更

これらの過程で、

自ら考え.

新しい発見と 自分なりの理解

創造できる素養 が育まれる

(出典 平成18年度運営懇話会報告書28頁)

電子工学科での創造性を育む教育の例

-工学導入教育報告書-

ものづくりを中心とした工学導入教育

(詫間電波工業高等専門学校) ○三崎 幸典 天造 秀樹 尾田 浩

1. はじめに

ロボットコンテスト形式の学生実験が大学や高 専でさかんに行われるようになってきた。1) しか し本校には機械工学科がないため実習工場がなく、 また機械工作の実習もない。このため従来の方法 でロボットコンテストを学生実験に取り入れるこ とは不可能である。我々はこれらの問題を解決す る方法として LEGO Mindstorms Robotics Invention System」(以下 Mindstorm)を使用しロボットコン テストを電子工学科3年生の学生実験に取り入れ てきた。Mindstorm を使用したロボットコンテス トでは部品作製に機械工作を必要としないため自 分のアイディアを短時間に実現しやすいという特 徴がある。これらの利点を1年生の工学導入教育 に取り入れることを考えた。高専入学時の工学に 対する興味は非常に大きくその興味を1年生の時 に十分引き出すことにより5年間の工学教育をス ムーズに行えるのではないかと考えている。

2. 工学導入教育の重要性

本校の電子工学科1年生は平成12年度まで基礎電気工学、情報処理の2科目4時間しか専門教育を行っていなかった。基礎電気工学は実験・実習を伴わない座学でありまた情報処理もソフトウェアの使用を目的とした授業である。しかし1年生の入学時は工学に対する興味が非常に大きい時期であり効果的な工学導入教育を行うことが重要であると考える。我々は興味を引く材料としてMindstorm によるロボット作製により工学に対する興味を十分引きだし創造性を効果的に教育できると考える。このような効果的な工学導入教育により高学年での学生実験や卒業研究などで大きな発展が期待される。

3. スケジュールと教育内容

平成 13 年から行っている工学導入教育は1年 生の授業時間2時間(100分)を使用し1年間実 施している。過去2年間の反省点から内容やスケジュールを改良してきた。現在行っている工学導入教育の内容を前期・後期に分け簡単に述べる。

○ 前期

(1) パソコン自作

Mindstorm によるロボット作製にはプログラムを開発する必要がある。このために必要なパソコンを自作させる。図1に自作しているところを示す。2名で1台のパソコンを自作するがハードディスクは本体内蔵のリムーパブルハードディスクとして1名に1台準備している。本体は必要最低限のパーツで構成されており自作しやすり間はやめ簡単となが当ないるの学生が正確に組むの学生が正確に組むの学生が正確に組むの学生がよりコンを使用できても、内部はよくわかコンを使用できても、内部はよくわかコンをものに使いこなせるようになってきた。



図1 パソコン自作実験

(2) Mindstorm を使用した自由なロボット作製

Mindstorm を使用し自由にロボットを作製する。サンプルロボットを全員で説明書に従って作製すると自由なアイディアが出にくくなる。自由なアイディアでロボットを作製すれば自分だけのアイディアを盛り込みやすいと考えている。学生はハードウェアを重視したり、ソフトウェアを重視したり、また外見を重視したり、と自由な発想でロボットを作

107

(出典 平成15年度高専教育講演論文集(2003))

「工学実験」テキスト例ー

ディジタル回路田

1. 目的

実験課題3

を組み立て、実験を通してその動作原理、特性を理解する。 なお、ディジタル回路 11 で 集積化された NAND 回路を用いて、パルス幅決定 (用単安定) 回路、パルス増幅器 組み立てた前段回路と合わせてパルス発生回路を作ることを目的とする。

パルス幅決定(用単安定)回路の動作

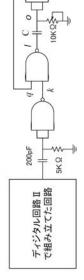


図1 パルス幅決定回路

図1の単安定回路において、可変抵抗の抵 回路は、入力 & が L (負のトリガに相当) と 易に変化させることができる。前段の微分回 し、NAND回路により反転している。単安定 **抗値 R を変化させることによりパルス幅を容** 路によりパルス幅の非常に狭いパルスを作成 なると時定数 CR に比例した時間

CR In (VH/Vs)

だけLとなるパルスを出力する。(次段のパル ス増幅器で反転するため,Lの幅がパルス幅と ディジタル回路Ⅱの同期信号で同期させて、 各点 k. l. o. qの各液形を観測して相互の関係 を求めると図2のようになる。

途中省略

パルス周波数[KHz]

0 0.1

波数を横にとったパルス幅特性の実測値の一例

を示す。ここで、C=0.2[μF]、R=1[KΩ]とし

いる)。図3はパルス幅 Twを縦軸に、パルス周

パルス周波数は発振器の周波数の半分となって

0000

パルス幅 [sm]

0.1

くと、バルス幅 Tw が減少する。更に、周波数 器 (デジタル回路 II) の周波数を増加させてい

を増加させると元のパルス幅に戻る(この時、

0.2

前述のように、バルス幅 Tw は容量 C、可変

パルス幅決定回路のパルス幅・周波数特性

抵抗の抵抗値 R により決定され、C, R が一定で あればパルス幅は一定値となるが、入力の発振 図3 パルス幅・周波数特性

 図1の回路において C=0.2[µF]、R=約1[KQ]とし、各点 k, l, a q の波形を観測す る。但し、発振器の周波数は 1[KHz]とし、可変抵抗の抵抗値はディジタルマルチメ ータで測定しておくこと。

3. 測定および処理

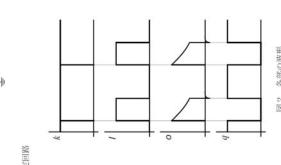
(2) 発振器の周波数を変化させて、図3のパルス幅・周波数特性を測定する。更に、パ ルス幅が理論値より小さくなっている場合の各部の液形を観測し、(1)と比較する。

途中省略

- (1) パルス周期 (パルス周波数の逆数) がパルス幅に比べ十分に大きければ、単安定回 路のパルス幅 Tw は Tw + CR ln (VH/Vs)で与えられる。この式を導出せよ。
- (2) パルス周期がパルス幅に近ろくアパルス幅が倒くなる。 (3) スピードアップコンデンサの働きについて説明セよ。

この現象を説明せよ

(4) パルス発生時 (立上り) の現象観測ではなく、パルス終了時 (立下り) の現象観測 には、パルス発生器の構成をどうすれよいか、同期信号との関係を考えながら述べよ。



各部の波形 [N

(出典 電子工学科「工学実験」テキスト)

電子制御工学科の「創造性を育む教育の工夫について」の取り組み

観点5-2-3 その1

インターンシップの活用

- ・インターンシップ(校外実習)については、参加学生にプレゼンテーションによる報告を養務付けている。
- ・プレゼンテーションによる報告の評価と、実 習企業からの評価を総合し、成績の評価 (合格又は不合格)を行っている。
- ・インターンシップ(校外実習)に参加できなかった学生にも体験談を共有できるように配慮している。

観点5-2-3 その2

創造性を育む教育方法の工夫

- ・平成17年度第4学年の工学実験「古典的制御理論に基づく制御系設計演習」において、PBL(Problem Based Learning)を試行した。
- ・マイヤーズ・ブリッグス・タイプ指標をもとに、 できるだけ多くのタイプで構成されるように、 4つのチームに分けた。
- ・それぞれのチームに異なる課題を与えて実験を行い、実験ノートを記述させた。

観点5-2-3 その3

教育課程から見た創造性を育む教育

- ・学習・教育目標E:与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる。
- •「知識の量」よりも、「知識の質」を重視する。
- ・問題解決に取り組む体験や訓練ができるような、小テスト、レポート、試験問題などを与えている。

創造性を育む科目と目標

学年	授業科目	学習到速目標
	ロボット工学I	 ロボットに対してリンク座標系を設定し、リンクバラメータを求めることができる。 D2:5,E2:3
	ロボットエ学Ⅱ	 出力方程式を求める順運動学問題を解くことができる。D2:5,E2:3 状態方程式のもととなる運動方程式を、ラグランジュ法により求めることができる。
5		OZ-5.E2-3 2. 状態方程式のもととなる運動方程式を ニュートン・オイラー法により求めることができる。OZ-5.E2-3
		 ロボットが所要の動作をするために必要な制御系に与える目標時間軌道を求め 方法を理解する。D25.E23

- ・講義14単位, 工学実験4単位, 卒業研究12 単位(合計30単位)が, 学習到達目標に学 習・教育目標Eを挙げている。
- ・30単位は、全専門科目106単位の28.3% を占めている。

(出典 平成 18 年度運営懇話会報告書 30 頁)

電子制御工学科での創造性を育む教育の例

-PBLの導入報告-

工学実験へのPBLの導入 (電子制御工学科)

1. 目的

- ・創造力にあふれた実践的電子制御技術者を育成する。
- ・新しい技術に対応できる柔軟性を有する実践的電子制御技術者を育成する。
- ・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力を有する技術者を育成する。
- ・自ら学習する姿勢を涵養する。

2. 平成17年度目標

・工学実験の1つのテーマについて PBL (Problem Based Learning) に基づく運営を行う。

3. 手段

・第4学年の工学実験でテーマ「古典的制御理論に基づく制御系設計演習」について、PBL (Problem Based Learning) に基づく運営を実施した。実験に先立ち、マイヤーズ・ブリッグス・タイプ指標をもとに、4つのチームに分け、それぞれのチームに異なる課題を与えて実験を行い、実験中に気付いたことや、チーム内で話し合ったことなどを実験ノートに記述させた。

4. 評価方法

・実験ノートをチェックする。(創造性、柔軟性、コミュニケーション能力) 「よく書いている」、「書いている」、「あまり書いていない」に分類すると、それぞれ約1/3であった。

第4学年の工学実験(前期:2テーマ,後期:課題研究)を通じて、1冊の実験 ノートを与えたため、それぞれのテーマの実験終了時にノートのチェックが十分 行えなかったことから、創造性、柔軟性や、コミュニケーション能力について、 評価できなかった。

5. 成果

・計画的・継続的に工学実験に取り組むことができる。 実験レポートから判断して、実験ノートを「よく書いている」者については計画 的・継続的に工学実験に取り組むことができていた。

6. これからの取り組み

- ・枚数の少ないノートを選び、テーマ毎に実験ノートを記入させ、実験レポートと ともに提出させる。
- ・実験ノートをチェックする適切なタイミングを図り、記入について指導する。

-48-

(出典 平成17年度年報)

- 「工学実験」テキスト例-直列補償法による制御系設計

1. 目的

周波数応答を用いた古典的制御系設計手法である直列補償法を理解することを目的とする。

2. 実験方法

制御系設計のために必要な周波数応答およびシミュレーション等には、市販のソフトウェア「MATLAB」を用いる。

直列補償法については、第3学年で使用した制御工学Iの教科書を参考にすること。特に、位相進み、遅れ補償では着目する周波数帯に注意を払うこと。

実験は4つのグループに分けて、 $PBL(Problem\ Based\ Learning)$ の手法を用いて行う。それぞれのグループの制御対象の伝達関数 G(s)と設計仕様は次の通りである。

グループ A

 $G(s) = 42.6(s + 2.88) / \{ (s^2 + 6.450s + 10.10)(s + 20) \}$

行き過ぎ量 : 25% 立ち上がり時間: 0.04sec 以内

定常偏差 : 位相進み補償後の定常偏差の 1/3 以内

グループB

 $G(s) = 62.5(s+3.796)/\{(s^2+4.450s+10.10)(s+50)\}$

行き過ぎ量 : 25%

立ち上がり時間: 0.004sec 以内

定常偏差 : 位相進み補償後の定常偏差の 1/3 以内

グループC

 $G(s) = 34.5(s + 2.88) / \{(s^2 + 3.850s + 10.10)(s + 20)\}$

行き過ぎ量 : 25%

立ち上がり時間: 0.04sec 以内

定常偏差 : 位相進み補償後の定常偏差の 1/3 以内

グループD

 $G(s) = 15.8(s + 4.074) / \{(s^2 + 6.450s + 10.10)(s + 50)\}$

行き過ぎ量 : 25%

立ち上がり時間: 0.006sec 以内

定常偏差 : 位相進み補償時の定常偏差の 1/3 以内

1

(出典 電子制御工学科「工学実験」テキスト)

情報工学科の「創造性を育む教育の工夫について」の取り組み

創造性を育むに有効な授業

- 1. プログラミング演習、工学実験
 - *問題解決能力の育成に有効
 - * PBL工学実験

ハードウェア実験 - 現在PBL工学実験を計画中 ソフトウェア実験 - 5年生で、グループで、ソフト を分担開発するテーマを試行中

- 2. 卒業研究、準卒業研究
 - * 発想力と問題解決能力の総合的能力育成に有効 学科創設以来、5年生の卒業研究に加え、4年の情報 工学セミナ(週6時間)を「準卒業研究」に充てている。

プログラミング演習 情報システム I (3年)の試み

- 1. VB(Visual Basic)プログラミング演習
 - *前期: VBプログラミングの一般的知識、課題実習の後、オリジナルのアプリケーションを1つ作成させる。
 - *後期: VBプログラミングのやや高度な知識(ファイル処理等)、課題実習の後、実用的なオリジナルのアプリケーションを1つ作成させる。
- 2. ドキュメント作成とプレゼンテーション
- *上記2つのアプリケーションの仕様書を作成させる。
- *後期はパワーポイント作成しプレゼンテーションを行う。

実用オリジナルソフトの例

仕様書例

実行例



項目としては、タイトル、動作説明

使用Control, Procedureを記載させる

成績レーダチャート

今後の課題

- 1. 今後、情報工学科では、他の関連授業でも、創造性を育む工夫を行いたい。
- 2. 工学実験でのPBL導入を早期に実施。
- 3. 教員と学生のコミュニケーション(特に卒業研究、準卒業研究)を重視。
- 4. プログラミングコンテストなどの取り組み は、毎年参加する方向で臨む。

(出典 平成18年度運営懇話会報告書35頁)

情報工学科での創造性を育む教育の例

「情報システム I 」シラバスー

科目名	情報システムI		担当教員	鰆目正志					
学年	情報3年 学期 通年			履修条件	必修	単位数	2		
分野	専門	授業形式	演習	科目番号	07I03_31140				
	イベントドリブン	型アプリケ	ーション開発	言語である	VisualBasic による	₅ プログラ	ラミングを学習		
学習目標	し、実際にさまざま	なアプリー	ケーションを	開発できる技	能を育成する。こ	プログラミ	ング技法とし		
	ては、プログラム制	御構造,	グラフィックタ	処理などの基	本概念を理解する	ることを目	標とする。ま		
	た、ソフトウェアコ	ンポーネ	ントの利用とこ	プログラミン	グを理解すること	が中心調	関となる。		
	基本的な例題を数	多く演習す	ることで Vis	ualBasic によ	るプログラミンク	ブ技法を習	7得する。年間		
進め方	を通して自作演習テ	キストに	従い、練習問題	題と課題プロ	グラミングをでき	さるだけ自	分の力で作成		
	する。前期、後期に1つずつのオリジナルアプリケーションを作成することにより、プログ 開発の基本を習得する。特に後期のオリジナルアプリケーション作成では、自分の作品をフ								
	ンテーションソフト	を使って	発表する。						
履修要件	特になし								
	学習項	目(時間	数)		学習到证	主目標			
	1. VisualBasic プロク	ブラミング	の基礎(2)	VisualBas	sic で Windows ア	プリケー	-ションの作成		
	2. 簡単な計算プロ	グラム(2)		方法を理	2解する		D2:1		
	3. 分岐処理プログ	ラム(4)		1	/ トロールのプロ	•			
	4. 繰り返し処理プ	ログラム(2	ントコー	ントコードがプログラミングできる					
	5. 配列の利用(4)						D2:1-2, E2:1		
	6. オプションボタ	ンとチェッ	・クボックス(2	2)					
	7. タイマーの利用	と再帰処理	! (2)	グラフィ	・ックを扱うアプ	゜リケーシ	ョンが作成で		
	8. グラフィックス(の基礎と応	用(4)	きる			D2:1-2, E2:2		
	9. 自由課題プログ								
	10. 自由課題プログ	ラミングの	相互採点(2)	練習問題	j のプログラムを	自分なり	に改良できる		
学習内容	11. 前期末試験(2)						2:1-2, E1:1-2		
	12. 試験問題の解答			ファイル	·入出力のプログ				
	13. ファイル処理(4)						2:1-2, E2:1-2		
	14. データベースの1				アルプロシージャ				
	15. ジェネラルプロ:		1)	成できる			2:1-2, E2:1-2		
	16. 実用プログラム(,	標準コン	トロールのプロ	パティを			
	17. 標準コントロー						D2:1-3		
	18. カスタムコント				Windows アプリ				
	19. オリジナルアプ			る 		_	2:1-4, E1:1-2		
	20. オリジナルアプ	リケーショ	ンのプレセン		F成したアプリク	ーション			
	テーション(2)			を使用し	/て発表できる		C4:3-5		
== /== >	21. 学年末試験(2)		18/4-15 10.07		-0/ 122 - 123				
評価方法	練習課題、問題プロ		グ作成 40%	, 正期試験 3	5%, オリシナル	アプリケ	ーション		
BB 1 5 7 7	25%の比率で総合	評価する。							
関連科目	情報処理Ⅱ	Ma the Co	T. 1.D.:	N . 1	명 쏘 성급 . 다 사는 국	=^ +1			
教材 	教科書:川口輝久		Visual Basic ⊒	ントロール・	関数編」 技術評	論社			
/ ++ +/	演習書:自作演習:	アキスト							
	特になし								

資料 5-2-3-13

準卒業研究(1/2)

1. 準卒業研究とは -学習目標-

指導教員の指導の下で、学生それぞれが特定のデーマについての知識や技術の習得および研究を行う。学生は情報工学に関連のある領域に関する調査や学習を行い、問題点を分析し、研究デーマの設定を行う。さらに、問題解決のための手法を考案し、手法の有効性の検証や手法を実現したシステムの開発を行う。また、1年間の研究成果を報告書としてまとめ、さらに口頭発表も行う。これらのプロセスを通して、情報工学の先端的知識や技術を習得するとともに、実務や新しい問題に創造的に立ち向かう方法や能力の養成を目的とする。

2. 準卒業研究の進め方

これまでの座学や実験で学習した知識を基盤として,自らの研究デーマを深く理解・追求し、指導教員の指導の下で独創的な研究・開発を行う。年度末には、各自の研究成果を情報工学科の全教員とクラスの学生の前で口頭発表するとともに、研究成果を報告書としてまとめる。また、指導教員との定期的なミーティングを通じて研究を深めるとともに、日々の研究状況を記録し、研究の進捗状況管理や各自の知識やアイデアの整理、指導教員とのコミュニケーション等に利用する。

3. 年間スケジュール

4月5日	準卒業研究ガイダンス
11月初旬頃	準卒業研究中間発表
2月初旬	準卒業研究発表

4. 出欠

出欠の確認は基本的に電子メールにて行う。研究室ごとに出欠メールの担当者を決めておくこと。

4.1 出欠メールの送信方法

出欠メールは,準卒研開始後 10 分以内に送信すること。 メール送信担当者は以下のフォーマットに従い,松下にメールを送ること。

> To: takuma-ct.ac.jp Subject: 準卒出欠メール 研究室名

本文は以下の内容とする。

出席番号 氏名 出欠

 15
 詫間太郎
 ○
 ··· 出席

 22
 三豊次郎
 ○
 ··· 出席

28 香田三郎 △ … 10 分以内の遅刻

42 紫雲四郎 × ··· 欠席

資料 5-2-3-13

準卒業研究(2/2)

情報工学セミナー(準卒業研究)報告会

日時 平成19年 2月16日(金) 入室13:25 開始13:30 場所 専攻科棟1階 共同利用実験室 演習室

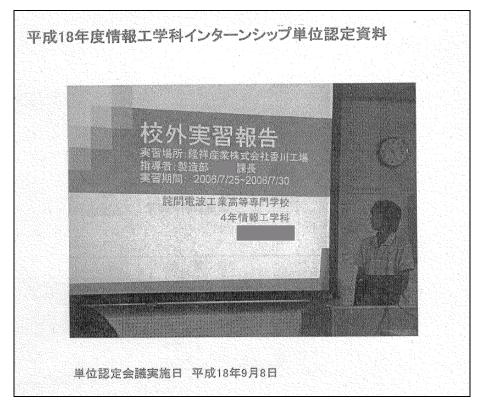
第一会	開始	出席		7	國井、野中、河田進、鰆目、宮武、川染	
No.	時刻	番号	氏名	研究室	タイトル	座長
1	13:30		-	河田純	OpenGLによるヨットシミュレーションソフトの作成	
2	13:37			高城	3D帽子描画ソフトの作成	
3	13:44		1.00	今城	3次元才セロの開発	
4	13:51	- 100		河田純	DirectXを使用した主観視点地図ソフトの作成	國井
5	13:58	100		金澤	DirectXによるシェーダの研究	
6	14:05	- 100		松下	掲示板式アプリケーション	
7	14:12	100	S 201	高城	3DCG表現による昆虫図鑑の作成	
休憩	14:19				7分間	
8		100	100	高城	空間認識力向上のための3D迷路の作成	
9	14:33		100	金澤	ラジコン遠隔操作における操作性の改善	
10	14:40	-100		松下	英単語の語源学習ソフト	
11	14:47		9-96	松下	仮想空間上でのマンションの再現	
12	14:54		N 100	金澤	3DCGアニメーションの研究	
13	15:01	100		今城	部屋の模様替え支援プログラムの開発	
14	15:08	- 100		金澤	学生会会計処理支援システムの開発	
休憩	15:15			32.74	7分間	
15	15:22	-	_	今城	硬筆練習ソフトの開発	
16	15:29				企業における商談見積り管理システムの開発	
17	15:36	- 100	TO SEC.	高城	GAの解探索方法の改良について	
18	15:43	-00	0.00		オフィスアワー予約システムの開発	河田道
19	15:50	-	- 100	松下	Java3Dによるボクシングのアニメーション	————
	10.00	_		今城	五目並べの思考アルゴリズム	
	15-57					
20	15:57 16:04	-00				
	15:57 16:04			國井	指紋認識プログラムの作成	
20	16:04	-		國井	指紋認識プログラムの作成	
20 21 第二会	16:04	雪 <u>室</u> 出席		國井 担当	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水	, m. F.
20 21 第二会 No.	16:04 場 演 音 開始 時刻	-		國井 担当 研究室	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル	座長
20 21 第二会 No.	16:04 場 演 開始 時刻 13:30	雪 <u>室</u> 出席		國井 担当 研究室 野中	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム	座長
20 21 第二会 No.	16:04 读場 演 開始 時刻 13:30 13:37	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 担当 研究室 野中 鰆目	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア	座長
20 21 第二会 No. 1 2 3	16:04 读場 演習 開始 時刻 13:30 13:37 13:44	雪 <u>室</u> 出席		國井 担当 研究室 野中 籍目 河田進	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト	
20 21 第二会 No. 1 2 3 4	16:04 读場 演習 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 担当 研究室 野中	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化	座長
20 21 第二金 No. 1 2 3 4 5	16:04 读場 演 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 坦当 研究室 野中 野田進 國井 野中	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化	
20 21 第二会 No. 1 2 3 4 5	16:04 读場 演覧 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 担当 研究室 野中	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化	
20 21 第二金 No. 1 2 3 4 5 6	16:04 读場 演 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 坦当 研究室 野中 野田進 國井 野中	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プグラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム	
20 21 第二会 No. 1 2 3 4 5	16:04 读場 演覧 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 担当 研究室 野蜂河國井 田 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・ 野・	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成	
20 21 第二金 No. 1 2 3 4 5 6	16:04 場 演 明 明 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:12	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 坦当 研中 野目 田田 理力 野川 宮 野川 宮 田 北 野川 宮 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 に は に に に に に に に に に に に に に	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プグラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム	
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7	16:04 读場演覧 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:12 14:19	雪 <u>室</u> 出席	氏名	國井 坦当 研中 野目 田田 理力 野川 宮 野川 宮 田 北 野川 宮 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 北 田 に は に に に に に に に に に に に に に	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム 7分間	
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8	16:04 陳期 明刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:12 14:19	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型 型	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム 7分間 メール配信による英語学習	
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8	16:04 開始 時刻 13:30 13:37 13:45 13:58 14:05 14:12 14:19 14:26 14:33	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型井 出 第二章 型 章 型 第二章 章 型 第二章 章 章 章 章 章 章 章 章 章	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 ORコードを使ったカルタシステム フケカ間 メール配信による英語学習 Webによる卒業研究資料提出・閲覧プログラム	
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8	H 16:04 明始 H 13:30 H 13:37 H 13:44 H 13:51 H 13:58 H 10:5 H 11:2 H 12:2 H 14:19 H 14:26 H 14:33 H 14:40	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型井 当究 野籍河國野川宮 河宮宮 河宮宮	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 のpenGLによる30塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム フ分間 メール配信による英語学習 Weblこよる卒業研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築	今城
20 21 第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8 9	H	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 担 研 野野 河 國野川宮 河 宮 宮 川 國 野 選 河 宮 宮 川 國 野 川 宮 河 宮 宮 川 國 井	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム ア分間 メール配信による英語学習 Webによる卒業研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成	今城
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8 9 10	16:04 開始 開始 所刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:55 14:12 14:19 14:26 14:33 14:40 14:44 14:54 15:01	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 担 研 野野 河 國野川宮 河 宮宮川國野川宮 河 宮宮川國井中染武 田武武染井	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム ア分間 メール配信による英語学習 Webによる卒業研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作 子供向け学習支援・アプリ	今城
第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 8 9 10 11 12 13 14	16:04 開始 明期 13:30 13:37 13:51 13:51 14:05 14:12 14:19 14:26 14:33 14:40 14:47 14:54 15:01 15:08	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 担 研 野野河國野川宮 河宮宮川國河河宮町川東田武武柴井田	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム 7分間 メール配信による英語学習 Webによる卒棄研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作	今城
第二金 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 10 11 11 12 13 14 休憩	16:04 開始 明期 13:30 13:37 13:51 13:51 14:05 14:12 14:19 14:26 14:33 14:40 14:47 14:54 15:01 15:01 15:01	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 地 第二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 のpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム フ分間 メール配信による英語学習 Webによる卒業研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作 子供向け学習支援iアリ 波形再生プログラムの作成 7分間	今城
第二金 No. 11 22 33 4 5 6 6 7 休憩 11 11 12 13 13 4 休	16:04 開始 時刻 13:30 13:37 13:51 13:58 14:02 14:19 14:26 14:33 14:47 14:54 15:01 15:08 15:08 15:02	雪 <u>室</u> 出席	氏名	型 担 研 野	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 のpenGLによる気)塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム 7分間 メール配信による英語学習 Weblこよる卒業研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作 子供向け学習支援・アプリ 波形再生プログラムの作成 7分間 感情を発話に影響させるプログラム	今城
第二金 No. 1 2 3 3 4 5 6 7 休憩 9 9 10 11 12 13 14 休憩 (休憩 (休憩 (1 13 14 1 15 15 16 16 17 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	16:04 開始 用约 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:19 14:26 14:33 14:40 14:40 14:41 15:01 15:08 15:08 15:15 15:22 15:29	出席	氏名	型 担 研 野野 河 國野川宮 河 宮 宮 川 國 河 國 野 野	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム 7分間 メール配信による英語学習 Weblによる卒棄研究資料提出・閲覧プログラム QRコードを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作 子供向け学習支援・アプリ 波形再生プログラムの作成 7分間 感情を発話に影響させるプログラム 家具配置方法による地震対策ソフトの作成	今城
第二会 第二会 No. 1 23 3 4 55 66 7 休憩 9 10 11 12 13 14 休憩 15 16 17	用始 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:12 14:19 14:26 14:33 14:40 14:47 14:501 15:08 15:15 15:22 15:29 15:36	空 出席	氏名	型	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデルルプログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム	今城
第二全 第二全 No. 1 2 3 4 5 6 7 7 休憩 8 9 10 11 11 12 13 14 休憩 15 16 16 17 17 18	16:04 環境 開始 所刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:02 14:19 14:26 14:33 14:47 14:54 15:01 15:01 15:02 15:22 15:29 15:36 15:43	空 出席	氏名	世紀 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデル化プグラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 ORコードを使ったカルタシステム フ分間 メール配信による英語学習 Webによる卒業研究資料提出・閲覧プログラム ORコードを用いたカードリーダの作成 電子メールを利用した電子掲示板システムの構築 位置認識機能を備えた自走車の製作 子供向け学習支援:アブリ 波形再生プログラムの作成 ア分間 感情を発話に影響させるプログラム 家具配置方法による地震対策ソフトの作成 ORコードを利用したリモート操作システム 成績管理機能付き小テスト自動採点システム	今城
第二会 第二会 No. 1 2 3 4 5 6 7 休憩 9 10 11 12 13 14 休憩 15 16 17	用始 開始 時刻 13:30 13:37 13:44 13:51 13:58 14:05 14:12 14:19 14:26 14:33 14:40 14:47 14:501 15:08 15:15 15:22 15:29 15:36	空 出席	氏名	世紀 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明	指紋認識プログラムの作成 松下、今城、河田純、金澤、高城、垂水 タイトル 人のエピソード記憶想起モデルルプログラム 初心者のためのプログラミング体験ソフトウェア 音楽言語Solresolの学習ソフト USBそろばんの製品化 心の簡易モデル化 OpenGLによる3D塗り絵ソフトの作成 QRコードを使ったカルタシステム	今城

発表時間:発表5分、質疑応答2分 アラーム:発表開始から4分後、5分後、7分後

(出典 情報工学科作成「準卒業研究の手引き」, 準卒業研究発表会プログラム)

資料 5-2-3-14

校外実習報告書(発表風景)



(出典 平成18年度校外実習報告書)

(分析結果とその根拠理由)

高専での工学実験は、講義で学んだ知識を検証して理解を明確にするという特質がある。これまで 工学実験で計画的に与えてきた知識の検証経験を、現在では学生の創造的な活動に結びつけるための 努力がなされ、PBLなどの取り組みが試行的に行われている。

学科によっては、創造性の中心の能力は物事を体系的に考えまとめ上げる構想力(想像力)であると考え、構想力を培うために工学的色彩の強い実験教育に力を注いできている。この実験では、設計・製作し、特性測定を行う過程で問題を発見し問題を解決する際に、知識と事象を基に体系的に考えさせる工夫を行っている。

インターンシップは単に実習先での活動のみで単位に認定はせず、報告会を開催してプレゼンテーションを行わせた上で評価し単位認定している。

以上の点から, 観点を満足していると判断する。

観点5-3-①: 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に 周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認 定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本観点に関係する規定が資料 $5-3-\mathbb{Q}-1\sim7$ のとおりに策定されており、毎年度配布する学生便覧によって学生に周知されている。

教務関係規程の認知状況をアンケート調査した結果を示す(資料5-3-①-8)。

調査結果を分析すると、学年進行とともに各種教務関係規定の認知度は向上し、5年生では十分に周知理解されている状況とわかる。

成績評価の適切な実施のために、成績評価方法をシラバスに示し、試験答案等を電子ファイル化して組織的に保存している。学生による採点答案の確認と意見申し立ての機会を与えており、定期試験毎に成績一覧を学生本人と保護者に通知する(資料5-3-①-9)ことで、科目成績の透明性と厳格性を高め、成績評価を適切に実施する仕組みとしている。

科目の単位認定は、担当教員からの 100 点法による成績評価に基づき「優、良、可、合格」の評語で単位認定している。但し、単位追認試験(資料 5-3-10-10)に合格の場合は、「追認・可」の評価で単位を認定している。また、校外実習等の単位認定については、規程により教務委員会の議を経て単位を認定している(資料 5-3-10-11)。

進級や卒業の認定においては、科目担当教員の科目成績評価から認定される科目の単位、教務委員会の議を経て認定された単位を総合して、学生課教務係で審査資料が作成される。審査にあっては、教務委員会での予備審査を経て進級審査会で再度審査した後に、規程に基づく進級・卒業・原級留置の判定を行っている(資料 5-3-(1)-12)。

なお、「学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程」(資料 5-3-(-2) 第 8 条 2 項の適用は実質的に行なわれていない。

資料 5-3-①-1

教務関係規程

(1)	学業成績の評価並びに進級及び卒業 に関する規程	資料 5 - 3 - ① - 2
(2)	単位追認試験実施細則	資料5-3-①-3
(3)	大学等における学修に関する規程	資料5-3-①-4
(4)	課題研究による単位修得の認定について	資料5-3-①-5
(5)	校外実習の履修に関する規則	資料5-3-①-6
(6)	校外実習実施要領	資料5-3-(1)-7

- * 追試験の扱いについては、「学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程」第3条のとおり。
- * 再試験の定めはない。
- * 単位追認試験は、不可となった科目について科目単位の追認を行う試験制度である。
- * 一般単位追認試験は例年9月に実施されている。

学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程(1/3)

教 務 関 係

(1) 詫間電波工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程

(趣 旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校学則第14条に規定する各学年の課程の修了及び卒業の認定については、この規程の定めるところによる。

(試 験)

第2条 定期試験は、年2回とし、各学期末に行うものとする。

- 2 担当教員が必要と認めた科目については、中間試験を行うものとする。
- 3 試験以外の方法で成績の評価ができる科目については、担当教員の判断により第1項に定める試験の全部、又は一部を行わないこともある。

(追試験)

- 第3条 次の各号に掲げる事由により、定期試験を受けることができなかった者については、 事由を証明する書類を添えて願い出た場合、追試験を行うものとする。なお、故意に願い出を 怠り、追試験を受けなかった者については、試験を忌避した者とみなすものとする。
 - (1) 病気(医師の診断書を要する。)
- (2) 忌引(学生準則第15条による。)
- (3) その他やむを得ないと認められる事由

(成績の評価)

- 第4条 試験等による各科目の成績の評価は100点法による。ただし、追試験の成績については、 担当教員の判断により、80点満点で評価することもできるものとする。
- 2 学業成績は、学期成績と学年成績に分け、学期成績については、定期試験、中間試験その他を総合したものを100点法で、また学年成績については、各学期成績その他を総合したものを、100点法並びに第5条に定める評語で評価するものとする。
- 3 卒業研究の成績は、「合格」又は「不合格」の評語で評価するものとする。
- 4 校外実習の成績は、「合格」又は「不合格」の評語で評価するものとする。

(成績の評語)

第5条 学業成績の評語は、優・良・可・不可とし、次の区分により、指導要録に記載するものとする。

評 語	点 数
優	80点以上100点まで
良	60点以上79点まで
可	50点以上59点まで
不可	49点以下

2 各履修科目のうち、出席時数が年間授業時数の3分の2に満たない科目については、「未履修」の評語で、また、すでに「不可」の評語で指導要録に記載されている科目のうち、単位追認試験により、単位の修得が認められた科目については、「追認・可」の評語で、それぞれ指

学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程(2/3)

導要録に記載するものとする。

(試験忌避等)

第6条 故意に試験を忌避したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験成績は、0点とするものとする。

(不正行為)

第7条 試験中に不正行為をした者は、それ以降の受験を停止させ、当該試験中の全科目の試験 成績は、0点とするものとする。

(課程の修了・進級・卒業の認定)

- **第8条** 校長は、次の各号に掲げる条件を満たした者について、各学年の課程を修了したものとして、進級又は卒業を認めるものとする。
 - (1) 学則別表に定める各学科の教育課程において、各学年の必修科目の出席時数が年間授業時数の3分の2以上であること。
 - (2) 第1学年から第3学年までについては、特別活動の履修が良好で、工学実験を修得し(ただし、学則別表に定める教育課程において、当該学年に工学実験が配当されていない学科においては、これを除く。)かつ、第1学年からの累計修得単位数が、下表に示す単位数以上であること。
 - (3) 第4学年については、工学実験を修得し、かつ、第1学年からの累計修得単位数が、下表に示す単位数以上であること。
 - (4) 第5学年については、工学実験及び卒業研究を修得し、かつ、第1学年からの累計修得単位数が、167(そのうち一般科目75以上、専門科目82以上)以上であること。

前号に掲げる条件を満たさない者であっても次の条件に該当する者は卒業を認めることができる。

- ア 単位追認試験実施細則第 5 条第 1 項第一号に定める特別単位追認試験を受験し、その結果、卒業認定に必要な条件を満たす者
- イ 単位追認試験実施細則第5条第1項第二号に定める特別単位追認試験を受験し、その結果、卒業認定に必要な条件を満たす者
- (5) 第2号から第4号の累計単位数については、学則第13条の2及び第13条の3の規定により修得を認められた単位数を、認定をうけた年度に加算して計算するものとする。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年
累計修得単位数	24	55	87	123	167

- 2 前項各号に掲げる条件を満たさない者であっても、教員会議の議を経て、校長が特に認める場合には、課程の修了又は進級・卒業を認めることができる。
- 3 退学の申し出があった場合,第1項各号に掲げる条件を満たさない者であっても、次の各号 に掲げる条件を満たした者については、課程の修了を認める。但し、原級者については、前年 度の成績によることもできる。
- (1) 第1学年については、20単位以上を修得している者
- (2) 第2学年については、累計50単位以上を修得している者
- (3) 第3学年については、累計80単位以上を修得している者
- (4) 第4学年については、累計115単位以上を修得している者

資料 5 - 3 - ① - 2

学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程(3/3)

(原級・再履修)

- 第9条 課程の修了を認められなかった者は、原学年に留めるものとし、当該学年の全授業科目 を再履修するものとする。ただし、第4・5学年については、選択科目のうち修得を認定され た科目の履修を免除し、単位を認定することができるものとする。
- 2 前項, ただし書の規定は, 当該学生が免除された科目の再履修を妨げるものではない。なお, 免除された科目を再履修した者の当該科目の学年成績については, 前年度の成績と再履修の場合の成績を比較して, より上位の成績を以って評価することができるものとする。

(単位追認試験)

- 第10条 学年成績の評価において、「不可」と認定された科目については、単位追認試験を行う ものとする。
- 2 前項に定める単位追認試験により、単位の修得を認められた科目の成績の評価は、「可」とするものとする。
- 3 単位追認試験の実施に関し、必要な事項は、別に定める。

(編入及び転科学生の修得単位数)

第11条 編入及び転科を許可された者については、本校当該学科の前学年までの課程を修了した 者と同等と認定し、以後の修得単位数の計算に関しては、第8条の規定を準用するものとす る。

附 則

この規定は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規定は、平成17年4月1日から施行する。

-63-

単位追認試験実施細則(1/2)

(2) 詫間電波工業高等専門学校単位追認試験 実施細則

(趣 旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程(以下「規程」という。)第10条に規定する単位追認試験の実施については、この細則に定めるところによる。

(目 的)

第2条 この細則は、単位追認試験制度の有効かつ円滑な運用に必要な事項を定めることを目的 とする。

(試験の区分)

第3条 単位追認試験は、次の区分により実施する。

- (1) 一般単位追認試験
- (2) 特別単位追認試験

(一般単位追認試験)

- 第4条 一般単位追認試験とは、前学年において「不可」と認定された科目について行う試験をいう。
- 2 この試験は、規程第10条第1項に基づくもので、4月に教務より当該者であることを指示された者は、所定の手続きを行わなければならない。
- 3 この試験は、年1回実施するものとする。

(特別単位追認試験)

- 第5条 特別単位追認試験とは、次の各号に掲げる試験をいう。
 - (1) 規程第8条第1項第四号に定める修得単位数167以上規定に抵触しているにもかかわらず、工学実験・卒業研究を修得し、かつ、162単位以上を修得している者を対象として、第5学年において履修した授業科目のうち「不可」と認定された科目について、5単位以内に限り行う試験。
 - (2) 卒業認定に必要な他の条件をすべて満たしているにもかかわらず,規程第8条第1項第四号の()内規定に抵触しているために卒業を認定されない者を対象として,第5学年又は過年度に「不可」と認定された一般科目又は専門科目について行う試験。
 - (3) 卒業を認定された第5学年生を対象として、国家試験の学校認定に関係のある「不可」と認定された科目について行う試験。
 - (4) その他,学級担任の申し出を受け,教務主事が授業担当教員及び学級担任と協議の上特に必要と認めた者を対象として,過年度に「不可」と認定された科目について行う試験。
- 2 前項の試験は、願い出により、原則として、1回に限り実施するものとする。

(実施の時期)

- 第6条 単位追認試験の実施時期は、次のとおりとする。
 - 一般単位追認試験は、夏季休業中又は休業明けの教務が指定する日時。ただし、前期に限り開講した科目についての追認試験は、担当教員の判断により、年度内に行うこともできるものとする。
 - 二 特別単位追認試験のうち,第5条第1項第一号から第三号に規定する試験については, 卒業審査会議以後卒業式の前日又は3月31日までの教務が指定する日時。なお,第四号に規 定する試験については,適宜実施できるものとする。

資料 5 - 3 - ① - 3

単位追認試験実施細則(2/2)

(受験手続き)

第7条 単位追認試験を受けようとする者は、それぞれ、一般単位追認試験顧、特別単位追認試験受験顧を所定の期日までに、学級担任を経て、教務に提出しなければならない。

第8条 単位追認試験は、原則として、筆記試験によるものとする。ただし、担当教員の判断により、筆記試験以外の方法によることもできる。

(試験の出題・成績の評価)

第9条 単位追認試験の出題及び合否の判定については、原則として、追認試験を実施する科目について、「不可」と認定した教員が行うものとする。

ただし, 当該教員が不在の場合には, 一般教科にあっては, 教科主任, 専門教科にあっては, 学科長に, その代行措置を委託するものとする。

2 単位追認試験に合格して修得を認定された科目の評価は、「追認・可」とする。

(試験の適用外)

- 第10条 実技の占める割合の高い科目については、原則として単位追認試験を行わないものとする。
- 2 出席時数が年間授業時数の3分の2に満たない科目については、単位追認試験を認めない。
- 3 規程第9条第1項により,同一学年を再履修している者については,前年度「不可」と認定された科目に関する限り,第5条第1項第四号の適用は認めない。

(事務分担)

- 第11条 単位追認試験の趣旨を踏まえ、その実施の有効かつ円滑な運用を図るため、次のとおり 事務分担を定める。
 - 一 教務は、試験に関わる事務を総括し、主として次の事項を執行するものとする。
 - (1) 一般単位追認試験に関わる試験要項, 試験科目一覧表, 受験者名簿等の作成及び関係教員, 学生への連絡周知に関すること。
 - (2) 受験願の受理, 試験問題の準備, 試験監督の割り当て等直接試験に関わる事務処理に関すること。
 - (3) 指導要録の付記等事後の事務処理に関すること。
 - (4) 追認試験制度の評価と改善に関すること。
 - 二 学級担任、授業担当教員及び関係教科担当教員は、協力して、主として、次の事項を執行するものとする。
 - (1) 当該学生への試験範囲、方法等予習効果を高めるために必要と考えられる事項の予告周知に関すること。
 - (2) 試験日までの特別補講を含む徹底した教育計画,指導計画の立案と実施に関すること。
 - (3) 試験問題の作成、レポート等の課題の提示、合否判定結果の提出、試験監督等に関すること。
 - (4) 教育計画,指導計画の評価と改善に関すること。 附 則
 - この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

-65*-*

資料 5-3-①-4

大学等における学修に関する規程

(3) 詫間電波工業高等専門学校大学等における 学修に関する規程

(趣 旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第13条の3第1項に規定する大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(以下「大学等における学修」という。)については、この規程の定めるところによる。

(文部科学大臣が別に定める学修)

- 第2条 学則第13条の3第1項に規定する文部科学大臣が別に定める学修とは、次の各号の一に掲げる学修をいう。
- (1) 大学における学修
- (2) 高等専門学校の専攻科における学修

(学修手続)

第3条 学生は、大学等における学修を行おうとするときは、大学等における学修許可願(別紙様式1)に、その学修を証明する書類を添えて、校長に願い出なければならない。

(単位認定申請)

- 第4条 学生は、大学等における学修を行い、単位の認定を受けようとするときは、大学等における学修単位認定願(別紙様式2)に、次の各号の一に掲げる書類を添えて、校長に願い出なければならない。
- (1) 当該学修を行った教育施設等の長の交付する単位修得証明書又は成績証明書
- (2) その他学校が必要と認める書類
- 2 校長は、前項の規定により申請のあった学修について、相当する単位数を、本校における授業科目の履修とみなし単位の修得を認定することができる。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

-66-

課題研究による単位修得の認定について

(4) 課題研究による単位修得の認定について

(平成15. 4. 1 校長裁定) (平成18. 4. 1 一部改正)

- 1. 課題研究は、本校が適当と認める課題について、学生が自ら選択して学修するものとし、教員の指導及び外部で受けた評価をもって単位の修得を認定するもので、別表に定めるものの中から選択して行うものとする。
- 2. 課題研究を履修しようとする学生は、学期の始めに、学級担任に相談の上、指導を受けようとする教員の許可を得て、「課題研究履修届」(別紙様式1)を教務係へ提出するものとする。
- 3. 指導教員は、指導を行った学生の課題研究の評価を「課題研究評価報告書」(別紙様式2) により学期末(2月末日まで)に教務係へ提出するものとする。
- 4. 教務委員会は、指導教員から提出された「課題研究評価報告書」に基づき単位認定を行い、認定結果を指導教員を経て当該学生に通知するものとする。
- 5. 単位認定については、2月末日までに課題研究評価報告書において合格の評価を得たものは、 申請のあった年度内で認定するものとする。
- 6. 修得を認定された課題研究の科目名は、「課題研究(試験の種類、 級)」と標記するものとし、 当該学生の成績表に科目名、単位数及び評価を記載するものとする。
- 7. 課題研究によって修得を認定できる単位数は、大学等における学修を含め30単位を超えないものとする。
- 8. 既に単位の修得を認定された課題研究について、さらに別表太枠内において、上位の課題研究を履修した場合は、当該上位の課題研究の単位数を修得単位数とする。
- 9. この取扱により単位を認定する対象学生は、1年次学生から5年次学生とする。

-69-

校外実習の履修に関する規則

(5) 詫間電波工業高等専門学校校外実習の 履修に関する規則

(趣 旨)

第1条 この規則は、詫間電波工業高等専門学校の校外学習の履修に関し必要な事項を定める。 (校外実習機関)

第2条 学生が校外実習を履修する機関(以下「校外実習機関」という。)は、教務委員会の議を経て校長が選定する。

(校外実習の授業)

第3条 校外実習の授業は、校外実習機関における実習とする。

(校外実習願)

第4条 校外実習を履修しようとする学生は、校外実習願を学級担任を経て、校長に提出しなければならない。

(校外実習の申込み)

- 第5条 校外実習を許可された学生は、校外実習申込書及び誓約書を、校長を経て校外実習機関 に提出しなければならない。
- 2 前項の校外実習申込書及び誓約書について、校外実習機関所定の様式がある場合は、その様式をもって代えることができる。

(傷害保険の加入)

第6条 校外実習を履修する学生は、学校が指定する傷害保険に加入しなければならない。 (校外実習の履修)

第7条 校外実習を履修する学生は、校外実習機関の定める諸規則及び校外実習機関における実習の責任者(以下「校外実習責任者」という。)の指示に従って、校外実習を行わなければならない。

(校外実習期間及び校外実習時間)

- 第8条 校外実習の期間は、原則として2週間以上とする。ただし、校外実習機関の都合でやむを得ない場合でも、実働30時間以上とする。
- 2 校外実習の時間は、校外実習機関において定める時間又は校外実習責任者の指示する時間とする。

(校外実習報告書)

第9条 校外実習を履修した学生は、校外実習報告書を校外実習責任者の認印を得て、校外実習終了後速やかに、学級担任を経て校長に提出しなければならない。

(単位の認定)

第10条 校長は、教務委員会の議を経て、校外実習を履修した学生に1単位を認定する。 (遵守事項)

- 第11条 校外実習を履修する学生は、本校の学生であることを十分に自覚し、行動しなければならない。
- 2 前項の規定する遵守事項に関し必要な事項は、この規則に定めるものを除いて、校外実習機関の定めるところによる。

(雑 則)

第12条 この規則に定めるもののほか、校外実習に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

-74-

校外実習実施要領

(6) 詫間電波工業高等専門学校校外実習 実施要項

1 趣 旨

企業等における製造,設計,技術開発,工事等の実務を行うことにより,学校で修得した知識及び技能を裏付け,技術者として,また社会人としての自覚を持たせることによる教育的意義を認め,正課としてこれを実施する。

2 目的

- (1) 組織の中で働くことによって技術に対する社会の要請を知り、学問の意義を認識するとともに、自己の創造性発揮の場を模索すること。
- (2) 技術に対する問題意義を養い、卒業研究における自立性を高めること。
- (3) 学問と生産との総合的関連を体験することにより、実践的・技術的感覚を養うこと。

3 実習の時期

原則として,第4学年の夏季休業中に行う。

4 実習の内容

実習内容は、校外実習機関の業務のうち、学生が所属する学科の教育内容に照らして、教育 効果があると判断される業務とし、あらかじめ校外実習機関と協議するものとする。

5 委員会等

- (1) 校外実習に関する事項の処理は、教務委員会がこれに当たる。
- (2) 校外実習は、教務主事主管の下に各学科長が計画し、校長の許可を得て実施する。

6 学級担任の任務

学級担任は、教務委員会の方針に基づき、学生の指導及び校外実習機関との連絡に当たる。

7 校外実習責任者の任務

- (1) 校外実習責任者は、原則として校外実習機関の配属先組織の長とする。
- (2) 校外実習の実施に当たり、校外実習機関における校外実習責任者として指導計画を立て、 その計画に基づいて校外実習中の指導を行い、終了後指導結果として校外実習証明書を作成し、校長に通知する。
- (3) 校外実習に関し、学校への希望事項等関連事項について連絡協議する。

8 成績の評価

各学科長は、各学科毎に校外実習学生全員の校外実習報告書及び校外実習証明書が提出された後、速やかに校外実習報告会を開き、その報告状況を総合して成績の評価(合格又は不合格)を行うものとする。

附則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

-75-

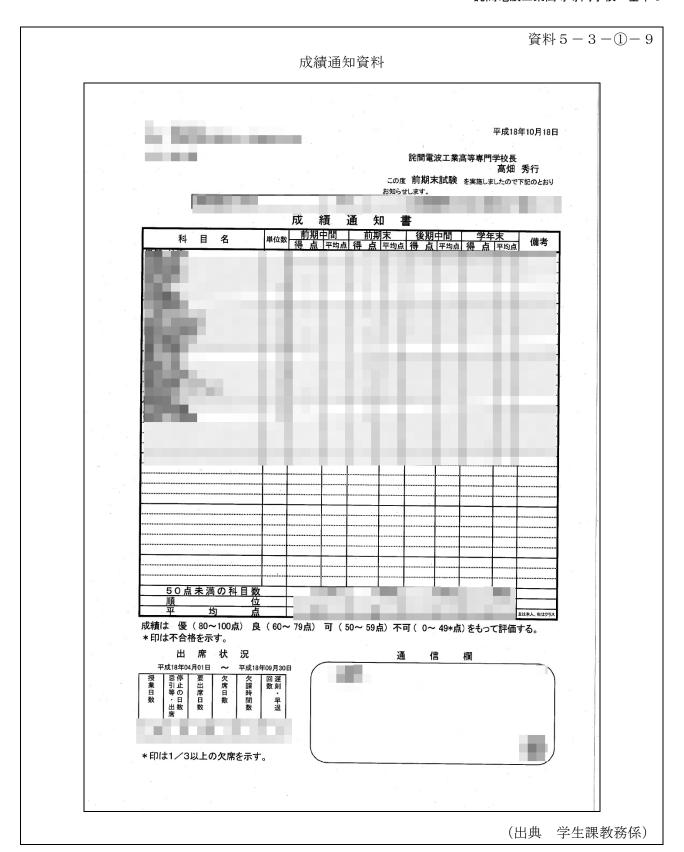
資料5-3-10-8

教務関係規程の認知状況についてのアンケート調査結果(学生)

- Q.1 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定に関する規定が、学生便覧に掲載されていることを知っていますか。
- Q.2 進級·卒業の審査が行なわれていることを知っていますか。 (関連規程:学業成績の評価並びに進級及び卒業に関する規程)
- Q.3 単位追認試験が実施されていること知っていますか。 (関連規程:単位追認試験実施細則)
- Q.4 本校以外での学修が単位認定されることを知っていますか。 (関連規程:大学等における学修に関する規程)
- Q.5 資格取得等によって単位認定されることを知っていますか。 (関連規程:課題研究による単位修得の認定について)
- Q.6 校外実習により単位認定されることを知っていますが。 (関連規程:校外実習の履修に関する規則,校外実習実施要項)
- Q.7 「必修科目の出席時数が年間授業時数の3分の2以上であること」が、進級又は卒業の要件の一つとなっていることを知っていますか。
- Q.8「特別活動(HR)の履修が良好であること」が、進級の要件の一つとなっていることを知っていますか。
- Q.9 各学年で、進級・卒業するのに必要な単位数が定められていることを知っていますか。

									準学:	上課程									
	Q	.1	Q	.2	Q	.3	Q	.4		.5	Q	.6	Q	.7	Q	.8	Q	.9	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	回答数
1学年	133	35	136	31	159	9	78	89	93	75	65	103	145	23	84	84	151	18	168
1+4	79%	21%	81%	18%	95%	5%	46%	53%	55%	45%	39%	61%	86%	14%	50%	50%	90%	11%	100%
2学年	129	21	129	20	141	9	88	63	126	23	85	65	137	13	73	77	140	10	150
2 7 +	86%	14%	86%	13%	94%	6%	59%	42%	84%	15%	57%	43%	91%	9%	49%	51%	93%	7%	100%
3学年	143	9	136	16	144	8	100	52	140	12	104	48	141	11	101	51	140	11	152
3+4	94%	6%	89%	11%	95%	5%	66%	34%	92%	8%	68%	32%	93%	7%	66%	34%	92%	7%	100%
4学年	154	5	156	4	158	2	113	47	156	3	154	6	155	5	109	53	157	4	162
4-7-4	95%	3%	96%	2%	98%	1%	70%	29%	96%	2%	95%	4%	96%	3%	67%	33%	97%	2%	100%
5学年	149	6	150	5	153	2	133	23	153	2	147	8	152	3	103	52	153	2	155
3 7 4	96%	4%	97%	3%	99%	1%	86%	15%	99%	1%	95%	5%	98%	2%	66%	34%	99%	1%	100%
全学年	708	76	707	76	755	30	512	274	668	115	555	230	730	55	470	317	741	45	787
土子平	90%	10%	90%	10%	96%	4%	65%	35%	85%	15%	71%	29%	93%	7%	60%	40%	94%	6%	100%

(出典 平成19年4月19日 点検評価委員会資料)



資料 5 - 3 - ① - 10

平成 18 年度一般単位追認試験時間割(部分)

野間 野間 科目名 単位 指導教員 担当教員 学年 学科 16:10~17:00 散治・経済 2. 井上県 井上県 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1	電気回路 I 制御 エデュー 16:10~17:50 ディジタル回 9月11日(月) 16:10~17:00 基礎数学工 数分積分学 電子子ジタル回 電子回路 正子 アイジタル回 16:10~17:50 広 アナログ 数学 都論 I 数分積分学 大 アナログ通信	路 I 2 2 2 2 2 2 2 2 4 1 1 1 1 1 2 2 4 2 2 2 4 1 1 1 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 2	天山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 東山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 忠	天山白田橋橋 迁月 月標橋 檻井	3 E 4 C 5 C 5 C 5 C 5 C 5 T 3 E 1 E 1 E	<i>f</i>
電気回路 2 天進 天進 3 E 16:10~17:50 分類の学 2 日時 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	電気回路 I 制御 エデュー 16:10~17:50 ディジタル回 9月11日(月) 16:10~17:00 基礎数学工 数分積分学 電子子ジタル回 電子回路 正子 アイジタル回 16:10~17:50 広 アナログ 数学 都論 I 数分積分学 大 アナログ通信	路 I 2 2 2 2 2 2 2 2 4 1 1 1 1 1 2 2 4 2 2 2 4 1 1 1 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 2	天山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 東山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 忠	天山白田橋橋 迁月 月標橋 檻井	3 E 4 C 5 C 5 C 5 C 5 C 5 T 3 E 1 E 1 E	<i>f</i>
電気回路 2 天進 天進 3 E 16:10~17:50 分類の学 2 日時 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	電気回路 I 制御 エデュー 16:10~17:50 ディジタル回 9月11日(月) 16:10~17:00 基礎数学工 数分積分学 電子子ジタル回 電子回路 正子 アイジタル回 16:10~17:50 広 アナログ 数学 都論 I 数分積分学 大 アナログ通信	路 I 2 2 2 2 2 2 2 2 4 1 1 1 1 1 2 2 4 2 2 2 4 1 1 1 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 2	天山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 東山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 忠	天山白田橋橋 迁月 月標橋 檻井	3 E 4 C 5 C 5 C 5 C 5 C 5 T 3 E 1 E 1 E	,
電気回路 2 天進 天進 3 E 16:10~17:50 分類の学 2 日時 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	電気回路 I 制御 エデュー 16:10~17:50 ディジタル回 9月11日(月) 16:10~17:00 基礎数学工 数分積分学 電子子ジタル回 電子回路 正子 アイジタル回 16:10~17:50 広 アナログ 数学 都論 I 数分積分学 大 アナログ通信	路 I 2 2 2 2 2 2 2 2 4 1 1 1 1 1 2 2 4 2 2 2 4 1 1 1 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 1 2 2 2 2	天山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 東山田田橋橋 江月 月橋橋 橋井 忠	天山白田橋橋 迁月 月標橋 檻井	3 E 4 C 5 C 5 C 5 C 5 C 5 T 3 E 1 E 1 E	<i>f</i>
電子工学 I	電子工学 I ディジタル回 電子回路 水用線析学 数学概論 I 販分積分学 アナログ通信	路 I 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	田橋橋 江月 月標橋 橋井 忠	白田橋橋 辻月 月橋橋 極井	3 C 5 C 3 E 4 C 5 C 5 T 3 E 1 5 E 4 I 5 E	
電子工学 I	電子工学 I ディジタル回 電子回路 水用線析学 数学概論 I 販分積分学 アナログ通信	路 I 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	田橋橋 江月 月標橋 橋井 忠	田橋橋 辻月 月橋橋 基井 本本本 忠	3 E 4 C 5 C 5 T 3 E 1 5 E 4 1 5 T E I	
電子工学 I	電子工学 I ディジタル回 電子回路 水用線析学 数学概論 I 販分積分学 アナログ通信	路 I 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	注	橋 辻月 月橋橋 極井	4 C 5 C 5 T 3 E 1 5 E 4 I 5 T E	
電子工学 I	電子工学 I ディジタル回 電子回路 水用線析学 数学概論 I 販分積分学 アナログ通信	路 I 2 2 4 1 1 1 2 2 2 4 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	月本 橋本 井上忠	月本本 橋本 橋本 井上忠	5 E 4 I 5 T E	<u>#</u>
電子回路 2月本 月本 6 E E 小田解析学 4 橋本 75 T E N	電子回路 応用解析学 数学概論 II 振分積分学 アナログ通信	2 4 1	月本 橋本 井上忠	月本本 橋本 橋本 井上忠	5 E 4 I 5 T E	.t.) 10.
一	微分積分学 アナログ通信	工学 2	1 橋本 2 井上忠	橋本 井上忠	4 I 5 T E I	
一	微分積分学 アナログ通信	工学 2	1 橋本 2 井上忠	橋本 井上忠	5 T E I	
一	1 17				I	1
Temp	1 17				5 T	1
情報処理日 4 井上忠 井上忠 3 T 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 17			0.1		1
R	養養第波伝送学工9月12日(火) 16:10~17:00 物理	2		井上忠	-3 T	.9
R	9月12日(火) 16:10~17:00 物理	1 2	2 真鍋克	真鍋克	5 E	10
Ref		2	2 長容部	片岡	3 T	1
F	CT (1) 14 10 T		a atom	专士	1	
F + ジタル回路 I	物理	3	東田	陽岩		
基礎数学 I 4 須那 2 E 応用数学 I 2 向 6 C 微分接分学 2 谷口 谷口 4 I 電気域気学 2 住友 住友 5 E 計算強システム 2 鱈目 5 1 16:10~17:50 微分積分学 4 谷口 3 T 市本 3 C 応用解析学 4 森岡 森岡 4 C 基礎数学 I 4 森岡 森岡 2 E C C C C C	#1 m 10 mm		1		C	
基礎数学 I 4 須那 2 E 応用数学 I 2 向 6 C 微分接分学 2 谷口 谷口 4 I 電気域気学 2 住友 住友 5 E 計算強システム 2 鱈目 5 1 16:10~17:50 微分積分学 4 谷口 3 T 市本 3 C 応用解析学 4 森岡 森岡 4 C 基礎数学 I 4 森岡 森岡 2 E C C C C C	ディジタル同	路 11 1	高木	高木	4 E	
基礎数学 I 4 須那 2 E 応用数学 I 2 向 6 C 微分接分学 2 谷口 谷口 4 I 電気域気学 2 住友 住友 5 E 計算強システム 2 鱈目 5 1 16:10~17:50 微分積分学 4 谷口 3 T 市本 3 C 応用解析学 4 森岡 森岡 4 C 基礎数学 I 4 森岡 森岡 2 E C C C C C	計算機工学	2	2 高木	高木	5 E	
基礎数学 I 4 須那 2 E 応用数学 I 2 向 6 C 微分接分学 2 谷口 谷口 4 I 電気域気学 2 住友 住友 5 E 計算強システム 2 鱈目 5 1 16:10~17:50 微分積分学 4 谷口 3 T 市本 3 C 応用解析学 4 森岡 森岡 4 C 基礎数学 I 4 森岡 森岡 2 E C C C C C	機械力学	2	2 徳永	德永	5 C	
基礎数学 I 4 須那 2 E 応用数学 I 2 向 6 C 微分接分学 2 谷口 谷口 4 I 電気域気学 2 住友 住友 5 E 計算強システム 2 鱈目 5 1 16:10~17:50 微分積分学 4 谷口 3 T 市本 3 C 応用解析学 4 森岡 森岡 4 C 基礎数学 I 4 森岡 森岡 2 E C C C C C	電気回路工	- 2	2 一色	一色	4 0	35.
	9月13日(水) 16:10~17:00 応用解析学	- 4	+ 250 702	- CT - CT - CT - CT - CT - CT - CT - CT	4 E	
応用解析学 4 泰岡 森岡 4 C 基礎数学1 4 森岡 森岡 2 E C	基礎数学 I 応用数学 I	- 4	4 須那	須那 南	5 C	2.00
応用解析学 4 泰岡 森岡 4 C 基礎数学1 4 森岡 森岡 2 E C	微分積分学 需令 場 与 学	2	2 谷口	谷口 住友	4 I	
応用解析学 4 泰岡 森岡 4 C 基礎数学1 4 森岡 森岡 2 E C	確 率統計論 I		1 奥山	奥山	5 C	1
応用解析学 4 泰岡 森岡 4 C 基礎数学1 4 森岡 森岡 2 E C	16:10~17:50 微分積分学	4	4 容日		3 T	
			4 泰岡		4 C	
	基礎数学I	4	4 森岡	報 [四]	2 E	
					L I	1 .
	建胶合模件 捐助营养空 术士			*		
元北京A A 18 1.1 4日 Trà かかがっていってった	試験云場は、視聴見教堂です。					
試験会場は、視聴覚教室です。						
試験会場は、視聴覚教室です。						

(出典 学生課教務係)

校外実習等の単位認定資料(1/2)

平成 18 年度単位認定に関する議事録

平成18年度第8回教務委員会議事要録

開催日 平成18年10月27日(金)16:15~17:15

場 所 管理棟第3会議室

出席者 高木、松下、三崎、徳永、森孝、森本敏、福永、田嶋、今城、國井、 港下

校外実習の単位認定 についてに

徳永主事補から別紙資料に基づき夏期休業中に実施された校外実習の説 明がなされた。その後、各学科から実習報告会の審査結果の報告があり、 審議の結果、全員合格で了承された。また、企業の評価の欄は、学科によっては企業側の評価の記述を読んで審査した教員の評価を記入していたが、 今後は企業側の評価を記入することとし、企業側の評価の記載がない場合 は「記載なし」と記入することとなった。

現在教務係で作成している校外実習証明書報告の作成の有無については、 事務労力の軽減を図るために次年度までに教務係で検討することとなった。

集中講義、特別講義の単位認定について

徳永主事補から別紙資料に基づき、夏期休業中に実施された集中講義、 特別講義の単位認定について報告がなされた。

3. 香川大学との相互単位互換に関する協定に基づく特別聴講生単位認定 こ

高木委員長から別紙資料に基づき、香川大学との相互単位互換に関する 協定に基づく特別聴講生単位認定について説明があり、審議の結果、情報 5年 「ランドスケープ・デザイン」の単位が了承された。

4. 単位追認試験の結果報告について

徳永主事補から別紙資料に基づき、一般単位追認試験の結果報告につい て説明がなされ、審議の結果、延べ344科目822単位の内246科目 597単位が追認可で了承された。合格率は71.5%で、昨年よりも約 10%高くなっている。

5. 平成19年度実施の各学科の学修単位科目について

高木委員長から前回懸案となっていた19年度からの学修単位導入科目 について各学科から次のとおり報告があり、来年度から実施する方向で了 承された。

通信 電気磁気学 I · Ⅱ 制御 未定

電子 電気磁気学、計算機工学 情報 電気磁気学、基本ソフトウェア

平成19年度の授業参観日について

高木委員長から来年度の授業参観日について経緯説明があり、審議の結 果、4月22日(日)を授業日とし、5月1日を振り替え休日とすること

資料5-3-①-11

平成18年 9月 8日

校外実習等の単位認定資料 (2/2)

	4	成18	年度情報	通信工学	科校外	美省報告	查審会	結果	
	審査会日	b: 平成	18年10月1	13B 1	時15分	~ 18B	15分		
	審査会場:	情報才	ットワーク演	習室					
	審查員:	井上 忠	照. 小野: 直鏡	安季良。自	間 裕介	, 澤田 :	·朗、青河	意之.	
		II INA	, ,,,,,,,,,			審査委員	長 森木	- /	粱
No.	氏	名	企業の評価	発表原稿	プレゼン 能力	発表時間	質問に対 する回答	実習への取り組み	合否年
1			3	3.6	3,3	4.0	3.7	4.2	合格
2			. 5	3.3	3.0	4.0	3.9	4.3	合格
3			4	4.1	3.9	4.4	4.7	4.8	合格
4			3	3.6	3.3	3.1	3.9	4.4	合格
5			未記入	2.9	2.6	3.8	3.3	3.5	合格
- 6			4	3.5	3.5	4.0	4.0	4.5	合格
7			未記入	4.6	4.1	4.2	4.4	4.7	合格
8			4	4.1	3.7	4.1	3.9	4.2	合格
9									
10									
11									
12									
13						1			
14									
15			1						
16									
17									
18					y				
19					fi				
20									
21					1				
22						-			
23									
24									
25									-
26									
27									
28									
29									
30				2 - 7					

-	を日時: 平成 を場: 第五講		日~平成	18年10月	16 B	16時205	→ 17F	\$30分
審査具	b: 福永 ,	住友 , 木	下,增8	1 , 矢才	: , 月本	,天造		_
-					審査委員	長長: 福州	k哲也 (*	高
D	氏 名	企業の 評価	発表原稿	プレゼン 能力		質問に対 する回答		合否判定
1		4	4	4	4	3	4	合
2		4	3	4	4	3	4	合
3		5	4	4	4	3	4	合
4		4	3	3	4	3	4	合
5		4	3	5	3	4	- 5	合
6		4	3	3	4	4	4	台
7		5	3	4	4	3	4	合
8		5	4	4	4	3	4	合
9		5	4	4	4	3	4	슘
10		4	4	4	3	4	4	合
11		5	4	4	4	4	4	台
12		記載なし	4	4	3	4	5	÷
13		- 5	4	4	3	4	5	合
14		5	4	3	4	4	4	合
15		4	4	4	4	4	4	습
16		4	4	4	3	4	5	合
17		4	4	3	4	3	4	合
18		4	4	4	4	4	5	合
19		4	4	5	3	4	5	企
20		3	4	4	3	4	4	合
21		4	4	4	3	3	4	습
22		4	3	4	3	3	4	合
23		4	3	3	3	4	4	合
24		4	3	4	3	4	4	合
25		4	3	3	4	4	4	合
26		4	3	3	4	3	4	숌
7								
18	i i i							
29					1			

	服告会日時: 平成	918#E10H	6 B 1	18950-9	~ 148	1009		
	级告会場:第5課			2-400,0				
-		:教員。						
	a.pt. a	DEC. PC.			学科長	田棉 胡	- 3	
No.	氏 名	企業の 評価	発表原稿	プレゼン 能力	発表時間	質問に対する回答	実習への 取り組み	合否判)
1		4.67	3.71	3.43	3.00	2.86	3,83	合格
2		4.00	3.63	3.63	3.63	3.75	4.00	合格
3		4.14	2.75	3,25	3.75	2.75	3.71	合格
4		4.57	3.75	4.13	4.13	4.25	4.00	合格
5		3.86	3.13	3.00	2,13	3.50	3.57	合格
- 6		4.71	3.33	3.67	3.67	3.78	3.88	合格
7		4.57	4.00	3.78	3,56	3.67	3,88	合格
8		3.29	3.44	3.00	3.56	3.78	3.88	合格
9								
10								
11								
12								
13								
14					Ģ			
15								-
16								
17		1					7	
18							1.	
19								
20				U				
21								
.22					2			
23								
24				8 10 5				
25								1/2
26								
27								J.,
28								
29								
30				-				

18	査会場: 情報コ	C学科棟 2F	基礎電気	実験室				
18	查員: 今年	大一夫,何日	日純 , 川染	男人				4
						長長 今娘		梅
lo.	氏 名	企業の 評価	発表原稿	プレゼン 能力	発表時間	質問に対する回答	実習への 取り組み	合否判定
1		- 5	4	4	3	4	5	合格
2		3	4	4	4.5	4	3	合格
3		5	3.3	3.3	3.3	4.3	. 5	合格
4		5	3.7	3.7	3.3	4	5	合格
5		5	4	4	3	4	5	合格
6		5	3.7	3.7	4	3.7	5	合格
7		5	4.7	4.7	4.3	4.3	5	合格
8		5	3.3	3.3	3	3	5	合格
9		4	3.7	3.7	4	4.3	4	合格
10								
11						0		
12								
13	. 100							
14								
15								
16								
17								
18								
19								- 4
20						1		
21								
22							1	
23								
24								
25								
26		3 3 1						
27								
28						3 -0	7	
29								
30								

(出典 平成18年10月27日 教務委員会資料,同議事録)

資料 5 - 3 - ① - 12

進級·卒業審査会議事要録

平成18年度卒業・進級審査会議議事要録 開催日 平成19年3月15日(木)11:15~12:25 場 所 管理棟第1会議室 欠席者 1. 平成18年度卒業・進級審査について 授業担当教員によって成績一覧表の点数及び出欠席日数の確認がなされた後、学年毎に 別紙審査資料(成績一覧表及び判定資料)を基に次の手順で審査が行われた。 (1) 進級・卒業規程第8条第1項第一号に抵触する者(2/3規程) (2) 進級・卒業規程第8条第1項第二号に抵触する者 (3) (2) の者のうち進級・卒業に関する申し合わせ事項の適用が不可能な者 (4) 原級者のうち学則第37条第二号に該当する者(同一学年を2回原級) (5) その他 (年間休学者及び退学者,除籍者) が単位追認試験実施細則第5条第4号に至った経緯説明があり、審議 の結果、審査資料の通り承認された。 審議の結果。 第1学年: 原級、 原級、 退学、 原級 第2学年: 原級、 原級、 原級、 退学、 第3学年: 退学、原級、 退学、 退学、 原級。 第4学年: 原級、 原級、■■復学、 原級、 試験、 原級 校長によって審議の結果が承認され、各学生の卒業、進級あるいは原級が決定された。 特別単位追認試験の結果は19日の午前中までに教務係に連絡することで了承された。

(出典 平成19年3月15日 卒業・進級審査会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価,単位認定,進級認定,卒業認定に関する各種規程が策定されており,成績評価の透明性を高める努力が行なわれている。成績評価,単位認定,進級認定,卒業認定の作業が厳格な規定のもとで行なわれて,規定に基づいた一貫性のある審査が行われている。

各種教務関連規程の学生への周知状況は良好である。

以上の点から、観点を満足していると判断する。

観点5-4-①: 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう 配慮されているか。

(観点に係る状況)

特別活動(ホームルーム: HR)を第1・2・3学年において週1単位時間,合計90単位時間実施している。HR活動では、人間の素養としての「人権意識」「性意識」「平和意識」「交通安全に関する意識」の涵養を柱とした教育を行なっている(資料5-4-(1-1)。HR活動では、クラス毎の年間実施計画と活動記録報告書が作成されている(資料5-4-(1-2)、資料5-4-(1-3)。担任は「担任のしおり」(資料5-4-(1-4) にある心得・心構えを基本にして学生と接し、HR活動を展開している。

1学年では、学生の交友関係に広がりを与え「健全な社会性」や「協調性」「幅広い考え方」の涵養を第一の目的とした混合学級として、4月に1泊2日の「新入生合宿研修」を実施している。このほか、人間関係を円滑に保てるよう各種行事展開を行っている。(資料5-4-①-5)

また、学外者による講演会を企画開催して(資料 5-4- (1)-6)、「社会生活上の知識」の涵養を図っている。

人間の素養の涵養について

一般教科

人間の素養の 涵養について

一般教科長 森 孝宏

H. R. の時間割上の位置 1年1組 時間割(前期) 2年情報通信工学科時間割(前期 基工 基電 情処Ⅱ回路 情処Ⅱ国語 微積 地理 物理 Ϊ₩ 微精 情机 化学 数Ⅱ 国語 歴史 5 倫社 倫社 歴史 地理数Ⅰ 保体 デ回 保体 化学 物理 国語

H. R. は、(通年)週1回、月曜日7校時に実施している。

特別活動

・HR活動 ・奉仕活動 ・清掃活動

HR活動

HR活動の目的 クラスのメンバー学生相互の、討論・話し合い による、意見交換と、自主的運営を体験させる。

HR活動の柱 ・人権教育

- 性教育
- ・平和教育
- · 交通安全教育

年度当初、クラス毎に「年間実施計画」を作成し、 活動を記録した報告書を作成している。

H. R. 実施計画の例(2年前期)

日テ	-マ	内容
4 10 新	学期諸調査	前期クラス委員の選出、これからのH. R. の過ごし
	習の手引き	学習方法について学ぶ
4 24 交	通について	交通マナーや交通に対する話し合い
5 1ス	ボーツ・レクレーション	スポーツを通じてクラス交流をする
5 8情	報通信で求められるもの	情報通信工学科の先生にお話をしてもらう
5 15 選	手選抜	校内スポーツ大会の選手選抜等
5 22 学	習向上日	授業で聞けなかったことの解決
5 29 学	習向上日	微積分等の数学の疑問を解決しよう
6 12 社	会を知ろう	担任より、社会の現状を話してもらう
6 19 男	女交際について	男女の関係のあり方について話し合う
6 26 人	権護漢会	同和教育委員会による人権護済を聞く
7 3 平	和について考える	沖縄戦のVTR学習
7 10 夏	休みの過ごし方	夏休みの効果的過ごし方を話し合う
9 4選	手選抜	秋期体育大会の選手選抜等
		校用体育人会の選手選抜寺 数学の疑問を解決しよう

人権教育・性教育・平和教育・交通安全教育 のテーマ

H. R. 実施計画の例(後期)

月 日 テーマ	テーマと内容
10 2 新学期調査	後期クラス役員の選出
	として「情報通信工学科の先生方との交流
10 16 電波祭について	電波祭に関する話し合い
10 23 電波祭について	電波祭の具体的実施状況の検討
11 6 青春時代を生きる	学生に「何が幸せか」を聞く
11 13 将来の夢	何に関心があるかに関して
11 20 学習向上日	問題解決学習会
11 27 学習向上日	微積分を理解しよう
12 4 学習向上日	焦点の学習検討会
12 18 選手選抜	冬期体育大会の選手選抜等
1 15 今年の抱負	クラス全員での意見交換会
1 22 健康について	喫煙等に青少年に係わる健康障害
1 29 ボートフォリオ	1年間を振り返っての成長の跡
2 15 学習向上日	疑問を解決する

意見交換・討論のテーマ

SJRC同好会の奉仕活動



高松サンサン祭参加

辞間莊老人ホーム慰問

SJRC同好会は、地域の清掃活動の他、高松サンサン祭り参加、 電波祭での身体障害者についての展示・チャリティーバザーや人権 啓発活動、老人ホーム訪問等を行っている。 これらの自発的奉仕活動は、「人類の福祉に寄与できる技術者」の

H.R.活動

H. R. 活動では、討論や話し合いを通じて、「協調性」と「コミュニケーション能力」を培い、「話し合いのルール」や 「会議運営」を体験すると共に、自らの問題を自らで解決 することを学ぶ場である。

また、「健全な社会性」・「社会常識」と「幅広い考え方」を 身につける場でもある。

専門過程へ進む自覚と、技術者としての意識を高める ための場ともしている。

清掃活動

- 毎日清掃 HR室, 特別教室, トイレ, 外庭
- 月例清掃 特別教室、外庭 等
 一斉清掃 年3回(7・10・2月)、全学生・教員・事務職員・ 技術職員が、同時間に共に汗を流す校内美化 運動を実施している。

SJRC の活動として、周辺海浜の清掃を実施している

毎日の清掃は、「モラル」の持続向上の基盤であり、 一斉清掃は、連帯協力意識を培うことに資している。 身辺を清潔に保つ意識は、地球環境問題に関連しており、 技術者倫理に繋がるものである。

平成 18 年度運営懇話会資料 17~19 頁) (出典

ホームルーム活動年間計画表の例

平成17年度ホームルーム活動年間計画表

1年 2組

月日	活動内容	備考
4月11日	前期役員選出・図書館の利用について	
4月18日	学生のモラルについて	
4月25日	交通講話	
5月 9日	入学しての決意の手紙	
5月16日	ものづくりについて (AIBOの開発)	
5月23日	障害者福祉について	
5月30日	合同勉強会	
6月13日	薬物中毒の被害について	
6月16日	ものづくりについて(パラボラアンテナの開発)	振替授業
6月20日	たばこの害について	
6月27日	同和教育:講演 You're 大切	合同
7月 4日	戦争について	
7月11日	夏休みの過ごしかたについて	
9月 5日	夏休みの反省	
9月12日	成績相談	

月日	活 動 内 容	備考
10月 3日	交通講話	
10月11日	後期役員選出	振替授業
10月17日	電波祭の打ち合わせ	
10月24日	電波祭の打ち合わせ	
11月 7日	電波祭の反省	
11月14日	防火訓練	
11月21日	学習相談	
11月28日	体育大会選出 その他	
12月 5日	冬休みの生活について	
12月19日	骨髄バンクについて	
1月10日	成績相談	
1月16日	災害について「阪神大震災の経験をもとに」	
1月23日	ものづくりについて「ICカードの開発」	
1月30日	喫煙の被害について	
2月 6日	性感染症について	
2月13日	一年間の反省	

(出典 ホームルーム年間計画)

ホームルーム活動記録の例

ホームルーム記録簿

実施日	八年 12月 19日 日 曜 記録者
テーマ	骨髄がンワープロジェクトXー
展開	15下り女の死
しかし、人	7°ロジェリト作成 ロチでかけるが、が集まったい。 15 オウ女の話し 高枝をたなり、普通のお女家ととになり)これが にをいてたい 人が集まる つが、 となると の男性のおめけて「人の人が目かかる して生きていることを実感。

記録者の感想 人の各骨道で人でも多くの人が且かかる事はいいか たの他人に骨骨道を移植するとなると、女弟がるのは 分かる。人の人を目かけるか、自分が帰る酒をす是供するが、なは、僕も独外がな心境になると思う。決心をつけた男性がかってよく みれた。

まくてきれノートです。私情をバンクルを気 担任所見

しなっと思いいます。これを大与な存み時かもう一度をうる

(出典 ホームルーム記録・報告書綴)

学生指導上の心得・心構え

心得・心構え

《学級担任の心得・心構え》

1. 勉学の動機づけ

学生の本分は勉学であり、本校生としてのプライドを持たせ、また社会情勢等の情報を提供し、学生が夢や希望を持ち勉学に励むよう動機づける努力をする。

2. 人間形成

目線を学生に合わせ、信頼関係を構築し、一人ひとりを大切に育てるよう 努め、良識を持った若者としての人間形成の助けとなる。

3. カウンセリング

人格は千差万別であるから日常的に学生と時間を共有し,一人ひとりの思 考や悩みをしっかり聞き,学生の心を開かせるように心がける。

4. 保護者とのコミュニケーション

学生からのシグナルを早期に感知し、保護者と情報交換を十分行う。

5. 校則の遵守, 礼儀作法

学生の校則遵守と本校生に恥じない礼儀作法を身に付けさせる努力をする。

《学生指導の要点》

- 1. 指導の大切さを認識し、学生との接点を増やし、学生の気持ちを充分理解するよう努め、学生一人ひとりの心に届く指導を公平に実行する。
- 2. クラスの融和を心がけ、良好な雰囲気の維持に努める。
- 3. 早期指導を心掛け、保護者との連絡を密にする。
- 4. 教科担任, クラブ指導教官, 主事補, 学科等と常に連絡を密にし, 学生の学校 生活を総合的に把握しておく。
- 5. 日頃から一人ひとりをよく観察し、学習状況や生活態度の変化を機敏に察知し、 迅速に対処する。
- 6. 留年生,学業不振学生,欠課欠席の多い学生は,特に個人指導に心掛ける。 留学生については,指導教官と連絡を密にする。
- 7. 学生の<u>休学、退学、復学</u>については、学生便覧等をよく読み、事前に保護者と 連絡を窓にし、かつ教務および学科主任と十分検討し慎重に対処する。

(出典 「担任のしおり」)

(出典 行事予定表)

資料 5-4-①-5 年間行事予定表 (「新入生合宿研修」「日帰り研修」等) 平成 18 年度 年 間 行 事 予 定 表 (前期) 日曜 本料 1 土 春季休泉(4/4まで) 曜 専攻科 本料 暒 事故科 曜 專收料 本料 躍 專收料 春季休泉(4/5まで) 火 木曜日振管接集 火 木曜日振替授業 水 憲法記念日 木 国民の休日 国民の休日 5/ 休 给果式 月火 ●こどもの日 こどもの日 * 10 月 新入生合物研修(大綱) 個入学受付 月 社行式 火 月 学力、社会人受付 火 木 成職評価表提出 木 金 職員健康診斯 金 月 推薦入款受付 月 敬老の日 月 敬老の日 **•** 休職入學 本 √補限日 四 金 夏季休泉(8/31まで) 個入学(推薦) ± 明宗 特別開宗 日 明宗 傷入学(学力) 土 教分の日 土 教分の日 25 水 26 水 第2学年日帰り研修 2 本 28 全 29 土 みどりの日 30 日 個入学合格免疫 みどりの日 **k** ↓ 開業↓ 平成 18 年度 年間 行事予定表 (後期) 月日 1 月 本料 曜 事政料 曜 曜 専攻科 專收料 理 專收料 曜 1 日 2 月 後期授業開始 金曜日要替授業 アスト運動日 月後期接泉開始 テスト返却日 3 4 ***** 仕事始め 仕事始め 4 火 卒研発表 テスト運動 6 7 ± プログラミングコンラ スト(装線) 8 日 ↓ 9 月 体育の日 * 水 本研発表 テスト運却日 水 成破評価表提出 開業 間 **臨時休**章 本 開張 金 特別研究期末免疫会(1年 8 月 成人の日 開寮 木 学生総会 火 始集式 國書館開 成績通知 7 大 月曜日振替授業 大 月曜日振替授業 11 金 秋季休育大会 水 成成評価表提出 エ エ エ エ エ エ エ 日 被罪犯念の日 快援金役員会 日 快援金役員会 月 振管休日 月 振管休日 13 全入学者募集説明会 1 **最高心理/高度 祖典教**書 木 月曜振管授業 区都合文化祭 入学試験 日 推薦面接 水 学年末試験 火 国家試験(本柱) 水 推薦判定軸果運知 水 24 冬季休業(1/7まで) 冬季休業(1/7まで) ロポコン全国大会(京 京) 15日(木)は月曜日の接続 校内一斉清掃(上旬) 42 FU/TEAN 交通網額(上旬) 校内一斉滑揚(中旬) 地元企業と学生との服装会 永年勤齢者表彰式(退業等) (注)■印は、土曜日・日曜日・招日・福替休日・学期による休業日及び臨時休業日を表す。△印は、学校行事を表す。 休業中の補講日 1/5 は原則として自然災害等の休校日の補拠を行う。

学生向講演会一覧(H17, H18 年度)

開催日	対象	講演会内容	講師所属		講師
2007/2/5	1年生	エイズに関する講演会	香川大学医学部		大野正文
2007/1/22	3年生	煙草の害と禁煙に関する講演会	三豊総合病院	内科医	山地康文
2006/11/24	5年生	学術講演会	ビーサンズ	取締役社長	樋口武光
2006/11/20	2年生	覚醒剤防止に関する講演会	高瀬警察署	生活安全課長	
2006/10/2	全学生	交通講和	高瀬警察署	交通課長	上杉課長
2006/9/1	クラブリーダー	リーダーシップ研修会	大塚製薬(株)		藤田順久
2006/6/26	1・2年生	同和教育講演会		ビデオ講演会	
2006/6/19	1・2年生	同和教育講演会		ビデオ講演会	
2006/5/1	全学生	交通講和	高瀬警察署	交通課長	上杉課長
2006/1/13	5年生	学術講演会	九州工業大学情報工学科		田中和明
2005/11/28	3年生	煙草の害と禁煙に関する講演会	三豊総合病院	内科医	山地康文
2005/11/7	2年生	覚醒剤防止に関する講演会	高瀬警察署	生活安全係長	高橋係長
2005/11/2	4年生	学術講演会「松下電器のパソコン戦略と技術力」	松下電器産業㈱		星野央行
2005/10/3	全学生	交通講和	香川県警察本部	交通指導課	
2005/9/10	クラブリーダー	リーダーシップ研修会	大塚製薬(株)	課長補佐	藤田順久
2005/6/27	1.2年生	同和教育講演会「君は大切」			ジャンカー・ダビデ
2005/5/10	全学生	進路指導に関する講演会 「がんばればここまでやれる]	(株)加卜吉	代表取締役 社長	加藤義和
2005/4/25	全学生	交通講和	香川県警察本部	交通指導課	課長
2005/2/6	1年生	エイズに関する講演会	香川大学医学部		大野正文

(出典 学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

特別活動が計画的に実施されており、目指している「人権意識」「性意識」「平和意識」「交通安全に関する意識」といった「人間の素養の涵養」が教育課程の上で適切に配慮されている。また、学校行事においても、「健全な社会性」や「協調性」「幅広い考え方」といった「人間の素養の涵養」の観点から計画的な行事展開がされており、適切な配慮がなされている。

以上から, 観点を満足するものと判断する。

観点5-4-②: 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

「本校の教育目的:養成すべき人材像」にあげられた人間の素養とは,「健全な心身」,「チャレンジ精神」であり、また「自然との調和を図り、人類の福祉に寄与」する姿勢である。

本校では、体育大会(10月、1月)、学園祭である電波祭(10月)と校内一斉清掃(7月、10月、2月)を学校行事として全学年で取り組んでいる(資料5-4-(1-5)。学生の「自主性」を養うために、体育大会と電波祭は学生会(資料5-4-(2-1)を中心に運営させ、いずれも「健全な心身」「チャレンジ精神」の育成が期待できる行事としている。また、校内一斉清掃は校内美化運動として定着しており、学生と教職員が共に汗を流して行う清掃活動により「公民としての資質」の向上を図るもので、教育の目的に沿った行事と捉えている。

厚生補導に関することは、これを掌理する学生主事(学則 9 条)と学生副主事、主事補 2 名を配置したうえで、厚生補導委員会、学級担任との連携をはかりながら各種の学生指導にあたっている(資料 5-4-2-2-3)。

学生会組織に属するクラブは、学生会準則第2条目標に「自主性を育てる」「心身の健康を助長」 「民主的に行動する」「公民としての資質を向上する」等に努めることとされていて、いずれも"養成すべき人材像"に沿って活動している。

また「チャレンジ精神」の涵養や「ものづくり教育」の観点から、学生が団体を結成してのロボットコンテストやプログラミングコンテストといった競技会への参加、また日刊工業新聞社主催のキャンパスベンチャーグランプリへの学生応募を学校として奨励している。それぞれ指導教職員を配して活動支援を行なっている(資料 5-4-2-4-6)。

学生の心身の健康に対する配慮として、学外のカウンセラーに依頼して学内でカウンセリングが受けられるよう配慮している。このほか、学生相談員も複数人配置して(資料5-4-2-7~8)「健全な心身」の育成に努めている。

学生会関係資料(1/3)

学生会関係

(1) 詫間電波工業高等専門学校学生会準則

- 第1条 学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じて、その人間形成を助長し、 高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。
- 第2条 学生会は、前条の目的を実現するために、次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。
- (1) 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、良い校風を作る態度を養う。
- (2) 健全な趣味や豊かな教養を養い、 個性の伸長を図る。
- (3) 心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。
- (4) 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに集団生活において協力し、民主的に行動する態度を養う。
- (5) 学校生活において自主的能力を養うとともに、公民としての資質を向上させる。
- 第3条 学生会活動を行うにあたっては、次に掲げる事項を遵守するとともに、法令及び学則、 学生準則その他学校の定める諸規則に違反してはならない。
 - (1) 学生会は、学校の教育方針に従い、学校の教育使命の達成に寄与しなければならない。
 - (2) 学生会は、本来の目的使命に従い、その目的を逸脱し、学園の秩序を乱す活動を行ってはならない。
 - (3) 学生は、学生会の運営についてつねに深い関心をはらい、その活動に積極的に参加しなければならない。
 - (4) 学生会は、会員の総意に基づいて運営されなければならない。又、いかなる場合において も、個人の思想、良心などに関する基本的な自由を侵してはならない。
- (5) 学生会は、学外活動を行うにあたっては、学校の承認と指導を受け、学生会の目的の範囲内において行動しなければならない。
- (6) 学生会は、その目的使命の達成上必要があり、かつ学生会の自主性がそ害されないと認めて学校が承認した場合に限り、学外団体に加盟することができる。
- 第4条 学生会は、学生全員をもって構成するものとする。
- 2 学生は、入学と同時に学生会の構成員となるものとする。
- **第5条** 学生会に、総会等の議決及び執行の機関を置き、またクラブ活動のための各種の部を設けるものとする。
- 2 学生は、その希望に応じて、いずれかの部を選んで所属するものとする。
- 第6条 学生会は、規約を制定して学校の承認を受けるものとする。

規約の変更についても同様とする。

- (1) 名 称
- (2) 目的
- (3) 構 成
- (4) 組 織
- (5) 役員の種類, 任務及びその任期
- (6) 総会, 委員会等の機能と権限
- (7) クラブの種類
- (8) 会費に関すること。
- (9) 会計に関すること。

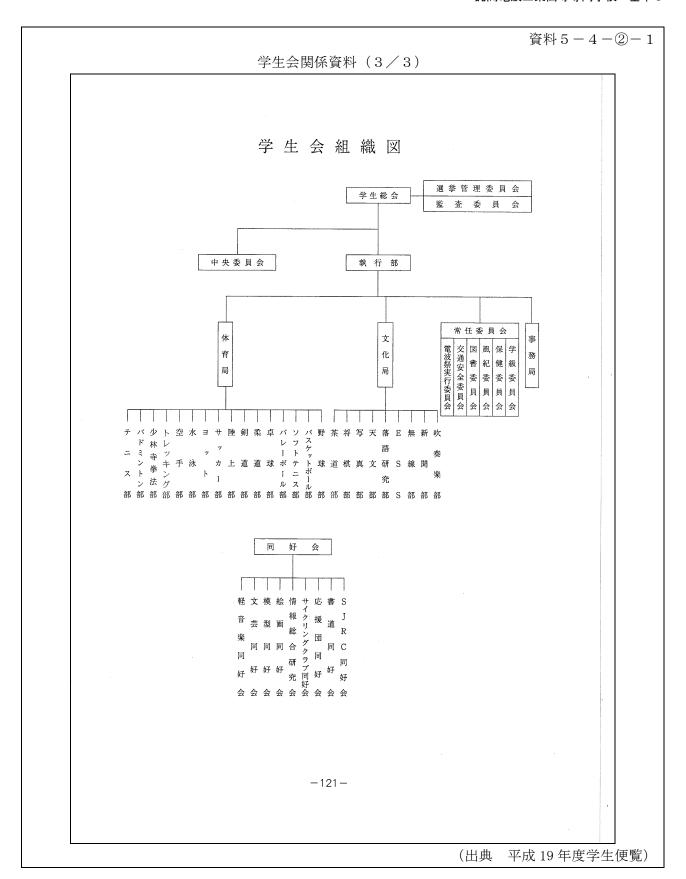
-113-

学生会関係資料(2/3)

- (10) 校長の最終決定権及び教員の指導に関すること。
- (11) 選挙に関すること。
- (12) 規約の改正に関すること。
- (13) 規約の発効に関すること。
- 第7条 学生会は、毎年度、事業計画書及び収支予算書について学校の承認を受け、また事業報告書及び収支決算書を学校に提出するものとする。
- 第8条 学生会の指導については、 校長の命を受けて、学生主事が総括する。
- 2 各部局には校長の命じた指導教員を置いて、それぞれの活動の指導にあたるものとする。
 附 則

この準則は、平成16年4月1日から施行する

-114-



学生への連絡事項の例

平成18年7月3日

学生主事

学生への連絡事項

1. 校内美化運動について

校内美化運動を**7月6日(木)(7月7日(金)雨天順延)**に行います。学生は、担当 区域をクラス担任、副担任、補助教員の指導に従って清掃をしてください。

虫さされなどの被害を受けないよう, **長袖, 長ズボン**の体操服等を着用してください。

2. 壮行式について

7月10日(月) 13時5分から、壮行式を第二体育館で行います。5分前には集合してください。なお当日は、午前45分、午後40分の短縮授業となります。

壮行式にでる各クラブの代表者は、**7月5日(水)16時15分**から視聴覚教室で打ち合わせ会を行いますので、時間厳守で必ず出席してください。

また、1年生は壮行式の練習を**7月5日(水)16時10分**から第2体育館で行います。時間厳守で集合してください。

3. 自転車点検の整備について

先に行った自転車点検において不良箇所を指摘された学生で、まだ配布の用紙を提出 していない学生がいます。指摘された箇所を整備し、すぐに提出しなさい。

4. 授業料免除の説明会について

後期授業料免除の説明会を**7月7日(金) 16時15分**から**視聴覚教室**で行います。 免除を希望する学生は**筆記用具持参**で必ず参加してください。

5. 節電について

節電も心がけてください。教室の電気や扇風機をつけっぱなしにしないよう、教室移動等で最後に教室を出る学生は、必ず確認をしてください。

6. 高校野球香川県大会について

高校野球香川県大会の組み合わせが決定しました。本校は、7月14日 (金) 第1試合 (10:00~) で高松西高校と対戦します。応援を希望する学生は7月11日 (火) までに学生係に申し込みをしてください。多くの学生が応援をしてくれることを期待しています。

7. 直行バスの時刻変更ついて

7月11日(火)から13日(木)の間、帰りのバス直行便は、15時10分発に変更になります。朝の便の変更はありません。

また、7月14日(金)から8月31日(木)の、朝夕の直行便は運行されませんので間違わないようにしてください。

(出典 教室掲示文書)

クラブ・同好会顧問一覧

平成19年度 顧問等一覧

クラブ名	顧問教員		クラブ名	顧問教員		学生会関係	顧問教員		県人会関係	顧問教員
7774	正	副	2224	Œ	副	サエム 別 小	正	副	ボバム関係	NO 1017X 94
[体育局]			写真部	森岡		執行部	月本		香川県	
野球部(高専)	福間	塩沢	落語研究部	野中		体育局	有馬	塩田	東讃	森本敏
野球部(高校)	高城	畑、天造、森孝、青海、長谷部	天文部	澤田		文化局	三崎		中讃	國井
バスケットボール部	有馬	東田、白石	将棋部	笠井		監査委員会	金澤			須那
ソフトテニス部	三河	一色	茶道部	森和		中央委員会	月本		愛媛県	福永
バレーボール部(男子)	雛元	富士原	100000000000000000000000000000000000000	35600.51344		選挙管理委員会	辻琢		高知県	金澤
バレーボール部(女子)	徳永	清水	[同好会]			学級委員会	森和		徳島県	木下
卓球部	小野	宮武、細谷	SJRC同好会	細谷	内田	風紀委員会	有馬		岡山県	鳥越
柔道部	川染	松下	書道同好会	森孝	- C12/12/AC (0	図書委員会	村上		中国地方	笠井
剣道部	村上	鳥越	応援団同好会	福永		交通安全委員会	森和		近畿地方	野中
陸上部	塩田	森本敏、森和	サイクリングクラブ同好会	須那		保健委員会	有馬		九州地方	高城
サッカー部	金澤	河田純、草間	情報総合研究会	今城		電波祭実行委員会	月本		関東·中部地方	井上斌
ヨット部	月本	金澤	絵画同好会	澤田						
水泳部	真鍋	谷口、矢木	模型同好会	白石						
空手部	田嶋	井上斌	文芸同好会	細谷	000	ÿ	Č.			
トレッキング部	辻琢	井上忠、橋本、森宗	軽音楽同好会	山本	木下					
少林寺拳法部	南	國井	COLUMN TO THE RESIDENCE OF THE PARTY OF THE							
バドミントン部	奥山	山本	[その他(愛好会)]							
テニス部	長岡	籍目、福永	テープルトークRPG愛好会	宮武						
7753 NO. 185 NO. 18			映画研究会	月本					[校外補導教員]	eterciecio
[文化局]	55,000		演劇愛好会	増田					(以東列車担当)	鳥越
吹奏楽部	三崎	天造、梶、橋本	エコカー愛好会	天造						
新聞部	内田		フットサル愛好会	内田						
無線部	井上忠		鉄道愛好会	南						
ESS	鳥越									

(出典 学生課資料)

ロボットコンテスト関連活動実績



第130号 2007.3



全国高専ロボットコンテスト優勝・ロボコン大賞受賞 三豊市優勝報告会にて

年度	コンテスト参加結果	コンテスト参加 学生人数	対応教職員
平成 18 年度	全国大会:優勝・ロボコン大賞	2 チーム	三崎
2006	四国地区大会:優勝,技術賞	29 名	田嶋
平成 17 年度	全国大会:ベスト8	2 チーム	三崎
2005	四国地区大会:優勝,アイディア賞	25 名	白石
平成 16 年度	全国大会:準優勝	2 チーム	三崎
2004	四国地区大会:優勝	24 名	白石
平成 15 年度	全国大会:ベスト4	2 チーム	三崎
2003	四国地区大会:優勝,準優勝	*	白石
平成 14 年度	全国大会:2回戦	2 チーム	三崎
2002	四国地区大会:準優勝,特別賞	20 名	白石

* 参加人数の記録なし

http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/robocon.htm

(出典 詫間だより, 出場申込み記録)

プログラミングコンテスト関連活動実績



第127号 2006.3



全国高専プログラミングコンテスト競技部門準優勝、自由部門審査委員特別賞

年度	コンテスト参加結果	コンテスト参加 学生人数	対応教職員
平成 18 年度 2006	課題部門:敢闘賞 自由部門:優秀賞	4 チーム 18 名	高城 宮武 鰆目
平成 17 年度 2005	自由部門:審査員特別賞 競技部門:準優勝	4 チーム 18 名	高城 宮武 鰆目
平成 16 年度 2004	課題部門:審査員特別賞 自由部門:敢闘賞	3 チーム 13 名	宮武 金澤
平成 15 年度 2003	課題部門:敢闘賞 自由部門:審査員特別賞,学生交流企 画賞	3 チーム 14 名	高城金澤
平成 14 年度 2002	自由部門:審查員特別賞	2 チーム 10 名	松下

http://www.takuma-ct.ac.jp/gakusei/procon.htm

(出典 詫間だより, 出場申込み記録)

詫間電波工業高等専門学校 基準 5

資料 5-4-2-6

キャンパスベンチャーグランプリSHIKOKU

年度	応募件数	受賞歴
H18	5 件	受賞 4 件:最優秀賞(全国大会審査員特別賞),優秀賞・四国
		経済産業局長賞,優秀賞,奨励賞
H17	3 件	受賞1件:奨励賞
H16	12 件	受賞3件:日刊工業新聞社賞,奨励賞,佳作
H15	3 件	受賞1件:佳作

(出典 総務課資料)

カウンセラー・学生相談員

(6) 各種相談制度

ア 学生相談

学生生活を送る上において心配や悩みごとができた際、一人で悩み続けると楽しいはず の学生生活が暗く沈んだものになります。そうならないために、本校では学生相談室を設 けています。この相談室は、学生がさまざまな悩みから解放され、充実した学生生活を送れ るように問題解決の相談に応じるものです。相談に関する秘密は厳守されるので、 気軽に利 用してください。

担当		氏	名		日	時	場所
相談室長		色	弘	Ξ			
相談室員	細	谷		守			
相談室員	内	田	由理	₹子	随	時	夕业昌宁华
相談室員	青	海	惠	之	旭	h4	各教員室等
相談室員	木	下	敏	治			
相談室員	野	中	清	孝			
カウンセラー	古	Ш	信	子	第1・第 午後4:00		学生相談室
カウンセラー	島	原		恵	毎週 月曜日 午後1:30~5:30		図書館2階
看 護 師	三	﨑	保	子	随	時	保 健 室

イ 健康相談

毎年春季に定期健康診断・身体測定等を実施しているが、これとは別に毎月1回学校 医(内科医)・長期休暇前(歯科医)による健康相談日を設けて、相談に応じている。体に 不安がある学生は相談すること。場所は保健室で、日時はその都度周知する。

(7) 福利施設の利用

学生談話室

学生の教養の向上、親睦及び憩いの場として第一講義棟1階に、学生談話室を設置し ている。利用者は、お互いに整理・整頓を心掛け、学生全員が気持ちよく使えるように気 をつけること。利用時間は次のとおりである。

平日のみ 8:30~17:00

福利センター

学生及び教職員の福利厚生を図るとともに、学生の課外活動等を助成する目的で福利 センターがある。センター内には食堂・売店・談話室・オーディオルーム・研修室等があ り、利用時間は次のとおりである。

・売店

平 日

10:30~20:00

平日の前の休日

18:00~20:00

・食 堂

平日のみ

10:30~13:30

-10-

・オーディオルーム・研修室 9:00~19:00

談話室

終 \exists

資料 5-4-2-8

カウンセリングポスター

スクールカウンセラー

「スクールカウンセラーを知っていますか? あなたの 心のつぶやき 聞かせてください」





古川 信子 先生 島原 一恵 先生

第1・3週 金曜日

每週 月曜日

午後4時00分~ 午後1時30分~

図書館 2階 学生相談室

相談予約は、保健室まで!!

(出典 学内ポスター)

(分析結果とその根拠理由)

身体的および精神的な成長を助長させる課外活動の運営がなされ、生活指導や精神的な問題に対す る支援体制も整備されている。各種の学校行事や学生会活動、各種コンテスト参加への取組支援を通 じて,「健全な心身」,「チャレンジ精神」,「自然との調和」,「自主性」,「心身の健康」, 「民主的な行動」, 「公民としての資質の向上」などの教育の目的に適合する人間の素養の涵養に取 り組んでいる。

以上のことから、観点を満足していると判断する。

<専攻科課程>

観点5-5-①: 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

電子通信システム工学専攻の教育課程(資料5-5-①-1)は情報通信工学科,電子工学科の課程を,情報制御システム工学専攻の教育課程(資料5-5-①-2)は電子制御工学科,情報工学科の課程を発展させている。各学科の基幹科目とのつながりは資料 $5-1-①-14\sim17$ に示されている。

専攻科課程の学習・教育目標に対する達成度水準は、準学士課程のものより高く設定されている(資料 $1-1-①-7\sim9$)。準学士課程よりも高い達成度が設定されている科目を資料5-5-①-3に示す。

資料5-5-①-1

電子通信システム工学専攻教育課程表

			単	学	年月	別配	当	必修	修得
区	分	授 業 科 目	· 位	1	年		年	選択	単位
			数	前期	後期	前期	後期	の別	数
		コミュニケーション英語 Ι	2	1	1			必修	2
		コミュニケーション英語 Ⅱ	2			1	1	必修	2
-	п.	技術者倫理	2	2				必修	2
月五	投 斗	文学特論	2			2		選択	
1	+ }	物理科学特論	2		2			選択	*
'	-	応用数学特論	2	2				選択	4
		知的財産権	2		2			選択	
		一般科目開設単位数	14	5	5	3	1		
		工業英語	2		2			選択	
		工業数学	2	2				選択	
		量子力学	2		2			選択	
		グラフ理論	2	2				選択	
	専	情報工学基礎論	2	2				選択	
	門	数値計算論	2		2			選択	
	共	情報ネットワーク論	2	2				選択	*
	通	計測工学特論	2		2			選択	4
	科	ディジタル信号処理工学	2			2		選択	
専	目	マルチメディア工学	2			2		選択	
		アルゴリズムとデータ構造	2	2				選択	
		ソフトウェアエ学概論	2				2	選択	
		エネルギー変換論	2				2	選択	
門		特別講義	2			2		選択	
		専門共通科目開設単位数	28	10	8	6	4		
		特別研究	10	4	4	(ĵ	必修	10
科		特別実験•演習 I	4	4	4			必修	4
1		特別実験・演習Ⅱ	4			•	4	必修	4
		集積回路工学	2			2		必修	2
	専	応用電磁気学	2	2				必修	2
目	攻	材料工学	2		2			選択	
	攻	電子物性	2	2				選択	
	科	電子デバイス工学	2				2	選択	
	17	電磁波•光波工学	2		2			選択	
	目	光通信工学	2			2		選択	*
	Ι -	通信理論	2		2			選択	
		システム工学	2			2		選択	
		ニューロ・ファジィ技術	2				2	選択	
	専攻科目開設単位数計			12	6	16	4		
専門科目開設単位数計				22	14	22	8		
	一般	•專門科目開設単位数合計	80	27	19	25	9		
		修得単位数合計			6 2	単 位	以上		

(出典 平成19年度専攻科学生便覧23頁)

資料 5-5-①-2

情報制御システム工学専攻教育課程表

			単	学	生年月	引 配	当	必修	修得	
区	分	授 業 科 目	· 位	1	年		年	選択	単位	備考
			数	前期	後期		•	の別	数	1713
		コミュニケーション英語 [2	1	1	11.777	12.791	必修	2	演習
		コミュニケーション英語Ⅱ	2			1	1	必修	2	演習
l -	_	技術者倫理	2	2		'	•	必修	2	次日
舟	设	文学特論	2			2		選択		
<u>†</u>	화 를	物理科学特論	2		2			選択		
	∃	応用数学特論 応用数学特論	2	2				選択	*	
		知的財産権	2		2			選択		
		一般科目開設単位数	14	5	5	3	1	达八		
		工業英語	2	J	2	3	-	選択		
		工業数学	2	2				選択		
		量子力学	2		2			選択		
		グラフ理論	-							
			2	2				選択		
	専	情報工学基礎論 ** 体記 第 1	2	2	0			選択		
		数値計算論	2	_	2			選択		
	共通	情報ネットワーク論	2	2	_			選択	*	
	超科	計測工学特論	2		2			選択		
	目目	ディジタル信号処理工学	2			2		選択		
		マルチメディア工学	2	_		2		選択		
専		アルゴリズムとデータ構造	2	2			_	選択		
		ソフトウェアエ学概論	2				2	選択		
		エネルギー変換論	2				2	選択		
門		特別講義	2			2		選択		
' '		専門共通科目開設単位数	28	10	8	6	4	S. 15		
		特別研究	10		1		6	必修	10	実験
		特別実験・演習I	4	- 4	4		_	必修	4	実験
科		特別実験•演習Ⅱ	4				4	必修	4	実験
		システム制御理論	2			2		選択		
	=	数式処理概論	2			2		選択		
	専	画像処理工学	2		2			選択		
目	攻	生体工学	2			2		選択		
	-7.	電力制御機器工学	2				2	選択	*	
	科	光エレクトロニクス	2	2				選択	·	
		人工知能	2		2			選択		
	目	オブジェクト指向プログラミング	2	2				選択		
		医用工学	2		2			選択		
		教育システム工学	2			2		選択		
		専攻科目開設単位数計	38	12	6	18	2			
		専門科目開設単位数計	66	22	14	24	6			
	_	般•専門科目開設単位数合計	80	27	19	27	7			
		修得単位数合計				単位	以上			
ч—										

(出典 平成19年度専攻科学生便覧24頁)

資料 5-5-①-3

専攻科で新たに達成すべき達成度基準と科目対応表 (1/2)

電子通信システム工学専攻

学習·教	学習	準学士課程 ***			新たに習得すべる	き達成度	より高度な達成度
育目標	成果	達成度水準	達成度水準	達成度	対応する必修科目	対応する選択科目	対応する科目
	A1	1-3	1-4	4	技術者倫理	なし	
Α	A2	1,2	1-4	3,4	技術者倫理	なし	
	A3	1-3	1-4	4	技術者倫理	なし	
	В1	日 1,2 日 1-3 英 1,2 英 1-3		日 3 英 3	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 I 特別研究 特別実験・演習 I 特別実験・演習 I	なし	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 I 特別研究
В	B2	日 1,2 日 1 英 1,2 英 1		日 3 英 3	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 I 特別研究	なし	
	ВЗ	日 1-3	日 1-4	日 4	コミュニケーション英語 I	なし	なし
	C1	2項目	3項目	(3項目)	特別研究	なし	特別研究
	C2	2項目 2項目					
С	C3	- 74		(4項目)	特別研究 特別実験・演習 I	なし	なし
	C4	1-7	1-8	8	特別研究		
	D1	1-3	1-4	4	応用電磁気学	工業数学	
	D2			4	特別研究 応用電磁気学	グラフ理論 ディジタル信号処理工学 アルゴリズムとデータ構造	グラフ理論 情報ネットワーク論
	D3	1,2	1-3	3	特別実験・演習 I 集積回路工学	なし	応用電磁気学
D	D4	1	1,2	2	集積回路工学	数値計算論 ディジタル信号処理工学 マルチメディア工学 特別講義 光通信工学	応用電磁気学 マルチメディアエ学
	D5	1,2	1-3	3	特別研究	特別研究 数値計算論	
	E1	1,2	1-3	3	特別研究 特別実験・演習 Ⅱ	なし	特別研究
E	E2	1,2	1-3	3	集積回路工学	情報工学基礎論 ソフトウェア工学概論	
-	E3	1-3	1-3				
	E4	1,2	1,2				
	E5	1,2	1,2				
	E6	1-3	1-3				

注:斜線は該当する項目の新規の達成度がないことを示している。

専攻科で新たに達成すべき達成度基準と科目対応表 (2/2)

情報制御システム工学専攻

学習·教	学習	準学士課程			新たに習得す	べき達成度	より高度な達成度
育目標	灰果	達成度水準	達成度水準	達成度	対応する必修科目	対応する選択科目	科目
	A1	1-3	1-4		技術者倫理	なし	
Α	A2	1,2	1-4	3,4	技術者倫理	なし	
	A3	1-3	1-4	4	技術者倫理	なし	
	B1	日 1,2 英 1,2	日 1-3 英 1-3	日 3 英 3	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 I 特別研究	なし	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 II 特別研究
В	B2	日 1,2 英 1,2	日 1-3 英 1-3	日 3 英 3	コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 I 特別研究	なし	
	В3	日 1-3	日 1-4	日 4	コミュニケーション英語 I	なし	なし
	C1	2項目	3項目	(3項目)	特別研究 特別実験・演習 I 特別実験・演習 II	なし	特別研究 特別実験・演習 I 特別実験・演習 II
С	C2	2項目	2項目				
	C3	3項目	4項目	(4項目)	特別研究 特別実験・演習 I 特別実験・演習 II	なし	なし
	C4	1-7	1-8	8	特別研究	なし	
	D1	1-3	1-4	4	なし	工業数学 電力制御機器工学	
	D2	02 1-3 1-4 4		4	特別研究	グラフ理論 ディジタル信号処理工学 アルゴリズムとデータ構造 オブジェクト指向プログラミング	グラフ理論 情報ネットワーク論
	D3	1,2	1-3	3	なし	オブジェクト指向プログラミング	医用工学
D	D4	1	1,2	2	なし	数値計算論 ディジタル信号処理工学 マルチメディア工学 特別講義 人工知能 教育システム工学	マルチメディア工学
	D5	1,2	1-3	3	特別研究	特別研究 数値計算論	
	E1	1,2	1-3	3	特別研究 特別実験・演習 I	なし	特別研究 特別実験・演習 I
E	E2	1,2	1-3	3	なし	情報工学基礎論 ソフトウェア工学概論	
	E3	1-3	1-3				
	E4	1,2	1,2				
	E5	1,2	1,2				
	E6	1-3	1-3				

注:斜線は該当する項目の新規の達成度がないことを示している。

(出典 シラバスより集計)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の科目は、基礎学科の基幹科目を発展させたものである。また、学習・教育目標の達成度水 準に関しても、専攻科課程の水準は準学士課程の水準をさらに高めたものになっている。連携が考慮 されている。 観点5-5-②: 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置(例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。)され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点に係る状況)

学習・教育目標実現のため、要所に必修科目が配置され、選択科目が補完している(資料 5-5-2-1)。また、各専攻の教育目的(資料 5-5-2-2)に対応した専門科目が配置されている(資料 5-5-2-3,4)。多数の選択科目により、各学生の学習履歴、志望分野に応じた効率的な履修を可能にしている。

科目配置時期に関しては、早期に基礎科目を配置し、2年間4期のなかでも系統性が取れるようにしている(資料5-5-2-5)。2年次後半の開講科目数を減らして、特別研究で自主的な取り組みの時間を確保できるようにしている(資料5-5-2-6)。人文・社会系の科目、理数系の科目、基礎的専門科目、発展的専門科目のバランスもよい(資料5-5-2-7)。

専攻科の授業は、専攻科課程の学習・教育目標に対する達成度水準を実現する適切なものとなっている(資料5-5-2-8)。

学習・教育目標と科目の対応表

電子通信システム工学専攻

学習·教育目標	必修·選択 の別	第1学年	第2学年
A:技術者としての責任を自覚	必修	技術者倫理	
し、人類の福祉に貢献できる B:日本語及び英語で共同作	選択 必修	 コミュニケーション英語 I	 コミュニケーション英語 I
業を良好に行うことができる.	選択	<u>特別研究</u> 工業英語	特別研究
C:情報機器を活用して情報収 集や情報分析, 文書作成, ロ	必修	— 宋八昭 特別研究 特別実験・演習 I	特別研究 特別実験・演習 I
頭発表ができるようになる.	選択		
D:技術者としての基礎知識を 身につけ、高度な関連技術を 修得し、広い視野を持って技術	必修	特別研究	特別研究 集積回路工学 応用電磁気学
の発展に対応できるようにな る.	選択	ほとんどの科目	ほとんどの科目
E:与えられた課題を達成する 手段を設計し、粘り強く問題解 決に取り組むことができるよう	必修	特別研究 特別実験・演習 I	特別研究 特別実験·演習 I 集積回路工学
になる.	選択	情報工学基礎論 数値計算論 情報ネットワーク論	マルチメディア工学ソフトウェア工学概論

情報制御システム工学専攻

学習·教育目標	必修·選択 の別	第1学年	第2学年
A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる	必修	技術者倫理	
倫理観を身に付ける.	選択		
B:日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.	必修	コミュニケーション英語 I 特別研究	コミュニケーション英語 Ⅱ 特別研究
未を反対で行うことができる。	選択	工業英語	
C:情報機器を活用して情報収 集や情報分析, 文書作成, ロ	必修	特別研究 特別実験・演習 I	特別研究 特別実験・演習 I
頭発表ができるようになる.	選択		
D:技術者としての基礎知識を 身につけ、高度な関連技術を 修得し、広い視野を持って技術	必修	特別研究	特別研究
の発展に対応できるようにな る.	選択	ほとんどの科目	ほとんどの科目
E: 与えられた課題を達成する	必修	特別研究	特別研究
手段を設計し、粘り強く問題解 決に取り組むことができるよう になる.	選択	情報工学基礎論 数値計算論 情報ネットワーク論 オブジェクト指向プロ グラミング	マルチメディアエ学 ソフトウェアエ学概論 システム制御理論 生体工学 電力制御機器工学

(出典 シラバスより集計)

専攻科の教育目的

3. 専攻科の目的

(1) 電子通信システム工学専攻

「マルチメディア通信を専門分野とする実践的な高度開発型技術者を育成する。」

現在、情報は多様で豊かな表現内容を持つように求められている。つまり情報はマルチメディア化している。この様な状況に対応して、通信も多様化し、従来の通信より広い意味を持ったマルチメディア通信の技術が必要になっている。このマルチメディア通信の分野において実践的な技術活動をする技術者を養成する。

(2) 情報制御システム工学専攻

「I T技術を専門分野とするシステム構築能力に長けた実践的な高度開発型技術者を育成する。」

本専攻はITシステムの開発、保守運用などITシステムに関連する様々な技術側面に対応できる実践的技術者を養成することを目的としたものである。ITシステムはコンピュータを核としたシステムであるが、その全容を理解するためには様々な工学的知識が必要である。そのために本専攻では、ハードウェアからソフトウェアまでの幅広い工学基礎知識を持ち、電子工学、機械工学などの基盤に立ったシステム構築能力を備え、コンピュータネットワークを含むIT技術を習得した、創造性に富む実践的な高度開発型技術者を養成する。

(出典 専攻科学生便覧5頁)

教育課程の特徴(編成方針)

2. 教育課程の特色

電子通信システム工学専攻

マルチメディア通信技術を構成するシステムを含む技術、システムを構成する電子回路、及びその電子回路を構成する電子デバイス技術からなる融合した階層構造の技術の教育プログラムである。

すなわち,通信システムの構成要素である電子デバイス,電子回路などの設計・開発ができる技術者への道と通信システムそのものの設計・開発や保守・運用ができる技術者への道のどちらかを選択可能にし、通信システムに対してミクロな視点から興味を持っている学生に対しても、マクロな視点から興味を持っている学生に対しても、意欲的に勉学できる教育課程を編成している。

情報制御システム工学専攻

ハードウェアからソフトウェアまでの幅広い工学知識を有し、システム構築能力に長けた I T技術者を養成する課程である。そのために、教育課程は以下の三つの教育プログラムをバランス良く配置した構成としている。

工学基礎技術教育プログラムではハードウェアからソフトウェアまでの幅広い工学基礎知識を習得する。システム構築技術教育プログラムでは電子工学、機械工学などの基盤に立ったシステム構築技術を習得する。IT技術教育プログラムではIT技術を習得する。さらにこれらの科目を取捨選択することにより、ハードウェアに興味を持つ学生に対しても、ソフトウェアに興味を持つ学生に対しても、システム構築に興味を持つ学生に対しても意欲的に勉強できる教育課程を構成している。

(出典 専攻科学生便覧7頁)

専門講義科目の配置

資料5-5-2-3教育課程の特徴(編成方針)に対応させ、講義科目を、電子通信システム工学専攻では、工学基礎科目、電子工学関連科目、通信システム関連科目、関連工学分野科目に、情報制御システム工学専攻では、工学基礎科目、システム構築技術関連科目、I T技術関連科目、関連工学分野科目と分類し、配置を示す。

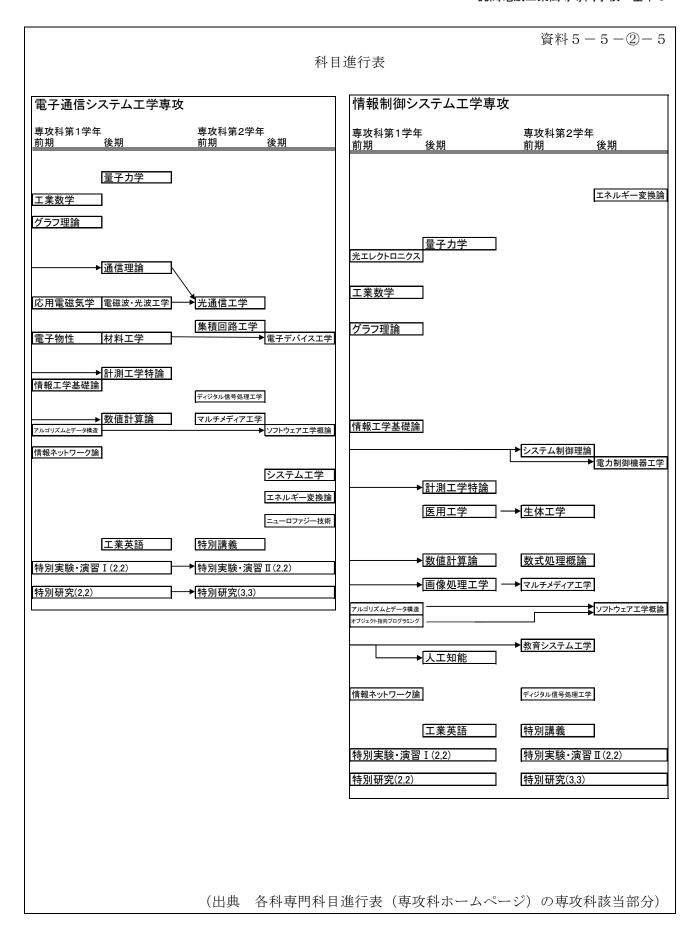
電子通信システム工学専攻

分類	専門共通科目	専攻科目
工学基礎	8科目	1 科目
	工業英語、工業数学、量子力学、グ	応用電磁気学
	ラフ理論,情報工学基礎論,マルチ	
	メディア工学、アルゴリズムとデー	
	タ構造,ソフトウェア工学概論	
電子工学	2 科目	3 科目
	計測工学特論,集積回路工学	材料工学、電子物性、電子デバイス
		工学
通信システム	2 科目	3 科目
	情報ネットワーク論、ディジタル信	電磁波・光波工学、光通信工学、通
	号処理工学	信理論
関連工学分野	3 科目	2 科目
	数値計算論、エネルギー変換論、特	システム工学,ニューロ・ファジィ
	別講義	技術

情報制御システム工学専攻

分類	専門共通科目	専攻科目
工学基礎	8 科目	0 科目
	工業英語,工業数学,数值計算論,	
	グラフ理論,情報工学基礎論,マル	
	チメディア工学,アルゴリズムとデ	
	ータ構造、ソフトウェア工学概論	
システム構築技術	2 科目	3 科目
(制御工学,システム工学)	ディジタル信号処理工学, 計測工学	システム制御理論、電力制御機器工
	特論	学,教育システム工学
I T技術 (情報工学)	1 科目	4 科目
	情報ネットワーク論	数式処理概論,画像処理工学,人口
		知能、オブジェクト指向プログラミ
		ング
関連工学分野	3 科目	3 科目
	量子力学,エネルギー変換論,特別	生体工学,光エレクトロニクス, 医
	講義	用工学

(出典 教育課程表から集計)



専攻科の週当たりの拘束時間

電子通信システム工学専攻拘束時間(カッコ内の数は単位数を示す)

		1	年	2年				
		前期	前期後期		後期			
一般科目		6 (5)	6 (5)	4 (3)	2 (1)			
専門科目	専門共通科目	10 (10)	8 (8)	6(6)	4(4)			
	専攻科目	16 (8)	18 (10)	21(11)	19 (9)			
合計		32 (23)	32 (23)	31 (20)	25 (14)			

情報制御システム工学専攻拘束時間(カッコ内の数は単位数を示す)

		1	年	2年				
		前期	後期	前期	後期			
一般科目		6 (5)	6 (5)	4 (3)	2 (1)			
専門科目	専門共通科目	10 (10)	8 (8)	6(6)	4(4)			
	専攻科目	16 (8)	18 (10)	23 (13)	17 (7)			
合計		32 (23)	32 (23)	33 (22)	23 (12)			

注:拘束時間は教育課程表の科目をすべて履修した場合で、特別研究、特別実験・演習を含む。 (出典 専攻科教育課程表(資料5-5-①-1, 資料5-5-①-2) より作成)

専攻科科目分類

	電子通信システム工学	情報制御システム工学
人文・社会系科目	6 科目	6 科目
	(コミュニケーション英語 I , コミ	(コミュニケーション英語 I , コミ
	ュニケーション英語Ⅱ,文学特論,	ュニケーション英語Ⅱ,文学特論,
	技術者倫理, 知的財産権, 工業英	技術者倫理,知的財産権,工業英
	語)	語)
数理系科目	5 科目	5 科目
	(物理科学特論, 応用数学特論, 工	(物理科学特論, 応用数学特論, 工
	業数学,量子力学,グラフ理論)	業数学,量子力学,グラフ理論)
基礎的専門科目	9 科目	9 科目
	(情報工学基礎論,情報ネットワー	(情報工学基礎論,情報ネットワー
	ク論、計測工学特論、デジタル信号	ク論、計測工学特論、デジタル信号
	処理工学,マルチメディア工学,ア	処理工学、マルチメディア工学、ア
	ルゴリズムとデータ構造,ソフトウ	ルゴリズムとデータ構造,ソフトウ
	ェア工学概論, エネルギー変換論,	ェア工学概論)
	特別講義)	
発展的専門科目	11 科目	11 科目
	(集積回路工学, 応用電磁気学, 材	(システム制御理論,数式処理概
	料工学,電子物性,電子デバイス工	論, 画像処理工学, 生体工学, 電力
	学, 電磁波·光波工学, 光通信工	制御機器工学、光エレクトロニク
	学,通信理論,システム工学,ニュ	ス,人工知能,オブジェクト指向プ
	ーロ・ファジィ技術)	ログラミング, 医用工学, 教育シス
		テム工学)
 (出身	教育課程表(資料5-5-①-	1,資料5-5-①-2)より集

平成19年度 専攻科科目と学習・教育目標,学習成果,到達度基準との対応表 (1/2)

表の各列は学習・教育目標,学習成果を示し,各列の科目ごとの値は,その科目が該当する学習・教育目標,学習成果のどの到達度基準に対応しているかを示す。

電子通信システム工学専攻

	++4 40	学	選	単	履	修		Α			В			-	0				D						E		
	専攻科 科目	学年	択	単 位	履修	修得	A1		A3	B1		B3	C1		_	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2		_	E5	E6
	コミュニケーション英語 I	1	必	2	0					1-4	1-3	1-4															
	コミュニケーション英語 🏾	2	必	2	0					1-3	1-3																
-	技術者倫理	1	必	2	0		1-4	1-4	1-4																		
般科	文学特論	2	選	2			3			1.2	1.2				1												
17	物理科学特論	1	選	2											3		2										
-	応用数学特論	1	選	2													1.2										
	知的財産権	1	選	2														1-3									
	工業英語	1	選	2						4	2																
	工業数学	1	選	2													1-4										
	量子力学	1	選	2													1-3										
	グラフ理論	1	選	2														1,2,4-6									
-	情報工学基礎論	1	選	2														1,3					1-3	1-3	1-2	1-3	1
専門	数值計算論	1	選	2													1-3	1-3	1,2	1,2	1-3					1-3	1-3
共	情報ネットワーク論	1	選	2														1,3,5	2				1	1,3			
通	計測工学特論	1	選	2														1,2	1								
科目	ディジタル信号処理工学	2	選	2														1-4	2	2							
H	マルチメディア工学	2	選	2														1		1-3				1,2			
	アルゴリズムとデータ構造	1	選	2														1-4									
	ソフトウェアエ学概論	2	選	2														1			1		1-3	1	1,2		
	エネルギー変換論	2	選	2														3	2								
	特別講義	2	選	2															2	1,2							
	特別研究	1	必	4	0					1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			2	1-4				1,2	1,2
	特別研究	2	必	6	0					1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			2	1-4				1,2	1,2
	特別実験・演習I	1	必	4	0					3	1,2		1,2	2	1-4			3	1,3		1	1	2		2	2	2
	特別実験・演習Ⅱ	2	必	4	0					3	2											1-3	2		2	2	2
	集積回路工学	2	必	2	0													1-3	1-5	1-3			1-3				
専	応用電磁気学	1	必	2	0												1-4	1-4	1								
攻	材料工学	1	選															1,2									
科	電子物性	1	選									1-3						1-3									
目	電子デバイス工学	2	選															1-3	1					1			
	電磁波·光波工学	1	選	2														1-3									
	光通信工学	2	選	2														1-3	2	1,2							
	通信理論	1	選														1-3	1-3									
	システム工学	2	選	2														1-3									
	ニューロ・ファジィ技術		選																								
	専攻科課程の達成度水準						1-4	1-4				日 1-4				1-8	1-4	1-4	1-3	1,2	1-3	1-3	1-3	1-3	1,2	1,2	1-3
										英 1-3	英 1-3		以上	以上	以上												

平成19年度 専攻科科目と学習・教育目標,学習成果,到達度基準との対応表 (2/2)

情報制御システム工学専攻

	専攻科 科目	学年	選択	単位	Į R	夏	履		Α			В				С				D					Е	
	等权件 科目	年	択	. 位	作	夏多	修	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4
	コミュニケーション英語 Ι	1	必	2)					1-4	1-3	1-4													
	コミュニケーション英語 🏻	2	必	2)					1-3	1-3														
<u>—</u>	技術者倫理	1	必	2	()		1-4	1-4	1-4																
般科	文学特論	2	選	2				3			1,2	1,2				1										
目	物理科学特論	1	選	2												3		2								
	応用数学特論	1	選															1,2								
	知的財産権	1	選																1-3							
	工業英語	1	選	2							4	2														
	工業数学	1	_															1-4								
	量子力学	1	選	2														1-3								
	グラフ理論	1	選																1,2,4-6							
専	情報工学基礎論	1	選																1,3					1-3	1-3	1-2
門	数値計算論	1	選															1-3	1-3	1,2	1,2	1-3				
共通科	情報ネットワーク論	1	選																1,3,5	2				1	1,3	
通	計測工学特論	1	選																1,2	1						
日目	ディジタル信号処理工学	2	選																1-4	2	2					
	マルチメディア工学	2																	1		1-3				1,2	
	アルゴリズムとデータ構造	1	選																1-4							
	ソフトウェアエ学概論	2	選																1			1		1-3	1	1,2
	エネルギー変換論	2	選																3	2						
	特別講義	2	選																	2	1,2					
	特別研究	1	必		_						1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			2	1-4			
	特別研究	2	必								1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			2	1-4			
	特別実験・演習 I	1	必											1-5		1-4						2	1-4	1		
	特別実験・演習Ⅱ	2)								1-5		1-4						2				
	システム制御理論	2			_													3	3	1,2				2	2	
専	数式処理概論	2			_														1,2							
攻	画像処理工学	1	選																1,2	2						
科目	生体工学	2	選		_									5	3				1,2,3		1				3	
H	電力制御機器工学	2																1-5	1,3					1,2		
	光エレクトロニクス	1	選			Т																				Ш
	人工知能	1	選			⊥													1,2,3	1	1,2					Ш
	オブジェクト指向プログラミング	1	選		_	_													1-4	3				1,2,3	3	
	医用工学	1	選		_	Т													1,3	2,4						Ш
	教育システム工学	2														1					1,2	1				
	専攻科課程の達	成度	水	準				1-4	1-4	1-4	日 1-3 英 1-3	日 1-	日 1-4	3項目 以上	2項目 以上	4項目 以上	1-8	1-4	1-4	1-3	1,2	1-3	1-3	1-3	1-3	1,2

(出典 シラバスより集計)

(分析結果とその根拠理由)

学習・教育目標と科目の対応表(資料5-5-2-1)及び科目分類(資料5-5-2-7)に示されるように、専攻科課程の学習・教育目標や各専攻の教育目的に沿って科目が体系的に配置されている。目標とする達成度を保証できるように授業内容が設定されている(資料5-5-2-8)。

観点5-5-③: 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程 の編成(例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、イン ターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。)に配慮してい るか。

(観点に係る状況)

学生のニーズとして準学士課程での多様な学習履歴(資料 $5-5-3-1\sim3$), 志望分野に対応する教育がある。必要とされる多くの科目を選択科目とし、各人の状況に合わせた履修を可能にしている(資料 5-5-1-1)。

教育課程で対応できない、学生のニーズ・学術の発展動向・社会からの要請に対応できるように、他専攻の科目履修や他大学の科目履修が可能になっており、実績もある(資料 $5-5-3-4\sim6$)。 香川大学との間で単位互換制度(資料5-5-3-7)を設けている。

学位のニーズに対し、各専攻とも、「電気電子工学」と「情報工学」の学士に対応した授業科目を開講している(資料5-5-3-8)。他分野からの学生も学位取得が可能である(資料5-5-3-3-1に示す。

第一級陸上無線技術士国家試験の一部免除校の認定を受けている(資料5-5-3-10)。

多様な学生(資料 5-5-3-1)の受け入れのために必要な補充教育を、特別実験・演習で対応している。この科目では特別研究と関連する内容の補充が可能である(資料 5-5-3-11)。

資料 5-5-3-1

専攻·出身学科別学位取得状況

年度	専攻	修了	学位」	取得者数
		者数	[出身学科	別取得者数]
			電気電子工学	情報工学
平成 17	電子通信	0(1)	8(1)	0
年度	システム	8(1)	[T:4,E:3,C:1(1),I:0,他:0]	[T:0,E:0,C:0,I:0,他:0]
	情報制御	0 (0)	2	7 (2)
	システム	9(2)	[T:0, E:0, C:2, I:0, 他:0]	[T:0,E:1(1).C:1,I:5(1),他:0]
平成 18	電子通信		9	0
年度	システム	10	[T:5,E:5,C:0 ,I:0,他:0]	[T:0,E:0,C:0,I:0,他:0]
	情報制御	0	2	5
	システム	8	[T:0,E:0,C:3,I:0,他:0]	[T:1, E:0, C:2, I:2, 他:0]

※ 修了者数,取得者数の括弧内は他高専からの入学者数(内数)

※ T:情報通信工学科, E:電子工学科, C:電子制御工学科, I:情報工学科

(出典 教務関係資料から集計)

		資料 5-5-3-2
	準学士課程での選択科目開講数	
学科	4 学年	5 学年
情報通信工学科	一般:7科目	一般:7科目
	専門:11科目	専門:8科目
電子工学科	一般:7科目	一般:7科目
	専門:4科目	専門:8科目
電子制御工学科	一般:7科目	一般:7科目
	専門:14科目	専門:20科目
情報工学科	一般:7科目	一般:7科目
	専門:3科目	専門:9科目

(出典 選択科目履修届けから集計)

資料5-5-3-3

準学士課程での選択科目履修届の例(情報通信)

4 : 詫間電波工業高等専門	学年選択科目学校長殿		文 年 月	日
		青報通信工学科 法名	∤3年	
下記の科目のうち,	()内の〇印の科	目を選択履修	いたしますので	
お届けします。				
	記			
AD-Ed C	,,,			
一般科目	択科目	単位数		
2 () 数学 3 () 数学 4 () 哲学 5 () 独語 6 () 中国	特論(通年) 概論 I (通年) 概論 I (通年) : (通年) : I (通年) 語 I (通年)	(1) (1) (1) (2) (2) (2) (2)	並列開講並列開講	
専門科目	択科目	単位数		
2 () 電子 3 () 無線 4 () 電子 5 () 通信 6 () 電気 7 () 電波	工学 I (前期) 工学 II (後期) 工学演習 (後期) 回路 II (前期) 工学 I (後期) 磁気学 II (前期) 伝送学 I (後期)	(2)	並列開講	
9 () 情報10 () 回路	通信システムA(通年) 処理IV(通年) 網理論(通年) 法 I (通年)		並列開講	
			学科長学	級担任

* 選択科目履修届は、1月16日(火)までに学級担任に提出すること。

(出典 教務作成文書)

資料 5-5-3-4

他の専攻の授業科目の履修、他の大学等で履修した単位の認定に関する規程

(他の専攻の授業科目の履修)

- 第11条 教育上支障がない場合は、他の専攻で開設されている専門科目のうちの選択科目を 履修し、単位を修得することができる。
- **2** 前項の規定に基づき修得した単位は、8単位を超えない範囲で当該専攻における単位として認定することができる。
- 3 第1項により履修する場合は、第4条の規定を準用する。

(他の大学等で履修した単位の認定)

第12条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(出典 専攻科学生便覧 59 頁

詫間電波工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程)

資料5-5-3-5

他専攻の授業科目の修得実績

	電子通信シス	テム工学専攻	情報制御シス	テム工学専攻
	1年	2年	1年	2年
平成 16 年度	0		0	
平成 17 年度	0	0	0	1
平成 18 年度	0	0	0	0

(出典 学生課教務係)

資料 5-5-3-6

他の大学等の授業科目の修得実績

	電子通信シス	テム工学専攻	情報制御シス	テム工学専攻
	1年	2年	1年	2年
平成 16 年度	1ª		1^{b}	
平成 17 年度	0	0	0	1 ^a
平成 18 年度	0	0	0	0

大学:科目名は、a が長岡技術科学大学:「コンピュータネットワークとインターネット」、b が香川大学:「技術開発管理」である。

(出典 学生課教務係)

資料 5-5-3-7

香川大学単位互換科目履修案内

平成18年度

香川大学単位互換科目履修案内

(高専用)





平成18年度 香川大学の単位互換科目について、下記のとおり募集します。

1 単位互換の制度について

香川大学と高松工業高等専門学校及び香川大学と詫間電波工業高等専門学校は、相互の交流と協 力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として授業科目の相互単位互換協定を締結していま

この協定により、高松工業高等専門学校及び詫間電波工業高等専門学校の学生諸君が、香川大学 の授業科目を履修し、そこで修得した単位を、所属する高等専門学校(以下「所属高専」といいます。) が、単位として認定するものです。

香川大学は、特色ある授業科目や、高等専門学校にはないユニークな授業科目を提供し、学生諸 君の関心や興味に応じた授業を履修できるようにしたいと思います。

この制度により受け入れられた学生は、受入大学では**「特別聴講学生」**といいます。

☆ 単位互換制度による特別聴講学生は、所属高専における在学を条件とします。したがって、派遣高専を退学した 場合、本学における特別聴講学生の資格を失います。

特別聴講学生になるまで

履修希望の申し出 履修を希望する旨を所属高専担当係へ申し出ます。

開講日時、場所等について、所属高専担当係から本学担当係に確認 香川大学への連絡 します。

香川 大学 で 受講 実際に授業を受けて、受講するかどうかを学生本人が決めます。

単位互換料目限修顧 の提出 ↓ 単位互換料目の履修を希望する場合は、単位互換科目履修願・写真 果を所属高専に提出します。 (所属高専いら本学へ派遣を申請します。)

科目 履修の許可 科目履修の許可は、所属高等から出願者に通知されます。 バルルで必然は日間途跡に述べいて選考を行い、本学からその結果を

(単位互換科目履修顧に基づいて選考を行い、本学から 所属高専に連絡します。)

講 受請者には、特別聴請学生証が交付されます。

2 授業料について

この特別聴講学生については、検定料、入学料、授業料及び単位認定試験料は必要ありません。 (ただし、実験・実習・実技等でかかる教材費等については、実費を徴収する場合があります。)

3 単位互換履修対象授業科目・受入人数

履修対象授業科目・受入人数は、別紙「単位互換提供科目一覧表」、「シラバス」記載のとおり

4 手続方法等

(1)受講者の資格

正規生で、所属高専が受講を許可した者

(2) 履修期間

履修する授業科目の開講期間とします。

(出典 香川大学単位互換科目履修案内)

資料5-5-3-8

学位取得のための履修例(通信工学科卒業生) (1/2)

「電気電子工学」への申請:電子通信システム工学専攻(情報通信工学科卒)

基礎資格	高等専門学校卒業と者
専攻滑	工学
専攻区分	電気電子工学

基本基準 修得基準

	分	裕	取得可	能単位数
第一申請区分	本+専	専のみ	本科+專攻	専攻のみ
「積み上げ単位」が2単位以上	18	18	80	80
「朝野相」と関連相との合計単位数が2単位以上	31	6	93	68
「関連科」と「専攻科目」との合計単立数が4単立以上	11	0	35	24
「積み上げ単位」のうち「朝門科目」と「関連科目」との合計が引単位以上	37	37	68	68
外国語の単位数が単位以上				
A群(講義·演習科目)(30単位以上)	27	8	57	38
電気電子工学の基礎となる科目(4単位以上)	10	4	14	8
B群実験実習科目)6単位以上				
関連14(4単位以上)	14	8	18	12

気電子工学 1	朝野相(40单位以上)		情報通	信工学科		電子通信システ	ム工学専	攻	
		4年		5年		1, 2年			
ſ	A群(講義·演習科目)(30単位以上)	科目名	単数		単数		単位数	共涌/専	本科+専攻 専攻のみ
ŀ	· +1 (41/22 /2CE11E2 (1 E2 E2	電気磁気学Ⅱ	2		1,	計測工学特論		, 延	11111 421 42111
		電子計測	2			グラフ理論		描	
	電気電子工学の基礎となる科目(4単位以上)	雷子回路Ⅱ	2			応用電磁気学	2		
	18.18.1—1.112.18.112.112.112.112.112.112.112.112	HE 1 PERIOR	-			システム工学	2	_	
			6	i	0	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	1	42	14
ŀ						エネルギー変換論	-	共通	
	電気工学に関する科目						-	7.000	
	.5				(2
ŀ		電子工学Ⅱ	1		— `	集積回路工学	-	軟	_
		15111	<u> </u>			桃江学	2		
ı						電子物性	2		
ı	電子工学に関する科目					電子デバイス工学	-	敦	
ı						E177.17CE1		- 	
ı							,		10
ŀ		電波云送学I	1	電子計算機	,	数値増論		共通	10
ı		アナログ通信工学Ⅰ		電皮云芝		アルゴリズムとデータ構造		描	
ı		ディジタル通信工学Ⅰ	_	アナログ通信工学Ⅱ		ディジタル信号処理工学		描	
ı		/1/グル畑高工子1	-	/ / ロノ囲品エチェ	-	情報がトワーケ論		描	
ı						マルチメディア工学			
ı						情報工学基礎論		拱通	
ı	情報通言工学に関する科目					ソフトウェア工学			
ı						電磁波・光波工学	2		
ı						光通信工学	2		
ı						通言語			
ı						四字事	-	軟	
ı									
ı			-		6		20	-	31
ŀ	B群実験・実習科目)6単位以上						20	1	31
F	DATA 大百17日/0年回以上					物研究	10	専攻	
ı						物原族·演習 I	10		
ı	電気電子工学に関する実験・実習科目					物庚酸•演習Ⅱ			
ı						付か!天秋",供日 11		守以	
ı							18	2	18
h	関連科目(4単位以上)						<u> </u>	1	10
ľ		応用数学I		応用数学Ⅱ	-	物理学特論	2	一般	
I		応用物理II	2		- '	応用数学特論	-	一般	
I		ルウナナイクが主工	 '	1	_		- 2	共通	
ı	工学の基礎となる科目					工業数学		描	
ı						上水双子	- '	7700	
I				1	,				14
ŀ			-		- '	杜妃信義美			17
ı			-		-	特別議 ニューロファジー技術	2	共通 専攻	
ı	工学および周辺技術等工関する科目					―ユ ^ー コノアン一式が	-	守以	
ı				 			—		4
ŀ	英野科 目		- `] 	- '			1	7
F	XXXX III III	国語	-	保健·体育	-	コミュニケーション英語Ⅰ	2	一般	
ı									
ı		保健・体育				コミュニケーション英語Ⅱ	2		
I		英語I	 '		-	技術者倫理		- 120	
1						文学输	2	- //	
1						知的財産権	2	一般	
I			<u> </u>	ļ	<u> </u>	工業英語	2		
1			ļ.,		<u> </u>		ļ		4-
- 1			4		<u> </u>		12	4	17

資料5-5-3-8

学位取得のための履修例(通信工学科卒業生)(2/2)

「情報工学」への申請:電子通信システム工学専攻(情報通信工学科卒)

基本基準

基礎格	高朝 野校卒業 大者
専必野	工学
專妪分	 静 江学

	弁	裕	取得前	単数
第一电影分	本+専	専のみ	本料 專攻	専攻のみ
「積み上げ単立」が22単立以上	18	18	80	80
「朝味相」と関連相との合理が数を単立と	31	6	93	68
「関連組」と専権制との合理機関を選び	21	10	45	34
「積み上げ単立」のうち「専門・担」と「関連・担」との合計が引単立以上	37	37	68	68
外国的单进外单位以上				
A群(講義演習和)(30単立以上)	17	-2	47	28
「情報工学基礎(異対る利用(4単立)、上)	4	4	8	8
計算機ノステム・実する科目(4単立以上)	0	-2	6	4
「静砂理」、関する科目(4単立以上)	0	0	6	6
B群実験実習和)6単位以上				
関連14単位以上)	24	18	28	22

朝野相(40単位以上)		情級通	信工学科		電子通言ステ	ム工学専	女 文	1		
1. 1	4年		5年		1, 2年					
A群(講義演器相)(30単位以上)	組名	単数	44名	単微	科格	単微	出面/亩	本料 專攻	専攻の	4
/ BT BAR / SEET FLD / (OO FLD / CD	ПППП	11-200	ПППП	71-200	情報工学基礎論	2	描	1111. 02	(1)	•
					アルゴズムデータ構造	2	共通			
					グラブ理論		描			
情報工学基礎、関する科目(4単位)(上)					ディジタル信号処理工学		描			
					フィンメル合与処理工子	-	刊田			
						8			8	
			電子計算機		情砕水ワーケ論		共通		0	_
			电面焊线				描			
計算機ノステム・共する科目(4単立)」上)					ソプトウェア工学	-	77世			
					,	4			6	
					数值增論		描		-	_
					マルチメディア工学		共通			
情処理 実する科目(4単位以上)							軟			
一門の発生は大学の大学は大学に対して					ニューロファジー技術		导攻			
		C				6			6	
—	使うさまれ				1				U	_
	電子計測		電波云芝		計測工学特論		共通			
	電子		アナログ通言工学	2	集直路工学		軟			
	電子工学Ⅱ	2			システム工学		軟			
電気電子・通言・システム・関連する科目	電空路	2			応用配数学	2	軟			
	電皮云芝工	2			通言輪	2	軟			
	アナログ通言で	2								
	デベタル通江	1								
		13		4		10			27	_
B群実験実計(6単位以上										
					物碗		軟			
					物膜 選 I		軟			
情紅学、関が実験実践組					物庚験演習Ⅱ	4	軟			
						18			18	
関連:11(4単位以上)										
DAGE INC. LIEST	応用数学I	2	応用数学Ⅱ	2	物理学输	2	一般			
	応用物理エ	2	70/12/2		応用数学特論		一般			
	ルはコックチェル				量子力学		描			
工学の基礎がある科目					工業学		描			
							7000			
		-		-		8			14	
					物購		軟			=
					エネルギー変換論		軟			
			 		林江学		軟			
							東攻			
					電子がイス工学		軟			
工学などの高辺技術等は対る科目					電磁波・光波工学		軟			
ユーナインかしいのしば女小子 マチング クバギロ							軟			
					光通江学		导攻			
					-					
					1		-			
		C	-	C	1	14	-		14	
and Kim						14	1		14	_
関連相										
	国語	1	保健体育	1	エシュニケージョン英語Ⅰ		一般			
1	保健体育	1			ボュニケーション英部		一般			
	英語I	2	<u> </u>		掛赭鯉		一般			
1					文学論	2	一般			
1					知り推権	2	一般			
					工業英語		共通			
		4		1		12			17	

(出典 専攻科学生便覧 26, 27 頁)

資料 5-5-3-9

学位取得のための履修例(短大等で工学の専門分野を修得していない場合)(1/2)

「電気電子工学」への申請: 電子通信システム工学専攻(短大等)

基礎資格 短大等を卒業した者

専攻分野	工学
専攻区分	電気電子工学

基本基準 修得基準

	余	裕		能単位数
第一申請区分	本+専	専のみ	本科+専	専攻のみ
「積み上げ単位」が62単位以上	18	18	80	80
「専門科目」と関連科目との合計単位数が62単位以上	6	6	68	68
「関連科目」と「専攻外科目」との合計単位数が24単位以上	62	0	86	24
「積み上げ単位」のうち「専門科目」と「関連科目」との合計が31単位以」	37	37	68	68
外国語の単位数が1単位以上				
A群(講義·演習科目)(30単位以上)	8	8	38	38
電気電子工学の基礎となる科目(4単位以上)	4	4	8	8
B群(実験·実習科目)6単位j以上				
関連科目(4単位以上)	8	8	12	12

<u>専門科目(40単位以上)</u>			大等		電子通信システ	<u>ムエ学</u>	専攻		
	1年	Ŧ	2:	年	1, 2年				
A群(講義·演習科目) (30単位以上)	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	共通/ 専攻	本科+専専攻	ጀመ∂
(== ==)					計測工学特論		共通		
またまフェックササール 7 71 ロ					グラフ理論		共通		
電気電子工学の基礎となる科目					応用電磁気学		専攻		
(4単位以上)					システム工学		専攻		
		0		0	<i>></i>	8	77	8	
		- 0		- 0	エネルギー変換論		共通	- 0	
電気工学に関する科目					エイルイー支援調		六世		
电対エチに関する行口	\vdash	0		0		2		2	
		U		U	集積回路工学		専攻		
					材料工学		<u>専攻</u>		
電子工学に関する科目	\vdash				電子物性		<u>専攻</u>		
	\vdash				電子デバイス工学	2	専攻		
				_					
	\vdash	0		0	NU 1-1 65-5	8	11.12	8	
					数値計算論	2	共通		
					アルゴリズムとデータ構造	2	共通		
					ディジタル信号処理工学	2	共通		
					情報ネットワーク論	2	共通		
					マルチメディア工学		共通		
					情報工学基礎論	2	共通		
情報通信工学に関する科目					ソフトウェアエ学	2	共通		
					電磁波·光波工学	2	専攻		
					光通信工学	2	専攻		
					通信理論	2	専攻		
		0		0		20		20	
3群(実験·実習科目)6単位j以上									
					特別研究		専攻		
電気電子工学に関する実験・実習科					特別実験·演習 I		専攻		
电気电丁工子に関する実験・美自科目					特別実験・演習 Ⅱ	4	専攻		
н									
						18		18	
関連科目(4単位以上)					1/m 1 1 1 1		Án.		
					物理科学特論	2	一般		
					応用数学特論	2	一般		
工学の基礎となる科目					量子力学		共通		
					工業数学	2	共通		
		0		0		8		8	
					特別講義		共通		
工学および周辺技術等に関する科目					ニューロファジー技術	2	専攻		
工于6350周边及附守门房,694日									
明本以刊口		0		0		4		4	
関連外科目							ńл.		
					コミュニケーション英語Ⅰ	2	一般		
					コミュニケーション英語Ⅱ	2	一般		
	\vdash				技術者倫理	2	一般		
	\vdash				文学特論	2	一般		
	\vdash				知的財産権	2	<u>一般</u>		
	\vdash				工業英語	2	共通		
			1						
	 	31		31		12		74	

資料 5-5-3-9

学位取得のための履修例(短大等で工学の専門分野を修得していない場合)(2/2)

「情報工学」への申請: 電子通信システム工学専攻(短大等卒)

基礎資格	短大等を卒業した者
専攻分野	工学
専攻区分	情報工学

基本基準		余	裕	取得可	能単位数
修得基準	第一申請区分	本+専	専のみ	本科+専	専攻のみ
	「積み上げ単位」が62単位以上	18	18	80	80
	「専門科目」と関連科目との合計単位数が62単位以上	6	6	68	68
	「関連科目」と「専攻外科目」との合計単位数が24単位以上	70	8	94	32
	「積み上げ単位」のうち「専門科目」と「関連科目」との合計が31単位以」	37	37	68	68
	外国語の単位数が1単位以上				
	A群(講義·演習科目)(30単位以上)	0	0	30	30
	情報工学基礎に関する科目(4単位以上)	4	4	8	8
	計算機システムに関する科目(4単位以上)	0	0	4	4
	情報処理に関する科目(4単位以上)	2	2	6	6
	B群(実験·実習科目)6単位j以上				
	関連科目(4単位以上)	16	16	20	20

専門科目(40単位以上)		短え	大等		電子通信システ	ムエ学	専攻		
	1:	年	2	年	1, 2年			1	
A群(講義·演習科目)	科日名	単位数	科日名	単位数	11 D 2	単位数	共通/ 専攻	本科+専専攻	_ጀ ው ታ
(30単位以上)		120			件日石				
					情報工学基礎論 アルゴリズムとデータ構造		共通共通	1	
情報工学基礎に関する科目					グラフ理論	2	共通		
(4単位以上)					ディジタル信号処理工学		共通	1	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,								1	
		0		0		8		8	
					情報ネットワーク語		共通		
計算機システムに関する科目					ソフトウェアエ学	2	共通	1	
(4単位以上)		0		_		—			
		U		0	数値計算論	4	共通	4	
					数 近日 昇 マルチメディア工学	2	共通	1	
情報処理に関する科目					ニューロファジー技術	2	専攻	1	
(4単位以上)							,,,,	1	
		0		0		6		6	
					計測工学特論		共通		
					集積回路工学		専攻	1	
					システム工学		専攻	1	
気電子・通信・システムに関連する科					<u>応用電磁気学</u> 通信理論		専攻	1	
					光通信工学		専攻		
					九起旧工于	-	サグ	1	
		0		0		12		12	1
B群(実験·実習科目)6単位j以上									
					特別研究		専攻		
情報工学に関する実験・実習科					特別実験・演習I		専攻	1	
目					特別実験・演習 Ⅱ	4	専攻	4	
						18		18	1
関連科目(4単位以上)						- 10		10	
					物理科学特論	2	一般	1	
					応用数学特論	2	一般		
工学の基礎となる科目					量子力学 工業数学		共通		
エテの金旋となるける					工業数学	2	共通	1	
		0		0	特別講義	8		8	
					エネルギー変換論		専攻 専攻		
					材料工学		専攻	1	
て巻むしが国際社会等に関する科学					電子物性		専攻		
工学および周辺技術等に関する科目					電子デバイス工学	2	専攻		
					電磁波·光波工学	2	専攻	1	
関連外科目		0		0		12		12	1
					_> =	2	一般	1	
					コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 II	2		1	
					技術者倫理	2		1	
					文学特論	2			
					知的財産権	2		1	
					工業英語		共通		
								1	
	1	31	1	31		12	ı	74	1

(出典 教育課程表より集計)

資料5-5-3-10

第一級陸上無線技術士国家試験の一部免除校の認定証

四通海第277号

認定書

独立行政法人国立高等専門学校機構 詫間電波工業高等専門学校長 高 畑 秀 行

無線従事者規則(平成2年郵政省令第18号)第15条の規定により 卒業者に対して無線従事者国家試験の一部を免除する学校等として、次 のように認定する。

学校等の名称 詫間電波工業高等専門 学校	部科名 専攻科 電子通信システム工学専攻
免除する無線従事者国家試験の種別 及び試験科目	適用年月
第1級陸上無線技術士 無線工学の基礎	平成18年4月 入学 平成20年3月 卒業者から適用
備考	

平成18年10月 5日



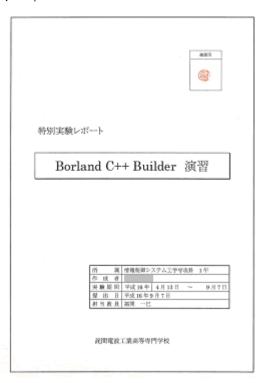
(出典 学生課)

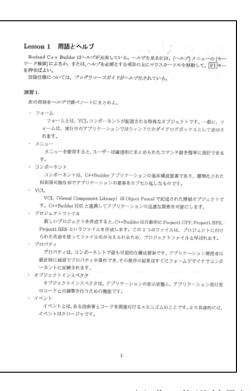
資料 5-5-3-11

補充教育の例

テキスト (4年工学実験) Lesson 1 用語とヘルブ 4年準卒業研究テキスト Borland C++ Builder はヘルプが光実している。ヘルプを見るには、[ヘルプ] メニューの [キ-フード検索] によるか、または、ヘルプを必要とする項目の上にマウスカーソルを移動して、[F] キー 言語仕様については、プログラマーズガイドがヘルプ化されている。 Borland C++ Builder 演習 次の用語をヘルプで調べノートにまとめよ。 フォーム • コンポーネント • VCL プロジェクトファイル オブジェクトインスペクタ イベント Lesson 2 簡単なブログラム 演習1. 何もしないフォームだけのプログラムを作る 131311 詫間電波工業高等専門学校 (1) エクスプローラで ¥CBuilder フォルダに ¥work フォルダを新しく作成する。 (2) Windows[スタート] メニューから C++ Builder を起動する。 (3) [ファイル] メニューの [ブロジェクトに名前を付けて保行) を譲りし、 ¥work フォルダに保存する。 (4) [実行] メニューの [実行] を凝し、 コンパイル、リンク、実行をする。 (5) Windows の基本操作ができることを確認する。 (6) 次に、フォームの名前を Pormi から好みの名前に変える。 (7) 保存するファイル名を奏えてみる。 (8) 作成されるファイルの種類をエクスプローラで確認せよ。 電子制御工学科

レポート





(出典 指導教員保存資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様な学習履歴や志向に対応できるように選択科目が配置され、また、他専攻、他大学の単位認定制度があり、機能している。資格、学位の取得にも考慮された教育課程である。

観点5-6-①: 教育の目的に照らして,講義,演習,実験,実習等の授業形態のバランスが適切であり,それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば,教材の工夫,少人数授業,対話・討論型授業,フィールド型授業,情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

知識の教授が主な科目は講義とし、実時間をかける必要のあるもの、コミュニケーション英語や特別実験・演習、特別研究は演習・実験としている。授業形態のバランスは、両専攻とも、62 単位を修得した場合、講義と非講義の単位数の比は 40:22 であり、実時間数の比は 40:62 となる(資料 5-6-1-1)。

学習・教育目標Aの技術者倫理・責任自覚能力に関しては、必修科目の技術者倫理(資料5-6-①-2)で教育している。討議やレポートなどで実際の事例を深く考えさせる工夫を行っている。広い観点を提示するために3人の教員が担当している。

学習・教育目標Cの情報収集・分析,文書作成,口頭発表と,Eの設計・問題解決能力に関しては, 主に,特別研究(資料5-6-①-8,9)を配置している。特別研究は,学生の計画と発想により 進めるものとし,さらに指導教員の個別指導により,研究・技術開発手法の伝授も目論んでいる。

学習・教育目標Dの基礎知識,関連技術,技術発展に対する対応力については,殆どの科目が関係し,志望する分野の科目を主にして目標を達成できるようになっている。

基礎学科以外からの学生受け入れ(資料 5-6-10-10),卒業研究と特別研究の非継続性(資料 5-6-10-11)のため,特別実験・演習の時間を指導教員の裁量で比較的自由に使うことができるようにしている(資料 5-6-10-12,資料 5-6-10-13)。

多くの科目で、少人数であること(資料 5-6-①—14)を活用してきめ細かい教育を行っている(資料 5-6-①—15)。

授業形態(講義,演習,実験)別単位数,時間数集計

電子通信システム工学専攻

授業形態	1 年	三次	2 年	三次	合計	62 単位を修得した場合		
1文未形態	前期	後期	前期	後期		修得単位	時間	
講義	必修:4	必修:0	必修:2	必修:0	必修:6	必修:6	40	
神我	選択:14	選択:18	選択:12	選択:8	選択:52	選択:34	40	
演習	必修:1	必修:1	必修:1	必修:1	必修:4	必修:4	8	
供日	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	O	
実験	必修	£:8	必修	: 10	必修:18	必修:18	54	
大阪	選択:0		選択:0		選択:0	選択:0	54	
計	业修:14		必修	: 14	必修:28	必修:28	102	
βĺ	選択	: 32	選択	: 20	選択:52	選択:34	102	

注:最終列を除いて、数値は単位数を表す。時間は週1時間半期分の授業時間を1とした。

情報制御システム工学専攻

授業形態	1 年	三次	2 年	三次	合計	62 単位を修得した場合		
1文 未 / / / / / / / / / / / / / / / / / /	前期	後期	前期	後期		修得単位	時間	
講義	必修:2	必修:0	必修:0	必修:0	必修:2	必修:2	40	
再我	選択:18	選択:18	選択:14	選択:6	選択:56	選択:38	40	
演習	必修:1	必修:1	必修:1	必修:1	必修:4	必修:4	8	
供白	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	選択:0	O	
宝融	必修	必修:8 必修:10		必修:18	必修:18	54		
大学	実験 選択:0		選択:0		選択:0	選択:0	54	
必修:14 計		必修	: 14	必修:28	必修:28	102		
рl	選択	: 32	選択	選択:20		選択:34	102	

注:最終列を除いて、数値は単位数を表す。時間は週1時間半期分の授業時間を1とした。

(出典 教育課程表より集計)

技術者倫理のシラバス

科目名	技術者倫理			担当教官	++- L	法 内田	山 理 乙	如火	守
学年	専攻科1年	学期	前期	型 担ヨ叙旨 履修条件			由理子 単位数		
 分野	一般						单位数	4 毕业	
万 野	,		講義			_	(集中ロテ)よ	まため 学	± 3/4 10
ᄴᄭᄀ	技術者として身に								
学習目標	伴うこと、その影響								
	が人々の生活の向				や世代間	引倫埋の値	催認を連し	ノて, 技 [・]	俯者と
	しての倫理的責任を	を目覚し、	考える習慣を	子身につける。					
	教科書、資料に、								
進め方	めるために,討議								
	常に役立つので, 随			わせる。また	応用倫理	!として,	生命,環	境, ビジ	ネス,
	情報についての倫理	里の理解をi	進める。						
履修要件			<i>u</i> >			W 77 To	+		
		頁目 (時間)	数)	AA laws	A	学習到			
	1.技術者倫理とは	(2)					そ念等につ		
				きこと:	を学ぶ		A1:1,	A2:1, A	42:2
	2.専門知見の研鑽	(2)		倫理綱領	領から技	術者とし	て心がけ	ることを	と学ぶ
							A1: 4,	A2: 4,	A3:3
	3.事故より学ぶ(2)		母子死	傷事故,	ボパール	- 事故等を	取り上	げ, 何
				が問題で	であるか	を学ぶ			
							A1: 4,	A2:2, A	43: 1
	4.組織における倫	理観のあり	方(2)	チャレ	ンジャー	・事故等を	:通してお	(術者が	心がに
				ること:	を学ぶ		A1:3,	A2:3, A	43:2
	5.持続可能な社会	づくりの一	員としての	技術者	倫理が他	の応用備	前理学と深	€く関連	してい
	技術者あり方(:	2)		ること:	を確認す	る		A1:2,	A3:4
	6.安全性と設計(2)		安全性	を確保の	ために,	設計の段	と階にお	いて酉
				慮すべき	きことに	ついて学	Š.	A1:1, Z	A2:2
学習内容	7.消費者を守る責	任(2)		消費者	の安全性	について	の具体的	事例に	ついて
				学ぶ			A1:4	A2:4,	A3:1
	8.製造物責任につ	いて (2)		製造物	責任法に	ついて.	設計上,	製造上	, 指元
							とについ		
								A2:4.,	A4:3
	9.知的財産権につ	いて (2)		知的財	産権と技	術との関	連につい		
	21/01/4/2/1E/1= 1			7.11.237.37.	I IE C IX	W C -> 1X	-	A3:2,	Δ3.Δ
	 10.ビジネス倫理に	ついて (5)	不正譜。	争防止涉	について	. 及び専		
	10. 0 少小八篇建位	- >	' /	l l	生につい		., ДО		A3:3
	 11.ビジネス倫理、;	経営の倫理	について(2)	1			について		13.3
	11.ピッパパ間壁、	性百分冊生	(C) ((2)	TX M TA)) AT. 1.	立い負圧	10 20.0	A2:1, A	۸ 2 · 3
	 12.企業の社会的責 [®]	生について	(2)		は海の影	郷カレ倫	理につい		12.3
	12.正来》几云印貝	T. (C.) (. ((2)	41 1431	又 11 マノ 泉シ		生に りい 1:1,A1:2,		A 2.2
	 13.雇用者の責任に	0117(2)		士 / (4)	の知姓.		, Al.2, 、の忠誠と		
	13.准用名の貝讧に	· J V · C (2)		1		.,			
	14 奴 尚 4、畑 暇 > 1	りゃせばか	7 to 10 + (a)	I	ついて学 せでの恵			, A2:4, 郵 画 ル+ ≠	
	14.経営を視野に入	40に1文1作石	ルめり力(2)	お出版の	Tでの専	门权彻有	の判断の		-
	15 社会即应先知四	77 Ju + ++	生まかまいっ	た(1) 棒却の「	押 二 セッ	世後本の		, A2:4,	
	15.社会制度を視野	に入れた技	四伯 いめり)	ソロノ 有報の[用小及び	1文1竹石の	モラルに		
	16 #0 -1-34 #0 / 3 \				/A rm ~ +4	سر این مواج		A1:4,	A2.1
	16. 期末試験(1)			技術者作	倫埋の考	えを総括	する		
 評価方法	期末試験 60 %, レ	ポート 30 º	6 亚堂占 1		能度等)	10 %のE	上室で終る	・評価す	ろ
u i i i i i i i i i i i i i i i i i i i	倫理社会,政治経				心区可力	10 /0 0 1		антиш т	<i>ω</i>
関連科目	教科書 : 齊藤				和堂				
		了文 著「/			和堂				

資料5-6-①-3

コミュニケーション英語Iのシラバス

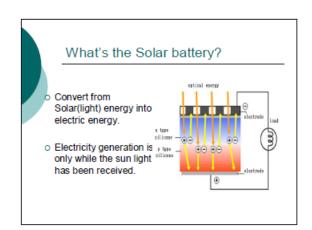
科目名	コミュニケーショ	ン英語I		担当教員	森 和憲		
学年	専攻科1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	前期1後期1
分野	一般	授業形式	演習	科目番号	07AG1 20010	0	
学習目標	本科目は、英語運 を希望する企業から いる。そのためにに 数多く解く事が求め	っ求められる は英語を読む	るスコアをク	リアするため	に、その基礎力	」を養うこと	を目標として
進め方	1. 教科書の音読筆者 2. コンピュータを利 3. 毎回演習問題の課 4. プレゼンテーショ	用した語彙 題を出し、	習得システ.その解説を行る	ムを利用し、 行う		0	
履修要件	なし	5 CD / n± 88 %	#+ \	1	## 33 2		
学習内容	1.The Internet (2) 2.COCET3300 (2) 3.The Development of 4.COCET3300 (2) 5.A Blend of Cultures 6.COCET3300 (2) 7.TOEIC 模擬演習 (2) 8.既習項目の復習 (1) 9.A Famous Old Town 10.COCET3300 (2) 11.A Pajama Party (2) 12.COCET3300 (2) 13.Making A speech (14.COCET3300 (2) 15.プレゼンテーシ 16.前期末試験 (1) 17.Mika's Speech (2) 18.COCET3300 (2) 19.Let's Have a Debat 20.COCET3300 (2) 21.Ha, ha, ha (2) 22.COCET3300 (2) 23.TOEIC 模擬演習 24.既習項目の復習 (2) 25.On the Top of the	(2) (2) (2) (2) e(2) (2) (1)	(2)	な PC PC PC PC PC PC PC PC PC PC PC PC PC	ーネットに関し B1:1-3 B2:1-3 達に関して英語 B2:1-3 と理解する B1:1-3 と理解する B1:1-3 こついて語られ が出来る B1:1-3 とする B1:1-3 とする B1:1-3 とする B1:1-3	B2:1-3 B2:1-3 S英語を大 B2:1-3 B2:1-3 B3:1-3 B3:1-3 B3:1-3 B3:1-3 B2:1-3	まる用になる まかに理解す B2:1-3 B3:1-4 B2:1-3
	26.COCET3300 (2) 27.Protect Our World 28.COCET3300 (2) 29.I have a Dream (2) 30.プレゼンテーショ		(3)	B2:1-3 人種差類 B2:1-3	題に関してのす 別問題に関して ンテーションの	の英語を理	!解する B1:1-3
評価方法	32. 学年末試験(1) 中間・期末試験を 8	30%, プレ	ゼンテーショ	 ョンの発表・i	是出物等を 20%	の割合で総	合評価する。
関連科目	特になし						
教材	教科書:國弘正雄綱 演習問題集:上垣時 単語集:亀山太一	··· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	戦ゼミ8大学	入試 NEW 基础	- 10-B (#1310 + 1)	総演習』(相	可原書店)
備考	特になし						

コミュニケーション英語Ⅱのシラバス

科目名	コミュニケーシ	/ョン英語]	I	担当教員	鳥趄	越秀知
学年	専攻科2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数 前期1後期1
分野	一般	授業形式	演習	科目番号	07AG2_2002	20
学習目標	トを作成する能力を	と養う。ま7	た、より高度	な口頭発表能	力を養う演習,	朗では一定量の英文レポー 聴解能力をさらに育成す のさらなる向上をめざす。
進め方	<後期>1. ライラ	」と発話能 ⁻ ィング能	力を向上させ	る演習を行う ための訓練を		ō
履修要件	特になし					
	1.イントロダクショ 2. English Studies I 3. English Studies I 4. Scheduling and Pla 5. Scheduling and Pla 6. English Languae F 7. English Languae F	Part 1 (2) Part 2 (2) anning Part anning Part 2 Proficiency T Proficiency T	1 (2) 2 (2) Sests Part 1 (2 Sests Part 2 (2	識をさらを身につ 2) 2) 聴角	5 文読解を通じて らに向上させ,	到達目標 単語・熟語・文法の知標準的な英文を読める力B1:1-3 を身につけるB1:1-3, B2:1-3
学習内容	8. Dating, Relationsh 9. Dating, Relationsh 10. Music and Style 11. Music and Style 12. Jobs and Employm 13. Jobs and Employm 14. まとめと復習 15. 前期末試験(2) 16. イントロダクシ 17. Conclusions / Reas 18. Conclusions / Reas 19. Analysis Unit 1 20. Analysis Unit 2	ips, and Adv Part 1 (2) Part 2 (2) nent Part 1 (nent Part 2 ((2) = > (2) sons Unit 1 (2)	rice Part 2 (2 2) 2)	16-3 1) セン パラグラ	・ ・ テフライティン	ティングの基本を理解し、 グの基礎を身につける。 B2:1-3 プティングの基本を理解す B2:1-3
	20. Analysis Omt 2 21. Theory / Proof Un 22. Theory / Proof Un 23. Controversy Unit 2 24. Controversy Unit 2 25. Comparison / Cont 26. Comparison / Cont 27. Classification Ur 28. Classification Ur 29. まとめと復習(2 30. 後期末試験(2)	it 1 (2) it 2 (2) l (2) 2 (2) trast Unit 1 trast Unit 2 it 1 (2) it 2 (2))高い聴解力と	B2:1-3 : 発話能力を身につける。 B1:1-3, B2:1-3
評価方法	定期試験80%, 取	なり組み態度	度・課題等2	0%で総合評	価する	
関連科目	, = , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			, me H H I		
教材	<前期> 教科書: <後期>教科書:「			lasayuki Terani Yumiko Ish	shi 著 南雲堂 itani 著 南雲堂	±
備考			-			

コミュニケーション英語Ⅱの発表例

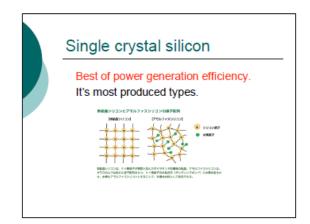
About the present Solar battery HELLINGTON Advanced Course, Takuma National College of Technology. Communication English II assignment.



Types of Solar battery

- Single crystal silicon type.
- Amorphous silicon type.
- Compound semiconductor type.

推照	til 福建 Ger#di	現的性	46		
製稿グロノ	- diamo	34	PER .		
HOME COLUMN	25	223	美国第分小子口贯会		
\$882/15/	100	173	表面7.6-70II		
99061 /44	105	171	RETOXPY-		
D-Viplesto	4	201	DGsP/GsA4		
	1	202	MANDAGOA		
SULCER	100	28	1651		
	1	- 36	Wellestell		
7867479	100	103	a-020-18843-10a-55		
	1290	95	a Silv Silv Starber Bill		
I-VB/ESM	086	178	MENTODIO/E/036MA/T/57		
	80	142	E-0.75-0380H-JCBS		
	ï	157	運搬の口の下		



途中省略(4枚)

Future developments and Problems of Solar battery

- o Price reduction
- It must improve the electricity conversion efficiency.
- It must put production technology of SOG silicon to practical use early.
- o Solar battery use expansion to the other field.

(出典 コミュニケーション英語Ⅱの学生発表資料)

国際交流(校報)

TAKUMA DENPA MONTHLY DENPA



92号 掲載記事

諸 報

行 事 日 誌(8月)

行事予定表 (9·10月)

諸 報

韓国・東洋工業専門大学からの訪問受け入れ

本校と学術交流協定を締結している韓国・東洋工業 専門大学から学生4名及び引率教員3名が7月31日 から8月5日までの日程で本校を訪れた。



昨年, 10月には本校専攻科生2名と引率教員1名が 東洋工業専門大学を訪問している。

学生4名は詫間町などの家庭でホームステイしながら の研修であり、直接、日本文化に触れる機会となった。 本校の研修では、IC設計、ICプロセス、電子回路製作 とアンテナについての実験を実際に体験してもらった。 また、本校専攻科生も英語で発表会を行い、韓国から の研修学生に積極的に話しかけるなどコミュニケーショ ンにつとめ、終始なごやかな交流、研修となった。

(出典 校報 92 号)

国際交流 (研究発表会プログラム等)

表 2 学術交流研究発表会プログラム

Program

August 1, 2006

13:55-14:05 Shu-hei Tomita

Cathode Luminescence measurement of a nano-crystallinesilicon layer

14:05-14:15 Yoshifumi Yokoyama

Measurement of DNG

14:15-14:25 Koujirou Yano

AC Electric Field for Detecting Lead Opens by Supply Current of CMOS ICs

14:25-14:35 Naoya Watanabe

Research about characteristic and field of application of

near-infrared radiation multi-spectrum imaging system

14:35-14:45 Tetsuya Kobayashi

Development of PMD measurement system

14:45-14:55 Tomoyo Shimooka

Development of the observation system of Gamma-Ray Bursts

August 2, 2006

13:55-14:05 Hayato Ariki

Development of Dialogue Systems in foreign language such

as English and Korean - Japanese as the main language -

14:05-14:15 Hirofumi Yamaji

A development of a teaching material (D.S.P) using Handel_C

14:15-14:25 Hirotaka Togawa

BIO-IMPEDANCE LOCUS MEASUREMENT

14:25-14:35 Yuuichi Takahasi

A Study About a Drawing System Based on the Differential Geometry

14:35-14:45 Yuki Ohno

A position recognition system with a photograph for the visually handicapped person





図1 東洋工業専門大学との学術交流

(出典 平成 18 年度年報 65 頁)

電子通信システム工学専攻の特別研究のシラバス

科目名	特別研究		当教員	特別研究担当教員			
学年	<u> </u>	1.50	修条件	必修	単位数 4,6		
分野	専門 授業形式			07AE1_40010, 07A	_		
学習目標	各特別研究のテーマに基づく高度な研究過程を遂行することによって、文献調査の方法、実験的、理論的解析法、評価法等を修得し、総合的な研究開発能力をつける。また、報告書・論文の作成を通じて研究成果をまとめる能力を、口頭発表を通じてプレゼンテーション能力を高める。 2年間を通じて同一の研究テーマについて、各指導教員のもとで、研究計画を立て、それに基づいて研究を進めていく。研究計画、研究方法及び研究の途中結果の発表を行い、研究計画の検討・修正も行なう。研究成果は、学会等で発表し、特別研究論文にまとめる。						
履修要件							
学習内容	学習項目(時間) 各指導教員のもとで、個別の研究を行う。(450) 【特別研究のテーマ例】 1. 電流テストによる CMOS Iの出における外部印加電圧に、周辺配線電圧値の影響 2. ジョーンズマトリック散測定装置のストロンスパックを表が、でで、でで、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で、で	Cのリーマについて Cのリーな障リート による偏波 モート によるののカート スク装置レントではない。 なりない。 でいるでは、 でいるで	続力 (作) (特) (特) (特) (特) (特) (特) (特) (特) (特) (特	E成しながら、 E計画を 1:1-3 1:1-3 Eにきるもと。 Eにきる力とでは、 Eがきまを 1:1-4、 Eがきまを 1:1-5、 Eがきまを 1:1-5、 Eがきまを Eがきまでは、	録も含む研究に必要な能 る能力 識を身につけ、研究に応 る。 ケーカ、3:1,2 法、自ら学ぶ、 画のアオーを取りなががいる。 ががいる。 ケーカ、3:1,2 法、自らにできるがいる。 ががいる。 がががいる。 がががいる。 ががいる。 ががいる。 ががいる。 ががいる。 ががいる。 がいる。		
評価方法	特別研究に対する取り組みに評価する。	状況,特別研究請	 倫文, 及び	校内の発表会で	の発表等をもとに総合的		
関連科目	研究テーマごとに異なる。						
教材 	指導教員が個別に用意する。						
備考	特になし						

情報制御システム工学専攻の特別研究のシラバス

—————— 科目名	特別研究			担当教員	特別研究担当教員
	情制専攻1,2年	学期	通年	履修条件	Tour or and
分野	専門	授業形式	実験	科目番号	
学習目標	各特別研究のテー 理論的解析法,評価	■法等を修	得し,総合的	過程を遂行す な研究開発前	ることによって,文献調査の方法,実験的,能力をつける。また,報告書・論文の作成をレゼンテーション能力を高める。
進め方		いく。研究記	計画,研究方法	去及び研究の	数官のもとで,研究計画を立て,それに基づ D途中結果の発表を行い,研究計画の修正も Nにまとめる。
履修要件					
学習内容	学習可 各指導教 (450) 【特別研究のテーゴース 1. 遺るイングランル (450) 【特別研的談シルルのテーゴース ででは、ディッグ刻をでは、ディッグ刻をででは、 ででは、ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、	タグスを現るのでは、 の別との別とのでは、 を現るのでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでできる。 ので。 のできる。 。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 ので。 ので。 のできる。 ので。 のできる。 。 のできる。 のできる。 ので。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 のできる。 。 ので。 ので。 のでを。 のでを。 のでで。 。 のでで。 。 のでで。 のでで。 。 のでで。 。	デーマについ いた帰納的学 則定値自動読。 のワイヤーに めの TOEIC ステムの開発 はける輝度補正 則定システム。 関定システム。 関になる研究	習 み よ 研 の 資 乍 続力 に 取 る 究 開 域 成 的を・・・・・・・・・ で ので 研 研用 指ら 実勢 必 問し 継 究しB2	学習到達目標 「教員による指導記録も含む研究ノートを組合作成しながら、次のような研究に必要な能力においる。 「完計画を立案できる能力 E1:1-3 「完に関する基礎知識を身につけ、研究に応じできる能力をつける。 D2:1-4 「導教員とコミュニケーションを取りなが研究を遂行できる能力、 B1:1-4、B2:1-3、B3:1,2 「験的、理論的解析法、評価法、自ら学ぶ姿を修得する。 C1:1-5、D5:1-3 要に応じて研究計画を改善できる能力、 E1:1-4 「題発見や解決方法のアイディアの証拠を残る、研究過程で生じた問題を解決する能力、 E5:1,2 「続的に研究を行う能力 E6:1-3 「発表を通じて、得られた研究成果を整理して、明確に伝える能力を獲得する。 2:1,2、C4:1-8、E1:1-3
評価方法	特別研究に対する	る取り組み	状況, 特別研	C2	!告書や資料を作成する能力をつける。 2:1-2, C3:1-4 よび校内の発表会での発表等をもとに総合
	的に評価する。				
関連科目	研究テーマごとに				
教材	指導教官が個別に	1用意する。	,		
	特になし				
nu) . J	101-100				

(出典 シラバス)

基礎学科以外からの受け入れ人数

年度	他校	本校の他学科
平成 16 年度	3 (AE:1, AI:2)	0
平成 17 年度	0	2(AE:0, AI:2)
平成 18 年度	0	1(AE:0, AI:1)
平成 19 年度	0	0

注:括弧内は専攻ごとの内訳

AE, AI は、それぞれ、電子通信システム工学専攻、情報制御システム工学専攻の受け入れ人数を示す。

(出典 教務係資料から集計)

資料 5 - 6 - ①-11

卒業研究から特別研究の継続性

		平成16年度	平成17年度	平成18年度
	学生数	9	10	10
電子通信	継続者数	4	9	6
	比率	44.4%	90.0%	60.0%
	学生数	9	10	11
情報制御	継続者数	2	6	3
	比率	22.2%	9 10 2 6	27.3%
専攻科全体	学生数	18	20	21
	継続者数	6	15	9
	比率	33.3%	75.0%	42.9%

(出典 詫間だよりと教務係資料から集計)

資料5-6-①-12

特別実験・演習のシラバス (1/4)

科目名	特別実験・演習 I			担当教員	電子通信シスラ	テム工学専攻担当教員
学年	電通専攻1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数 4
分野	専門	授業形式		科目番号		
学習目標		てコミュニ ・演習を行 レポートを	ケーション能 いながら,自 提出すること	力を養う。 主的,継続的 により, 計画	内に学習できる能 面的に仕事をすす。	力を養う。 め、まとめる能力を養う。
進め方	計画を作成して実験 導教員との連携の下	を行う。 、基本的	実験計画段階 な専門技術に	,終了段階で 関する科目の	で報告及び討議を D自己学習を計画	!当教員の指導の下で実験 行う。学年の後半では指 i的に行う。期間中におい 終報告と討議を行う。
履修要件						
	学習項	目(時間	数)			J達目標
学習内容	下記 Linux の 1. Linux の 2. Emacs の 4. Emacs の 6. gnuplot の 8. Linux system の 9. 集種 の 9. 集価 の 10. CMOSIC の 11. CMOSIC のの 12. CMOSIC のの 13. CMOSIC のの 14. CMOSIC のの 15. 集研究にににいる必必必必必必 16. 研究ににいる必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必必	作 とが技技12 ま験験験験験験術術術術のよど、一番では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	ル告ス 報作 1 2 3	と修の通 B2:1- の得理しま CMCデ与創:2, でさエて・	きない UNIX 系 せる。そして、」 科系学生に必須 使いこなせるよう。 2、C1:1-2、C2:2、C2 SIC 設計を通り である。 かった養う。 かった養う。 かった養う。 かった養う。 かった養う。 かった。 かった。 かった。 かった。 かった。 かった。 かった。 かった	3:1-4, D3:1,3, D5:1 て, 半導体工学, 電子回 どを統合した技術を応用 解決し, デザインする能 演習を通じて, 堅固な技 E6:2
評価方法	取り組み状況と報	告書を総合	合的に判断し	て評価する		
関連科目	多くの専門科目					
教材	自作テキスト					

特別実験・演習のシラバス (2/4)

科目名	特別実験・演習 Ⅱ			担当教員	電子通信シスプ	テム工学専攻担	.当教員
学年	電通専攻2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数 4	
<u>分野</u>	専門	授業形式	実験	科目番号	07AE2_40030	•	
学習目標	多くの討議を通 長期にわたる実	追じてコミュ ミ験・演習を	ニケーションf 行いながら, F	能力を養う。 自主的,継続	デザイン能力を 色的に学習できる 面的に仕事をすす	能力を養う。	と力を養う
進め方		連携の下,研究	究の準備となる	るような実験	や演習を計画的	に行う。期間中	1において,
履修要件							
	学習	項目(時間	数)		学習:	到達目標	
学習内容	を で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	型項目を以 実験・演習 実験・演習 実験・演習で 実験 演習の 調技術の習得	下に記す。 計画の作成 のまとめ	計画的 E1:1- 基礎的 技術1:1, 論文作 ゼンテ	な実験・演習が 3 な専門技術を実験 として身につける E2:2, E4:2, E5 成技術や実験・ネーション能力を表 B2:2	験・演習を通し ることを目指す :2, E6:2 寅習結果発表を	て, 堅固プ。
評価方法	取り組み状況と			 評価する			
関連科目	本科及び専攻科	で字ぶ多く	の専門科目				
API 1 1							
教材	自作テキスト						

資料5-6-①-12

特別実験・演習のシラバス (3/4)

科目名	特別実験・演習 I			担当	教員	特別研究担当教	員
学年	情制専攻1年	学期	通年	履修组	条件	必修	単位数 4
分野	専門	授業形式	実験・演習	科目	番号	07AI1_40020	
学習目標	できる能力を養うこ 2. 特別研究を進め	とを目標。 る上で必	とする。 要となる「高 _月	度な専門	門的知詞	識を獲得する能力	7およびシステムを設計 7」,「専門的技術を遂行 る能力を身につけること
進め方	1. 相互チェックに 改善する。	とで、特	別研究を進め	る上で。	必要と	なる知識・技術を	より良いシステムへと を習得するための実験・
履修要件							
学習内容	1. 創造性を育む実 ①マイクロコンロボットのテーマ, 競技ル ②各自が発案したコ 用いたシステムおよ 用いたシステムおよ 計を行う。 前期終了時に報告 2. 論文講読または	ートーンび 書実し論よ の ミラテ構ソのシを発ミプ特つ算 ラタにルピソ を験て文び テ ンミム築フ連ン予 ンロ性いす ミ(よ,ュフ 作作指講後 ー グンの実ト携に測 ググ・てる ン以る試ート 成業導読期 マ グ作験ウにごす 演ラ補 G グ	(45) 下口作タウ けなすま終 ご ・ 或 エついる ピッド で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	テる術・ 究験業告 シ 究 ス。を設 指・に書 ミ き EI	る能力 I:1-4, I 統上の を身に 3:1-4 厚な専	をを身につける E2:1 知見を整理して つける。 『門的知識を獲得 る能力を身につい	まびシステムを設計で。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
評価方法	取り組み状況と報	告書を総合	合的に判断して	て評価す	する		
関連科目	特別研究の研究テ			- Pr Imag 2	-		
教材	各特別研究の指導						
備考	特になし						

資料5-6-①-12

特別実験・演習のシラバス (4/4)

科目名	特別実験・演習Ⅱ			担当教員	特別研究担当都	教員
学年	情制専攻2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数 4
	専門		実験・演習	科目番号	07AI2 40030	
学習目標	特別研究を進める	上で必要 研究分野	となる「高度 ² についての基	な専門的知記 礎的な実験,	歳を獲得する能力 原著論文を用い	」,「専門的技術を遂行す てのセミナー, および与
進め方	各指導教員のもと 習を行う。更に, 実				なる知識・技術を	習得するための実験・渡
履修要件						
	学習項	目(時間	数)		学習到]達目標
学習内容	員が個別に計画して Ⅱでおこなった論文	指講期 テトティック菌 は サンプーア た検るロョ 導にすます マーケキ 一次 内 ケープーン ター測装険ラに サるに時 ご のト の座 電 ー ロルセーオ 実置性ム関 ー は で の ト の を 電 ー ロルセーオ 変 の と で の ト の を 電 ー ロルセーオ で の と の と の を 電 ー ロルセーオ で の と の と の を 電 ー ロルセーオ で の と の と の を 電 ー ロルセーオ で の と の と の を 電 ー ロルセーオ で の と の を で の と の を で の と の を 電 ー ロルセーオ で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の を で の と の と の と の と の と の と の と の と の と の	。 まに、 と たか 作標	演り作 習す ゴ 移 シ N 通 別・成	につける。	て明瞭に正しく伝える能 C3:1-4 得する能力,専門的技術 Dける。 C1:1-5,D5:2
 評価方法	取り組み状況と報	生まな絵	合的に判断し、	<u> </u> ア誕価せる		
	特別研究の研究テ			に計画りる。		
教材	各特別研究の指導			,		
備考	特になし					

(出典 シラバス)

特別実験・演習題目一覧(1/3)

電子通信システム工学専攻 特別実験・演習

H16 特別実験・演習 I

- ・ 電流電源テストによる狭ピッチ CMOS LSI のリード浮き検出のための交流電界
- 色素増感太陽電池の製作と評価
- 電力線上の短波帯電流分布
- PCと H8/3069F の組み合わせによる計測制御システムの検討
- ・ RC サーボモータを用いた肩義手の協調動作制御システムの一方式
- セルラーニューラルネットワークのロバストネスに関する検討
- ・ 前置木探索 VQ を用いた全探索 VQ 高速符号化手法におけるメモリ量の削減について
- ・ ナノクリスタルシリコン発光層の作製
- ガンマ線バースト残光の自動観測システムの開発

H17 特別実験・演習 I

- ・ 黒鉛シートを使用したギャップフィルターに関する研究
- ・ つや消し電解研磨
- 無線センサーネットワークによる室内温度監視システムの構築
- Java アプレットによる交通流シミュレーション
- 光音響分光法の半導体への適用と学生実験教材の開発
- ・ 視覚障害者歩行支援システムに関する研究
- 木構造化した全探索 VQ コードブックを用いた高速 VQ 手法について
- ・ RC サーボモータを用いた 6 自由度肩義手の協調動作システムの開発
- 柔軟な動作をする自律型サッカーロボットの研究
- マイクロ波を用いた変位計測装置の研究

(イノロ仮を用いた及回的概念回び明九

H17 特別実験・演習 II

- 色素増感太陽電池の製作と評価
- ・ 屋内電力線上の短波帯電流分布およびそれによる放射電界測定に関する研究
- PCと H8/3069F の組み合わせによる計測制御システムの開発
- RC サーボモータを用いた肩義手の協調動作制御システムの開発
- セルラーニューラルネットワークのロバストネスに関する検討
- ・ 前置木探索 VQ を用いた全探索 VQ 高速符号化手法における高ビットレートの実現について
- ・ 高周波スパッタ法によるナノクリスタルシリコン発光層の作製
- ・ ガンマ線バースト残光の自動観測システムの開発

H18 特別実験・演習 I

- ・ 電源電流測定による CMOS IC のリード浮き検査における内層配線の影響について
- ・ 光ファイバの偏波分散測定装置の開発
- ・ ガンマ線バーストの残光の自動観測システムの開発
- ・ 高周波スパッタ装置の特性評価
- ・ Sub-100nm Cu 配線の実現に向けた2層レジストによるリフトオフプロセス
- ・ 電源電流テストによる狭ピッチCMOS LSIの出力端子のリード浮き検出
- ・ 三角不等式を利用した高速 VQ 手法について
- ・ マイクロ波位相測定システムの開発
- ・ 赤外線マルチスペクトルイメージングによる異物検出に関する研究

資料 5-6-①-13

特別実験・演習題目一覧(2/3)

H18 特別実験・演習 II

- · CPU 用ギャップフィルターの開発
- ・ つや消し電解研磨
- ・ 無線センサーネットワークによる室内温度監視システムの構築
- Java アプレットによる交通流シミュレーション
- 光音響分光法の半導体への適用と学生実験教材の開発
- ・ 視覚障害者歩行支援システムに関する研究
- ・ 木構造化した全探索 VQ コードブックを用いた高速 VQ 手法について
- ・ RC サーボモータを用いた 6 自由度肩義手の協調動作システムの開発
- ・ 柔軟な動作をする自律型サッカーロボットの研究
- ・ マイクロ波を用いた変位計測装置の研究

情報制御システム工学専攻 特別実験・演習

H16 特別実験・演習 I

・ 英語の学習支援システムのための Web データベース構築 I

- ・ 英語の学習支援システムのための Web データベース構築Ⅱ
- ・ OpenGL を用いた 2 次元 CG プログラミング
- ・ OpenGL を用いた 3 次元 CG プログラミング
- ・ 実験教材としての USBit の有用性, USBit の実験書の作成, マルチスレッド
- 電子機器を用いた情報表示装置の調査
- ・ PICNIC の製作と PHP による Web プログラミングの実験
- ・ オンライン MSDN の実現, ディジタル信号処理のプログラミング演習
- PIC 基礎プログラミング演習
- ・ 生体の電気的安全性に関する調査
- ・ 交通シミュレーションプログラムの開発の基礎知識,交通事故の危険性を予測するための交通シミュレーション
- Borland C++ Builder 演習
- · Tex 演習
- ・ 本校専攻科要覧サイトの作成, Web サーバの試作

H17 特別実験・演習 I

- 数式処理プログラミング
- 代数系入門
- リスト処理プログラミング
- ・ Web 小テストシステムの作成
- ・ Web データベース構築実験
- ・ 校内事務文書管理ソフトウェアの作成
- ・ PHP と PostgreSQL の連携について
- 交通シミュレーションについて、
- ・ 交通事故の危険性を予測するための交通シミュレーションの開発
- ・ PIC 基礎プログラミング演習
- · PIC ターゲットボードの制御プログラムの作成
- ・ センサシステムの特性・補正に関する研究
- 線形写像の階数について、
- ・ ホモロジー群を計算する GAP パッケージの開発
- 動画像処理プログラミング
- 神経回路網による画像認識
- 微分幾何演習

資料 5-6-①-13

特別実験・演習題目一覧(3/3)

H17 特別実験演習 II

- コーパス・テキスト分析のための java 演習 java を用いた平文テキストからのイディオム抽出
- ・ HMD インターフェースの作成
- ロボットアームの3次元座標の測定
- ・ 乱数生成プログラム
- ・ OpenGL を用いた固体内の電子の軌道描画ソフトの作成
- ・ Google ローカルと GPS ケータイを使った移動記録システム
- ・ サイトマップ自動作成プログラムの開発
- ・TCP ポートスキャンツールの開発
- ・ 音声加工によるオープンセミナー展示用システムの試作 windows 上でのリアルタイム音声処理について
- PIC16F873 を用いた計測実習
- 交通事故の発生する危険性を予測する交通シミュレーションプログラムの開発,
- 交通シミュレーションプログラムの開発
- 数值計算法
- 測地線の方程式の計算
- ・ Google Maps APIと GPS 携帯電話連動システムの試作,
- ・ base64encoder/decoderの試作

H18 特別実験演習 I

- ・ Prolog, VB6 からの形態素解析(chasen)及び構文解析(knp)の利用方法,
- 最近の自然言語処理研究に関する調査
- 画像処理プログラミング
- ・ カラー画像処理プログラミング
- ・ TOEIC 各章問題の傾向と、推察できる効果的な学習プログラム作成
- マルチエージェント実験システムの開発
- 微分幾何演習
- · Tex 演習
- PIC 基礎プログラミング演習
- ・ けん玉をモチーフとしたリアルタイム OS 実習装置の開発
- ・ ディジタル画像の色空間の表現
- ローカルiアプリサーバ構築のための基礎実験

H18 特別実験演習 II

- ・ 精度保証付き計算による連立1次方程式の解法
- ・ Web アプリケーションのためのユーザ管理システムの作成
- · Web とデータベースの連携について
- ・ 交通関係論文のサーベイ
- ・ PIC ワークブックの評価
- ・ センサシステムの特性・補正に関する研究
- ・ GAP による線形代数演習
- ・ 周波数領域における画像のフィルタリング

(出典 専攻主任保管資料)

H18 専攻科科目別受講者数集計

	専攻科 科目	学 年	選択	受講 者数
	コミュニケーション英語 I	1	必	20
	コミュニケーション英語 Ⅱ	2	必	18
般	技術者倫理	1	必	20
科	文学特論	2	選	10
	物理科学特論	1	選	20
	応用数学特論	1	選	20
	知的財産権	1	選	19
	工業英語	1	選	20
	工業数学	1	選	17
	量子力学	1	選	20
	グラフ理論	1	選	20
専	情報工学基礎論	1	選	20
門	数値計算論	1	選	20
共	情報ネットワーク論	1	選	20
通	計測工学特論	1	選	20
科	ディジタル信号処理工学	2	選	10
目	マルチメディア工学	2	選	18
	アルゴリズムとデータ構造	1	選	19
	ソフトウェア工学概論	2	選	16
	エネルギー変換論	2	選	14
	特別講義	2	選	18

	専攻科 科目	学 年	選択	受講 者数
電	特別研究	1	必	9
子	特別研究	2	必	10
通	特別実験·演習 I	1	必	9
信シ	特別実験・演習Ⅱ	2	必	10
ス	集積回路工学	2	必	10
テ	応用電磁気学	1	必	9
ムエ	材料工学	1	選	9
学	電子物性	1	選	9
専	電子デバイス工学	2	選	0
攻	電磁波・光波工学	1	選	9
専	光通信工学	2	選	1
攻	通信理論	1	選	8
科	システム工学	2	選	10
目	ニューロ・ファジィ技術	2	選	0
情	特別研究	1	必	11
報	特別研究	2	必	8
制	特別実験·演習 I	1	刢	11
御シ	特別実験・演習Ⅱ	2	必	8
ス	システム制御理論	2	選	8
,	数式処理概論	2	選	2
ムエ	画像処理工学	1	選	11
学	生体工学	2	選	8
専	電力制御機器工学	2	選	4
攻	光エレクトロニクス	1	選	未開講
専	人工知能	1	選	11
攻	オブジェクト指向プログラミング	1	選	11
科	医用工学	1	選	11
目	教育システム工学	2	選	8

(出典 教務係資料より作成)

専攻科の各科目の特色および工夫されている点(1/2)

科目	特色、工夫など	主体的活動,発想を重 視する演習を含む(注)
コミュニケーション英 語 I	音読筆記演習,コンピュータを利用した語彙習得,プレゼンテーション演習	0
コミュニケーション英 語 II	聴力、発話能力の演習、ライティング能力の育成訓練	0
技術者倫理	情報検索,討議	0
文学特論	表現力、討論力の向上、実務的文章作成力を育成	
物理科学特論	数式処理を用いたコンピュータ実習、実習を重視する 評価	
応用数学特論	自作教材,演習の導入	
知的財産権	データベース検索,事例発表,討議,特許明細書の作成	0
工業英語	英語でのプレゼンテーション	0
工業数学	自作教材,毎回の演習レポート	
量子力学	具体的なモデルの詳細な説明	
グラフ理論	具体例を多用した授業	
情報工学基礎論	パワーポイントで講義,シミュレーション実習	
数値計算論	プログラミング実習	
情報ネットワーク論	スイッチおよびルータのシミュレータを使用した設計 や設定の演習	
計測工学特論	レポートにより,授業内容の予習・復習の状況,自ら 学ぶ姿勢を評価	
ディジタル信号処理工 学	4回の試験で評価	
マルチメディア工学	実際のマルチメディアデータを用いた演習	
アルゴリズムとデータ 構造	プログラミング実習	
ソフトウェア工学概論	数人のグループによる UML を使ったアプリケーション設計の実習	0
エネルギー変換論	演習,3回程度のレポートで提出	
特別講義	15 人のオムニバス方式	

⁽注)「主体的活動,発想を重視する演習を含む」は、観点5-6-②で参照

専攻科の各科目の特色および工夫されている点(2/2)

科目	特色,工夫など	主体的活動,発想を重 視する演習を含む(注)
集積回路工学	毎回基本的な課題を宿題、資料検索、レポート提出	
応用電磁気学	演習問題中心の授業	
材料工学	実際の新材料の紹介	
電子物性	3回の実験	
電子デバイス工学	二人のオムニバス方式,一部輪講形式	
電磁波・光波工学	数回のレポート提出、ノートの評価	
光通信工学	一部の項目で実習実験	
通信理論	定期試験(80%)と自主学習評価(20%)による評価	
システム工学	パワーポイントをもちいた講義, ノート等での復習状 況の評価	
ニューロ・ファジィ技 術	(未開講)	
システム制御理論	各節ごとのレポート提出	
数式処理概論	数式処理システムを用いた演習, 小テスト, レポート	
画像処理工学	C言語を用いたプログラミング演習, 章ごとのレポート, 小テスト	
生体工学	生態計測の実習	
電力制御機器工学	3回程度のレポート,演習	
光エレクトロニクス	(未開講)	
人工知能	演習, レポート	
オブジェクト指向プロ グラミング	能力別に学習項目や課題を選別	
医用工学	計測実験,資料調査とレポート	
教育システム工学	オリジナルの教育支援システムを作成し,最終授業で その機能や完成度などを相互評価	0

(注)「主体的活動、発想を重視する演習を含む」は、観点5-6-②で参照

(出典 シラバスより抽出)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的上,時間をかけて教育すべき科目を実験または演習科目としている。非講義科目の時間 数は講義科目の約1.5倍程度になっており,教育の目的に照らして妥当なバランスになっている。

技術者倫理やコミュニケーション英語は教育目標を達成する上で重要な役割を担っているが、それ ぞれで教育目的に応じた工夫がなされている。ほとんどの科目で、少人数教育のメリットを活かした 学習指導上の工夫が行われている。

観点5-6-②: 創造性を育む教育方法(PBLなど)の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

創造性のための必要条件として、新しい発想やアイデアの捻出、設計・製作能力を考えている。 設計・製作能力に関しては、本校の学習教育目標Eに対応する科目で教育している。両専攻とも、 10以上の科目がある(資料5-5-2-8)。特に、電子通信システム専攻では設計を目的とする実験を行っている(資料5-6-2-1)。

新しい発想の機会を与えるため、学生の主体的活動、発想を重視する演習が、いくつかの科目で行われている(資料5-6-0-15)。新しい発想やアイデアの捻出のためには、独自な考え方を持つ、違った視点を導入することが大切である。特別研究では、研究記録(資料5-6-2-2)の記入により、学生独自の考えを熟成させ、指導教員等との議論で違った視点を導入して新しい発想やアイデアの捻出に結び付けたいと考え指導している(資料5-6-2-3)。また中間発表を、議論を通じ、さまざまな視点を導入する機会と位置づけ、学生同士の議論を奨励し、調査票(資料5-6-2-4)の記入により定着を図ろうとしている。

創造的技術開発能力を特別研究論文査読シートの新規性の項目や達成度自己評価で評価している (資料5-6-2-5)。

平成19年度からは特別実験・演習で創造性の涵養を目的とする実験(資料 5-6-2-6)を始める。

資料5-6-2-1

電子通信システム専攻の特別実験・演習 I の「自動販売機の IC の設計」のテキスト

自動販売機 IC の設計

【目的】

- 1. 論理回路の基礎を復習して、基礎学力を確実にする。
- 2. 半導体工学の基礎を復習して、基礎学力を確実にする。
- 3. 論理回路、半導体工学などを統合した IC 技術を応用する能力を養う。
- 4. 演習結果をレポートにまとめ、発表することによりプレゼンテーション能力を高める。

【日程】 6月12日(月)論理回路の復習

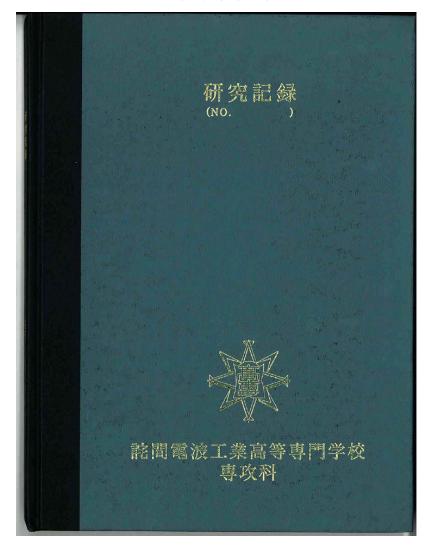
- 6月13日(火)簡単な自動販売機の論理回路の設計
- 6月19日(月) "
- 6月20日(火) ":レポート作成
- 6月26日(月) #:結果発表
- 6月27日 (火) IC 設計に必要な半導体の復習・演習
- 7月 3日(月) ":レポート作成
- 7月 4日 (火) ": 結果発表
- 7月10日(月)簡単な自動販売機のIC設計
- 7月11日(火) "
- 9月 4日(月) "
- 9月 5日 (火) "
- 9月11日(月) ":レポート作成
- 9月12日 (火) ":レポート作成
- 9月19日(火) ":結果発表

1 はじめに

この実験・演習では自動販売機の核となる論理回路を集積回路で実現する。ところで集積回路設計は、電子回路、半導体工学、システム工学、物理、化学など様々な技術が統合されている技術である。したがって、簡単な回路を集積回路で実現するとそこに集積されている様々な技術を学ぶことができる。 IC 設計をする人と IC を使う人とを較べるとはるかに IC を使う人の方が多い。しかし、IC ユーザも、IC 設計を知っていると、実際の技術活動の場面では大変メリットが多い。例えば IC ユーザとして SPICE を使って回路設計をするにも、IC の内部構造や、トランジスタの物理的なサイズや、物理的なパラメータなどが必要になる。その時、ここで学ぶような IC 技術が役立つ。そこで、この演習では簡単な自動販売機の IC を設計する。

(出典 特別実験・演習 I テキスト)

研究記録(1/2)



資料 5-6-2-2 研究記録(2/2)72 = 2006.10.17 (K)= @ In Mno 論文 @ 蒙野大Zn0. 「リノエ比の増加とともに、バンドギャルプの下のテールが顕著になる個句。 拉抗等似低下。(四端)放下了3 抵抗奔避定)。 1分ドナー濃度が上界しているのが原因. 丁/エ比を増やすことで、酸素源である水の供給量似上昇 「い水系(2n0中でのドナーとしてのイド用が販告エチャマいる)の際中への 取り込みかずりりしたでめ、 ※ バースタインラフト ⇒ 高ッチルギー個1=37ト (TS上昇ととも1) ~ どろらもドナーが増えているのと ⇒位"(四/亚州) (连,结县州で当 今回 ◎ バーグタインシフトはドナー濃度が高い、大きなはネルギーを与えていと が起いるい。なので高ラネルギー個113つト. うその方では不純物準作718"10 両足とか みられ、スパクトルか 311713. ③ 不統物導付入の原型によって他珍れず一側にラフト、 位温に注すると、~ 不統物等位かでるがもしれてみい。 考迫すんのボワヤ·→ PLz"は緑色発光が見られる。PASTは見られてはい PASzil,水季(ドナー)はわかるが、PLzilhからない. VI/IN 14.97"(J. FEBT=11= 2", 1301 p. B3. しかラントしたのはか起子吸収にするもの! V/I比 29.8 17.13. 吸收端水 展17.117.013. PLZ"郁起多吸收灯" 展入1·131·ので、新れあり、コサルエンタ8も測定した方がいかる? (出典 研究記録)

資料5-6-2-3

研究記録記入の指導

Ⅲ. 研究記録に関すること

1. 研究記録の必要性

研究を始める時は、過去に行われた関連する研究状況を調べ、未達の部分や改良が必要な部分を見いだし、研究の意義づけを行った上で、研究テーマを設定する。研究テーマが定まれば、次に年間の研究計画を立て、それらを実現するための具体的な実験計画を立て実行する。

研究で行う実験は初めて行う実験なので、学生実験の様に必ず良い結果が得られるという保証はない。むしろうまくいかないほうが多いといえる。うまくいかない状況に陥った場合、良い結果を出すことが焦眉の急となり、当初の研究計画の目標は忘れられがちになり、気がつけばかなり時間が経過したにも係わらず、研究は当初想定していたほど進捗していない、という状況に陥りがちである。

これを防ぐため、指導教員を交えて研究グループで定期的に研究経過報告のためのミーティングを行うのが常である。この時、状況を客観的にかつ詳細に解析するために、毎日の記録、特に数値化した記録が非常に役立つことになる。結果だけでは、なぜそうなったかの解析が不可能で、実験方法を考え直す上で、また今後の計画を立案する上での参考にはならない。また記憶は、長期間経過すると曖昧になりがちで、時には思い込みから誤った記憶になる場合もある。これも過去に行った一連の実験を見直す場合には信頼性に欠け、実験計画を立てる参考資料としては使えない。この様なことから、具体的な記録は非常に重要である。

以上の手法は、実験系の研究テーマについて特にいえることであるが、それ以外の研究テーマ においても、研究の進め方はほぼ同じであるので、事情は同じであり、実験や研究記録は重要で ある。

2. 研究記録のつけ方

ノートは、年間をとおして毎日使うものなので、耐久性のあるハードカバーでかつ後で付け足 し等ができなくするため頁番号がふってあるものを用意した。上述したことを心にとめて、毎日 の実験内容の概要と結果をできるだけ具体的、定量的に記録して欲しい。

また、実験中に疑問に感じたこと、直面した問題の概要と考えられる対策、ひらめいたアイデアなどを書き留めておくのも良い。これは後で問題解決策の一案となるばかりでなく、新しい研究テーマの卵になる可能性もあるからである。また指導教員とのミーティング概要も記録しておけば、実験中に方針を再確認できるので好都合である。

以上の様に、記録をとることを通じて、多面的に物事を観察し詳細に記録する習慣、常識に対しても、"なぜ?"と思える、先入観にとらわれない姿勢とその疑問の答えを出す習慣を身につけることが、"実践的な技術者"、"創造性のある技術者"への成長につながると信じている。

"独創は出したいと思っている人には出せない。事実を丹念に追っているうちに新しいことに巡り会う",といわれている。また、"創造性を高める方法は、関心ある異分野の知識、経験をできるだけ多く持つこと"ともいわれている。これらの言葉を常に心にとめ、専攻科の2年間で、ぜひ技術者としての基本的な素養を身につけて欲しいと願っている。

(出典 専攻科学生便覧 18, 19 頁)

資料5-6-2-4

特別研究中間発表調査票の例(1/2)

H18年度 特別研究 (1年次) 発表会調査票

氏名				
題目	ディララル表示計算!	器。測定值	自動読み取りつからの	TK.

1. 発表・予稿に関する総括

子福、発表用資料工作成下は時間的に余裕はある下か、作成後にプログラムは見の見直しましな ければいけないも思た。

2. 質問内容と答(概要)

3. 受けたコメント (概要)

- 時微量が少な行と小数点がよみいないのでは?
- 一測を値に対してのレラジをつけるかけでいけないかり、
- 研究動機をもった具件的に強くい。裏をほうかいよい。

4. 研究計画の検討・修正について

特徵量上,通素上フルス比較引流法とフルン考之項上が必要

- 手は、文字の判定方法トラハこの変更をしなければ"nけないかもしせない.
- 測定値に対して単位をつけるしをンジが火星。
- 研究動機多用にするバラである。

5. その他 (感想など)

- 、続かならむ国が時間があなり今まってしま、下、
- 、先生から意見が多に向けて今後的研究に対する考えが色々となべらん下。

資料 5-6-2-4

特別研究中間発表調査票の例(2/2)

H18年度 特別研究 (1年次) 発表会記録用調査票 (参加者用)

質問・コメントを行った場合、発表者氏名、質問・コメント区分、概要を記入して下さい。

氏名

発表者氏名	質問・コメントの別、概要
	1. 質問現体。携帯电话の刺胀容量
	2. コメント
	·
	1. 質問 精度 小問題
	2. コメント
,	
	1. 質問 GPUとは何か? Geforce エかRADものかに代表これるGPUのことか?
	2. コメント
	1. 質問
	2. コメント
	1 質問

(出典 専攻主任保存資料)

創造的技術開発能力に関する評価(1/5)

平成17年度

技術開発能力の涵養 (専攻科)

1. 目的

知識社会に対応できる創造的技術開発能力を養う。

2. 平成17年度の目標

技術開発能力を高める教育環境を作る。

3. 手段

・ 成果の評価方法を検討し、技術開発能力を助長する評価を行う。

技術開発能力を高める教育環境作りの一環として、専攻科の特別研究論文の評価の様式を整えた。 つまり、図1に示すように専攻科特別研究論文査読シートを制定した。そして、その中の評価項目 に新規性を設けた。研究に新規性があるとは、研究内容が公知・既発表または既知のことから容易 には導き得るものでないことを指す。たとえば以下に示すような事項に該当する場合は新規性があ ると評価する。

- a) 主題, 内容, 手法に独創性がある。
- b) 学界, 社会に問題を提起している。
- d) 創意工夫に満ちた技術的検討, 経験が提示されている。
- e) 困難な研究・技術的検討をなしとげた成果が盛られている。
- f) 時宜を得た主題について、新しい知見と見解を示している。

この評価項目,及び内容を公表して,専攻科学生による特別研究がより新規性を含むようになることが期待され,技術開発能力を高めることができる。

専攻科特別研究論文査読シート 査読日時 月 日 主查氏名 副查氏名 学生氏名 專政 年入学 特别研究 評価項目 論文の領域 有用性 新規性 信頼度 適. 不適 有,判定困難,無 有,判定困難,無 有,判定困難,無 所 見

図1 専攻科特別研究論文査読シートの様式

-56-

創造的技術開発能力に関する評価(2/5)

研究発表の機会を増やす。

研究の外部における発表は、新しい知見の紹介であり、研究開発した結果に新規性があるかどうかが第1に問われる機会である。この発表機会を専攻科在学中に少なくとも1回は行うことを不文律として学生を指導した。このような教育環境作りにより、学生の技術開発能力増進が期待できる。

4. 評価方法

直接的評価の方法

目標とした教育環境を作ったかどうかで評価する。

間接的評価の方法

技術開発能力を高める教育環境を作って、その結果どのように技術開発能力が付いたかを調べる。 評価方法としては、特別研究の成果である

- (1) 論文査読シートの新規性の評価
- (2) 外部への研究発表の件数
- (3) 学生による到達度自己評価の点数により評価する。

5. 成果

- 技術開発能力を高める教育環境作りの成果
 - (1) 図1に示す特別研究論文査読シートとともに特別研究論文審査要領を作成し、特別研究の評価 体制を定めた。
 - (2) 専攻科学生便覧に「電気関係学会四国支部連合大会などで、研究発表を1件以上行う。」ことを 掲げ学生による研究成果の外部発表を奨励した。
- ・技術開発能力を高める環境により出てきた教育成果
 - (1) 論文査読シートの新規性

平成17年度専攻科修了生の17名の内,11名について新規性があるとの判定があった。割合に して約65%である。

(2) 外部への研究発表の件数

平成17年度専攻科修了生17名が在学中に行った外部発表は後掲の"平成17年度専攻科修了生の研究実績一覧"に示しているように29件である。

(3) 学生による到達度自己評価の点数

平成17年度専攻科修了生による技術開発能力についての達成度自己評価を表1に示す。 最大の高い評価点が4、最低の評価点が1のレベル分けにより評価して、殆どの項目において 評価の平均点が3を超えており、技術開発能力を高める教育環境作りにより、良い成果を得て いると判断できる。

表1 学生による学習教育目標達成度の自己評価結果

	与えられた課題を達成する手段を設計し,粘り強く問題解決に取り組	
	むことができるようになる.	
	① 計画を立案できる能力	平均
	1)目的を言える。(課題を理解している。)	3.18
	2) 手順を示すことができる。	3.12

創造的技術開発能力に関する評価 (3/5)

3) 計画案を示すことができる。	2.88
4) 必要に応じて計画を改善できる。	2.94
② 回路又はシステムを設計できる能力	平均
1) 回路又はシステムを設計するための基礎知識を持っている。	3.06
2) 設計手順, 手法を知っている。	3.06
3) 設計できる。	2.88
③ 回路を組み立てることができる能力、又はシステムを構築できる能力	平均
1) 回路の組み立て又はシステム構築のための基礎知識を持っている。	3.29
(回路部品や記述言語などの知識)	3.29
2) 回路を組み立てる又はシステムを構築する手順, 方法を知っている。	3.06
3) 設計どおりに組み立てる又は構築できる。	3.12
4) 回路又はシステムを評価し、調整あるいは改良できる。	2.88
④ 回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力	平均
1) 回路又はシステムの正常な動作を知っている。	3.35
2) 正常な動作かどうか検証できる。(予測値と実測値を比較して検証でき	3.18
వ _ం)	0.10
3) 回路又はシステムの動作チェックリストを作成できる。	2.82
4) 区分して回路又はシステムの問題点を見つけている。	2.82
⑤ 問題点を解決できる能力	平均
1) 問題点を理解している。	3.18
2) 教師の助言を受けて、問題を解決できる。	2.94
3) 学生間で問題を解決できる。	2.71
⑥ 粘り強く取り組む姿勢	平均
1) 興味を持って取り組んでいる。	3.00
2) 作業状況に応じて計画を見直している。(再製作,再構築,再設計)	2.94
3) 達成するまで粘り強く取り組んでいる。	2.82

6. これからの取り組み

・ 研究記録ノートの活用

本校専攻科では学生にハードカバー付きの研究記録ノートを学生に提供している。研究記録の必要性やノートの付け方については、学生便覧に記載しているし、専攻科入学生のオリエンテーションから始まり、折りにふれ学生に研究記録をつけることの重要性を認識させるように導いているが、良い記録がつけられているかどうか疑問である。

そこで、実験の多い電子通信システム工学専攻ではシラバスを改良して、研究記録ノートにより評価する達成度項目を明確にした。その項目の中には、「問題発見や解決方法のアイディアの証拠を残し、研究過程で生じた問題を解決する能力」が含まれている。次年度はこのシラバスに基づいて特別研究を行う。この教育環境の改善により、技術開発能力が高められることが期待できる。

資料 5-6-2-5

創造的技術開発能力に関する評価(4/5)

平成 18 年度

技術開発能力の涵養 (専攻科)

1. 目的

知識社会に対応できる創造的技術開発能力を養う。

2. 平成18年度の目標

技術開発能力を高める教育環境を整備する。

3. 手段

・成果の評価方法を検討し、技術開発能力を助長する評価を行う。

17年度に技術開発能力を高める教育環境作りの一環として、評価項目に新規性を設けた専攻科 特別研究論文査読シートを制定した。そして、以下に示すような事項に該当する場合は新規性があ ると評価する。18年度についても引き続き同様の評価を行う。

- a) 主題, 内容, 手法に独創性がある。
- b) 学界, 社会に問題を提起している。
- d) 創意工夫に満ちた技術的検討, 経験が提示されている。
- e) 困難な研究・技術的検討をなしとげた成果が盛られている。
- f) 時宜を得た主題について,新しい知見と見解を示している。

この評価項目,及び内容を公表して,専攻科学生による特別研究がより新規性を含むようになることが期待され,技術開発能力を高めることができる。

研究発表の機会を増やす。

研究の外部における発表は、新しい知見の紹介であり、研究開発した結果に新規性があるかどう かが第1に問われる機会である。この発表機会を専攻科在学中に少なくとも1回は行うことを不文 律として学生を指導する。このような教育環境作りにより、学生の技術開発能力増進が期待できる。

創造性を育む教育の一手法の試行

創造性を育む教育の一手法として、1年生の特別研究中間発表会および年度末の発表会において、 質疑に加えて、研究の視点を変えさせるようなアドバイスやコメントを参加の教員にお願いし、発 表後その内容を学生および教員にも記録させる。これらが、その後の研究のレベルアップや創造性 発揮の手助けになることを期待できる。

4. 評価方法

直接的評価の方法

目標とした教育環境を作ったかどうかで評価する。

間接的評価の方法

技術開発能力を高める教育環境を作って、その結果どのように技術開発能力が付いたかを調べる。 評価方法としては、特別研究の成果である

(1) 論文査読シートの新規性、創造性の評価

新規性の評価に加えて、1年時の特別研究中間発表会および年度末の発表会におけるアドバイスやコメントが研究の視点を変える(創造性を育む)手助けになったかどうかを19年度より

創造的技術開発能力に関する評価(5/5)

論文査読シートの所見欄に記入する。

- (2) 外部への研究発表の件数
- (3) 学生による到達度自己評価の点数により評価する。

5. 成果

(1) 論文査読シートの新規性

平成 18 年度専攻科修了生の 18 名の内, 11 名について新規性があるとの判定があった。割合に して約 61%である。

(2) 外部への研究発表の件数

平成 18 年度専攻科修了生 18 名が在学中に行った外部発表は後掲の "平成 18 年度専攻科修了 生の研究実績一覧"に示している。

(3) 学生による到達度自己評価の点数

平成 18 年度専攻科修了生による技術開発能力についての達成度自己評価を表 1 に示す。 最大の高い評価点が 4,最低の評価点が 1 のレベル分けにより評価して、大半の項目において 評価の平均点が 3 を超えており、技術開発能力を高める教育環境作りにより、良い成果を得て いると判断できる。

6. これからの取り組み

・研究記録ノートの活用(継続)

本校専攻科では学生にハードカバー付きの研究記録ノートを学生に提供している。研究記録の必要性やノートの付け方については、学生便覧に記載しているし、専攻科入学生のオリエンテーションから始まり、折りにふれ学生に研究記録をつけることの重要性を認識させるように導いているが、良い記録をつけることが出来るかどうかが引き続き課題である。

そこで、実験の多い電子通信システム工学専攻ではシラバスを改良して、研究記録ノートにより 評価する達成度項目を明確にしている。その項目の中には、「問題発見や解決方法のアイディアの 証拠を残し、研究過程で生じた問題を解決する能力」が含まれている。この教育環境の改善により、 技術開発能力が高められることが期待できる。

創造性を育む教育の充実

各学科で創造性を育む教育教材・手法および実験機材を準備し、19年度前期より専攻科1年生の特別実験に導入し、試行する。

(出典 平成 17 年度年報 56 頁, 平成 18 年度年報 58 頁)

資料 5-6-2-6

創造性の涵養を目的とする実験(1/3)

1. 専攻科第1学年特別実験 「マイクロコンピュータを用いたロボットコンテストの企画」

1. 特別実験の目的

この特別実験では、マイクロコンピュータ(以下、マイコン)を用いた自律型ロボットによるロボットコンテストのテーマ、競技ルール、試作機を製作することによりメカトロニクス分野の技術者として必要な創造力を養うことを目的とする。

2. 技術的矛盾

創造的問題解決の過程では、しばしば、ある技術特性を改良しようとすると別の技術的特性が悪化・劣化するという状況が起こる。例えば、車両速度を上げようとすれば騒音や振動が増加し、燃費が悪くなり、操作性を向上しようとすれば、機器や回路が複雑となるという問題である。この問題を技術的矛盾と呼ぶ[1]。技術的矛盾の一般的な解決策は、トレードオフ、すなわち、妥協点を見出すことであるが、優れた発明では、斬新な方法により見事に問題をクリアーしている。問題解決には、解決案がよく知られ教科書に載っているような易しいレベルから新たな発見を伴うような革新的なレベルまで数段階がある。革新的な問題解決法は天才のひらめきが必要であるが、その他のレベルでは、プロジェクトに属するメンバーの個々のアイデアを併せたり、文献調査による知識から類比思考や連想を働かせることにより問題を解決できる可能性は高い。そのための第1ステップは、技術的矛盾の状況を明確に把握することである。この特別実験では、技術的矛盾を意識したテーマ設定と競技ルールの策定を通して、創造力を考えることとする。

2. 製作課題

マイコンを用いた自律形ロボットによるロボットコンテスト(以下,ロボコン)のテーマ,競技ルール,試作機を以下の条件に基づいて製作する。結果は、プレゼンテーションにより発表し、レポートにより報告する。

(1) テーマ

競技可能なテーマであれば自由に設定してよい。ただし、ロボコンに勝利するために解決すべき 技術的矛盾を含まなければならない。

(2) 競技ルール

1チームの構成は数名とする。各チームは1台の自律ロボットを持つ。競技の優劣は、客観的に 判定できること。

(3) 試作機製作

次の条件と作成した競技ルールを満たす試作機を1台製作すること。

(a) マイコン

使用するマイコンは、開発環境とともに与えられた 16 ビットマイコンの候補から 1 種類を選択 する。他の機種を選択したい場合は、別途指示される予算の範囲内で購入する。

(b)駆動部

駆動部のモータ、ギア、電池ボックスは、与えられたものを使用する。

(c)センサ

センサ類は、種別、数量を各チームで選定し、別途指示される予算の範囲内で購入する。

(d)プログラム

資料5-6-2-6

創造性の涵養を目的とする実験(2/3)

使用するプログラム言語は、C言語及びアセンブリ言語とする。

(4) プレゼンテーション

テーマの設定,競技ルール,試作機の製作についてプレゼンテーションするとともに成果を相互 評価する。

3. 実施手順

この特別実験は、表1に示すように前期15回(週1回3時間)で実施する。

П	内 容	説 明			
1	特別実験1	2, 3人で1チームを構成する。マイコン			
2	チーム結成、マイコン選択	を選択し、開発環境に習熟する。			
3	特別実験2	例題として示されたシステム構成を理解			
4	例題分析	し、各チームの環境条件に置き換える。			
5	.特別実験3	要求定義の演習を行い、決定したテーマを			
6	要求定義演習,テーマ企画	仕様書としてまとめる。			
7	特別実験4	試作機を製作する。			
8	試作機製作				
9 特	別実験 5	試作機を製作する。			
1 0	試作機製作				
11 特	別実験 6	試作機を製作する。			
1 2	試作機製作				
13特	別実験7	プレゼンテーションを行い, 相互評価する。			
1 4	レポート				
1 5	プレゼンテーション				

表 1 実施計画

4. マイコン

(1) 16ビットマイコン H8/3694F

図1に、候補マイコンの1種である16ビット・ワンチップ・マイコン H8/3694F を示す[2]。 H8/3694 グループの CPU は、H8/300 CPU の上位互換のアーキテクチャを持つ内部 32 ビット構成の H8/300H CPU である。PC との接続は同図(b)に示すインターフェイスボードを用いる。表 2 に、H8/3694F マイコンボードの仕様を示す。H8/3694F の詳細は、H8/3694 グループハードウェアマニュアルを参照のこと。

以下省略

資料5-6-2-6

創造性の涵養を目的とする実験(3/3)

2. 専攻科第1学年特別実験 「創造性を育む実験」

平成19年4月6日

情報制御システム専攻1年 特別実験・演習Iについて

創造性を育む実験

前期15週間において創造性を育む実験を行う。学生自らが考えたアイディアによって創造性 を育む実験書(第3から第5学年を対象とする)を作成する。各アイディアに対し、学生間で議 論させることにより、目的や方法論を改良し実験書を完成する。このため、4回の発表会を開催 する。

スケジュール (全15週)

週	内容
第1週~第3週	創造性とは何かについて,下記の参考となるページをもとに自分の 考えをまとめる。
第4週目 5/7(月)	創造性についての発表会 創造性とは何か、自分の考えを示すこと。また、どのようにした ら創造性が育まれるか、または育まれたといえるのかも示すこと。
第4週~第7週	各自,第3から第5学年を対象とした4から8時間の実験テーマを 考える。創造性を育む要素が含まれていること。
第8週目 6/4(月)	実験テーマ、目的、方法論の発表会 実験テーマの着眼点やメリットがわかるように発表すること。他 者から出た意見は必ず記録し、次回の構想発表会にはどのように反 映したかを説明すること。
第8週~第11週	発表会で出た意見をもとに実験テーマ等を修正し、実現に向けての 構想を練る。創造性を育むためのアイディアについても考えること。
第12週目 7/2(月)	実験書 (案) の発表会 できるだけ図や表を含め、試用可能な実験書とすること。また、 第2回発表会(8週目)において出た意見をどのように反映したか も説明すること。
第12週~第15週	実際の実験に使用できるよう実験書を完成する。
第15週目 9/25(火)	最終発表会 これまでの発表会で示した内容が、実験書にどのように取り込ま れているかがわかるように説明すること。また、創造性を育むアイ ディアが何処に含まれているかも示すこと。

(補足)

授業日ごとに記録シート (別紙1) を用意して、その日に調べたことや考えたこと、アイディアなどを記録する。また、実験テーマ等に対して教員や他の学生から出された意見等についても記録すること。週一回、指導教員とディスカッションして教員が記録シートに赤ペンで意見や考えを記載する。

各発表会では、各自概要を A4 用紙1枚以上にまとめ、人数分(教員4,学生4の計8枚)コピーして持参すること。1枚目には、発表日時、タイトル、氏名を含めること。

参考となるページ

日本創造学会 http://css.jaist.ac.jp/jcs/index.html 「創造性の育成」塾 http://netj.or.jp/juku/index.html

提出物

日々の記録シート,全4回の発表会資料,創造性を育む実験書

(出典 実験指導書,情報工学科学科会議資料(学科実験趣旨説明書))

(分析結果とその根拠理由)

新しい発想の機会を与える、学生の主体的活動、発想を重視する演習が、いくつかの科目で行われ、その中でPBLの試みもある。特別研究では、研究ノートや中間発表の場を利用して、学生独自の考えの熟成や新しい視点での思考を促すなど、機会を捉えて創造性を育むための指導を行っている。

以上のことより、概ね創造性を育むための教育上の工夫が行われているといえる。

観点5-6-③: 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、 教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程と同じ過程で、同じ様式のシラバスが作成され、公開されている(資料5-2-2-1, 2)。シラバスには学習・教育目標との対応、達成度基準、履修要件、進め方、教育内容、評価方法等が示され、必要な情報を与えている(資料5-6-1-2-4, 8, 9, 12)。

シラバスを用いて各授業のガイダンスを行っている(資料 5-2-2-4)。学生のシラバスの保存,活用状況はアンケート結果(資料 5-2-2-3)に示されている。

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには十分な内容が記入されている。教員はシラバスを用い科目のガイダンスを行い,活用 している。専攻科生は、約80%がシラバスを保存し、約60%が何らかの形で利用している。

観点5-7-①: 専攻科で修学するにふさわしい研究指導(例えば,技術職員などの教育的機能の活用,複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。) が行われているか。

(観点に係る状況)

1年次の研究指導は1人または2人の教員(主指導教員と副指導教員)で、2年次は2人の教員(主査、副査)が責任を負う(資料5-7-(1-1)。原則として、1人の専攻科生に対し、1人の担当教員が2年間を通じ1対1で指導する。逆に、1人の教員は、多くの場合、1人の専攻科生を、多くても各学年1人の専攻科生を担当する。1年次の11月と3月の発表会では全指導教員が、2年次のまとめの段階では主査、副査の二人が指導する(資料5-7-(1-2)。観点5-6-(2)で述べたように、研究記録と中間発表会の調査票により指導を確実なものとするようにしている。

特別研究のテーマの決定は、多くの場合専攻科入学前にテーマを示し、学生に選択させている。卒業研究のテーマを継続させている学生の割合(資料5-6-1-1)はそれほど高くないので、特別研究の充実のために、特別実験・演習の多くの時間が指導教員の裁量で行えるようになっており、研究に必要な技能や知識の修得に使われている(資料5-6-1-12、13)。

専攻科では学会発表等を奨励し、研究レベルの向上を図っている。ほぼ全員が学外発表を行っている(資料 5-7-①-3、4)。

学校の目的に対し、特別研究が担う部分はシラバスに明示されている(資料5-6-①-8、9)。

各指導教員はシラバスに沿って指導し、その結果は特別研究論文査読シート(資料 5-6-2-5)を参考に特別研究審査会で審査される(資料 5-7-1-5)。

資料 5 - 7 - ① - 1

平成 18 年度特別研究指導教員一覧(1/2)

電子通信システム工学専攻

1 年次

	学生氏名	テーマ	主指導教員	副指導教員
1		電源電流測定による CMOS IC のリード浮き検査における	高木	月本*
		内層配線の影響について		
2		光ファイバの偏波分散測定装置の開発	辻 (琢)	青海*
3		ガンマ線バーストの残光の自動観測システムの開発	澤田*	三河
4		高周波スパッタ装置の設計及び作製	辻 (琢) *	青海
5		(休学)	(澤田)	(福永*)
6		Sub100nmパタン作製用2層レジストプロセス	三崎	長岡*
7		電源電流テストによる狭ピッチCMOS LSIの出力	高木*	月本
		端子のリード浮き検出		
8		三角不等式を利用した最近傍検索の高速化手法について	高木	福永*
9		マイクロ波位相測定システムの開発	森本 (敏)	草間*
10		赤外線マルチスペクトルイメージングによる異物検出に	三崎*	矢木
		関する研究		

注:アスタリスクは研究を直接指導する担当教員を示す。

2 年次

	学生氏名	テーマ	主査	副査
1		CPU 用ギャップフィルターの開発	三崎*	矢木
2		(休学中)	(井上)	(高木*)
3		ステンレス鋼の電解研磨法に関する研究	森本 (峯) *	木下
4		無線センサーネットワークによる室内温度監視システ	井上	梶*
		ムの構築		
5		Java アプレットによる交通流シミュレーション	澤田*	三河
6		光音響分光法の半導体への適用と学生実験教材の開発	三崎	矢木*
7		視覚障害者歩行支援システムに関する研究	住友	増田*
8		木構造化した全探索 VQ コードブックを用いた高速 VQ	住友	福永*
		手法について		
9		RC サーボモータを用いた 6 自由度肩義手の協調動作	森本 (峯)	木下
		システムの開発		
10		柔軟な動作をする自律型サッカーロボットの研究	井上	小野*
11		マイクロ波を用いた変位計測装置の研究	森本 (敏)	真鍋*

注:アスタリスクは研究を直接指導する担当教員を示す。

平成 18 年度特別研究指導教員一覧(2/2)

情報制御システム工学専攻

1 年次

	学生氏名	テーマ	主指導教員	副指導教員
1		遺伝的アルゴリズムを用いた帰納的学習による雑談シ	宮武	野中*
		ステム		
2		写真を用いた視覚障害者のための位置認識システムの	國井*	河田 (純)
		開発		
3		ディジタル計測器の測定値自動読み取りプログラムの	金澤	今城*
		開発		
4		仮想彫刻システムのためのワイヤーによる空間位置セ	徳永*	
		ンサーの試作		
5		英語学習システム作成のための TOEIC 研究	宮武	河田 (進) *
6		マルチエージェント実験システムの開発	徳永	田嶋*
7		重力レンズ効果の CG における輝度補正	福間*	
8		生体インピーダンス軌跡測定システムの開発	一色*	
9		マルチスペクトル画像を用いた不可視領域の可視化	金澤*	河田 (進)
10		二足歩行ロボットの制御に関する研究	村上*	
11		ローカル i アプリサーバ支援システムの構築	河田 (純)	鰆目*

注:アスタリスクは研究を直接指導する担当教員を示す。

2 年次

1 50				
	学生氏名	テーマ	主査	副査
1		数式処理システム Asir 上での精度保証付き計算に関	村上	近藤*
		する研究		
2		データベースを利用した小テスト支援システムの試作	宮武*	今城
3		学内事務文書管理ソフトウェアの作成	金澤	高城*
4		交通事故の危険度を予測するための交通シミュレータ	金澤	松下*
		の開発		
5		意思伝達支援のための符号式文字入力装置の開発	一色*	山本
6		センサシステムの特性・補正に関する研究	徳永	田嶋*
7		ホモロジー群を計算する GAP パッケージの開発	福間	奥山*
8		手の動作認識によるロボット制御システムの開発	徳永*	田嶋
9		(休学中)	(福間*)	

注:アスタリスクは研究を直接指導する担当教員を示す。

(出典 専攻科長保存資料)

資料5-7-①-2

特別研究(2年次)の指導体制

2. 専攻科特別研究(2年次)の評価と記録に関する専攻科委員会での確認事項

平成17年4月20日 専攻科委員会にて

(1)特別研究指導体制

・各学生の特別

研究論文を審査するために主査・副査をおく。

- ... 省略 ...
- ・6月末日までに主査・副査を決定する。
- ・主査・副査は学位授与機構に提出する学修レポートを査読し、助言、指導を行う。
- ・主査・副査は特別研究論文を査読し、論文に対する作成指導と評価を行う。

(出典 専攻科成績等に関する確認事項(専攻科ホームページ教員限定))

資料 5 - 7 - ① - 3

研究発表実績集計表

	Н16		H16 H17			H18							
入学	専攻	学会	研究	査 読	紀要	学会	研究	査 読	紀要	学会	研究	查読	紀要
年度			会	論文	等		会	論文	等		会	論文	等
H16	AE	5	0	0	0	1	7	0	0				
	ΑI	3	3	0	1	0	8	0	0				
	合計	8	3	0	1	1	15	0	0				
H17	AE					3	0	0	1	1	10	0	1
	ΑI					5	1	0	1	0	5	0	0
	合計					8	1	0	2	1	15	0	1
H18	AE									2	1	0	0
	ΑI									3	0	0	0
	合計									5	1	0	0
合	計	8	3	0	1	9	16	0	2	6	16	0	1

AE:電子通信システム工学専攻, AI:情報制御システム工学専攻

(出典 専攻科特別研究評価記録等から集計)

平成 18 年度修了生研究業績 (1/2)

修了予定者の研究実績一覧

電子通信システム工学専攻

著者名	論文名	発表機関	発表年月
	CPUとヒートシンクの温度差による 熱抵抗の測定	第66回応用物理学会 学術講演会 講演予稿集	2005年9月
	つや消し電解研磨	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	無線センサネットワークによる室内 温度監視システムの構築	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	Javaアプレットによる交通流シミュレ ーション	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	半導体のバンド構造に関する学生 実験	第66回応用物理学会学術 講演会 講演予稿集	2005年9月
	Structural and Optical Properties of Cu-In-Se and Mg _x Zn _{1-x} O Thin Films	愛媛大学工学部 工学ジャーナル 第5巻	2006年3月
	半導体工学に関する学生実験支援 システムの開発	詫間電波工業高等専門学校 研究紀要 第34号	2006年6月
	光音響分光法を用いた半導体工学 に関する学生実験	第12回 高専シンポジウム, B-22, 要旨集	2007年1月
	半導体工学に関する学生実験支援 システム	第12回 高専シンポジウム, B-23, 要旨集	2007年1月
	Zn及びH₂Oを原料とする大気圧 化学気相堆積法によって成長した ZnO薄膜の光学的特性	第54回応用物理学関係 連合講演会(発表予定)	2007年3月
	半導体工学に関する学生実験 -半導体の光音響スペクトル測定-	応用物理教育, 31(1) (投稿中)	2007年5月
	視覚障害者歩行支援システムの 研究	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	前置木探索VQを用いた全探索VQ 高速符号化手法における全探索 VQコードブックの木構造化について	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	木構造化した全探索VQコードブック を用いた高速VQ手法	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	RCサーボモータを用いた6自由度 肩義手の協調動作制御システム の開発	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	柔軟な動作をする自律型サッカー ロボットの研究	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	マイクロ波を用いた変位計測装置 の研究	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月

資料5-7-①-4

平成 18 年度修了生研究業績 (2/2)

情報制御システム工学専攻

著者名	論文名	発表機関	発表年月
	数式処理システムAsir上での 精度保証付き計算に関する研究	平成18年度中四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	Webを利用した小テスト支援システムの試作	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	学内事務文書管理ソフトウェアの 作成	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	交通シミュレータによる歩行者・ 自動車混在交通の模擬	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	交通事故の危険度を予測する ための交通シミュレータの開発	情報処理学会第24回高度 交通システム研究会	2006年3月
	意思伝達支援のためのモールス 符号を用いたマウスによる文字 入力装置	詫間電波工業高等専門 学校研究紀要第33号	2005年6月
	意思伝達支援のための符号式 文字入力装置の開発	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	意思伝達支援のためのモールス 符号を用いた文字入力装置の開発	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
- W. 771 H	センサシステムの特性・補正に 関する研究	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	ホモロジー群を計算するGAP パッケージの開発	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月
	身体動作認識によるロボット制御 システムの開発	平成17年度電気関係学会 四国支部連合大会講演論文集	2005年9月
	手の動作認識によるロボット制御 システムの開発	平成18年度中国四国地区 高等専門学校専攻科生 研究交流会	2006年4月

(出典 平成 18年度専攻科特別研究論文集 101, 102頁)

特別研究審査会の記録

H18年度 専攻科 情報制御システム工学専攻 特別研究審査会 (2年次) 記録

場所 専攻科棟 1 階共同利用実験室

日時 平成19年 2月21日 16:00~16:30

出席者 近藤、宮武、金澤、高城、松下、一色、徳永、田嶋、福間、奥山、國井

議事内容

専攻科委員会での確認事項および、シラバスの評価方法、学習到達度目標について審議を行った。論文審査に関しては査読シートを確認し、全員が可であると判断した。発表審査に関しては、全員可であった。(発表評価シートの集計結果をもって確定する。)特別研究の取り組み状況に関して、各指導教員から可であるとの報告を受けた。学習到達度目標に関して、各指導教員からすべての項目について達成しているとの報告を受けた。

以上より下記の学生の特別研究の成績を合格とする。

記

以上

付記 発表評価シートの集計結果より、各学生とも発表能力は良好であった。

(出典 専攻主任保管資料)

(分析結果とその根拠理由)

1人の担当教員が2年間連続して、要所では複数の教員が、学生個別のテーマについて研究指導を行っている。ほぼ全員が学外発表を行っている。研究内容に関しても 60%強の学生が新規性を認められている(資料5-6-2-5)。以上より、学校教育法上の目的を達成する上でふさわしい指導が行われていると判断する。

シラバスには学習教育目標に対する特別研究の位置付けがなされており、それに沿って指導がなされ、その達成度は特別研究審査会で確認されている。研究記録や中間発表時の調査票により、指導をより有効なものにしようとしている。学校の教育目的を達成する上でふさわしい指導が行われていると判断する。

観点5-8-①: 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

修了認定,成績評価・単位認定規定が専攻科学生便覧に掲載され,配布されている(資料 5-8-1 ① -1 , 2)。各授業科目の成績評価法はシラバスに明記されている。これらの周知はガイダンス(資料 5-8-1 ~ 3),各授業で行われている(資料 5-2-1 ~ 6 修了認定,成績評価・単位認定規定の認知度はアンケート(資料 5-8-1 ~ 0 とおりである。

1単位の学習時間に関しては、専攻科学生便覧、上記のガイダンスで学生に周知している。

個別の科目についての成績評価、単位認定は各科目担当の教員または教員団によって行われる。準学士課程と同じく、評価に関する資料の保存が義務付けられ、評価の妥当性を確認することができるようになっている(資料 9-1-①-3)。特別研究に関しては、特別研究論文査読シート等を基に、発表会後の特別研究担当者による特別研究審査会で合否の認定を行っている(資料 5-8-①-5,資料 5-7-①-5)。

原則として、試験答案を返却し、解答、配点を示し、確認をさせている。

修了認定は拡大教務委員会の予備審査ののち、教員会議で修了認定を行っている(資料 5-8-1 -6 , 7)。

資料5-8-①-1

詫間電波工業高等専門学校学則 第8章 専攻科

第8章 専攻科

第38条 本校に、専攻科を置く。

第39条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度 な専門知識と技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

第40条 専攻科の専攻及び入学定員は、次のとおりとする。

<u> </u>	,
専 攻	入学定員
電子通信システム工学専攻	8人
情報制御システム工学専攻	8人

第41条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等専門学校を卒業した者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
- (4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- (6) その他専攻科において、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者
- 第42条 校長は、入学志願者に対しては、別に定めるところにより選抜を行う。
- 2 校長は、前項の選抜の結果に基づき、第28条に規定する入学料を納付した者に対して入学を許可する。ただし、入学料免除又は入学料徴収猶予の申請書を受理された者にあっては、この限りでない。
- 第43条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。
- **第44条** 休学の期間は,1年以内とする。ただし,特別の理由がある場合は,1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。
- 2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学の期間は、前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。
- 第45条 開設する授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。
- 2 履修方法については、別に定める。
- 第46条 専攻科に2年以上在学し,所定の授業科目を履修し,62単位以上を修得した者について,修 了を認定する。
- 2 修了を認定した者には、校長は、所定の修了証書を授与する。
- 3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。
- 第47条 専攻科学生については、第3条から第6条、第11条、第12条、第13条の3第1項及び第4項、第19条から第20条、第22条から第24条、第25条の2第1項及び第3項、第27条から第36条、第37条第1号、第37条第3号から第5号の規定を準用する。この場合において、第25条の2第1項中「外国の大学又は高等学校」とあるのは、「外国の大学」と、第37条第3号中「第21条」とあるのは「第44条」と、第37条第5号中「第17条第2項」とあるのは、「第42条第2項」とそれぞれ読み替えるものとする。
- 第48条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(出典 専攻科学生便覧 47 頁)

資料 5-8-①-2

詫間電波工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程(1/2)

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第45条第2項、第46条第3項及び第48条の規定に基づき、本校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業)

- 第2条 1単位時間は、標準50分とする。
- 2 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

(単位の計算方法)

- 第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を持って構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。
 - (1) 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。 (履修方法)
- 第4条 専攻科に関する授業科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「授業科目履修届」(別紙様式1)を所定の期日までに提出しなければならない。

(試験)

- 第5条 専攻科の試験は、定期試験、追試験及びその他の試験とする。
- 2 定期試験は、各学期末に実施する。
- 3 定期試験中に不正行為を行った者は、それ以降の試験を停止させ、当該試験期間中に行われた全科目の試験の成績は、0点とするものとする。
- 4 故意に試験を忌避したと認められた者又は懲戒処分のため試験を受けることができなかった者の当該科目の試験の成績は、0点とするものとする。
- 5 次の各号に該当する理由により定期試験を受験できなかった者については、事由を証明する書類を添えて願い出た場合、追試験を実施するものとする。
 - (1) 病気(医師の診断書がある場合に限る)
 - (2) 忌引 (学生準則第15条による)
 - (3) その他校長がやむを得ない事情と認めた場合
- 6 追試験の成績は、担当教官の判断により、80点満点で評価することも出来るものとする。

(成績評価)

- 第6条 成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。
- 2 成績の評価は、100点法によって評価し、次の評語により区分する。ただし、
- 100点法による評価が困難な科目については、合格又は不合格とする。

評 価	100~80点	79~70点	69~60点	60点未満
評 語	優	良	可	不可

資料 5-8-①-2

詫間電波工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程(2/2)

3 前項の評価は、各授業科目とも出席すべき総授業時数の3分の2以上の出席をした者に対して行う。

(単位の認定)

第7条 前条第2項の規定に基づき、優・良・可又は合格に評価された授業科目については、単位を認定する。

(学業成績の記録及び通知並びに証明)

- 第8条 学生指導要録に記載する成績は評価で記録し、必要がある場合は評語で記録する ことができる。
- 2 学生に対する成績通知は評価で行う。
- 3 校外に対して発行する証明書は、必要がある場合は評語で証明することができる。 (専攻科の修了認定)
- 第9条 専攻科の単位修得及び課程修了の認定は、学則及びこの規程に基づき、教官会議において審議の上、校長が行う。

(再履修)

- 第10条 単位を認定されなかった授業科目は、再履修することができる。
- 2 前項により再履修する場合は、第4条の規定を準用する。

(他の専攻の授業科目の履修)

- 第11条 教育上支障がない場合は、他の専攻で開設されている専門科目のうちの選択科目 を履修し、単位を修得することができる。
- 2 前項の規定に基づき修得した単位は、8単位を超えない範囲で当該専攻における単位として認定することができる。
- 3 第1項により履修する場合は、第4条の規定を準用する。

(他の大学等で履修した単位の認定)

第12条 大学及び他の高等専門学校の専攻科等(以下「大学等」という。)で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(専攻科の修了要件)

第13条 学則第46条に規定するもののほか、修得単位について次の要件を満たした者について、専攻科の修了を認めるものとする。

専 攻	一般科目	専門科目	一般科目,専門科目の合計
電子通信システム工学専攻	8 単位以上	48単位以上	6 2 単位以上
情報制御システム工学専攻	8 単位以上	48単位以上	6 2 単位以上

2 前項において、必修科目は修得しておかなければならない。 (雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典 専攻科学生便覧 58 頁)

資料 5-8-①-3 専攻科ガイダンス (教務関係) 単位 1単位の学習時間 事攻科ガイダンス (教務関係) 講義:15時間の授業 +30時間の自学時間 平成18年4月7日 演習:30時間の授業 +15時間の自学時間 実験:45時間の授業 (1単位時間は本校では50分) 授業科目の分類 専攻科の修了要件 必修科目の修得 一般科目 · 修得単位数 総計 62単位 一般科目 8単位 専門科目 英通専門科目 専門科目 48単位 專攻科目 履修届・履修取り消し 教育課程表にない科目履修 他大学の単位履修 指定日までに教務係に提出する 顧出により16単位まで認定 担当教員に申し出る (専攻主任にもメール等で連絡する) 香川大学相互単位互換協定 H18年度香川大学単位互換科目履修家内参照 他専攻の単位修得 顧出により 8単位まで認定

以下は省略

(出典 専攻科ガイダンス資料)

資料 5-8-①-4

教務規定に対する認知度アンケート

									専攻和	4課程									
		રે.1	Q	.2	Q	.3	Q	.4	G	.5	Q	.6	Q	.7	G	9.8	Q	.9	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	回答数
専1学年	12	5	12	5	14	3	16	1	13	4	17	0	17	0	16	1	16	1	17
守「子牛	71%	29%	71%	29%	82%	18%	94%	6%	76%	24%	100%	0%	100%	0%	94%	6%	94%	6%	100%
専2学年	15	3	16	2	18	0	18	0	12	6	17	1	18	0	14	4	15	3	18
守2子4	83%	17%	89%	11%	100%	0%	100%	0%	67%	33%	94%	6%	100%	0%	78%	22%	83%	17%	100%
全学年	27	8	28	7	32	3	34	1	25	10	34	1	35	0	30	5	31	4	35
土子牛	77%	23%	80%	20%	91%	9%	97%	3%	71%	29%	97%	3%	100%	0%	86%	14%	89%	11%	100%

- Q.1 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が専攻科学生便覧(学則, 専攻科の授業科目の履修等に関する規程)に 掲載されていることを知っていますか。
- Q.2 修了審査が行われていることを知っていますか。(関連規定: 専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.3 修了に必要な単位数が定められていることを知っていますか。(関連規定:学則, 専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.4 すべての必修科目の単位を修得しなければ専攻科の修了ができないことを知っていますか。 (関連規定: 専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.5 1単位の学習時間は、授業時間以外の学習を合わせて45時間であること知っていますか。 (関連規定:専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.6 100点法によって評価されている科目について、成績評価の評語、優、良、可、不可がどの範囲の点数に対応付けされているか知って (関連規定:専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.7 各授業科目とも出席すべき総授業時間数の3分の2以上の出席をした者に対して評価が行われることを知っていますか。 (関連規定:専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.8 他専攻の科目が単位認定されることを知っていますか。(関連規定: 専攻科の授業科目の履修等に関する規程)
- Q.9 他大学等の科目が単位認定されることを知っていますか。(関連規定:専攻科の授業科目の履修等に関する規程)

(出典 平成19年4月19日第1回点検評価委員会資料)

資料5-8-(1)-5

専攻科特別研究の評価と記録

2. 専攻科特別研究(2年次)の評価と記録に関する専攻科委員会での確認事項

平成17年4月20日 専攻科委員会にて

- (1)特別研究指導体制
- ... 省略 ...
- (2)特別研究の審査と評価
 - ・成績(合否)の判定は各専攻毎の特別研究審査会(2年次)で行う。<判定の材料>
 - ・論文審査(主査・副査が論文評価シートを作成)

平成18年1月31日(火) 各学生は特別研究論文を主査に提出する。

平成18年2月15日(火) 主査・副査は論文を査読し、論文評価シートを作成する。

- ・発表審査(平成18年2月22日 特別研究発表会を専攻毎に実施)
- ・発表評価シートによる評価(発表能力に関して複数の教員で評価を行う。)
- ・特別研究審査会にて合否を決める(平成18年2月22日)
 - ・論文審査、発表、研究態度等で総合的に判断する。
 - ・特別研究審査会は専攻毎に開く。 (議長:専攻科主任)
 - 記録物

・論文査読シート(主査・副査が作成) 保存:教務

・発表評価シート 保存:専攻科主任

・中間発表論文、特別研究論文集 保存:教務 ・特別研究評価記録(指導教員が作成) 保存:教務

・特別研究論文及び研究ノートなどの研究記録 保存:指導教員

(出典 専攻科成績等に関する確認事項 (専攻科ホームページ教員限定))

資料 5-8-①-6

専攻科修了予備審査

平成18年度第13回教務委員会議事要録

開催日 平成19年2月22日(木)16:15~17:00

場 所 図書館会議室

出席者。高木、松下、三崎、徳永、國井、森孝、森本敏、福永、田嶋、今城、

溝下

議題

- 1. 平成18年度専攻科修了予備審査について 省略
- 2. その他
 - ①平成18年度資格取得について

(出典 本校グループウェア教務委員会議事要録)

資料 5-8-①-7

専攻科修了審査

平成18年度専攻科修了審査会議議事要録

開催日 平成19年2月23日(金)17:00~17:15

場 所 管理棟第1会議室

出席者 全教員

欠席者 なし

議題

1. 平成18年度専攻科修了審査について

授業担当教員によって成績一覧表の点数及び出欠席日数の確認がなされた後、専攻毎に 別紙審査資料を基に次の手順で審査が行われた。

- (1) 各授業の出席すべき授業時間の2/3以上の出席を確認。
- (2) 修得単位数が62単位以上であることの確認。
- (3) 修得単位数のうち一般科目が8単位以上であることの確認。
- (4) 修得単位数のうち専門科目が48単位以上であることの確認。
- (5) 他大学等での修得単位の確認。16単位を超えていないことの確認。
- (6) 休学者,退学者の確認。

審査の結果,電子通信システム工学専攻は10名全員,情報制御システム工学専攻は8名が修了を承認され,校長によって修了が認定された。

(出典 専攻科修了審査会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

修了認定、成績評価・単位認定規定が定められ、入学時のガイダンス、学生便覧、ホームページ、各授業で学生に周知されている。また、これらの規定やシラバスに沿って評価が行われ、試験答案等の保存がなされている。修了認定は教員会議において規定に基づき行われている。以上より本観点を満たすものと判断する。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程においては、学校の「学習・教育目標、学習成果、達成度基準」に対する各科目の対応 と授業内容がシラバスに明記されていることは学内外から見て評価できる。教育の体系性の確保についても、各学科の科目展開を系統的に整理して専攻科の教育に接続していることが機関としての教育 の体系性確保に役立っている。シラバスの記載にあるように、教育目標にそった教育が計画されて、 個々の授業で教育効果を高める工夫がなされている。

また,成績評価の透明性を高めるための努力を組織として行い,成績評価法のシラバスへの記載や 成績評価資料の組織的保存を行っていることも評価できる。

「人間の素養の涵養」の点において、学生の良好な人間関係の形成や、身体的および精神的な人間 形成を助長するよう配慮した体制と計画・実施がなされている。

専攻科の教育課程においては、本校の各準学士課程の学修成果を効率的に伸ばし、また、一般的な 準学士課程からの入学者に対しても十分なものになっている。

(改善を要する点)

専攻科の創造性を育む試みが行われている科目としていくつかの講義科目、特別実験・演習、特別研究があるが、より確実にこの目標を達成するためには、全員が履修する必修科目で、学生が自主的に立案・計画し、自ら創意工夫で進める直接的な教育を行うことが望ましい。この課題に対し、H19年度は、特別実験・演習Iにおいて、PBLの手法を用いた工学実験を試行する。

(3) 基準5の自己評価の概要

基準5の各観点を満たしている。

機関として教育の適切な展開が行われている。準学士課程と専攻科課程とも、その教育の目的に沿った教育の展開がなされ実施されている。課程の接続も無理がなく体系性が保たれている。設置4学科がいずれも電子情報通信系であることが、学校として統一された「学習・教育目標」の設定や授業展開等の協調作業につながっている。

各課程の授業展開では、演習・実験・実習が重視されており、少人数での目配りの利く授業を行う努力がされている。多様な単位認定制度が運用されており、インターンシップも実施されている。創造性を育む教育方法については、創造性の中心の能力は物事を体系的に考えまとめ上げる構想力(想像力)であると考え、設計製作実験において問題を発見し問題を解決する際に、知識と事象を基に体

系的に考えさせる工夫を行っている。また、学科によっては、PBL などの取り組みが試行的に行われている。

専攻科課程では、少人数教育の特徴を活かし、研究活動の充実に配慮した教育が行われている。学生の学外発表も実績があり、また、修了生のほぼ全員が学士学位審査に合格していることからも適切な教育水準であると判断できる。

「人間の素養の涵養」の観点からは、身体的にも精神的にも配慮された運営がなされている。特別活動(HR)、課外活動、学校行事の実施、カウンセリングなど、学生への生活指導や支援の体制があり、適切に実施されている。

機関として規程整備は適切に行われており、年度ごとに改定された学生便覧を全学生へ配布するなど、確実に周知されている。単位認定や修了認定においての規定と審査は厳密で、高等専門学校設置 基準や大学評価・学位授与機構の規定に合致している。

以上のことから、基準5を満足していると判断する。

基準6 教育の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6 - 1 - ①: 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修 了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状 況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

(観点に係る状況)

観点1-1-1で述べたように、本校では教育目的に沿った学習教育目標、学習成果について、卒業(修了)時の達成目標水準を明確に定めている(資料1-1-1-1-1)(資料6-1-1-1)。また各教科の担当教員は、達成状況を検証・評価するよう取り組んでいる(資料6-1-1-1-1)。

資料6-1-①-1

学習教育目標・学習成果の達成度水準

学習教育目標・学習成果の達成度水準

本科 学科	A			В			()				D									F			
本件 子符	A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	F1	F2	F3
準学士課程の 達成度水準	1-3	1,2	1-3	日 1,2 英 1,2	日 1,2 英 1,2	日 1-3	2項目 以上	2項目 以上	3項目 以上	1-7	1-3	1-3	1,2	1	1,2	1,2	1,2	1-3	1,2	1,2	1-3	1,2	1-4	1-3
専攻科課程の 達成度水準	1-4	1-4	1-4		日 1-3 英 1-3	日 1-4	3項目 以上	2項目 以上	4項目 以上	1-8	1-4	1-4	1-3	1,2	1-3	1-3	1-3	1-3	1,2	1,2	1-3			

(出典 平成19年2月14日 第12回教務委員会資料)

座学の評価例(1/4)

座学の評価に関する調査結果

(平成17年度の評価に基づく調査)

記入要領

達成度基準ごとの評価

- ・シラバスに記載の、すべての達成度基準、すべての評価対象について記してください。
- ・各達成度基準・評価対象に対応する学習到達目標や評価例・根拠資料については、一例で結構です。
- ・学習到達目標の達成状況を把握・評価できていることが確認できる根拠資料を示してください。

最終的な評価

全学科1年「国語」

達成度基準ごとの評価

達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料
A3:4	定期試験	先入観に囚われない考え方の柔軟性を養う。	定期試験 問1
D3:5	定期試験	歴史的仮名遣いを学び、古文学習入門とする。漢 文の基礎的読み方を知る。日本古典の名作に触 れ、感性を養う	定期試験 問2,3
A1:3	定期試験	明治以降の近代文学を鑑賞し、生き方を考える。	定期試験 問1
B3:4	プレゼンテーション 演習	プレゼンテーション演習により, 共同作業と, 要領よく説明する術を工夫する。	プレゼンテーション演習発表資料, 評価表
C1:1	プレゼンテーション 演習	プレゼンテーション演習により, 共同作業と, 要領よく説明する術を工夫する。	プレゼンテーション演習発表資料, 評価表
C4:4	プレゼンテーション 演習	プレゼンテーション演習により, 共同作業と, 要領よく説明する術を工夫する。	プレゼンテーション演習発表資料, 評価表
B2:1	定期試験, 小テスト	自己の考えを正確に表現する力を養う	定期試験 問1,問4 小テストの例

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
年4回の定期試験を80%,毎週の小テスト10%,平常点(提出物等)10%の比率で総合	1年国語評価表
評価する。	

電子工学科3学年「微分積分学」

達成度基準ごとの評価

達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料
D1:4	定期試験	偏微分の意味を理解し、基本的な2変数関数の偏	前期中間試験
		導関数を計算できる。	
D1:4	定期試験	2次の偏導関数が計算できる。	前期期末試験
D1:4	定期試験	さまざまな偏微分に関する応用問題が解ける。	前期期末試験
D1:4	定期試験	基本的な2重積分が計算できる。	後期中間試験
D1:4	定期試験	簡単な立体の体積を計算できる。	後期中間試験
D1:4	定期試験	変数変換により2重積分を計算できる。	学年末試験
D1:4	定期試験	2重積分の応用問題が解ける。	学年末試験
D1:4	冬期課題	さまざまな偏微分に関する応用問題が解ける。	冬期課題
D1:4	課題	偏微分の意味を理解し、基本的な2変数関数の偏	課題(4/14)
		導関数を計算できる。	

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
定期試験90%,レポートや平常点(授業態度や課題)10%で総合評価する。	微分積分学評価表

座学の評価例(2/4)

情報通信工学科2学年「情報処理Ⅱ」

達成度基準ごとの評価

<u>~ //// </u>			
達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料
C2:2,3	定期試験	数表の作成, データの簡単な統計処理(最大最	前期中間試験
		小・総和・平均値),二次元配列を用いた表の計算	前期期末試験(問題2,5)
		操作が出来る能力。	後期中間試験(問題5, 6, 7)
			後期期末試験(問題1, 3, 4)
D2:2,4,5	定期試験	電卓でも計算できる実験データ処理を、プログラミ	前期中間試験(問題4,5)
	練習課題作成状況	ングにより一括処理できる程度のプログラミング能	前期期末試験(問題5)
		力。	後期中間試験(問題3,5~7)
			後期期末試験(問題3,4)

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
定期試験を60%, 演習課題評価と平常点(出席率, 授業態度等)を40%の比率で総合評	成績集計表(個人が特定できないよう
価した。(総合評価不可の者で試験平均点が総合評価点を上回った場合には試験平均	に並べ替えてあります。課題評価は
点を最終成績評定点とした)	ファイルサーバーにアクセスしてチェッ
ただし、定期試験成績平均点が40点以上で、課題プログラムの完成率が80%以上である	
ことが科目単位修得の必要条件。	

情報通信工学科3年「電子回路 I 」

達成度基準ごとの評価

<u> </u>	ことの計画		
達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料
D2:1	定期試験	ダイオードのおよびトランジスタの構造性質特性を	前期中間 問1,6
		知っている	
D2:2	定期試験	ダイオード回路およびトランジスタ回路の基本的問	前期中間 問4,5
		題を解くことができる	前期期末 問2,3,5
D2:3	定期試験	整流回路の基本動作を説明できる。増幅回路の基	前期中間 問3
		本的動作を説明できる。	前期期末 問4,7

最終的な評価

<u> </u>	
評価方法	評価例•根拠資料
定期試験を80%、レポートおよびノートを20%の比率で総合評価する。	電子回路 I 評価表

電子工学科·情報工学科2年「電気回路I」

達成度基準ごとの評価

と 次 人 坐 十 こ こ か 目												
達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料									
D1:1,2	定期試験	交流回路の解析に必要な微分・積分ができる。(三	後期中間試験 問1、問2 (問3~5)									
		角関数を理解している)										
D2:1,2	定期試験	諸定理を用いた基本的な直流回路の解析ができ	前期期末試験 問1~4									
		る。 正弦波交流に対する各回路素子の働きを理解している。	後期中間試験 問6、問7									
D5:1	小テスト	自ら学ぶ姿勢/復習をしている。	小テストの例									
			小テスト評価表									
	演習ノート		演習問題一覧									
			演習ノート評価シート									

最終的な評価

評価方法	評価例 • 根拠資料
各定期試験の得点を85%, 演習ノート15%	電気回路I評価表

座学の評価例(3/4)

電子制御工学科3学年「電気磁気学」

達成度基準ごとの評価

~											
達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料								
D1:1-3	前期中間試験	クーロンの法則を理解する。	前期中間試験問題1、2、3、4								
	ノート	電界, 電気力線, 電位の概念を理解する。	レポートノートの採点表								
	レポート	ガウスの法則を理解し, 応用をする。									
D1:1-4	前期中間試験	電界,電位の計算法を修得する。	前期中間試験問題2、3、4								
	ノート		レポートノートの採点表								
	レポート										
D1:1-3	後期中間試験	導体の性質を理解する。	後期期末試験問題1、4								
	ノート		レポートノートの採点表								
	レポート										
D1:1-4	前期中間試験	コンデンサーの容量, エネルギー等の計算法を修	後期期末試験問題1、2、3、4								
	ノート	得する。	レポートノートの採点表								
	レポート	分極現象, 電束密度の概念を理解し, 誘電体の現									
		象に応用できるようになる。									

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
定期テスト70%、レポート20%、ノート10%	電磁気学評価票
	試験問題解答例
	ノートのサンプル
	レポートのサンプル

電子制御工学科5年知識工学 I

達成度基準ごとの評価

達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例 · 根拠資料						
D2:2	定期試験	探索アルゴリズムを理解し,実際に状態空間中を	前期中間試験 問題1(a)、1(b)、問題						
		探索できる	2~3、前期中間						
	定期試験	評価を用いた探索アルゴリズムを理解する。	前期中間試験 問題1(c)、前期中間						
	定期試験	述語・意味ネットワーク・ルールにより簡単な知識を	前期期末試験 問題1~3						
	レポート	表現できる。また、それらを使い簡単な知識処理を	前期末						
	小テスト	行うことができる。	レポート、小テスト問題、小テスト						

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
定期試験を60%、レポートを20%、平常点(小テスト)を20%の比率で総合評価する。	知識工学Ⅰ成績

情報工学科4年 数值解析

達成度基準ごとの評価

達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例•根拠資料
D2:1	レポート	計算機における数値の表現方法を学び,計算機に	第1回レポート
	試験	よる誤差の発生原因を理解する	前期中間試験 問題2
D2:1	レポート	非線形方程式を解くとは何かを再確認し,数値解	第2,3回レポート
	試験	法を理解する	前期中間試験 問題4
D2:1	レポート	連立線形方程式を解くとは何かを再確認し,数値	第4,5,6,7,8回レポート
	試験	解法を理解する	前期期末試験 問題2
			後期中間試験 問題1
D2:1	レポート	補間法の必要性を学んだ上で、補間法を理解する	第9回レポート
	試験		後期中間試験 問題2
			後期期末試験 問題1
D2:1	レポート	数値積分法とは何かを学んだ上で,数値積分法を	第10回レポート
	試験	解析する	後期期末試験 問題2
D2:1	レポート	常微分方程式を解くとは何かを再確認し、数値解	第11回レポート
	試験	法を理解する	後期期末試験 問題3
E2:2, E3:3	試験	実際にC言語によるプログラミングを行うことで数値	後期期末試験 問題4
		解法の必要性を理解する	

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
定期試験60%,レポートとノートを40%の比率で総合評価する。	成績評価表

座学の評価例(4/4)

専攻科 1年「情報工学基礎論」

達成度基準ごとの評価

達成度基準	評価対象	学習到達目標	評価例 · 根拠資料
D2:1	定期試験	HDL設計の特徴を知っている。	
D2:3	定期試験	構造化記述と動作記述について説明できる。	問17
	レポート		4ビット加算器 (adder4c)
D2:3	定期試験	組み合わせ回路の動作を説明できる。	問14, 4ビット加算器(adder4c),
	レポート		shifter, ALU
E2:3	定期試験	VHDLで論理回路を記述して, 論理回路を設計で	問4~問15,
	レポート	きる。	counter, MCU
E2:3	定期試験	シミュレーションで動作を確認できる。	問16~問17
	レポート		ALU, counter, MCU
E3:3	なし	論理合成できる。	なし
E4:1-2	レポート	簡単なマイクとプロセッサを設計して動作を確認で	MCU
		きる。	
E5:1-3	レポート	簡単なマイクとプロセッサを設計して動作を確認で	MCU
		きる。	
E6	レポート	簡単なマイクとプロセッサを設計して動作を確認で	MCU
		きる。	

最終的な評価

評価方法	評価例•根拠資料
回路を設計し、VHDLで記述した回路をシミュレーションによって正常に動作することを確認した後、何処が間違えていたために正常に動作しなかったか、問題点をどのように修正	
して正常に動作させたかを記載したソースリストとテストベンチ、シミュレーション結果をレ	
ポートとして提出させた。レポートは9課題。レポートの点数40%, 定期試験の点数60% の比率で成績をつけた。	
の比手で成績をうけた。	

(出典 平成18年11月9日 第10回認証評価専門部会資料)

準学士課程の工学実験と卒業研究,専攻科課程の特別研究では、それぞれの評価内容に応じた評価基準やチェックシート等により達成状況を検証・評価するように取り組んでいる(資料 $6-1-①-3\sim5$)。

資料 6-1-①-3

学生実験評価基準の例(情報通信工学科)

工学実験評価基準

以下の項目について評価を行う

A-D:実験中に行う(実験出席簿に記載) E-K:報告書により評価する。

それぞれチェックを行い、テーマごとに10点満点に換算する。すべての項目が常に存在しないため。

- ・I, J, Kについては、何枚かのグラフおよびいくつかの研究事項が存在する場合があるため、それぞれの課題に対してチェックし、平均点を計算する。
- A. 実験機器操作方法を習得している。
 - 0 実験器具を扱えない。
 - 1 人の助言を得て操作できる。
 - 2 操作を行える。
 - 3 測定範囲等を考え使いこなせている。
- B. 回路図を見て実験機器の配線を正しく行える。
 - 0 配線ができない。
 - 1 人の助言を得て配線できる。
 - 2 図を見て自分の力で配線できる。
 - 3 配線を行い正しいかどうか確認できる。
- C. グループで協力して実験を行っている。
 - 0 実験に参加していない。
 - 1 自分の役割をこなしている。
 - 2 協力し合い実験がスムーズに行われている。
 - 3 リーダシップをとって実験を行っている。
- D. 実験データの意味を考えながら実験を遂行している。
 - 0 データがとれない。
 - 1 データのみをとっている。
 - 2 計算を行いながらデータをとっている。
 - 3 データが正しいかどうか判断しながらデータを とっている。
- E. 実験報告書の体裁が整っている。
 - 0 レポートが提出されない。
 - 1 乱雑で必要事項がかかれていない。
 - 2 項目ごとにかかれている。
 - 3 報告書の体裁が整っている。
- F. 実験目的を理解し、それに対する結論が要約されている。
 - 0 目的・結論が書かれていない。
 - 1 目的・結論が不十分ではあるが書かれている。
 - 2 目的・結論テキストを参考に書かれている。
 - 3 自分で要約し、目的・結論が書かれている。

- G. 実験事項の理論 (原理) について詳しく要領よくまと められている。
 - 0 原理が書かれていない。
 - 1 不十分ではあるが原理が書かれている。
 - 2 テキストのみを参考に原理が書かれている。
 - 3 自分で参考文献を調べ要約して書かれている。
- H. 第三者が見ても実験が再現できるように書かれている。
 - 0 手順(方法)が書かれていない。
 - 1 不十分ではあるが手順(方法)が書かれている。
 - 2 テキストのみを参考に手順(方法)が書かれている。
 - 3 自分で工夫しわかりやすく書かれている。
- I 十分なデータの処理が行われている。
 - 0 データが書かれていない。
 - 1 実験で得たデータが書かれている。
 - 2 不十分であるがグラフ・表の形で書かれている。
 - 3 表またはグラフの形式を整え報告書のデータと して体裁が整っている。
- J. 実験結果について (理論値との比較) 検討が行われている。
 - 0 検討が行われていない。
 - 1 なんらかの検討が行われている。
 - 2 誤差、誤差率等を計算し定量的に取り扱われている。
 - 3 実験で得られた結果と理論値等を比較し理論的 に展開されている。
- K. 研究事項を調べている。
 - 0 研究事項が書かれていない。
 - 1 課題に対してなんらかのことが書かれている。
 - 2 参考文献を調べそのままの内容で書かれている。
 - 3 文献を参考にして要約され、課題に対して十分 な内容が書かれている。

(出典 情報通信工学科)

学生実験評価シートの例 (電子工学科)

E4	エ	学実験 評価	<u>[シ</u>										-		氏名:				ī		
(平成	18 年度)	役回後役回後役回						後	役	<u>/</u> 回	後	実験	提	L 体	ノポー I測デ	ト 検者		評		
<u>路動作</u> 戊度を段	…完成 階的に		割	1路動作	片付け	割の遂]路動作	片付け	割の遂	路	片付	割の遂		片付け	中評	出	裁	定り	検考 討察	計	価
		Cいなければ×印 氏名	行	IF.	l ''	行	IF.	l ''	行	15	l ''	行	IF	''	тш ±5	5	5	5	5	20	20
1																					
'																					
2																					
2																					
3																					
3																					
4				ŀ																	
4																					
5																					
3																					
6																					
0																					
7																					
′																					
0																					
8																					
,																					
9				1																	
10											ļ										
11				ł																	
12																					
4.0																					
13																					
14				1																	
,_																					
15				1																	
1.0																					
16																					
,,																					
17				1																	
1.0																					
18				1																	
1.																					
19				1																	
20				1																	
		l .	<u> </u>							_				Ave.	-			-	\vdash	-	H

(出典 電子工学科)

卒業研究評価基準の例(電子工学科)

卒業研究の学習到達目標と評価基準

評価対象	項目番号	学習到達目標·評価基準	評価対象	達成度基準
	1	時間配分が適切である。	卒研発表	C4:1
	2	理解しやすい構成になっている。	卒研発表	C4:2
卒	3	聞き取りやすい話し方ができている。	卒研発表	C4:3
研	4	情報機器を使って発表できている。	卒研発表	C4:4
発	5	簡潔に表現できている。	卒研発表	C4:5
表	6	図表を適切に用いている。	卒研発表	C4:6
	7	目的と成果を要約して説明できている。	卒研発表	C4:7
	8	質問に適切に回答できている。	卒研発表	C4:8
	1	研究に関する基礎知識を身につけている 3:研究に用いた基礎技術・基礎知識に関する十分な記述がある 2:基礎技術・基礎知識に基づいた研究がなされている 1:基礎技術・基礎知識に基づかない内容を含んでいる	論文·要旨	D2:3
	2	コミュニケーションを取りながら研究を遂行できる 3:行うべき事柄とそれを行った結果が継続して記されている 2:行うべき事柄とそれを行った結果が記された箇所がある 1:行うべき事柄とそれを行った結果が記された箇所がない	ノート	B1:2 B2:2 B3:2
	3	文献調査などの情報収集ができる 3:参考文献が明記され、本文中に適切に引用されている(論文) or/and 文献などを調べた内容が出典と共に記されている(論文・ノート) 2:参考文献が記されている(論文・ノート) 1:参考文献が記されていない	論文・要旨 ノート	C1:1 D5:2
& 文 卒 研 ·	4	研究過程で生じた問題を解決できる 3:研究過程で生じた問題とそれを解決した内容の記述がある 2:研究目的を概ね達成できている(生じた問題を解決してきたと考えられる) 1:生じた問題が解決しないために研究目的を達成できていない	論文・要旨 ノート	E5:2
ノート	(5)	継続して研究に取り組むことができる 3:1年間の研究として、充実した内容の研究がなされている(論文) or/and 継続した研究を裏付ける記録が残されている(ノート) 2:1年間の研究として、標準的な内容の研究がなされている(論文) or/and 断続的な研究記録が残されている(ノート) 1:1年間の研究として十分とは言えない内容であり(論文)、 継続性を示す記録もほとんど残されていない(ノート)	論文・要旨 ノート	E6:1
	6	研究内容を文章や口頭で論理的に説明できる 3:研究内容が論理的に記述され、よくまとまっている 2:研究内容が概ね論理的に記述されている 1:論理性に欠ける	論文(主に概要、序論、結論)・ 要旨	B2:2
	7	情報機器を活用して報告書や資料を作成できる 3:各種ツールを利用して作成された表、グラフ、図、数式を含む文書作成ができている 2:ワープロを使った文書作成ができている 1:主に手書きによって文書作成されている	論文・要旨	C2:1-2 C3:1-4

(出典 電子工学科)

詫間電波工業高等専門学校 基準 6

準学士課程においては、学生本人が「学習教育目標・学習成果の達成度チェック表」(資料 6-1 -(1)-6)によって学年末の成績に基づいて各達成度を点検・認識し、卒業時に学級担任がそれを最終確認している。専攻科課程においては、修了時に専攻科委員会が「学習教育目標・学習成果の達成度チェック表」(資料 6-1-(1)-7)によって各達成度を点検・確認している。これらの結果を教務委員会において報告することで、学校としてそれらを把握している(資料 6-1-(1)-8)。

資料6-1-①-6

学習教育目標・学習成果の達成度チェック表の例(準学士課程・電子工学科)

学習教育目標・学習成果の達成度チェック表(電子工学科)

	学	32	畄	溽	條	Г	Α			В		1		С		D D D1 D2 D2 D4						E				F			
本科 科目	学年	択	位	修	修得	A1	A2	A3	B1	B2	В3	C1	C2	СЗ	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6	F1	F2	F3
国語	1	必	3			3		4		1	4	1			4			5											
歴史		必	2			1,3	2				i i	ľ			ľ			1.4	1										
地理		必	2			1-4	1.3	1.3				1			3	1		1,4	i -						1				
基礎数学I		必	2	ŏ		1 7	1,0	1,0				ľ				1.2							l l	1	1				
基礎数学Ⅱ		必必	4	ŏ												1,2,4			_	_		_		1	1	—			
物理	1	必	3	ŏ			1									1.2								1	1				
化学		必	3	ŏ												2			_			_		1	1	—			
保健・体育		必必	3	ŏ			1									3		-	-	-		-	—	 	 	-	1-4	1-4	1 2
音楽		選	1	_	1	3			1	1.2														1	1		1-4	1-4	1,2
美術		選	1	1	1	3	1			1	1								—	—	1	—	_	1	 	1			
書道		選	1		1	3		1	1	1								1.2			-			1	1	-			
英語 I	1	必	2	0	+	3	1	<u>'</u>	1.2	1		1						1,2	-	-		-		-	-	1			
英語Ⅱ		必必	2			1	1		2	3														1	1	1			
		必必	1			 	1	 	1.2	1.2	1	-	 	 	 		1		-		-		\vdash	\vdash	\vdash	 		 	—
英語皿 国語	2	业业		0		2	1	1	1,Z	1.2		١.	 	 			1	-					 	\vdash	\vdash	1		 	-
		业业				3	_	104	 	1,2	4	ш	\vdash	-	4		├	5	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>	\vdash	<u> </u>	<u> </u>	-		\vdash	<u> </u>
倫理·社会	2	必	2	0	+	3,4	<u> </u>	1,2,4				1	 	<u> </u>	ļ .	1	<u> </u>	.	ļ			ļ .	ļ	ļ .	-	1		ļ	
				į	-	į			į			į				l											ŀ		
制御工学	5	必	2	0	i	i .						i	1	-	1	i —	1-3										i e		
工学実験		必	4				1			1.2	1-3	1	1-3				1-5	1-3				1-3	1-4	1-4	1.2	1-3			
							1		2	2	2	1	1.2	1-4	1-8		3	1 3	_	2	3	1 3	1 4	1 4	2	1			
				_	1				2	_		<u> </u>	1,2	1 4	1 0	2	1-3				3			 	-	<u>'</u>			
			2	-	+	—	1					!				2	1,2	-	-	-		-		-	1	-			
応用計測			2	-	+	1	1										1.3.4							1	-	1			
画像工学	5	遊	2	-	+		 	-								-	1-3	3		-		-	-	 	 	-	-		
電波伝送学	5	選	1	-	+	.	1											-	2					1	-	1			
モル伝送子 データ通信	5	選	2	-	+		 	1				1					1-3	1-2						-	-	-			
ロボット工学		選		-	+		 	-						-		-		-	-	-		-	-	-	-	-	-		
電力工学概論		選		-	+		1										1-3							-	-	-			
				_	+	-	1					-						-						-	-	-		l	
保健・体育		必選	1	0	1	<u> </u>	1	104	-	1	1						-									1	1-4	1-4	1-5
				⊢	+	 	-	1,3,4	1	1	1	├	-	-	-		1				-		\vdash	├	├	-		-	-
数学概論Ⅲ			1	┢	1	!	1	1				 	-	-	-	4	-						-	_	 	-		—	_
自然特論		選		┢	+	 	-	1	4.0	4.0	-	₩	-	-	-	2,4	1				-		\vdash	├	├	-		-	-
英語V	5	選	1	<u> </u>	1	!	-	1	1,2	1,2	 	-	-	-	-		 						-	-	-	-		-	-
英語Ⅵ		選		┢	1	<u> </u>	1	-	2-4	1,2			-	-	-		-	1		1			-	<u> </u>	<u> </u>	-		<u> </u>	
	5			₩	1	<u> </u>	1	1	1-3	1,2	-						-							-	<u> </u>	-		<u> </u>	
中国語Ⅱ	5	選	1	<u> </u>	1		1	1	1-3	1,2	<u> </u>		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>		<u> </u>											<u> </u>	
達成度チェック 履修科目の達成度を(修得科目の達成度に						123	1 2 3	1 2 3	日 1 2 3 4 英 1 2 3 4	日 1 2 3 英 1 2 3	日 12 345 英12 345	1 2 3 4 5 6	1 2 3	1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5	1 2 3	1 2 3	123	1 2 3	123	1 2 3	1 2 3	1 2 3		123	1 2 3 4 5
準学士課程の達成度水	準					1-3	1,2	1-3	日 1,2 英 1,2	日 1,2 英 1,2	日 1-3		2項目 以上	3項目 以上	1-7	1-3	1-3	1,2	1	1,2	1,2	1,2	1-3	1,2	1,2	1-3	1,2	1-4	1-3
達成度水準を満たしてい 履修科目で水準を満た 修得科目で水準を満た。	こし	てい	れば	O																									

※ このチェック表は、単位を取得した科目のシラバスに掲げられている学習教育目標・学習成果の達成度は達成されたものとし、それらが卒業時に各学習成果の達成度水準を満たしているかどうかをチェックする。

(出典 平成19年3月5日 第15回教務委員会資料)

学習教育目標・学習成果の達成度チェック表の例 (専攻科課程)

H18年度入学者 学習教育目標・学習成果の達成度評価(H19年4月)

システム工学専攻 氏名

					履																						
	専攻科 科目	学年	選択	単位	修予	修得		A			В	I			Ì			I	D					E	Ī		
	1				定		A1	A2	A3	B1	B2	В3	C1	C2	C3	C4	D1	D2	D3	D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6
	コミュニケーション英語 I	1	必	2	0					1-3	1,2	1-4															-
	コミュニケーション英語 I	2	必	2	0					1-3	1-3																—
般	技術者倫理	1	必	2	0		1-4	1-4	1-4																		
科	文学特論	2	選	2			3			1,2	1,2				1												
目	物理科学特論	1	選	2											3		2										
	応用数学特論	1	選	2													1-3										—
	知的財産権	1	選	2				1,2	1	1-3	1,2		1-4			1-8		1-3	1-4		1,2						—
	工業英語	1	選	2						4	2																<u> </u>
	工業数学	1	選	2													1-4										<u> </u>
	量子力学	1	選	2													1-3										
	グラフ理論	1	選	2														1,2,4-6									
_	情報工学基礎論	1	選	2														1,3					3	3	2		1
専門	数値計算論	1	選	2													1-3	1-3	1,2	1,2	1-3					1-3	1-3
共	情報ネットワーク論	1	選	2														1,3,5	2				1	1,3			<u> </u>
通科	計測工学特論	1	選	2				<u> </u>					<u> </u>					1,3	1,2				<u> </u>				<u> </u>
目	ディジタル信号処理工学	2	選	2	L			<u> </u>										1-4	2	2			<u> </u>				<u> </u>
	マルチメディア工学	2	選	2	<u> </u>	<u> </u>												1		1-3				1,2			\vdash
	アルゴリズムとデータ構造	1	選	2														1-4									<u> </u>
	ソフトウェアエ学概論	2	選	2														1			1		1-3	1	1,2		-
	エネルギー変換論	2	選	2														3	2								<u> </u>
	特別講義	2	選	2															2	1,2							
	特別研究	1	必	4	0					1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1-3
電	特別研究	2	必	6	0					1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1-3
子通	特別実験・演習I	1	必	4	0					3	1,2		1,2	2	1-4			3	1,3		1	1	2		2	2	2
信	特別実験・演習Ⅱ	2	必	4	0					3	2											1-3	2		2	2	2
シス	集積回路工学	2	必	2	0													1-3	1-5	1-3			1-3				—
テ	応用電磁気学	1	必	2	0												1-4	1-4	1								<u> </u>
エ	材料工学	1	選	2														1,2									<u> </u>
学専	電子物性	1	選	2								1-3						1-3									-
攻	電子デバイス工学	2	選	2		-												1-3	1					1			—
専	電磁波·光波工学	1	選	2														1-3									\vdash
攻	光通信工学	2	選	2														1-3	2	1,2							\vdash
科目	通信理論	1	選	2													1-3	1-3									\vdash
	システム工学	2	選	2														1-3									-
	ニューロ・ファジィ技術	2	選	2	_																						\vdash
	特別研究特別研究	2	必必	6	0					1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1-3
情報			必	_						1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1-3
制	特別実験・演習 I 特別実験・演習 II	2	必必	4	0								1-5		1-4						2						
御シ	システム制御理論	2	選	2									1-5	-	1-4	-		<u> </u>		<u> </u>	2		<u> </u>	-			
ス	数式処理概論	2	選	2	\vdash		 	1					1	-			3	3	1,2		\vdash	 	2	2		-	
テム	画像処理工学	1	選	-				l -										1,2	,								
工学	生体工学	2	選	_				l -					-	2				1,2	2					2			
専	電力制御機器工学	2	1	2									J	3			1.5	1,2,3		1			1.0	3			
攻	光エレクトロニクス	1	選	_													1-5	1,3					1,2				
専	人工知能	1	選	2														1,2,3	1	1,2							
攻科	オブジェクト指向プログラミング	1	選	2														1-4	3	1,4			1,2,3	3			
目	医用工学	1	選	2															2,4				1,2,0				
1	教育システム工学	2	選	_											1			.,•	_,.	1.2	1						
	達成度チェ 修得科目の達成度)で囲	∎t			1 2 3 4			3 4 英 1 2	3 英 1 2	3 4 5		1 2 3	4 5	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5		1 2 3	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3
	専攻科課程の達成度水準を満たしてし				ク		1-4	1-4	1-4	日 1-3 英 1-3	日 1-3 英 1-3	日 1-4		2項目 以上		1-8	1-4	1-4	1-3	1,2	1-3	1-3	1-3	1-3	1,2	1,2	1-3
	修得科目で水準を満た																										

(出典 平成19年3月5日 第15回教務委員会資料)

学習教育目標・学習成果の達成度評価結果に関する教務委員会議事録

平成19年度第2回教務委員会議事要録

開催日 平成19年5月7日(月)17:30~18:20

場 所 図書館会議室

出席者 高木、松下、三崎、徳永、國井、森孝、森本敏、福永、田嶋、 今城、下元

議題

1. 学習教育目標、学習成果の達成度報告について

認証評価専門部会の井上部会長から別紙資料に基づき、当部会の作業報告と依頼事項の説明があった。各学科長からこの資料に基づく達成度の報告があり、審議の結果、次の通り了承された。

①平成 18 年度卒業・修了生の学習教育目標・学習成果の達成度評価結果 について

昨年度末に本科 5 年の担任および専攻科主任に依頼して実施した卒業・修了生の学習教育目標・学習成果の達成度評価の結果について各学科長、専攻科長から報告された。それらの評価結果をそれぞれ卒業・修了時の達成度水準に照らして分析すると(表1),本科の3学科(電子制御工学科以外)についてはすべての項目について全員(編入学生と留学生以外)が達成度水準を満足していた。電子制御工学科では対応の遅れから、すべての教科を履修しても達成度水準を満足しない状況であった。また専攻科では学生への指導が十分徹底していなかったために、一部達成度水準を満足していない。

昨年度の1年 \sim 4年生,専攻科1年については,4月中に達成度評価を実施するように依頼していたが,上級生はまだ実施できていないクラスがあると報告された。

- ②学習教育目標、学習成果の達成度アンケートを今年4月2年以上の在校 生に対し実施した。
- ③教育課程の学習・教育目標達成度水準チェックについて 「学習・教育目標」と科目の対応、達成度水準チェック、授業形態の 割合についても、各学科とも学習・教育目標の設定水準を満足するよ う科目が開講されており、授業形態の割合も問題なかった。
- 2. その他
- ※ 議事録中の(表1)は、後出の「学習教育目標・学習成果の達成度評価結果(資料6-1-②-1)」 (一部データの誤りを修正している)

(出典 本校グループウェア 平成19年5月7日 第2回教務委員会資料)

なお準学士課程の達成目標水準は、電子制御工学科以外では必修科目を修得することで満足する(資料 5-1-10-18~21)。電子制御工学科および専攻科課程では前年度末のガイダンスにおいて、それぞれ定められている達成目標水準を満たすような選択科目の履修を指導している(資料 6-1-10-9,10)。

電子制御工学科の選択科目履修ガイダンス資料

科目履修に関するガイダンス(電子制御工学科)

I. 工学教育に関する現状

教育プログラムの社会的認知(JABEE、外部評価) 教育改善

Ⅱ. 本校、電子制御工学科の教育の現状 学習・教育目標

- Ⅲ. 履修に関する留意点
- 1. 学習・教育目標への対応すること

学習・教育目標の E4 に対応するために、シーケンス制御 I Ⅱ はたは制御工学ⅢIVのいずれかを修得しなければならない。

残りの科目に関しては必修科目で対応する予定にしているが、対応する必修科目が修得できていない場合はそれを補充できるように選択すること。また、修得できない場合も考え、余裕を持たせるように、科目選択をすること。

チェック表で学習・教育目標への対応を確認すること。

- 2. JABEE コースについては、専攻科または大学と本科4,5年でコースの条件を満たすこと 共通:
 - ・学位を修得し、課程を修了しなければならない。
 - ・すべての教育目標とすべての学習成果を満足するように科目修得をしなけれ ばならない。
 - ・学習保証時間 1,800 時間 (人文・社会科学等 250 時間、数学・自然科学・情報技術 250 時間、専門分野 900 時間以上を含んでいること。)

本校専攻科:

応用数学 I (2単位)、応用物理 (2単位)、工学実験 (6単位) と電磁気学 II、電子回路 II、制御工学 II} のうちから 2 科目 (4 単位) を修得しなければならない。

チェック表でJABEE コースの学習・教育目標への対応を確認すること。専 専攻科での学習保証時間は

学習保障時間 人文社会 数学自然 専門

600~ 125~200 0~100 300~525 時間

本科での 1 単位は 25 時間に相当するので、150 時間を確保するためには 6 単位を修得しておく必要がある。

大学、他高専専攻科:

各大学等の規定による。各大学の高専で修得した単位の認定方法に注意

3. 進学の場合には各大学の高専で修得した単位の認定方法に注意すること シラバスと成績表の提出だけでなく、実際のテストの問題と答案の提出、合格点の変更(60 点以上で合格)、試験による認定など学校によって異なる。

(出典 電子制御工学科)

専攻科の選択科目履修ガイダンス資料 (1/2)

専攻科1年各位

履修願と履修計画書、達成度予定表の提出について

専攻科

専攻科の目標と達成度水準が別紙 1 のとおり定められました。この水準を満たすような科目履修が求められます。 各自、別紙 2 の達成度予定表を作成してください。できるだけ高いレベルの達成度を実現できるように科目を選択してください。1,2 年の修了時に達成度評価を行います。今回の達成度予定表は各専攻主任に4月13日までに提出ください。

前期開講科目の履修届の締め切りは4月13日に、同科目の履修取り消しは4月27日とします。提出先は教務です。

履修科目に関する注意

- ・情報制御システム工学専攻の光エレクトロニクスは今年度も開講しません。 代替として、電子通信システム専攻の電子物性が履修できるようになっています。
- ・電子通信システム専攻の2年次後期ニューロファジーは、来年度も開講しない見通 しです。来年度の代替は検討中です。
- ・他専攻の科目は8単位まで、大学等の単位は16単位まで単位認定されます。 履修する場合は履修届けに記入してください。
- ・2年次の科目の履修はできません。

履修計画書に関する注意

- ・本専攻科の修了要件を満たすことを確認すること。
- ・学位の取得条件を満たすこと。
- ※ 資料中の「別紙1」は、資料1-1-①-9の専攻科に関する部分と同等の内容

専攻科の選択科目履修ガイダンス資料 (2/2)

別紙2

H19年度入学者 学習教育目標·学習成果の達成度予定表

システム工学専攻 氏名

	實施된 된다	学	選	単	履修		Α			В			(D						E		
	専攻科 科目	年	択	位	予	A1		A3	В1		В3	C1	C2	C3	C4	D1	D2		D4	D5	E1	E2	E3	E4	E5	E6
	コミュニケーション英語 I	1	必	2	0				1-4	1-3	1-4															
	コミュニケーション英語 II	2	必	2	0				1-3	1-3																
_	技術者倫理	1	必	2	0	1-4	1-4	1-4																		
般 科	文学特論	2	選	2		3			1,2	1,2				1												
目	物理科学特論	1	選	2										3		2										Ī
	応用数学特論	1	選	2												1.2										Ī
	知的財産権	1	選	2													1-3									Ī
	工業英語	1	選	2					4	2																Ī
	工業数学	1	選	2												1-4										T
	量子力学	1	選	2												1-3										Ť
	グラフ理論	1	選	2													1,2,4-6									t
	情報工学基礎論	1	選	2													1.3					1-3	1-3	1-2	1-3	ţ,
専	数値計算論	1	選	2												1.0		1.0				1-3	1-3	1-2		ť.
門共	情報ネットワーク論	1	選	2												1-3	1-3	1,2	1,2	1-3			1.3		1-3	1
通	計測工学特論	1	選	2													1,3,5					1	1,3			t
科目	ディジタル信号処理工学	2	選	2													1,2	1								t
	マルチメディア工学	2	選	2													1-4	2								t
	アルゴリズムとデータ構造	1	選	2													1		1-3				1,2			t
	ソフトウェア工学概論	2	選	2													1-4									t
	エネルギー変換論	2	+-	2													1			1		1-3	1	1,2		t
	特別講義	2	選	2													3	2								t
		1	-		_													2	1,2							t
	特別研究		必	4	0				1-4	1-3	1,2	1-5		1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1
Ē	特別研究	2	必	6	0				1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1
7	特別実験・演習I	1	必	4	0				3	1,2		1,2	2	1-4			3	1,3		1	1	2		2	2	2
Ā	特別実験・演習Ⅱ	2	必	4	0				3	2											1-3	2		2	2	2
シス	集積回路工学	2	必	2	0												1-3	1-5	1-3			1-3				Ŧ
テ	応用電磁気学	1	必	2	0											1-4	1-4	1								ł
エ	材料工学	1	選	2													1,2									ł
学専	電子物性	1	選	2							1-3						1-3									╀
攻	電子デバイス工学	2	選	2													1-3	1					1			Ŧ
専	電磁波・光波工学	1	選	2													1-3									¥
攻 科	光通信工学	2	選	2													1-3	2	1,2							ļ
B	通信理論	1	選	2												1-3	1-3									ļ
	システム工学	2	選	2													1-3									ļ
	ニューロ・ファジィ技術	2	選	2																						
	特別研究	1	必	4	0				1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1
	特別研究	2	必	6	0				1-4	1-3	1,2	1-5	1,2	1-4	1-8		1-4			1-3	1-4				1,2	1
情報	特別実験・演習I	1	必	4	0							1-5		1-4						2	1-4	1				l
制	特別実験•演習Ⅱ	2	必	4	0							1-5		1-4						2						Ι
卸シ	システム制御理論	2	選	2	Ĺ											3	3	1,2				2	2			ſ
ステ	数式処理概論	2	選	2													1,2									Ī
Ĺ	画像処理工学	1	選	2													1,2	2								Γ
学	生体工学	2	選	2								5	3				1,2,3		1				3			Ī
専攻	電力制御機器工学	2	選	2												1-5	1.3					1.2				T
専	光エレクトロニクス	1	選	2						l												<u> </u>				Ť
攵	人工知能	1	選	2													1,2,3	1	1.2							Ť
科目	オブジェクト指向プログラミング	1	選	2													1-4	3				1,2,3	3			t
-	医用工学	1	選	2													1,3	2,4				1,2,0	ľ			t
	教育システム工学	2	+-	2										1			1,3	4,4	1 2	1		t				t
	達成度チェック 履修予定科目の達成度)で匿	lt:		1 2 3 4	1 2 3	1 2 3 4	3 4 英 1 2	3 英 1 2	3 4 5		1 2 3	4 5		1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5	1,4	1 2 3	1 2 3 4	1 2 3	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3	1
	専攻科課程の達成	度水	準			1-4	1-4	1-4	日 1-3	日 1-3 英 1-3				4項目 以上	1-8	1-4	1-4	1-3	1,2	1-3	1-3	1-3	1-3	1,2	1,2	1
	を成度水準を満たしている 履修科目で水準を満たし								^ 1 3			~-	~-													İ

注 記入されている達成度は、1年の科目についてはH18年度で、2年の科目についてはH19年度で記入されている。

(出典 専攻科委員会)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教育目的に沿って学習教育目標・学習成果の卒業(修了)時における達成目標水準が明確に定められており、各科目における達成状況を検証・評価する取り組みが行われている。卒業・修了時の各学習教育目標・学習成果についての達成度は、担任や専攻科委員によって点検・確認されている。選択科目の履修についても必要事項がガイダンスで指導されており、適切な取組が行われている。

観点 6-1-②: 各学年や卒業(修了)時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業(修了)時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

観点 6-1-①で述べた方法で実施した平成18年度の学習教育目標・学習成果の達成度評価結果は、準学士課程 5 学年では、3 学科についてはすべての項目について全員(編入学生、留学生を除く)が達成度水準を満足していた。準学士課程 1 学科では対応が遅れ、すべての教科を修得しても達成度水準を満足しない状況であった。また専攻科課程 2 学年では、学生への指導が十分徹底していなかったために達成度水準の達成比率が低い項目があった(資料 6-1-②-1)。これらについては、授業内容の見直し(資料 5-1-①-20)や指導の徹底(資料 6-1-①-9,10)により、平成19年度は改善される見込みである。

資料6-1-2-1 学習教育目標・学習成果の達成度評価結果 平成18年度卒業・修了生の学習教育目標・学習成果の達成度評価 【準学士課程】平成18年度卒業生 学習教育目標·学習成果 -3 2項目 2項目 3項目 1-7 準学士課程の達成度水準 日1.2 日1.2 日 3.4 2項目 2項目 3項目 1-7 英1.2 英1.2 以上 以上 以上 達成度水準を満足した人数 情報通信工学科 100% 100% 100% 100 達成比率(%) 達成度水準を満足した人数 電子工学科 達成比率(%) 33 33 33 33 33 33 33 33 達成度水準を満足した人数 雷子制御工学科 100% 達成度水準を満足した人数 情報工学科 98% 100% 100% 100% 98% 100% 100% 100% 100% 100% 98% 100% 達成比率(%) 達成度水準を満足した人数 99% 100% 100% 100% 969 96% 100% 100% 79% 100% 100% 100% 100% 1009 79% 100% 79% 79% 79% 100% 100% 100% 100 達成比率(%) 【専攻科課程】平成18年度修了生 専攻科課程の達成度水準 以上 達成度水準を満足した人数 電子通信システム 達成比率(%) 達成度水準を満足した人数 情報制御システム 工学真政 達成度水準を満足した人数 合 計 達成比率(%)

(出典 平成19年5月7日 第2回教務委員会資料)

この取り組みはまだ不十分であるので、教育の成果·効果が上がっていることを裏付ける目的で、 他のいくつかの状況について分析した。

(1) 単位取得の状況

準学士課程の過去5年間の必修科目単位取得率(資料6-1-2-2),および専攻科課程の設置 後3年間の単位取得率(資料6-1-2-3), 共に毎年95%前後と, いずれも高い比率を保ってい る。

資料6-1-2-2

準学士課程必修科目単位修得率(1/3)

平成18年度		1年	2年	3年	4年	5年	学科計
	履修単位数	1462	1564	1428	1425	1341	7220
情報通信工	修得単位数	1307	1351	1383	1295	1289	6625
学科	追認可(内数)					3	3
	修得率	89.4%	86.4%	96.8%	90.9%	96.1%	91.8%
	履修単位数	1496	1564	1510	2775	1593	8938
 電子工学科	修得単位数	1323	1372	1457	2679	1583	8414
电丁工子符	追認可(内数)					2	2
	修得率	88.4%	87.7%	96.5%	96.5%	99.4%	94.1%
	履修単位数	1496	1190	1124	1317	1218	6345
電子制御工	修得単位数	1306	925	993	1229	1095	5548
学科	追認可(内数)					10	10
	修得率	87.3%	77.7%	88.3%	93.3%	89.9%	87.4%
	履修単位数	1530	1156	1395	1589	1530	7200
 情報工学科	修得単位数	1442	1089	1350	1533	1463	6877
	追認可(内数)						0
	修得率	94.2%	94.2%	96.8%	96.5%	95.6%	95.5%
			·		履修単位数	29703	
(18年度は、	一般単位追認	図試験の結り	果を含まない	\)	年度計	修得単位数	27464

٠.	30.070	30.070	30.070
		履修単位数	29703
	年度計	修得単位数	27464
		修得率	92.5%

平成17年度		1年	2年	3年	4年	5年	学科計
	履修単位数	1462	1564	1190	528	975	5719
情報通信工	修得単位数	1388	1467	1172	526	947	5500
学科	追認可(内数)	55	41	12	44	20	172
	修得率	94.9%	93.8%	98.5%	99.6%	97.1%	96.2%
	履修単位数	1428	1530	1666	1150	897	6671
電子工学科	修得単位数	1376	1510	1629	1121	874	6510
电丁工于作 	追認可(内数)	49	28	32	37	0	146
	修得率	96.4%	98.7%	97.8%	97.5%	97.4%	97.6%
	履修単位数	1462	1292	1258	773	640	5425
電子制御工	修得単位数	1375	1107	1133	748	596	4959
学科	追認可(内数)	59	45	31	38	0	173
	修得率	94.0%	85.7%	90.1%	96.8%	93.1%	91.4%
	履修単位数	1428	1360	1564	989	688	6029
 情報工学科	修得単位数	1308	1344	1511	973	688	5824
▎▎ ▎	追認可(内数)	35	44	34	32	0	145
	修得率	91.6%	98.8%	96.6%	98.4%	100.0%	96.6%
						履修単位数	23844
					年度計	修得単位数	22793
						修得率	95.6%

資料6-1-2-2

準学士課程必修科目単位修得率(2/3)

平成16年度		1年	2年	3年	4年	5年	学科計
	履修単位数	1496	1224	1462	1032	1000	6214
情報通信工	修得単位数	1418	1168	1436	960	996	5978
学科	追認可(内数)	9	20	28	51	0	108
	修得率	94.8%	95.4%	98.2%	93.0%	99.6%	96.2%
	履修単位数	1428	1530	1496	1204	851	6509
 電子工学科	修得単位数	1423	1530	1465	1106	851	6375
电丁工于17	追認可(内数)	11	10	16	38	0	75
	修得率	99.6%	100.0%	97.9%	91.9%	100.0%	97.9%
	履修単位数	1428	1258	1292	912	660	5550
電子制御工	修得単位数	1367	1192	1232	787	656	5234
学科	追認可(内数)	10	28	16	10	0	64
	修得率	95.7%	94.8%	95.4%	86.3%	99.4%	94.3%
	履修単位数	1428	1564	1394	1056	640	6082
 情報工学科	修得単位数	1425	1542	1392	1046	640	6045
	追認可(内数)	9	20	10	12	0	51
	修得率	99.8%	98.6%	99.9%	99.1%	100.0%	99.4%
						履修単位数	24355
					年度計	修得単位数	23632
						修得率	97.0%

平成15年度		1年	2年	3年	4年	5年	学科計
	履修単位数	1462	1530	1564	1008	1025	6589
情報通信工	修得単位数	1308	1512	1488	931	997	6236
学科	追認可(内数)	16	22	42	17	6	103
	修得率	89.5%	98.8%	95.1%	92.4%	97.3%	94.6%
	履修単位数	1496	1496	1598	1064	966	6620
電子工学科	修得単位数	1429	1465	1538	1042	943	6417
电丁工于行	追認可(内数)	18	26	22	16	0	82
	修得率	95.5%	97.9%	96.2%	97.9%	97.6%	96.9%
	履修単位数	1496	1258	1088	936	540	5318
電子制御工	修得単位数	1454	1227	1036	864	540	5121
学科	追認可(内数)	45	40	52	16	0	153
	修得率	97.2%	97.5%	95.2%	92.3%	100.0%	96.3%
	履修単位数	1462	1428	1462	1066	656	6074
情報工学科	修得単位数	1445	1397	1452	1041	656	5991
用拟工于作	追認可(内数)	13	22	30	14	0	79
	修得率	98.8%	97.8%	99.3%	97.7%	100.0%	98.6%
						履修単位数	24601
					年度計	修得単位数	23765
						修得率	96.6%

資料6-1-2-2

準学士課程必修科目単位修得率(3/3)

平成14年度		1年	2年	3年	4年	5年	学科計
	履修単位数	1428	1700	1564	1056	975	6723
情報通信工	修得単位数	1416	1553	1478	987	971	6405
学科	追認可(内数)	30	40	16	60	4	150
	修得率	99.2%	91.4%	94.5%	93.5%	99.6%	95.3%
	履修単位数	1462	1666	1292	1232	874	6526
電子工学科	修得単位数	1392	1541	1239	1200	874	6246
电丁工于行	追認可(内数)	16	27	44	34	0	121
	修得率	95.2%	92.5%	95.9%	97.4%	100.0%	95.7%
	履修単位数	1462	1156	1292	696	700	5306
電子制御工	修得単位数	1398	1101	1210	664	700	5073
学科	追認可(内数)	45	22	58	36	0	161
	修得率	95.6%	95.2%	93.7%	95.4%	100.0%	95.6%
	履修単位数	1462	1428	1394	1066	656	6006
情報工学科	修得単位数	1447	1413	1372	1046	656	5934
	追認可(内数)	6	22	0	32	0	60
	修得率	99.0%	98.9%	98.4%	98.1%	100.0%	98.8%
				·		履修単位数	24561
					年度計	修得単位数	23658
						修得率	96.3%

(出典 学生課教務係)

資料6-1-2-3

専攻科課程単位修得率

平成18年度		1年	2年	専攻計
 電子通信	履修単位数	398	232	630
単丁週間 システム工学	修得単位数	382	230	612
	修得率	96.0%	99.1%	97.1%
 情報制御	履修単位数	466	216	682
リカステム工学	修得単位数	445	198	643
ンステムエチ	修得率	95.5%	91.7%	94.3%
			履修単位数	1312
		年度計	修得単位数	1255
			修得率	95.7%

平成17年度		1年	2年	専攻計
 電子通信	履修単位数	426	230	656
単丁週間 システム工学	修得単位数	418	222	640
ンベノムエチ	修得率	98.1%	96.5%	97.6%
情報制御	履修単位数	409	244	653
Iff 報制脚 システム工学	修得単位数	367	230	597
	修得率	89.7%	94.3%	91.4%
			履修単位数	1309
		年度計	修得単位数	1237
			修得率	94.5%

平成16年度		1年	2年	専攻計
電子通信	履修単位数	398	_	398
电丁通信 システム工学	修得単位数	374	_	374
ンベノムエチ	修得率	94.0%	_	94.0%
 情報制御	履修単位数	389	_	389
ローステム工学	修得単位数	371	_	371
ンステムエ子	修得率	95.4%	_	95.4%
			履修単位数	787
		年度計	修得単位数	745
			修得率	94.7%

(出典 学生課教務係)

(2) 進級・卒業・修了の状況

各学年の進級・卒業・修了の在籍者数に対する割合は、過去 5 年間の集計結果を見ると、概ね95%前後となっている(資料 6-1-2-4)。

資料6-1-2-4

進級・卒業・修了の状況(1/2)

進級·卒業·修了状況(過去5年間)

2W 1 X 19 1 X 10 (22 × 1 F)										
	準学士記	果程 全字	学年				専攻科詞	果程 全空	学年	
卒業•修了年度	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	合計	平成16	平成17	平成18	合計
入学時人数	820	821	821	829	829	4120	18	38	41	97
休学者数		3	1	4	4	12		1	3	4
退学者数	20	26	16	26	24	112		1	1	2
原級留置者数 (含 休学者)	18	13	13	26	38	108		1	2	3
進級·卒業·修了者数	782	782	792	777	767	3900	18	36	38	92
進級·卒業·修了率	95.4%	95.2%	96.5%	93.7%	92.5%	94.7%	100.0%	94.7%	92.7%	94.8%

進級•卒業•修了状況(各年度)

平成18年度

一人の一人人									
	準学士記	果程			専攻科課程				
学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年	1学年	2学年	全学年
在籍者数	176	161	160	169	163	829	21	20	41
休学者数		1		2	1	4	1	2	3
退学者数	4	6	8	4	2	24		1	1
原級留置者数 (含 休学者)	13	16	2	4	3	38	1	1	2
進級·卒業·修了者数	159	139	150	161	158	767	20	18	38
進級·卒業·修了率	90.3%	86.3%	93.8%	95.3%	96.9%	92.5%	95.2%	90.0%	92.7%

平成17年度

一个成门在皮											
	準学士記	果程		専攻科詞	課程						
学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年	1学年	2学年	全学年		
在籍者数	170	169	167	170	153	829	20	18	38		
休学者数	1	1	1	1		4		1	1		
退学者数	3	6	9	7	1	26	1		1		
原級留置者数 (含 休学者)	12	6	2	3	3	26		1	1		
進級·卒業·修了者数	155	157	156	160	149	777	19	17	36		
進級·卒業·修了率	91.2%	92.9%	93.4%	94.1%	97.4%	93.7%	95.0%	94.4%	94.7%		

平成16年度

1												
	準字士記	準学士課程										
学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年	1学年	2学年	全学年			
在籍者数	170	167	166	168	150	821	18		18			
休学者数				1		1						
退学者数	1	1	6	8		16						
原級留置者数	2	2	2	7		13						
(含 休学者) 進級·卒業·修了者数	167	164	158	153	150	792	18		18			
進級·卒業·修了率	98.2%	98.2%	95.2%	91.1%	100.0%				100.0%			

資料6-1-2-4

進級・卒業・修了の状況 (2/2)

平成15年度

	準学士記	準学士課程									
学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年					
在籍者数	174	168	168	160	151	821					
休学者数	2				1	3					
退学者数	7	4	10	4	1	26					
原級留置者数 (含 休学者)	2	2	1	7	1	13					
進級·卒業·修了者数	165	162	157	149	149	782					
進級·卒業·修了率	94.8%	96.4%	93.5%	93.1%	98.7%	95.2%					

3年生退学10名には死亡1名を含む

平成14年度

	準学士記	果程				
学年	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	全学年
在籍者数	171	175	163	158	153	820
休学者数						
退学者数	1	8	9	2		20
原級留置者数 (含 休学者)	6	4	3	5		18
進級·卒業·修了者数	164	163	151	151	153	782
進級・卒業・修了率	95.9%	93.1%	92.6%	95.6%	100.0%	95.4%

(出典 学生課教務係)

卒業(修了)率は,準学士課程では在籍者数に対する87%程度,専攻科課程では95%程度であり,いずれも高い水準を維持しているといえる。(資料6-1-2-5)。

資料6-1-2-5

卒業率 (1/2)

在籍者数に対する卒業率(過去5年間のまとめ)

学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率		
情報通信工学科	209	14	3	1	227	197 (14)	86.8%		
電子工学科	210	10	7	5	232	198 (10)	85.3%		
電子制御工学科	210	-27	6	3	192	158 (8)	82.3%		
情報工学科	210	3	5	6	224	206 (7)	92.0%	学位	取得
合 計	839	0	21	15	876	759 (39)	86.6%	取得人数	取得率
電子通信工学専攻	19	0	0	0	19	18	94.7%	17	94.4%
情報制御工学専攻	18	0	0	0	18	17	94.4%	16	94.1%
合 計	37	0	0	0	37	35	94.6%	33	94.3%

在籍者数に対する卒業率(各年度)

平成18年度

平成19年3月卒業・修了生

学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率		
情報通信工学科	42	2			44	40 (2)	90.9%		
電子工学科	42	5	1	1	49	44 (1)	89.8%		
電子制御工学科	42	-6	2		38	33 (3)	86.8%		
情報工学科	42	-1	1	2	44	41 (2)	93.2%	学位	取得
合 計	168	0	4	3	175	158 (8)	90.3%	取得人数	取得率
電子通信工学専攻	10				10	10	100.0%	9	90.0%
情報制御工学専攻	9				9	8	88.9%	7	87.5%
合 計	19				19	18	94.7%	16	88.9%

<u>平成17年度</u>

平成18年3月卒業・修了生

学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率		
情報通信工学科	42	2			44	38 (1)	86.4%		
電子工学科	42	5			47	38	80.9%		
電子制御工学科	42	-8	2		36	30 (3)	83.3%		
情報工学科	42	1	2	2	47	43	91.5%	学位	取得
合 計	168	0	4	2	174	149 (4)	85.6%	取得人数	取得率
電子通信工学専攻	9				9	8	88.9%	8	100.0%
情報制御工学専攻	9				9	9	100.0%	9	100.0%
合 計	18				18	17	94.4%	17	100.0%

平成16年度

平成17年3月卒業生

1/01/0						1 /20 1 7 1 0 7	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>
学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率
情報通信工学科	42	8			50	40 (4)	80.0%
電子工学科	42	-3	1	2	42	37 (4)	88.1%
電子制御工学科	42	-5	2	2	41	33 (2)	80.5%
情報工学科	42		1		43	40	93.0%
合 計	168	0	4	4	176	150 (10)	85.2%

資料6-1-2-5

卒業率 (2/2)

平成15年度

平成16年3月卒業生

学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率
情報通信工学科	41	2	1	1	45	40 (2)	88.9%
電子工学科	42	5	3		50	41 (2)	82.0%
電子制御工学科	42	-9			33	27	81.8%
情報工学科	42	2		2	46	41 (2)	89.1%
合 計	167	0	4	3	175	149 (6)	85.1%

平成14年度

平成15年3月卒業生

17771172						1 /90 1 0 1 0 /	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>
学科·専攻	入学者数	転科人数	編入学数	留学生数	計	卒業人数 (内留年生)	卒業率
情報通信工学科	42		2		44	39 (5)	88.6%
電子工学科	42	-2	2	2	44	38 (3)	86.4%
電子制御工学科	42	1		1	44	35	79.5%
情報工学科	42	1	1		44	41 (3)	93.2%
合 計	168	0	5	3	176	153 (11)	86.9%

(出典 学生課教務係)

(3) 資格取得の状況

平成15年度から実施している、資格取得により単位を認定する「課題研究による単位取得の認定」制度(資料 5-1-2-3)を利用して年間数十名が資格を取得しており、年々増加傾向にある。平成18年度には、延べ約70名が資格取得している(資料 6-1-2-6)。

資料6-1-2-6

資格取得人数(準学士課程) (1/2)

平成18年度

学科·学年	情	報道	值言:	工学	科		電子	<u>-Т</u>	学科		電	子制	御.	工学	科		情幸	ВТ:	学科		合計
資格名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
ディジタル技術検定2級情報部門								7	1										2		10
ディジタル技術検定2級制御部門													1	10	1						12
ディジタル技術検定1級制御部門														1							1
情報処理活用能力検定2級										1				1							2
初級システムアドミニストレータ試験									1									1	3	1	6
電気通信主任技術者試験(線路)				1																	1
工事担当者試験ディジタル第1種				1																	1
基本情報処理技術者試験										1									6	2	9
TOEIC(730以上)				1																	1
TOEIC(600-729)																			2		2
TOEIC(450-599)				2											1				3		6
TOEIC(400-449)				1	4				3	1					1				6	1	17
合 計	0	0	0	6	4	0	0	7	5	3	0	0	1	12	3	0	0	1	22	4	68
合 計			10					15					16					27			00

平成17年度

十八八千度																					
学科•学年	情	報道	1信:	<u>工学</u>	科		電子	<u>'L</u>	学科		電	: 子制	御.	<u>工学</u>	科		情幸	员工 5	<u>学科</u>		合計
資格名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
実用英語技能検定準2級									1										1		2
デイジタル技術検定2級情報部門								1	4					5							10
デイジタル技術検定2級制御部門					1			2	11												14
基本情報処理技術者試験																		2	4	2	8
情報処理活用能力検定2級									2					1							3
初級システムアドミニストレータ試験				1														3			4
陸上無線技術士試験1級			1																		1
TOEIC(730以上)														2							2
TOEIC(600-729)			1																		1
TOEIC(450-599)									1									1		1	3
TOEIC(400-449)				3	2	1			1	1											8
合 計	0	0	2	4	3	1	0	3	20	1	0	0	0	8	0	0	0	6	5	3	56
		•	9					25	•		8					14					30

資料6-1-2-6

資格取得人数(準学士課程)(2/2)

平成16年度

学科·学年	情	報道	值言:	工学	科		電子	^_I	学科		電	子 带	御.	工学	科		情報	弘工学	学科		合計
資格名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
実用英語技能検定2級						1															1
実用英語技能検定準2級													1				1	4			6
デイジタル技術検定2級情報部門									2												2
デイジタル技術検定2級制御部門									4	1				1							6
基本情報処理技術者試験																			4	1	5
ソフトウエア開発技術者試験																			1		1
初級システムアドミニストレータ試験										1								1			2
画像処理技能検定(マルチメデイア部門)2級																			1		1
CG検定2級																			1		1
陸上無線技術士2級				1																	1
工事担任者試験デイジタル第1種															1						1
TOEIC(730以上)														2							2
TOEIC(600-729)			1																		1
TOEIC(450-599)																				1	1
TOEIC(400-449)					1					1										1	3
合 計	0	0	1	1	1	1	0	0	6	3	0	0	1	3	1	0	1	5	7	3	34
			3					10			5				16			34			

平成15年度

学科·学年	情	報通	值言:	工学	科		電子	<u>-</u> エ:	学科		電	子制	御.	工学	科		情報	工员	学科		合計
資格名	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
実用英語技能検定2級										1									1		2
実用英語技能検定準2級			1				1		1	1							1	1			6
ディジタル技術検定2級情報部門									1	1											2
ディジタル技術検定2級制御部門									1	1											2
基本情報処理技術者試験													1						11		12
初級システムアドミニストレータ試験							1					1							1		3
CG検定2級									1												1
第2級陸上無線技術士										1											1
TOEIC(730以上)									2					1							3
TOEIC(600-729)										1								1			2
TOEIC(450-599)									1										1	1	3
TOEIC(400-449)								1											2	1	4
合 計	0	0	1	0	0	0	2	1	7	6	0	1	1	1	0	0	1	2	16	2	41
□ aT			1					16					3					21			41

(出典 学生課教務係)

(4) 各種コンペティション等の受賞内容

「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」では、毎年地区大会に出場する 2 チームが共に各賞を受賞し、好成績を収めている。さらに平成18年度まで 8 年連続で全国大会に出場し、12年度、13年度には史上初の連続優勝、16年度には準優勝、18年度には史上初の優勝とロボコン大賞のダブル受賞を成し遂げ、全国トップクラスの戦績を残している(資料 6-1-2-7、8)。

資料6-1-2-7

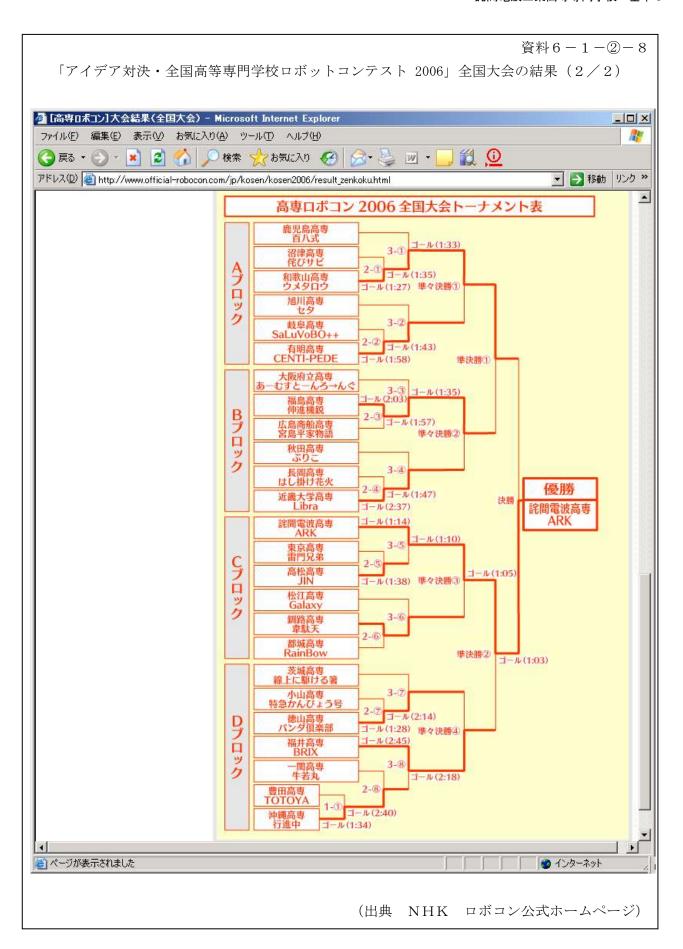
「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」でのこれまでの成績

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト

回	年			地 区 大 会		全 国 大 会
数	度	開催日	当番校	本校チームの成績	開催日	本校チームの成績
19	H18	H18.11.5	高 松	A:ARK(優勝) B:蒼天(技術賞·特別賞)	H18.11.26	A:ARK (優勝・ロボコン大賞)
18	17	H17.11.6	高知	A:Caravan (優勝) B:大和 (2回戦敗退) (アイデア賞)	H17.12.4	A : Caravan (ベスト8)
17	16	H16.10.24	新居浜	A : Fever (優勝) B : 飛翔 (2回戦敗退)	H16.11.28	A:Fever (準優勝)
16	15	H15.11.2	詫間	A:A(エース)(優勝) B:轟天 (準優勝)	H15.11.23	A :A(エース) (ベスト4)
15	14	H14.10.20	弓 削	A : チャレンジTAKUMA (準優勝) B : 蜘蛛侠 (特別賞)	1117.11.27	(2回戦敗浪)
14	13	H13.10.28	阿南	A: チャレンジャー (優勝) B: 海里 (準優勝)	H13.11.25	A : チャレンジャー (優勝)
13	12	H12.10.22	高 松	A:ミレニアム・リサイクラー (準優勝) (パフォーマンス賞) B:蕾開花 (特別賞)	H12.12.3	A:ミレニアム・リサイクラー (優勝)
12	11	H11.10.31	高 知	A: クリテイカルポイント (優勝) B: Jump to 2000 (準優勝)	H11.11.28	A:クリテイカルポイント (2回戦敗退)

(出典 学生課学生支援係)





「高等専門学校プログラミングコンテスト」でも、平成17年度競技部門の準優勝をはじめ、審査員特別賞を 4 回獲得するなど、毎年各賞を受賞している(資料 6-1-2-9)。

資料6-1-2-9

「高等専門学校プログラミングコンテスト」でのこれまでの成績

高等専門学校プログラミングコンテスト

	回数	年度	開催日	主管高専	部門	出場作品	審査結果
					課題部門	QaRuta —Evolutional かるたー	敢闘賞
	17	H18	平成18年10月7日(土), ~8日(日)	茨城 高専	林超印门	すごろびっくす -どうせならゲームと運動一緒にしたいねー	予選落ち
					自由部門	\$フィン ファンタジー	優秀賞
					競技部門	Puta	2回戦敗退
					課題部門	地図情報システム	予選落ち
	16	H17	平成17年10月 9日(日)	米子 高専	自由部門	ALICE	予選落ち
	10	1117	~10日(月)	小 1 回 寸	日田町リ	ひゃくmath. ネット	審査員特別賞
L					競技部門	かぴなんざぐわ	準優勝
			平成16年10月 9日(土)		課題部門	ばーちゃるママ@home	審査員特別賞
	15	H16	~10日(日)	新居浜高専		似テら 一君の見た目一	敢闘賞
L			100(0)		競技部門	GerechtErde	1回戦敗退
					課題部門	ヴァーチャル打! 一あの球を打て一	敢闘賞
	14	H15	平成15年10月11日(土)	東京 高専	自由部門	 Planet@リズム	審査委員特別賞
	'4	1113	~12日(日)	木水 向守		Flanetery	学生交流企画賞
L					競技部門	T-K2S	2回戦敗退
			平成14年10月11日(金)		課題部門	 飛ぶ人間コンテスト 一君の見た空一	審査委員特別賞
	13	H14	~12日(土)	石川 高専	环起叩门	飛ぶ八間コンテスト 右の光に至	学生交流企画賞
L			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		競技部門	The Goto	1回戦敗退
	12	H13	平成13年10月13日(土)	鶴岡 高専	課題部門	お年寄りとその家族のための介護コミュニケーション手帳	敢闘賞
	12	1110	~14日(日)		競技部門	CUM ~Clear UP the Mess~	1回戦敗退

(出典 学生課学生支援係)

四国の学生を対象にした新事業の提案コンペ「キャンパスベンチャーグランプリSHIKOKU」においても,第1回(15年度)から毎年各賞を受賞しており,平成18年度には,最優秀賞と優秀賞を本校が独占した。最優秀賞を受賞したチームは全国大会に出場し,審査員特別賞を受賞した(資料6-1-2-10,11,12)。

資料6-1-2-10

「キャンパスベンチャーグランプリ SHIKOKU」でのこれまでの受賞

キャンパスベンチャーグランプリSHIKOKU

回数	年度	賞	受賞テーマ
		最優秀賞 【全国大会】審査員特別賞	図書館利用者カードを忘れても大丈夫「リメンバーコード」
4	H18	優秀賞· 四国経済産業局長賞	ファンタジックセラピーシステムの開発
		優秀賞	ハザードコンパス
		奨励賞	ZigBeeを用いた消費エネルギーモニタリングシステムの開発と販売
3	H17	奨励賞	新しいゴミ箱
		日刊工業新聞社賞	電動三輪車を用いたソーラーカー
2	H16	奨励賞	電磁誘導方式による視覚障害者歩行支援システムの開発
		佳作	新しい防犯システム
1	H15	佳作	放送局案内装置

(出典 地域交流室資料)

資料6-1-2-11 「第4回キャンパスベンチャーグランプリ SHIKOKU」の受賞者一覧 🌌 日刊工業新聞 - キャンバスベンチャーグランブリ2006 公式サイト - Microsoft Internet Explorer _ | U × ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルブ(H) 🕝 戻る 🔻 🖒 💌 🤰 🎧 🔎 検索 🥋 お気に入り 🥝 🔗 🍃 🔟 🔻 🧾 🛍 鱼 アドレス(D) (書) http://www.cvg-nikkan.jp/area_shikoku/index.html ▼ 📄 移動 リンク » 学生による新事業の提案コンテスト 357-95DDU 2006 過去の受賞者一覧 四国エリア CVG2006 HOME 第4回キャンパスベンチャーグランプリ 四国 応募について 北海道エリア 第4回キャンパスベンチャーグランプリ四国受賞者一覧(2006年) 東北エリア 受賞名 氏名 東京エリア 最優秀賞 矢野 鉤子 詫間電波工業 図書館利用者カードを忘れても大丈 中部エリア 池上 洋行 高等専門学校 夫「リメンバーコード」 毛利 加代 大阪エリア 片岡 知美 三谷 和弘 中国エリア 優秀賞・ 高尾 美代子 | 詫間電波工業 | ファンタジックセラピーシステムの開 四国経済産業局長賞 高等専門学校 発 四国エリア 優秀賞 上野 直人 詫間電波工業 ハザードコンパス 全国大会 香川 真司 高等専門学校 脇 翔太 近藤 晃充 四国経済連合会会長賞 四国アイランド SNS(四国農産物リ 宮本 和典 香川大学 ーシャルネットワークサービス) 日刊工業新聞社賞 川上 幸恵 新居浜工業 使いたいとき『新品電池』! 10年買 高等専門学校 い置き大丈夫!! 中国四国産業人クラブ賞 笹田 多紀 香川大学 冷蔵庫付属型食材管理システムの ZigBeeを用いた消費エネルギーモ 大平 隆一郎 詫間電波工業 ニタリングシステムの開発と販売 宮武 巧 高等専門学校 劳地 淳史 大西 宏昌 堀瀬 友食 田中 大樹 奨励賞 木谷 謙治 愛媛大学 携帯電話バーコードリーダを利用し 宮本 佳典 たどこでも使える手軽な図書管理シ ステム 小学校での[もの作り]数育を考えた 佳作 立石 啓江 阿南工業 ブックホルダーキットの考案 高等専門学校 佳作 河野 匡贵 愛媛大学 Web3D技術に基づく一目でわかる 平野 貴士 パーチャル案内板 インターネット 日刊工業新聞 キャンパスベンチャーグランプリ公式サイト) (出典

資料 6-1-2-12 「第3回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」の受賞者一覧 🚰 日刊工業新聞 - キャンバスベンチャーグランブリ2006 公式サイト - Microsoft Internet Explorer _ O X ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルブ(H) (合)戻る → (金) → 💌 (2) 🚮 (🔎 検索 🦙 お気に入り 🏈 ▼ N 移動 リンク » アドレス(D) @ http://www.cvg-nikkan.jp/zenkoku/winner_list.html#list2006 Google Gマキャンパスベンチャーグランプリ ▼ 検索 🐶 🔼 ▼ 🤔 ▼ 🗘 ブックマーク▼ 🔯 ブロック数: 8 🎏 チェック 🕶 🥦 ○ 設定▼ 第2回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会受賞者一覧(2005年度) 全国大会 受賞名 氏名 学校 テクノロジー部門大賞・ 朴 栄光 早稲田大学 外科手術訓練装置の開発・販 大学院 文部科学大臣賞 ビジネス部門大賞・ 名古屋工業大学 GPS・カメラ搭載携帯電話を 鏈井 清幸 经济商業大臣营 活用した写真海図ビジネス 特別賞・TDK賞 小田切 知真※ 災害支援物資エアブリックの 鹿児島大学 開発・販売 大学院 柏井 将文※ 大阪大学 複合セラミックを用いた凍結 ゼネラルエンジニアリング賞 血液急速解凍装置の開発 大学院 軽度の急性疾患に羅患した 審查委員会特別賞 岡本 麗子※ 北海学園大学 児を一時的に預かる託児支 援システム ※ グループによる応募で、代表者だけを記載。敬称略。 第3回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会受賞者一覧(2006年度) 受賞名 氏名 文部科学大臣賞: 近藤 弘憲 大同工業大学 「リモコン花火」電子 テクノロジー部門大賞 早川明利 工作キット 経済産業大臣賞: 谷川 寿子 長崎大学 料理の家庭教師派 森田 麻紗子 造ビジネス"アシス ビジネス部門大賞 楠 修平 力" 特別賞·TDK賞 水素化物原料を用 今出 完 大阪大学大学院 いる新たなGaN単 結晶成長技術の開 発 三次元画像技術を 伊藤 陽介 東京大学大学院 ゼネラルエンジニアリング賞 用いた広告事業 詫間電波工業高等専門学校 図書館利用者カード 審查委員会特別賞 矢野 絢子 池上 洋行 を忘れても大丈夫 毛利 加代 「リメンバーコード」 片岡 知美 三谷 知弘 審查委員会特別賞 原势 晶弘 山形大学大学院 ナナホシテントウを 利用した新しい害虫 防除体系~テントウ ムシ野菜の発売 🥶 ページが表示されました インターネット 日刊工業新聞 キャンパスベンチャーグランプリ公式サイト) (出典

(分析結果とその根拠理由)

平成18年度末に実施した学習教育目標・学習成果の達成度評価結果から,準学士課程3学科については卒業時の達成目標水準を満たす教育の成果・効果が上がっている。準学士課程1学科および専攻科では取り組みや達成目標水準の達成比率が十分ではなかったが,平成19年度は改善される見込みである。また、単位取得の状況や進級・卒業・修了の状況が良好であり、さらに資格試験合格者が年々増加していることや、ロボットコンテストやキャンパスベンチャーグランプリなどにおける極めて優秀な成績から判断して、「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」を使命として掲げた本校の教育の成果や効果が十分に上がっている。

観点6-1-③: 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や 進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の 成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

進学・就職の状況は、準学士課程では平成16年度以降進学率が増加傾向にあり、平成18年度に低下したが依然として平成15年度以前の進学率を上回っている。就職浪人等(その他)の割合は減少しており、進学・就職率はほぼ100%となっている。専攻科課程では17、18年度の2年間で3名が大学院に進学し、32名が就職しており、進学・就職率は100%であった(資料6-1-3-1)。

進学先は,準学士課程のほとんどが国公立大学工学部か高専専攻科であり,数名が私立大学や専門学校に進学している。専攻科課程では,進学者全員が国立大学の大学院に進学している。そのほとんどが電子情報系学科・専攻であり,他分野へは,平成18年度の専攻科修了生1名が教育系大学大学院に進学したのみである。就職先は,準学士課程,専攻科課程共に電子機器・エンジニアリング関連や製造業などが多く,そのほとんどが電子・情報関連の技術を生かせる民間企業である(資料6-1-3-2, 3)。

資料6-1-3-1

進学率·就職率

進学・就職の状況

	準学士詞	果程					専攻科詞	果程	
年度	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18	合計	平成17	平成18	合計
卒業•修了者数	153	149	150	149	158	759	17	18	35
進学者数	65	63	84	84	75	371	2	1	3
進学率	42.5%	42.3%	56.0%	56.4%	47.5%	48.9%	11.8%	5.6%	8.6%
就職者数	82	81	62	63	82	370	15	17	32
就職率	53.6%	54.4%	41.3%	42.3%	51.9%	48.7%	88.2%	94.4%	91.4%
その他	6	5	4	2	1	18	0	0	0
その他の率	3.9%	3.4%	2.7%	1.3%	0.6%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%

(出典 学生課学生支援係)

資料6-1-3-2

進路状況(平成18年度)(1/2)

進路状況

Classification of Graduates

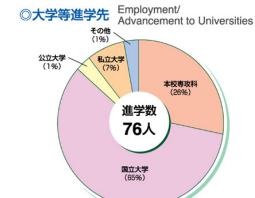
◎学科別進路状況 Classification of Graduates

平成19年3月31日現在 As of Mar. 31, 2007

区分 Classification 学科	卒業者数 Number of Graduates	進学者数 Number of Graduates Who Went on to Univ	県 内	t 職 者 数 duates Who Took I 県 外	計	その他 Others	求人会社数 Total Number of Companies	求人総数 Total Number of Needed Recruits (B)	求人倍率 (B) divided by (A)
Department			Kagawa Prefecture	Other Areas	Total		6000000000		
情報通信工学科 Telecommunicati	40	16	8	16	24	0			
電子工学科 Electronics	44	18	7	19	26	0	466	662	8.07
電子制御工学科 Control Engineering	33	11	6	16	22	0	400	002	8.07
情報工学科 information Engineering	41	31	2	8	10	0			
合 計 Total	158	76	23	59	82	0			

◎産業別就職先 Industry Employment

公務員 (0%)
電気・ガス (10%) 情報通信 (5%) コンピューター (14%) が開設 (18%) が開設 サービス (10%) 製造 (22%) 電子機器 (21%)



◎**専攻別進路状況** Classification of Graduates (Advanced Course) 平成19年3月31日現在 As of Mar. 31, 2007

O 15 P415							0.0 1 0,30 1	1901	
区分 Classification	卒業者数	進学者数	京 Number of Grad	尤職者数 luates Who Took	女 Employment (A)	その他	求人会社数	求人総数	求人倍率
学科 Department	Number of Graduates	Number of Graduates Who Went on to Univ	県 内 Kagawa Prefecture	県 外 Other Areas	計 Total	Others	Total Number of Companies	Total Number of Needed Recruits (B)	(B) divided by (A)
電子通信システム工学専攻 Advanced Course of Electronics and Circumscation Systems Engineering	10	1	2	7	9	0	100	150	0.05
情報制備システム工学専攻 Advanced Course of Information and Control Systems Engineering	8	0	1	7	8	0	138	159	9.35
合 計 Total	18	1	3	14	17	0			



地元企業と学生の懇談会 Consultation of students with local companies

36 Takuma National College of Technology

資料6-1-3-2

進路状況 (平成 18 年度) (2/2)

○進路先(就職先) Companies & Universities

平成19年3月31日現在 As of Mar. 31, 2007

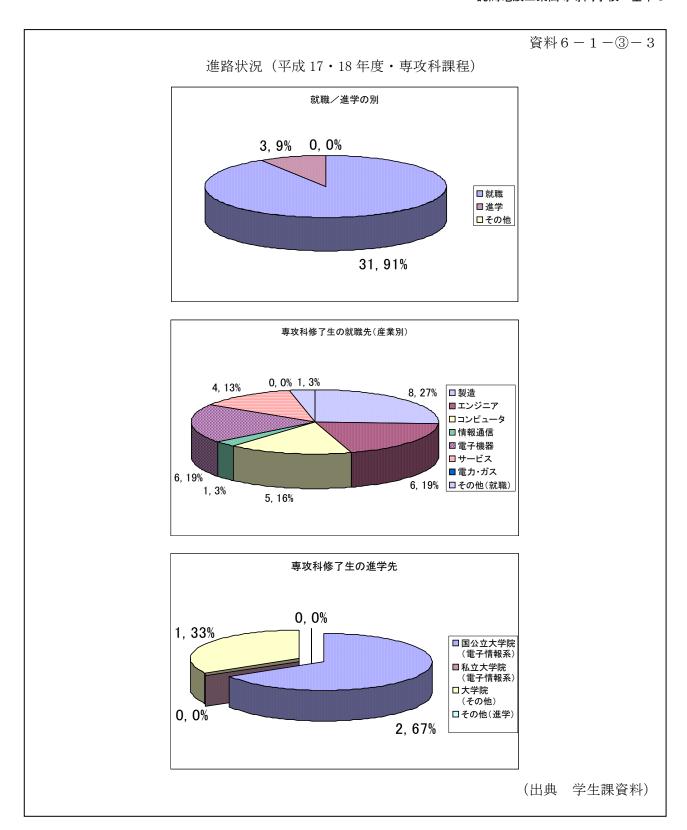
© ~ PA > D (0) D - W > D >	Companie				NIM .	1/2/10-0/3	01111	TE NOOTIV	lai. 01, 2007
企業	名	平成17年度		企	業		名	平成17年度	平成18年度
	阪神(株)	1	1	中	部電	カ	(株)	3	2
アイコ	ム (株)	1		(株)	中	電	I	1	
アイシン精	機 (株)	1	1	(株) ラ	デンソ	— 四	国		1
ア オ イ 電	子 (株)	1		(株)	デ	ポ	ウ	1	
旭 化 成			1	D X		テ ナ	(株)		1
(株) ANAコミュニケー		1	1		コンピュー				1
	- ビス(株)	1	1		1コントロー				1
					エンジニ			1	
			1	714			(2.19	-	
(株) イ シ		1		東		素	(株)	2	1
(株) イ ー シ -	- エ ス	2			フトウェアエ		ク(株)		1
伊藤忠テクノサイ	エンス(株)		1		長 峰	製作	所		1
今 治 造	船 (株)	2	1	(株) 二	ッソー	サ ー ヒ	ス	1	2
出光興産(株)徳山	製油 所		1	日本工	レクトロニッ	クシステム	ズ(株)		1
岩 谷 瓦	斯(株)	1		西日	本 旅	客 鉄 道	(株)	1	1
(株) エ ク シ オ		1		西日		速 道 路	(株)		1
NECネッツエスアイ・エンジ	Contract Con		3		気システム建設		(1-19	1	
			3					1	
N H	K	1			モ レ		(株)		1
	N e t		1	日	泉 化		(株)		1
オムロンフィールドエンジ		1		日 亜			(株)		1
大 紀 商	事 (株)	3	1	ネク		ウェア	(株)	2	
(株) 大 矢 根 利 器	製作所	1		ネットワ	ークサービスと	& テクノロジー	ズ(株)		1
オリエンタルモ・			1	(株) ネッ	トワーク応	用通信研	究所		1
岡田電	機 (株)	1			大 微 生				1
(株) 大塚 製薬			1		= y O A V C			1	1
開発電子技			4	E	_ t		(株)		1
					- サービスエ				
外務	省	1						1	
	製 作 所	1							1
	- ビス(株)	2	1		立アドバ		タル		1
川崎重工	業(株)		1	兵	庫製		(株)	1	
(株) 川 崎	造 船		1	(株) フ:	オーサム	・アクテ	ィブ		1
関 西 電	力 (株)		1	フ ジ	ボ ボ ウ	愛 媛	(株)		1
カトーレッ			1	富	士 建		(株)	1	
キャノンシステムアンド		1	1	富士			(株)	1	
	智 工 場	1	1	(株) 芙 郭		ンジェン		i	
							(株)		
			1	一角 工				1	
(株)KDDIテクニカルエンジニア		1994	3			システム			1
神島化学工		1			電器産			1	
コベルコシス	テム(株)	1	1	マ	ツ	ダ	(株)		1
コスモ石	油(株)	1	4	(株) -	マリテ	ック	(株)		1
(株) 三 光 エ ン ジ ニ	アリング	1	2	Ξ	浦工	業	(株)	2	
	S I	1	1		間機ビルテ	クノサービ	ス (株)	1	
	テムズ	2			機(株)受配電		6		2
(株) J A L アビ	テック	1	1	The second second	電機エンジ	AND RESIDENCE AND ADDRESS OF THE PARTY OF TH			1
0.45									1
(株) j i g	. j p		1		機コントロー				1
CTCTDJ		1			電機システ				1
四国計測工		1	2	(株) 三		クニク		1	
四国明治乳	業 (株)		2	ムラ		ク 販 売	(株)	1	1
(株) シ マ	7 /	1		ムラ				2	
JFEスチール(株)西日	本製作所		2	(株) メテ	ィカルサ:	プライジャ	パン		1
島産業			1	矢	崎 総		(株)		1
綜合警備保			2	(株)	山		武		1
		1			崎 製	パン	(株)	1	1
		1				//		1	1
(株) ソーアーテ	ック		1	ラ	モ ナ		(株)	1	
ソニーセミコンダク			1		ンテ	ック	(株)		4
(株) 詫 間 電 子 セ	ンター	1	1		ノルバン:			1	
(株) ダ イ ヘ ン テ	クノス	2		(株)	Υ	E	S	1	
	- チ	3	1	自	営		業		1
(株) タ ケ									
		0	1		行				1
	業 (株)	0	1	自	衛		隊	76	1

◎進路先(進学先) Universities

	大 学	等 名		平成17年度	平成18年度	大 学 等 名 平成17年月	平成18年度
宇	都 2	大	学	1	3	長岡技術科学大学 7	6
千	葉	大	学	1		豊橋技術科学大学 8	8
電	気 通	信 大	学	1	5	愛知県立大学 1	
筑	波	大	学	1	2	広島市立大学	1
岐	阜	大	学	1	1	東 京 工 科 大 学 1	
信	州	大	学	1	2	桃 山 学 院 大 学 2	
山	梨	大	学	1		立 命 館 大 学 3	3
静	岡	大	学		1	神 戸 芸 術 工 科 大 学 1	
三	重	大	学		1	高 松 大 学	1
奈	良 女	子 大	学		1	詫 間 電 波 高 専 21	20
和	歌山	山 大	学	1	1	京都芸術デザイン専門学校 1	
神	戸	大	学	1		京 都 コンピュータ学 院 1	
鳥	取	大	学		1	東放学園映画専門学校 1	
島	根	大	学	4	1	福岡コミュニケーションアート専門学校 1	
広	島	大	学	2	1	大 阪 成 蹊 大 学	1
徳	島	大	学	8	5	穴 吹 カ レ ッ ジ	1
香	Щ	大	学	9	4	上越教育大学大学院	1
愛	媛	大	学	2	2	徳島大学大学院 1	
高	知	大	学		1	神 戸 大 学 大 学 院 1	
九	州工	業大	学	3	3	計 86	77

Takuma National College of Technology • 37

(出典 平成19年度 学校要覧)



(分析結果とその根拠理由)

進学・就職率はほぼ100%であり、その内訳は本校の各学科・専攻(すべて電子・情報系)が養成する人材像や専門性が活かされる進学先・就職先となっている。これらの結果から判断して、本校の教育目的が意図する成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-④: 学生が行う学習達成度評価等,学生からの意見聴取の結果から判断して,教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校では専攻科課程は平成17年度より,準学士課程については平成18年度から学生による学習達成度評価の取り組みを行っている。準学士課程の $3\cdot 5$ 学年,および専攻科課程 2学年の学生に学習・教育目標に対する達成度自己評価アンケート(資料6-1-4-1,2)を実施している。準学士課程については教育改善専門部会が,専攻科課程については専攻科委員会が平成19年 2 月に実施したアンケートの集計および分析を行った。

					資料
教育目標に対する達成度自己評価ア	ンケー	ート月	紙(進学士	:課程:
学習目標に対する達成度の自己評価アンケート		. , ,	• / / • • • • • • • • • • • • • • • • •	, , _	- 19 (1)
◇ 別紙の「学習・教育目標、学習成果、達成度基準」を参照しながら、各学該当しているかを、それぞれの学習成果ごとに1箇所だけ×印を入れてく		ける達成原	度基準の項目	目が,どの程	度自分に
学習·教育目標,学習成果			回答欄		
A技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観 を身に付ける。	1項目以下	2項日該当	3項目該当	4.項目該当	
A1 技術者としての責任を果たす能力(技術者倫理規定)				73083	
A2 人類の福祉に貢献できる能力(文化,社会及びその歴史)					
A3 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力					
B 日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる。 B1 相手の意図を理解できる能力 (日本語)	1項目以下	2項目該当	3項目該当	4項目該当	5項目該当
B1 相手の意図を理解できる能力 (英語)					
B2 自分の考えを相手に伝える能力 (日本語)					
B2 自分の考えを相手に伝える能力 (英語)					
B3 役割を分担し、相互に協力して作業できる能力 (日本語)					
C 情報機器を活用して情報収集や情報分析, 文書作成, 口頭発表					
ができるようになる。 C1 情報機器を活用して情報収集ができる能力	1項目以下	2項目該当	3項目該当	4項目該当	5項目以上
C2 情報機器を活用して情報分析ができる能力	\exists	\Box			
C3 情報機器を活用して文書作成ができる能力	\exists	\Box			
	4項目以下	5項目該当	6項目該当	7項目該当	8項目該当
C4 情報機器を活用して口頭発表ができる能力	Щ	Ш.		Щ	Ш
D技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得 し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。	1項目以下	2項目該当	3項目該当	4項目該当	5項目以上
D1 数学, 自然科学に関する知識					
D2 専門技術に関する知識					
D3 幅広い知識					
D4 技術の変遷を予測できる能力					
D5 自ら学ぶ姿勢					
E与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に 取り組むことができるようになる。	1項目以下	0項日誌 4	3項目該当	4.項目誌当	
E1 計画を立案できる能力		2項日級日	34000	44000	
E2 回路又はシステムを設計できる能力					
E3 回路を組み立てることができる能力,又はシステムを構築できる能力					
E4 回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力					
E5 問題点を解決できる能力					
E6 粘り強く取り組む姿勢					
F 運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる。					
F1 運動能力の維持向上に努める姿勢	1項目以下	2項目該当	3項目該当	4項目該当	5項目該当
F2 団体の規律を守る姿勢					
F3 他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢					
(出典	77 th	10年1	11月13		笠の同さ

資料6-1-4-2

学習・教育目標に対する達成度自己評価アンケート用紙(専攻科課程の例(抜粋))

到達度自己評価

専攻科の教育理念と本校の学習・教育目標に対する到達度の自己評価をお願いします。本調査は専攻科の教育改善のための資料としてのみ 使用します。なお、この調査にかかわる個人情報は公開しませんが、集計結果は公開することがあります。各基準に関する自己評価では対応す るものに〇印をつけてください。[]の中にはその根拠となる特別研究等での事例を1つ記入して下さい。出来れば、特別研究論文に示している事 例、証拠が明示できる事例を選んで下さい。根拠資料は、できるだけ、下記の記号を使って示して下さい。 R1 特別研究本論文、 R2 特別研究論文集論文、 R3 中四国研究交流会レジメ、 R4

専攻名: システム専攻 氏名:

専攻科の教育理念

開校精神を核としてもち、それに加えて、 国際的なコミュニケーション能力	高いレベルの能 力を有する	能力がある	判定できない	能力がない
創造的技術開発能力	高いレベルの能 力を有する	能力がある	判定できない	能力がない
技術者倫理・責任自覚能力 とを備えた高度開発型実践技術者を養成する。	高いレベルの能 力を有する	能力がある	判定できない	能力がない

本校の学習・教育目標

2) 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。(環境) 高いレベルで該 該当する 判定 3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。(歴史,文化) 当する 該当する 判定 当りる はりょう はいさい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい	できない 該当しない
1) 安全で有用なものを作ることの大切さを知っている。(技術者の使命) 当する いまする というには はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいいれいでは はいれいがいまする まいいんり というにより はいませる またい といっとして はいませる またい といっとして はいません というにより では はいました というにより では はいました というにより できまする またい といっとして はいました というにより というにより というにより というにより というにより というにより これにより というにより これにより こ	
2) 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。(環境) 高いしべルで該 該当する 判定 3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。(歴史,文化) 当する 該当する 判定	ズキャル 計业! かい
3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。(歴史,文化) 高いレベルで該 装当する 判定 当する まいより ではままします。	じさない 該当しない
宣ロスが正元誌	できない 該当しない
4)生命を尊重し、自他の幸福を願う姿勢が身についている。(人倫) 場する 料定	できない 該当しない
② 人類の福祉に貢献できる能力(文化、社会及びその歴史)	
1) 技術者は公衆に対して責任を負う立場にあることを知っている。	できない 該当しない
草()しばまで数	できない 該当しない
草()しばまず数	できない 該当しない
宣ロ ベルス ひとり かんしょう こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょく こうしょう しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょう しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょく しょく しょうしょく しょうしょく しょうしょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく しょく	できない 該当しない
③ 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力	
1) 事例において,何が問題か説明できる。 高いレベルで該 当する 判定	できない 該当しない
宣ロスルでは	できない 該当しない
3) 公衆の安全, 福祉, 健康及び環境保全を優先して判断できる。 高いレベルで該 該当する 判定	できない 該当しない
4) 判断を多様な価値観から評価できる。 高いレベルで該 該当する 判定	できない 該当しない
B_日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.	
① 相手の意図を理解できる能力	
1) 相手の発言を正しく理解しようという態度を持っている。	できない 該当しない
2) 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。	できない 該当しない
3) 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。	できない 該当しない
4) 自分の理解を確認するために質問できる。	できない 該当しない
② 自分の考えを相手に伝える能力	
1)自分の考えを相手に正しく伝えようという態度を持っている。	できない 該当しない
当する 当する 当する	できない 該当しない
3) 自分の考えが相手に正しく伝わったことを確認できる。	できない 該当しない
③ 役割を分担し、相互に協力して作業できる能力	
a ya	できない 該当しない
376	できない 該当しない
当 ず る	できない 該当しない
a a b a a b a a b a a b a b a a b a a b a a b a a b a a b a a b a a b a a b a a b a a b a a a b a a a a a a a a a a	できない 該当しない
5) 話し合って個々の役割を決めることができる。	できない 該当しない

(出典 専攻科委員会)

自己評価がそれぞれの達成度水準(資料 6-1-①-1)を満たしている割合を見ると、準学士課程 3 学年に比べて 5 学年がすべての項目で高い。専攻科課程では、その達成度水準が準学士課程より高いにも関わらず、ほとんどの項目で準学士課程 5 学年よりも自己評価が高い。また、5 学年および専攻科 2 学年の自己評価が達成度水準を満たしている割合の平均は、準学士課程で70%程度、専攻科課程で80%程度となった。準学士課程では全体の平均が50%に満たない項目がいくつかあるが、学科によるばらつきが大きく、すべての項目で50%を超えている学科もある(資料 6-1-④-3)。

資料6-1-4-3

学習・教育目標に対する達成度自己評価が達成度水準を満たしている割合(平成18年度実施)

「学習目標に対する達成度の自己評価」が達成度水準を満たしている割合 2007.2実施

			準学:	士課程			専攻科
	3学年			5学年			2学年
	全体	情報通信	電子	電子制御	情報	全体	全体
A:技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身!	こ付ける.						
A1:技術者としての責任を果たす能力(技術者倫理規定)	45%	62%	80%	61%	67%	68%	97%
A2:人類の福祉に貢献できる能力(文化, 社会及びその歴史)	78%	92%	95%	84%	83%	89%	94%
A3:物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力	38%	68%	73%	35%	49%	58%	71%
B:日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる.							
B1:相手の意図を理解できる能力(日本語)	76%	69%	91%	81%	74%	79%	80%
B1:相手の意図を理解できる能力(英語)	52%	45%	75%	56%	45%	56%	67%
B2:自分の考えを相手に伝える能力(日本語)	73%	74%	95%	80%	77%	82%	81%
B2:自分の考えを相手に伝える能力(英語)	46%	38%	61%	48%	41%	47%	56%
B3:役割を分担し,相互に協力して作業できる能力	52%	64%	82%	65%	66%	70%	92%
C:情報機器を活用して情報収集や情報分析,文書作成,口頭発表がで	きるよう	になる.					
C1:情報機器を活用して情報収集ができる能力	81%	87%	98%	97%	91%	93%	96%
C2:情報機器を活用して情報分析ができる能力	75%	90%	95%	88%	90%	91%	86%
C3:情報機器を活用して文書作成ができる能力	54%	64%	75%	81%	80%	75%	94%
C4:情報機器を活用して口頭発表ができる能力	11%	5%	57%	10%	24%	26%	82%
D:技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広し	∖視野を持	つて技術	の発展に	二対応でき	るように	なる.	
D1:数学, 自然科学に関する知識	45%	59%	77%	66%	56%	65%	71%
D2:専門技術に関する知識	41%	51%	80%	50%	56%	60%	79%
D3:幅広い知識	64%	72%	95%	78%	80%	82%	80%
D4:技術の変遷を予測できる能力							72%
D5:自ら学ぶ姿勢	53%	55%	88%	50%	65%	66%	70%
E:与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組	むことがつ	できるよう	になる.				
E1:計画を立案できる能力	66%	76%	95%	82%	83%	85%	92%
E2:回路又はシステムを設計できる能力	50%	74%	88%	61%	78%	76%	81%
E3:回路を組み立てることができる能力、 又はシステムを構築できる能力	21%	43%	70%	36%	35%	47%	83%
E4:回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力	57%	63%	95%	69%	79%	78%	87%
E5:問題点を解決できる能力	62%	72%	95%	79%	78%	81%	97%
E6:粘り強く取り組む姿勢	30%	41%	67%	30%	36%	45%	81%
F:運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる	5 .						
F1:運動能力の維持向上に努める姿勢	76%	85%	93%	88%	67%	83%	
F2:団体の規律を守る姿勢	24%	44%	66%	35%	35%	46%	
F3:他の学生と協調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢	48%	62%	77%	81%	50%	67%	
平均	53%	62%	83%	64%	63%	69%	82%

[※]準学士課程3学年についても、5学年と同じく卒業時の達成度水準を満たしている割合を集計した.

(出典 平成19年4月19日 第1回点検評価委員会資料)

[※]準学士課程のC1~C3以外は、該当すると回答された項目数をレベルの下位から順に該当しているものとして集計した

[※]専攻科課程は、達成度水準に対応する各項目について「(高いレベルで)該当する」と回答された割合を平均して集計した。 ※専な料課程の21、22については、「(高いレベルで)は当まれた割合を平均して集計した。

[※]専攻科課程のC1~C3については、「(高いレベルで)該当する」と回答された割合の上位から達成度水準の項目数分を平均して 集計した.

[※]準学士課程のD4については、アンケートの解答欄の不備により、今回は集計できなかった.

(分析結果とその根拠理由)

学生が行う学習・教育目標に対する達成度自己評価アンケート結果から、卒業・修了時の自己評価が 達成度水準を満たしている割合の平均は、準学士課程で70%程度、専攻科課程で80%程度に至ってお り、学年進行に従って確実に学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-⑤: 卒業(修了)生や進路先などの関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成18年に卒業生を対象に学習・教育目標・学習成果についてのアンケート調査をWeb上で実施し、広範囲に意見を聴取するよう取り組んでいる。なお専攻科課程は平成18年に第1期修了生を出したばかりなので、今回の調査は準学士課程卒業生が対象となる。実施に際しては、同窓会(七宝会)の協力を得て、同会の発行する会報紙面(資料6-1-(5-1) やメーリングリストを通じてアンケート調査への協力を呼びかけ、200名を超える回答が得られた。アンケートは、各項目の必要性を問う設問に加え、最近5年以内の卒業生を対象に、学習成果として掲げられている能力が在学中に身に付いたか否かについて質問している(資料6-1-(5-2)。その集計結果もWeb上で公開しており、学習成果の24項目中14項目で「身についている」あるいは「ある程度身についている」が70%を超えているが、10項目で「身についていない」が30%を超えている(資料6-1-(5-3)。



資料 6-1-5-2 卒業生に対する学習・教育目標に関するアンケートの Web ページ 🏂 http://www.de.takuma-ct.ac.jp/checkdotnet/response/res.aspx - Microsoft Internet Explorer 📃 🔲 🗙 ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルブ(H) 検索 📌 お気に入り 0 VV -アドレス(D) 🍓 http://www.de.takuma-ct.ac.jp/checkdotnet/response/res.aspx 移動 リンク >> ▼ 検索 • Ø M ▼ F マ つックマーク▼ >> Google G-○ 設定▼ 卒業(修了)して5 年以内の同窓生 • 全同窓生 ある程度身に付いた どちらとも 身についていな 下記の学習教育目標並びに学習成果についての必要度を大切・必要・あまり必要 でない・不要のうちの1つを選んで回答してください。卒業く修了)して5年以内の同 窓生の方は、更に右側の卒業時に身に付いたかどうかについても回答してください。 達成基準は学習成果のレベルを示しています。 十分身についたり 非常に大切 いえない 必要 技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける C A1 技術者としての責任を果たす能力(技術者倫理規定) 0000000 1) 安全で有用なものを作ることの大切さを知っている。(技術者の使命) 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。 (1994年) る。(環境) 3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている(歴史、文化) 4) 生命を尊重し、自他の幸福を願う姿勢が身についている。(人倫) 0000000 A2 人類の福祉に貢献できる能力(文化、社会及びその歴史) 1) 技術者は公衆に対して責任を負う立場にあることを知ってる。 2) 技術者は有用で安全な技術を提供しなければならないことを知っている。 3) 技術の有用性とリスクを示すことができる。 4) 公衆の安全を最優先する姿勢を身に付けている。 0000000 A3物事の良し悪しを根拠を示して判断出来る能力 1) 事例において、何が問題か説明できる。 2) 事例を通して、他者の体験をわがものとしている。 3) 公衆の安全、福祉、健康及び環境保全を優先して判断出来る。 4) 判断を多様な価値観から評価できる。 B 日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる 0000000 0000000 B1 相手の意図を理解できる能力 1) 相手の発言を正しく理解しようという態度をもっている。 2) 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。 3) 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。 4) 自分の理解を確認するために質問できる。 0000000 B2 自分の考えを相手に伝える能力 1) 自分の考えを相手に正しく伝えようとする態度を持っている。 2) 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。 3) 自分の考えが相手に正しく伝わったことを確認できる。 0000000 B3 役割分担し、相互に協力して作業できる能力 1) 作業の目的を知っている 2) 自分の役割を知っている 3) 分担の作業を遂行できる 4) 助け合いながらお互いの作業を進めることができる 5) 話し合って個々の役割を決めることができる。

(出典 本校ホームページ)

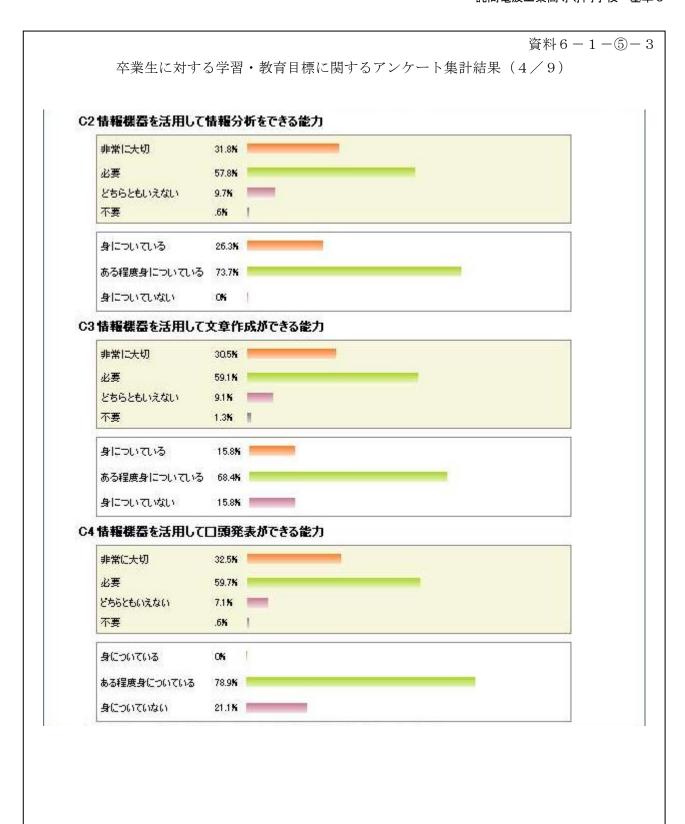
イントラネット

ページが表示されました

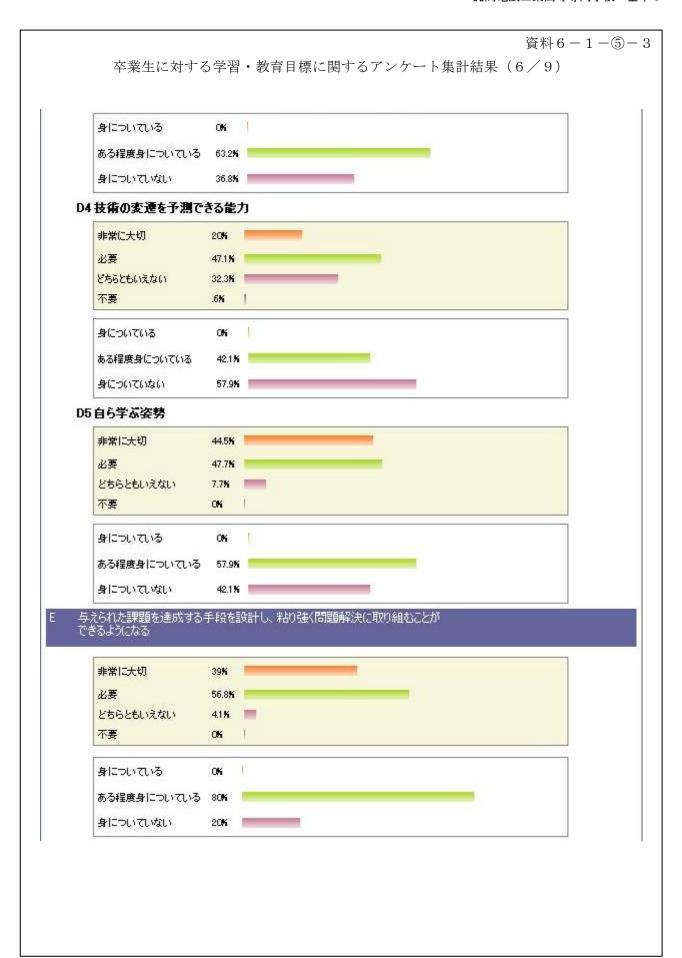
資料6-1-5-3 卒業生に対する学習・教育目標に関するアンケート集計結果 (1/9) 技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける 非常に大切 42.8% 必要 52.4% どちらともいえない 4.8% 不要 0% 0% 身についている ある程度身についている 66.7% == 身についていない 33.3**%** A1 技術者としての責任を果たす能力(技術者倫理規定) 非常に大切 43.8M 52.3% 必要 どちらともいえない 3.9% 不要 ON 5.3**%** 身についている ある程度身についている 52.6% --身についていない 42.1% A2 人類の福祉に貢献できる能力(文化、社会及びその歴史) 非常に大切 28.1% 必要 60.1% 11.1% どちらともいえない 不要 .7% 身についている ON I ある程度身についている 55.6% == 身についていない 44.4K A3物事の良し悪しを根拠を示して判断出来る能力 非常に大切 57.6% 39.1% 必要 どちらともいえない 3.3% 不要 ON







資料6-1-5-3 卒業生に対する学習・教育目標に関するアンケート集計結果 (5/9) 技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を 持って技術の発展に対応できるようになる 非常に大切 31.1% 必要 62.2% どちらともいえない 6.8% 不要 0% 身についている ある程度身についている 66.7% 🤚 33.3K 身についていない D1 数学、自然科学に関する知識 非常に大切 21.9% 必要 58.7% どちらともいえない 18.1% 不要 1.3% 身についている 0% ある程度身についている 72.2% 🤚 身についていない 27.8% D2専門技術に関する知識 非常に大切 25.8% 必要 58.1% どちらともいえない 16.1% 不要 0% 5.6% 身についている ある程度身についている 77.8% 身についていない 16.7% D3幅広い知識 非常に大切 34.8% 必要 56.1% どちらともいえない 9% 不要 OK



資料6-1-5-3 卒業生に対する学習・教育目標に関するアンケート集計結果 (7/9) E1計画を立案できる能力 非常に大切 48.1% 必要 49.4% どちらともいえない 2.6% 不要 身についている 10.5% ある程度身についている 52.6% -身についていない。 36.8% E2回路又はシステムを設計できる能力 非常に大切 14.3% 必要 51.3% どちらともいえない 31.8% 不要 2.6% 身についている 5.3% ある程度身についている 57.9% --身についていない 36.8% E3回路を組み立てることができる能力、又はシステムが構築できる能力 非常に大切 11% 必要 50% どちらともいえない 37% 不要 1.9% 身についている 10.5% ある程度身についている 73.7% --身についていない 15.8% E4回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力 非常に大切 20.9% 必要 51% どちらともいえない 27.5% 不要 .7%



資料6-1-5-3 卒業生に対する学習・教育目標に関するアンケート集計結果 (9/9) 身についている 14.3% -----ある程度身についている 71.4% 身についていない 14.3% F1 運動能力の維持向上に努める姿勢 非常に大切 13% 必要 67.5% · どちらともいえない 18.8% 不要 .6% 身についている 15.8% ある程度身についている 78.9% --身についていない 5.3**%** F2団体の規律を守る姿勢 非常に大切 37% 必要 52.6% どちらともいえない 10.4% 0% 不要 身についている 21.1% ある程度身についている 68.4% 身についていない 10.5% F3他の学生と強調しながら積極的にスポーツに取り組む姿勢 非常に大切 22.7% 必要 54.5% どちらともいえない 20.1% 不要 2.6% 身についている 15.8% ある程度身についている 63.2% --身についていない 21.1%

進路指導室で毎年実施している進路先の会社訪問の際には、来年度の求人予定などと共に、本校卒業生の学力・資質・能力等に関する意見を聴取している(資料 6-1-⑤-4)。 学生たちの進路先である会社の担当者に本校卒業生の学力・資質・能力等について意見を求め、それらを学習・教育目標、学習成果に対応づけて分析した。全体に「優れている」「やや優れている」との評価が多く、特に専門学力・専門性で高い評価を得ている。主体性やチャレンジ精神などの項目で一部「劣っている」と評価されている(資料 6-1-⑤-5)。

	一	ΙΔ-Н	/J □,	百口巫	∦ √ ∠	יפוי	」(平成 18 年度)	٦
							平成 / 8年 9 月28日	
				会社	注意	婧	引記録	
							alitination to	
							訪問者氏名:	
,	訪問日時: 平成 /♂年	9,	я <i>2</i> 7	B	10	時心	0分~ // 時 00分	•
	訪問会社名:				<u></u>			
	訪問先住所:						<u> </u>	
	主たる対応者(できればダ	d 広 #	· のタ:	#1/ \	. ي. ه	=T\;	たばれし ナノゼン・ハ	
	部署: 終 務室 /				ь		部署:	
	氏名:	<u> </u>	111 (70	·Ø1\			氏名:	
								
	来年度の求人予定 (来	年度(の求人	.: 1 2	今年	变並	み □増やす予定 □減らす予定 □未定)	
	每年10名程度採用	g -	宇宙 1		Ø r	.2		
	たなし、レベルと下	<u>[]</u> †`7]	T 3 (<u> </u>	71	1).		
	- M. M 1 - 1 - 1 - 1	 -0		-		•		
	では在業件の原とでいる		cds					
	本校卒業生の優れている	 ところ I 乗T	/劣	ってい	るとこ _空	ろ #		
	本校卒業生の優れている。評価	非常に	/劣・	ってい	多とこ	ろ非常に	本校卒業生の責買・能力等に関するコメント 支援と一心に、デミストッして、七を生	
		非常に	/劣・組れていま	つていやや劣って	多っていている	ろ 非常に劣	高寶生-般に言えることとして、大学生 と比較して、ミクス・チガルない	
	評価	非常に	長れている い	やや劣ってい	劣っている	非常に劣って	本校卒業生の責買・能力等に関するコメント 高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミスス、4メルウない。 シスめ、どめていく名が生ない。	
		とま常に優れている	/劣・それでいる。 それでいる。 なる。	やや劣ってい	劣っている	ろ 非常に劣っている	高寶生-般に言えることとして、大学生 と比較して、ミクス・チガルない	
	評価	非常に優れている	長れている い	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高寶生-般に言えることとして、大学生 と比較して、ミクス・チガルない	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	寶質·能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 職実性,信頼性,責任感,	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフで、4が少ない。 しため、4めていく名が少ない。	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 誠実性,信頼性,責任感, 職業額,就業意識	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	評価 変質・能力等 基礎学力,一般軟養 専門学力,専門性 誠実性,信頼性,責任感, 職業観,就業意識 ポニュケーション能力,協調性	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	評価 変質・能力等 基礎学力,一般軟養 専門学力,専門性 誠実性,信頼性,責任感, 職業観,就業意識 ポュニケーション能力,協調性 リーダーシップ	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 減失性,信頼性,責任感, 職業額,就業意識 パミニケーション能力,協調性 リーダーシップ 藤学力	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	名と、劣っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 減失性,信頼性,責任感, 職業額,就業意識 パェニケーション能力,協調性 リーダーシップ 藤学力 論理性	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	ると、劣っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 酸実性,信頼性,責任感, 職業組,就業意識 昭ネアージンプ 藤学力 論理性 主体性	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	ると、劣っている	非常に劣ってい	高雪生一般に言えることとして、大学生 と比較して、ミフマ、4 が少ない。 いため、どめていく名が少ない。 本校卒業生に期待すること	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 職業額,就業意識 パェニケーション能力,協調性 リーダーシップ 勝学力 論理性 主体性 創造性	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 酸実性,信候業態 職業額,協業意識 RP-92~能力,協調性 リーダーシップ 監理性 主体性 創造性 チャレンジ精神	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 変質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 職実性,度様態, 職業額,就業意識 パニンケージョン能力,協調性 リーダーシップ 藤学力 論理性 割造性 チャレンジ精神 倫理観	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 資質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 酸実性,信候業態 職業額,協業意識 RP-92~能力,協調性 リーダーシップ 監理性 主体性 創造性 チャレンジ精神	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	ると、劣っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 変質・能力等 基礎学力,一般教養 専門学力,専門性 職実性,度様態, 職業額,就業意識 パニンケージョン能力,協調性 リーダーシップ 藤学力 論理性 割造性 チャレンジ精神 倫理観	非常に優れている	優れている。	やや劣ってい	多っている	非常に劣ってい	高書生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミスマ、4 が少ない。 かため、 のめていく名 が少ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 石が性 がるる人技を希望	
	評価 変質・能力等 基礎学力、専門性 職実性、信頼性、責任感、 職業観、就業意識 ドュニケーション能力、協調性 リーゲーシップ 新型性 主体性 創造性 チャレンジ精神 倫理規 プレゼンテーション能力	非常に優れている	優れている シン	やや劣っている	劣っている	非常に劣っている	高雪生一般に言えることとして、大学生と比較して、ミフマ、4 が小ない。 本校卒業生に期待すること ストレス 「かり性 がふる人状を希望 本校卒業生の活躍ぶり等 その他	

(出典 進路指導室資料)

資料6-1-5-5

進路先関係者に対する学力・資質・能力の達成状況に関する意見聴取(平成18年度)

(平成18年)

進路先関係者に対する学力・資質・能力の達成状況に関する意見聴取(会社訪問時) 集計表

本校卒業生の優れているところ/劣っているところ

(回答:32社)

		進路	各先関係	系者から	う指摘	を受ける	た数
評価 資質·能力等	学習教育目標・学習成果 との対応	非常に優れている	優れている	やや優れている	やや劣っている	劣っている	非常に劣っている
基礎学力,一般教養	A1,A2,A3,D1,D3		2	2			
専門学力, 専門性	D2,D3,D4		6				
誠実性,信頼性,責任感, 職業観,就業意識	A1,A2,A3		2	2		1	
コミュニケーション能力,協調性	B1,B2,B3,C1,C2,C3,C4,F2,F3		4			1	
リーダーシップ	B1,B2,B3		1	1			
語学力	B1,B2,B3		1		1		
論理性	B1,B2						
主体性	D5		2			1	
創造性	E1,E2,E3,E4,E5,E6						
チャレンジ精神	E6		2			1	
倫理観	A1,A2,A3						
プレゼンテーション能力	B2,C1,C2,C3,C4						
合	計	0	20	5	1	4	0

(出典 進路指導室資料)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生に対して本校の学習・教育目標,学習成果が在学中に身に付いたか否かを聴取するアンケートを行った結果,24項目中10項目で「身についていない」が30%を超えた。結果が低く出たのは,アンケートの際に達成度基準をすべて(達成目標水準を超える高い基準まで)掲載しており,卒業時の達成目標水準が考慮されていなかったことが一因と考えられる。今後の調査ではこの点も考慮して実施する必要がある。

一方,進路先である会社の担当者への意見聴取の結果では、全体的に概ね良好な評価を得ている。 このことから、仕事をする上で必要な能力は身についていると考えられ、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 本校の教育目的を果たす上で必要な学習教育目標,学習成果,達成度基準が具体的に設定されており,これらを軸にしてその達成状況の把握ができている。
- ・ 各種コンペティション等における活躍。特にロボットコンテストでは、全国でもトップクラス の成績をあげている。
- ・ 資格試験合格者が年々増加しており、平成18年度には、延べ約70名が資格取得している。
- ・ 進学・就職率がほぼ100%であり、ほとんどが本校の専門性が生かされる進路先に進んでいる。

(改善を要する点)

- ・ 準学士課程1学科および専攻科では、取り組みや達成目標水準の達成比率が十分ではなかった (平成19年度は改善される見込み)。
- ・ 卒業(修了)生からの在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見聴取は,一部設問 に適切ではない部分があったために十分な分析が行われていない。

(3) 基準6の自己評価の概要

本校の教育目的を果たす上で必要な学習教育目標,学習成果,達成度基準が具体的に設定されており,各教科のシラバスに記載された学習到達目標と明確に関連付けられている。各担当教員は,達成状況を検証・評価する取り組みを行っている。特に,最重要科目に位置づけられている工学実験や卒業研究・特別研究は,それぞれに応じたチェックシート等を用いて達成状況の把握に努めている。卒業・修了時の各学習教育目標・学習成果についての達成度は,担任や専攻科委員によって点検・確認されており,適切な取組が行われていると判断できる。

学習教育目標・学習成果の達成度評価への対応が一部遅れているが,不十分ながら実施した結果から,卒業(修了)時の達成目標水準を満たす教育の成果・効果が上がっているといえる。このことは,単位取得の状況,進級・卒業・修了の状況,資格取得の状況などから裏付けられている。特に,ロボットコンテストやキャンパスベンチャーグランプリなどにおける極めて優秀な成績から判断して,

「創造性ある実践的な電子情報系技術者の育成」を使命として掲げた本校の教育の成果や効果が十分に上がっているといえる。さらに進学・就職率はほぼ100%であり、その内訳も本校の専門性が生かされる進学先・就職先となっていることから判断して、本校の教育目的が意図する成果や効果が上がっていることが認められる。

学生による学習達成度評価の集計結果の分析によると、卒業・修了時の自己評価が達成度水準を満たしている割合の平均は、準学士課程で70%程度、専攻科課程で80%程度に至っており、学年進行に従って確実に学校の意図する教育の成果や効果が上がっている。最近の卒業生に対するWebを利用した同様のアンケートの集計結果では、24項目中10項目で「身についていない」が30%を超える結果となったが、一部設問に適切ではない部分があったことが結果を低くした一因と考えられ、今後この点を改善して調査する必要がある。

一方,進路先である会社の担当者への意見聴取の結果では全体的に概ね良好な評価を得ており,仕事をする上で必要な能力は身についていると考えられ,教育の成果や効果は上がっていると判断できる。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①: 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、 学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の全学生には始業式後に、新入生には入学式後および合宿研修の双方にて、学生便覧を 基にガイダンスを実施している(資料7-1-①-1, 2)。

3学年後期には4学年の選択科目履修ガイダンスも実施している(資料6-1-①-9)。

専攻科では授業開始日に専攻科学生便覧を元にガイダンスを行っている(資料7-1-①-3)。 各授業の初めに担当教員がシラバスを配布し授業の目標等を説明している(資料7-1-①-4)。 学級担任による学生との面談が定期的に行われており、学習についての相談・助言がなされている (資料7-1-①-5, 6)。

教員がオフィスアワーを個別に設けている場合があるが(資料7-1-①-7),学生は放課後自由に教員室を訪れることができるので設定について全校的な取り決めはない。しかし,情報通信工学科や数学科においては組織的な取り組みを行っている(資料 $7-1-①-8\sim10$)。

その他,数学科の「微分積分学補習」(資料 7-1-①-11),情報工学科の「土曜フリースクール」(資料 $7-1-①-12\sim14$),電子制御工学科の「土曜の施設開放」(資料 7-1-①-15)が行われている。

準学士課程ガイダンス

平成19年度新入生オリエンテーション日程表 教員会議

詫間電波工業高等専門学校

日時	項目	担 当	揚所	
4月4日 (水) 11:45~12:15	(入学式) 学級ガイダンス(配布物)	学級担任	数 室	
11:45~12:15	保護者へのガイダンス	三 主 事	第二体育館	
4月5日 (木) 9:10~ 9:30	対 面 式	学 生 会	第二体育節	
9:30~11:00	学級ガイダンス	学級担任	教室	
11:10~12:40 (午前中知道45分委員)	全 体 ガ イ ダ ン ス (学生便覧を持参すること)	進行: 徳永主事補	視聴覚教室	
	授業・農修について	教務主事	н	
	学生生活について	学生主事	п	
	学 寮 に-つ い て	寮 務 主 事	N	
	校内カウンセラーについて	一色相談案長	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
	事務手続きについて	学生支援係長 学生生活係長	,,	
	事務手続きについて	数務係長	#	
13:20~15:05	学生会・クラブ紹介 (体育局・文化局)	学生会長・ クラブ部長	11	
4月23日(月) 4月24日(火)	新入生合宿研修	学生主事他	大洲青年の家	

(出典 教員会議資料)

合宿研修日程表(1/2)

			97	平	4月23日(月) 行 事	(学校名:詫間電 担 当 者	波工業局等号P	雨 天 時
8			3	0	ホームルーム。 出欠点検、諸注意	学級担任	各教室	
- 8	8		4	0	バス乗車・点呼	学級担任 1-1 1号車 1-2 2号車	図書館棟前	
. 8	8		5	0	学校出発	1-3 3号車 1-4 4号車		10
					(トイレ外前:石棺サービスエリア,10分)	1 4 4 7 4		
1 :	1	:	2	0	(到着能入所手続き:学生支援係) (学生支援係 830 分出発)	To the second	1 V 1	
1	1	;	4	0	大洲青年の家到着		0.0	
1	1	٠	5	0	入所式 開会のことば 代表者挨拶 青年の家職員挨拶	進行 (异蛙草) 学生副主事 学生主事	ふれあい広場	2階ホール
					研修 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	研修生代表 1-1 1名 班長 1-1 2名 学生副主事		. 8
			F		入所案内 (ビデオ)	0000 W	2階ホール	
1	2		3	0	昼食(12:30~ 13:10) 休憩	食事係	食 堂	The second
1	3		1	0	(青年の家側と打合せ)	学生副主事・学生主事権・学生支援係		
1	3	:	3	0	屋外活動(カヌー)	学級担任	大洲 肱川 (小雨決行)	カヌー中止場合 (組別ミライング) 1-1 50 人態の鍵
						. H	100	1-2 "
1	6		3	0	終了	30	N	1-4 # (組別活動)
1	6	:	3	0	(青年の家側と打合せ)	学生副主事・学生主事権・学生支援係	事務室	1-1 ユニカール
1	7	:	0	0	タベのつどい 国旗等降納 (8名) 職生代表表等・学表示	進行 (性証事) 班長 (2018年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3年3	ふれあい広場	1-3 APRVÝ 1-4 #
1	7	:	2	0	シーツ・枕カバー・コーミ接受取り・配布	生活係	本類場館・ホーイラ宝賞	
1	7	•	3	0	夕食(17:30~18:10) 休憩	食事係	食堂	
					組別ミーティング (配船、学験選款ので) 終了	学級担任 1-1 1-2 1-3 1-4	ミティング かん 31ルーム 35ルーム 36ルーム	= ×
1	9	:	0	0	入浴(19:00 ~ 21:00) 自由時間	生活係	本館地階	
2	1	:	3	0	就寝準備・点呼	生活策・学生直主事・学生主事権・学生支援係	1 2 2	
2	2		0	0	消灯・就寝	生活版・学級担任・販長		

合宿研修日程表(2/2)

平成19年度新入生合宿研修日程表 No, 2

β	+	3	刻		4月24日 (火) 行 事	担当者	電波工業高等専 場 所	雨天時
-	6	:	3 ()	起床・洗面寝具の整頓	NATIONAL PROGRAMMENT OF THE PROG		
2553	7	15	0 0)	朝のつどい 国旗等掲揚(8名) ラジオ体操 研修生代表挨拶	進行(學融) 班長 (職3名・機2名) 1-3 5名 (職3名) 1-4 3名 各組6班 班長 4名 研修生代表 1-3 1名	ふれあい広場	2階ホール
					青年の家職員の挨拶 連絡事項	学生副主事	2	
	7	•	1 5	5	清掃 分組は、普替智等表担当医数による。	保健係	宿泊室	
32	7	2	4 (5	(分割は、到着後大派青年の家より連絡者) (シーツ返却)	生活係	本館地階	Ï
	8	;	0 0)	朝食(8:00 ~ 8:30)	食事係	食堂	
	8	•	4 ()	青年の家園と打ち合わせ	学生副主事·学生主事籍·学生支接语	事務室	
	8	;	4 8	5	鮮야駅よる饂飩 (生活保1名立会)	生活係		
	9	:	1 5	5	学生生活について (特質験)	学生主事・学生副主事 学生主事補	武道場	
1	0	:	1 3	5	エアロヒ" クスク" ンス (全体)	全員	武道場	U 9
1	1	÷	2 (c	終了・清掃	学級担任	武道場	
1	2	:	0 (О	昼食(12:00 ~ 12:40) 休憩	食事係	食堂	
1	3	•	0 (0	退所式 開会のことば 代表者挨拶 事を与る	進行 (空間期) 学生副主事 学生主事 研修生代表 1-4 1名	ふれあい広場	2階ホール
		,			青年の家職員挨拶 校旗降納(2名) 閉会の言葉	班長 1-4 2名 学生副主事		
1	3	:	1	5	集合・点呼	学級担任	ふれあい広場	
1	3	:	2	0	バス乗車	学級担任 1-1 1号車 1-2 2号車 1-3 3号車 1-4 4号車	8.5	
1	3	:	3	0	大洲青年の家出発			
					(トイレ休憩:石植サービスエリア,10分)			
1	6	:	3	0	学校着・点呼・解散	学級担任	T	

(出典 平成19年度新入生合宿研修のしおり)

専攻科ガイダンス

資料 教務関係5 平成19年4月2日 教 員 会 議

平成19年度寧攻科新入生オリエンテーション日程表

詫間鑑波工業高等専門学校

日時	項目	担当	揚斯
4月5日 (木) 9:10~10:00	HR	専攻主任	専攻科演習室
10:00~10:20	体 懃		
10:20~10:50	校 長 訓 話	校 長	a.
10:50~11:00	体 題	*	=
11:00~11:30	専攻科について	專攻科長	専攻科演習室
11:30~11:50	JABEEKONT	井上教員	a
11:50~12:20	学校生活について	蜂目教員	#
12:20~13:25	昼 休 み		
13:25~16:00	各研究室でガイダンス		

(出典 教員会議資料)

資料 7-1-①-4

シラバス配布の例

科目名 基礎数学I

 学年学科
 1年

 分野
 一般

1組

担当教員 南貴之 学期 通年

項目 学習項目 (時間数)	授業日	授業日	授業日		備考
1 整式の加減法,整式の乗法(4)	4/13	4/17			4/13シラバス配布

(出典 平成18年度講義日誌)

学級担任のしおり

《学級担任の心得・心構え》

1. 勉学の動機づけ

学生の本分は勉学であり、本校生としてのプライドを持たせ、また社会情勢等の情報を提供し、学生が 夢や希望を持ち勉学に励むよう動機づける努力をする。

2. 人間形成

目線を学生に合わせ、信頼関係を構築し、一人ひとりを大切に育てるよう努め、良識を持った若者としての人間形成の助けとなる。

3. カウンセリング

人格は千差万別であるから日常的に学生と時間を共有し、一人ひとりの思考や悩みをしっかり聞き、学 生の心を開かせるように心がける。

4. 保護者とのコミュニケーション

学生からのシグナルを早期に感知し、保護者と情報交換を十分行う。

5. 校則の遵守, 礼儀作法

学生の校則遵守と本校生に恥じない礼儀作法を身に付けさせる努力をする。

《学生指導の要点》

- 1. 指導の大切さを認識し、学生との接点を増やし、学生の気持ちを充分理解するよう努め、学生一人ひとり の心に届く指導を公平に実行する。
- 2. クラスの融和を心がけ、良好な雰囲気の維持に努める。
- 3. 早期指導を心掛け、保護者との連絡を密にする。
- 4. 教科担任,クラブ指導教官,主事補,学科等と常に連絡を密にし,学生の学校生活を総合的に把握しておく
- 5. 日頃から一人ひとりをよく観察し、学習状況や生活態度の変化を機敏に察知し、迅速に対処する。
- 6. 留年生,学業不振学生,欠課欠席の多い学生は,特に個人指導に心掛ける。 留学生については,指導教官と連絡を密にする。
- 7. 学生の<u>休学,退学,復学</u>については,学生便覧等をよく読み,事前に保護者と連絡を密にし,かつ教務および学科主任と十分検討し慎重に対処する。

一中略一

1. 学級担任の主な業務(全学年共通)

(4) 個人面談

放課後などを利用し、全学生と個人面談をする。悩みなどを聞き指導に役立てる。

一以下省略—

(出典 学生課教務係)

学級担任による個人面談の例(平成18年度)

面接表

月日	面接者	月日	面接者
4.18		5. 9	
4.19		5.12	1
4.21		5.16	
4.25		5.17	
4.26		5.18	
4.28		5.25	
5. 2		5.26	

面接は昼休みと放課後行います。 面接の時間は20分以内です。 面接日に質問のある人は遠慮無くして下さい。 面接場所は細谷教官室です。

(出典 学級担任作成文書)

資料7-1-①-7

オフィスアワーの例

Office Hours for students

Mon, Tue and Thu 16:00 - 17:00

Fri 16:00-17:30

Notice:

All are welcomed without an appointment

Time and day other than above will be arranged for any students with an appointment

(出典 英語科森教員室前掲示物)

情報通信工学科のオフィスアワー

情報通信工学科オフィスアワー

オフィスアワーは、学生に対して設けられた時間です。学生の皆さんのために教員が待っている時間と思ってください。授業や学校生活について、気楽に質問や相談ができます。

2006年度前期

				r)
教員氏名	曜日	時間帯	部屋	主な担当科目
森本 敏文	水曜日	16:15~17:15	2F	電波伝送学 グラフ理論 電気磁気学
森本 峯世	火曜日	16:10~17:00	2F	基礎電気、デジタル回路、工業英語
澤田 士朗	木曜日	16:10~17:15	2F	応用数学、量子力学
井上 忠照	月曜日	16:10~17:15	2F	通信工学、デジタル回路、情報処理
青海 惠之	月曜日	16:10~17:10	2F	電気回路、光通信工学
真鍋 克也	金曜日	16:00~17:15	2F	電波伝送学、応用電磁気学 無線工学演習、光波電磁波工学
三河 通男	金曜日	16:00~17:00	2F	基礎数学、回路
辻 琢人	水曜日	16:15~17:15	3F	電子工学、電気回路
小野 安季良	月曜日	16:15~17:15	2F	通信工学、情報処理、制御工学
梶 久夫	月曜日	16:00~17:15	2F	電気通信システムA 通信法Ⅱ
草間 裕介	木曜日	16:00~17:15	3F	電気磁気学、電気電子計測

※上記の時間でも、会議や出張、来客などで在室できない場合があります。その場合は、教員室に別の時間を掲示しますので、それを参考にしてください。

(出典 情報通信工学科ホームページ http://www.dt.takuma-ct.ac.jp/officehour/)

平成18年度情報通信工学科オフィスアワー相談件数

57.4	073	001/. =4-44	Ab man a b ab a				
日付	曜日	開始時刻	終了時刻	人数		科 目	
12月1日	金	16:00	17:30	3名	電回I	計測	
12月4日	月月	14:00	15:00	2名	データ		
		15:30	18:00	2名	物理		
12月6日	水	12:30	13:30	2名	基電		
12/10日		14:30	16:30	1名	電回I	微積	
12月7日	木	12:30	14:00	2名	物理		
12月14日	木	17:00	18:00	2名	数 I		
12月15日	金	16:30	17:00	1名	物理		
12/11011	717	17:00	18:00	2名	工学実験		
1月19日	金	16:00	16:30	2名	工学実験		
1月22日	月	16:00	18:00	2名	回路		
1月30日	火	19:00	20:00	2名	進路		
					1 :		
2月7日	水	17:00	18:00	2名	数Ⅰ		
		15:30	16:00	2名	電回I		
2月8日	木	16:00	17:00	2名	物理		
		17:00	19:30	2名	回路		
2月9日	金	15:00	15:30	1名	電回I		
		14:00	14:30	1名	データ		
2月15日	木	16:00	16:30	1名	物理		
		16:30	19:30	2名	回路		
		9:00	11:00	2名	物理	情処	
2月16日	金	14:00	14:30	2名	電磁		
		14:30	15:00	2名	電回I		
2月19日	月	16:00	16:30	1名	データ		
2月21日	水	12:00	15:00	3名	回路		
2月23日	金	13:00	14:30	2名	電回Ⅰ		
2月25日	B	13:30	14:30	1名	電回I		
2月26日	月	14:30	16:00	1名	物理		
171200	77	16:00	17:30	2名	物理		

金 9件 木 8件 月 6件 水 4件 火 1件 日 1件

(出典 情報通信工学科)

数学科における学習相談の例・相談件数(1/2)

学生の学力の定着・向上(数学科)

1. 目的

専門科目の基礎となる学力の定着および向上を図る。

2. 平成18年度の目標

きめ細かく学生の学力の定着を図る。

3. 手段

放課後の会議(および補習)のない時間帯をオフィスアワーとして,質問受付に積極的に応じる。 授業中の疑問の解決,授業内容の復習,および5年生の編入試験問題の解説などが主な内容である。 こちらが理解不足と考えた学生を呼んで,授業内容の解説を試みた場合もある。

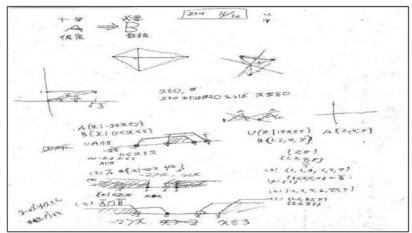


図1 学生に解説した用紙1

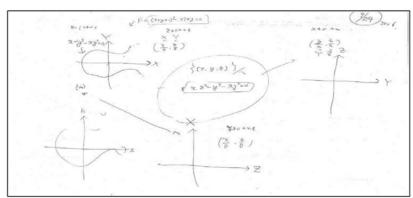


図2 学生に解説した用紙2

数学科における学習相談の例・相談件数 (2/2)

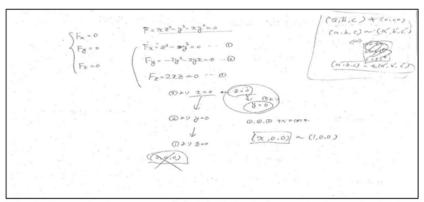


図3 学生に解説した用紙3

表1 オフィスアワーの記録(5月~2月, 記録の残っている教員の質問受付のみ。)

	5 月	6 月	7月	9月	10 月	11月	12 月	1月	2 月
1年	1	2		10	9	8	5	4	11
2 年	1	2	1	7		1	4	2	4
3 年	9			1	4	2	6		7
4 年	3	5		1	6	1		1	2
5 年	16	29	20	5					
専攻科				4					

4. 評価方法

学生の教員来訪状況により, 判断する。

5. 成果

学生の質問に来る回数が, 多くなってきている。

6. これからの取り組み

オフィスアワーに質問に来る学生については、頻度等の資料を残していく。

(出典 平成18年度年報 30頁)

数学科の微分積分学補習(1/2)

微分積分学における学力差の解消(数学科)

1. 目的

専門科目の基礎となる学力の定着および向上を図る。

2. 平成18年度の目標

2年生微分積分学において、きめ細かく対応することにより、学力差をできるだけ解消する。

3. 手段

- ① 1) α (発展) クラス, 2) β (教科書中心) クラス, 3) γ (基礎学力重視) のクラスを設置 する。
- ②学生の希望をもとにしてクラス分けを行う。
- ③小テストを適宜実施する。
- ④年度途中に1回,学生の学力を見直すことにより,クラス替えを実施する。
- ⑤夏期・冬季に休暇課題を与える。
- ⑤補習を毎週1回,放課後に実施する。数学科の教員は他の校務がない限り補習に参加し、学生に対応する。(H18年度は、毎火曜日午後4時~5時30分、第5演習室にて実施。)

数学科の微分積分学補習(2/2)

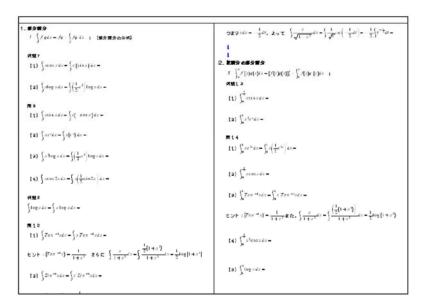


図2 補習教材プリント

7月 5月 6月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 2年 7 28 13 3 12 3 5 8 その他 25 1 1 14 0 1 8 0 0

表 1 補習参加者

4. 評価方法

定期テストの結果で判断する。

5. 成果

進度に応じた学習指導を行なうことができ、能力の定着に成果があった。

表2 学年末考査における各クラスの平均

前期クラス分け	αクラス(40人)	βクラス(89人)	γクラス(27人)
1 年数 I 年末平均	84. 240 (1. 162)	72.527 (1.000)	72.588 (1.005)
2年微分積分学年末	79.077 (1.1457)	69.023 (1.000)	69.688 (1.0096)

(注) 括弧内は、βクラス平均を1としたときの各クラス平均の割合

6. これからの取り組み

習熟度別学習および補習の内容について、さらに検討を加える。

(出典 平成 18 年度年報 28 頁)

土曜フリースクール

別紙様式2

平成16年度 学生活動活性化プロジェクト報告書

申請者又は	代表者	野中 清孝	即	学	科 長	國井(洋臣	印证	
題	目	情報工学科土曜	フリースクー	ルの実	拖	78			
担者氏	名	所属学科	瞅	名		分	担		
情報工学科表	大員全員	情報工学科 教授・助教授・ 土曜1日あたり教員2人または 講師							
Ħ	d/S	土曜フリースクー 日に学科棟を開放 勉学意識の向上、 よるグループ学 促進などを図る。	枚するもので (2)落ちこ 日・創造的研	あるが、 まれ学生 究活動の	これにより に対するき の促進。(4)	、(1)学生の め細かな学	自主的 習指導、	、積極的な (3)学生に	
内容及び成	果	(実施方法> 土曜フリースク 科様を開放する 対象学年 日時 使用する実験 教員担当者:	ものであり。 :情報 : 何報 室 :情報 現在、変形	、下記の 工学科 土曜日 工学科技 所等 労働制の	の計画で実施 3年,44 10時~1 株の共同研究 0もと、各級	した。 平,5年 6時 ※ 卒研室	, 工学) に1回:	実験を行 土曜勤務	
		(8:30~17:30)を行っているが、この土曜勤務に当たっている 教員をフリースクールの担当者とした。 実施期間 : 平成 16 年度夏休み明けから、年度末まで実施した。 平成 17 年度も継続して実施している。 <実施状況>							
			は別紙)。学生 日あたり平は 酸に7人、当 った。武職 ・土曜フリー ころ、次の。 は試験勉強 ・ 曜スクール	生の利用 お客相談 かにはケース たったなめ はなのは ななめ はなのは ななめ はなのは なる。 なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なるのは なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。 なる。	状況は、記 であった。 ・補講に5 習相談、研 ルは学生に 見もあった。 くの学生が い 先生がいて	保に残ってV 内訳は、卒 4人、プロコ 紀発妻会の 既ね好評であ ので、今後を 利用する傾!	いるもの。 親かなが、 ないにながしる から から から から から から から かった から かった かった かった かった かった かった かった かった かった かった	では、延 準卒業に 11人、注 実研究がき 学生に改け いきたい。 ので、試験	

※ 写真5~6枚をA4サイズ1枚にまとめ、簡単な説明を付けて提出してください。

(出典 学生活動活性化プロジェクト報告書)

院間電波高専 情報工学科 平成16年9月1日

情報工学科土曜フリースクールの実施

9月より、情報棟を開放し、土曜フリースクールを実施します。

土曜フリースクールとは、学生が主体的に学ぶ機会を充実させるため、土曜日に学科棟を開放するものです。このフリースクールを利用して、学生はフリースクール担当教員の指導のもと、卒業研究を行ったり、遅れている学生実験を行うことができます。また、授業でわからなかったことは、フリースクールの担当教員から教えてもらうこともできます。さらに、このフリースクールの時間にクラスの仲間と登校してグループでの学習活

動やプロコン等の創造的学習活動にも利用できます。

対象学年 : 情報工学科 3年,4年,5年

日時 : 每週土曜日 10時~16時

使用可能な部屋 : 情報工学料棟

卒研室、工学実験を行う場所等

その他

・担当教員は共同研究室にいます。土曜フリースクールに来た字 生は担当教員にあらかじめ学習予定を連絡してください。

・ゲループ学習の部屋は担当教員に相談してください。

月日	担当教員	月日	担当教員	月日	担当教員
9月 4日	野中、松下	10月16日	金澤、高城	11月27日	歸目 、河田j
9月11日	今城、河田	10月23日	替目	12月 4日	金澤
9月18日	高城 、國井	10月30日	<休み>	12月11日	宫武
9月25日	國井、河田」	11月 6日	松下、野中	12月18日	河田s
10月 2日	河田s	11月13日	今城	12月25日	<休み>
10月 9日	<休み>	11月20日	國井		

(出典 情報工学科)

平成18年3月15日

平成17年度 情報工学科土曜フリースクールの実施

担当者 氏名	情報工学科教員 全員	担当割合	土曜1日あたり教員2人または1人
目 的	日に学科棟を開放 勉学意識の向上、(するものであるが, 2)落ちこぼれ学生 ・創造的研究活動の	学生の勉学環境の改善策の一環として土曜 これにより、(1)学生の自主的、積極的な に対するきめ細かな学習指導、(3)学生に D促進、(4)教員と学生との交流、親密性の 5。
内容及び成果	科棟を開放するも 対象等年 日時 使用する実験室 教員担当者:現 後 教員担当者:現 実施状ースクース と実施状ースクース を実施では、、 変 を 、 変 を 、 変 を 、 変 を 、 変 を 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の で 、 の に の に の に の に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い い に い に い い に い い に い に い に い い に い に い に い ら い に い に	のであり、下記の語・情報のであり、下記の語・情報の工学・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語・日本語	3年,4年,5年 10時~16時 の共同研究室,卒研室,工学実験を行 もと、各教員は2ヶ月に1回土曜勤務 いるが、この土曜勤務に当たっている ルの担当者とした。

(出典 情報工学科)

電子制御工学科の土曜施設開放

土曜施設開放

平成19年度は、中間試験や期末試験の直前と期間中の土曜日に、卒業研究発表の直前の日曜日に、在校生のための施設開放を以下のような予定で行います。学習相談などに利用してください。 なお、クラブ<mark>顧問等の関係から、クラブの指導を行っている場合もありますので、前日までに教員に連絡してください。</mark>

d) 月日	行事	担当教員	月日	行事	担当教員
	H19/04/07		No.	H19/10/06		100
	H19/04/14			H19/10/13		
	H19/04/21			H19/10/20		
	H19/04/28			H19/10/27	電波祭	
	H19/05/05	こどもの日		H19/11/03	文化の日	200
	H19/05/12	* 0	, 0	H19/11/10	保護者懇談会	· ·
	H19/05/19	5	- CP	H19/11/17	- BD	101
	H19/05/26	127.2	山本,村上,德永,奥山,雛元	H19/11/24	7	2.2
	H19/06/02	中間試験	田嶋,福間,一色,白石,清水	H19/12/01	C'O.	山本, 村上, 徳永, 奥山, 雛元
	H19/06/09	-120.	4129.	H19/12/08	中間試験	田嶋,福間,一色,白石,清水
	H19/06/16		32	H19/12/15	32	
	H19/06/23			H19/12/22		
	H19/06/30			H19/12/29	冬季休業	
	H19/07/07			H20/01/05	冬季休業	
	H19/07/14	高専大会	Des.	H20/01/12	De-	20
	H19/07/21	保護者懇談会	***	H20/01/19	-	***
	H19/07/28	夏季休業	10. 10	H20/01/26	400	10. TEL
3	H19/08/04	夏季休業	13/12	H20/02/02		13/12
	H19/08/11	夏季休業	,0	H20/02/09		田嶋,福間,一色,白石,清水
	H19/08/18	夏季休業	2129	H20/02/16	後期期末試験	山本,村上,德永,奥山,雛元
	H19/08/25	夏季休業	R	H20/02/23		12.
	H19/09/01			H20/03/01		
	H19/09/08		田嶋,福間,一色,白石,清水	H20/03/02	日曜	全員
	H19/09/15	前期期末試験	山本,村上,德永,奥山,雛元	H20/03/08		
	H19/09/22	30		H20/03/15	臨時休業	nt.
	H19/09/29	*		H20/03/22	春季休業	, C
-	JE	1.05	767 .C	H20/03/29	春季休業	101
		1.7	1) 43			37

(出典 電子制御工学科ホームページ http://www.dc.takuma-ct.ac.jp/Japanese/Saturday/)

(分析結果とその根拠理由)

学習を進める上でのガイダンスは学習に支障のないよう入学当初から行われている。

学生が自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制は様々な形式で整備されており、十分に機能している。

観点7-1-②: 自主的学習環境(例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。)及び 厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、 効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には進路指導資料室兼用の自習室が用意され、蔵書検索用のPCが備えられている(資料 $7-1-2-1\sim4$)。

開館時間の延長や学内限定サービスも充実している(資料7-1-2-5,6)。

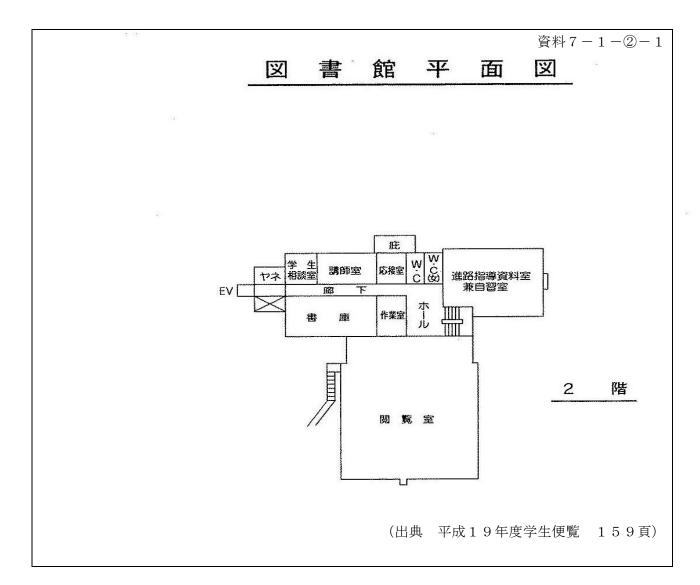
学生用図書も充実しており、貸出冊数は全国高専の中でも上位である(資料7-1-②-7)。

情報処理センターには4つの演習室(資料 $7-1-2-8\sim9$)があり、校内LANに接続されたPC が配備されていてe-Learningも導入されている(資料7-1-2-10)。第一演習室は放課後にも学生に開放されている(資料7-1-2-11)。

マルチメディア・ラーニング・ラボは必要に応じて放課後の利用に対応している(資料 7-1-2-1 13)。

学生談話室は自習や福利厚生に利用されている(資料7-1-2-14)。

福利センターには売店、学生食堂、学生会事務局、談話室、和室、オーディオルームなどがあり、学生会活動やクラブ活動などで利用されている(資料 $7-1-2-15\sim17$)。



図書館の整備(1/2)

自習室の整備 (図書館)

1. 目的

- (1) 教育および研究のための資料や文献の充実と有効利用
- (2) 自主的な学習を支援する環境の整備
- (3) 地域社会への図書館の開放

2. 平成17年度の目標

自習室を整備する。

3. 手段

- (1) 旧学生課室を改装し、自習室として整備する。
- (2) 机及びパーティションを移動することにより、多目的に利用できるようにする。

4. 評価方法

新たに整備された自習室により利用可能面積が97㎡増加し、利用可能人数は個別学習時には50名,グループ学習時には48名増加した。図1は個別学習時のレイアウトである。

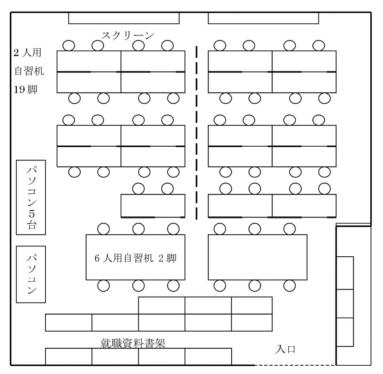


図1 個別学習時のレイアウト

図書館の整備(2/2)

授業やグループ学習時には図2に示すように机や椅子の配置を変更する。

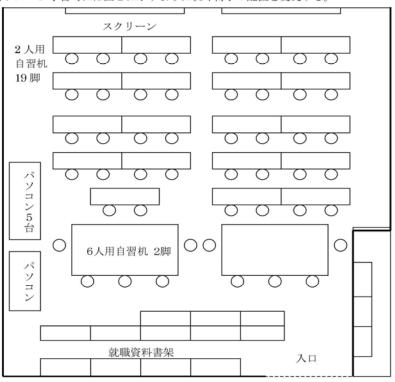


図2 授業, グループ学習時のレイアウト

5. 成果

自主学習のために利用可能な面積,人数が増える。表 1 は自習室完成後の利用状況を月別に集計したものである。ただし,利用者数は 17 時, 18 時, 19 時各時刻における人数である。利用者数は多くないが試験期には増加傾向にある。

	17	時	18	時	19	時
	閲覧室	学習室	閲覧室	学習室	閲覧室	学習室
9月	403	34	275	21	130	3
10月	280	19	153	3	78	3
11月	412	52	271	45	148	10
12月	391	61	266	31	155	24
1月	298	46	194	17	132	11
2月	379	61	315	39	174	20
	2163	273	1474	156	817	71

表1 自習室完成後の利用状況

6. これからの取り組み

- ・ 自習室整備の周知を徹底させる。
- プロジェクターを2台設置し、パソコン、ビデオ、インターネット等連携して利用できるように整備する。
- ・ グループ学習への利用を促進する。

(出典 平成17年度年報 93頁)

図 書 館 Library

図書館は専門書のほか一般図書、雑誌、CD、DVD等を多数所蔵し、学生の学習や教職員の学術研究等に利用されている。また、一般市民にも開放している。自習室を整備し、利用者に個別学習、グループ学習、各種発表の場を提供している。

The library has a large number of books of general interests, magazines, CDs, DVDs in addition to technical books, which are available for students' learning and faculty's academic pursuits. The library is open to the general public. The library is provided with a study hall and gives its users opportunities for individual learning, group learning and a variety of presentations.

○蔵書数 State of Book Stock

平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

区 分 Classification	総 記 General Works	哲 学 Philosophy	歷 史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	技 術 Technology	產 業 Industry	芸 術 Art	言 語 Language	文 学 Literature	## Total
冊 数 Number of Books	8,361	3,202	6,312	6,739	16,525	20,794	1,245	3,581	5,097	15,170	87,026
%	9.6	3.7	7.3	7.7	19.0	23.9	1.4	4.1	5.9	17.4	100

◎利用状況(館外貸出年間冊数) State of Consultation 平成18年4月~平成19年3月 Apr. 2006~Mar. 2007

	総 記 General Works			社会科学 Social Science			產 業 Industry	芸 術 Art	言 語 Language	文 学 Literature	雜 誌 Magazines	E† Total
删 数 Number of Books	1,379	214	132	212	1,193	3,192	12	534	526	2,893	622	10,909
%	12.7	2.0	1.2	1.9	10.9	29.3	0.1	4.9	4.8	26.5	5.7	100



図書館



検索機 Retrieval System



雑誌コーナー Room for Magazines



AVコーナー Audiovisuals

38 • Takuma National College of Technology

(出典 平成19年度学校要覧 38頁)

詫間電波工業高等専門学校図書館規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第15条第2項の規定に基づき、図書館について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 図書館は、図書及びその他の図書資料(以下「図書」という。)を収集、管理して、教職員・学生及び地域住民の利用に供し、その教育及び研究並びに教養の向上に資することを目的とする。

(組織)

第3条 図書館に図書館長を置く。

(任命)

第4条 図書館長は、校長が任命する。

(任期)

第5条 図書館長の任期は1年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(任務)

第6条 図書館長は、図書館業務を掌理する。

(委員会)

- 第7条 図書館の円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校図書・紀要委員会(以下「委員会」という。) を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第8条 図書館の利用に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第9条 図書館資料を利用する者の閲覧に供するため、図書館資料の目録及びこの規程を常時閲覧室内に備え付けるものとする。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

詫間電波工業高等専門学校図書館利用細則

(趣旨)

第1条 この細則は、詫間電波工業高等専門学校図書館規程第8条の規定に基づき図書館の利用 について必要な事項を定めるものとする。

(利用者)

- 第2条 図書館を利用できる者は、次に掲げる者とする。
 - 一 本校の教職員
 - 二 本校の学生
 - 三 図書館の利用を申し出た一般の利用者

(開館日

- 第3条 図書館は、次に掲げる日を除き開館する。ただし、必要に応じ臨時に開館又は閉館をすることがある。
 - 一 日曜日
 - 二 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
 - 三 12月27日から翌年の1月5日まで
 - 四 休業期間中の土曜日

(開館時間)

- 第4条 図書館の開館時間は、次に掲げるとおりとする。ただし、必要により開館の時間を変更 することがある。
 - 一 月曜日から金曜日 8時30分から20時まで
 - 二 土曜日 10時から16時30分まで

(利用方法)

- 第5条 図書館の利用方法は、次に掲げるとおりとする。
 - 一 館内閲覧
 - 二 館内視聴
 - 三 館外帯出

(館内閲覧及び視聴)

- 第6条 閲覧室に備付けの図書及び図書館資料(以下「図書」という。)は、自由に閲覧又は視聴することができる。
- 2 書庫に収容している図書を閲覧しようとするときは、係員に申し出るものとする。 (閲覧場所)
- 第7条 閲覧図書は、閲覧室外に持出してはならない。

(館外帯出)

- 第8条 図書の帯出は、所定の手続きを経て行うことができる。 ただし、次に掲げる図書については、帯出できないこととする。
 - 一 辞書及び百科事典等の参考図書
 - 二 貴重図書及び特殊図書
 - 三 新着雑誌
 - 四 その他特に館長が指定した図書

(帯出の種類、帯出冊数及び帯出期間)

第9条 館外に帯出できる図書の帯出の種類、帯出冊数及び帯出期間は次のとおりとする。

(出典 本校グループウェア規程集)

図書館ホームページ

B

新 着 案 内

最近3ヶ月間に受け入れた図書をみることができます

書検索

図書・雑誌・CDについて検索できます

●研究紀要

目次と本文を見ることができます

- 図書館だより「電書波図」
- 図書館だよりがホームページになりました

•リンク集

- 図書の検索(他機関)
- 雑誌の検索(他機関)
- 外国雑誌のアブストラクト・データベース(約10,000誌・函館高専提供)
 国内雑誌(目次)へのリンク集(名古屋大学提供)
 CD・DVD検索(他機関)

- 日本の学会誌 1 (無料フルテキスト約50誌・函館高専提供)
 日本の学会誌 2 (J-STAGE 無料フルテキスト約90誌)
 日本のオンライン文庫本(無料フルテキスト)
 香川県内公共図書館横断検索
 香川県立図書館蔵書検索

- Webcat Plus (国立情報学研究所-通称NII-提供の図書検索システム)
- Google(検索エンジン)

学内限定サービス

電子ジャーナルと文献情報データベースです(教員・学生用) 文献複写依頼はKANONから申し込めます(教員)



詫間高専ホームページに戻る

(出典 本校図書館ホームページ

http://denshobato.da.takuma - ct.ac.jp/users/tosyo/index.html)

次业17	1	\bigcirc	7
省科 7	$ ^{\mid}$	-(2)-	7

図書館利用状況(1/2)

		-			_									FILE - 10				#11	18 B	41.145
		図書	館名			奉仕対		唯	員非常	政告景数	(十冊)	図解架書数千 (十 (十 (十 (十 (1)))	交入	図書册		所藏雜	誌種数	受入		館外 入館者
						総数	うち 学生	専従 (兼務)	動· 臨時	厳書 骨数	うち 洋書	(平冊)	受入計	洋書	会長人	所蔵計	う 外国語	受入計	うち 外国 語	(千人)
国立	高等	専門学	校図	書館						-		-								- 7
面	館	I	棄	高	専	1,299	1,125	2(1)	1.2	68	5	43	424	17	407	448	77	356	25	63
苫	-	牧口		36	專	1,203	1,032	2(1)	2.0	112	11	87	771	186	391	1,315	309	450	45	18
剣	26	I	業	高	専	1,193	1,026	3(1)	1.3	92	8	64	1,105		1,070	1,169	262	423	16	65
旭	Л	I	業	高	専	992	849	3(1)	1.0	90	10	90	2, 139		1,716	593	151	455	176	52
Л	戸	I	柔	高	専	1,083	898	2	1.5	67	8	49	779	48	773	262	80	95	12	47
-	国	I	棄	高	専	1,053	877	2(1)	2.0	70	8	49	1,118	156	1,112	741	20	324	30	26
g	城	I	業	高	専	1,291	1,081	2(1)	0.8	88	10	88	2,189	46	1,192	1,243	319	153	26	89
仙	台灣			影高	專	1,009	850	2(1)	_	69	5	64	2,681		2,468	484	24	484	24	40
秋	H	I	来	高	專	1,041	876	2(1)	0.5	82	13	28	1,348		1,088	770	78	379	24	50
剱	周	I	棄	高	車	1.017	849	3(1)		74	9		611	. 8	484	368	.110	202	14	5
福	鳥	I	來	高	專	1,226	1,068	2	6.0	80	8	70	1,327	91	1,327	253	141	159	20-	4
茨	城	I	業	765	専	1,303	1, 114	2	4.0	76	8	72	1,500	366	927	189	94	170	15	6
	山工業				-	1,270	1,064	2(1)	3.0	74	4	57	1,107	26	564	98	11	335	11	
群山	馬	Τ.	*	高	専	1,283	1.088	2(1)	2.2	76	9	51	2,138		1.845	1,071	250	215	29	9
木	更	津 :	こ 楽	海	專	1,308	1,128	2(1)	3.0	72	8	62	1,404	75	964	277	9	333	9	. 3
東	京	I	柔	高	專	1,263	1,072	2(1)	2.0	97	14	97		1.379		916	240	150	. 8	. 6
Ķ	岡	I	楽	高	専	1,366	1,154	2(1)	6.0	106	22	106	1,584		1,547	1,689	555	171	16	5
富	Щ	I	棄	高	専	991	835	2	4.0	73	. 11	_	775	6	403	_		270	7	3
富石	III III	商工	船業	高高	専	1,081 1,252	914 1,077	1(4) 2(1)	2.0	73 74	5 10	73 52	1,298 2,839		1,287	830 1,457	104 305	372 484	17 25	2 6
4.1	/41	-1-	**	bd	49	1,606	1,077	2(1)	1.9	/4	10	34	2,000	120	1,700	1,457	303	404	20	0
福	#	I	楽	高	専	1,246	1.053	1(3)	2.1	78	9	69	778	277	734		316	410	17	5
長	97	I	來	高	專	1,262	1,065	2(1)	1.5	75	10	37	289	12	134	382		192	27	6
岐沼	阜油	エ	楽	高高	ā	1,283	1.081	2(5)	2.0	73	11	30 74	2,637	927	845		95	200	2	4
费	津田	İ	棄	高	自命	1,291	1,096	2(1)	1.8	74 72	16 12	26	259 315	115	119 297			282 492	49 18	3
						-,	-,	-, -,											,	
鈴	鹿	I	棄	高	専	1,346	1, 158	2(1)		98	14	52	2,594		2,150		_	314	19	8
島舞	10	施工	船業	高高	専	798 1,036	674	1(1)		77	3 7	. 66	752	7	731			405	18	4
明	石	Ï	業	高	専	1,068	887 888	2(1)	1.5 2.3	80 109	12	37	847 1,162	25 32	798 998			238 194	13 15	1 5
77 奈	良	I	業	高	車	1,320	1,120	3	1.2		8	60	1,977		1,876			153	16	. 8
和水	歌		I #		専	1,033	881	2(1)			11	75	1,296	34			-	132	24	2
米松	子江	I	菜	高高	専専	1,279	1,077	2(1)			5	64	1, 297 993		1,157			111	16	4
排排	山	İ	楽	高	專	1,315	1,140 896	2(1)			5	53	172	9 11				216 92	. 6	6
枫	I		集	Ä	専	1,059	898	2(1)			9	28	1,456		1,295			544	60	2
	**	101	86		-															
広字	為部	商工	船業	高高	専専	733 1, 285	602 1,096	2(1)		90 101	5 12	42 65	1, 184 2, 526		2,386		450	272 350	17 16	
ナ大	鳥	商	船	高	市	809	670	2(1)			3	03	713					105	4	
他	Ili			高	専	874			9.0			29								2
阿	W		棄	高	專	996			1.4						504					
×	\$5.	I	100	phr	專	1,022	855	1/ 17	2.5	85	8	41	1,447	90*	1 905		100	107	11	
	間								1.2						1,397					
新		浜							1.0						539					
弓		商			專				1.8				1,583		1,367					
高		I			専					79			1.500		1,463					
,	ģn.	All						40.00					=							
久岩		米 T				1,327	1,144		7.0						489					
	795	and the	983	\$40	- 19	4,400	4,071	61.2	1.9	55	. 5	- 90	- ರಚಿ	- 21	873	3 534	• 53	436	25	

資料	7	_	1	_	(2)	_	7

図書館利用状況(2/2)

個人	、貸出	文献複写	年間	童書		相互協	力業務			決算額(千	円)		在籍			
貸出数(千点)	貸出数 学生 (千点)	枚数	開館	参受 受 付件 数	図書 谷設	貨債 算義	文献 拌級		図書館 費総額	资料费	うち図書	うち新 関雑誌	学生		付記欄	
7	6	0.0	262	_	0	3	10	213	2,433	1,861	1,350		1, 125			
. 8	8	0	272	_	0	0	2	53	16, 346	12,976	6,460		1,032			
10	9	0	293	_	2	3	8	110	3,901	4,803	1,724	1,275		臨資1,804		
8 11	7 10	0	272 288	_	2	10 2	3	146 90	18, 192 3, 381	15,752 1,828	.7,822 724	5, 612 956	. 849 898			
		0	979						7.000		0.050					
8 11	8	0	272	_		cc	74	162	7,363	6,067	2,650	3,706	877			
7	6	0.0	243	45	6	66 14	74	163 104	10, 233	9, 213	5,796	3, 192	1,081			
7	6	0.0	243	45	3	9	117	213	11,512 7,795	10,816	5,669	4,416	849			
10	9	0.6	275	250	0	4	0	118	8,828	4, 211 7, 514	3, 125 2, 462	580 4, 489	876 849			
8	7		222	26		.,		208	0 199	0 176	4 400	2 700	1 060			
8	7	0	232	26 5	0 14	11 10	30	298 93	9, 122 6, 130	8, 176 4, 697	4,408		1.068	臨資879		
8	7	_	265	-	0	3	6	55	10,818		1.448			ME 30(8/9		
12	11	0.5	264	0	15	38	189	425	11, 250	10, 784 10, 203	3,639 6,130		1,062			
14	11	1.5	257	-	0	0	0	322	2,718	1,678	1,009		1,128			
13	12	1.0	249	249	7	8	48	345	5, 207	4,831	2, 445	905	1 079			
14	13	0	253	250	0	13	16	520	8, 126	5, 231	2,006	1,222	1,072			
6	5	1.3	276	5	7	3	190	68	6,320	4,769	1.859	2,622	835			
5	4	0.0	273	72	13	150	29	641	5,915	3,008	2, 188	820	912			
10	10	1.8	256	250	19	43	132	113	6,352	4,247	3, 155		1,077			
7	6	0.0	262	_	0	0	0	203	9,726	8, 292	2,730	3.035	1,053			
- 6	5	0	276	_	0	- 44	2	297	5, 102	2,854	1,080		1,062			
7	6	9.9	281	_	ó	4	8	172	4,598	2,070	1, 113		1,081			
15	6	0.0	264	0	0	0	0	253	10,898	9,614	3,592		1,095			
28	23	0	233	-	0	26	0	181	10,812	9,323	4,419		1,184			
13	12	0.5	272	_	0-	4	0	97	5, 854	4,662	3,269	1.070	1, 158			
9	8	0.0	278	0	1.0	11	1	26	4,603	3, 114	1,758	884	674			
6	6	0	250	-	. 1	7	3	112	6,333	6,253	2,515	2,807	887	臨資642		
8	8		286		4	193	27	244	6,791	6,791	3,713	3,078	887			
18	-		280	-	0	5	2	377	14,775	11,472	6,301	4, 133	1,113			
9	7	0	270		1	19	0	166	4,997	4,370	1,161	1,926	881	臨資1,000		
11	10	28.4	230		0	42	0	164	4,296	1,898	1,481	364	1,077			
5	. 5	0	244		0	2	5	143	2,663	2,060	1,114	317	1,140	臨資471		
5	5		268			26		92	2,772	2,448	1,078	693		臨資676		
6	. 6	0.0	252	150	0	1	0	87	10, 148	8, 341	4,196	3,506	898			
3		-	329	_	0	9	0	67	8,569	8,569	3,240	3,978	602			
11	10	0	344	25	1	60	99	283	12,096	9,983	6,858	2,643	1,096			
3		0	264		5	22	3	96	3, 336	2,361	1,806	496	670			
4		0.6	266 275	_	30	2	116 22	127 113	10,744 1,906	9,460	3, 514 498	5, 522 467	693 848			
					30				2, 500	1,000	400	407	090			
13 18		0	279	8		13	20	115	8,551	6,350	3,346	1,881	855			
7		1.0	281 290	- 0	0	8	0	40 238	7,000 10,154	5, 297	3,544	928	1 053	_		
4		1.0	290	0	2	5	2	111	3,939	7, 433 3, 939	5, 164	1,805 972	1,053			
4			270	48	1	9	0	279	1,409	1,834	2,001 849	560		施資425		
4	4	-	281	_	0	0		129	10 979	9 077	9 400	9 00**	1.144			
7		_	274	_	7	7	0	133	10,273	8,077	3,423		1, 144			
,			214					400	5,492	2,683	1,063	4.229	1,071			

(出典 社団法人 日本図書館協会「日本の図書館 統計と名簿 2006」)

詫間電波工業高等専門学校情報処理センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第15条第2項の規定に基づき、 情報処理センターについて必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 情報処理センターは、情報処理教育の円滑な実施のため、次に掲げる事項を行うことを 目的とする。
 - 一 情報処理教育に関すること
 - 二 計算機システムの利用に関すること
 - 三 計算機システムの操作、保守及び管理に関すること
 - 四 その他必要と認められること

(組織)

- 第3条 情報処理センターに次の職員を置く。
 - 一 センター長
 - 二 副センター長
 - 三 センター員 若干名

(任命)

- 第4条 センター長及び副センター長は、校長が任命する。
- 2 センター員は、センター長の推薦に基づき、校長が任命する。

(任期)

第5条 センター長及び副センター長の任期は2年とし、センター員の任期は1年とし、それぞれ再任を妨げない。

ただし, 欠員が生じた場合の後任者の任期は, 前任者の残任期間とする。

(任務)

- 第6条 センター長は、情報処理センター業務を掌理する。
- 2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職務を行う。
- 3 センター員は、情報処理センター業務の遂行当たる。

(委員会)

- 第7条 情報処理センターの円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校情報処理センター委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第8条 情報処理センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附則

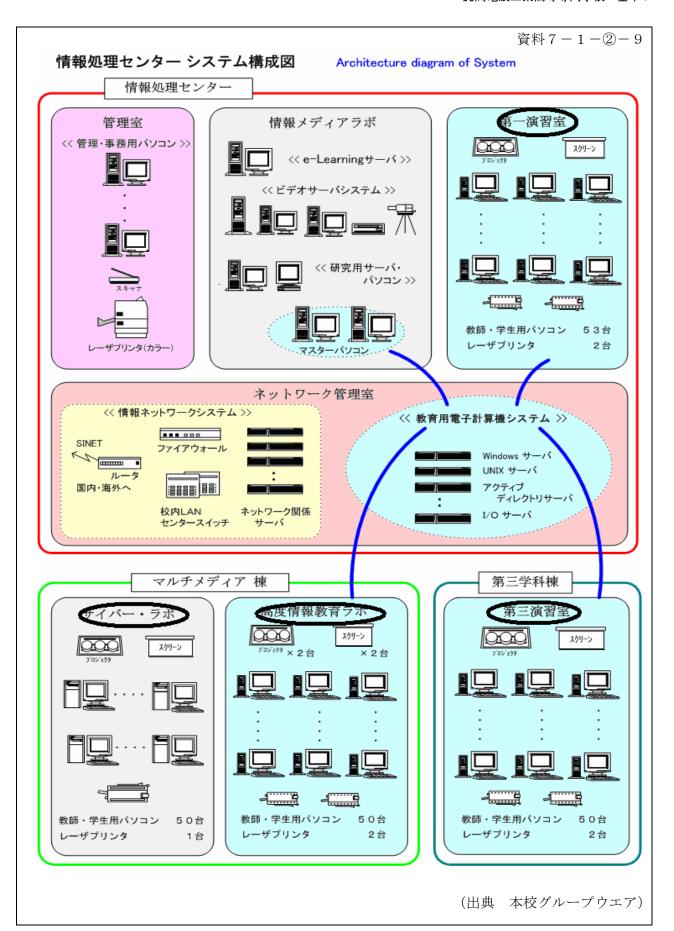
この規程は、平成16年4月1日から施行する。

断目

この規程は、平成17年4月1日から施行する。 附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウエア規程集)



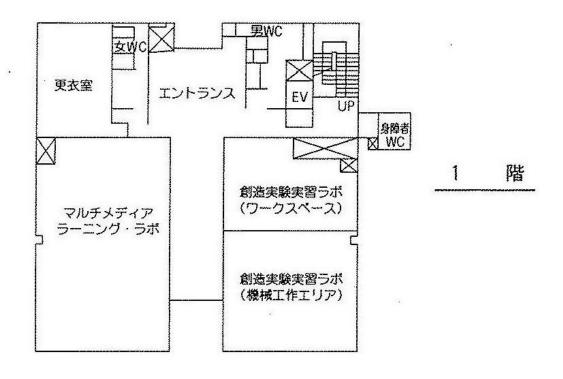


第一演習室放課後利用状況(1~2月)

月	日	人数	月	日	人数
1	17	31	2	1	12
1	18	26	2	2	15
1	19	28	2	5	15
1	22	40	2	6	26
1	23	33	2	7	48
1	24	14	2	8	36
1	25	16	2	9	35
1	26	13	2	13	43
1	29	30	2	14	45
1	30	26			
1	31	26			

(出典 情報処理センター)

マルチメディア棟平面図



(出典 平成19年度学生便覧 157頁)

資料7-1-2-13

マルチメディアラーニング・ラボ放課後利用状況

目的:英語の補習 内容:第一回 時制

第二回 態

第三回 不定詞

第四回 動名詞

第五回 分詞

第六回 助動詞

指導教員:英語科教員

期間:12月18日~1月12日までの内、6回

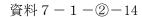
時間:16時15分~17時15分

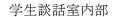
対象学年: 1年生

参加延べ人数: 112人

(出典 英語科)

詫間電波工業高等専門学校 基準7



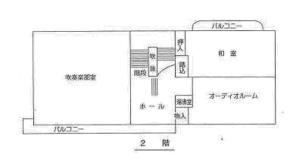


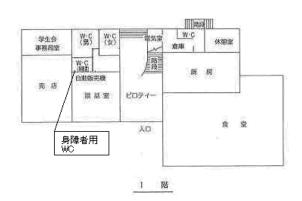


(出典 学生課学生支援係)

資料7-1-2-15

福利センター平面図





(出典 学生課学生支援係)

詫問電波工業高等専門学校福利センター使用細則

(趣旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校福利センター運営規程第7条に基づくセンターの使用については、この細則の定めるところによる。

(使用の範囲と制限)

- 第2条 センターのうち、研修室及びオーデイオルームは、次の各号に掲げる場合に使用できる ものとする。
 - 一 学生会及びクラブの活動
 - 二 学生又は教職員の研修及び集会
 - 三 その他校長が許可した場合

(使用時間)

- 第3条 センターの使用時間は、次のとおりとする。ただし、校長が特に認めた場合は、この限りでない。
 - 一 第1研修室,第2研修室,第3研修室及びオーデイオルーム 9時から19時まで
 - 二壳店

平日	平日の前の休日
10:30~20:00	18:00~20:00

三 食 堂

平日のみ								
10:30~13:30								

四 談話室 終 日

(休業日)

- 第4条 センターの休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日であっても校長が特に必要であると認めた場合は、この限りでない。
 - 一 春季休業 4月1日から4月7日まで
 - 二 夏季休業 7月21日から8月31日まで
 - 三 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで
 - 四 学年末休業 3月20日から3月31日まで
- 2 前項に規定する休業日のほか臨時の休業日は、校長がその都度定める。 (使用の手続)
- 第5条 センターのうち、第3条第1号の各室を使用する者は、代表者が、使用前日までに「福利センター使用許可願」を学生課学生支援係に提出し、許可を受けなければならない。
- 2 「福利センター使用許可願」の記載事項に変更が生じた場合は、速やかに届け出なければな らない。

(鍵の取扱い)

- 第6条 センターの鍵は、学生課学生支援係において保管し、受渡しするものとする。ただし、 勤務時間外における鍵の受渡しについては、外部委託の警備員が行うものとする。 (使用上の注意)
- 第7条 センターの使用に当たっては、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - 一 施設,設備及び備品は大切に取扱うとともに,許可なく移動させないこと。
 - 二 火気の取扱いについては十分に注意し、喫煙は指定の場所で行うこと。

(出典 平成19年度学生便覧 106頁)

福利センター利用状況(10月~12月) (各室鍵貸し出し回数)

	10月	11月	12月
吹奏楽部室	35	33	21
オーディオルーム	30	35	25
和室	18	15	2
学生会事務局	4	4	7
その他	0	0	0

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

図書館は自習環境の整備や、利用・貸出状況から効果的に利用されていることがわかる。情報処理 センターは放課後の利用が多く、マルチメディア教室も効果的に利用されている。学生談話室や福利 センターも整備されており、福利厚生面も充実している。

観点7-1-③: 学習支援に関する学生のニーズ(例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。)が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

校長・3主事と学生代表である学生会役員との懇談会が毎年開催され、学生からの意見を取り入れるようになっている(資料7-1-3-1)。

上記懇談会にて提案された意見に学生会意見箱の設置要請があり、検討の結果図書館センターロビーおよび講義棟学生玄関に設置された(資料7-1-3-2)。意見箱は学生会の所有であるので、直接学校に内容が公表されることはない。ただし、意見自体は必要に応じて上記懇談会や学生主事サイド、学生総会などを通じて検討されている(資料7-1-3-3, 4)。

学生からの要望は、各クラスの中央委員を通じて中央委員会、学生総会へと上げられる(資料 7-1-3-4、 5、 資料 5-4-2-1)。学生総会での決議事項は報告書(議事録)により学校側に伝えられる。

後援会の支部総会においてアンケートを行っており、これらの意見を教員会議の資料として教員全員に配布し、校長より改善の指示を行っている(資料7-1-3-6)。

学生との懇談会実施記録(1/2)

19.3.31 作成

旦	実施日時	出席者	内容
1	平成16年	学生会役員	施設・設備関係の要望9件
	2月17日(火)	学生会長外4名	講義・学習関係の要望5件
	16:15~18:15	竹内校長	通学・学生生活・その他関係の要望7件
		高崎学生課長	○校長からの要望等 2 件
2	平成16年	学生会役員	施設・設備関係の要望5件
	7月12日(月)	学生会長外6名	講義・学習・進路関係の要望4件
	16:20~18:55	竹内校長	通学・学生生活関係の要望 5 件
		高崎学生課長	食堂・売店関係の要望8件
			その他 学生会検討事項1件外処理済1件
3	平成17年	学生会役員	施設・設備関係の要望10件
	2月18日(金)	学生会長外5名	通学・学生生活関係の要望10件
	16:20~18:30	竹内校長	食堂・売店関係の要望4件
		明渡事務部長	その他 学校側から要望・照会事項
		高崎学生課長	意見箱の設置について
			学生と食堂関係者との懇談会について
			制服について
4	平成17年	学生会役員	施設・設備関係の要望11件
	10月17日(月)	学生会長外5名	学生生活・食堂関係の要望5件、校長からの要望1件
	16:15~18:30	竹内校長	その他の要望、課外活動、研修各1件・授業関係4件
		明渡事務部長	学校側から要望・照会事項
		溝下学生課長	福利センター自販機前の整理整頓について
			授業評価についての改善事項
			その他処理済事項・確認事項
*	懇談会の再検討	学生側に寮委員を追	寮を含めた学生の意見を聞くこと
		加	学校側の代表者に主事を加えることで、より直接的に意見が伝わる
		学校側に3主事を追	ようにすること
		加	
	i .		

			資料7-1-3-1							
	学生との懇談会実施記録(2/2)									
5	平成18年	学生会役員	学生会としての要望							
	6月16日(金)	学生会長外5名	各クラスのロッカーの更新							
	16:15~18:15	男女寮委員長	修学旅行の実施検討について							
		後藤・高橋	その他							
		高畑校長	風紀の乱れについて							
		高木教務主事	授業の遅刻について							
		塩田学生主事	校長から							
		河田寮務主事	100分授業について							
		溝下学生課長	学寮の指導体制、施設改修について							
			4 5 時間学修単位について							
			卒業式・入学式の実施場所について							
			※その他確認事項数件							



学生の意見の反映(学生)

1. 目的

学生生活の支援を行う。

2. 平成 17 年度の目標

学生の意見をよりよく迅速に反映するために意見箱を設置する。

3. 手段

・10月より、学生談話室の前、図書館センターロビーの2箇所に学生意見箱を設置した。

4. 評価方法

- ・ 投書された意見を学生係が回収し、ファイルに保存することとした。
- ・ 内容をチェックしたうえで、学生会役員が月1回月末に閲覧することとした。

5. 成果

◇ 意見数

10月の設置から3月23日までの総意見数はのべ12件である。主な内訳を以下に示す。

授業・教員に関すること 6件 設備に関する要望 3件 技術に関すること 1件 その他 2件

◇ 投票場所に関して

談話室前 2件図書館センター 10件と、図書館センターの方が多い。

- ・ 意見の数が意外に少ない(良いこと? PR 不足?)
- 各意見に対して具体的なアクションは起こしていない。
 (少数であるために、取り上げるべきか判断しかねる意見もあるし、 内容が薄く具体的な説明がない場合もある)
- ・ 教員に関する意見は、学生会には見せていない。

6. これからの取り組み

- 設置場所の再検討
- ・ 学生会を通じて再度 PR する。
- ・ 内容にもよるが、意見をどこで取り上げアクションを起こすかを明確にする。
- ・ 何らかの形で目に見える返答を返さないと、意見を投じることがムダになる。

(出典 平成17年度年報 8頁)

平成18年度前期学生総会議事要録

日 時 平成18年5月12日(金) 12:05~12:40

場 所 第2体育館

出席者・学生

・学生会 会 長

·議 長 中央委員長

· 副議長 中央副委員長

·司 会 副 会 長

·会計 会計長

· 監 查 監查委員長

・その他本校学生

議事

(1) 平成17年度学生会決算報告について

会計長より、平成17年度の学生会決算報告がなされ、会計監査長より監査の結果、学生会予算の金額に誤りがないことが報告された。出席者からの異議はなく、採決の結果決算報告は承認された。

- (2) 平成 18 年度学生会予算案について 会計長より、平成 18 年度の学生会予算案の説明がなされた。出席者からの質問はなく、 平成 18 年度学生会予算案が可決された。
- (3) 平成18年度学生会執行部役員の紹介 学生会執行部より、平成18年度学生会執行部役員の紹介がなされた。
- (4) 平成 18 年度行事予定の報告 平成 18 年度行事予定が報告され、採決の結果承認された。
- (5)議題の審議
- 1) 議題1:「教室のロッカーを修理してほしい」 議題を提案した1年4組から、教室のロッカーの破損が酷く、使用できないロッカーが多 くあるため、修理をして欲しいとの説明があった。採決の結果、賛成多数で可決され、学 校への要望として取り上げることとした。
 - 2) 議題2:「長期休暇中の研修旅行の企画」 議題を提案した4年情報から、本校ではいわゆる修学旅行がないため、授業に妨げのない 長期休暇中に研修旅行のようなものができないかと提案があった。出席者からは、4年の 末に会社見学があるので必要ないとの声もあったが、探決の結果、賛成多数で可決され、 学校への要望として取り上げることとした。
 - 3) 議題3:「茶道同好会の部への昇格」 茶道同好会を茶道部として昇格を認めるがどうかが審議され、採決の結果可決された。

以上

(出典 平成 18 年度前期学生総会議事録)

学生会規約

学生総会

- 第13条 学生総会(以下「総会」という。)は、全会員をもって構成し、本会の最高決議機関である。
- 第14条 総会は、会長が招集し、期日・会場・議題の告示は3日以前に行う。ただし、緊急の場合はこの限りでない。
- 第15条 総会は、学期毎に1回開く。ただし、次の場合は臨時に開くことができる。
- (1) 全会員の4分の1以上から要求があったとき
- (2) 中央委員会から要求があったとき
- 第16条 総会には、議長・副議長をおく。
- 2 総会の議長・副議長は、中央委員会の委員長・副委員長があたる。
- 第17条 総会にはかる事項は、次の通りとする。
 - (1) 事業計画の承認
 - (2) 決算報告の承認
 - (3) 予算案の承認
 - (4) 部の新設・廃止の承認
 - (5) 臨時会費の徴収に関する決議
 - (6) その他本会に関する重要事項
- 第18条 議長は、議案の審議に際し、必要と認める資料の提出を求めることができる。

中央委員会

- **第19条** 中央委員会は、総会につぐ決議機関であり、各クラスから2名ずつ選出された委員をもって構成する。
- 第20条 中央委員会の委員の任期は、1学期間とする。
- 第21条 中央委員会は、委員長及び副委員長を互選する。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長をつとめる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときは、その職務を代行する。
- 第22条 中央委員会は、次の事項を審議する。
 - (1) 執行部から提出された議案
 - (2) 中央委員3名以上から提出された議案
 - (3) 総会から委任された議案
 - (4) その他、 学生会に関する事項
- **第23条** 中央委員会は、原則として2か月に1回会議を開く。ただし、次の場合は臨時に開くことができる。
 - (1) 中央委員の4分の1以上から要求があったとき
 - (2) 執行部から要求があったとき
 - (3) 常任委員会から要求があったとき

(出典 平成19年度学生便覧 116頁)

支部総会アンケート結果(1/2)

資 料 平成18年12月11日 教員会議

平成18年度後援会支部総会アンケート調査結果

1 支部総会の満足度,説明に対する理解度及び開催時間等

(1)満足度

1	満足	39人
2	普通	82人
3	少し不満	5人
4	不満	0人

(2) 開催時間

1	長い	32人
2	ちょうどよい	94人
(3)	短い	0人

(3) 不満な点

- ① 支部活動が漠然としており、年に1回程度の会なので懇親という感じがしない。
- ② 資料を読みあげるだけでなく、ポイントを押さえた説明をしてほしい。
- ③ 出席者が少ない。
- (4) 支部総会で今後行って欲しいこと

(質問等)

- ① ザックバランな交流
- ② 各学科の先生と保護者との話し合いの時間が欲しい。
- ③ 寮生活のことを少し取り上げてほしかった。(第5支部)
- ④ 寮生の多い支部では、寮内の様子をもっと詳しく知りたい。
- ⑤ 後援会総会の説明とダブっている話があるので、その箇所はもう少し短めにしてほしい。

(その他)

- ① 学校の様子・進路などについて、大変よくわかった。毎年このような説明をお願いしたい。
- 2 学校に対する要望等
 - (1)学校全体に関すること

(質問等)

- ① インターネットで、最近の高専生はよくないという批判を目にした。一部の学生だと思うが、生活態度も含め、考えてほしいと思う。今、詫間電波が悪いとは思っていない。
- ② 学内でしか見られないHP情報を、保護者が見ることができるようにしてほしい。

(学校行事等)

- ① 早期の始業式を希望する。
- ② 夏季休業期間の変更はとても大きな問題なので、十分検討してほしい。
- ③ 授業参観は、保護者対象行事(総会、懇談会等)と連続しない時期が参加しやすい。
- ④ 授業参観について、どの教室でも、どの授業でも良いと言われると、どこへ行ったらいいのか分からない。1時間は決まった授業を決めてほしい。
- ⑤ 授業参観を1日に限定されると参加できないので、2~3日の実施日を設定してほしい。
- ⑥ 保護者懇談会の時間が10分では少ない。懇談のために、往復2時間かかっている。せめて15分は設定してほしい。

支部総会アンケート結果(2/2)

(教員)

- ① 担任の先生が生徒の顔を覚えていない。
- ② 低学年の担任の中で、学科別の進路の具体的指導を説明できない先生がいる。
- ③ 担任の先生と生徒の関係が、やや希薄であることが心配である。

(2) 学習指導に関すること

(保護者への連絡)

- ① 先生(学校)推薦の問題集や参考書など、アドバイス的なものを保護者向けに出してほしい。
- ② 子供向けに出しても親元まで届かないから、向上させようとしても今のままでは親には 打つ手がない状況です。
- ③ 学校での情報を早めに知らせてほしい。

(授業への要望)

- ① 追試や不可が減るような対策をしてほしい。
- ② 授業参観の回数を増やしてほしい。
- ③ 授業を聞かない学生がいないような指導をしてほしい。
- ④ 理解できていない学生に対するフォローをもっとお願いしたい。
- ⑤ 普通科の子と比べるとあまりにも1,2年生の学習の習慣がない。小テストをしてはど うか
- ⑥ 入学時の学力が低下していることや子供の質が変わっていることは明らかなこと。ある 程度は学力レベルや子供の質に応じた学習を希望する。 (義務教育とのギャップに子供がついていけていない。)
- ⑦ 先生による授業内容のバラツキや先生によるムラのないようにしてほしい。
- ⑧ 3年生の社会系の一部の教員の授業が、小さな声で教科書を読むだけで授業として成り立っていない。質問に言っても答えてもらえず、クラスで一番まじめな子さえ、あきれて話を聞かず自主勉強していて、クラス全員他の勉強や自主勉強をしている。学ぼうという気持ちはあるのに、とてもつらいと子供は言っている。
- ⑨ 自習ばかりで授業になっていない授業(理科系)があると聞く。
- ⑩ 授業中は集中して聞けるような環境にしてほしい。
- ⑩ 宿題・レポートを増やし、義務的に勉強量を増やしてほしい。
- ② 長期休暇には、レポート等を増やして、もっと勉強するようにしてほしい。
- ② 2年の保護者ですが、成績が悪い。我が子も試験前だけ注意しても改善しない。レポート提出等で課題を出してほしい。学力UPをはかってほしい。
- ⑭ 自宅でもう少し勉強するよう指導してほしい(宿題・課題等)。
- ⑤ 学生が理解できるような教え方を工夫してほしい。
- ⑥ 進路に対して自分の目標が持てるよう学校サイドとしての取り組みを今後もお願いしたい。
- ② 課題を与える場合は、口頭でなく文章で伝えてほしい。
- (18) 低学年は、学習の基礎を習っていると思うので、もう少し手厚く指導してもらいたい。 説明が少なすぎる、短すぎると子供がこぼしている。
- 19 欠点科目については、しつこいぐらい声かけをしてほしい。
- ② 先生にわからないことを質問しやすい環境・システムにしてほしい。

(補講等への要望)

- ① 補習等をもう少しこまめに、かつもっとしてほしい。(特に物理・化学) テスト前の対策やプリント配布などを希望する。
- ② 夏休み中に、分からない所を先生に教えてもらうため学校に行ったが、先生が不在だった。夏休み中の先生の勤務状態を教えていただけたらと思う。

以下略

(出典 教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

校長・3主事と学生会役員との懇談会をはじめ学生会意見箱・中央委員会・学生総会など学生からの要望を取り入れる仕組みがあり、さらに保護者を通じても意見を取り込むことができている。

観点7-1-④: 資格試験や検定試験受講,外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

資格試験や検定試験は指導教員の指導を受けた上で単位として認められる(資料 5-1-2-2, 3)。

無線従事者国家試験については情報通信工学科および電子工学科の学生には科目免除や学校認定の制度がある(資料 5-1-2-9, 15, 資料 7-1-4-1)。特に情報通信工学科はWeb上に説明を記載している(資料 7-1-4-2)

これらの国家試験については各学科で説明会等を行い(資料 $7-1-4-3\sim5$),免許申請書の取り寄せや,申し込み手続きを学科や学生課で一括して行うなどの便宜を図っている(資料 7-1-4-1)。

ディジタル検定および無線従事者国家試験の陸上無線技術士1級・2級については毎年本校を試験会場として実施している(資料7-1-4-6, 7)。

英語に関しては実用英語技能検定 2 級・準 2 級の準会場としての試験の実施,TOEIC IPテストの校内での実施,TOEIC受験料補助,及び成績優秀者に報奨を与えた。(資料 7-1-4-8, 9)。また英語合宿,オーストラリアでの短期の語学研修を開催した(資料 7-1-4-10~12)。

無線従事者・工事担任者国家試験の案内(1/3)

12 無線従事者国家試験について

卒業時に, 官庁(総合通信局, 航空局, 気象庁, 海上保安庁, 警察庁,外務省等), 電気通信事業会社, 放送局, 地方公共団体等に就職するためには,総務大臣が交付する「無線従事者」の資格を取得している者が有利である。

したがって、上記の官庁等に就職を希望する者は、卒業までに無線従事者国家試験を受験 して合格する必要がある。

(1) 無線従事者の資格

資格体系は、陸上、海上、航空および総合に大別され、更に次のような等級に分かれている。

- ·陸上 陸上無線技術士 第1級,第2級
 - 陸上特殊無線技士 第1級, 第2級, 第3級, 国内通信級
- ・海上 海上無線通信士 第1級,第2級,第3級,第4級 海上特殊無線技士 第1級,第2級,第3級、レーダー級
- · 航空 航空無線通信士 航空特殊無線技士
- ·総合 総合無線通信士 第1級,第2級,第3級

以上の資格のうち、情報通信工学科と電子工学科の学生は、『第1級・第2級陸上無線技術士(以下1陸, 2陸)、第1級陸上特殊無線技士(以下1陸特殊)』の資格を取得目標にできる。

- (2) 国家試験の科目
 - ・ 陸上無線技術士 (1級, 2級) は、無線工学の基礎、法規、無線工学A、無線工学Bの 4科目である。
 - ・ 1 陸特殊は、無線工学、 法規の2科目である。
- (3) 国家試験の期日

1 陸,2 陸は7月と1月,1 陸特殊は6月と10月と2月にそれぞれ行われる。本校は,1 陸および2 陸の試験実施会場になっている。

- (4) 国家試験の免除
 - ア 科目合格者は3年間, 当該科目の試験を免除される。
 - イ 定められた科目を修得した情報通信工学科と電子工学科の学生が卒業時以降3か年以内 に、2陸を受験するときは、「無線工学の基礎」の科目が免除される。
 - ウ 2 陸の資格者が 1 陸を受験するとき、卒業後の職種による 3 年間の業務経歴により、 特定の科目の免除があり取得しやすくなる。
 - エ 定められた科目を修得した情報通信工学科と電子工学科の学生が、1 陸特殊を受験するときは、学校認定により全科目を免除されるので、卒業後に免許の申請をすれば資格を取得できる。なお、このときに提出する書類は、無線従事者免許申請書、住民票、写真 2 枚、長期型養成課程修了証明書、返信用封筒である。

オ 定められた科目を修得した情報通信工学科の学生が、第2級海上特殊無線技士(以下2海特殊)を受験するときは、学校認定により全科目を免除されるので、卒業後に免許の申請をすれば資格を取得できる。

- (5) 国家試験の受験手続
 - ア 受験する者は、「無線従事者国家試験申請書」の記載事項を正しく記入した上、申請手数料及び受験票送付用郵送料(1陸 13,980円, 2陸 11,880円, 1陸特殊 5,380円)を日本無線協会の定める振込用紙により、郵便局で払い込み、その払込受領書を申請書の所定欄に貼付して、所定の期間内に学生係へ提出すること。

無線従事者・工事担任者国家試験の案内(2/3)

- イ 受験は、3年生の1月期技術士試験から出席扱いとなる。この場合受験願を学生係へ提出しなければならない。申請書を直接日本無線協会へ送付した者も、受験願を必ず学生係へ提出すること。
- ウ 2 陸の「無線工学の基礎」を学校認定により免除してもらう場合は、卒業時以降に「卒業証明書」及び「修得単位証明書」を教務係で発行してもらい、国家試験受験申請書に添付しなければならない。
- エ 学校認定により1陸特殊あるいは2海特殊の資格を取得する場合は、卒業時に「長期型 養成課程終了証明書」を教務係で発行してもらい、無線従事者免許申請書に添付し、四国 総合通信局に提出しなければならない。
- オ 国家試験に合格した者は、合格した日から3か月以内に免許申請をして、免許証の交付 を受けなければ、無線従事者になれない。

【問い合わせ先】

- ・財団法人 日本無線協会 四国支部 〒790-0814 松山市味酒町1-10-2 ゴールドビル味酒 TEL 089-946-4431 テレホンサービス TEL 089-946-4400
- ・ホームページ http://www.nichimu.or.jp/

13 工事担任者国家試験について

工事担任者資格制度は、利用者が電気通信事業者のネットワークに自らのネットワークや端末設備等を接続する際に、必要な知識及び技能を持った者が工事を行い、又は実地に監督することにより、全体としての電気通信回線設備を保護し、利用者が安定した良好な電気通信サービスを受けられるようにするために設けられた国家資格制度である。

したがって、この資格を有する者は電気通信事業者と利用者間のネットワーク接続のスペシャリストであると言える。

(1) 工事担任者の資格

資格体系は、IP系サービスを中心とするDD種と、従来の電話サービス・ISDNサービスを中心とするAI種の二つに大きく分かれ、更に次のような等級に分類される。

- A I 第1種
- ・AI第2種 ・DD第2種
- A I 第3種

DD第1種

- DD第3種
- AI・DD総合種

以上の資格のうち、情報通信工学科の学生は、全ての資格を取得目標にできる。

(2) 国家試験の科目

いずれの国家試験も、電気通信技術の基礎、端末設備の接続のための技術及び理論、端末設備の接続に関する法規の3科目である。

(3) 国家試験の期日

試験は年に2回、5月と11月に実施される。

- (4) 国家試験の免除
 - ア 科目合格者は2年間、当該科目の試験を免除される。
 - イ 定められた科目を修得した情報通信工学科の学生が、上記いずれかの国家資格を 受験するときは、卒業時以降に学校認定により「電気通信技術の基礎」の科目が免 除される。
- (5) 国家試験の受験手続

無線従事者・工事担任者国家試験の案内(3/3)

- ア 受験する者は、各自で国家試験申請書を取り寄せる必要がある(インターネット申請も受け付けているので、こちらの方が便利である)。受験の手引きに従い、必要事項を正しく記入すること。なお、試験手数料8、700円を郵便局の窓口に備え付けの払込用紙に必要事項を記入し、日本データ通信協会に払い込むこと。
- イ「電気通信技術の基礎」を学校認定により免除してもらう場合は、卒業時以降に「修了証明書」(工事担任者規則 別表第六号の二)を教務係で発行してもらい、受験実施月(5月又は11月)の月末までに日本データ通信協会に提出しなければならない。
- ウ 国家試験に合格した者は、合格した日から3か月以内に免許申請をして、免許証の 交付を受けなければならない。

【問い合わせ先】

財団法人 日本データ通信協会 四国支部

・〒790-0066 松山市宮田町131-1 郵政福祉松山第1ビル2階

TEL 089-946-4160

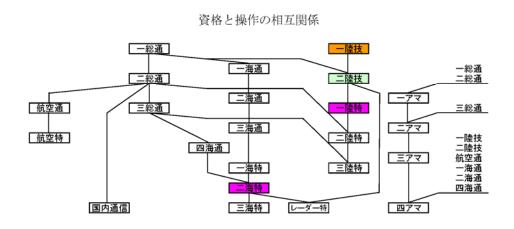
テレホンサービス TEL 089-945-1443

・ホームページ http://www.dekyo.or.jp/

(出典 平成19年度学生便覧 15頁)



資格取得に関する説明会(情報通信工学科)配布資料(1/2)



※ 一定資格を持つことにより、その資格より棒線で結んだ下に掲げる資格の操作範囲に 属する操作は、自動的に入ることを示します。

例えば、一総通は一陸技以外のものはすべて操作できること、二陸技は、その資格のもののほか四アマ、レーダー特、一陸特、二陸特、三陸特のものが操作できること、を示します。

資格別の試験のレベル

資 格	級 別	試験のレベル
	一級通信士	大学程度
総合	二級通信士	短大•高専程度
	三級通信士	高校程度
	一級通信士	大学程度
	二級通信士	短大•高専程度
	三級通信士	高校程度
海上	四級通信士	中学程度
"# -	一級特技士	中学程度
	二級特技士	中学程度
	三級特技士	中学程度
	レーダー級特技士	中学程度
航空	航空通信士	高校程度
加工	航空特技士	中学程度
	一級技術士	大学程度
	二級技術士 短大・高専程	短大•高専程度
陸上	一級特技士	高校程度
12 -	二級特技士	中学程度
	三級特技士	中学程度
	国内電信級特技士	中学程度
	一級	二総通と三総通の中間
アマチュア	二級	三総通と四総通の中間
' ' ' ' ' '	三級	中学程度
	四級	中学程度

資格取得に関する説明会(情報通信工学科)配布資料(2/2)

無線従事者を必要とする職場

第一級陸上無線技術士:無線通信の技術操作に関しては最高の資格ですから、その職場の 範囲も広く、主なものは次のとおりです。

- ① ラジオ・テレビの放送局(送信所)
- ② 国際通信を行う大電力無線局(送信所)
- ③ 大型海岸局の送信所
- ④ 無線標準局
- ⑤ 小電力であっても、その送信装置の仕組み上から、高度の知識技術が要求される無線 局

したがって、就職先はNHK(日本放送協会)、民間放送会社、電気通信事業会社(KDDI、NTT等)、国土交通省航空局、海上保安庁、気象庁、警察庁などです。 その他、中学校及び高等学校の教員、メーカーの技術者になる人もいます。

第二級陸上無線技術士:操作範囲は、空中線電力において第一級陸上無線技術士の範囲を下まわるものの、ほかは第一級陸上無線技術士と変わりなく、同じ操作が可能ですので、活躍できる職場も就職先も第一級陸上無線技術士とあまり変わらないようです。

第一級陸上特殊無線技士:これは1つの周波数の電波に、いくつもの信号を同時に乗せて通信する多重無線設備を使用した固定局等の無線設備を操作するための資格です。

これらを多く設置しているところは、電気通信事業者(KDDI、NTT等)、JR、NHK、放送会社、電力会社、防衛庁、国土交通省、警察庁、各県庁などかなり多数あります。

第二級陸上特殊無線技士:この資格は、タクシー、パトロールカー各種無線サービスカーなどに設置されている陸上を移動する形態の無線局、または、VSAT (ハブ局)の無線設備を操作するための資格です。運転士、警察官、サービスマンがこの資格を所持して無線機を操作しています。

第三級陸上特殊無線技士:タクシー無線の基地局などの無線設備が操作できる資格です。

平成17年度試験実施結果

资 故	全体台	格者	無線工学	学の基礎	無線	L学A	無線	工学B	法	規
資格	全国[%]	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校	全国	本校
第二級陸上無線技術士	18	-	29.2	% 2	32.4	37.5	31.9	18.8	58.2	27
第一級陸上特殊無線技士	23.4	% 1	_	-	_	1	_	_	_	_

(出典 情報通信工学科)

掲示資料

情報通信工学科で取得可能な国家資格

(*2)実際の申請者数であり、可能者数はこれよりも高い。

資格名	T科受験者数(*1) (H17一1月期)	合格者数	合格率	全国(%) (社会人含 む)
第一級陸上特殊無線技士		26/39(*2)	66. 7	23. 4
第二級陸上特殊無線技士	-	-	-	62. 7
第二級海上特殊無線技士	-	_	-	77. 9
	0	0	_	29. 2
空一级珠上無約 世/华上	37	10	27. 0	58. 2
第二級陸上無線技術士	32	12	37. 5	32. 4
	32	6	18. 8	31. 9
	1	1	100	28. 0
第一級陸上無線技術士	13	5	27. 8	49. 9
另一 拟座工 無称及侧工	1	1	100	17. 2
	1	1	100	20. 4
工事担任者 (AI1種~AI3種、DD1種~DD 3種、AI·DD総合種)				AI1種〜AI3 種、DD1種 〜DD3種、 総合種により 異なる
電気通信主任技術者 (伝送交換主任技術者)				20. 8
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				

※〇印は、単位を履修し修得する必要がある科目です。

※△印は、単位を履修する必要がある科目です。

※情報通信工学科で開設して いる上記の専門科目は、陸上 無線技術士、工事担任者および

電気通信主任技術者の国家試験範囲を含む内容であり、受験する際に有利となる。

(出典 情報通信工学科)

情報工学科の学生の資格取得支援状況(1/3)

情報工学科の学生の資格取得支援の取り組みについて、最近 5 年間に行った取り組みを報告する。以下に授業時間内、放課後や休日、その他の3つに分類し報告する。

(1) 授業時間内

3年生の必修科目「基礎情報工学」においては、その学習目標を基本情報処理技術者の試験の 合格レベルに達することとし、また授業内で関連資格の内容や必要性を随時説明している。資料 1 (シラバス)

(2) 放課後や休日

2004年3月の春季休業期間中に3年生の有志を対象に、情報工学科棟内において、受験対策勉強会を計画し実施した。資料2(案内資料)

参加者数は、4日間で延べ20名の学生が参加した。担当教員として個別指導(2名:今城、高城教員)、C言語プログラミング知識(松下教員)、データベース知識(鰆目教員)の4名が担当した。



受験対策勉強会の様子

(3) その他

(a) 受験願書の配布支援

学科で、願書申し込み期間前に 100 部の受験願書を一括取り寄せを行い、3 年~5 年の担任を通じて口頭で学生に周知し、希望学生に配布している。

(b) 2006 年 5 月の 4 年生保護者懇談会において、保護者に対して資格取得に関して説明を行った。

情報工学科の学生の資格取得支援状況(2/3)

説明会資料1

科目名	基礎情報工学		担当教員	高城秀之			
学年	情報工学科3年 学	期通年	履修条件	必修	単位数		2
分野	専門 授業	形式 講義	科目番号	06I03_30970			
学習目標	情報工学の様々な分野 年で教授される個別の専						
于日口1k	概念的知識を身につけて						
	ルに達することを目標と		112222	21-10, 22-1-1	11 11 12 111 11 11	12(1)	111
	情報工学の基礎科目と	して, コンピュー	タのハードウ	ェア・ソフトワ	ウェアの両面	iについ	ての基
進め方	礎的内容について講義を	行う。本授業は基準	本情報技術者	試験の標準カリ	リキュラムに	準じて	行う。
	講義と平行して適時,過	去の基本情報技術	者試験問題を	解くことで各自	自の理解度の	確認を	行う。
履修要件	特になし	and mentals					
	学習項目((時間数)			到達目標		
	1. 授業ガイダンス(2)	tit kiri (a)	コンピョ	.ータの基本構			D
	2.コンピュータの構成と 3. コンピュータの処理方				1	02:1-3,	D4:1
	4. 2 進数の計算(2)	11((2)	コンピー	ータにおける	データの表	租方法	につい
	5. データ表現(2)		て理解す			02:1-3,	
	6. 情報圧縮の原理(2)		(21/17)			J2.1 J,	D-1.1
	7. 固定小数・浮動小数の	表現方法(2)					
	8. 前期中間試験(1)		記憶装置	置の種類および	*記憶の原理	につい	て理解
	9. 記憶素子の種類(2)		する		I	02:1-3,	D4:1
	10. 記憶階層(2)						
	11. 主記憶装置の原理(2)		ファイル	の基本構成お	ぶよび記録方	法につ	いて理
	12. 補助記憶装置の種類。	と構成(2)	解する		I	02:1-3,	D4:1
	13. ファイルとは(2)						
学習内容	14. ファイルの編成法(2)						
	15. ファイルの記録媒体	と記録万法(2)					
	16. 前期期末試験(1) 17. 磁気ディスクの記憶%	☆县(2)		ベースの概要に	ついて理解	ナスレ	L + 1=
	18. データベース(2)	日里(2)		SQL 文を書くこ			C 01C,
	19. SOL (2)		1111 4736	QL XEE ()2:1-3,	D4·1
	20. システム開発の基本行	行程(2)				<i>52.1</i> 0,	2
	21. システム開発手法(2)		システム	開発の概要に	ついて理解	する	
	22. システム設計とプロ:	グラム設計(2)			I	02:1-3,	D4:1
	23. プログラムの開発と	テスト(2)					
	24. 後期中間試験(1)						
	25. オペレーティングシン			-ティングシス			
	26. 多重プログラミング((2)	する		I	02:1-3,	D4:1
	27. 主記憶管理手法(2)	dt (2)					
	28. システム構成と信頼 [†] 29. PERT によるプロジェ		プロジー	クト管理手法	の概画につ	ハナ田台	紀十ス
	29. リストの実装方法,ス			クト官柱子伝		D2:1-3	1年 り る
	30. 計算量と2分探索木(アルゴリ	ズムとデータ			容につ
	31. 木のなぞりと逆ポー	,-,	いて理解			02:1-3	
== /≖ + :+	32. 学年末試験(1)	極紫蛇座祭士,150/	元処会証年十	7			
評価方法 関連科目	定期試験の成績を 85%, ソフトウェア設計論,				ス 基木ソ	フトウ・	- T
因是行日	情報構造論	/ マ / / 四町 11, 司	チルスマハノン	, , , ,	八, 西华人		
教材	真図解 基本情報技術	者 -初歩から学べ	て合格できる)			
供去	作してナント						
備考	特になし						

情報工学科の学生の資格取得支援状況 (3/3)

説明会資料2

受験対策勉強会について

春季休業期間中に、情報処理技術者受験対策の勉強会を下記のとおり行います。受験および受験を予定している学生は奮って参加してください。

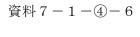
記

日時 3月29,30,31日、4月1,2日の5日間 午前10時~午後3時

場所 情報工学科棟 2 F 基礎工学実験室 基礎情報工学の教科書、所持する問題集を持参のこと。

情報工学科

(出典 情報工学科)





(出典 財団法人 実務技能検定協会ホームページ http://www.digital.kentei.or.jp/hall.html)

資料 7-1-4-7

平成 18 年度陸上無線技術士国家試験受験者数 (のべ人数, なお複数の科目を受験している者も含む)

資 格	試験月	受験者数
第一級陸上無線技術士	1月	10
	7月	11
第二級陸上無線技術士	1月	60
	7月	22

TOEIC と実用英語技能検定(1/2)

英語科の教育活動 (英語科)

1. 目的

論理的コミュニケーション能力を育成する。

2. 平成18年度の目標

英語に対する学習意欲を喚起しながら, 英語の基礎訓練を行う。

3. 手段

授業を充実させ、英語検定、TOEIC などを実施する。

授業を充実させるために、積極的にマルチメディア教材を利用し、資格試験等への準備をした。マルチメディア教室の利用状況を表1に示す。

科目名	学年	教材	学習のテーマ				
英語 III	1年生	Cocet3300	語彙の増強				
英語 IV	4年生	ALC	TOEIC 問題				
コミュニケーション英語 I	専攻科1年生	ALC	TOEIC 問題				
コミュニケーション英語 II	専攻科2年生	ALC	TOEIC 問題				

表1 マルチメディア教室の利用状況

『Cocet3300』や ALC の『TOEIC 問題』では、学習者は自己の学習進度に従って学習を進めることができるので、学ぶ意志があれば有効であると考えられる。ALC の『TOEIC 問題』の 1 画面を図 1 に示す。



図1 ディスプレイ上の TOEIC 問題

積極的にマルチメディア教室を利用した授業を行い英語運用能力の向上を目指してはいるが、つねに 50 分ないし 100 分の授業の全てをパソコンに向かって行う個別学習に当てるというわけではない。 学習者がパソコンに向かって練習問題を解いた後は、学生と教師との相互作用を通して、訳読や文法

TOEICと実用英語技能検定(2/2)

学習や英作文等に焦点を絞り, 英語の授業を進めることも多い。

4. 評価方法

英語検定, TOEIC などの実施状況を調べる。

5. 成果

(1) TOEIC

TOEICのIPテストを2006年度において2回実施した。第1回目は2006年6月24日(土曜日),第2回目は2006年12月12日(火曜日)に実施した。1回目のIPテストは希望者のみの受験であり、受験者数は63名であった。2回目の受験は全員受験であり、受験対象者は183名で、4年生165名と専攻科1年生18名であった。希望受験にしろ全員受験にしろ、受験動機は異なるが、この経験が今後の英語学習に対する意欲を喚起するものであることを英語科として希望している。

(2) 英語検定

英語検定は2006年10月14日(土曜日)に準2級と2級の準会場として実施した。受験者は15名と少数であったが、今後の継続的な学習を期待している。

2006年度における資格試験受験者数を図1に示す。

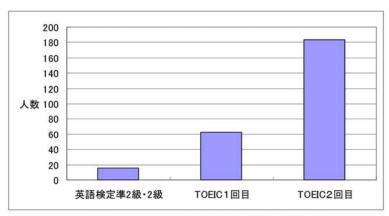


図2 2006年度における資格試験受験者数

6. これからの取り組み

授業の中で基礎力を培い、広い世界に目を向けさせ、英語の重要性を理解させ、英語のコミュニケーション能力を高める。

- (1) TOEIC の IP テストを今後も継続実施し、英語の重要性を指摘し学習意欲を喚起する。
- (2) 英語検定の2級・準2級の準会場の取り組みを続けることで、学生の英語学習に対する意欲を強化する。

(出典 平成 18 年度年報 19 頁)

平成17年5月23日 教務委員会

TOEIC報奨基準等について

本年度から、本校で実施するTOEIC IP (Institutional Program) テストの成績にもと づき、下記のように成績優秀者に報奨を与えることとなりました。毎日の努力を実らせ、 優秀な成績を修める人が一人でも増えることを期待しています。

記

- (1) I Pテストは年2回実施します。
 - ・第1回 5~6月(本年度は6月18日(土))
 - ·第2回 3月(学年末試験後)
- (2) 4年生、専攻科1年生は第2回のIPテストを無料で受験できます。
- (3)その年度に実施されたIPテストの結果を総合し、以下の得点を獲得した人に図書 カードを賞与します。

名 称	受賞者数	得点	図書カード	備 考
校長賞	1名	最高点	5,000円	450点以上に限る
校長奨励賞	4名	2位~5位	3,000円	450点以上に限る

- (注)最高点、または2位~5位の得点を複数の受験者が記録した場合、得点した全員 に報奨を与えます。ただし、全受賞者数が5人を超えた時点で、次点の受験者への 報奨はおこないません。
- (4) 受賞は本科在学中1回、専攻科在学中1回のみとします。
- (5)(2)については、留学生は対象としない。

(出典 平成17年5月23日教務委員会資料)

英語合宿 (1/2)

英語合宿 (英語科)

1. 目的

論理的コミュニケーション能力を育成する。

2. 平成 18 年度の目標

英語に対する学習意欲を喚起しながら、英語の基礎訓練を行う。

3. 手段

英語合宿を実施する。

4. 評価方法

英語のみで生活・研修をすることにより、英語学習の意欲を高める。

5. 成果

3月3日(土)~3月4日(日)にかけて、香川県立五色台少年自然の家に於いて英語合宿を実施した。これは国際コミュニケーション能力の育成を目的に、ホームステイのような英語を集中して勉強できるような環境を、合宿というより身近な形で提供しようとする試みである。今回は1~3年生までの19名が参加し、外国人講師3名および英語科教員2名による授業を行った。以下は合宿の日程である。

表1:合宿の日程(詳細)

3 日		4日	
時刻		時刻	
9:30	学校発	6:30	起床
11:00	ガイダンス	7:30	朝食
12:00	食事	9:00	研修5:レゴで対戦
12:40	研修1:英語でゲーム	10:45	退所式
13:50	研修2:レゴの制作1	11:00	研修所出発
14:50	休憩	12:30	学校到着
15:20	研修3:レゴの制作2		
15:50	休憩		
17:20	夕食		
19:00	研修4:レゴの制作3		
20:00	入浴		
22:00	就寝		

次に、合宿風景の写真を図1~図6に示す。

英語合宿 (2/2)



図1 ジェンガを使った英語学習



図2 外国人講師とレゴの制作1



図2 外国人講師とレゴの制作2



図4 合宿参加者全員で

前回までと異なり、今回はレゴ・マインドストーム (組み合わせ自由なレゴを使用したロボット)を 教材に、外国人教員と学生が英語でやり取りしながら、ロボットを完成させていく授業を行った。学生 たちは精一杯の英語と身振り手振りを用いて、自分の意志を伝え、一生懸命にロボットを作成していた。 ロボットという教材が学生たちの興味に近かったことと、お互いにコミュニケーションをとらないとロ ボットが完成しない、という切迫した状況に置かれていた為、以前よりも英語のコミュニケーション量 が増えたように感じられた。

期間が短いため、流暢な英語を身につけるには至らなかったが、英語で伝えることの難しさと、伝わったときの喜びを、学生たちは学びとった。

6. これからの取り組み

- (1)指導内容の精選を図りプログラムを充実させる。
- (2)他校にも参加を呼びかけ、合宿をより活気があるものにする。

(出典 平成18年度年報 21頁)

平成18年度第1回国際交流委員会議事要録

日 時 平成18年6月19日(月)16時45分から17時20分

場 所 第3会議室

出 席 者 副校長, 専攻科長, 情報通信工学科長, 電子工学科長, 電子制御工学科長, 情報工学科長, 事務部長, 内田, 森(和), 梶, 長岡, 一色, 金澤委員

欠 席 者 一般教科長

陪 席 者 総務課長,総務課課長補佐(総務担当),総務課課長補佐(財務担当), 企画係長,企画係主任(記)

資料 1. 東洋工業専門大学からの訪問受け入れについて

2. 平成17年度オーストラリア・ホームステイプログラム実施報告書

議事

- 1. 東洋工業専門大学との学生交流について
 - 一色委員から資料1に基づき説明があり、審議の結果、次のとおり了承された。
 - ・日程については、第1案7月31日からの予定で進め、5泊6日の日数を短縮するかは 相手方と調整する。
 - ・研修プログラムは、今回は電子通信システム工学専攻の住友教員による IC 設計、長岡 教員による IC プロセスを実施し、次回は情報制御システム工学専攻で担当する。
 - ・受け入れ人数は、3~4名の学生と3名の教員とする。
 - ・宿泊については、教員はホテル、学生はホームステイとし、ホームステイの場所は住友 教員、森岡教員、矢野本校元教員他詫間町内のボランティアにお願いする。
 - ・予算は、約25~30万円予定する。

その他,本校学生の参加について意見が出たが,東洋工業専門大学からの訪問直前までに 再度,委員会を開催し,詳細を決定することが決まった。

2. オーストラリア語学研修の報告

森委員から資料2に基づき報告があり、次のような感想があった。

- 非常に歓待された。
- ・今後使える英語の指導を心がけたい
- ・2年に1度位実施できれば良い。
- ・お土産を持参しておくべきであった。
- ・ 本校学生には、制服を準備させておけばよかった。

以上

(出典 本校グループウエア各委員会議事要旨)

オーストラリア語学研修報告

平成17年度 オーストラリア・ホームステイプログラム (詫間電波工業高等専門学校オーストラリア同世代交流) 実施報告書 平成18年6月19日 国際交流委員会

平成18年3月18日(土)から4月2日(日) の 16 日間、オーストラリア、クイーンズランド 州ブリスベン郊外ビーワー (Beerwah) 町にて9 振りで必死に自分の言いたいことを伝えようと 名の学生がホームステイプログラムに参加した。 これには主に、①ネイティブ・スピーカによる英 語指導を受け、英会話力を養う、②現地学校の同 相違点を見いだすことができた。 世代の学生と交流をする、③ホームステイを通し、 オセアニア圏および欧米文化を吸収する、④現地 公共施設等を訪問し、現地人と交流する、の4つ 1: 現地 NPO 法人視察 の目的があった。

①および②に関しては、現地のビーワー州立高 交に滞在し、午前中は英語授業を受け、午後はビ ーワー高校の授業(芸術、体育、基礎科学、家庭 科等) を現地の生徒とともに受講した。



(上:英語授業風景 下:科学の授業を受講する学生)



③のホームステイに関しては、学生一人一人が 別々の家庭に滞在した。すべての家庭がビーワー 高校に通学している子弟を持つ家庭であったの で、通学から食事、家族の団欒にいたるまで、彼 らが学生の世話をしてくれた。

学生たちはホームステイ先でのコミュニケー ションには苦労していたようであるが、身振り手 する術を身につけたようである。また個々の家庭 を通し、オーストラリアと日本の文化の共通点、

④の現地施設訪問に関しては、研修期間中、い くつかの施設を視察した。

ブリスベンでは現地の NPO (AIIU) を訪問し、 そこで働く日本人女性にインタビューすること ができた。海外で働くことの大変さや、英語の勉 強法を聞くことができ、非常に有意義であった。



(AIIU 職員の説明を受ける学生たち) 2: クイーンズランド工科大学視察

クイーンズランド工科大学では、学校の主要な 設備と工学部と情報学部の施設を見学した。

研修生は温水プールや学生用のレストランな どを完備したオーストラリアの大学の規模に驚 いていた。また情報学部ではコンピュータルーム を訪れ、実際にプログラミングしている学生の姿 を見ることができた。一方工学部では、デジタル オシロスコープを使って、作業している学生の姿 を見ることができた。学生の真剣な姿を見ること ができ、研修生は大いに刺激を受けた。

(出典 平成18年6月19日国際交流委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格試験や検定試験における単位認定制度や試験会場引き受けなど学校としての支援体制が整備さ れている。

資格取得状況のうちでTOEICについては徐々に成績も上昇している。陸上無線技術士の取得につい ては特に情報通信工学科の取り組みが顕著であり、支援体制はある程度機能している。

観点7-1-⑤: 特別な支援を行うことが必要と考えられる者(例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。)への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

各留学生にはチューター(学生相談員)が選ばれ学習面や生活面全般の相談相手となっており、さらに指導教員も選任されている(資料 $7-1-⑤-1\sim3$)。

留学生には時間割を特別に編成している(資料7-1-5-4)。

編入学生には10月に説明会を開催し(資料 7-1-⑤-5),数学の勉強についてのガイダンスを行っている(資料 7-1-⑤-6)。

障害のある学生には、特殊な機能を持つPCを導入して(資料 7-1-5-7)、各種の研修会に参加し、受け入れる際の注意点などを教職員に周知している(資料 7-1-5-8、9)。

資料7-1-5-1

学生相談員一覧

平成19年学生相談員一覧表

学科・学年	氏	名	担当留学生
電子制御工学科4年			
情報通信工学科3年			5 m/3 m 5
情報工学科 3 年			
情報工学科3年			

学生相談員指導実施計画

月	時間数	月	時間数
4	4	11	1 6
5	1 2	12	12
6	1 8	1	1 4
7	6	2	1 6
9	1 6	3	2
10	16	合計	132

- 1. 指導期間 平成19年4月23日から平成20年3月4日までの 35週とする。
- 2. 指導時間 指導は原則として遡2回, 1回につき2時間とする。

資料 7-1-5-2

チューターのためのマニュアル

チューターのためのマニュアル

詫間電波工業高等専門学校

~略~

先生として

身近にいて、同じ専門分野で、同じクラスで教科を勉強している者として、 家庭教師的に、あるいは一緒に学習する者として、友人として、留学生が十 分に理解できない箇所を説明し教える。また、実験、実習レポートの作成の 際には助言者として文章の添削を行い、日本語能力を向上させる。専門的な 学習を効果的に行うために、適当な参考書を紹介する。

友人として

同世代の友人として、日本の文化や社会についてわかりやすく説明し、時 には一緒に考える。できれば留学生の出身国の文化、社会と比較し話し合い、 相互理解を深めるよう努力する。

留学生に日本人の友人を多数紹介し、留学生が様々な日本人を知る機会を 設ける。

学生生活上の諸問題について相談に乗る。また、日常生活面では、公共交 通機関、電話、買い物などについて機会があれば手助けする。

この制度は留学生、指導教員(教職員)そしてチューターの三者の間に信頼と協力関係が築かれたとき、最もその効果を発揮しますので、お互いの連絡を密にするよう心掛けましょう。

皆さんが留学生の勉強上の問題で困ったとき、迷ったときにはすぐに留学生の指導教員、あるいは学科、専攻の先生に連絡、相談し指示を仰いでください。また、留学生の生活上の諸問題解決について、皆さんが迷い、悩んだ場合には、学生課(留学生担当者)の窓口でも結構ですから相談してください。

~以下略~

詫間電波工業高等専門学校 基準7

	平成18	年度 留学生	受入名	篺	
				詫間	電波工業高等専門学校
国 籍	コロンピア		. *		,
氏 名		,			
生年月日 (男·女別)				7.9	
受入期間	平成18年4月~ 平成21年3月			٠,	11 11
所属学科	電子制御工学科				
指導教員	奥山 真吾				
国費· 私費別	图象	j j			1 11 1
備考	1				
					1,

資料7-1-5-4 留学生の時間割 平成19年度 前期時間割 5 実験 6 実験 2 共上忠、三河 京間、青海、塩沢 実験 真似克、井上忠、三河 京駅 南海、塩沢 東駅 電工 三崎 3 4 情処Ⅲ 真鍋久 第1演習室 微積 2年 1 政経 井上斌 計測Ⅰ 回路耳青海 H. R. 三河 国語8 保体横山 電磁 I 保体 森本 横山 保体横山 デ回 I 塩沢 計測 I 草間 電磁I 森本 英I 森和 青海 直書 (4) 英I 土ディア 解類 情処Ⅲ 天造 第1演習室 英 I 土屋 国語A 高木保 政経 井上城 国語8 英 I 野ロ 土屋 メディア 実験 野中, 宮武, 河田純 С 回路Ⅱ 実験 一色, 奥山, 白石, 雄元 保体横山 微積 谷口 制御 I 山本 保体横山 H. R. 山本 エ座 メディア 政経 国語A 井上斌 森孝 保体 英 I 横山 森和 メディア 保体 英 I 横山 森和 英 I 森和 H. R. 金澤 政経 国語B 井上斌 野口 情処Ⅱ 高城, 金澤, 川染 保体 英 I 横山 森和 微積南 解析 須那 情処Ⅱ 高城,金澤,川染 解析 須那 実験 野中, 宮武, 河田純 日本語森幸 テ回ュ 野中,松下 金澤 実験 実験 主間 青海 提 小野 塩沢 実験 大型 電子 選 小野 塩沢 実験 大工 東京 本 天 本 天 造 月本 章宗 半導体 衛田 清水 第元 第元 情緒Ⅳ・回理 井上忠 福永 サイバー 電計 増田 セミナー 全教員 高情ラボ 半導体 三崎 通法 I 曾根 電磁II 草間 電工 I 辻琢 英Ⅳ 鳥越 応数 澤田 音響 I 増田 音Ⅱ・法規 増田 曽根 E 実験 山本・村上 第3演習室 高情ラボ 東験 山本・村上 第3演習室 高情ラボ 応数 澤田 保体 塩田·有馬 セミナー 奥山、山木、雄元、清 С 英Ⅳ 鳥越 応物Ⅱ 電回I 離元 村上 近藤湛 東田 第1演習室 英Ⅳ 保体 鳥越 塩田·有馬 電回II 推元 数解 河田純 サイバー シスプロ 今城 高情ラボ 計シス 籍目 英Ⅳ 鳥越 応物 川梁 電磁 河田純

資料7-1-5-5

編入学に関する説明要領

来校日 平成18年10月30日 (月)

説明会場 図書館会議室

編入学者 情報通信工学科 高等学校

』 電子制御工学科 ■■■高等学校

日 程 13:20 学生課にて受付

13:40 教務主事による説明

14:10 学生課長から編入学の手続きについて説明

14:15 校内, 学寮見学

14:30 情報通信工学科 森本学科長による説明

電子制御工学科 田嶋学科長による説明

配布物 *編入学の手続きについて(前年度のものをコピー) 今年度のものができ次第,後日送付。

*学生便覧

*学校要覧

*シラバス

*学校案内

資料 7-1-5-6

編入学生への配布プリント

詫間電波高専4 年編入生の数学の勉強について

情報通信工学科では、1年から4年で数学に関して以下の内容を学習しています。「」は教科書名です。

1年 「基礎数学」

数と式、2次方程式、グラフ、指数関数、対数関数 三角関数、平面のベクトルなど

2年 「 線形代数」、「 微分積分 I」

極限、微分、積分

空間のベクトル、行列、連立1次方程式など

3年 「 微分積分 II」、「 線形代数」 偏微分、重積分

テイラー展開、微分方程式、行列式、固有値、対角化

4年前期 「 応用数学」(第1章、2章、3章)

ベクトル解析、ラプラス変換、フーリエ級数

4年後期 「 確率統計」

4年に編入する場合に、専門科目で用いる数学として、3年までの数学の内容を理解している必要がありますが、その中で以下の点に重点を置いて勉強しておいて下さい。

- 既に「基礎数学」の内容は理解していると思いますが、特に、三角 関数、指数関数、対数関数とそれらを含む関数のグラフ は十分に 勉強しておいて下さい。専門科目で大切な内容です。
- 微分、積分は必須です。内容は、極端に言えば、「微分積分I」が理解できていれば良いでしょう。1章微分法、3章積分法、2章微分法の応用、4章積分法の応用の順で不足分を勉強して下さい。

微分では、三角関数、指数関数、対数関数を含むいろいろな関数の 微分(合成関数の微分、18ページ)が出来ること、積分では、置換 積分、部分積分が出来るようになっていることを望みます。

 余力があれば、「微分積分 II」で、テイラー展開、偏微分の始めの 部分、重積分の始めの部分、微分方程式の始めの部分を読んでおく と良いでしょう。

ただし、「 微分積分 II」 18 ページのオイラーの公式 $e^{ix} = \cos x + i \sin x$ 、「 応用数学」 111 ページから 117 ページの複素数、極形式などは大切です。 これらの複素数の計算はできるようにして下さい。

「線形代数」では、第2章から第3章までの、ベクトル、行列、行列式、逆行列の計算は出来ていて欲しいのですが、既にそれらを勉強済であれば、第4章も見ておいて下さい。

数学では定義式は覚えなければいけませんが (これも 覚えるというより、その定義の内容を理解する)、他の性質や公式は導ければいいので、記憶するのではなく、理解するように心掛けて下さい。また、ある程度計算力も必要ですから、教科書の間や練習問題を自分で解いて下さい。

高専での3年までの内容を全て勉強しようとはせずに、基礎的な部分で構いませんから、勉強出来るところまでをしっかりと理解して下さい。

(出典 情報通信工学科)

資料 7-1-5-7

障害学生に対する支援機器の申請書

事業名 障害学生学習支援等経費

学校名 詫間電波工業高等専門学校



※ 概要がイメージできる資料 (概略図等) があれば添付すること。

資料7-1-5-8

学生支援に関する研修会

17, 12, 19

第12回 教育研修会報告書

- 1. 日 時 平成17年12月16日(金)9:30~15:30
- 2. 場 所
- 3. 参加者 教員 森本敏文、梶 久夫、草間 裕介(情報通信工学科) 事務 溝下洋和、横田 寬、高畑和博、三崎保子
- 4. 内容

(出典 学生課学生支援係)

資料7-1-5-9

障害のある学生に対するお願い

平成19年4月5日

教 員 各 位

教務主事 高木正夫

現在、車椅子による授業を受ける学生が2名在学しております。

いろいろと、お手間をおかけすると思いますが先生方のサポートご協力を、よろしくお 願いいたします。なお、お気づきの点がありましたら教務係までお知らせください。

(出典 学生課教務係)

(分析結果とその根拠理由)

留学生にはチューター制度により、編入学生には入学前のガイダンスで学習支援を行っている。障害のある学生には各種の学習支援機材を開発し、研修会に参加するなど支援体制が整備されている。

観点7-1-⑥: 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

各クラブに顧問・副顧問を配置して活動を支援している(資料5-4-2-3)。

学生会活動には学生主事・学生副主事・学生主事補が支援している(資料7-1-⑥-1)。

顧問会議およびクラブの部長会を経て学生総会で承認された上で、学生会から各クラブに物品費や交通費などの援助が行われており(資料 7-1-6-2, 3)、監査委員会による監査が行われている(資料 7-1-6-4, 5)。

毎年集団活動指導者研修を行いリーダーの養成を行っている(資料7-1-⑥-6)。

練習場所として陸上競技場,野球場,体育館(第一,第二),武道場,福利センターがある(資料 7-1-6-7)。

AED (自動体外式除細動器) を設置して、クラブ活動中の事故に備えている (資料 7-1-⑥ 8)。

資料 7-1-6-1

詫間電波工業高等専門学校学生会準則

- (10) 校長の最終決定権及び教員の指導に関すること。
- (11) 選挙に関すること。
- (12) 規約の改正に関すること。
- (13) 規約の発効に関すること。
- 第7条 学生会は、毎年度、事業計画書及び収支予算書について学校の承認を受け、また事業報告書及び収支決算書を学校に提出するものとする。
- 第8条 学生会の指導については、校長の命を受けて、学生主事が総括する。
- 2 各部局には校長の命じた指導教員を置いて、それぞれの活動の指導にあたるものとする。 附 則

この準則は、平成16年4月1日から施行する

(出典 平成19年度学生便覧 114頁)

資料 7-1-6-2

平成18年度 クラブ関係予算(案)

局	クラブ名	物品購入費	参加登録料	交通費	補助費	計
	野 球 部	****	****	****	****	****
	バスケットボール部	****	****	****	****	****
	ソフトテニス部	****	****	****	****	****
	バレーボール部	****	****	****	****	****
	卓 球 部	****	****	****	****	****
	柔 道 部	****	****	****	****	****
	剣 道 部	****	****	****	****	****
体	陸 上 部	****	****	****	****	****
育	サッカー部	****	****	****	****	****
局	ョ ット 部	****	****	****	****	****
	水 泳 部	****	****	****	****	****
	空 手 部	****	****	****	****	****
	トレッキング部	****	****	****	****	****
	少林寺拳法部	****	****	****	****	****
	バドミントン部	****	****	****	****	****
	テ ニ ス 部	****	****	****	****	****
	≅ +	****	****	****	****	****
	吹 奏 楽 部	****	****	****	****	****
	新 聞 部	****	****	****	****	****
	無 線 部	****	****	****	****	****
文	E S S	****	****	****	****	****
化	落語 研究部	****	****	****	****	****
局	天 文 部	****	****	****	****	****
	写 真 部	****	****	****	****	****
	将 棋 部	****	****	****	****	****
	計	****	****	****	****	****
	SJRC同好会	****	****	****	****	****
	書 道 同 好 会	****	****	****	****	****
	応援団同好会	****	****	****	****	****
	サイクリングクラブ同好会	****	****	****	****	****
同	情報総合研究会	****	****	****	****	****
好	絵 画 同 好 会	****	****	****	****	****
会	模型 同好会	****	****	****	****	****
	文 芸 同 好 会	****	****	****	****	****
	軽 音 楽 同 好 会	****	****	****	****	****
	茶 道 同 好 会	****	****	****	****	****
	計	****	****	****	****	****
	合 計	****	****	****	****	****

1. 物品購入費 : 各クラブから申請のあった物品購入及び修理費等 2. 参加登録料 : 大会参加費、連盟登録料、審判登録料等 【備考】

3. 交通費 大会参加のための交通補助費(1/2負担)

> 平成18年度学生総会資料) (出典

資料 7-1-6-3

学生会規約

学生総会

- 第13条 学生総会(以下「総会」という。)は、全会員をもって構成し、本会の最高決議機関である。
- 第14条 総会は、会長が招集し、期日・会場・議題の告示は3日以前に行う。ただし、緊急の場合はこの限りでない。
- 第15条 総会は、学期毎に1回開く。ただし、次の場合は臨時に開くことができる。
 - (1) 全会員の4分の1以上から要求があったとき
- (2) 中央委員会から要求があったとき
- 第16条 総会には、議長・副議長をおく。
- 2 総会の議長・副議長は、中央委員会の委員長・副委員長があたる。
- 第17条 総会にはかる事項は、次の通りとする。
 - (1) 事業計画の承認
 - (2) 決算報告の承認
 - (3) 予算案の承認
 - (4) 部の新設・廃止の承認
 - (5) 臨時会費の徴収に関する決議
 - (6) その他本会に関する重要事項
- 第18条 議長は、議案の審議に際し、必要と認める資料の提出を求めることができる。

(中略)

文化局・体育局及び部・同好会

- 第38条 本会に、次の2局と部及び、同好会をおく。
- (1) 文化局
- (2) 体育局
- 2 部・同好会については、別に定める。
- 第39条 文化局・体育局は、各文化に属する部(以下「文化部」という。)・体育に属する部(以下「体育部」という。)の部長をもって構成し、次の任務を行う。
 - (1) 本会の主催する文化行事・体育行事に際し、執行部の計画立案に参画し、運営を補佐する。
 - (2) 文化局は,文化部相互の、体育局は,体育部相互の連絡調整を計り,部活動を活発化させる。
 - (3) 部の予算要求の調整
 - (4) 総会及び中央委員会への議案の提出

(出典 平成19年度学生便覧 116頁)

資料7-1-6-4

監査委員会

監査委員会

第52条 監査委員会は、本会の会計・物品及び活動を監査する。

第53条 監査委員会は、第4学年の各クラスから1名ずつ選出された委員をもって構成する。

第54条 監査委員会の任期は1か年とする。

第55条 監査委員会は、委員長を互選する。

第56条 監査委員会の会議は、委員長が招集する。

2 会議は、全委員の出席を必要とする。

第57条 監査は、学期毎に1回以上行い、その結果を総会に報告しなければならない。

第58条 監査委員会は、監査に際し、必要と認める会員の出席、または資料の提出を求めることができる。

(出典 平成19年度学生便覧 118頁)

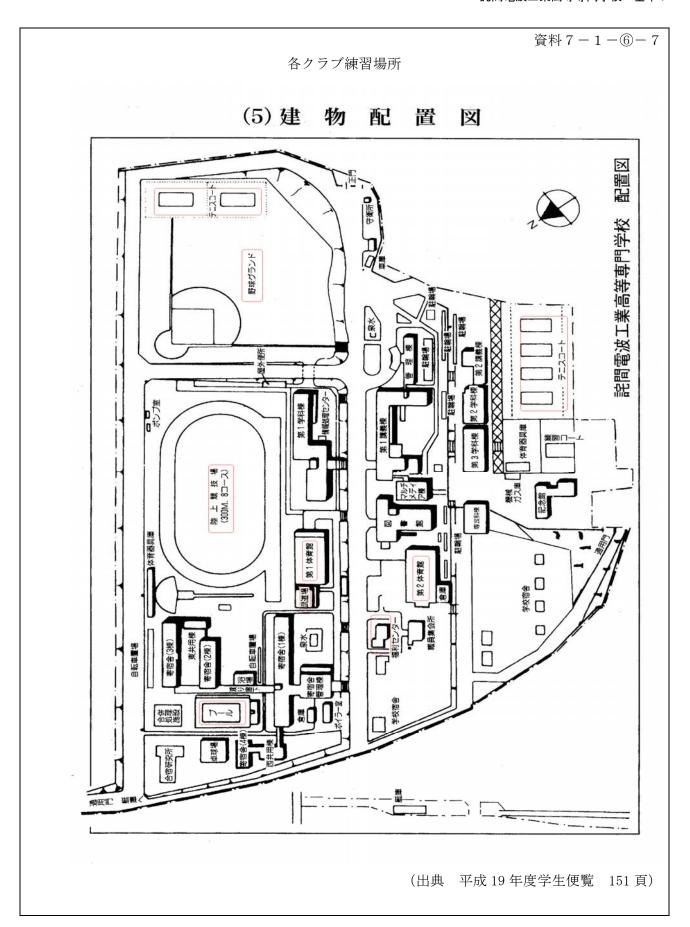
資料7-1-6-6

平成18年度集団活動指導者研修 (体育系リーダーシップセミナー) 日程表

(学校名 詫間電波工業高等専門学校)

	·	r	(字校名 託間電波工業局等専門字校)
時 刻	9月1日 (金)	時刻	9月2日(土)
	,	6:30	起 床 周辺清掃, 散策
		7:00	朝のつどい
		7:30	朝食
		9:00	特別講義
	,	11:30	昼食
		12:30	香川県青年センター 出発
		13:00	丸亀競技場
		10.00	トレーニング講習会実施 指導者によるトレーニングを実施する
	336.1.4. 111 000		
1.6:00	学校 出発	15:00,	
17:10	香川県青年センター 到着	15:40	学校 帰着
17:30	夕食		
18:30	入浴		
19:00	自由討議		
21:00	寝具準備		
22:00	就寝		
		4.	

(出典 学生課学生支援係)



資料7-1-6-8

AED設置場所

2006.12.19

AED設置場所の移動について (お知らせ)

学 生 課

教職員の皆様にAED設置場所の移動についてお知らせします。

本校には現在2基のAEDが設置されておりますが、下記のとおり場所を変更し、専用のAEDボックスを設置しました。

なお、AEDボックスの扉を開けますと、周囲への緊急事態発生連絡及び盗難防止のため、アラームが鳴り、警報灯が点滅しますのでご注意ください。

記

旧設置場所	新設置場所			
図書館1階学生課事務室	図書館1階廊下 (写真1,2参照)			
寄宿舎 1 棟 2 階当直室(舎監室)	寄宿舎管理棟2階寮事務室前 (写真3,4参照)			



写真1 (図書館玄関)

写真2 (図書館玄関を入って右側の壁面)



写真3 (寄宿舎管理棟玄関)

写真4 (寄宿舎管理棟2階寮事務室前)

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

学生のクラブ活動や学生会活動には支援体制が確立されており、承認・監査の手続きも確立されていて、支援体制は機能している。

観点7-2-①: 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学級担任による生活面の指導(資料7-1-①-5, 6)の他に学生相談室による体制が整備されている(資料7-2-①-1)。

相談室員として学外にも2名のカウンセラーを依頼している(資料7-2-①-2)。

学内の相談員は各種研修会に参加している。また、学外カウンセラーを講師として教員を対象とする講演会も行っている(資料 7-2-①-2)。

保健室を設置しており、健康相談などに対応している(資料7-2-①-2)。

AEDを設置して(資料7-1-6-8)緊急時に利用できるよう講習会を行っている。

セクシュアル・ハラスメント防止委員会が設置されている(資料7-2-①-3)。

経済面では日本学生支援機構による奨学生への推薦制度や各種奨学金制度がある(資料 7-2-1 -4 , 5)。

授業料免除および入学料に関する納付猶予や免除制度がある(資料7-2-①-6~8)。

詫間電波工業高等専門学校学生相談室規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第12条第2項の規定に基づ き、学生相談室について,必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 学生相談室は、学生からの相談に応じ、問題解決に必要な指導及び助言を行うため、 次に掲げる事項を行うことを目的とする。
 - 一 就学に関すること
 - 精神衛生に関すること
 - 三 学生のプライバシーに関すること
 - 四 前各号の事項に必要な調査研究に関すること
 - 五. その他学生相談に関すること

(組織)

- 第3条 学生相談室に次の職員を置く。

 - 室 長二 相談員
 - 三 カウンセラー 若干名
 - 四 補助相談員

(任:命)

- 第4条 室長は、校長が任命する。
- 2 相談員は、各学科及び一般教科からの推薦に基づき、校長が任命する。
- 3 カウンセラーは、学外の有識者に校長が委嘱する。
- 4 補助相談員は、本校の看護師をもって充て、校長が任命する。
- 第5条 第3条第1号及び第2号に規定する職員の任期は1年とし、再任を妨げない。 ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。 (任務)
- 第6条 室長は、学生相談室任務を掌理する。
- 2 相談員は、主として学生の相談等に関し、助言し援助に当たる。
- 3 カウンセラーは、主として専門的な立場から助言を行う。4 補助相談員は、相談員及びカウンセラーを補佐するとともに、学生相談室の補助的任務 に当たる。

(委員会)

- 第7条 学生相談室の円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校学生相談室委員会 (以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。 附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

学生相談状況(1/2)

平成19年 3月10日現在

平成 18 年度 学生相談状況等の報告書

1. 学生相談活動

本校の学生相談は専門のカウンセラー(臨床心理士)と教職員による。

- □ 専門のカウンセラーは次の体制で行っている。
- ○カウンセラー 古川 信子

相談 目時 第1・3週 金曜日 16時30分~17時30分

○カウンセラー 島原 一恵

相談 目時 毎週 月曜日 13時30分~17時30分

注:お二人は図書館棟2階の学生相談室において相談に応じている。

- □ 教職員の学生相談体制は以下の通りである。
 - ・運営の基盤は「詫間電波工業高等専門学校学生相談室規定」

「詫間電波工業高等専門学校学生相談室委員会規定」に則り、

委員会を開催し、学生相談の職務を行っている。

・平成18年度 学生相談室 担当教職員は以下の者が担当した。

学生相談室 室長 一般 教科 細谷 守

相談員 一般 教科 内田 由理子

相談員 情報通信工学科 青海 惠之

相談員 電子 工学科 木下 敏治

相談員 電子制御工学科 一色 弘三

相談員 情報 工学科 鰆目 正志

補助相談員 看護師 三崎 保子

- ・教職員は主として教員室、保健室等で面談に応じ、時日を設定してカウンセラーの勤務日でない曜日・時間に学生相談室で面談への 対応をした。
 - 2. 学生相談以外の活動状況

平成18年 4月 新入生のオリエンテーションで校内カウンセラーを説明

平成18年 5月 学生相談員とカウンセラーとの合同学習会

平成18年 7月 「1年生の高専生活における意識調査」

アンケート調査の実施

アンケートに関しては相談室員が集計している。

但し、個人情報に関するマル秘事項として公表をしていない

平成18年 9月 講演会「心の窓は開いていますか」・・講師 古川 信子先生

平成18年11月 平成18年度 中国・四国地区メンタルヘルス研究協議会に参加

(一色 弘三教員 、溝下 洋和学生課長)

平成18年12月 第44回 全国学生相談研修会

参加申し込みをしたが、多数の参加希望があり、参加できず。

平成19年 1月 第3回 全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会に参加 (鰆目 正志教員 、三崎 保子看護師)

詫間電波工業高等専門学校 基準7

	学生相談状況(2/2)	資料 ′	7-2-1-2
非公開			
		(出典	学生相談室)

詫間電波工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 セクシュアル・ハラスメント防止委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定 めるものとする。

(目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - ー セクシュアル・ハラスメント防止対策の策定に関すること
 - 二 セクシュアル・ハラスメントに関する相談及び救済に関すること
 - 三 セクシュアル・ハラスメント防止等に関する研修の実施に関すること
 - 四 その他セクシュアル・ハラスメントの防止及び排除に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長及び校長補佐
 - 三 事務部長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第7条 委員会の事務は、総務課人事係において処理する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

奨学制度

(4) 奨学制度

日本学生支援機構

人物・学業ともに特に優れ、かつ健康体であって、経済的理由により著しく修学に困難があると認められる者に対して、選考の上奨学金が貸与される。

日本学生支援機構奨学生は、前年度に採用候補者として決定し、高専に進学後本採用となる者と、入学後新たに出願して採用される者がある。

奨学生の募集は、通常年1回(状況により年2回)行われるが、学生掲示板(学生課横、学生玄関)により周知するのでよく注意すること。

なお、家計に急激な変化を生じた場合には、随時窓口で相談に応じる。

その他奨学会(日本学生支援機構以外の主な奨学会)

募集については、学生掲示板により周知するので、注意すること。下表は平成18年度の要項に基づいている。

(出典 平成19年度学生便覧 7頁)

資料7-2-①-5

各種奨学制度の利用実績

奨 学 会 名	対象学年	貸与· 給付	月 額(円)	備考
あしなが育英会	全 学 年	貸与	25,000	
愛媛県教育委員会	第1~5学年	貸与	自宅 18,000	保護者は愛媛県に在住 募集は中学校で
香川育英会	第1~3学年	貸与	18,000	
香川県教育委員会	第1~5学年	貸与	自宅 18,000 自宅外 23,000	保護者は香川県に在住 募集は中学校で
木村奨学会	第4学年	給与	自宅 25,000 自宅外 30,000	募集は3年次
交通遺児育英会	全 学 年	貸与	20,000~40,000	
近藤育英会	全 学 年	給与	12,000	
関 育 英 会	第2~5学年	貸与	20,000	募集は2年次
高松市教育委員会		給与	9,000	保護者は高松市に在住
三豊市教育委員会	第1~5学年	貸与	15,000	保護者は三豊市に在住

平成18年度実績					平成19年度貸与又は給与額							
区 分	1年	2年	3年	4年	5年		対象学年	自宅・自宅外	月額(円)			
日本学生支援機構	5	5	11	9	9	1年~3年	自宅	21,000				
第一種奨学生	,	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	- 11	,			自宅外	22,500				
"	0	0	0	0	0	0	9	9	2	4年~5年	自宅	44,000
第二種奨学生				Ü			1- 0-	自宅外	50,000			
その他奨学会	4	4	1	2	2		_		18,000~ 30,000			

日本学生支援機構 第二種奨学生は有利子貸与で対象は4年・5年である。

(出典 平成19年度学生便覧 8頁)

[平成18年度 前期用]

[目次]

授業料免除の申請について 1 提出書類について 2 申請書類の書き方について (授業料免除期) 3 (所得申告証明顯) 4 (家庭調書) 5~

詫間電波工業高等専門学校 学生課 学生生活係

(出典 平成18年度前期授業料免除説明会資料)

資料 7-2-①-7

入学料免除制度

- 第33条 本校に入学する者で、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合には、入学料の徴収を猶予することがある。また、入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者が死亡し、又は入学する者若しくは入学する者の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けた場合その他やむを得ない事由により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合には、入学料の全額若しくは半額を免除し、又は徴収を猶予することがある。
- 2 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合又は休学、 死亡その他やむを得ない事情があると認められる場合には、授業料の全額若しくは一部を免除 し、又はその徴収を猶予することがある。
- 3 風水害等の災害を受けたことにより、寄宿料の納付が困難であると認められる場合には、寄宿料の全部を免除することがある。
- 4 前3項に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 平成19年度学生便覧 22頁)

授業料免除制度利用実績

平成18年度後期授業料免除者

全額免除	半額免除
32名	17名

(出典 学生課学生支援係)

(分析結果とその根拠理由)

生活面に係わる指導体制は学生相談室を中心に整備されていて、相談状況から機能していることがわかる。経済面での支援も各種免除制度や奨学金制度により整備されていて、利用実績から機能していることがわかる。

観点7-2-②: 特別な支援を行うことが必要と考えられる者(例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。)への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。 また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生には個室を与え、専用の補食談話室やシャワー室を設置している(資料7-2-2-1、2)。

宗教上の配慮から、留学生に対しては補食談話室を2つに分けて設置し(資料7-2-2-2)、 自炊を許可している。

チューターと指導教員がともに生活面での相談に乗っている(資料7-1-5-2, 3)。

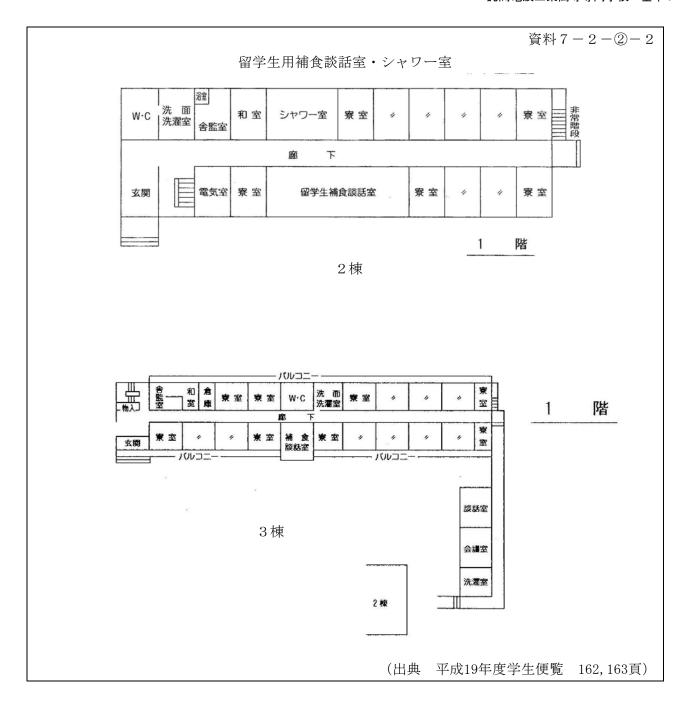
毎年度初めに留学生歓迎会を開催している(資料7-2-2-3)。

留学生専用パソコンルームが設置されている(資料7-2-②-1)。

障害のある学生に対しては、エレベーター、自動ドア、スロープ、休憩場所、身障者用トイレを設置している。また、クラスルームの配置も考慮されたものとなっている(資料7-1-2-15、資料7-2-2-1。

資料 7-2-2-1 留学生用個室・パソコンルーム 108 110 112 洗面 洗濯室 監室 wc 1 和室 庫 102 104 106 107 109 111 113 115 | 117 補食 玄 関 階 倉庫 ホール 談話室

(出典 平成19年度寄宿舎3棟部屋割表)



資料7-2-2-3

留学生歓迎会

平成18年度 留学生歓迎会実施要項

1. 目的

日本人学生、チューター、指導教員等が出席し、新留学生を交えてお互いの国の風 土、生活、文化、勉学等について語り合うことにより留学生との親睦を深める。

2. 日 時

平成18年6月26日(月) 16時15分~17時30分

3. 日 程

時 間	. 内 容	担当	備考
16:15	開会	学生課長	
16:20	校長挨拶	校長	
16:30	自己紹介	留学生全員(5名)	
	紹介	チューター	
16:40	歓迎のことば	クラスの代表学生 学生会会長	
16:45	留学生の受入れ状況等	教務主事	
16:50	懇談会		
}			
17:30	閉会	学生課長	

(進行は学生課長)

4. 場 所

福利センター1階 食堂

5. 参加者 50名

留学生 5名 電子工学科5年1名、電子制御工学科5年2名、 情報工学科4年1名、電子制御工学科3年1名

チューター2名、学生会3名、新留学生在籍クラス学生2名

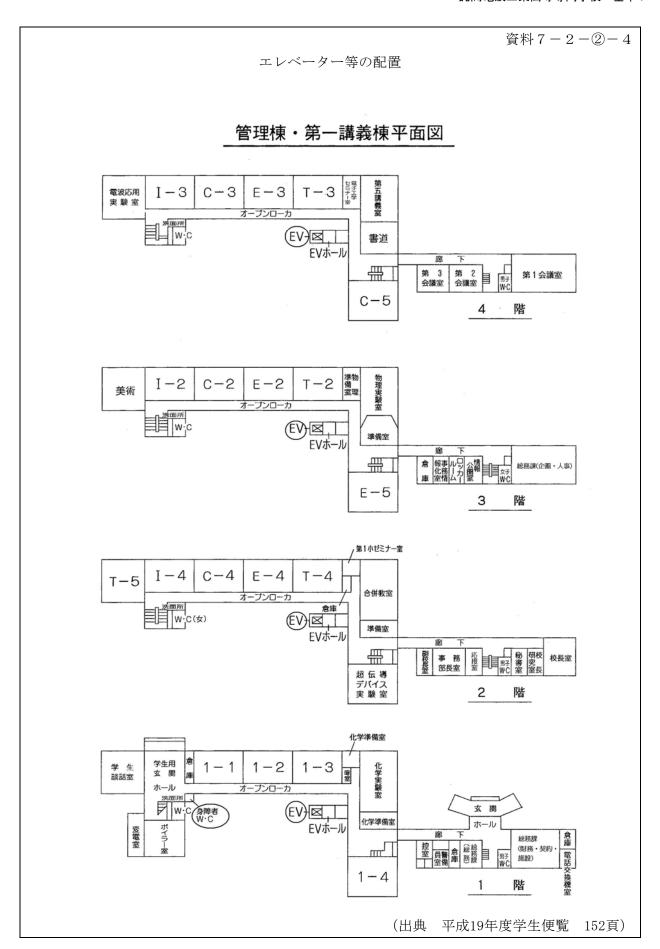
校長、教務主事(国際交流委員会委員長)・教務副主事・主事補2名、学生主事・

主事補3名、寮務主事・主事補3名・一般較科長、情報通信工学科長、 電子工学科 長、電子制御工学科長、情報工学科長、進路指導室長・補佐、

留学生指導教員4名、留学生学級担任1名

事務部長、総務課長、学生課長、学生課職員

(出典 学生課教務係)



(分析結果とその根拠理由)

留学生には個室や補食室設置など生活面での援助が行なわれている。障害のある学生に対してもエレベーターなどの設備を設置し、最適な場所にクラスルームを配置することで支援が行われている。

観点7-2-③: 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能 しているか。

(観点に係る状況)

学生寮は4棟あり、1棟・3棟が男子寮、4棟が女子寮として使用されている。1棟には食堂、事務室があり、集会室が2室設置されている(資料7-2-3-1)。

各棟各階には補食談話室が設置されている。自習室も1棟はほぼ各階に、3棟・4棟にはそれぞれ1室ずつが整備されている(資料7-2-3-2、3)。

パソコンルームが各棟に設置されている(資料7-2-2-1,資料7-2-3-2,3)。

夜間には1棟、3棟にそれぞれ舎監が勤務しており、点呼や巡回、学習相談を行っている(資料7-2-3-4)。

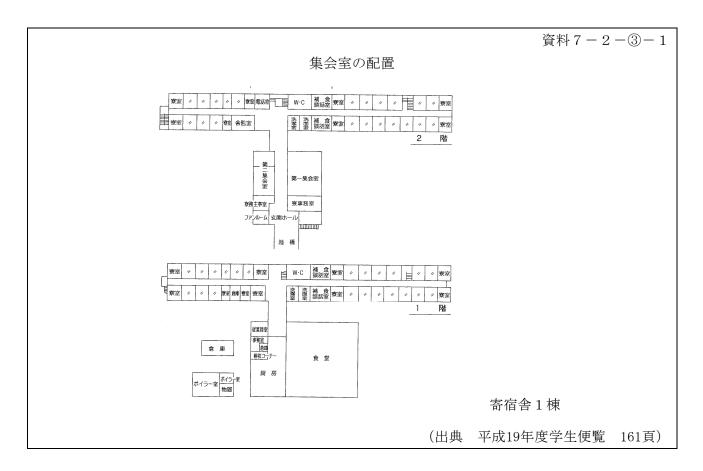
3棟舎監は4棟における学習相談にも応じている(資料7-2-3-5)。

自習時間が決められており、寮委員が自習の補助を行っている(資料7-2-3-6、7)。

寮委員と班長は寮生の学習・生活両面での相談に乗っている(資料7-2-3-8,9)。

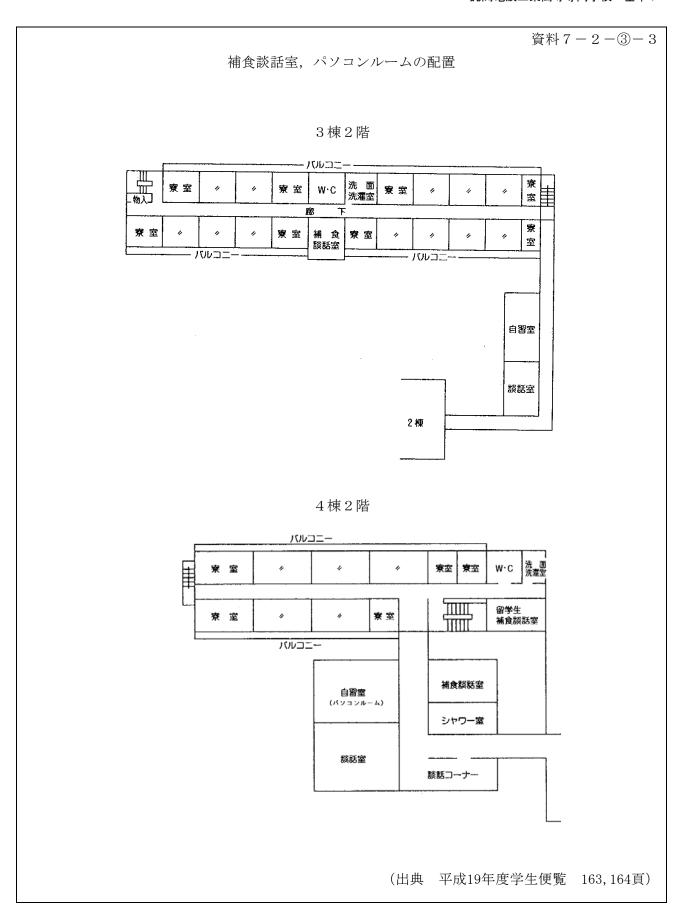
試験前には学習相談会(勉強会)が開かれている(資料7-2-3-10)。

寮指導部が巡回をして病欠の有無を確認するとともに、寝坊をしている寮生を起こして学校へ登校させている(資料7-2-3-11)。



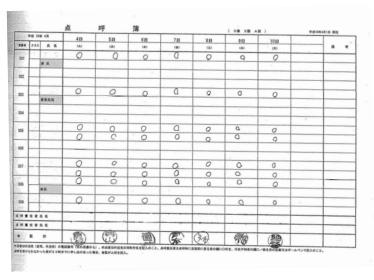
詫間電波工業高等専門学校 基準7





資料 7-2-3-4

舎監点呼簿



(出典 学生課学生生活係)

資料7-2-3-5

3棟舎監による学習相談

平成18年 4月

寄宿舎3棟舎監各位

寮 務 主 事

寄宿舎4棟女子寮生に対する学習相談について(依頼)

このことについて、下記のとおり依頼しますので、よろしくお願いします。

記

- ・20:00に寄宿舎3棟舎監室から寄宿舎4棟へ移動すること。
- ・寄宿舎4棟各階を巡回後、1階電話当番室にて待機すること。
- ・女子寮生の学習相談を行うこと。
- ・学習相談は、点呼時間21:30までを限度とすること。
- ・寄宿舎4棟への出入りについて
 - O 西共用棟2階の「出入口扉」を利用する場合は、当直用の鍵を使用すること。
 - O 4棟玄関を利用する場合は、3棟当直室に備え付けてあるカードキー を使用すること。
- ・寄宿舎4棟にて学習相談を行っている間は、寄宿舎3棟舎監室入口ドアのホワイトボードに「寄宿舎4棟で現在学習指導中であること、又、用事のある場合は1棟舎監室へ連絡すること」と明記しておくこと。

(出典 寄宿舎3棟舎監室掲示物)

資料7-2-3-6

七宝寮(1,3棟)日課表

日 課 表

	時刻	寮生の留意点
起 床	7:00(チャイムを鳴らす)	洗面等を行う。
ラジオ体操	7 : 05~(放送する) (休日は実施せず)	1棟玄関前に集合する。
清 掃		清掃当番は自室, 廊下, 階段 等の清掃を行う。
朝食	7:40~8:30	
授業の準備	8:00~8:50	
登校	8:50(チャイムを鳴らす)	自室の戸締まり施錠を行う。 平日の9:05~15:00の間は 自室に入ってはならない。
昼 食	12:10~13:10 (休日は12:00~13:00)	
帰 寮		, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
清 掃	16:00~17:00 (休日は17:00~18:00)	洗面所,洗濯所,便所,廊下 等の清掃を行う。
入 浴	17:00~21:50	入浴終了後, 風呂当番は清掃 し, 湯を抜き消灯する。
夕 食	17:00~19:00	19:00までに食事を終わる。
自習時間	20:00~22:00 (金・土曜日は自由時間)	みだりに自室を離れたり,他 人の迷惑になるような言動を 慎み静かに自習する。
門限	22:00 (チャイムを鳴らす)	-
点 呼	22:00 (放送する)	自室の前に整列し, 班毎に点 呼を受ける。
自由時間	22:00~23:00	
自主消灯	23:00(チャイムを鳴らす) (4 ・5 年生は24:00)	静かに就寝する。 電気スタンドを用いて自習するものは、同室者の睡眠を妨 げないこと。自主消灯後は、 他人の部屋に行かないこと。

備 考 (1) テレビの視聴時間は、消灯まで

- (2) 天井灯の自主消灯時刻は試験中も同様とする。
- (3) 補食用コンロ・電熱器の使用時間は、消灯まで
- (4) 運動用具の使用時間は、戸外は日没または、19:00まで 室内は、19:00まで(自習のない日は、21:30まで)

(出典 平成19年度学生便覧 132頁)

資料7-2-3-7

紫雲寮(4棟)日課表

日 課 表

	時 刻	寮生の留意点
起 床	7:00(チャイムを鳴らす)	洗面等を行う。
ラジオ体操	7 : 05~(放送する) (休日は実施せず)	紫雲寮玄関前に集合する。
清 掃		清掃当番は自室, 廊下, 階段 等の清掃を行う。
朝食	7:40~8:30	
授業の準備	8:00~8:50	
登校	8:50 (チャイムを鳴らす)	自室の戸締まり施錠を行う。 平日の9:05~15:00の間は 自室に入ってはならない。
昼 食	12:10~13:10 (休日は12:00~13:00)	
帰 寮		
清 掃	16:00~17:00 (休日は17:00~18:00)	洗面所,洗濯所,便所,廊下 等の清掃を行う。
入 浴	19:00~21:00	入浴終了後, 風呂当番は清掃 し, 湯を抜き消灯する。
夕 食	17:00~19:00	19:00までに食事を終わる。
自習時間	20:00~22:00 (金・土曜日は自由時間)	みだりに自室を離れたり,他 人の迷惑になるような言動を 慎み静かに自習する。
門限	21:30 (チャイムを鳴らす)	
点 呼	21:30 (放送する)	自室の前に整列し, 班毎に点 呼を受ける。
自由時間	22:00~23:00	
自主消灯	23:00(チャイムを鳴らす) (4・5年生は24:00)	静かに就寝する。 電気スタンドを用いて自習するものは、同室者の睡眠を妨 げないこと。自主消灯後は、 他人の部屋に行かないこと。

備考

- (1) テレビの視聴時間は、消灯まで
- (2) 天井灯の自主消灯時刻は試験中も同様とする。
- (3) 補食用コンロ・電熱器の使用時間は、消灯まで
- (4) 運動用具の使用時間は、戸外は日没または、19:00まで

-140-

(出典 平成19年度学生便覧 140頁)

資料7-2-3-8

(役員の任務)

- 第4条 寮委員は舎監又は寮務主事等関係教職員との連絡を密にし、その任務を行う。
 - 寮委員長は寮委員の任務のほか次の任務を行う。
 - 一 寮委員会を代表する。
 - 二 班長を任命する。
 - 三 寮生全体への連絡事項の周知にあたる。
 - 四 寮生名簿を整理する。
 - 五 寮に関する記録を保管する。
 - 六 月一回寮委員会を招集し寮委員相互の連絡を密にする。
- 2 寮副委員長は寮委員の任務のほか寮委員長を補佐し、寮委員長事故あるときはその任務を代 行する。
- 3 寮委員は相互の連絡をとり、舎監又は寮務主事の指導のもとに次の任務を行う。
 - 一 寮生の相談相手となり寮生間の親睦を促進する。
 - 二 寮生の保健衛生状態に気をつけ、寮生に病気その他事故の生じた場合は直ちに舎監又は寮 務主事等関係教職員に申し出る。
 - 三 寮規約及び寮生心得に従って規律の維持向上と災害の防止に努める。
 - 四 寮務主事の承認をうけて入室者の割当て及び移動を行う。
 - 五 各階の寮委員は日誌をつけ、点呼簿とともに舎監に提出し検印を受ける。

(出典 平成19年度学生便覧 127頁)

資料 7-2-3-9

(班 長)

第20条 寮の各階に班長を置く。

第21条 班長は寮委員の指示に従い次の任務を行う。

- 一 毎日定時に点呼を行い、寮委員に報告する。
- 二 月例大掃除の監督を行う。
- 三 寮委員不在の場合はその任務を代行する。
- 四 寮内防火班長を兼ねる。
- 五 その他寮委員と協力して寮生活の向上にあたる。

(出典 平成19年度学生便覧 128頁)

資料 7-2-3-10

学習会の開催

自主的学習(寮務)

1. 目的

安全で快適な集団生活の場と活発な自主学習ができる環境を寮生に与えることで、社会人として集団生活に適応できる学生を育成する。

2. 平成18年度の目標

低学年寮生を対象に、自習活動の記録を点検し、指導を行うことにより自主的学習の習慣を身に 付けさせる。

3. 手段

- 自主的学習の実施と記録
- (1) 自習時間は自室で学習し、記録簿に記帳する。寮委員や班長は自習活動の指導を行うとともに、 点呼時に記録簿の点検を行う。
- (2) 自習時間以降の学習は自習室または自室で行い、記録簿や自習室利用簿に記帳する。
- 学習相談
- (1) 定期試験前に教員による学習相談会を実施し、教員の評価を記録する。

4. 評価方法

- (1) 各種の記録簿から自主的学習が活発になってきているかを比較する。
- (2) 定期試験毎に成績不良の寮生数を過年度と比較する。

5. 結果

- (1) 自習活動記録によると、低学年の自習時間中の学習状況は良好であった。また、4棟の自習室利用簿からは女子寮生が自習室で活発に学習を行う様子が見て取れた。しかし、1棟の自習室利用簿には殆ど記載が無く利用状況が把握できなかった。
- (2) 4回の定期試験前に教員による学習相談会を実施して図1のアンケートを行い、図2のようなアンケート結果が得られた。若干ではあるが通学生より寮生の方がよく勉強に励んでいるようである。
- (3) 4月末と2月初めの2回主事・主事補と1年生の面談を行った。その効果かどうかは不明であるが、年度途中の退寮者が昨年度は10数名いたが、本年度は4名であった。また、2年生になれば単車通学が可能になるので退寮する学生が毎年数名出るが、今年度の新2年生退寮者は1名のみである。
- (4) 昨年度の留年寮生は、1年生12名中4名、2年生6名中1名であったが、今年度は1年生13名中2名、2年生16名2名と寮生数の割合(約25%)から見て良い結果が出ている。

6. これからの取り組み

自習活動の記録,主事・主事補と1年生との面談,教員による学習相談は今後も続けていく方針である。しかし,教員による学習相談は相談者数に対して教師の数が少ないので,教師が全ての相談に対応

-11-

(出典 平成18年度年報 11頁)

資料 7-2-3-11

巡回記録用紙 平成18年 月 日 曜日 巡回者: 1. 病欠者 部屋番号 氏名 備者 部屋番号 氏名 備考 2. 居室の状況 部屋番号 氏名 状況 鍵・電気・名札なし・遅刻・その他(鍵 ・ 電気 ・ 名札なし ・ 遅刻 ・ その他(鍵 ・ 電気 ・ 名札なし ・ 遅刻 ・ その他(鍵 ・ 電気 ・ 名札なし ・ 遅刻 ・ その他(鍵・電気・名札なし・遅刻・その他(鍵・電気・名札なし・遅刻・その他(鍵 ・ 電気 ・ 名札なし ・ 遅刻 ・ その他(鍵 ・ 電気 ・ 名札なし ・ 遅刻 ・ その他(3. 共通区域の状況 棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(棟 階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(

(出典 寮務関係資料)

(分析結果とその根拠理由)

棟

4. その他

集会室,補食室,自習室が整備されていて,寮委員,班長,寮指導部などにより,学生寮が生活・ 勉学の場として機能している。

階 玄関・階段・廊下・洗面所・便所・補食室(南・北)・喫煙室・状況(

観点7-2-4: 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

進路指導室が設置されており、準学士課程および専攻科の進路指導を統括している(資料7-2-4-1)。

進路指導委員会は進路指導室の運営を支えている(資料7-2-4-2)。

進路指導資料室(兼自習室)にはPCを設置して就職情報の検索に役立てたり、公務員試験問題集等の準備、年2回の地元企業との面談会、豊橋・長岡技術科学大学の説明会の開催、インターネットによる情報開示、進路指導説明会を行っている(資料7-2-4)。

夏季休業中に校外実習を取り入れている(資料5-1-②-5,6,14)。

保護者懇談会の当日に保護者に対する進路説明会も行われている(資料7-2-④-5)。

各学科では、公開模擬面接、面接練習、進路相談などを行っている(資料 7-2-4-6、7)。 アンケート調査や進学・就職状況によれば、大部分の学生は現在の進路指導に満足している(資料 7-2-4-8、9)。

資料 7-2-4-1

就職・進学情報の幅広い提供(進路指導)

1. 目的

就職・進学に関して、学生全員が企業から内定あるいは大学から合格を得られるようにする。

2. 平成17年度の目標

企業あるいは大学に関する情報を幅広く提供し、学生が納得した上で受験し、希望する企業から内 定あるいは大学から合格を得られるようにする。

3. 手段

- 就職・進学情報を幅広く提供する。
- (1) 進路指導室を複数名の教員で構成し、学生あるいは企業への対応時間を増やす。
- (2) 来校された企業や求人票, 希望調査の集計をWEBで掲載し、学内のパソコンから随時情報を得ることができるようにする。
- (3) 地元企業との面談会を開催し、就職希望の学生に地元の企業を知る機会を与える。
- (4) 学内で、大学説明会や企業説明会を開催し、希望学生により深い情報を提供する。

(出典 平成17年度年報 75頁)

進路指導委員会規程

(委員会)

第7条 進路指導室の円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校進路指導委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 本校グループウエア規程集)

資料 7-2-4-3

企業との面談会

· 情報公開

平成18年1月から、来校された企業や求人票、希望調査の集計をWEBで掲載し、学内のパソコンから随時情報を得ることができるようにした(図4参照)。週に1度、定期的に更新し、常に最新の情報が得られるように努力している。平成18年度も同様に取り組む予定である。

・ 地元企業との面談会

平成18年度卒業予定者に対して、平成18年3月2日に開催した。学生にとっては、企業を知る良い機会であり、来年度以降も同様に開催予定である。また、近年地元に就職を希望する学生が増え、来年度の面談会に向けては、採用意欲の高い地元企業を招くことも考えている。

・ 大学および企業説明会

平成17年度卒業生に対しては、豊橋・長岡技術科学大学の大学説明会を開催した。平成18年度は、地元大学や希望者が多い企業にOBなどを通じて説明会を依頼して開催する予定である。

(出典 平成17年度年報 76頁)

資料 7-2-4-4

平成18年度 第1回 進路ガイダンス

平成17年12月14日(水) 於:視聴覚教室

詫間電波工業高等専門学校 進路指導室

詫間電波工業高等専門学校

(出典 進路指導室資料)

詫間電波工業高等専門学校 基準7

資料7-2-4-5

保護者に対する進路説明会

4. 日 程 8:00~11:00 受 付 (受付後、8:45~9:50まで学級懇談会)

10:00~11:00 通常総会

11:00~11:25 学校側からの連絡事項

(教務主事, 学生主事, 進路指導室長)

11:25~ 昼食、学級担任との懇談会

(出典 平成18年度後援会通常総会実施要領)

資料7-2-4-6

情報工学科公開模擬面接



(出典 情報工学科)

情報工学科進路相談

18年度進路相談状況に関する調査 アンケート集計結果(情報工学科)

		情報工学科の教員			
		就職希望学	対職希望学	進学希望学生	准学希望学生
	氏名	生相談回数	生相談時間	相談回数	相談時間
進学			2 12 20 - 11-7	2	0.66
就職		50	9		
進学				1	0.5
進学				26	22.33
進学				1	1
進学				4	0.67
進学				1	0.17
進学				1	0.5
進学				3	1.5
就職		2	2		
進学				1	1
進学				5	4.33
就職		3	2		
進学				5	1
進学				26	50
就職		0	0		
就職		8	11.5		
就職		3	1.67		
進学				1	0.25
進学				8	3.34
進学				7	3.2
進学				3	2
進学				5	
進学				10	7.33
進学		ļ.,		8	6.5
就職		4	1.67		
進学				2	1 22.27
進学				28	38.67
進学				22	13 1.33
進学				4	
進学				24	23.5
進子				9	6.5
進学				0	0.0
進学				10	7.5
進子				13	23
就職	-	5	4	13	23
進学	-	1 3	4	4	1
就職		6	3.5	4	<u> </u>
進学		0	3.0	22	5
進学				3	0.67
就職		1	0.08	,	0.07
470年34	승計	82	35.42	261	231.45
		02	30.42	201	201.40

14. 436. 5.1	0 #L P	7# NF 1F	**	
他字科	の教員	進路指導室長		
相談回数	相談時間	相談回数	相談時間	
16	2	20	4	
20	30			
3	3			
	,			
28	36			
1	0.5			
10 2	1.5 0.75			
4	3			
4	5	3	3	
88	81.75	23	7	

(出典 情報工学科)

進路に関するアンケート(1/6)

進路に関するアンケート 5年___ _学科 あなたは、 自分の進路 (就職・進学) をいつ頃決定しましたか。 1 4年生以前 2 4年の前期 3 4年の後期 4 5年の最初 5 5年の途中 あなたは、受験先(会社・大学)を決定したのはいつですか。 1 4年生以前 2 4年の前期 3 4年の後期 4 5年の最初 5 5年の途中 (専攻科生は、上記の記述において4年生を専攻科1年、5年生は専攻科2年と読みかえて下さい) 進路ガイダンスについてお尋ねします。今年度は、12月、2月、4月の3回行いましたが 回数は 1 増やした方がよい 2 適切 3 減らした方がよい 開催時期は 1 もう少し早いほうがよい 2 適切 3 もう少し遅い方がよい 内容について 1 もっと詳しく 2 適切 3 もっと簡単に 地元企業との面談会についてお尋ねします。3月上旬に三十数社を招いて開催しました。 1 もっと早いほうがよい 2 適切 3 もっと遅い方がよい 面談会という形態は 1 会社側の一方的な説明だけでよい 2 会社の説明と面談 3 現在の面談の形態でよい 招待する会社は 1 地元に限定せず、採用してもらえる会社 2 地元企業中心 3 採用実績のある近隣の会社 4 その他(地元での就職(進学後の就職も)を意識しましたか。 1 十分 2 ある程度 3 少し 4 ほとんど意識していない 5 全然意識しない 進路情報についてお尋ねします。進路情報は主に何から得ましたか。 1 本校および進路先のHP 2 入社 (入学) 案内 3 担任 4 先輩や友人 5 進路指導室 進路情報は公平に開示されたと思いますか。 1 十分に公平 2 ほぼ公平 3 普通 4 やや不公平 5 大いに不公平 不公平と思う理由 (進路の選択において、保護者と話し合いましたか。 1 十分 2 かなり 3 ある程度 4 あまり話し合っていない 5 話し合っていない あなたは、学校の進路指導に対して満足していますか。 1 十分満足 2 やや満足 3 満足 4 やや不満 5 大いに不満 満足の理由は何ですか。複数回答可

1 希望する進路先に内定(合格) 2 教職員が誠意を持って対応 3 面接の練習を含め教員が十分指導

4 会社との折衝を十分してくれた 5 自分の希望や適性を考慮して進路を紹介

6 その他(不満の理由を挙げてください。

(.

ありがとうございました。

進路に関するアンケート(2/6)

あなたは、 自分の進路 (就職・進学) をいつ頃決定しましたか。

1 4年生以前 2 4年の前期 3 4年の後期 4 5年の最初 5 5年の途中



あなたは、受験先 (会社・大学) を決定したのはいつですか。

1 4年生以前 2 4年の前期 3 4年の後期 4 5年の最初 5 5年の途中



進路ガイダンスについてお尋ねします。今年度は、12月、2月、4月の3回行いましたが 回数は

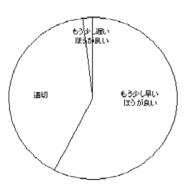
1 増やした方がよい 2 適切 3 減らした方がよい



進路に関するアンケート(3/6)

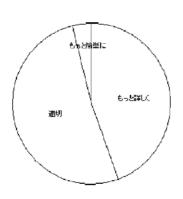
開催時期は

1 もう少し早いほうがよい 2 適切 3 もう少し遅い方がよい



内容について

1 もっと詳しく 2 適切 3 もっと簡単に



地元企業との面談会についてお尋ねします。3月上旬に三十数社を招いて開催しました。 時期は

1 もっと早いほうがよい 2 適切 3 もっと遅い方がよい



進路に関するアンケート(4/6)

面談会という形態は

1 会社側の一方的な説明だけでよい 2 会社の説明と面談 3 現在の面談の形態でよい

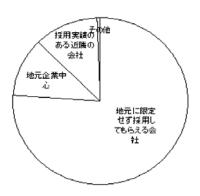


招待する会社は

1 地元に限定せず、採用してもらえる会社 2 地元企業中心 3 採用実績のある近隣の会社

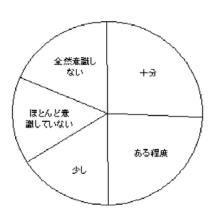
)

4 その他(



地元での就職(進学後の就職も)を意識しましたか。

1 十分 2 ある程度 3 少し 4 ほとんど意識していない 5 全然意識しない

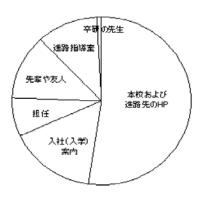


)

進路に関するアンケート(5/6)

進路情報についてお尋ねします。進路情報は主に何から得ましたか。

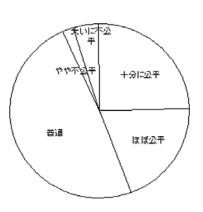
1 本校および進路先のHP 2 入社 (入学) 案内 3 担任 4 先輩や友人 5 進路指導室



進路情報は公平に開示されたと思いますか。

(

1 十分に公平 2 ほぼ公平 3 普通 4 やや不公平 5 大いに不公平 不公平と思う理由



進路の選択において、保護者と話し合いましたか。

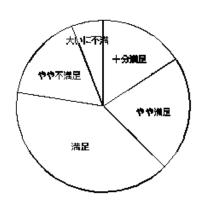
1 十分 2 かなり 3 ある程度 4 あまり話し合っていない 5 話し合っていない



進路に関するアンケート(6/6)

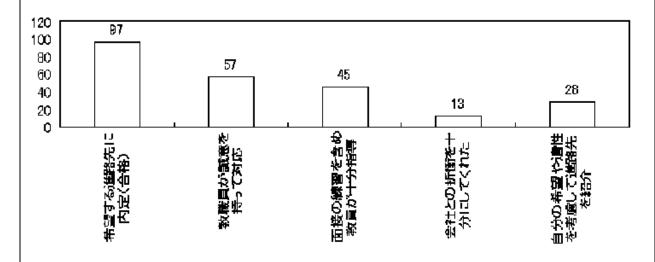
あなたは、学校の進略指導に対して満足していますか。

1 十分構足 2 やや満足 3 満足 4 やや不満 5 大いに不満



満足の理由は何ですか。複数回答可

- 1 希望する進路先に内定(合格) 2 製職員が献意を持って対応 3 面接の練習を含め製員が十分指導
- 4 会社との折衝を十分してくれた 5 自分の希望や適性を考慮して進路を紹介
- 6 その他(



(出典 進路指導室)

詫間電波工業高等専門学校 Takuma National College of Technology

HP 内検索 サイトマップ English

学校紹介 入試情報 地域連携 学生生活 学科・施設

卒業者の進路状況

平成18年度卒業者(本科)

男子	女子	승計	就職者	進学者	求人企業数	求人数	求人倍率
133	25	158	81	76	466	662	8.17

平成18年度修了者(専攻科)

男子	女子	合計	就職者	進学者	求人企業数	求人数	求人倍率
16	2	18	17	1	138	159	8.11

就職予定先の詳しい情報 →

進学予定先の詳しい情報 →

詫間電波工業高等専門学校

ホームへ | 前に戻る | アクセス | お問い合わせ

(出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/syuusyoku/sotugyou.htm)

(分析結果とその根拠理由)

進路指導室の下で就職や進学の指導が行われていて、保護者との相談にも応じる体制が整備されている。アンケートの結果から、体制は機能しているといえる。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・エレベーターやスロープの設置により障害を持つ学生の受け入れ態勢が整っている。
- ・校内 LAN の整備で情報検索や電子ジャーナル等の利用も可能である。
- ・図書館の利用も盛んであり、図書の整備や閲覧室・自習室の整備も万全である。
- ・英語合宿を開催して学生の学習意欲を喚起する努力を行っている。
- ・地元企業と学生との面談会を本校で行っている。

(改善を要する点)

- ・学生寮は老朽化対策および耐震補強のため改修工事が必要であり、毎年概算要求を行っている。
- ・編入学生には入学後の学習・生活両面での支援体制が必要である。

(3) 基準7の自己評価の概要

学習を進める上でのガイダンスは入学当初から行われており、学習に支障のないよう配慮されている。

学生が自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制は、教員個人の取り組みを基本としながら、 組織的な取り組みも様々な形式で整備されており、十分に機能している。

図書館は延長開館など自習環境が整備されており、自習室利用状況・貸出状況からみて効果的に利用されている。情報処理センター、マルチメディアラーニング・ラボも自主的学習環境として効果的に利用されている。学生談話室や福利センターも整備されており、福利厚生面も充実している。

校長・3主事と学生会役員との懇談会をはじめ学生会意見箱・中央委員会・学生会総会など学生からの要望を取り入れる仕組みがあり、さらに保護者を通じても意見を取り込むことができている。

資格試験や検定試験における単位認定制度や試験会場引き受けなど、学校としての支援体制が整備されている。

資格取得状況では、TOEICの成績が徐々に上昇している。陸上無線技術士の取得については特に情報通信工学科の取り組みが顕著であり、支援体制はある程度機能しているといえる。

留学生にはチューター制度により支援が行われ、編入学生には入学前のガイダンスで学習支援を行っている。障害のある学生には各種の学習支援機材を開発し、研修会に参加することで支援体制が整備されている。

学生のクラブ活動や学生会活動には支援体制が確立されており、承認・監査の手続きも確立されていて、支援体制は機能している。

生活面に係わる指導体制は学生相談室を中心に整備されている。相談状況から学生相談室が機能していることがわかる。経済面での支援も各種免除制度や奨学金制度により整備されている。

留学生には個室や補食室設置など生活面での支援が行なわれている。障害のある学生に対してもエレベーターなどの設備を設置し、最適な場所にクラスルームを配置することで支援が行われている。

学生寮には集会室、補食室、自習室が整備されていて、寮委員、班長、寮指導部などにより、学生 寮が生活・勉学の場として機能している。

進路指導室の下で就職や進学の指導が行われていて、保護者との相談にも応じる体制が整備されている。アンケート調査結果から、体制は機能しているといえる。

基準8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点8-1-①: 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備(例えば,校地,運動場,体育館,教室,研究室,実験・実習室,演習室,情報処理学習のための施設,語学学習のための施設,図書館等,実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。)が整備され,有効に活用されているか。また,施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本校は、昭和46年に工業高等専門学校に昇格した。約12.1万㎡の敷地に各専門学科棟・マルチメディア棟・講義棟・専攻科棟等の校舎、体育館や運動場、プール等の運動施設並びに図書館・情報処理センター・寄宿舎などを整備している(資料 $8-1-①-1\sim3$)。

校地内には、池、芝生、樹木、ベンチ等を設置し、校内環境の整備も図り、また、施設長期計画に 基づき建物の耐震補強や内外装の改修等も順次実施している。マルチメディア棟、講義棟及び各学科 棟等の校舎内には、教室や各種実験室をはじめ、教員研究室、事務室等、教育と研究に必要な部屋を 整備している。

平成12年度の補正予算において、「マルチメディア棟」が整備され次のとおり有効活用が図られた。

- ・マルチメディア棟の活用により教育水準が向上し、より創造的な教育を行うことができる環境が 整備された。
- ・既存施設の LL 教室, 女子用諸室及び一般教科の教員研究室等を建物内に整備し, 学科に縛られない共有スペースを確保したことで, 既存施設の有効活用が促進され, 狭隘解消に繋がった。
- ・高機能で最新の機器を使ったネットワークの構築,システム設計能力の開発,マルチメディア・インターネットを活用した授業・演習の比率を大幅に増加させることにより,情報技術の高度化と多様化に対応させた。
- ・映像等マルチメディア教材を利用しての授業を充実させ、TOEIC の全員受験と特に英会話能力の 大幅なレベルアップができる環境が整った。

平成13年度の補正予算において、「第一学科棟」の校舎が改修整備され次のとおり有効活用が図られた。

- ・LL 教室とコンピュータ演習室等のマルチメディア棟への集約により、PBL 等の新しい取組が可能な実験室等が整備され、創造的な工学実験・実習に向けての教育水準の向上に繋がり、狭隘解消を図ることができ、教育、研究の能率が向上した。
- ・情報処理センターが拡充され、情報処理教育に幅広く利用されることとなった。平成 12, 13 年度の整備で特に情報処理教育は目覚ましい発展を遂げた。観点8-1-2で詳しく解説する。
- ・身障者エレベーターの設置等身障者対策,老朽,劣化した外装・内部設備の改修を行い既存施設 の活性化が図られた。

平成17年度当初予算において、「専攻科棟」が整備され次のとおり有効活用が図られた。

- ・情報通信関連分野における高度技術・知識を持った人材育成機関として整備され、地域社会への 貢献が期待される。
- ・高度な研究を行う専攻科生と本科の卒業研究生が協力することにより,指導教員も含めてお互いが切磋琢磨することとなり,より一層の教育・研究の活性化及び研究の高度化が期待できる。 活用状況においては,定期に教育研究施設の利用状況実態調査を行い,点検評価委員会で審議し

(資料2-2-①-7,資料8-1-①-4),施設の有効利用に努めており(資料8-1-①-5),教室や実験室等の使用状況及び設備の稼働状況から,概ね有効に活用されているといえる(資料8-1-①-6,7)。校内の体育施設等は,学外者に対しても一時使用を認めており,有効活用に努めている(資料8-1-①-8)。

また、本校のバリアフリー化に関して、学校施設としてはもとより、地域コミュニティの拠点、地震等の災害等の応急的な避難場所としての役割を果たせるよう、適切に整備を進めてきた。各校舎を繋ぐ通路部分にスロープ・手摺及びエレベーターを設置すると共に、外部建具の自動ドア化、障害者トイレの整備を行い、有効に利用されている。また、今後も整備を行うべく計画を策定しており、更なる円滑利用が出来るよう配慮している(資料8-1-①-9)。

施設の概況

施設の概況

Lot & Building

◎土 地 Lot

平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

土 地 区 分	校舎敷地	運動場等敷地	寄宿舎敷地	宿 舎 敷 地	슴 計
面 積	63,208m	37,777mf	11,508m	8,600m²	121,093mi

◎建物 Building

平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

		E A		100 1/4	7T -47 = TB (-1)		/#	考
	ac.	区分	棟	構造	延べ面積(㎡)	建築年月	備	ち
	管	理		R4	1,213	S45. 3	## #D\X /= T	光利・西マエ光利
	第	一学科	棟	R4	3,761	S49. 2		学科·電子工学科
校	第	二学科	棟	R4	1,502	S56. 7	情報工学科	
	第	三学科	棟	R4	2,178	S62. 3	電子制御工	_字科
舎	マ		棟	R4	1,747	H14, 3	般教科	
等	専	攻 科	棟	R3	958	H18, 3	専攻科	
施	第	一講義	棟	R4	3,582	S45, 3		
設	第	二講義	棟	R2	675	S62. 3		
	図	書	館	R2	1,683	S49. 2		
	校	舎 渡 廊	下	R2	84	S62. 3		
	₹.	ルチメディア 棟 渡 廚	下	S2	48	H14. 3		
	専	攻科棟渡廊	下	S2	35	H18. 3		
	寄	宿舎管理	棟	R2	1,077	S41. 3		
	寄	宿 舎 1	棟	R4	3,711	S41. 3		
学	寄	宿 舎 2	棟	R4	1,645	S49, 2		
生	寄	宿 舎 3	棟	R5	2,628	S62, 3		
寄	紫	雲	寮	R5	1,352	S63, 3		
宿	東	共 用	棟	R2	235	S62. 3		
舎	西	共 用	棟	R2	611	S63. 3		
	寄	宿舎渡廊	下	R2	67	S41. 3		
施		*		S1	174	S49. 3		
設		*		S1·S2	127	S62. 3		
		"		S2	17	S63. 3		
	寄	宿舎ボイラー	棟	R1	83	S41. 3		
	寄	宿舎倉	庫	B1	50	S43,10		
	寄	宿舎浴	揚	R1	135	S49, 2		
	第	一 体 育	館	S1 · R1	830	S42, 1		
	第	二 体 育	館	S1 · R1	880	S59. 2		
体	第	二体育館付属倉	庫	S1	56	S59. 2		
育	武	道	場	R2	303	S49. 3		
施	卓	球	場	B1	306	S17. 4		
設	合	宿 研 修	所	R1	203	S55. 3		
ПX	体	育器 具	庫	B1	144	S47. 3		
		*		S1	40	S53. 3		
	ブ	- ル 付 属 建	物	R1	60	S42. 8		
	艇		庫	S1	110	S46, 3		
	福	利センタ	_	R2	662	S57, 4		
	職	員 集 会	所	W1	201	S17. 4		
		員集会所付属浴		W1	27	S17. 4		
そ	58	念	館	R1	318	S61, 8		
0	守	衛	所	R1	33	S42. 2		
他	車		庫	S1	70	S46. 3		
施		4		W1	74	S17. 4		
設	機	械ガス	庫	B1	16	S56. 3		
	屋	外 便	所	S1	12	S59. 3		
		合 計			33,723	223. 2	建面積	13,197㎡
		н н			50,720		AT JULY	10,107111

Takuma National College of Technology • 41

(出典 平成 19年度学校要覧 41頁)

建物配置図

建物配置図・校舎全景 Campus Map, Panoramic View of Campus



42 • Takuma National College of Technology

(出典 平成 19年度学校要覧 42頁)

沿革の大要(1/2)

沿革の大要

1943	昭和18年10月	官立無線電信講習所(東京都目黒区所在)の大阪支所として、逓信省所管の下に大阪府中河内郡 矢田村に設立
1945	昭和20年 4月	官制改正により独立し、官立大阪無線電信講習所と改称
1948	昭和23年 8月	文部省に移管
1949	昭和24年 4月 5月	香川県三豊郡詫間町に移転し、本科・第一別科及び第二別科の3科を設置 国立学校設置法(昭和24年法律第150号)の施行により詫間電波高等学校と改称
1951	昭和26年 4月	専攻科設置
1953	昭和28年 3月	詫間電波高等学校第二別科廃止
1966	昭和41年 3月	学生寄宿舎新営工事が完成し、七宝寮と命名
1967	昭和42年 1月 8月	体育館新営工事完成 水泳ブール新営工事完成
1970	昭和45年 3月	校舎、本館新営工事完成
1971	昭和46年 4月	国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和46年法律第23号)の施行により、 詫間電波工業高等専門学校設置 初代校長に石黒美種(徳島大学工学部教授工学博士)就任 第1回入学式挙行
	10月	詫間電波工業高等専門学校開校記念式典挙行
1972	昭和47年 3月	詫間電波高等学校第一別科廃止 運動場整備工事完成
1973	昭和48年 3月	詫間電波高等学校本科廃止
1974	昭和49年 2月 3月 4月 6月	第二校舎,高学年用寄宿舎,寄宿舎浴室,寄宿舎食堂増築,図書館等の新営工事完成 詫間電波高等学校専攻科廃止 武道場新営工事完成 校舎等落成記念式典挙行 国立学校設置法の一部を改正する法律(昭和49年法律第81号)の施行により詫間電波高等学校廃止
1975	昭和50年 3月 4月	校舎用地として隣接地買収 第5回入学式挙行
1976	昭和51年 3月 4月	第1回卒業式挙行 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(昭和51年文部省令第12号)の施行により電波 通信学科2学級・電子工学科1学級に改組
1977	昭和52年 3月	第二校舎增築
1979	昭和54年 4月	第二代校長に田中哲郎(京都大学工学部教授工学博士)就任
1980	昭和55年 3月	第5回卒業式举行 合宿研修所新営工事完成
	4月	国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(昭和55年文部省令第5号)の施行により 電波通信学科2学級を電波通信学科1学級・情報工学科1学級に改組 第10回入学式挙行

沿革の大要(2/2)

History

1981	昭和56年 6月	情報工学科棟新営工事完成
1982	昭和57年 4月	福利施設新営工事完成
1984	昭和59年 2月 3月	第二体育館,第二体育館付属倉庫新営工事完成 屋外便所新営工事完成
1985	昭和60年 3月 4月	第10回卒業式挙行 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(昭和60年文部省令第9号)の施行により電子制 御工学科1学級を増設 第15回入学式挙行
1986	昭和61年 8月 11月	記念館新営工事完成 創立40周年記念式典挙行
1987	昭和62年 3月 4月	電子制御工学科棟・講義棟・学生寄宿舎棟新営工事完成 第3代校長に浅井健次郎(京都大学理学部教授理学博士)就任
1988	昭和63年 3月	学生寄宿舎棟新営工事完成
1989	平成元年 4月	国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(平成元年文部省令第12号)の施行により 電波通信学科が情報通信工学科に名称変更
1990	平成 2年 3月 4月	第15回卒業式拳行 第20回入学式拳行
1991	平成 3年 4月	第4代校長に片山健一(京都大学化学研究所教授理学博士)就任
1993	平成 5年 9月 11月	学生寄宿舎を一部女子寮に転用し,紫雲寮と命名 創立50周年記念式典挙行
1995	平成 7年 3月 4月	第20回卒業式挙行 第25回入学式挙行
1996	平成 8年 4月	第5代校長に布川昊 (京都大学工学部教授工学博士) 就任
2000	平成12年 3月 4月	第25回卒業式挙行 第30回入学式挙行
2001	平成13年 4月	第6代校長に竹内賢一(京都大学大学院工学研究科教授Ph_D)就任
2002	平成14年 3月	共用棟新営工事完成
2004	平成16年 4月	独立行政法人国立高等専門学校機構法 (平成15年法律第113号) の施行により,独立行政法人 国立高等専門学校機構詫間電波工業高等専門学校設置 専攻科(電子通信システム工学専攻,情報制御システム工学専攻) 設置
2005	平成17年 3月 4月	第30回卒業式挙行 第35回入学式挙行
2006	平成18年 3月 4月 7月	第1回專攻科修了式挙行 專攻科棟新營工事完成 第7代校長に高畑秀行(高松工業高等專門学校 機械工学科 教授)就任 專攻科棟竣工記念式典挙行

(出典 平成19年度学校要覧2~3頁)

点検評価委員会での審議例

平成18年度第2回点検評価委員会議事要録

日 時 平成18年6月2日(金)16時15分から16時50分

場 所 第1会議室

出 席 者 校長,副校長,塩田校長補佐,河田校長補佐,専攻科長,一般教科長,情報通信工学科長,電子工学科長,電子制御工学科長,情報工学科長,図書館長,地域交流室長,情報処理センター長,集積回路実験室長,進路指導室長,事務部長,総務課長,学生課長

陪 席 者 総務課課長補佐(総務担当),総務課課長補佐(財務担当), 企画係長,企画係主任(記)

資料 1. 専攻科棟竣工後の各学科の占有面積平準化について

2. 事後評価シート

議事

1. 学科所有面積の平準化について

最初に、前回の会議で学科に持ち帰った案3 (平成18年5月11日開催点検評価委員会資料2)に対する学科の意見がないことが確認された。

続いて、副校長から資料1に基づき説明があり、本会議で了承されれば学科占有面積に 関する覚書として残したいとの意見があった。

審議の結果,次のとおり加筆,修正することで了承された。

- ・(14) 不測の事態が生じ教室が不足した場合は、制御工学科2階の基礎制御工学実験室をまず教室の候補とする。
- ・平成18年8月31日までに平準化を図る。

また, (13) 書道教室をクラスルームにすることについては, 情報通信工学科と電子制御工学科の話し合いの結果, 後日決定することが決まった。

委員長から、情報工学科の専攻科棟への移動を進めてほしいとの指示があった。

2. 国立大学等施設緊急整備5か年計画実施事業に関する事後評価について

総務課長から資料2の事後評価シートについて,本会議で了承を得たいとの説明があった。

審議の結果,専攻科棟に関するシートのうち,自己評価欄の内田教員,三崎教員については,入居はしていないが当初予定されていたこともあり,プロジェクトが進行中ということで記載することで了承された。

3. その他

田嶋委員から電子制御工学科棟を6月5日(月)から第3演習室以外下足で運用することの報告があった。

以 上

(出典 本校グループウェア各委員会議事要旨)

詫間電波工業高等専門学校施設の有効利用に関する規程(1/3)

詫間電波工業高等専門学校施設の有効利用に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)における校舎等教育研究施設の有効利用を図り、時代の変化や社会的要請に対し柔軟に対応した新たな教育研究活動の推進を図ることを目的とする。

第2条 第1条の目的を推進するため詫間電波工業高等専門学校点検評価委員会(以下「委員会」という。)において、5年に一度、教育研究施設の利用状況実態調査(以下「調査」という。)を実施し、教育研究等の内容に応じた使用方法等の見直 しを行い, 適宜施設の再配分を図るものとする。

(是正勧告)

- 第3条 委員会は、調査の結果、その利用方法の変更を必要と判断した場合は、校長
- にその旨報告する。 2校長は、当該教育研究施設の使用責任者(以下「施設長」という。)に対して利用方 法の是正を勧告することができる。

(是正方法の報告)

- 第4条 前条の勧告を受けた施設長は、速やかに利用方法の検討を行い、その結果を
- 委員会に対して報告しなければならない。 2 委員長は、報告を受けた検討結果について委員会で審議のうえ、その結果を校長 に報告しなければならない。

(共同研究スペース)

第5条 共同研究スペースとは、いずれの学科にも属さない全学共用の教育研究を行うスペースをいい、時代の変化や社会的要請に対し柔軟に対応した教育研究活動を 円滑に展開できるよう、弾力的・流動的に運用しなくてはならないものとする。

(共用研究スペースの確保)

- 第6条 校舎等の新築、増築及び改修(以下「新増築等」という。)を行う場合は、共 用研究スペースを確保しなければならない。 2 校舎等の新増築等に伴い、跡地スペース(新増築されることになる校舎等に入居
- する予定の教員及び学生等が当該入居前に使用している部屋等をいう。以下同じ。) が生じる場合は、これを共用研究スペースとして確保するものとする。

- 第7条 共用研究スペースの面積規模は、原則として新増築することとなる全体整備 面積のうち、廊下・ホール・便所等共通部分を除いた面積の20%を原則とし、改修の場合は調査結果により委員会において定める。ただし、全体面積が小規模、又 は特殊な用途を目的とする場合は、この限りではない。
 大規模改修時における共用研究スペースの確保及びその割合については、当該改
- 修内容に基づき、委員会の議を経て校長が定める。 3 前条第2項の跡地スペースを共用研究スペースとして確保する場合の面積規模は、
- 当該跡地スペースが存する施設長等と委員会で協議のうえ、校長が定める。

(共用研究スペースの貸与)

第8条 本校の共用研究スペースは、教育研究を目的として使用する本校の教職員に 対し校長が貸与するものとし、その許可に当たっては、委員会の議を経て校長が決 定するものとする。

(教育研究チームの選定・決定)

- 第9条 共用研究スペースを使用することができる者は、萌芽的、学際的、先端的な研究等を行う学内の教育研究チーム(学外者との共同研究を含む。)とする。 2 共用研究スペースの使用を希望する場合は、教育研究チームの代表者が共用研究スペース使用申込書(別紙)を委員会に提出しなければならない。ただし、代表者

詫間電波工業高等専門学校施設の有効利用に関する規程(2/3)

が学外者である場合は、研究チームの一員である本校の教職員が使用を申込むもの

委員会は、前項の申込みの中から教育研究チームを選定し、校長が決定する。

(使用の取消し)

- (使用の取消し) 第10条 委員会は、共用研究スペースの使用を許可された者(以下「使用者」という。) が、この規定及び使用強化条件に違反した場合には、校長にその旨報告する。 2 校長は、報告を受けたときは、内容について検討のうえ、使用の許可を取消し、 又は使用を中止させることができる。 3 委員会は、前項に定めるもののほか、本校において特別の必要が生じた場合及び 共用研究スペースの運営上、特に支障がある場合は、校長にその旨報告する。 4 校長は、報告を受けたときは、内容について検討のうえ、使用の許可を変更し、 又は取消すことができる。

(使用期間)

- (使用期間) 第11条 使用期間は、原則として5年を上限とする。 2 継続使用を希望する場合は、新たに使用申込書を委員会に提出し、使用の許可を 受けなければならない。ただし、この場合の使用期間は3年間を限度とする。 3 使用者は、使用の許可を受けた後、使用期間を変更し、又は使用を中止しようと するときは、直ちに届け出て委員会の審議・了承を経て校長の許可を受けなければ ならない
- 使用者は、使用を中止するとき、又は許可された使用期間が満了したときは、共 用研究スペースを原状に回復のうえ、明け渡さなければならない。

第12条 共用研究スペースにおける実験及び研究に必要な工作物・設備等の設置に要 する経費は使用者の負担とする。

- 第13条 共用研究スペースの運営に要する光熱水料等の経費は、使用者の負担とする。
- ペースの所属施設の長が定めた者とする。

(使用上の義務)

- 第14条 使用者は、施設及び備品を常に適切な管理の下に注意をもって使用しなけれ ばならない。
- 使用者が、故意又は重大な過失により共用研究スペースの設備及び備品を損傷し、 又は減失し、若しくは許可条件に違反したことにより損傷を与えたときは、使用者はこれを原状に回復し、又は当該損害の額に相当する金額を弁償しなければならな
- 使用者は、貸与された共用研究スペースの使用状況を毎年点検評価し、委員会へ 報告しなければならない。 使用者は、次の各号に掲げる事項を厳守しなければならない。
- - (1) 許可された目的以外の用途に使用しないこと (2) 研究等の遂行上、共用研究スペースに変更を 研究等の遂行上, 共用研究スペースに変更を加えるときは, 事前に委員会の許可を得ること。
 - (3) 前号の変更にかかる費用は、使用者が負担すること。

第15条 共用研究スペースに関する事務は、総務課財務係において行う。

この規程に定めるもののほか、共用研究スペースの運用に関し必要な事項は、 第16条 委員会が別に定める。

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

詫間電波工業高等専門学校施設の有効利用に関する規程(3/3)

別紙

平成 年 月 日

共用研究スペース使用申込書

詫間電波工業高等専門学校長 殿

使用申込者

下記のとおり使用したいので, ご許可下さるようお願いします。

記

- 1. 使用予定施設の名称
- 2. 使用予定期間
 自 平成 年 月 日

 至 平成 年 月 日
- 3. 使用目的 研究内容等を具体的に記入すること
- 4. 使用予定人員
- 5. その他参考となる事項

(出典 本校グループウェア規程集)

教室・実験室の使用状況(1/5)

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ

室名 使用状況 多期 後期 1-1 延 295 時間 265 時間 学生課 1-2 延 295 時間 265 時間 学生課 1-2 延 295 時間 265 時間 学生課 1-3 近 265 時間 265 時間 学生課 (第1講義棟) 1階 週当 18 時間/週 16 時間/週 学生課 1-3 近 265 時間 265 時間 学生課 (第1講義棟) 1階 週当 18 時間/週 16 時間/週 学生課 1-2 近 373 時間 27 時間/週 学生課 第1 講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 5 - 2 近 343 時間 343 時間 学生課 9 - 2 近 343 時間 345 時間/週 学生課 5 - 2 近 343 時間 345 時間/週 学生課 9 - 2 16 時間/週 21 時間/週 21 時間/週 学生課 9 - 2 16 時間/週 21 時間/週 21 時間/週 学生課 9 - 2 10 時間/週 12 時間/週		平成18年度	教主 "夫駛至	寺使用状况記	可へ
## 1	会々		使 用 状 :	況	±n 90
1-1	至石	時間区分	前期	後期	司者
(第1講義棟) 1階	1-1		295 時間		AM. 11. 500
Tell					字生課
(第1講義棟) 1階 週当			205 時間		
1—3				16 時間/周	学生課
(第1講義棟) 1階					
1		- 2			学生課
(第1講義棟) 1階 週当 18 時間/週 7 生課 (第1講義棟) 3階 近 23 時間/週 21 時間/週 21 時間/週 21 時間/週 21 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 16 時間/週 12 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 16 時間/週 17 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課				10 時间/週	
			297 時间	297 時间	学生課
第1講義棟 3 階	(第1講義棟)1階				
(第 1 i i i i i i i i i i i i i i i i i i			373 時間	343 時間	学生鲤
第1講義棟) 3階					子工脉
(第 1 請執棟 / 3 内部					学生課
C-2 延 346 時間 346 時間/週 学生課 I-2 近 21 時間/週 21 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 21 時間/週 21 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 14 時間/週 学生課 合併教室 延 284 時間 254 時間 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 16 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 16 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 28 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 25 時間/週 25 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当	(第1講義棟)3階	週当	21 時間/週	21 時間/週	于土味
(第1講義棟) 3階	C-2				AM 44 000
T-2			21 時間/週	21 時間/週	子生誄
(第1講義棟) 3階					AM 11 000
(第1講義棟)2階 週当 4時間 219時間/週 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課			21 時間/调	21 時間/週	子生課
(第1講義棟) 2階			104 時間	219 時間	*****
合併教室 (第1講義棟) 2階 延 284 時間 254 時間 学生課 T-3 延 435 時間 435 時間 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 運 452 時間 452 時間 学生課 E-3 (第1講義棟) 2階 運 452 時間 28 時間/週 学生課 C-3 (第1講義棟) 2階 運 441 時間 学生課 C-3 (第1講義棟) 2階 運 407 時間 407 時間/週 学生課 I-3 (第1講義棟) 2階 25 時間/週 25 時間/週 学生課 E-5 運 235 時間 25 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 4 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 22 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 22 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 22 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 23 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 23 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 23 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 26 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 18 時間/週 20 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 19 時間/週 19 時				12 時間/週	学生課
(第1講義棟) 2階	今供約安				
T-3 延 435 時間/週 27 時間/週 学生課 E-3 延 452 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 28 時間/週 学生課 C-3 延 441 時間 441 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 25 時間/週 25 時間/週 学生課 E-5 延 235 時間 235 時間 925 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 学生課 美術室 104 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 学生課 E-4 延 429 時間 369 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 学生課 E-4 延 429 時間 392 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 22 時間/週 学生課 I-4 延 392 時間 92 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 15 時間/週 学生課			16 時間/周	1.4 時間 /田	学生課
(第1講義棟) 2階			425 時間/ 週	425 時間/20	
E-3 延 452 時間 452 時間 学生課 C-3 延 441 時間 441 時間 学生課 (第1講義棟) 2階 近 47 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 近 407 時間 407 時間 学生課 (第1講義棟) 2階 近 235 時間/週 学生課 E-5 近 235 時間 25 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 4 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 空時間/週 学生課 E-4 近 429 時間 362 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 学生課 C-4 近 392 時間 392 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 198 時間 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 14 時間/週 学生課 第5講義棟 204 時間 198 時間 198 時間 学生課 第5講義棟 204 時間/週 204 時間/週 学生課 第5講義棟 204 時間/週			430 時間	430 時間	学生課
(第1講義棟) 2階 週当 28 時間/週 28 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 (第1講義棟) 2階 週当 25 時間/週 25 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 美術室 104 時間 104 時間 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 4 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 15 時間/週 学生課 書道室 201 時間 81 時間 学生課 第5講義室 188 時間 198 時間 学生課 第5講義室 198 時間 198 時間 学生課 第5講義車 204 時間 198 時間 学生課 第5講義車 12 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義車 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第5講義車 18 時間 198 時間 学生課 第5講義車 18 時間 198 時間 学生課 第5講義車 18 時間 198 時間 学生課 第5講義車 18 時間 198 時間 学生課 第5講義車 18 時間 198 時間 学生課 第5講義車 18 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 学生課 第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 学生課 第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 学生課		週目	2/ 時间/週	2/ 時间/週	
(第1講教棟) 2階			452 時间	452 時间	学生課
(第1講義棟) 2階 週当 27 時間/週 27 時間/週 学生課 407 時間 407 時間 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課 学生課					
(第1 1 1 1 1 1 1 1 1 1			441 時間	441 時間	学生課
(第1講義棟) 2階			27 時間/週	27 時間/週	
(京 1 高			407 時間	407 時間	学生課
(第1講義棟) 3階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 104 時間 104 時間 学生課 104 時間 104 時間 学生課 104 時間 第4 時間/週 学生課 104 時間 第4 時間/週 学生課 104 時間 第4 時間/週 学生課 104 時間 第4 時間/週 学生課 104 時間 第4 時間/週 学生課 105 時間 105 時	(第1講義棟)2階				1
(第1講義棟) 3階 担当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 3階 担当 4 時間/週 4 時間/週 学生課 T-4 延 362 時間 362 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 下-5 延 249 時間 226 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 学生課 第5講義室 延 201 時間 81 時間/別 学生課 第5講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義棟) 1階 週当 12 時間/週 学生課 第2講義棟) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車 延 164 時間 194 時間 学生課		延		235 時間	学生鲤
(第1講義棟) 3階 週当 4 時間/週 4 時間/週 子主味 1 5 1 5 時間 2 2 時間 362 時間 2 2 時間 2 2 時間/週 学生課 2 5 時間/週 2 2 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 時間/週 学生課 2 5 5 時間/週 学生課 2 5 5 時間/週 学生課 3 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5					于土林
T-4	美術室	延	104 時間	104 時間	学 上99
T-4 延 362 時間 362 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 22 時間/週 学生課 E-4 延 429 時間 369 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 23 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 5 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義車) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義車 164 時間 194 時間 学生課	(第1講義棟)3階	週当	4 時間/週	4 時間/週	子土味
(第1講義棟) 4階 週当 22 時間/週 字生課 E-4 延 429 時間 369 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 学生課 C-4 延 392 時間 392 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 198 時間/週 198 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義棟) 1階 204 時間 204 時間/週 学生課 第2講義東) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 164 時間 194 時間 学生課		延	362 時間	362 時間	兴 上 明
E-4 延 429 時間 369 時間 学生課 C-4 運 392 時間 392 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 23 時間/週 学生課 I-4 運 198 時間 198 時間 少生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第2講義棟) 1階 204 時間 204 時間 学生課 第2講義車 164 時間 194 時間 学生課	(第1講義棟)4階		22 時間/週		子生誅
(第1講義棟) 4階 週当 26 時間/週 22 時間/週 子生株 C-4 延 392 時間 392 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 23 時間/週 学生課 I-4 延 198 時間 198 時間 少生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義棟) 1階 204 時間 204 時間 学生課 第2講義棟) 1階 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 164 時間 194 時間 学生課					M T 000
C-4 延 392 時間 392 時間 学生課 (第1講義棟)4階 週当 23 時間/週 23 時間/週 学生課 I-4 近 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟)4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟)4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟)4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟)4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義室 延 204 時間 204 時間 学生課 I-5 近 204 時間 204 時間 学生課 第2講義室 164 時間 194 時間/週 学生課		调当		22 時間/週	子生誅
(第1講義棟) 4階 週当 23 時間/週 字生課 I-4 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 第5講義室 延 204 時間 204 時間 学生課 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課					AM, LL SET
I-4 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 学生課 T-5 延 249 時間 226 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 学生課 I-5 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 12 時間/週 学生課 第2講義室 164 時間 194 時間 学生課				23 時間/週	字生課
(第1講義棟) 4階 週当 11 時間/週 11 時間/週 子生誌 T-5 延 249 時間 226 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 204 時間 204 時間 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課					
T-5 延 249 時間 226 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 学生課 書道室 延 201 時間 81 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課		調出		11 時間/周	学生課
(第1講義棟) 4階 週当 14 時間/週 14 時間/週 子生課 書道室 (第1講義棟) 4階 201 時間 週当 81 時間 13 時間/週 今生課 第5講義室 (第1講義棟) 4階 201 時間/週 198 時間/週 学生課 (第1講義棟) 4階 204 時間/週 12 時間/週 学生課 1-5 (第2講義棟) 1階 204 時間/週 204 時間/週 学生課 第2講義室 204 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 164 時間 194 時間/週 学生課					
書道室 延 201 時間 81 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 学生課 第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課					学生課
(第1講義棟)4階 週当 13 時間/週 5 時間/週 子生誌 第5講義室 延 198 時間 198 時間 少生課 (第1講義棟)4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 I-5 延 204 時間 少生課 (第2講義棟)1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 中間					
第5講義室 延 198 時間 198 時間 学生課 (第1講義棟)4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟)1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課		建			学生課
(第1講義棟) 4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 子生課 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課					
(第1講義株) 4階 週当 12 時間/週 12 時間/週 I-5 延 204 時間 204 時間 学生課 (第2講義棟) 1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 学生課 第2講義室 延 164 時間 194 時間 学生課					学生課
(第2講義棟)1階 週当 12 時間/週 12 時間/週 ^{子生課} 第2講義室 延 164 時間 194 時間 _{安生課}					
(第2講義案 延 164 時間 194 時間 _{學生}					学生課
(第2講義棟)1階 <u>週当 8時間/週</u> 10時間/週 ^{丁二杯}					学生課
	(第2講義棟)1階	週当	8 時間/週	10 時間/週	, — BT

教室・実験室の使用状況 (2/5)

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ						
室名	使 用 状 況			部署		
王右	時間区分	前期	後期	마곱		
第4講義室	延	219 時間	249 時間	一一一		
(第2講義棟)1階	週当	14 時間/週	16 時間/週	学生課		
視聴覚教室	延	219 時間	369 時間			
(図書館棟)1階	週当	14 時間/週	24 時間/週	学生課		
第1体育館	延	390 時間	390 時間			
(少林寺拳法部)	週当	26 時間/週	26 時間/週	学生課		
第1体育館	延	360 時間	360 時間			
(卓球部)	週当	21 時間/週	21 時間/週	学生課		
第1体育館	延	150 時間	150 時間			
	週当	10 時間/週	10 時間/週	学生課		
(バドミントン部) 第2体育館	延	474 時間				
			474 時間	学生課		
(バスケットボール部)	週当	37 時間/週	37 時間/週			
第2体育館	延	144 時間	144 時間	学生課		
(女子バレーボール部)	週当	12 時間/週	12 時間/週			
第2体育館	延	180 時間	180 時間	学生課		
(男子バレーボール部)	週当	16 時間/週	16 時間/週	. — 1011		
柔道場	延	150 時間	150 時間	学生課		
未担物	週当	10 時間/週	10 時間/週	于工味		
剣道場	延	190 時間	190 時間	学生課		
火 124 物	週当	14 時間/週	14 時間/週	子工味		
合宿研修所	延	840 時間	528 時間	AM 41- 000		
古伯如廖州	週当	時間/週	時間/週	学生課		
マルチメディアラーニング・ラホー	延	290 時間	300 時間	英語科		
(マルチメディア棟)1階	週当	19 時間/週	20 時間/週			
化学実験室	延	50 時間	104 時間	物理・化学		
(第1講義棟)1階	週当	3.3 時間/週	6.9 時間/週			
物理実験室	延	150 時間	300 時間	44-755 11-414		
(第1講義室)3階	週当	10 時間/週	18 時間/週	物理·化学		
電波応用実験室	延	75 時間	75 時間			
(第1講義棟)4階	週当	5 時間/週	5 時間/週	情報通信工学科		
第1光通信工学実験室	延	600 時間	600 時間			
(第1学科棟)1階	週当	40 時間/週	40 時間/週	情報通信工学科		
第2光通信工学実験室	延	75 時間	90 時間			
(第1学科棟)1階	週当	5 時間/週	6 時間/週	情報通信工学科		
第1基礎通信工字美缺至 (第1学科棟) 1階	延	177 時間	177 時間	情報通信工学科		
	週当	14.2 時間/週	14.2 時間/週			
計算機室	延	4380 時間	4380 時間	情報通信工学科		
(第1学科棟)2階	週当	168 時間/週	168 時間/週			
第2基礎通信工学実験室		270 時間	285 時間	情報通信工学科		
(第1学科棟)2階	週当	18 時間/週	19 時間/週	16 水産16 エディ		
通信システム実験室	延	570 時間	570 時間	情報通信工学科		
(第1学科棟)2階	週当	38 時間/週	38 時間/週	日本大型日本ナイ		
第1電子計測実験室	延	225 時間	225 時間	情報通信工学科		
(第1学科棟)2階	週当	15 時間/週	15 時間/週	IFIX地位工士科		
第2電子計測実験室	延	180 時間	270 時間	情報通信工学科		
(第1学科棟)2階	週当	12 時間/週	18 時間/週	1月秋地16工子件		
	延	210 時間	217.5 時間	排却浑是了些好		
(第1学科棟)2階	週当	14 時間/週	14.5 時間/週	情報通信工学科		
アナログ回路実験室	延	270 時間	285 時間	44 +0 17 (C 44 C)		
(第1学科棟)2階	週当	18 時間/週	19 時間/週	情報通信工学科		
(A) - 7 17 1A / 4 PB	~=-	10 Million Vot	10 H/J [R]/ [M]	-		

教室・実験室の使用状況 (3/5)

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ

十八	18年度		. 守伙用仏况記	ol
室名			況	部署
王石	時間区分	前期	後期	마콥
ディジタル回路実験室	延	164 時間	186.5 時間	Late And And And And And And And And And And
(第1学科棟)2階	週当	11.5 時間/週	13 時間/週	情報通信工学科
第6講義室	延	0 時間	600 時間	
	週当	0 時間/週	40 時間/週	情報通信工学科
(第1学科棟)2階				
第2情報通信工学実験室	延	180 時間	270 時間	情報通信工学科
(第1学科棟)3階	週当	12 時間/週	18 時間/週	
情報ネットワーク演習室	延	75 時間	75 時間	情報通信工学科
(第1学科棟)1階	週当	5 時間/週	5 時間/週	用权地指土于行
超伝導デバイス実験室	延	300 時間	900 時間	#= = # N
(第1講義棟)2階	週当	20 時間/週	60 時間/週	電子工学科
共通実験室	延	75 時間	75 時間	
(第1学科棟)3階	週当	5 時間/週	5 時間/週	電子工学科
電子工学実験室	延	75 時間	75 時間	電子工学科
(第1学科棟)3階	週当	5 時間/週	5 時間/週	_ , _ , ,
通信工学実験室	延	360 時間	480 時間	電子工学科
(第1学科棟)3階	週当	18 時間/週	23 時間/週	E 1 = 7 17
ディジタル回路実験室	延	448 時間	448 時間	南フェ 巻封
(第1学科棟)3階	週当	20 時間/週	20 時間/週	電子工学科
計算機工学実験室	延	540 時間	540 時間	
(第1学科棟)3階	週当	18 時間/週	18 時間/週	電子工学科
画像工学実験室	延	450 時間	450 時間	
(第1学科棟)3階	週当	22 時間/週	22 時間/週	電子工学科
	延			
電子回路実験室	週当	145 時間	175 時間	電子工学科
(第1学科棟)4階		6 時間/週	8 時間/週	
回路設計実験室	延	150 時間	168 時間	電子工学科
(第1学科棟)4階	週当	10 時間/週	11.2 時間/週	
ロボット工学実験室	延	700 時間	640 時間	電子工学科
(第1学科棟)4階	週当	35 時間/週	42 時間/週	モナエナイ
電子材料実験室	延	288 時間	166 時間	東フェ 巻料
(第1学科棟)4階	週当	18 時間/週	16 時間/週	電子工学科
計測工学実験室	延	544 時間	697 時間	=== wa
(第1学科棟)4階	週当	32 時間/週	41 時間/週	電子工学科
音響工学実験室	延	60 時間	60 時間	
(第1学科棟)4階	週当	4 時間/週	4 時間/週	電子工学科
物性実験室	延	220 時間	240 時間	電子工学科
(第1学科棟)4階	週当	18 時間/週	18 時間/週	
光エレクトロニクス実験室	延	500 時間	500 時間	電子工学科
(第1学科棟)4階	週当	28 時間/週	28 時間/週	- 1 - 1 1 T
創造実験実習ラボ	7:1	000 5 55	450 0+00	
(機械工作エリア)	延	300 時間	450 時間	電子工学科
(マルチメディア棟)1階	週当	20 時間/週	30 時間/週	
自動工作センター・制御室	延			
		150 時間	300 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)1階	週当	10 時間/週	20 時間/週	
機械工作室	延	270 時間	420 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)1階	週当	18 時間/週	28 時間/週	E 7 07 PT - 7-14
機械工作準備室	延	270 時間	420 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)1階	週当	18 時間/週	28 時間/週	地工作件
流体制御実験室	延	645 時間	645 時間	ラフカリグs マ かた!
(第3学科棟)1階	週当	43 時間/週	43 時間/週	電子制御工学科
基礎工学実験室	延	525 時間	525 時間	=
(第3学科棟)2階	週当	35 時間/週	35 時間/週	電子制御工学科
(あ3千件株/2階	四二	30 時間/週	30 時間/週	

教室・実験室の使用状況 (4/5)

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ

一 一八	18年度		<u>寺伙用状况制</u>	0/
会々		使用状法	兄	±n 90
室名	時間区分	前期	後期	署暗
コンピュータ応用実験室	延	735 時間	735 時間	
(第3学科棟)2階	週当			電子制御工学科
		49 時間/週	49 時間/週	
計算機システム実験室	延	720 時間	720 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)2階	週当	48 時間/週	48 時間/週	尼丁的种工了行
ディジタル回路実験室	延	285 時間	375 時間	東ス制御工器科
(第3学科棟)2階	週当	19 時間/週	25 時間/週	電子制御工学科
ゼミナール室	延	600 時間	600 時間	
	週当	40 時間/週	40 時間/週	電子制御工学科
(第3学科棟)2階				
CAD実験室	延	195 時間	195 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)2階	週当	13 時間/週	13 時間/週	1010年上午14
制御回路実験室	延	705 時間	675 時間	東ス制御工 巻封
(第3学科棟)3階	週当	47 時間/週	45 時間/週	電子制御工学科
通信システム実験室	延	675 時間	675 時間	
(第3学科棟)3階	週当	45 時間/週	45 時間/週	電子制御工学科
(カンナ行体/3階				
電子計算機室	延	600 時間	600 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)3階	週当	40 時間/週	40 時間/週	
制御工学実験室	延	645 時間	645 時間	電子制御工學科
(第3学科棟)3階	週当	43 時間/週	43 時間/週	電子制御工学科
ディジタル制御実験室	延	0 時間	675 時間	
(第3学科棟)4階	週当	0 時間/週	45 時間/週	電子制御工学科
(第5千代休/年階	延			
情報処理実験室		645 時間	645 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)4階	週当	43 時間/週	43 時間/週	
ロボット工学実験室	延	675 時間	675 時間	電子制御工学科
(第3学科棟)4階	週当	45 時間/週	45 時間/週	电丁削岬工子行
暗室	延	15 時間	15 時間	東ス制御工学科
(第3学科棟)4階	週当	1 時間/週	1 時間/週	電子制御工学科
器材室	延	600 時間	600 時間	
(第3学科棟)4階	週当	40 時間/週	40 時間/週	電子制御工学科
ネットワーク応用実験室	延	384 時間	544 時間	情報工学科
(第2講義棟)2階	週当	24 時間/週	34 時間/週	18 TA - 7 14
画像工学実験室	延	130 時間	194 時間	情報工学科
(第2講義棟)2階	週当	8 時間/週	12 時間/週	1月秋上于7年
データ通信実験室	延	260 時間	0 時間	14.45 - 14.51
(第2学科棟)1階	週当	16 時間/週	0 時間/週	情報工学科
管理室	延三延			
		94 時間	0 時間	情報工学科
(第2学科棟)1階	週当	7 時間/週	0 時間/週	
情報工学第2実験室	延	68 時間	68 時間	情報工学科
(第2学科棟)2階	週当	5 時間/週	5 時間/週	18 1X 4- 7-14
ネットワーク実験室	延	128 時間	204 時間	44 +n 44 £4
	週当	8 時間/週	13 時間/週	情報工学科
情報工学論理回路実験室		184 時間	184 時間	
(第2学科棟)2階				情報工学科
	週当	12 時間/週	12 時間/週	
情報工学基礎電気実験室	些	156 時間	156 時間	情報工学科
	週当	10 時間/週	10 時間/週	11774
情報工学第3実験室	延	203 時間	328 時間	情報工学科
(第2学科棟)3階	週当	13 時間/週	14 時間/週	用权工于作
器材室·印刷室	延	150 時間	150 時間	14.45 — M. 47
(第2学科棟)3階	週当	10 時間/週	10 時間/週	情報工学科
	延	203 時間	328 時間	情報工学科
(第2学科棟)4階	週当	13 時間/週	13 時間/週	
共同利用実験室	延	0 時間	250 時間	情報工学科
(専攻科棟)1階	週当	0 時間/週	10 時間/週	T月刊(上ナイヤ
		and their way	the married water	l

教室・実験室の使用状況 (5/5)

平成18年度 教室・実験室等使用状況調べ

	18年度		寺使用状况訓	9
室名	時間区分	使用状 前期	況 後期	部署
演習室 (専攻科棟)1階	延週当	372 時間 12 時間/週	434 時間 14 時間/週	専攻科
実験室	延	341 時間	341 時間	専攻科
(専攻科棟)2階 講義室	週当 延	11 時間/週 372 時間	11 時間/週 248 時間	専攻科
(専攻科棟)2階 セミナー室	週当 延	12 時間/週 341 時間	8 時間/週 341 時間	
(専攻科棟)2階 実験室	週当 延	11 時間/週 341 時間	11 時間/週 341 時間	専攻科
(専攻科棟)3階	週当	11 時間/週	11 時間/週	専攻科
講義室 (専攻科棟)3階	延 週当	248 時間 8 時間/週	124 時間 4 時間/週	専攻科
セミナー室 (専攻科棟)3階	延週当	341 時間 11 時間/週	341 時間 11 時間/週	専攻科
木工室 (第1学科棟)1階	延週当	240 時間 14 時間/週	260 時間 15 時間/週	技術教育支援室
機械工作室 (第1学科棟)1階	延過当	645 時間 37 時間/週	585 時間 34 時間/週	技術教育支援室
第1工作室	延過当	315 時間	310 時間 18 時間/週	技術教育支援室
(第1学科棟)1階 第2工作室	延	18 時間/週 240 時間	240 時間	技術教育支援室
(第1学科棟)1階 器材室	週当 延	14 時間/週 190 時間	14 時間/週 210 時間	技術教育支援室
(第1学科棟)1階 電子器材室	週当 延	11 時間/週 500 時間	12 時間/週 500 時間	
(第1学科棟)3階	週当	30 時間/週	30 時間/週	技術教育支援室
創造実験実習ラボ (ワークスペースエリア)	延	60 時間	60 時間	地域交流室
(マルチメディア棟)1階 集積回路実験室	週当	4 時間/週	4 時間/週	
(更衣室含) (第2学科棟)1階	延 週当	21 時間/週	88 時間 21 時間/週	集積回路実験室
目合せ露光実験室	延	336 時間	84 時間	集積回路実験室
(第2学科棟)1階 集積回路準備室	週当 延	21 時間/週 16 時間	21 時間/週 4 時間	集積回路実験室
(第2学科棟)1階 第1演習室	週当 延	1 時間/週 630 時間	1 時間/週 690 時間	情報処理センター
(第1学科棟)1階 情報メディアラボ	週当 延	37 時間/週(フル稼働)	41 時間/週(フル稼働)	
(第1学科棟)1階	週当	(フル稼働)	(フル稼働)	情報処理センター
第3演習室 (第3学科棟)1階	延 週当	22 時間/週	330 時間 22 時間/週	情報処理センター
高度情報教育ラボ (マルチメディア棟)2階	延 週当	360 時間 24 時間/週	330 時間 22 時間/週	情報処理センター
サイバー・ラボ (マルチメディア棟)2階	延週当	360 時間 24 時間/週	390 時間 26 時間/週	情報処理センター
(10/1/17/14/4円	A2 -1	2-T HOJ [H]/ JES	20 時间月/週	ļ

(出典 総務課財務係)

主要設備の稼働状況(平成18年度)

番号	設 備 名	使用目的	設置場所	購入年度	購入金額	稼	働状	況
田万	区 调 右	te H i in	AX Ⅲ 4两 F/T	將八十茂	(千円)	年間延使用人数	年間稼働日数	1日平均稼働時間
1	レーザーアブレーション 成膜・加エシステム	学生実験・研究 及び教員研究	第1学科棟 第1光通信実験室	H10	39,795	350 人	200 日	10 時間
2	光通信実験装置	光ファイバロス スペクトルの測定	第1学科棟 ディジタル回路実験室	H 1	17,012	120 人	40 日	3 時間
3	情報ネットワークシステム			н13	26,106	103. 680人	365 H	24 時間
4	情報ネットワーク 管理監視システム	校内ネットワーク管理	・ネットワーク管理室	П	12,016	100, 000	305 Д	24 pq[8]
5	微細加工集積回路 実験実習装置	微細加工用 レジストパタンの作製等	第2学科棟 集積回路実験室	н 8	19,454	450 人	150 日	8 時間
6	電子線描画装置	高移動度トランジスタ集積 回路パタンの直接描画	第2学科棟 集積回路実験室	Н 5	15,759	450 人	150 日	8 時間
7	ICP発光分光分析装置	微量元素の定量分析	第2学科棟 集積回路実験室	H12	14,963	120 人	60 日	4 時間
8	顕微鏡	試料の表面微細 構造観察等	第2学科棟 集積回路実験室	Н 1	14,729	180 人	90 日	4 時間
9	ECRプラズマ反応 ガス分析システム	絶縁体薄膜のドライエッチ ング及び組成定性分析	第2学科棟 集積回路実験室	H12	12,999	100 人	50 日	8 時間
10	スパッタリング装置	絶縁体簿膜の作製	第2学科棟 集積回路実験室	S62	10,900	160 人	80 日	8 時間

※ 購入金額1千万円以上の主要設備

(出典 総務課財務係)

施設の開放

一般の方も詫間電波高専の体育施設等を利用することができます。

詫間電波高専では、授業、課外活動、行事等に支障がない場合、校内の体育施設等を解放しています。地域の行事やグループでの活動にご利用下さい。

〇 使用料

施 設 名	1時間当たり使用料	備考
第1体育館	927円	1施設
第2体育館	1,017円	"
武道場	465円	"
ブール	1,329円	"
第 1 テニスコート	794円	1面
第2テニスコート(グランド横)	799円	n n
野球グランド(ソフトボール)	810円	1施設
野球グランド(野球)	1,320円	"
野球グランド(サッカー)	1,349円	"
陸上競技場	2,941円	"
講義室・会議室等(全施設共通)	3. 56円	1 m ²

※1 上記使用料に消費税は含まれていません。

※2 使用料算式

第1体育館 外 : 1時間当たり使用料×使用時間+消費税

講義室・会議室等:1時間当たり使用料×使用面積×使用時間+消費税

〇 使用に当たっての注意事項

- 1. 使用実績により、別途光熱水量を徴収いたします。
- 2. 使用料は、原則として払い戻しいたしません。
- 3. 承認施設以外への立ち入り、目的外使用及び転貸は出来ません。
- 4. 承認時間を厳守し、使用後は、直ちに使用箇所の整備を行って下さい。
- 5. その他、担当者の指示に従って下さい。

〇 手続き

- 1. 使用を希望する施設が、使用希望日時に使用可能かどうか下記の問い合わせ先へ確認して下さい。また、使用目的によっては、承認できないことがありますので併せてご確認下さい。
- 2. 使用可能であれば、施設使用申請書を使用開始予定日の5日以前までに受付窓口に提出して下さい。
- 3. 申請書の受付時間は午前8時30分から17時15分までです。
- 4. 申請書を提出後、本校より使用料の振込請求書をお渡ししますので、必ず使用日の前日までに指定口座に振り込み願います。
- 5. 入金確認後、施設一時使用承認書をお渡しします。これで手続きは終了です。

〇 受付窓口及び問い合わせ先

総務課財務係

TEL: 0575-83-8510

FAX: 0875-83-7740

E-mail: zaimu@da.takuma-ct.ac.jp

(出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/crdc/shisetu/shisetu.htm)

バリアフリー化に関する施設・設備の整備状況・整備計画

平成19年4月1日現在

	S2 6	C (C)	8.0	9.0					1 /70 . 0	十十万 1 口坑1
		延べ面	建築			整備計	施設 画施	長几		
名称	構造	積	年月	エレベータ	自動ドア		ドイレ		の他	備考
		(m²)	T/1	(台)	(箇所)	(箇所)	(箇所)	施設数	内容	
管理棟	R4	1,213	S45.3				1			
第一学科棟	R4	3,761	S49.2	1	2	2	1	1	転落防止	情報通信工学科 電子工学科
第二学科棟	R4	1,502	S56.7	1	1	1				情報工学科
第三学科棟	R4	2,178	S62.3		1	1	-1			電子制御工学科
マルチメディア棟	R4	1,747	H14.3	1	2	2	1			一般教科
専攻科棟	R3	958	H18.3	1	1	1	1			専攻科
第一講義棟	R4	3,582	S45.3	1	1	1	1	1	転落防止	
第二講義棟	R2	675	S62.3			1		1	転落防止	
図書館	R2	1,683	S49.2	1	2	2	1			
第一体育館	S1 R1	830	S42.1		1	1	1			
第二体育館	S1 R1	880	S59.2		1	1				
福利センター	R2	662	S57.4			1	1			

(出典 総務課施設係)

(分析結果とその根拠理由)

教育に必要な施設・設備は教育課程の実現に支障なきよう整備されている。

教室は充分な広さを有し、また体育館や運動場などの運動施設も整備されているほか、講義室や実験・実習施設・情報処理施設および実践教育用の種々の機器や装置類も適切に整備され、それぞれ有効に活用されている。

また,施設・設備のバリアフリー化については,障害のある学生等の利用者が円滑に利用できるよう整備されている。

観点8-1-②: 教育内容,方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本校には、情報処理教育の円滑な実施のため、情報処理センターが設置され、運営のため情報処理センター委員会が置かれている(資料8-1-2-1-3)。本校ネットワーク構築の歩み(資料8-1-2-1-3)のとおり整備されている。校内LANについては、平成5年には、専用回線で学術情報ネットワーク(SINET)と接続され、また、校内LANの運用も始まり、早くからインターネットに接続されている。平成19年には、教育用電子計算機システムが更新され、高速化、セキュリティ強化、信頼性向上のための最新の設備が導入されている。校内LANは、基幹部では1000BASE、末端部では100BASEと高速化されている(資料8-1-2-10、7)。これらの管理・運用は、情報処理センターで行われている。

学生会役員との懇談会において、学生用メールの運用や学内LANについて質問要望が出され、回答を行っている。また、意見箱を設置して利用環境の向上に常時、努めている(資料8-1-②-8)。サーバーコンピュータにインストールして欲しいソフトウェアなどの要望は電子メールでも受け入れて対応しており、学生のニーズに素早く対応できる体制がある。ネットワークは、時代にあった通信速度を持つ設備を整備しており、パソコンの台数はニーズに合う台数を確保している。

平成15年にセキュリティポリシーを定め(資料8-1-2-9),不正アクセスやウィルスなどに対する対策を施し,また,利用者にも注意を促している。

掲示物「情報処理センター演習室利用時の注意」などにより情報倫理に関する知識の周知を行っている(資料 8-1-2-10)。

資料8-1-②-1

詫間電波工業高等専門学校情報処理センター規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第15条第2項の規定に基づき、 情報処理センターについて必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 情報処理センターは、情報処理教育の円滑な実施のため、次に掲げる事項を行うことを 目的とする。
 - 一 情報処理教育に関すること
 - 二 計算機システムの利用に関すること
 - 三 計算機システムの操作,保守及び管理に関すること
 - 四 その他必要と認められること

(組織)

- 第3条 情報処理センターに次の職員を置く。
 - 一 センター長
 - 二 副センター長
 - 三 センター員 若干名

(任命)

- 第4条 センター長及び副センター長は、校長が任命する。
- 2 センター員は、センター長の推薦に基づき、校長が任命する。

(任期)

第5条 センター長及び副センター長の任期は2年とし、センター員の任期は1年とし、それぞ れ再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(任務)

- 第6条 センター長は、情報処理センター業務を掌理する。
- 2 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときはその職務を行う。
- 3 センター員は、情報処理センター業務の遂行当たる。

(委員会)

- 第7条 情報処理センターの円滑な運営を図るため、詫間電波工業高等専門学校情報処理センター委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(利用)

第8条 情報処理センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 即

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

詫間電波工業高等専門学校情報処理センター委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校情報処理センター規程第7条第2項の規定に基づき、情報処理センター委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 情報処理センターの運営方針に関すること
 - 二 情報処理センターの業務計画に関すること
 - 三 情報処理センターの利用に関すること
 - 四 ネットワークの運営方針に関すること
 - 五 ネットワークの利用に関すること
 - 六 その他情報処理センターの運営に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 副校長
 - 二 情報処理センター長及び副センター長
 - 三 各学科及び一般教科教員 各1名
 - 四 学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、情報処理センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(任命)

第5条 第3条第3号に規定する委員は、各学科及び一般教科からの推薦に基づき、校長が任命 する。

(任期)

第6条 第3条第3号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第7条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。

(報告)

第9条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。

(事務)

第10条 委員会の事務は、情報処理センターにおいて処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年11月20日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

情報処理センターの紹介

詫間電波工業高等専門学校



▶ 概要

情報処理センター(『センター』と略す)は、第一学科棟1階にあり、情報処理教育のための各学科共同利用の施設である。

センター内の第一演習室、マルチメディア棟の高度情報教育ラボとサイバーラボ、第三学科棟の第三演習室 あわせて4つの演習室で、情報処理やプログラミング教育等の基礎科目の外、数値解析、知識工学、画像工学などの応用科目に幅広く利用されている。

また、センターには、情報メディアラボ、ネットワーク管理室があり、本校ネットワークの中心となっている。

■ 建物

情報処理センター	309. 6m²
・第一演習室	136. Om
・情報メディアラボ	93. 8m²
・ネットワーク管理室	14. 4m²
•管理室	43. 0m²
·玄関·廊下	22. 4m²
マルチメディア棟	262. 0m²
・高度情報教育ラボ	129. Om
・サイバーラボ	133. Om
第三学科棟	118. 5m²
・第三演習室	118. 5m²

▶ 情報処理センター運営体制

情報処理センター委員会で、センターの運営方針、業務計画、機器の整備等について審議し、センター員が運営の実務に当たる。センターの事務処理は事務員が当たっている。

•	センター長	1名
•	副センター長	1名
	事務員	1名

● 情報処理センター委員会委員(9名)

- 副校長
- センター長(委員長)及び副センター長
- ・ 一般教科及び各4学科から選出された教員 各1名
- 学生課長

情報処理センター員(通称 スタッフ:年度によって人数が変わる)

- センター長及び副センター長
- 教職員 若干名(センター長の推薦に基づき,校長が任命)

(出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/center/centerintro.html)

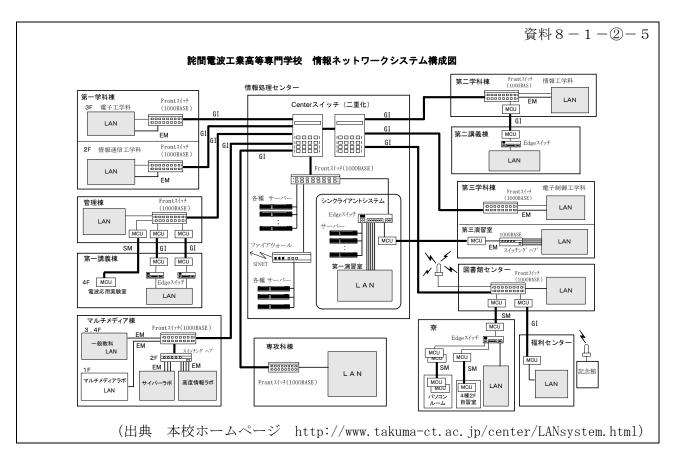
ネットワーク構築の歩み(1/2)

詫間電波工業高等専門学校

情報処理センターの沿革

```
1972 / 4 電子計算機室発足
       小型電子計算機 NEACシステム3200/30導入
        : 設備拡充(メモリ・磁気ディスク装置 等)
       1974
1977/3 電子計算機センター竣工
       中型汎用計算機ACOS-77NEACシステム200導入
       : 設備拡充(メモリ・磁気ディスク装置・カードパンチ機 等 )
1982 / 3 中型汎用計算機ACOSシステム450導入
       : 設備拡充(メモリ・端末 等)
1984 / 4 情報処理センターと改称
    1985 パーソナルコンピュータ, プリンタ 等設置
    1988 ワークステーション設置(VAXstation2000 寄贈)
        パーソナルコンピュータ, プリンタ 等増設
    1990:授業用パーソナルコンピュータ 45台揃う
1991/3 研究用ワークステーション導入
       IBM パワーステーション 530
NeXT コンピュータ 4台
    /5 ネットワークアドレス取得
    /11 『JUNET』加入 電子メール送受可能(徳島大学)
1992/2 第二演習室 教育用ワークステーションシステム導入
       NEWS(NWS-3870 3台, NWS-3865 2台)
       Xターミナル 45台
    /3 関西インターネット『ORION』加入
    /7 電子ニュースの配送受ける(愛媛大学)
1993 / 1 校内LAN工事竣工
    /3 中・四国インターネット『CSI』加入
    /7 専用回線(9.6 Kbps)設置
        学術情報ネットワーク『SINET』加入(岡山大学)
           ニュースをSINETから配送に変更
1995 / 2 専用回線(64 Kbps)に変更
    /9 専用回線(128 Kbps)に変更
1996 / 3 ATM方式 校内LAN工事竣工
    /3 第一演習室 教育用Windows-NTシステム導入
1997 / 9 専用回線(512 Kbps)に変更
1998/3 第三学科棟 製図室 教育用電子計算機システム導入
1999 / 7 専用回線(1.5 Mbps)に変更
          接続先を愛媛大学ノードに変更
```

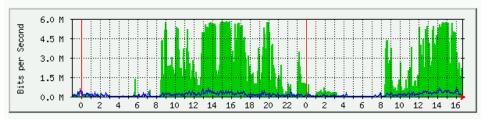
資料8-1-2-4 ネットワーク構築の歩み(2/2) 2000 第三学科棟『製図室』 名称変更 → 『第三演習室』 2002/3 情報処理センター改修工事(第一学科棟改修工事に伴う) 第一学科棟 情報処理センター ⇒ 共用棟 仮情報処理センター へ移設 /3 情報ネットワークシステム(高速校内LAN)竣工 /3 教育用電子計算機システム 更新 [下の 3演習室に導入] 第三学科棟 『第三演習室』 共用棟 『高度情報教育ラボ』 共用棟 『サイバーラボ』 2003/3 情報処理センター改修工事 終了により 共用棟 仮情報処理センター ⇒ 第一学科棟 情報処理センターへ移設 共用棟 サイバーラボ 教育用電子計算機システム(演習用PC類) ⇒ 情報処理センター 第一演習室 へ移設 共用棟 サイバーラボ 情報リテラシー教育用システムを設置 / 9 専用回線(6 Mbps)に変更 接続先を香川大学ノードに変更 ※※ 2005 / 2 「共用棟」から「マルチメディア棟」へ 名称変更 ※ 2005 / 3 マルチメディア棟(旧共用棟) サイバーラボ 演習用システム 更新 2004/1 液晶ディスプレイ 50台 更新 2005/2 パーソナルコンピュータ 50台 更新 2007/3 教育用電子計算機システム 更新 〔下の 3演習室に導入〕 第一学科棟 『第一演習室』 第三学科棟 『第三演習室』 マルチメディア棟 『高度情報教育ラボ』 (出典 本校ホームページ http://www.takuma-ct.ac.jp/center/centerenkaku.html)



専用線トラフィックの時間変化容量:6Mbps 詫間ー高松間

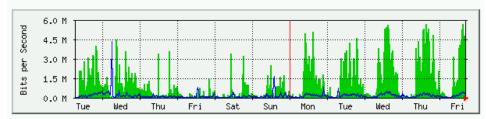
最終更新日時 16:40, 2007年5月11日(金), 'Fortigate-200'の稼働時間 9days,18:33:39:39.

一日グラフ(5分間平均)



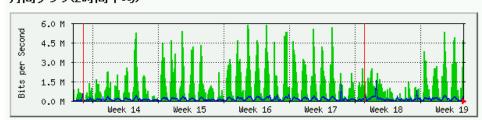
最大値 受信:5856.2 kb/秒 (94.8%) 平均値 受信:1739.5 kb/秒 (28.2%) 現在値 受信:2142.1 kb/秒 (34.7%) 最大値 送信: 712.8 kb/秒 (11.5%) 平均値 送信: 176.7 kb/秒 (2.9%) 現在値 送信: 189.0 kb/秒 (3.1%)

週間グラフ(30分間平均)



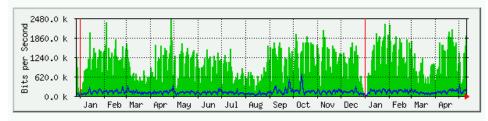
最大值 受信:5747.9 kb/秒 (93.1%) 平均值 受信:1097.8 kb/秒 (17.8%) 現在値 受信:2051.9 kb/秒 (33.2%) 最大值 送信:4348.4 kb/秒 (70.4%) 平均值 送信 183.9 kb/秒 (3.0%) 現在値 送信 291.8 kb/秒 (4.7%)

月間グラフ(2時間平均)



最大值 受信:5887.6 kb/秒 (95.3%) 平均值 受信:1207.2 kb/秒 (19.5%) 現在値 受信:4727.0 kb/秒 (76.5%) 最大値 送信:1565.8 kb/秒 (25.4%) 平均値 送信: 162.9 kb/秒 (2.6%) 現在値 送信: 384.1 kb/秒 (6.2%)

年間グラフ(1日平均)



最大值 受信:2459.9 kb/秒 (39.8%) 平均值 受信:1007.0 kb/秒 (16.3%) 現在值 受信:1948.6 kb/秒 (31.6%) 最大值 送信: 717.1 kb/秒 (11.6%) 平均值 送信: 140.3 kb/秒 (2.3%) 現在值 送信: 169.4 kb/秒 (2.7%)

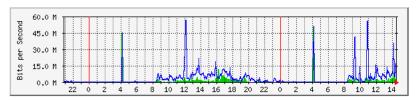
> 録 ### 受信量ビット/秒) **吉 ###** 送信量ビット/秒)

(出典 学内限定ホームページ http://www.cc.takuma-ct.ac.jp/~mrtg/takugate.html)

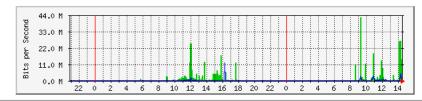
Giga Bit Ether 通信量(棟別) (1/2)

バックボーン・トラフィック情報(1Gbps)

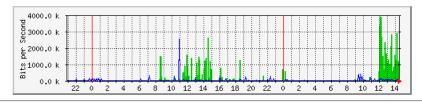
smt01(情報処理センタ/マシン室 1GBps)詳細



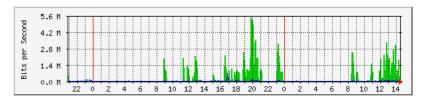
smt02(共用棟 1GBps)詳細



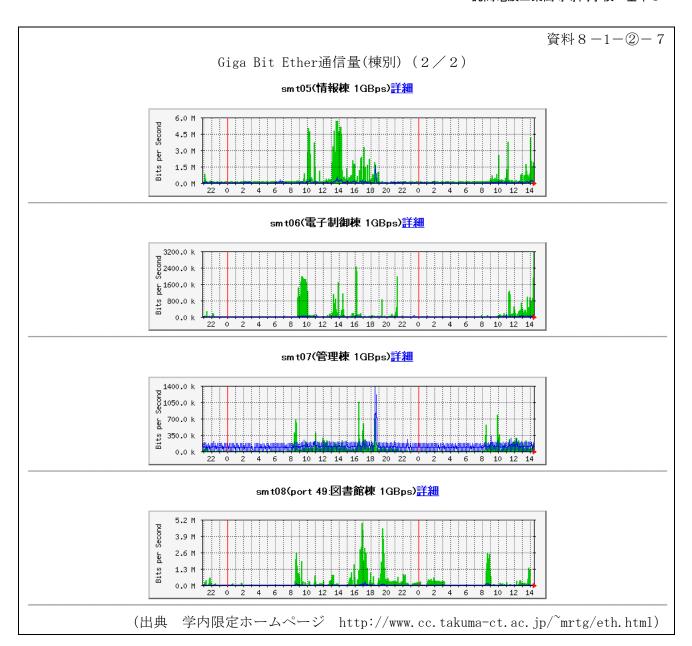
smt03(電子 1GBps)詳細

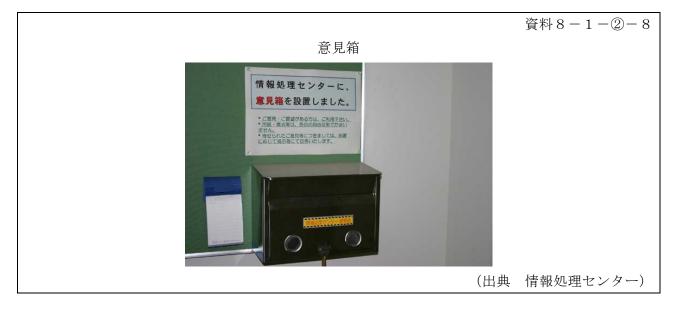


smt04(情報通信 1GBps)詳細



※ネットワークトラフィックのグラフです。横軸が時刻縦軸がコアスイッチと各フロントスイッチとの通信料(5分間の平均値)を示します。





情報セキュリティポリシー

詫間電波工業高等専門学校 情報セキュリティポリシー

> 平成15年11月 詫間電波工業高等専門学校

目 次	
1. 情報セキュリティ基本方針	1
(1)情報セキュリティの基本方針	1
①組織・体制	1
②情報の分類と管理 ③物理的セキュリティ	1
①内が担的セキュリティ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1
⑤技術的セキュリティ	1
⑥運用	1
⑦評価・見直し	1
(2) 定義	1
(3) 対象範囲	
(4)実施手順の作成	2 2 2 2 2 2
2. 対策基準	2
(1)組織体制	2
①最高情報セキュリティ責任者	2
②情報セキュリティ委員会	2
③情報セキュリティポリシー策定部会	2
⑥情報セキュリティ評価部会	2
⑤情報セキュリティ責任者等	2 2 2 3
⑥情報システム担当者	2
(2)情報の分類と管理	2
①情報の管理責任	2
②情報の分類と管理方法	3
(3) 物理的セキュリティ	3
①サーバ等	3
②職員の端末等	4
(4)人的セキュリティ	4
①役割・責任	- 4
②教育·訓練	- 5
③事故・欠陥に対する報告	5
④パスワードの管理	5
⑤非常勤及び臨時職員の雇用及び契約	5
(5) 技術的セキュリティ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
①コンピュータ及びネットワークの管理	5
②アクセス制御	7
③システム開発、導入、保守等	8
④コンピュータウイルス対策	9
⑤セキュリティ情報の収集	9
(6) 運用	9
①情報システムの監視	9
②ポリシーの遵守状況の確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 0
③運用管理における智意点	1 0
①侵害時の対応 (7) 注令適守	1 0
(7) 124 17 22 1	1 1
(8)情報セキュリティに関する違反に対する対応 (9)評価及び見直し	1 1
①評価 ②点検	1 1
②点板 ③ポリシーの更新	
◎ 中 ファーリス制	1 1

(出典 本校グループウェア規程集)

情報処理センター演習室 利用時の注意

以下の事項に注意して、情報処理センターの演習室設備を学習や 技術向上のため有効に利用して下さい。

- 1. 他人に迷惑となる行為をしないようにしましょう。 大声での談笑、飲食、携帯電話、PHSの使用等禁止。
- 2. パソコンの設定を勝手に変更しないで下さい。
- 3. ネットワーク利用時には、次の注意点を守って下さい。
- * 他人を誹謗・中傷するメール、記事、ページ等を送信しないこと。
- * 通信の秘密を漏らしたり、著作権を犯す行為をしないこと。 通信等で入手した文章や画像、他人のメール記事の扱いに注意すること。
- * 営利行為をしないこと。
- * 風紀/法律上問題のある、記事や画像の閲覧・印刷・作成しないこと。
- 4. 授業中は、授業内容に専念して下さい。 Web ページ閲覧、チャット、メール送受信、ゲーム等をしないこと。

以上の点が守れない場合、該当学生のユーザ名について、 授業時間以外の利用を禁止することがあります。 最低限のルールですから厳守して下さい。

情報処理センター長

(出典 情報処理センター)

(分析結果とその根拠理由)

本校の十分なセキュリティ管理の下、インターネット及び電子メール等の利用を含め、学生のネットワーク利用環境が整備されている。

平成5年には、専用回線で学術情報ネットワーク (SINET) と接続され、また、校内LANの運用も始まり、早くからインターネットに接続されている。平成19年には、教育用電子計算機システムが更新され、高速化、セキュリティ強化、信頼性向上のための最新の設備が導入されている。情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下、適切に整備され、有効に活用されている。

セキュリティポリシーは、組織体制の変更及び情報を取り巻く環境の変化に対応した見直しが必要な時期にある。

観点8-2-①: 図書,学術雑誌,視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され,有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館の図書は87,026冊所蔵し、閲覧室に43,450冊、書庫に30,463冊、教員研究室に13,113冊を配架している(資料8-2-①-1, 2)。

雑誌は48タイトル,新聞は8紙購読し、CDは1,420タイトル、DVDは543タイトルを所蔵している。年度当初に図書・紀要委員会(資料8-2-①-3)で予算審議し、各学科・教科の図書推薦により専門的書籍の系統的受入を行っている(資料8-2-①-4)。平成18年度閲覧用推薦図書の受入実績は1,462冊、3,686,344円である。

平成18年度の利用実績は図書等貸出冊数(音楽CD 4,700枚を含む。)15,609冊,貸出人数7,665名,図書館入館者数53,904名である。

参加する学生を募集して、書店に直接出向いて本の選定をするブックハンティングを、年2回実施 している。平成18年度はこれに計51名の学生が参加し、290冊の図書を購入した。

読書感想文コンクールは、学生の読書意欲と文章作成能力の向上を図るため、国語科の協力を得て年1回実施し、入賞者に賞状及び賞品を授与している。平成18年度は145編の応募があり、国語科で一次審査、図書・紀要委員会で最終審査し、入賞者を決定した(資料8-2-①-5)。

また、図書館に関する案内を学校ホームページに掲載し、ネットワークを利用した蔵書検索を可能にする等、利用者の便に供している(資料8-2-①-6)。

図書館蔵書数,利用状況

図 書 館 Library

図書館は専門書のほか一般図書、雑誌、CD、DVD等を多数所蔵し、学生の学習や教職員の学術研究等に利用されている。また、一般市民にも開放している。自習室を整備し、利用者に個別学習、グループ学習、各種発表の場を提供している。

The library has a large number of books of general interests, magazines, CDs, DVDs in addition to technical books, which are available for students' learning and faculty's academic pursuits. The library is open to the general public. The library is provided with a study hall and gives its users opportunities for individual learning, group learning and a variety of presentations.

◎蔵書数 State of Book Stock

平成19年4月1日現在 As of Apr. 1, 2007

区 分 Classification	総 記 General Works	哲 学 Philosophy	歴 史 History	社会科学 Social Science	自然科学 Natural Science	技 術 Technology	產 業 Industry	芸 術 Art	言 語 Language	文 学 Literature	計 Total
删 数 Number of Books	8,361	3,202	6,312	6,739	16,525	20,794	1,245	3,581	5,097	15,170	87,026
%	9.6	3.7	7.3	7.7	19.0	23.9	1.4	4.1	5.9	17.4	100

◎利用状況 (館外貸出年間冊数) State of Consultation

平成18年4月~平成19年3月 Apr. 2006~Mar. 2007

区 分 Classification	総 記 General Works	哲 学 Philosophy			自然科学 Natural Science		產業 Industry	芸 術	言 語 Language	文 学 Literature	雑 誌 Magazines	計 Total
冊 数 Number of Books	1,379	214	132	212	1,193	3,192	12	534	526	2,893	622	10,909
%	12.7	2.0	1.2	1.9	10.9	29.3	0.1	4.9	4.8	26.5	5.7	100



図 書館 Library



検索機 Retrieval System



雑誌コーナー Room for Magazines



AVコーナー Audiovisuals

38 Takuma National College of Technology

(出典 平成 19年度学校要覧 38頁)

図書館資料の案内

資料の案内

蔵書は自然科学や工学・技術といった理工系の分野が多く、全体の4割近くを占め、工業高専の特色がでています。 また、最近では文学の分野も積極的に購入し、除々に比率が上がっています。

蔵書冊数(平成19年4月1日更新)

 総記
 哲学
 歴史
 社会科学
 自然科学
 技術
 産業
 芸術
 言語
 文学
 計

 8,361
 3,202
 6,312
 6,739
 16,525
 20,794
 1,245
 3,581
 5,097
 15,170
 87,026

雑誌は学習・課外活動を支援するタイトルが多く、コンピューター関連のものが目立ちます。DVD・LDは洋画が大部分を占めています。

所蔵点数(平成19年4月1日更新)

和雑誌	洋雑誌	CD	CD-ROM	DVD	LD	ビデオ
153	9	1,420	50	543	200	207

閲覧用雑誌一覧

Airline	ASCII	CDでーた	CQ Ham Radio	Cross Beat
DOS/V Magazine	DOS/V Power Report	I/O	KAZI	Mac Power
Newsweek 日本版	Newton	Newton 別冊	non•no	Sapio
Software Design	TOEIC Test プラス・マガジン	Unix Magazine		
オートバイ	オレンジページ	科学	カメラ年鑑	現代化学
国際開発ジャーナル	サッカーマガジン	サッカーマガジン 別冊	時刻表	将棋世界
小説すばる	数学セミナー	数理科学	ソフトテニスマガジン	タウン情報かがわ
卓球レポート	中央公論	テニスジャーナル	電波受験界	トランジスタ技術
トランジスタ技術 Special	日経サイエンス	日本カメラ	バスケットボール	バドミントンマガジン
バレーボール	文藝春秋	ベースボールマガジン	メンズノンノ	山と渓谷
ラメール	陸上競技			

(出典 本校ホームページhttp://denshobato.da.takuma-ct.ac.jp/users/tosyo/shiryou.htm)

詫間電波工業高等専門学校図書・紀要委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校図書館規程第7条第2項及び詫間電波工業高等 専門学校内部組織規程第15条第2項の規定に基づき、図書・紀要委員会(以下「委員会」と いう。)について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 図書館の運営方針に関すること
 - 二 図書館の業務計画に関すること
 - 三 図書館の利用に関すること
 - 四 図書館利用案内及び図書館だよりの編集・発行に関すること
 - 五 研究紀要掲載論文の募集及び選定に関すること
 - 六 研究紀要の編集及び発行に関すること
 - 七 その他図書館の運営及び研究紀要に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 図書館長
 - 二 各学科及び一般教科教員 各1名
 - 三 学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、図書館長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (任命)
- 第5条 第3条第2号に規定する委員は、各学科及び一般教科からの推薦に基づき、校長が任命 する。

(任期)

第6条 第3条第2号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第7条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があるときは委員以外のものを出席させることができる。

(報告)

第9条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)

第10条 委員会の事務は、学生課学生支援係において処理する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

学科図書推薦による購入例

图書番号	書名	請求記号	図書番号	書名	請求記号
70592	感性の科学	007.1 Ts 41	975755	プログラミングMicrosoft Visual C#.NET(マイクロソフト公式解)	007.64 W 74
70546	自己組織化マップ	007.1 V 31	975757	例解データマイニング入門	417 U 14
75751	コアJAVA 2 (サンソフトプレスシリーズ)	547.48 H 89 1	070590	複雑系組織論	361.6 A 97
75752	コアJAVA 2 (サンソフトプレスシリーズ)	547.48 H 89 2	975748	目で見る画像圧縮	007.1 Mu 43
70543	感性情報学	007.1 Ka 59	070596	創発	007.1 J 64
75359	PEAR入門	547.48 Y 19	070584	感性データ解析	501.8 N 36
75744	数学·物理学入門(Game developer)	798 St 1	975747	SPSSによる統計処理の手順	417 I 78
70218	フラクタルと画像処理(現代非線形科学シリーズ;8)	413.6 To 41	070583	免疫研究の最前線	491.8 Me 46
75360	データ圧縮ハンドブック	007.6 N 63	975754	ゲームCG教科書	798 Su 34
70219	画像処理(Information science & engineering; T6)	007.1 Ka 31	975753	感性のテクノロジー入門	547.8 Mi 73
70202	Fractals everywhere	414 B 23	070601	社会的交換における協力生起過程(関西学院大学論文叢書: 第15)	361.4 Mo 45
75556	大学編入・大学院入試合格!論文の書き方	377 D 16	070595	感性工学の基礎	501.8 Ko 91
75555	大学編入社会人入試これが出る!問題集	377 D 16	070594	対立と協調の科学	361.3 A 97
75557	合格!大学編入は英語で決まる	377 D 16	070593	複雑系の数理	410 Ma 73
75715	まるわかり!大学編入	377 D 16	975758	人工市場で学ぶマーケットメカニズム(知的エージェントで見る社)	338.15 Sh 79
75704	大学編入必勝マニュアル	377 D 16	070589	社会デザインのシミュレーション&ゲーミング(知的エージェント)	301.6 Ka 52
75766	ASP.NET 2.0実践サンプル集	547.48 Ka 72	070588	遺伝的プログラミング入門	007.64 I 11
75707	アプリケーションプログラミング(.NET Frameworkプログラミング)	007.64 H 99 3	070587	学習とそのアルゴリズム	007.1 D 58
70542	カラーデザインのための色彩学	757.3 Ma 34	070586	自律分散システム入門	501 Mo 45
75714	Asterisk	547.48 Me 18	070585	ソフトウェア工学	007.63 Ma 8
75705	Postfix実用ガイド/ Kyle D. Dent著 ; 菅野良二訳	547.48 D 61	975756	すいすい習得UMLモデリング(豆蔵セミナーライブオンテキスト;)	007.61 0 43
75706	802.11無線ネットワーク管理	547.48 G 25	070598	自動要約	007.54 Ma 4
75746	SPSSによる分散分析と多重比較の手順	417 78	975761	はじめてのS-PLUS/R言語プログラミング	417 Ta 67
75710	SPSSによる分散分析と多重比較の手順	417 I 78	070597	セルオートマトン	007.1 Mo 65
75711	SPSSによる時系列分析の手順	417.6 I 78	975745	Visual Studio 2005 ASP.NET 2.0 Webアプリケーション開発Progra	547.48 P 94
75712	SPSSによる多変量データ解析の手順	417 I 78	070581	複雑現象工学	504 F 85
75708	SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順	417 I 78	070582	遺伝的ブログラミング(コンピュータサイエンス・シリーズ)	007.64 B 19
75709	SPSSによる線型混合モデルとその手順	417 I 78	975742	MPEG-7と映像検索(Media pro)	007.6 Ku 43
	Ajax Hacks	547.48 P 42		LHAŁZIP	007.64 O 55
	無線LANセキュリティ	547.48 E 23	975750	遺伝的アルゴリズムと遺伝的プログラミング	007.64 H 66
70541	入門独立成分分析	417 Mu 59	975749	GLUTによるOpenGL入門(I/O books)	007.6 To 34
70550	複雑さへの関心(複雑系叢書: 7)	404 F 85 7	070591	エージェント理論による企業行動分析	336.1 To 32
70549	複雑系の構造と予測(複雑系叢書: 1)	404 F 85 1	070599	基礎からの力学系(SGC books; M1)	413.6 Ko 69
70544	複雑系マーケティング入門	675 Ki 69	070600	基盤としての情動	141.6 C 72
70545	自己組織化マップ応用事例集	007.1 J 51	975884	BSD hacks	007.6 L 39
70547	ニューラルネットワーク計算知能	007.1 W 46	975890	FreeBSDビギナーズバイブル(MYCOM UNIX books)	007.6 G 72
70538	高次認知のコネクショニストモデル(認知科学の探究)	141.2 Ts 99	975885	FreeBSDのブートプロセスをみる(UNIX magazine collection)	007.6 Sh 85
70551	進化論は計算しないとわからない	467.5 H 92	975883	BSDカーネルの設計と実装	007.6 Ma 21
	リコンフィギャラブルシステム	548.2 Su 19	070675	自己組織化マップ	007.1 Ko 27
70553	人工社会	306.1 H 43	975888	Debian辞典(Desktop reference)	007.6 Mu 93
	アドホックモバイルワイヤレスネットワーク	547.5 To 23	975889	最新debian GNU/Linux完全攻略ガイド	007.6 A 43
75717	基礎からわかるTCP/IP	547.48 Ma 21	975886	Debian GNU/Linux徹底入門	007.6 Mu 93
	大学院・大学編入学社会人入試の小論文	377 Y 92	975887	Debian GNU/Linuxでつくる骨太システム	007.6 Ta 67
	eラーニング専門家のためのインストラクショナルデザイン	379.7 Sa 25	975892	デーモン君のソース探検(BSD magazine books)	007.6 H 79
70539	遠隔教育とeラーニング	379.7 Te 21	975891	4.4BSDの設計と実装	007.6 Ma 21
	高等教育におけるeラーニング	377.15 0 18	975931	入門Debianパッケージ	007.6 Y 19
	eラーニング白書	379.7 Ke 29	975932	The Debian system(MYCOM UNIX books)	007.6 Kr 1
	MMORPGゲームサーバープログラミング(Game developer)	798 N 47	-		
75768	オンラインゲームプログラミング(Game developer)	798 J 95	-		
75767	C#ゲームプログラミング(Game developer)	798 A 32	-		
75771	開発のプロが教える標準Plone完全解説(デベロッパー・ツール・		-		
75770	Ajaxイン・アクション	547.48 C 91	-		
75762	ロボカップサッカーシミュレーション2Dリーグ必勝ガイド	548.3 A 38	+		
75760	入門Skypeの仕組み	547.48 I 33	+		
75764	AsteriskでつくるIP電話システム	547.48 Ta 33	4		
	Ploneによる簡単webコンテンツ管理(オープンソース徹底活用)	547.48 Te 43	-		
75765	JPEG2000のすべて	007.6 N 94	1		

(出典 学生課学生支援係)

読書感想文コンクール 第20回読書感想文コンクール実施要領

1. 題は自由とする。

400字詰原稿用紙3枚以上とする。

2. 締切 9月4日(月)

図書閲覧室へ提出する。

3. 入賞者には賞状及び賞品を授与する。

1位 図書カード(10,000円) 1名

2位 図書カード(5,000円) 2名

3位 図書カード (3,000円) 2名

複数応募も可、一人で2編以上入賞した場合は上位作品1編の入賞とする。

- 4. 応募者には参加賞を授与する。
- 5. 入賞作品は電書波図(図書館だよりの Web 版)に掲載する。
- 6. 選考は図書・紀要委員会で行う。
- 7. 共用棟前の掲示板に掲示するとともに学級担任及び学生図書委員に依頼し周知する。
- ★同時に写真・絵画・イラストも募集

題材 自由

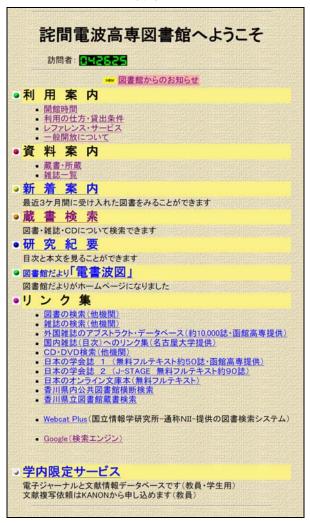
締切 9月4日(月) 図書閲覧室へ提出する。

賞品 入選2点 図書カード(各3,000円)

入選作品は電書波図(図書館だよりの Web 版)のトップページに採用。

(出典 学生課学生支援係)

図書館HP



(http://denshobato.da.takuma-ct.ac.jp/users/tosyo/index.html)



(http://tosyo9.da.takuma-ct.ac.jp/)

(出典 本校ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

学生及び教員のニーズに応じて必要な資料が系統的に整備され、活用されている。87,000冊以上の 蔵書があり、工学や自然科学の他、文学や歴史、社会科学、語学などの図書や学術雑誌も充実してお り、さらに学生の要望や教員の意見などを配慮して図書を整備している。またインターネットを利用 した蔵書検索や文献検索サービス、学生図書委員会の活動や広報の作成、図書館イベントなどで図書 の利用促進を図っている。以上から、本観点を満足していると判断する。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の施設・設備は、施設長期計画に基づいて継続的に整備されている。また、点検評価委員会に おいて施設の利用状況と問題点が分析されていることから、施設・設備は有効に活用されている。情 報ネットワークに関しても十分なセキュリティ管理の下、インターネット及び電子メール等の利用を 含め、学生のネットワーク利用環境が整備されている。

図書館についても学科の種類,教員数及び学生数に応じた図書,学術雑誌など教育研究上必要な資料として利用しやすく系統的に配架し整備がされている。また,学生のニーズに対応した各種コーナーも設置され有効に活用されている。

(改善を要する点)

セキュリティポリシーについて、組織体制の変更、環境の変化に対応した見直しを検討する。

(3) 基準8の自己評価の概要

本校の目的や教育課程に対応した校地・校舎・教室・図書館棟・情報処理センター・体育館・運動場等の施設が整備されているほか、教育用の機械器具・計測機器等の設備も適切に整備され、それぞれ有効に活用されている。また、学内の情報ネットワークについては、校内LANの高速化、学外接続の高速化を最大限に図っているほか、情報セキュリティの面からもウィルスに対処する仕組みを整備するなど教育や学生のニーズを満たすものとして適切に整備され、有効に活用されている。

図書館については、学生及び教員のニーズに応じて系統的に収集された図書、学術雑誌、視聴覚資料等の教育研究上必要な資料が充実した状態で整備されている。また書架の配置や検索用のパソコン等の設備、並びに土曜日や夜間に開館するなど利便性が十分に考慮されており、学生からも有効に活用されている。また、校内の体育施設や図書館は学外者に対して開放しており、有効に活用されている。

以上のとおり、施設・設備が整備され、有効に活用されているほか、情報ネットワークも十分な セキュリティ管理下で適切に整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料 も整備されている。

基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点9-1-①: 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積 され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

教育活動の実態を示すために、資料 9-1-①-1 に示すデータ・資料を収集・蓄積している(資料 1-1-①-10、資料 $9-1-①-2\sim6$)。

評価を適切に実施できる体制として、教務委員会の下に「教育改善専門部会」を、点検評価委員会の下に「認証評価専門部会」を設置している(資料 $9-1-①-7\sim9$)。また、学外の有識者との運営懇話会(資料 9-1-①-10)を開催し、委員からの意見と本校の対応状況等をまとめた運営懇話会報告書を全教員に配布することで自己点検・評価に活用している。

資料 9-1-①-1

教育活動の実態を示すデータや資料一覧

	データ 資料名	概要	チェック			資料番号	
	ノータ 貝科石	[時期	保存確認	保存場所	内容	
1	シラバス	平成7年度から15年度までは、教務係で製本。平成16年度から製本をやめ各科のWebページに公開。平成18年度からは教務係で取りまとめWeb上に公開。	3月	学生課教務係	学生課教務係 (本校Webペー ジに掲載)	1-1-①-10 シラバス例	
2	講義日誌	平成18年度から,全教員が記録し保 管。	試験期間中 (年4,5回)	各科	各科	9-1-①-2 講義日誌例	
3	試験答案	平成17年は、前期期末試験からの成績 上位5名の答案と可、不可の答案、得 点の度数分布表をファイリングし保管。 平成18年度からは、非常勤を含む全教 員の担当科目について、得点の度数分 布グラフ、白紙の試験問題、解答例、答 案(得点の降順にソート)を電子ファイ ル化し、年度末に全ファイルをDVDに 保存。	試験期間中(年4,5回)	各科教育改善専門部会	各科学生課教務係	9-1-①-3 答案保存の ガイドライン	
4	授業評価アンケート	平成11年度から学生による授業評価アンケートを年1回実施。講義科目を原則 として1人2科目選択し、実施。 専攻科 科目を講義している場合は、2科目のう ちの1科目は専攻科科目。	(前期科目は	学生課教務係	学生課教務係 (本校図書館の 閲覧室で公開)	9-1-①-4 授業評価 アンケート	
5	シラバスと授業について の自己点検評価シート	平成16年度から年度末に全教員は担 当科目ごとに記載し保管。	年度末	各科	各科	9-1-①-5 自己点検評価 シート	
6	自己点検集計表	「シラバスと授業についての自己点検 評価シート」の集計結果を示す統一した集計表を、平成17年度に作成。	年度末	教務委員会	学生課教務係	9-1-①-6 自己点検集計 表例	

(出典 教育改善専門部会データより作成)

資料 9-1-①-2

【平成18年度 講義日誌】

科目名:数值解析

担当:

月日時間	区分 [授業(番号)/ 補講/質問]	シラバス	日誌 (内容)	備考	
4/12 13:25- 15:05	授業(1)	1. 数値解析とは何か(2)	シラバスを配布し、進め方、評価方法を説明。数値解析とは何かを考え方を例に挙げながら説明。(第1章) 編入生には、UNIXの基本操作と演習手順のプリントを配布。	シラバス 編入生への対応	
4/12 14:30- 15:00	質問	内容:数値積分のときの分的に3次のときと一般化した 具体的に数値が入ると理解である。			
4/19 13:25- 15:05	授業(2)	2. 誤差の定義(2)	演習 第1回レポート レポートの形式,提出方法の説明	第1回レポート締切 4/25	
4/26 13:25- 15:05	授業(3)	3. 数値計算の手順(2)	誤差とは、誤差の定義、種類。 数の表現(整数)。		
5/10 13:25- 15:05	授業(4)	4. 整数の表現形式(2)	数の表現(浮動小点数) 正規形, IEEE方式, IBM方式 不動小数点数の計算過程		

(出典 平成18年度 講義日誌 一般教科,専門学科ごとに保存)

資料9-1-①-3

試験答案保存のガイドライン

平成 18 年 5 月 29 日 教務委員会

試験答案保存のガイドライン

機関別認証評価、JABEE受審に備えての試験答案保存のガイドラインを定める。

1. 概要

- 情報通信工学科,電子工学科,電子制御工学科,情報工学科,一般教科教室は(以下,各学科),ガイドラインにそって(1)試験得点の度数分布グラフ,(2)試験問題,(3)解答例 および(4)答案(以下,試験答案等)の保存作業をおこなう。
- 試験答案等は、PDF(Adobe Portable Document Format)化した電子ファイルとして保存する。
 試験答案等の保存は、年度途中には科目を担当する教員の所属科毎に行い、年度末に PDF 化した試験答案等の取りまとめ作業を行って、教務係が保管する。
- 非常勤講師の担当する科目の試験答案等は、教育課程表の対応学科で保存作業をおこなう。ただし、非常勤講師との試験答案等の受け渡し窓口は教務係がおこなう。

2. 保存する試験答案等の範囲

- 教務係が実施担当する中間試験、期末試験、追試験、単位追認試験
- 科目担当者が実施する定期試験に準じる試験 (注意) 留学生のために設けられた科目についても、その試験答案等を保存する。

3. 試験の実施と保存作業の準備

- 保存する試験は、100 点満点で評価する。試験問題は、その試験での評価を「可」とできる最低 水準を50点(専攻科は60点)とする難易度の問題とする。(学期成績、学年成績の「可」では ない)
- 各学科と教務係に、試験答案等保存の実施担当者をおく。 実施担当者は、学科の事情を考慮して、試験答案等の保存作業を具体化する。
- 各学科は、試験答案の保存という作業の性格上、セキュリティに十分配慮して編集保存作業を実施する環境を整備する。(パソコン、スキャナ、PDFファイル編集ソフトウェア等の環境を整備すること。)

4. 電子ファイルとしての試験答案等保存作業

- 1. 科目担当者は、試験問題、答案用紙に、(a)科目と試験名、(b)試験実施日、(c)担当者氏名 を記載 する。また、解答例に採点担当者の氏名を記入する。
- 2. 科目担当者は,試験答案等を(1)試験得点の度数分布グラフ,(2)試験問題,(3)解答例,(4)答案の順でPDF化する。(「PDFファイルの作成」を参照)

この際には,実施試験毎,クラス毎に作業を行う。

問題作成者,採点者,科目担当者が複数人である場合にはその旨わかるように解答例に記入する.

- (1)の度数分布グラフは10点きざみのもの。(0-9, 10-19,, 90-99, 100)
- (2)の試験問題は、答案用紙を含む未記入のもの。
- (3)の解答例は、採点者氏名等を記入したもの。
- (4)の答案は、得点の降順にならべたもの。(得点の高いものから低いものの順)

(出典 平成 18 年度第 4 回教務委員会資料 平成 18 年 5 月 29 日 (抜粋))

資料9-1-①-4

授業評価に関するアンケート用紙

<u> </u>	<u>関する質問</u>			
		積極的	普通	消極的
	(聞き授業に集中しましたか。	5 集中した	4 3 2 どちらともいえない	集中していない
2. あなたは予習復	習を十分行いましたか。	5 行った	4 3 2 どちらともいえない	1 行っていない
3. あなたは試験勉	強を計画的に行いましたか。	<u>5</u> 行った	4 3 2 どちらともいえない	1 勉強をしていなし
〇授業の評価に	<u>関する質問</u>			
4. 授業の内容を理	解できますか。	5 理解できる	4 3 2 どちらともいえない	1 全く理解できない
5. 授業の難易度は	は適切ですか。	<u>5</u> 適切である	4 3 2 どちらともいえない	1 適切でない
6. 授業の進み具合	は適切ですか。	5 適切である	4 3 2 どちらともいえない	<u>1</u> 適切でない
7. 授業に準備やエ	三夫がされていますか。	5 されている	4 3 2 どちらともいえない	1 全くされていない
8. 居眠りや私語を 教員は注意等を		5 必ずする	4 3 2 どちらともいえない	1 全然しない
	星れたり、早く終わったり、	5 ない	4 3 2 どちらともいえない	非常に多い
10. 授業中、質問	や発言をしやすいですか。	5 しやすい	4 3 2 どちらともいえない	1 しやすくない
11. 教員に意欲・熱	热意を感じますか 。	5 感じる	4 3 2 どちらともいえない	1 全く感じない
12. 黒板の使い方	は適切ですか。	<u>5</u> 適切である	4 3 2 どちらともいえない	<u>1</u> 適切でない
13. 教員の説明は	分かり易いですか。	5 分かり易い	4 3 2 どちらともいえない	1 2 全く分からない
14. あなたの成績	は正しく評価されていますか。	5 されている	4 3 2 どちらともいえない	1 全くされていない
15. 試験問題の難	易度は適切ですか。	5 適切である	4 3 2 どちらともいえない	1 適切でない
16. 総合的に判断	して良い授業だと思いますか。	<u>5</u> 良い	4 3 2 どちらともいえない	悪い
〇授業に関する	<u>意見</u>	~		,5,-
	意見を自由に記入して下さい。			

(出典 学生課教務係)

資料 9-1-①-5

シラバスと授業についての自己点検評価シート

	平成 17 年度	シラバン	スと授業につい	いての自己点検シート	2006. 03
科目名		科	学年	担当教員	
1. シラバスに記	載した通りに実	産施できた	か。		
学習教育目標	□目標を達成	できた			
	□ほぼ達成で	きた			
	□ある程度達成	式できた			
	□できなかった	た			
進め方	□シラバス通	りにでき	た		
	□変更した(変更事項	を明記する)		
学習項目	□シラバス通	りにでき	た		
	□変更した部分	分がある	(変更した部	部分を明記する)	
	[
that have Love.		- See her A	<i>-</i>		
評価万法	口記載どおり				
	□評価方法を領	変更した	(変更した記	平価方法を明記する)	
教材	□記載どおり	の教材に	よって授業を	を行った	
	□教材を変更	した(変)	更した教材を	を明記する)	
	[
2. 学習教育目標	を達成できた学	生の割合	(学習教育	目標,学習成果,達成	度基準)
	高いレベルで	達成でき	ている (優,	良)[] %	
	達成できてい	る		(可)[]%	
	達成できてい	ない	(7	下可)[]%	
3. 改善すべき点	とそれに対する	改善策			
改善すべき点:		7.11			
それに対する改善	存等 •				
て401年2月9 日以刊	学界:				

(出典 シラバスと授業についての自己点検評価シート)

資料 9-1-①-6 平成17年度自己点検集計表(情報工学科) 学習教育目標 進め方 学習項目 評価方法 教材 目標達成度 レン-ト い 反 く 映 平成18年度に向けての ひ t の き点・改善策 反 な 映 い 速 ほ ほ ほ ほ ま 成 で き た ある程度 かった 改善策の達成度 成でき 学年 科目名 担当者 (平成18年度末に評 11 基礎工学演習 1 情報処理I 2 情報処理Ⅱ

資料9-1-①-7

(出典 教育改善専門部会データより作成)

教育改善専門部会議事要録

教育改善専門部会(第7回)議事要録

会議名 教育改善専門部会(第7回)

日時 平成17年6月28日 (火) 17:00~18:30

場所 管理棟2階、副校長室(管理棟2階東入口を入ったところ)

出席者

(8名)

議題

- 1. 試験答案の保存について
- 2. その他

議題1.

「試験答案の保存について」具体的な保存のありかたについて議論された。教育改善専門部会としてガイドラインを設けることとなった。(別紙「試験答案保存のガイドライン(案)」参照のこと。)

(出典 本校グループウェア 平成 17 年度第7回教育改善専門部会議事要録(抜粋))

資料 9-1-(1)-8

点検評価委員会認証評価専門部会細則

詫間電波工業高等專門学校点検評価委員会認証評価專門部会細則

(趣旨)

第1条 詫間電波工業高等専門学校点検評価委員会規程第5条第1項の規定に基づき,認証評価 専門部会(以下「専門部会」という。) について,必要な事項を定めるものとする。 (目的)

第2条 専門部会は、次の各号に掲げる事項について処理する。

- 一 機関別認証評価自己評価書作成に関すること。
- 二 その他機関別認証評価に関すること。

(構成)

第3条 専門部会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- 一 副校長
- 二教育改善専門部会委員
- 三 総務課長

(任期)

第4条 任期は平成20年3月31日までとする。

(部会長)

第5条 専門部会に部会長を置き、教育改善専門部会長をもって充てる。

2 部会長は、専門部会を招集し、議長となる。

(委員以外の者の出席)

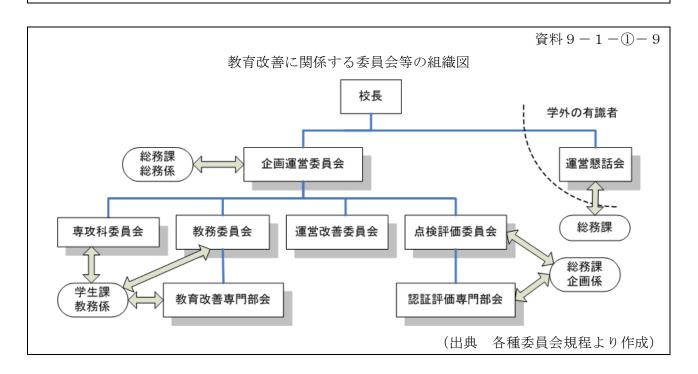
第6条 部会長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させることができる。 (事務)

第7条 専門部会の事務は、総務課企画係において処理する。

附 則

この規程は平成18年7月13日から施行する。

(出典 本校グループウェア 点検評価委員会認証評価専門部会細則)



資料 9-1-①-10

運営懇話会要項

4. 詫間電波工業高等専門学校運営懇話会要項

(設置)

第1条 詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)に運営懇話会を置く。

(目的)

第2条 本校の教育・研究及び学校運営等について、学外の有識者による助言を広く求めることにより、本校の学校改善に資することを目的とする。

(委員)

第3条 懇話会の委員は、人格見識が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学 外者のうちから、校長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長)

第5条 懇話会に、座長を置き、校長が指名する。

2 座長に事故あるときは、校長が指名する委員がその職務を代行する。

(開催)

第6条 懇話会は、必要に応じて校長が招集する。

(事務)

第7条 懇話会の事務は、総務課において処理する。

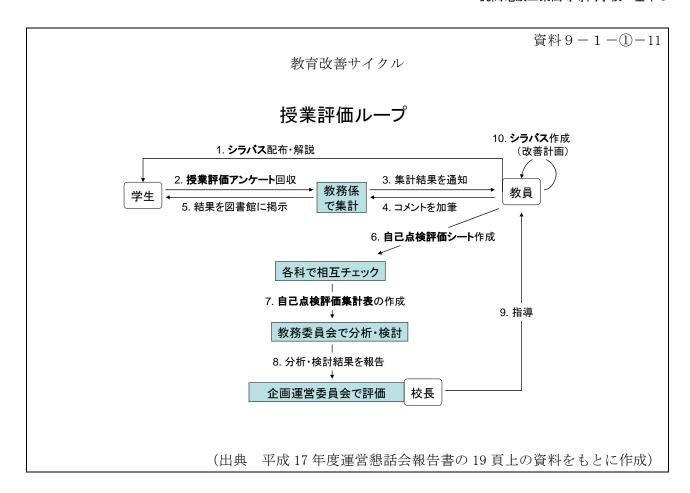
时 則

- 1 この要項は、平成16年10月20日から施行する。
- 2 この要項の施行により最初に委嘱された委員の任期については、第4条の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 平成 18 年度 運営懇話会報告書 平成 18 年 9 月 29 日 4 頁)



(分析結果とその根拠理由)

教育改善専門部会と認証評価専門部会を設置し、教育活動の実態を示すデータ・資料の保存方法や自己点検・評価のためのガイドライン作りを行っている。各科や教務係、委員会等で毎年授業評価ループ(資料 9-1-(-1))に従って授業改善・評価がなされている。以上、評価を適切に実施する体制を整備している。

観点9-1-②: 学生の意見の聴取(例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。)が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

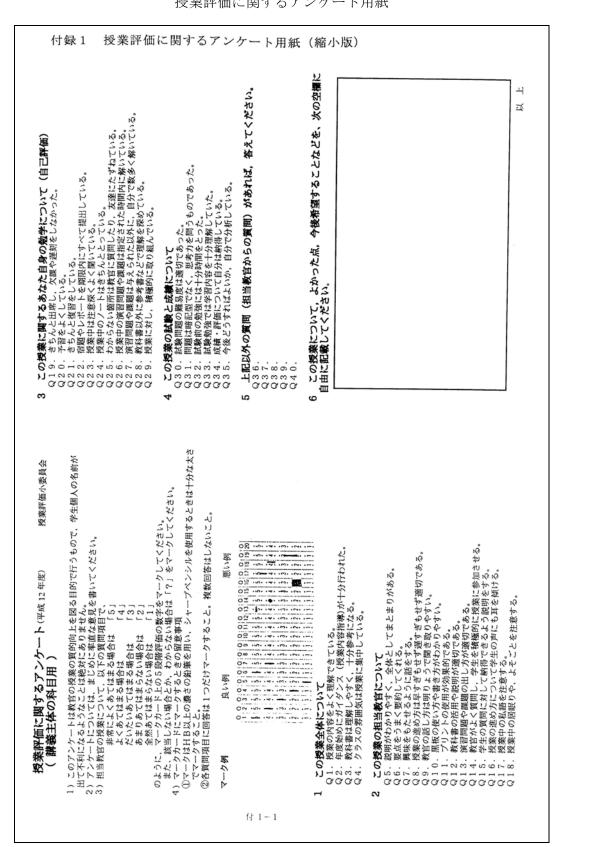
学生による授業評価アンケートを年1回実施している。平成11・12年度は全教員・全担当科目に対して実施し、評価結果を報告書にまとめ全教員に配布した(資料9-1-②-1-3)。平成13年度からは質問項目を見直し、実施科目も教員あたり2科目に設定した(資料9-1-②-4)。アンケート集計結果は、平成15年度から自由に閲覧できるよう図書館での公開を始めている(資料9-1-②-5)。平成18年度からはアンケート用紙を自動集計できるように変更し、回収と集計を教務係で行うようにした(資料9-1-②-6、7)。

講義や学習に関する学生の意見は、校長・3主事・学生課長と学生会役員との懇談会においても聴取している(資料7-1-3-1)。聴取した意見は、学生会役員との懇談会(メモ)として学校としての対応状況をまとめ自己点検・評価に反映されている(資料9-1-2-8)。

後援会支部総会では、学生の意見・要望等についてのアンケート調査を保護者に対して実施し、調査結果は教員会議において全教員に配布されている(資料 9-1-2-9)。教務委員会において、関係する教員は要望に対する回答を教務主事に報告し、自己点検・評価に反映するようにしている(資料 9-1-2-10)。

資料 9-1-②-1

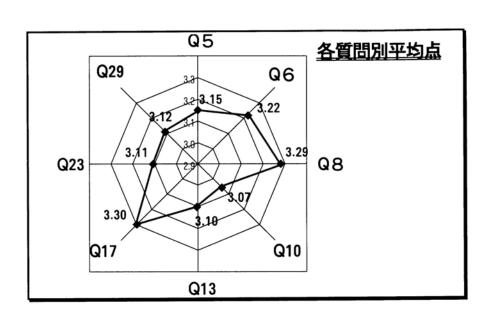
授業評価に関するアンケート用紙



(出典 自己点検・評価報告書(平成12年度 学生による授業評価)平成13年3月 付1-1頁)

資料 9-1-2-2

授業評価アンケートの分析結果



図Ⅱ-2-1

2.2 8項目の集計

2.2.1 Q5 (説明がわかりやすく,全体としてまとまりがある。) について



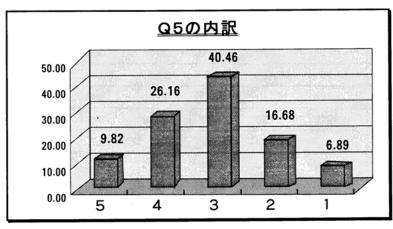


図 II -2-2

(出典 自己点検・評価報告書(学生による授業評価 中間報告)平成12年6月 6頁)

授業評価アンケートの分析結果

1.1 項目別・学年別集計

1.1.1 Q5 (説明がわかりやすく,全体としてまとまりがある。) について

_	表Ⅱ-1-1									
評	価	5	4	3	2	1	合 計	平均点		
第	1 学年	108	291	339	123	51	912			
得	点	540	1164	1017	246	51	3018	3.31		
割	合	11.84	31.91	37.17	13.49	5.59	100.00			
第:	2学年	98	262	381	154	75	970			
得	点	490	1048	1143	308	75	3064	3.16		
割	合	10.10	27.01	39.28	15.88	7.73	100.00			
第:	3学年	117	297	566	247	125	1352			
得	点	585	1188	1698	494	125	4090	3.03		
割	合	8.65	21.97	41.86	18.27	9.25	100.00			
第4	4学年	143	454	717	287	91	1692			
得	点	715	1816	2151	574	91	5347	3.16		
割	合	8.45	26.83	42.38	16.96	5.38	100.00			
第:	5学年	108	338	527	140	35	1148			
得	点	540	1352	1 58 1	280	35	3788	3.30		
割	合	9.41	29.44	45.91	12.20	3.05	100.00			

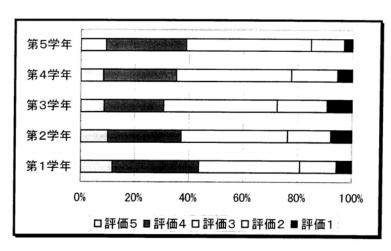


図 II - 1 - 1

(出典 自己点検・評価報告書(平成12年度 学生による授業評価)平成13年3月 5頁)

平成 17 年 9 月 12 日

教員 各位

教務主事 高木正夫

授業評価アンケートの実施について

平成17年度も昨年同様学生による授業評価アンケートを実施することになりましたので、 各教員には下記の日程で授業評価アンケートの実施をお願いいたします。

原則として、実施は1回/年ですが、もし、実施を2回に分ける場合は、実施時期等を ご連絡ください。

各教員ごとに,原則として担当科目から2科目を選択し実施してください。

ただし、同じ科目を複数のクラスで教える場合は1クラスだけ実施して、もう1科目は別の科目を実施して下さい。対象科目を1科目しか担当していない場合は1科目だけ実施し、対象科目を担当していない場合はアンケートを実施する必要はありません。

1)アンケート用紙(本メールの添付ファイル "questionnaire.xls")は、各教員または各学科で必要枚数のコピーをお願いいたします。

ただし, 非常勤担当科目については教務係でコピーします。

2)アンケート実施時、担当教員は学生にプレッシャーがかからないようにアンケート時は教室から出るなどご配慮をよろしくお願いいたします。

実施したアンケートの集計は、各教員でお願いいたします。集計結果は、本メールの添付ファイル"result.xls"に入力してください。

ただし, 非常勤担当科目については教務係で集計します。

- 3)集計ファイルは、下記のメールアドレスへ添付ファイルとして送付いただくか、フロッピーディスクに入れ教務係へご提出下さるようお願いいたします。その際、ファイル名を教員のフルネームに変更するようお願いいたします。たとえば、高木の場合はファイル名が"高木正夫.xls"となります。後の手続きが簡単になりますように、ご協力をよろしくお願いいたします。
- 4)集計結果は教務係でプリントアウトし、ファイリングして、図書館の図書閲覧室に置き、閲覧可能とします。

記

【アンケート実施期間 】 $10 月 3 日 (月) \sim 12 月 16 日 (金)$

【アンケート対象科目 】 工学実験、体育、芸術、演習中心の科目以外の科目

【アンケート用紙 】 本メール添付ファイル "questionnaire.xls "

【アンケート集計ファイル】 本メール添付ファイル "result.xls"

【集計結果の提出締切日 】 1月10日(火)17時

【集計結果提出先 】 教務係へフロッピーで提出,または,

■■■■■takuma-ct. ac. jp への電子メールに添付

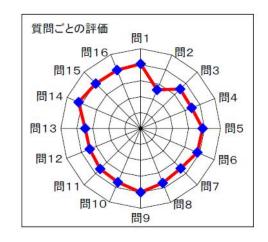
(出典 学生課教務係)

平成 18 年度 授業評価に関するアンケート集計結果 (閲覧用)

授業評価に関するアンケート集計結果(閲覧用)

実施年	2007	学 年	4	科目名	数值解析
実施月	1	学科組	情報	教員名	

	合 計	回答数	平均
問 1	166	41	4.049
問2	108	41	2.634
問3	140	40	3.500
問 4	141	41	3.439
問5	159	41	3.878
問6	158	41	3.854
問7	145	41	3.537
問8	151	41	3.683
問 9	164	41	4.000
問10	150	41	3.659
問11	147	41	3.585
問12	141	41	3.439
問13	139	40	3.475
問14	173	41	4.220
問15	163	41	3.976
問16	158	40	3.950



	学生からの意見
1	黒板の文字をもう少し大きくして下さい。
2	字が細かすぎるときがあります。あとひとまわり大きく書いて欲しいです。
3	
4	
5	

教員からのコメント 黒板の文字はできるだけ大きく書くようにします。 ただ、添え字付きの数式はどうしても小さくなってしまうので、教科書や下記 のWebページの情報を参考にして下さい。

http://www.di.takuma-ct.ac.jp/~iii/numeric/numeric.html

アンケート結果の分析

過去3年間で比較した結果、評価が上がったのは、学生は話をよく聞き授業に集 中し(問1) , 予習復習を十分にし(問2) , 授業の難易度と進み具合は適切で(問5,6) , 成績は正しく評価され(問14) , 試験の難易度も適切(問15) であった。また, 教員に意欲・熱意を感じる(問11) が昨年度より少し下がったが, 全体 としては良くなったといえる。 コメントも昨年までは、"演習時間が足りない"が多かったが、今年は"字が

小さい"が2名いた。黒板の文字の大きさは改善したい。

今後の取り組み

黒板の文字の大きさは、極力大きめに書くように心がける。 数式や公式などはできるだけWebページに掲載し、学生が自分のノートと比較で きるようにする。

(出典 図書館閲覧室)

		平成	アート実施日 年 月
授業評価に関するアングン との調査は、授業担当の教員が学生の皆さんと共同して、 トロース を関いている質問に回答してください。	授業を上り自		するものです。
「 <u>右の例を参考に、該当するものに × を入れてください。</u> L	良い例	悪い例 (小さすぎ) ×	悪い例 悪い例 (大きすぎ)(中央でない
1 あなたは話をよく聞き授業に集中しましたか。	集中した	どちらともいえた	まい 集中していない
2 あなたは予習復習を十分行いましたか。	行った	どちらともいえた	い行っていない
3 あなたは試験勉強を計画的に行いましたか。	行った	どちらともいえな	勉強をしていな
4 授業の内容を理解できますか。	理解できる		
5 授業の難易度は適切ですか。6 授業の進み具合は適切ですか。	適切である		
7 授業に準備や工夫がされていますか。	されている		
8 居眠りや私語をしているとき、教員は注意等をしますか	。必ずする	□ □ どちらともいえな	
9 教員は授業に遅れたり、早く終わったり、休講などがありますか。	り ない		い非常に多い
10 授業中、質問や発言をしやすいですか。	しやすい	どちらともいえな	いしやすくない
11 教員に意欲・熱意を感じますか。	感じる	どちらともいえな	い全く感じない
12 黒板の使い方は適切ですか。	適切である	どちらともいえな	い適切でない
13 教員の説明は分かり易いですか。	分かり易い		
14 あなたの成績は正しく評価されていますか。	されている		
	適切である	どちらともいえな	
	良い	どちらともいえな	ハ 悪い
 14 あなたの成績は正しく評価されていますか。 15 試験問題の難易度は適切ですか。 16 総合的に判断して良い授業だと思いますか。 17 18 9 授業に対する意見を自由に記入して下さい。 			□ [い 適切 □ [

教員各位

教務主事 高木正夫

授業評価アンケートの実施科目の調査ならびに実施要領のお知らせ (省略)

B. 授業評価アンケートの実施要領

本年度の授業評価アンケートの要領要領をご連絡します。昨年度と比べ,いくつかの 点で変更がありますので,ご注意ください。

1. 変更する理由

昨年度は各先生方でアンケートの集計をお願いしておりましたが、外部評価において アンケートの客観性に劣るとの指摘が予想されます。そこで、本年度からは、アンケートの集計は教務係で行うことになりました。

(省略)

- 4. 授業評価アンケートの実施手順
- (1) 授業評価アンケートの印刷を教務係が行う。
- (2) 授業評価アンケートを教務係から受け取る。
- (3) 担当科目のアンケートを実施する. (約2週間)
- (4) 回答後のアンケート用紙は学生(週番または学級委員)が教務係へ提出する。
- (5) アンケートの集計を教務係が行う。(約2週間)
- (6) 授業評価アンケート用紙と集計結果を教務係から受け取る。
- (7) 学生からの意見等の事項を記入して教務係に提出する。(約10日間)
- 5. 教員からのコメント欄等について

以下の4点を文章で記述する。

- (1) 学生からの意見
- (2) 教員からのコメント
- (3) アンケート結果の分析
- (4) 今後の取り組み

(出典 学生課教務係)

第1回 学生会役員との懇談会(メモ)

1.	日	時	平成16年2月17日(火)	16:15~18:15
2.	場	所	校長室(管理棟2階)	

3. 出席者 ○学生会役員

○教職員

竹内校長、高崎学生課長

4. 学生の要望に対する学校の対応状況

2) 講義・学習関係

要望事項等	対 応 事 項 等
① 図書館2階の旧学生課事務室が空室になっているが、自習室に開放してもらえないか。	◇ 当面、図書館2階のスペースの1/3を自習用に開放する。4人掛けの机を3つ整備する。1階の就職関係資料も2階に置くようにする。
② 授業評価の結果を公表してほしい。授業方法の改善に反映 されていない。他国では評価結果が給与に反映されるシステ ムになっていることもあるのではないか。	◇ 公表の方向で検討する。
③ アンケートの回収を該当教員自身が行うことはやめてほしい。自由な記入がしづらい。	

(出典 学生課教務係(抜粋))

平成18年度 後援会支部総会アンケート調査集計(抜粋)(1/2)

資 料 平成18年12月11日 教 員 会 議

平成18年度後援会支部総会アンケート調査結果

(2) 学習指導に関すること

(保護者への連絡)

- ① 先生(学校)推薦の問題集や参考書など、アドバイス的なものを保護者向けに出してほ しい。
- ② 子供向けに出しても親元まで届かないから、向上させようとしても今のままでは親には 打つ手がない状況です。
- ③ 学校での情報を早めに知らせてほしい。

(授業への要望)

- ① 追試や不可が減るような対策をしてほしい。
- ② 授業参観の回数を増やしてほしい。
- ③ 授業を聞かない学生がいないような指導をしてほしい。
- ④ 理解できていない学生に対するフォローをもっとお願いしたい。
- ⑤ 普通科の子と比べるとあまりにも1,2年生の学習の習慣がない。小テストをしてはどうか。
- ⑥ 入学時の学力が低下していることや子供の質が変わっていることは明らかなこと。ある程度は学力レベルや子供の質に応じた学習を希望する。 (義務教育とのギャップに子供がついていけていない。)
- ⑦ 先生による授業内容のバラツキや先生によるムラのないようにしてほしい。
- ⑧ 3年生の社会系の一部の教員の授業が、小さな声で教科書を読むだけで授業として成り立っていない。質問に言っても答えてもらえず、クラスで一番まじめな子さえ、あきれて話を聞かず自主勉強していて、クラス全員他の勉強や自主勉強をしている。学ぼうという気持ちはあるのに、とてもつらいと子供は言っている。
- ⑨ 自習ばかりで授業になっていない授業 (理科系) があると聞く。
- ⑩ 授業中は集中して聞けるような環境にしてほしい。
- ① 宿題・レポートを増やし、義務的に勉強量を増やしてほしい。
- ② 長期休暇には、レポート等を増やして、もっと勉強するようにしてほしい。
- ② 2年の保護者ですが、成績が悪い。我が子も試験前だけ注意しても改善しない。レポート提出等で課題を出してほしい。学力UPをはかってほしい。
- ④ 自宅でもう少し勉強するよう指導してほしい(宿題・課題等)。
- ⑤ 学生が理解できるような教え方を工夫してほしい。
- 進路に対して自分の目標が持てるよう学校サイドとしての取り組みを今後もお願いしたい。
- ① 課題を与える場合は、口頭でなく文章で伝えてほしい。
- 低学年は、学習の基礎を習っていると思うので、もう少し手厚く指導してもらいたい。 説明が少なすぎる、短すぎると子供がこぼしている。
- ⑩ 欠点科目については、しつこいぐらい声かけをしてほしい。
- 免生にわからないことを質問しやすい環境・システムにしてほしい。

(補講等への要望)

- ① 補習等をもう少しこまめに、かつもっとしてほしい。(特に物理・化学) テスト前の対策やプリント配布などを希望する。
- ② 夏休み中に、分からない所を先生に教えてもらうため学校に行ったが、先生が不在だった。夏休み中の先生の勤務状態を教えていただけたらと思う。

平成18年度 後援会支部総会アンケート調査集計(抜粋)(2/2)

- ③ 電車通学のため、質問に行きたくても時間が限られるので、先生毎に何曜日の何時なら 可能なのか教えてほしい。
- ④ 欠点のある学生に補習などはしないのか。なるべくならその学年で単位をとってほしい。 わからない、理解できないことを来年度に持ち越しさせたくない。

(その他)

- ① もう少し厳しく生徒指導をお願いしたい。
- ② 単位が取れるよう不可の点数を下げてほしい。
- ③ 長すぎる夏休みにだれている感じがします。
- ④ 試験前の学習はよくやっているようだが、普段の学習もしてほしい。
- ⑤ レベルを下げる、単位を取りやすくするのはどうかと思う。高専としての自覚を学校・ 父兄・子供がもつべきである。

(出典 平成18年12月11日 教員会議で配布)

資料 9-1-2-10

平成18年度 後援会支部総会アンケートに対する教員の対応について

平成18年度第11回教務委員会議事要録

開催日 平成19年1月16日(火)16:15~18:20

場 所 図書館会議室

出席者

議題

(省略)

4. 支部総会での保護者の意見に対する回答について 前回から継続審議のこの事項について、各学科の意見は次のとおりであった。

各項目に対し、個々に回答するのではなくて、いくつかにくくってまとめて回答すべきである。

個人的な質問に対しては、本人に説明して回答していただくようにする。後日、質問された教員の回答あるいは教科の回答を教務主事に報告する。

(出典 本校グループウェア 平成18年度 第11回教務委員会議事要録)

(分析結果とその根拠理由)

授業評価アンケートを通して、学生の授業に対する意見などを聴取し、集計結果を図書館で公開している。また、校長と学生課長らが学生会代表者からの意見を収集する機会を設け、汲み取った意見への対応を検討している。さらに後援会支部総会の場において保護者を通して学生の意見を聴取し、関係する教員からの回答文を教務主事に報告している。

以上、学生の意見を聴取し自己点検・評価に適切に反映させている。

観点9-1-③: 学外関係者(例えば、卒業(修了)生、就職先等の関係者等が考えられる。) の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

卒業生の意見は、平成16・17年度に同窓会を通じて本校の学習・教育目標、学習成果、達成度基準が適当であるかどうかを調査し、結果を運営懇話会報告書に記載した(資料9-1-3-1)。平成18年度は、就学中と卒業後の意識変化及び本校に期待する教育と本校における学習成果の自己評価を調査した(資料6-1-5-2、3)。

企業からの意見として,第5学年担任と進路指導室長が企業訪問した際に,本校卒業生の資質・能力や企業の求める学生像などの情報を取得している(資料6-1-⑤-4)。またインターンシップ受け入れ企業に対しては校外実習証明書(資料9-1-③-2)の中で,参加した学生の実習態度や能力・資質等の確認を行っている。

平成12年度に外部評価委員会を開催して学外の有識者から意見を求め、その詳細を学内外に公表し、「点検・評価報告書(第 3 版)」(資料 9-1-3-3)を作成した。平成16年に「詫間電波工業高等専門学校運営懇話会」を設置し、以後毎年運営懇話会を開催している。懇話会における質問・意見等と本校の対応等をまとめた報告書(資料 $9-1-3-4\sim6$)を全教員に配布し、自己点検・評価に反映させている。

卒業生へのアンケート結果 (1/3)

_	2005.7.30 第53回七宝会総会(92名) に於いて	大切	必要	不要
4	技術者としての責任を自覚し、人類の福祉に貢献できる倫理観を身に付ける。	71	19	0
	a 技術者としての責任を果たす能力 (技術者倫理規定)	61	27	0
	1) 安全で有用なものを作ることの大切さを知っている。(技術者の使命)			
	2) 環境を保全しつつ地球資源を有効に活用することの大切さを理解している。(環境)			
	3) 人間同士の相互了解を確認しあうことの大切さを知っている。(歴史, 文化)			
	4) 生命を尊重し、自他の幸福を願う姿勢が身についている。(人倫)			
	b 人類の福祉に貢献できる能力 (文化、社会及びその歴史)	49	42	0
	1) 技術者は公衆に対して責任を負う立場にあることを知っている。			
	2) 技術者は有用で安全な技術を提供しなければならないことを知っている。			
	3) 技術の有用性とリスクを示すことができる。			
	4) 公衆の安全を最優先する姿勢を身に付けている。			
	c 物事の良し悪しを根拠を示して判断できる能力	69	22	1
	1) 事例において、何が問題か説明できる。			
	2) 事例を通して、他者の体験をわがものとしている。			
	3) 公衆の安全, 福祉, 健康及び環境保全を優先して判断できる。			
	4) 判断を多様な価値観から評価できる。	大切	必要	不要
3	日本語及び英語で共同作業を良好に行うことができる。	55	30	1
	a 相手の意図を理解できる能力	55	31	0
	1) 相手の発言を正しく理解しようという態度を持っている。			
	2) 発言の内容を文法や語彙の面から正しく聞き取り、理解できる。			
	3) 対話の状況と内容から、相手の意図を正しく理解できる。			
	4) 自分の理解を確認するために質問できる。			
	b 自分の考えを相手に伝える能力	66	26	0
	1) 自分の考えを相手に正しく伝えようという態度を持っている。			
	2) 自分の考えを文法や語彙の面から正しく相手に伝えることができる。			
	3) 自分の考えが相手に正しく伝わったことを確認できる。			
	c 役割を分担し、相互に協力して作業できる能力	59	33	0
	1) 作業の目的を知っている。			
	2) 自分の役割を理解できる。			
	3) 分担の作業を遂行できる。			
	4) 助け合いながらお互いの作業を進めることができる。			
	5) 話し合って個々の役割を決めることができる。	大切	必要	不要
С	情報機器を活用して情報収集や情報分析、文書作成、口頭発表ができるようになる。	48	38	0
_	a 情報機器を活用して情報収集ができる能力	37	44	2
	1) Web検索ができる。		/2-	
	2) 電子メール、ファイル転送ツールを使用できる。			
	3) 文献検索システムを使用できる			
	4) 情報の有用性を判断できる。			

卒業生へのアンケート結果 (2/3)

6) 測定器からのデータを収集できる。		
b 情報機器を活用して情報分析ができる能力	41	46
1) 表計算ができる。		
2) 表, グラフの作成ができる。		
3)統計処理ができる		
c 情報機器を活用して文書作成ができる能力	44	44
1)ワープロを用いて文書を作成できる。		
2) 図表を含む文書を作成できる。		
3) 数式を含む文書を作成できる。		
4) 作図ツールを使って図を作成できる。		
5) HTML文書を作成して情報を発信できる。		
d 情報機器を活用して口頭発表ができる能力	44	45
1) 時間配分が適切である。		
2) 理解しやすい構成になっている。		
3) 聞き取りやすい話し方ができている。		
4) 情報機器を使って発表できている。		
5) 簡潔に表現できている。		
6) 図表を適切に用いている。		
7) 目的と成果を要約して説明できている。		
8) 質問に適切に回答できている。	大切	必要
技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。 a 数学、自然科学に関する知識	56 43	30 40
1) 基本的な法則や定理を知っている。(基本的な法則や定理と説明文の対応付けができる。	0.7	10
2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。)		
3) 基本的な法則や定理を説明できる。		
4) 応用問題を解くことができる。		
5) 専門分野に活用できる。		
5) 専門分野に活用できる。 6) 得られた解の矛盾を指摘できる。	51	41
5) 専門分野に活用できる。 6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識		
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識)	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。)	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。)	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。 2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。))	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。 2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。) 3) 専門用語や現象・仕組みを説明できる。)	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。 2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。) 3) 専門用語や現象・仕組みを説明できる。 4) 応用問題を解くことができる。)	
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。 2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。) 3) 専門用語や現象・仕組みを説明できる。 4) 応用問題を解くことができる。 5) 実践的な問題解決に応用できる。	48	43
6) 得られた解の矛盾を指摘できる。 b 専門技術に関する知識 1) 専門用語や現象・仕組みを知っている。(専門用語や現象と説明文の対応付けができる。 2) 基本的な問題が解ける。(法則を適用できる。) 3) 専門用語や現象・仕組みを説明できる。 4) 応用問題を解くことができる。 5) 実践的な問題解決に応用できる。 6) 性能を評価できる。		43

資料 9-1-3-1 卒業生へのアンケート結果 (3/3) 3) 学んだ知識を他の分野に応用できる。 4) 技術が社会に与える影響を考察できる。 5) 科学以外の視点から考えることができる。 d 技術の変遷を予測できる能力 53 2 1) 技術の歴史を知っている。 2) 技術の現状を知っている。 3) 技術の発展について展望できる。 e 自ら学ぶ姿勢 56 35 1 1) 予習復習している。 2) 文献調査ができている。 3) 目標を立てて取り組めている。 大切 必要 与えられた課題を達成する手段を設計し、粘り強く問題解決に取り組むことが 53 34 0 できるようになる. a 計画を立案できる能力 47 37 0 1) 目的を言える。(課題を理解している。) 2) 手順を示すことができる。 3) 計画案を示すことができる。 4) 必要に応じて計画を改善できる。 b 回路又はシステムを設計できる能力 21 63 4 1) 回路又はシステムを設計するための基礎知識を持っている。 2) 設計手順, 手法を知っている。 3) 設計できる。 c 回路を組み立てることができる能力、又はシステムを構築できる能力 24 59 5 1) 回路の組み立て又はシステム構築のための基礎知識を持っている。(回路部品や記述言語などの 知識) 2) 回路を組み立てる又はシステムを構築する手順、方法を知っている。 3) 設計どおりに組み立てる又は構築できる。 4) 回路又はシステムを評価し、調整あるいは改良できる。 d 回路又はシステムの問題点を見つけることができる能力 41 47 2 1) 回路又はシステムの正常な動作を知っている。 2) 正常な動作かどうか検証できる。(予測値と実測値を比較して検証できる。) 3) 回路又はシステムの動作チェックリストを作成できる。 4) 区分して回路又はシステムの問題点を見つけている。 e 問題点を解決できる能力 59 32 0 1) 問題点を理解している。 2) 教師の助言を受けて、問題を解決できる。 3) 学生間で問題を解決できる。 f 粘り強く取り組む姿勢 61 28 0 1) 興味を持って取り組んでいる。 2) 作業状況に応じて計画を見直している。(再製作, 再構築, 再設計)

- 67 -

3) 達成するまで粘り強く取り組んでいる。

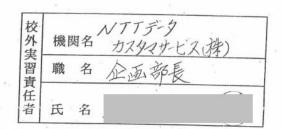
(出典 平成 17 年度 運営懇話会報告書 平成 17 年 9 月 21 日 65-67 頁)

校外実習証明書

校外実習証明書

平成/分年 8月1/日

詫間電波工業高等専門学校長 殿



下記のとおり、当所において実習したことを証明します。

記

校外実習学生氏名	宽 3一 工学科 第 4 学年 氏名
実 習 期 間	平成/8年 8月 7日から平成/8年 8月//日まで実働37時間
実習テーマ	NTTデータカスタマサービス(構)の理解。「主な作業は、PCのセットアップ作業と/T核器の経金業務」
実 習 状 況	出勤 よ日・欠勤 の日・遅刻 の日・早退 の日
実習態度及び能力・資質	実易態度も良く、テキパキと作業を行うことが でき、PCの知識も高い。松、お客様訪内時も え気よく模拶をしている。
評価	□優れている □良好 □普通 □やや劣る □劣る
その他	礼儀正しく、好感の持てが好青年でした。
(校外実習機関からの要望事項・ 連絡事項等)	

(出典 学生課教務係)

外部評価の公表と本校の取り組み

4 外部評価の公表

平成13年3月に「外部評価報告書」 - 豊かな人間性と創造性を育む魅力ある高専をめざしてーを刊行した。

評価項目: 設置理由,教育理念・目標,教育課程及び教育活動,研究活動,組織運営 入試広報活動,地域交流・貢献,国際交流・貢献,専攻科の設置など

Ⅱ 外部評価委員による提言に対する本校の取り組み

平成13年に公表された「外部評価報告書」にある提言及び指摘について、校長が中心となって、各委員会の委員長及び学科主任と検討し、各委員会及び学科で個別に議論を進めた。実施準備が整うものから逐次実施していくが、すぐには実施困難で検討時間を要するものについては主任会議や運営委員会メンバーによるブレンストーミングなどを通して実施項目の洗い出しを行い中期計画の中で取り組むこととした。平成14年10月の点検・評価委員会において、外部評価の提言に対する取組みは自己点検・評価報告書と並行して作成し2部編成とすることとした。その後の自己点検・評価委員会を経て公表に至ったものである。

(出典 点検・評価報告書(第3版)平成15年1月 178頁)

平成16年度運営懇話会における質問・意見等

詫間電波高専運営懇話会における質問・意見等(要約)

座長挨拶

高専も法人化されたが、運営費交付金を使用するに当たっては、① 民間的発想を取入れること、②効率化係数の実施 (毎年一定率の予算削減)によく耐えること、③ 学校独自の個性ある取組みを進めること、が求められている。また、④ 今後、産学官連携への取組みがより重要となってくる。

(1)「高専制度と詫間高専の教育理念」

- (問) 高専の理念の二つ目に「地域における知の拠点としての社会貢献」をあげている が、どのような活動をこれに位置づけているか。
- (答)図書館の地域住民等への開放、公開講座の実施、小中学校への出前授業及び企業等からの技術相談に応じること等である。
- (問) 情報通信関連以外の教育はできないのか。強電関係の学科を設置するプランはある のか。
- (答) 例えば、土木の話をするとかは、時間的余裕がない。しかし、環境とか技術者倫理 については教育している。強電関係の学科設置については、既に、高松、新居浜高専 に設置されており、そのバランスを考慮して高専機構がプランニングすることとな る。

(2)「詫間高専の中期目標、中期計画の概要」

- (問) 中期計画の期間 5 年間は定まっているのか。 5 年スパンでは激しい時代状況の変化 に対応できないのではないか。
- (答)法人化の際、5年間の中期目標・計画を設定するように文部科学省から指導があり、 それが高専機構へ引き継がれている。国立大学法人の場合は、3年目から認証評価を 課し、その結果を運営費交付金の配分の資料とすることになっている。
- (問) 中期目標・計画は5年間変わらないのか。
- (答) 5年間の中期目標・計画を設定するが各年度計画で変更は可能である。

- 45 -

(出典 運営懇話会報告書(第1回)平成16年12月16日 45頁)

平成17年度運営懇話会における質問・意見等と本校の対応(1/2)

詫間電波高専運営懇話会における質問・意見等(要約)

(1) 昨年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応

(山崎座長)

ただいま、昨年度の運営懇話会における意見に対する詫間電波高専の対応について説明願ったが、同窓会の立場から見て、意見はありませんか。

(織田委員)

高専の設置目的は主に中堅技術者の養成にあったが、現在では卒業生の半数が大学に進 学するという状況にある。このままで本当の職業人を輩出できるかということを今後のテ ーマに考えて欲しい。

期待する教育内容について卒業生等にアンケートを行う際には、年代別に分けるとか、企業用又は大学用に分けた質問をすることで、それぞれのニーズがよりつかみやすくなるのではないか。

(副校長)

就職と進学のコースに分けるなど教育プログラムを複数設け、学生が選択できるようにするのが望ましい教育ではないかと思う。現状は、学生の学力に幅があり難しい状況にある。しかし、高学年に関しては、コース分けを今後検討していきたい。

(山崎座長)

外部資金受入れ実績の中で、科学研究費補助金の申請が38件とあるが、構成員の何割が申請しているのか。

(副校長)

全教員が約60名でそのうち38名が申請した。

(山崎座長)

科学研究費補助金について、大学では全員が必ず申請するよう努力させている。徳島大学においては多くの科学研究費補助金を獲得しているので、詫間電波高専においてもぜひ努力して欲しい。

- (2)養成すべき人材像について - 本校の教育目的とその取組状況について-
- ①本校の使命,目標,教育理念等について ②本校の教育課程と認証評価について

(山崎座長)

ただいまの説明について、ご意見を伺いたい。

(木内委員)

意欲的に取り組まれており、成果が出ているという感じを受けた。

評価の作業にあたっては、データを蓄積していく必要があるが、詫間電波高専ではデータベースシステムによるコンピュータ管理が行われているのか。徳島大学では、データベースのシステムが作成されており、全学の教員が各自でデータを入力することになっており、評価等で資料を作成する際、非常に便利である。

(副校長)

データベースシステムの構築については, 作業部会で検討中であるが, 最初の認証評価

平成17年度運営懇話会における質問・意見等と本校の対応(2/2)

昨年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応

1 中期計画関連

(ご意見)

この中期計画には、生徒の考え方が感じられない。<u>特に、学科目標には生徒の意見を反映すべきではないか。</u>お客様(学生)の意見を尊重することが大事ではないかと思う。また、計画の遂行に当たっては、教員、職員、生徒が一体となって、ベクトルを合わせて今後の詫間電波高専を構築してほしい。(本田委員)

(本校の対応)

本校の学生は年齢が若くて学科目標に意見を述べるだけの見識や専門知識並びに経験が十分に備わっていないとも考えられるが、学生の意見反映及び学科目標の教職員、学生への浸透をどう図っていくのかを検討したい。

2 教育関連

(ご意見)

JABEE の計画は、従来の教育に則った方針である。<u>就職先企業モデルに合わせた時、これで良いのかをもっと考えて欲しい。</u>社会の要請を充分把握しているのか。就職した人の評価がどうだったかを、ここへ取入れればもっと良いものができる。例えば、計画・立案能力、管理能力とか。進路先企業にサービス業が増えているのだから、その業種で必要な能力を加味したら良い。(織田委員)

(本校の対応)

本校同窓会七宝会総会においてアンケート調査を行い、本校の教育目的、学習・教育目標について意見を伺った。どの項目も技術者として必要であり卒業時までに身に付けておくべきものであるという回答がほとんどで、非常に高い評価を受けた。

(第53回七宝会総会(17年7月30日,回答者92名))

また、学生が就職した企業や先輩等を対象として、時代に即応した養成すべき人材像とはどのようなものか、企業等の側から見た求める人材の資質・能力とはどのようなものかについて、アンケート調査を実施し、その結果を教育内容に反映することも検討したい。

(ご音見)

私どもの分野 (情報通信)と詫間高専が重なる部分が多いのであえて言うが、この分野は技術進歩が特に早く、企業内では教えてくれる人がいなくなる。<u>自学自習できる学生を育てることが非常に大切である。</u>社会に出ても頭が良いというのは 勉学ができている人であり、彼らは柔軟に対応出来ている。一所懸命勉強させてほしい。(古賀委員)

(本校の対応)

- 1. 学習教育目標として「技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。」(自学自習できる能力) ことを設定し、特に卒業研究をとおして教育を行っている。
- 2. 自学自習による国家試験資格取得の手助けとして、学年末休業期間中の補講、授業時における各資格の紹介、説明等を行っている。
 - また、取得時には資格に応じて単位を認定するなどして、資格取得(自学自習)を推進している。
- 3. 機会をとらえては, CPD (Continuing Professional Development) の重要性を説明している。

- 61 -

(出典 平成17年度運営懇話会報告書 平成17年9月21日53,61頁)

平成 18 年度運営懇話会における質問・意見等と本校の対応(1/2)

詫間電波高専運営懇話会における質問・意見等(要約)

(校長挨拶)

皆様本日は大変お忙しいところお出でいただきありがとうございました。日頃は本校の運営等に関しまして色々とご助言いただいており、有り難く思っております。今回は昨年に引き続いて懇話会を行いますが、平成19年度に(独)大学評価・学位授与機構により、本校を含めて四国内では3高専がいわゆる外部評価を受けます。認証評価と言っておりますが、その部分を早めに私共でとりあえず資料を作りましたので、本校の状況等を順次説明させて貰った後、ご意見等忌憚無くいただけたらと思っています。それ以外にもこの際学校に対するご意見等ありましたらざっくばらんにご議論していただけたら非常にありがたいと思っています。

本日の座長は、昨年度と同様に香川大学の山崎工学部長にあらかじめお願いし、快く引き受けていただいておりますのでよろしくお願いします。

(1) 平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況

(省略)

- ③創造性を育む教育方法の工夫について (情報通信工学科)
- ④創造性を育む教育方法の工夫について (電子工学科)
- ⑤創造性を育む教育方法の工夫について (電子制御工学科)
- ⑥創造性を育む教育方法の工夫について(情報工学科)
- ⑦創造性を育む教育方法の工夫について (専攻科)

(山崎座長)

それぞれ各学科、専攻科に及ぶ創造性を育む教育方法および教育方法のねらいを説明していただきました。何かお尋ねの点等ございますでしょうか。

(久住委員)

教えて頂きたいのですが、3年生までは一般の高校ということで一般教育、4年5年生で高専ということでしょうが、各個人の特異性とかスキルというものが個人によってあると思いますが、3年生から4年生に上がるときにどういう風にして40人ずつの組編成、学科に分けられているのか疑問に思っていますので教えて頂きたい。

(副校長)

まず入学において学科毎に合格者を出していますので、1年の時からすでに学科所属になっています。付け加えますと1年生の終わりに転科制度があって、所属学科から別の学科に移ることもできます。ただし、条件を満たしている場合で、48名を超えないまでは認めるようにしています。このことは、中学生にも案内しています。

平成18年度運営懇話会における質問・意見等と本校の対応(2/2)

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況

1 目的・目標関連

(ご意見)

学校の目標・目的についても、激減する社会情勢の中にあって、定期的に見直し、時流に沿ったものに修正してほしい。

(省略)

3 教育関連

(ご意見)

一般教育についての説明に、技術者としての倫理を教育するという説明があり、これはぜひ 進めてもらいたいし、大切にしていただきたいと思った。(織田委員)

(本校の対応)

技術者倫理については、専攻科でしか教育していない。平成 17 年度から、集中講義で「環境と人間」の選択科目を開講した。 人間活動に起因する環境問題を取り上げ、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨のメカニズムについて理解を深め、国内における大気汚染、水質汚染、土壌汚染の現状、発生メカニズム、影響、対応策について学び、さまざまな化学物質による環境汚染問題を理解させている。今後、必修科目での開講が課題である。

(ご意見)

理科離れが指摘され、その対応に出前授業や興味ある実験等を実施するなどしている。理科は非常に大切であり、日本の技術力はまだまだ低いものではない。技術力はあるので高めていくことが大事である。企業は、優秀な技術者を求めている。少子化の中で志願者が減少しているが、今後とも優秀な技術者を育成していただきたい。(古賀委員)

(本校の対応)

工学の楽しさを教えるために、小学校や中学校へ出前授業を行った。工学の楽しさを知って もらい、理科離れを防ぎ、資質の高い中学生に本校を志望していただくことが、学生募集にも っとも効果があると考えている。

(ご意見)

留学生に対して日本人学生による個人毎のサポート制度を取り入れてはどうか。日本語と英語でコミュニケーションをとり、各種手続等を行う際にサポートすれば日本人学生は語学(英語等)の実践教育ができる。(織田委員)

日本人学生による個人ごとのサポート制度を寮生活にも取り入れ、その際は、サポート役の学生を、学生生活のサポート役以外の人にして実施してはどうか。この制度により、年間8人程度の留学生に対し、16人程度の日本人学生の語学研修を実施することができる。(織田委員)

(本校の対応)

留学生が減少し、組織的に提言頂いたようなサポートシステムを立ち上げることはできていない。

(出典 平成 18 年度運営懇話会報告書 平成 18 年 9 月 29 日 59, 61, 69, 70 頁)

(分析結果とその根拠理由)

卒業生や企業、学外の有識者など多方面の方々からの意見を汲み取る機会を有している。また、運 営懇話会での質問に対する本校の対応を明確にし、報告書等にまとめ全教員に配布するなど、自己点 検・評価に適切に反映されている。

観点9-1-④: 各種の評価(例えば,自己点検・評価,教員の教育活動に関する評価,学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上,改善に結び付けられるようなシステムが整備され,教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

教育活動に関する委員会や専門部会を設置(資料 9-1-①-9)しており、授業に関する教育改善ループのシステムが整備されている(資料 9-1-①-11)。各科ごとに教員相互で授業等のチェック及び評価をしている(資料 9-1-②-1,2)。評価結果は自己点検集計表(資料 9-1-①-10)にまとめ、改善点の達成度を自己評価して次年度の授業計画やシラバス等に反映させている。各科でまとめられた自己点検集計表は、教務委員会において適切に実施できているかどうかをチェックし(資料 9-1-②-3),教務委員会での評価結果は企画運営委員会に報告され次年度への改善策を考えている。

運営懇話会において指摘を受けた意見とそれに対する学校としての対応を報告書にまとめ全教員に配布するシステムが整備され、教育活動の見直しや改善のための方策が講じられている(資料 9-1 -3-5, 6)。

自己点検・評価の分析により、授業評価アンケートの内容等の継続的な見直しを行っている(資料 9-1-4-4)。また、学生からの要望を汲み取り授業評価アンケートの公開、アンケートの回収・集計方法なども改善している(資料 9-1-2-8)。

教育課程に関しては外部評価委員からの意見等を参考に、「中国語」と「環境と人間」を平成17年度に新設した(資料9-1-4-5)。

学科の教員による授業に関する相互点検

学科 (情報) 教育改善会議議事録

議事録番号 1

H18年 3月16日 (木曜日) 10時 0分 ~ 16時30分

出席者

情報工学科教員全員

議題(引き継ぎまたは関係議事録番号

全教科の「シラバスと授業についての自己点検シート」の相互評価

議事要旨

- 1. 3班に分かれて講義系科目の「シラバスと授業についての自己点検シート」の相 互評価を実施
- 2. 全教員で4年情報工学セミナー、卒業研究の問題点および改善案の検討
- 3. 2班に分かれて工学実験の問題点および改善案の検討

講義系科目の問題点と分析 (議事録1-1, 1-2, 1-3参照)

- 1) 演習中心の科目では理解度のバラツキが大きいため、教員1人だけでは十分指導が行えない。
- 2) 学習項目の進度がシラバスの予定通り進まない。
- 3) 新しい科目を担当したり教科書を変えた場合、シラバスと内容や進度が大きく異なってしまう。
- 4) 予定していた評価が行えない場合がある。
- 5) 家での学習やレポート作成を行わないなど、問題のある学生が増えている。

講義系科目の改善案(議事録1-1,1-2,1-3参照)

- 1) 演習中心の科目には補助教員を付けたい(今後の検討)
- 2) シラバスの進度を実情に合わせる。
- 3) 評価方法を実情に合わせる。
- 4) レポートを授業中に書かせる。作成しやすい課題を出す。小テストを満点になるまで修正させる。指導を強くするなど努力を行う。

研究系科目の問題点と改善案 (議事録1-4)

備考

実験系科目とFDの問題点と改善案の全員による検討は次回に持ち越しとした。 3月22日(水)10時から開催予定

(出典 平成 18 年 3 月 16 日 学科(情報)教育改善会議議事録 1)

学科の教員による教科ごとの相互点検

学科 (情報) 教育改善会議議事録

議事録番号 1-1

H18年 3月16日 (木曜日) 10時30分 ~ 11時10分

出席者

議題(引き継ぎまたは関係議事録番号

講義系科目の「シラバスと授業についての自己点検シート」の相互評価

議事要旨

A-1 数值計算論, I-4 電気磁気学, I-1 基礎工学演習,

AI-1 オブジェクト指向プログラミング, E-2 情報処理II,

I-5 コンパイラ について、自己点検シートの相互チェックを行った。

問題点と分析

- 1. 基礎工学やプログラミング演習では、教師一人で40数人を指導することは困難。
- 2. 家での学習やレポート作成を行わない学生が本科1年や専攻科1年で見られる。
- 3. 年2回程度の再試を行わなければ科目の合格を出せない学生が多数いる。
- 4. 学習項目の進度がシラバスの予定通り進まない。

改善案

- 1. TAを用意したい(授業の空いている教員に応援を頼む。可能か?)
- 2. レポートを授業中に作成させる。
- 3. 例題を与え、少し変えただけの解くのが容易な問題を与える。
- 4. 講義内容をレポートにさせる。
- 5. 小テストを満点になるまで修正させる。
- 6. レポートを作成するよう強く指導する。
- 7. シラバスの学習項目の数や時間数を現実に合わせる。

(出典 学科(情報)教育改善会議議事録1-1)

教務委員会議事要録

平成18年度第17回教務委員会議事要録

開催日 平成19年3月23日(金) 15:00~16:00

場 所 図書

図書館会議室

出席者

議題

1. 自己点検、相互点検の報告について

各学科長から別紙資料に基づき次のような報告があり、審議の結果、各 教員による自己点検、各学科での相互点検が適切になされ、評価と次年度 の改善に向けての取り組みが検討されたことが確認された。

- ① シラバス自己点検シートに基づく相互点検について 各授業担当者から自己点検シート,講義ノート及び平成19年度の シラバスを基に報告がなされ,各教員の報告に対して討議し相互点 検したことが学科会議の議事要旨を基に報告された。
- ② 自己点検集計表の作成について 17年度の自己点検の際に記された18年度の改善策とその達成度 について記された自己点検集計表を基に報告がなされた。

(出典 本校グループウェア 平成19年3月23日 第17回教務委員会議事要録)

学生による授業評価アンケートの内容等の見直し (1/2)

4.3 学生による授業評価

(1) 経緯

ア 平成9年度

12月17日の点検評価委員会において、効果的教育方法について「基礎学力の向上を目指して」という教育目標のテーマを設定して、授業についてのアンケートによる点検・評価が新規テーマとして追加された。

イ 平成10年度

5月1日,6月11日の教務委員会において,アンケートの目的,内容が提案され検討を行った。12月14日の点検評価委員会において,「学生による授業評価」を中心課題とし,授業内容や授業方法及び学生自身の授業への取り組みなど,授業に関わるいろいろな側面について,学生から率直な意見を聴取し,それらを授業改善のための参考に資することを目的とした点検・評価を実施する旨説明があった。実施に関わる詳細については教務委員会に一任された。12月18日に授業評価小委員会を招集し,具体的なアンケート内容と実施方法を検討することとなった。小委員会は教務主事・主事補,学生課長,各科1名のメンバーで構成された。

ウ 平成11年度

4月16日の授業評価小委員会において、下記のように決定された。

- ・実施時期:平成11年と平成12年の10月中旬(前期末試験の成績が出た直後)
- ・実施範囲:全教官の全担当科目

ただし、担当科目が同一学年の複数クラスにまたがる場合は1クラスのみ。

・実施方法:アンケート用紙(別紙1参照)と回答用マークカードを教官に配布し、学生は38 間に対し、5段階でマークする。集計は小委員会でマークカードリーダを使って科目ごとに行い、項目5,6,8,10,13,17,23,29の8項目については教官名を公表しないで公開し、点検評価報告書の資料とすることとした。また、前述の8項目以外の項目の内容については小委員会のメンバーも内容を集計や確認することなく、集計に使ったマークカードはそれぞれの教官に返却することとした。

10月,11月にアンケートはマークカードによって行われ、主事補による集計がなされ、マークカードと集計結果は各教官に返却された。

工 平成12年度

11年度のアンケート結果の集計を平成12年6月に自己点検・評価報告書(平成11年度学生による授業評価(中間報告))として発刊した。

本年度も10月、11月に11年度と同様のアンケートを行い、結果を集計して、平成13年3月に自己点検・評価報告書(平成12年度学生による授業評価)として発刊した。

学生による授業評価アンケートの内容等の見直し (2/2)

才 平成13年度, 14年度

11年度,12年度実施のアンケートには学生の自己評価の項目もあり、その上質問項目がかなり細分化され、項目数が多過ぎるとの意見があった。かつ、全教官(非常勤も含む。)の全科目に対してほぼ同時期にアンケートを実施したため、学生は毎時間のようにアンケートに回答することとなった。また、結果を教育改善に生かすため集計結果は教務サイドで保管することとなった。このため、アンケート項目と実施方法について再検討を行い、平成13年9月5日の教務委員会において、下記のように決定された。

- ・質問項目は極力減らす(13項目に集約)。
- ・教官の授業評価に絞り、学生の自己評価の項目は削除する。
- ・対象科目は1教官(非常勤講師含む。)あたり2科目とし、工学実験のような実験実習科目 (複数の教官が担当する科目)や芸術・体育科目(実技)は除外する。
- ・科目毎の集計は教官が行い、フロッピーディスクを教務係に提出する。(校長が結果確認) これらの結果、平成13年度と14年度は、別紙2の様式でアンケートを行った。質問を13項目 に減らし、教官(非常勤も含む)毎に2科目を選択して実施した。
- (2) 平成13年度と平成14年度のアンケート集計結果 アンケート集計結果を5段階評価のレーダチャートで示す。

(出典 点検・評価報告書(第3版)平成15年1月 90,91頁)

教務委員会議事要録

平成16年度第8回教務委員会議事要録

日 時:平成16年8月27日(金)16:30~18:00

場 所:図書館会議室

(省略)

2. 環境に関するカリキュラムについて

委員長より、配布資料について説明があり、授業科目に取り入れることについて校 長より要望があった旨の報告があった。(四国地区の他高専では実施済)

審議の結果,授業科目に追加することで,了承された。科目名は,"環境と人間" となった。第4,5学年で選択科目,1単位となり,各学科の選択科目で行うことに なった。

平成16年度第10回教務委員会議事要録

日 時:平成16年11月19日(金)16:15~

場 所:図書館会議室

出席者:

(省略)

2. 平成17年度非常勤講師について

来年度は、現状維持するということで一般教科、各学科で計画することとなり 12月17日までに名簿を決めてもらい教務係へ提出する旨の説明があった。 来年度より中国語を開講することとなった。

(省略)

- (3)環境と人間
 - ・集中講義で行う予定 (7月)
 - ·担当教員 田嶋教員
 - ・開講(4・5年生)
 - ・単位数 1単位(30時間) ただし、応募者が多い場合は各学科の協力で行う予定 次回まで検討することとなった。
 - ・正規の時間割に含まない。
 - ・カリキュラムの位置について 電子制御工学科は、選択科目の一番上に位置することとなった。 改定理由は教務係で作成することとなった。

(出典 本校グループウェア 平成 16 年度 第 8, 10 回教務委員会議事要録(抜粋))

(分析結果とその根拠理由)

各教員の自己評価を各科で相互評価し、さらに昨年度の改善点がどの程度達成されているかのチェックも行っている。評価結果は教務委員会で確認し、企画運営委員会に報告している。以上、教育の質の向上や改善に結び付けられるシステムが整備され、授業評価アンケートの内容、実施方法等の改善や教育課程の見直しが講じられている。

観点9-1-⑤: 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授 業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改 善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

非常勤も含めた全教員は、教育の質を向上するため、授業評価アンケートに記入された学生の意見(資料 9-1-(5-1) に対する自身のコメントや集計結果の分析、今後の取り組みなどをまとめて集計シート(資料 9-1-(5-2) に記入している。授業評価アンケート集計結果は、教務係でまとめて印刷し図書館で公開している。また、年度末に教員が作成した「シラバスと授業についての自己点検評価シート」(資料 9-1-(5-3) は各科で教員相互チェックをした後、自己点検集計表(資料 9-1-(5-4) にまとめている。集計表は、教務委員会において改善点や改善されているかどうかなどを分析・検討するのに利用されており、授業評価アンケート集計結果とともに個々の教員の改善活動を学校として把握することに役立っている。

平成17年度から発行している年報(資料 9-1-\$-5)において、各教科の教育改善活動の成果やこれからの取り組みが報告され、平成18年度からは校長に提出する教育活動報告書(資料 9-1-\$-6)の中で授業改善の項目を設け、全教員が報告することとしており、学校として改善活動状況を把握するよう努めている。教育改善活動の一例として、第 2 学年の微分積分学では、習熟度別学習や補講の導入により教育の成果を上げている(資料 9-1-\$-7)。

	学年 学科(組) 科目名 :	担当教員名	平成((r一ト実施日 4 年 月
	授業評価に関するアンケ	ート(平	成18年度)	
	の調査は、授業担当の教員が学生の皆さんと共同して、授 紙の左側に番号がついている質問に回答してください。	業をより良	くするために実施	するものです。
	右の例を参考に、該当するものに × を入れてください。	良い例	悪い例 (小さすぎ) ×	悪い例 悪い例 (大きすぎ)(中央でな
1	あなたは話をよく聞き授業に集中しましたか。	集中した	どちらともいえた	まい 集中している
2	あなたは予習復習を十分行いましたか。	行った	どちらともいえた	という行っていな
3	あなたは試験勉強を計画的に行いましたか。	行った	どちらともいえた	はい、勉強をしてい
4	授業の内容を理解できますか。	理解できる	どちらともいえた	はい全く理解でき
5	授業の難易度は適切ですか。	適切である	とちらともいえた	適切でない
6	授業の進み具合は適切ですか。	適切である	どちらともいえた	はい適切でない
7	授業に準備や工夫がされていますか。	されている	どちらともいえた	といくされてい
8	居眠りや私語をしているとき、教員は注意等をしますか。	必ずする	どちらともいえた	はい全然しない
9	教員は授業に遅れたり、早く終わったり、休講などがあり	ない	とちらともいえた	は、非常に多い
10	ますか。 授業中、質問や発言をしやすいですか。	しやすい	どちらともいえた	といしやすくな
11	教員に意欲・熱意を感じますか。	感じる	どちらともいえた	はい全く感じな
12	黒板の使い方は適切ですか。	適切である		適切でない
13	教員の説明は分かり易いですか。	分かり易い	とちらともいえた	全く分からな
14	あなたの成績は正しく評価されていますか。	されている	とちらともいえた	い全くされてい
15	試験問題の難易度は適切ですか。	適切である	とちらともいえた	はい適切でない
16	総合的に判断して良い授業だと思いますか。	良い	とちらともいえた	思い
17				
18				
19	授業に対する意見を自由に記入して下さい。			
	宮が細かなきなときがないますのなとかまかり大きゃかり	178次[11	21130	

資料9-1-5-2

授業評価に関するアンケート集計例

授業評価に関するアンケート集計表

水色のセル内を入力してください。

実施年	2007	(西暦)	学 年	4	科目名	数值解析
実施月	1		学科組	情報	教員名	

	5	4	3	2	1	無回答	計
問 1	11	21	9	0	0	0	41
問2	0	5	22	8	6	0	41
問3	7	13	13	7	0	1	40
問 4	6	18	7	8	2	0	41
問 5	11	16	12	2	0	0	41
問 6	9	19	11	2	0	0	41
問7	4	19	13	5	0	0	41
問8	8	16	13	4	0	0	41
問 9	13	17	9	2	0	0	41
問10	10	11	17	2	1	0	41
問11	4	18	17	2	0	0	41
問12	7	12	15	6	1	0	41
問13	5	16	13	5	1	1	40
問14	18	15	7	1	0	0	41
問15	13	16	10	2	0	0	41
問16	10	19	10	1	0	1	40

	学生からの意見を記入してください
1	黒板の文字をもう少し大きくして下さい。
2	字が細かすぎるときがあります。あとひとまわり大きく書いて欲しいです。
3	
4	
5	

教員からのコメントを記入してください 黒板の文字はできるだけ大きく書くようにします。 ただ、添え字付きの数式はどうしても小さくなってしまうので、教科書や下 記のWebページの情報を参考にして下さい。 http://www.di.takuma-ct.ac.jp/~___/numeric/numeric.html

アンケート結果の分析を記入してください 過去3年間で比較した結果、評価が上がったのは、学生は話をよく聞き授業に 集中し(問1) 、予習復習を十分にし(問2) 、授業の難易度と進み具合は適切 で(問5,6) 、成績は正しく評価され(問14) 、試験の難易度も適切(問15) で あった。また、教員に意欲・熱意を感じる(問11)が昨年度より少し下がっ たが、全体としては良くなったといえる。 コメントも昨年までは、"演習時間が足りない"が多かったが、今年は"字 が小さい"が2名いた。黒板の文字の大きさは改善したい。

今後の取り組みを記入してください 黒板の文字の大きさは、極力大きめに書くように心がける。 数式や公式などはできるだけWebページに掲載し、学生が自分のノートと比較 できるようにする。

(出典 学生課教務係)

資料9-1-5-3

シラバスと授業についての自己点検シート記入例

	平成 18 年度 シラバスと授業についての自己点検シート 2007.03.	5
科目名数值解	<u>「「「「「「「」」」」「「「」」」「「」」「「」」「「」」「「」」「「」」「</u>	
1. シラバスに記	記載した通りに実施できたか。	
学習教育目標	□目標を達成できた	
***************************************	■ほぼ達成できた	
	口ある程度達成できた	
	口できなかった	
進め方	■シラバス通りにできた	
	□変更した (変更事項を明記する)	
		J
学習項目	■シラバス通りにできた	
子自使日	■シッパル過少にくさん □変更した部分がある(変更した部分を明記する)	
	[)
		5-492
評価方法	□記載どおりの評価を行った	
56 00 M (200 M (200 M	■評価方法を変更した(変更した評価方法を明記する)	
	[評価方法を試験 70%, レポート 20%, 演習ノート 10%に変更]
教材	■記載どおりの教材によって授業を行った	
	□教材を変更した(変更した教材を明記する)	
]
2. 学習教育目	票を達成できた学生の割合(学習教育目標,学習成果、達成度基準)	
19	高いレベルで達成できている(優,良)[95.2]% 40	
	達成できている (可) [4.8] % 2	
	達成できていない (不可)[0]% 0 / 42	
3. 改善すべき/	点とそれに対する改善策	
改善すべき点:		
]に対して, 講義内容が多すぎるため課題演習の時間が圧迫されている。	
	がシラバスと違っている。	
20070 - 00000 00000	r善策: (平成 19 年度は担当せず)	
50250575000110506) 年度は講義内容を見直す。) 年度の評価方法を試験 70%,レポート 20%,演習ノート 10%に変更する。	
平111 1 9	「平茂の計画力伝を呼吸であ、レベード 20点 横目ノード 10周に変更する。	

(出典 平成19年3月23日第17回教務委員会資料)

資料9-1-5-4

平成17年度 自己点検集計表(情報工学科) H17自己点検集計表(情報).xls

本国教育目標	基礎工學演習	情報処理1	情報処理Ⅱ	ソフトウェア設計器		デジタル回数日
国務者目標 進め方 学習項目評価方法 教材 目標連成度 板乗門に なってい 東 ツ 東 ツ 東 ツ 東 の 東 コ 下 ストート エ ト ト スト スト スト スト スト スト スト スト スト スト スト スト			l ass			1
6 日					1029	
日本 道の力 学習項目評価方法 教材 日森道成成 石炭素の で 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 り 数 ツ 数 り 数 り 数 り 数 り		0	0	0	0	C
進め方 学習項目評価方法 教材 目標違成度 マンケーツ 寒 ツ 寒 シ 寒 節 離 は ロック・ 東 ・ 東 ・ 東 ・ 東 ・ 東 ・ ・ カーン・ エン・ ス・ に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に	0					
中部通目評価方法 教材 日韓連成度 マンケッツ 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 ツ 数 り 数 り 数 り 数		0	Ö	0	0	
野価方法 教材 目標連成度 マンケーツ 東 東 東 田 田 東 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田 田	0					(
野価方法 教材 目標議成度 マンタ マン		0				(
を を を を を を を を を を を を を を	0	0	0	0	0	(
を を を を を を を を を を を を を を	0		0	0		-
画権 連び及 を を を を を を を を を を を を を	0	0	0	0	0	(
面積 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	J.	-	-	~	~	
できていない授予 反映した メリー・いくつか反映	92.5	97.5	92.5	84.8	6.98	3
できていない 授予 反映した いくつか反映	7.5	2.5	7.5	10.9	8.7	0.00
授了 反映した まかい くつか反映計 ケいくつか反映画 十 反映してない		0	0	4.3	4.3	2 7
計 トックッでは						
改善策の達成度 平成18年度に向けての改善点・改善策 (平成18年度末に評価	・長期体暇中の課題を与えなかった事。 ・格利日の授業と連携が取れていなかった事。 ・他科目の授業と連携が取れていなかった事。 ・多少、他科目との連携は取れたが、 ・多少、他科目との連携は取れたが、 ・最がなかった事。 ・多少、他科目との連携は取れたが、 ・長期体暇中の課題として、各学生の質問に答えたり、進度 アラス間の連携は取れたが、 ・最期体暇中の課題として、内容の易しい基本問題を参集与え (電習のための演習が行えた。 ・ 議業形式の授業はほとんどなくなり。 ・ 混合学線のため、4つのグラスに別れているので離しいが、他科 が、17年度よりは細やかな検索が行目の担当の先生と連絡を密にして、出来る限り、授業の復習を行えたが、2人では、実だ無理な場面がある。 ・出来るだけ講義形式の時間を減らして、演習中心に行うよう。 ・ 加来るだけ講義形式の時間を減らして、演習中心に行うよう。 ・ ある。 可能ならば、もう1人先生がいて、2人体制で授業を行う事が、・ 中型の担当教員と連絡をとり講義的望ましい。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	課題演習において、コンテスト形式の課題を導入する予定であっ、課題はいくつか行ったが、それぞれたが、時間的条格がなく、コンテスト形式にはできなかった。 小規模のものにとどまったため、コン次年度はコンテスト形式の課題をひとつ入れる。 テスト形式とまではいかなかった。	「前期:【二】 ・対象後の解説時間をとっていなかったので、スケーな、対験対策問題の解説を行ったスタンエーがぶるった。 ・対象が流るった。 できが悪かった。 できが悪かった。 ・・ガライスに、試験の解説時間を明記する。 ・・カーススに、試験の解説時間を明記する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	学習項目あた9の時間配分や評価方法がシラバスと異なってい、習ん一ト10%に変更した。平成19年度る。 習ノート10%に変更した。平成19年度時間配分を実状に合わせる。評価方法は、小テストを廃止し演 たり次巻された。領別といま評価する。	①初めての授業で清智ブリントを作成しながらの授業であった が、少し内容のバランスが悪いと感じている。 (立) 演習ブリントを見直し改善する。① 演習ブリントを見直し改善する。	A was compared to the second s
り達成度 逐末に評価)	国に関しては改善 連携は取れたが、 またかった。 またかった。 が行えた。 が行えた。 だは数書が行 れがな縁まが行 まだ無理な場面が 重を与え、レポート	ったが, それぞれ ごまったため, コン いかなかった。	予定通り実施でき のためにハテスト の解説を行ったた 連れが生じた。 とられたが、関数 とられたが、関数 が当な点があり、 づらい点があり、 が高いながあり、	%, レポート20%, 濱 した。平成19年度 5。時間配分はか 習ノートも評価でき	し、バランスが良く な内容を追加しテ た。	

(出典 平成19年3月23日第17回教務委員会資料)

資料9-1-5-5

年報の表紙と目次

			_	3	0 1 8	9		12	14	17	18	22	26	28	31	33	34	36	38	42	44	48	49	50	52	56	62	64	19	
田			学生の受け入れ 1 入学志願者数の確保 (教務)	学生会活動 交通指導 (学生)	学生会活動 (学生) 園紀 (学生) 学生の意見の反映 (学生)	活 規則正しい生活と挨拶(療務) 清掃(寮務)	紫	不振者対策(教務)	マルティメティア (英語科) 英語合宿 (英語科)	\sim	コミュニケーション能力の向上(国語科)	マルチメディアを用いての歴史教育(社会科) 4. 8. 9. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8. 8.	***	学生の学力の定着・向上(数学科)	実験の方法とデータの読み取り方の定着(理科)		グボルコ になった (当社) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の公開 (情報通信工学科)	工学実験テーマの開発・導入(情報通信工学科) 資格関係(情報通信工学科)	(電子工学科)	华亲研究の充実(電子工字枠)		- ナズベーン・カーン・サイス、電子 間 ロール・エーク 資格 取得の 奨励 (電子制御工学科)	教育内容の改善(情報工学科)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	王体的字省能力の涵養(情報上字枠)	女!!	ミュニケーション能力の涵養 (専攻科)	学生実験への新課題の取り入れ(集積回路実験室) 設備の Meb 上での公開(集積回路実験室)	設備取り扱い講習会の実施(集積回路実験室)	
	410	教育活動	#	学生	0.64	놴	教育支援																							
	生元光学	I 教	1. 4	. 2	444	3. 3 3. 1 3. 2	4	4.	4, 4,	4.4	4. 5	4.7	4.9	4.10	4.12	4.13	4.15	4.16	4.18	4.19	4.20	4.22	4.23	4.24	4.26	4.27	4.28	4.29	4.31	
	dip																													

詫間電波工業高等專門学校平成17年度年報

(出典 平成17年度 年報)

資料 9-1-5-6

教育活動報告書の提出依頼

教員各位

2007年2月

教育活動報告書提出依頼

学校長

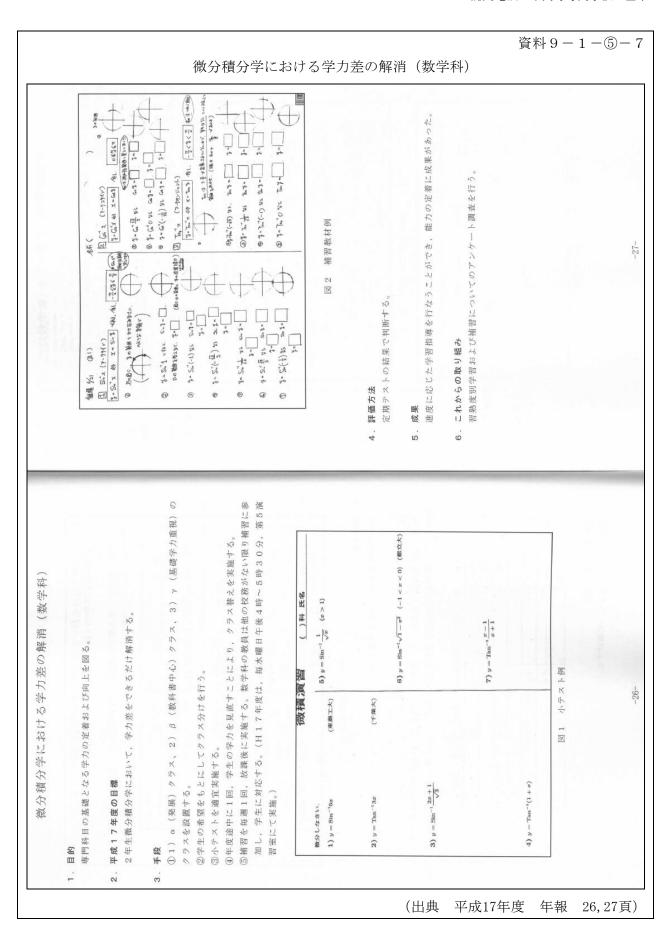
平成18年度の教育活動等を把握したいので、3月20日(火)までに別紙様式2にて 作成の上、メール(添付ファイル)と1部印刷を総務課企画係まで提出してください。

教育活動報告書記入要領

- 1. 平成18年度の教育活動について具体的に記入してください。
- 2. 校務分掌欄の記入について
 - (ア) その他の欄には委員会委員以外で分担しているものが有れば記入して下さい。
- 3. 活動状況欄の記入について
 - (ア) 「学級担任」欄には、学級担任として、特別に指導した学生、保護者懇談、家庭 訪問などの状況を記入するほか、特に配慮したことなどを記入してください。
 - (イ) 「授業」欄には、授業内容、教材、授業方法など、授業について工夫した点、学生 による授業評価を踏まえての自己点検評価・改善点などを記入するほか、補講を 行った状況などを記入下さい。
 - (ウ) 「学生指導」欄には、指導の状況を記入してください。
 - (エ) 「クラブ活動等の指導」欄には、連盟等の役員名、引率した大会の名称及び競技 成績、日々の指導状況、指導上配慮・工夫したことなどを記入してください。
 - (オ) 「寮生指導」欄には、指導の状況を記入下さい。
 - (カ) 「留学生指導」欄には、留学生に補講したり、留学生を地域交流会に引率するな ど、指導状況を記入して下さい。
 - (キ) 「要望事項」欄には、教育活動においての要望事項を記入してください。
 - (ク)「特記事項」欄には、上記以外で特に記載したい内容を記入ください。(たとえば 地域交流活動、公開講座などで教育活動に関するものなど)
- 4. 記入欄の大きさは適宜調節して下さい。

(以上)

(出典 総務課企画係)



(分析結果とその根拠理由)

個々の教員の教育改善活動状況は、授業評価アンケート集計結果の公開や年報の発行により学校と して把握している。また全教科ではないが、年報において具体的な改善状況が示されている。

観点9-1-6: 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

各教員の研究活動が教育の質の改善に寄与している例は26例挙げられる(資料 9-1-6-1)。例えば,英語科では科学研究費補助金により教材を作成し,平成17,18年度にマルチメディア公開授業を行っている(資料 9-1-6-2)。電子工学科では,研究活動で得られた知識を活用し,計算機工学でのVHDLや画像工学でのMPEG技術の導入など時代に即した講義項目を取り入れている(資料 9-1-6-3)。工学実験においては,電子工学科では卒業研究によるWeb学生実験支援システムを運用し(資料 9-1-6-4),情報工学科では実験教材を自作している(資料 9-1-6-5)。また,専攻科課程の特別研究においては,各指導教員の研究テーマが扱われ,学外発表もなされている(資料 9-1-6-6)。

資料9-1-6-1

研究活動が教育の質の改善に寄与している実例 (1/2)

			開発のレベル	
No	教育改善に寄与している研究活動 オリジナル教材	対象学年(科目)	(卒研/ 個人研究/ 共同研究)	概要または 資料の出典
1	科学研究費補助金による英語教材の作 成	1年1組 (オームの法則の実験) 電子制御工学科4年 (ロボットの制御)	共同研究	マルチメディア授業報告書 (資料9-1-⑥-2)
2	WEB教材 COCET3300 理工系学生のための必須英単語3300	4年全学科英語Ⅳ	共同研究	http://cocet.nime.ac.jp/
3	デジタルメディアを活用した歴史授業法の 開発	1年2・4組、2年情報・制御工学科	共同研究	日本高専学会講演論文集
4	エネルギーバンド図を描画するJavaアプ レットの作成	電子工学科4年(電子工学 I) 電子工学科4年(電子工学 II)	卒研	教員研修集会資料
5	マイクロ波を用いた変位計の開発研究	電子工学科5年(卒業研究) 専攻科(特別研究)	共同研究	発表予定
6	光増幅器の製作	専2年(光通信工学)	卒研	授業実験テキスト
7	ものづくりを中心とした工学導入教育 レゴマインドストームを使った工学導入教育 育	電子工学科1年(工学演習)	共同研究	平成14年度工学・工業教育講演会講演論文集、445-446(2002)。 平成15年度高専教育講演論文集 107-108(2003)。 詫間電波高専2005年プロジェクト研究報告会講演論文集、21 (2005)。 詫間電波高専2003年プロジェクト研究報告会講演論文集、38-39
8	ロボットコンテストによるものづくりと人づく り、創造性教育	課外活動	共同研究	平成14年度工学·工業教育講演 会講演論文集, 575-576(2002). 平成15年度高専教育講演論文集 267-268(2004).
9	携帯電話のWEB閲覧機能を利用した小テスト成績閲覧システム	電子工学科1年(基礎電気工学) 電子工学科2,3年(電気回路)	個人研究	詫間電波高専2006年プロジェクト研究報告会講演論文集, 3-4 (2006).
10	黒鉛シートを用いたギャップフィルターの 研究	専攻科1,2年(特別研究)	共同研究	詫間電波高専2006年プロジェクト研究報告会講演論文集, 15-16 (2006).
11	モールス信号を用いた新しい文字入力シ ステムの開発	電子工学科5年(卒業研究)	共同研究	詫間電波高専2002年プロジェクト研究報告会講演論文集, 1
12	p−n接合に関する学生実験	電子工学科5年(工学実験)	個人研究	第45回応用物理学関係連合講演会, 30a-ZB-9, 予稿集, 472 (1998). 応用物理教育, 25(1), 9-14(2001)
13	半導体のバンド構造に関する学生実験	専攻科1年(電子物性)	特別研究	第66回応用物理学会 学術講演会,8a-P4-20,予稿集, 338(2005)
14	半導体工学に関する学生実験支援システ ム	電子工学科5年(工学実験) 専攻科1年(電子物性)	卒研 特別研究	記憶記述工業高等専門学校研究 紀要 第34号, .77-83(2006). http://www2.de.takuma- ct.ac.jp/~yagi-lab/LED/LED.html http://www2.de.takuma- ct.ac.jp/~yagi-lab/PAS/PAS.html
15	マイクロコンピュータの設計製作実験教材	電子工学科5年(工学実験)	個人研究	日本産業技術教育学会誌 第32号 No.3 pp.19~24 (1990)
16	HDLによる回路設計, 製作実験教材	電子工学科5年(工学実験)	卒研 個人研究	詫間電波工業高等専門学校研究 紀要第29号 pp. 111 ~116
17	マイクロコンピュータに関する学生実験支援システム	電子工学科5年(工学実験)	卒研	http://www.de.takuma- ct.ac.jp/exp/jikken5/jikken5.html 電子工学科卒業研究論文要旨集
18	電子回路設計製作に関する学生実験支 援システム	電子工学科4年(工学実験)	卒研	http://www.de.takuma- ct.ac.jp/exp/jikken4/jikken4.html 電子工学科卒業研究論文要旨集 (資料9-1-⑥-4)
19	OHPフィルムを用いたフォトリソグラフィー による薄膜回路の設計・製作・評価	電子工学科5年(工学実験) 電子工学科5年(卒業研究)	共同研究	詫間電波工業高等専門学校研究 紀要 第28号, 57-61, (1999) 詫間電波工業高等専門学校研究 紀要 第29号, 71-76, (2000) 詫間電波工業高等専門学校研究 紀要 第30号, 79-87, (2001) 詫間電波工業高等専門学校研究 紀要 第31号, 135-139, (2002)
20	色素増感太陽電池の要素技術に関する 基礎検討	電子工学科5年(半導体工学) 電子工学科5年(卒業研究) 専攻科1,2年(特別研究)	共同研究	詫間電波高専2003年プロジェクト研究報告会講演論文集,5-6. 詫間電波工業高等専門学校研究紀要 第33号,61-64,(2005) 記間電波高専2005年プロジェクト研究報告会講演論文集,23-2

研究活動が教育の質の改善に寄与している実例 (2/2)

21	EB直接描画多層レジストプロセスによる Cuナノ細線の作製	電子工学科5年(半導体工学) 電子工学科5年(卒業研究) 専攻科2年(集積回路工学) 専攻科1年(特別研究)	共同研究	第53回応用物理学関係連合講演会 24a-ZE-14,予稿集,1512(2006) 平成18年度四国6高専産学官交流会in TAKAMATSU, 6-7, 予稿集 平成18年度電気関係学会四国支部連合大会,11-8,予稿集,(2006) 詫間電波高専2006年プロジェクト
22	倒立振子実験装置の製作に関する研究	電子制御工学科5C(制御工学Ⅳ)	卒研	http://www.dc.takuma- ct.ac.jp/~yamamoto/5C.pdf,http:/ /www.dc.takuma- ct.ac.jp/~yamamoto/回転型倒立
23	計算機シミュレータ ASSIST	情報工学科3年(工学実験)	卒研	http://www.di.takuma- ct.ac.jp/~miyatake/open/assist.ht ml (資料9-1-⑥-5)
24	論理回路CAD/シミュレータ 源内CAD	情報工学科4年(工学実験)	個人研究	http://www.di.takuma- ct.ac.jp/~matusita/GuenCAD/top /(資料9-1-⑥-5)
25	Z80シミュレータ	情報工学科4年(工学実験)	卒研	平成13年度 情報工学科 卒業研究発表会予稿集 H14.2.27,28
26	電光掲示板とネットワークカメラによる教育指導システムの提案	情報工学科3,4,5年の教室と情報工 学科棟玄関(電光掲示板の取付)	研究	研究紀要 第32号(2004) pp.73~76

(出典 各科への調査により作成)

マルチメディア授業の報告書

マルチメディアを利用した公開授業 授業担当者:一般教科 英語科 森和憲 実施日時:平成18年7月12日(水)3時間目 実施クラス:4年電子制御工学科

理工系基礎科目と連携した英語授業 ~ロボットの制御を題材に~

本授業の目的:本授業はマルチメディアを利用した授業実践例の公開とともに、平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(C):課題番号17520412)による研究「理工系基礎科目と連携した英語ビデオ教材の開発と教授法の研究」の研究成果の中間報告を兼ねている。当研究の目的は、英語科教員と専門科目の教員が協力し、理工系の基礎科目や専門科目の内容を英語で理解し、その概要を英語で説明できる能力を育成することを最終目標とした、高専独自の英語ビデオ教材と教授法を、3年間かけて開発することである。本授業では、これまで作成されたビデオ教材のうち、ロボットの制御をテーマに扱った教材を実践する。なお、当研究は以下の研究分担者からなるプロジェクトチームにより遂行されている。

森和憲(英語)野口隆(英語)東田洋次(物理)南貴之(数学) 小野安季良(通信)長岡史郎(電子)村上純一(制御)

本授業の内容: 本授業では、これまでに作成されたプロトタイプの中から、村上教員作成による「ロボットの制御」を選び、電子制御工学科 4 年生に実施する。具体的には、ロボットの制御に使われているサーボモータが、どのような方式によって制御されているかについて説明したものである。このことについて、すべて英語で解説されたものを学生に視聴させ、専門的用語の習得、内容理解、文法法則および重要表現の学習を促すような教材を用意した。

授業の流れ: 本授業は以下のようなティーチング・プランに沿って行われる。

- 1. 重要語彙の確認 (10分)
- 2. ビデオ視聴および内容理解 (15分)
- 3. 重要文法項目の解説(10分)
- 4. 重要表現の学習(5分)
- 5. 質疑·応答(5分)

(出典 マルチメディア授業報告書)

教員の研究活動で得た知識・技術を導入した授業のシラバス (1/2)

科目名	計算機工学	担	当教官	高木正夫		
学年	電子工学4年 学期	専門履	修条件	必修	単位数	2
分野	専門 授業形式	講義 科	日番号	06E04_30650	**	
	前期は、計算機のシステム構成	成, 各構成要素の	機能と動	作,命令の種類	頁とアドレッシン	グモー
学習目標	等を理解し、記憶装置に記憶さ					
	後期は、ディジタル回路 I,					
	計について学習し、VHDLを用					
	前期はコンピュータの各部				例として8ド、	, b MP
進め方	(MC6809) のデータシートを					
JE 0773	トをとって下さい。後期は、					
			7. 150			IDL C
履修要件	路とテストベンチを記述してい	/ ; ユレーション	8110	動作を推認する	0 0	
腹形安叶	党羽存日 / 味明	th \	Ť	쓰 꼬 7	21、辛口福	
	学習項目(時間数		. 01.4		到達目標	A to a
	1. ガイダンス、計算機の基本	博 拉			iを図示できて,	
	2. コンピュータの動作原理		能を説り	月できる。		D2:3
	3. メモリ、レジスタ、命令		140		naa maasaa maa	
	4. アドレッシング・モード				類、アドレッシ	
	5. アドレッシング・モード (index, 間接)	100	ついて説明でき	The Committee of the Co	D2:3
	6. 分岐命令		E1837 (2.55) 2	合の実行段階を		D2:3
	7. サブルーチン (スタック)		2. サフ	ブルーチン・リ	ンケージを説明で	できる。
	8. 前期中間試験					D2:3
	9. 再帰的なサブルーチン		5. フロ	コーチャートで	論理を描くことだ	ぶできる
	10. アセンブリ・プログラミン	グ				D2:3
	11. アセンブリ・プログラミン	グ	6. 割)込み処理につ	いて説明できる。	D2:3
	12. 割り込み処理		Salt Street			
	13. 制御装置 (マイクロプログ	ラミング)				
学習内容	14. 入出力インターフェイス	# 8### B #	7.イン	ターフェースの	機能を説明でき	る。
and the second	15. DMA				Calculation of the Control of the Co	D2:3
	16. 前期末試験		8 HD	L設計の特徴を	知っている。	D2:1
	17. VLSI 設計の概略(LSI 設計	+段階と素理)	- 0. 110	D IIX III V TV IIX C	XH > C . D .	D2.1
	18. 同時処理文による半加算器		0 HD	「でディジタル	回路を記述でき	X
	19. 構造化記述による 4 ビット		J. 111.		E2:2, E3:2, E4:	
	20. 算術記述による 4 ビット加			D2.3,	E2.2, E3.2, E4	2, LU.1
	21. case 文によるデコーダ回路		10 H-	+444= 1334	1日的の動化さ	6m 1
			753.30	本的なアインタ	ル回路の動作を	
	22. if 文でプライオリティエン		る。			D2:1
	23. マルチプレクサ, セレクタ					
	24. 後期中間試験		-		成し、記述した	
	25. コンパレータ	- NO		Section of the second second second	レーションによ	
	26. ALU, データタイプとパッ	ケージ	できる。		E2:	3, E4:2
	27. D型フリップ・フロップ		20.00			
	28. カウンター, 構造化記述		12. 論3	理合成ツールを	用いて,回路を	合成でき
	29. カウンター, 動作記述		る。			E3:2
	30. レジスタ・ファイル		200			
	31. FIFO					
	32. 学年末試験		1			
評価方法	試験の得点が80%, 平常点(管	学習に取り組む姿	勢)が20)%の比率で総合	評価する。	
関連科目	ディジタル回路 I (2年), ラ	ジタル同敗Ⅱ	(3年)			
教材	教科書:深山・北川・秋田・銀			SI SUSH _ Va	rilogHDI b VUD	T LT F
ተለ ገግ	CPU設計一」共		- A W VL	or tix til — ve	INOGILDE C VILL	T ICA
	SECURIOR SECURITION SE	THE CONTROL OF THE	बार्व का किल्ला	[3	ø h	7 88 .
	参考書: R.H.エックハウス・I			20 March 1986 1	ニュータンステム	4人門」,
let de	マイクロプロセッサ			トローフ仕		
備考	質問などは放課後(16時以降)	教官至へ来て下	· すい。			

教員の研究活動で得た知識・技術を導入した授業のシラバス (2/2)

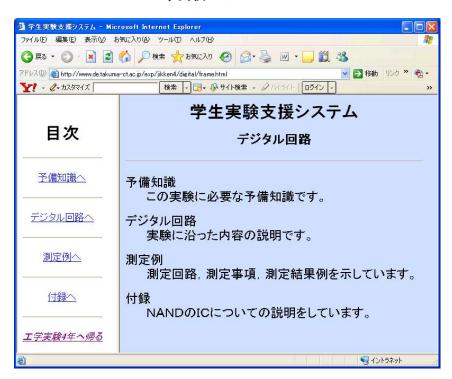
担当教員 福永哲也

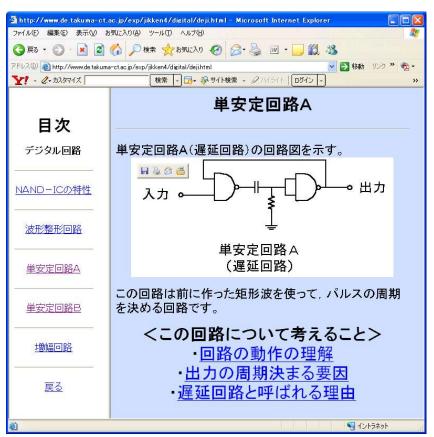
科目名 画像工学

符日右	四隊上子	32 3		担ヨ叙貝	個水岩也	14 13	
学年	電子 5年	学期	通年	履修条件	選択	単位数 2	?
分野	専門	授業形式	講義	科目番号	06E05_30530		
	画像を取り巻く	技術は, テ	レビジョンカ	文送からマルチ	メディアへ, フ	アナログからラ	ディジタルへ
学習目標	と変わってきた。・	そこで、ア	ナログおよて	ドディジタル画	像を取り扱える	能力を育成す	一る。
	ディジタル画像	の表現方法	既存のア	ナログ TV. フ	アクシミリを迅	具解し、ディシ	ジタル信号処
	理技術を習得する。	これらの	素養の上でラ	ディジタル画像	技術を理解し.	応用できる前	自力を養う。
	教科書を基に、	manuscript by the state of the					
進め方	2000						
履修要件	特になし	- 1		\$6°			
		項目(時間	数)		学習:	到達目標	
	1. ディジタル技術	概要(2)					
	2. 標本化(2)			音声おる	よび画像のディ	ジタル化を理	解する
	3. 量子化(2)						D2:2
	4. 混色(2)			基礎知識	もとして,色の	表し方を理解	する D2:2
	5. マンセル表色系	(2)					
	6. RGB 表色系(2)						
	7. XYZ 表色系(2)			organica escape			
	8. 前期中間試験(()					
	9. 走査(2)	2.0		既存のフ	アナログ TV を	里解する	D3:3, D4:2
	10. 走査と画像フォ	1	2)				
	11. テレビジョン(2						
	12. テレビジョン(2						
	13. テレビジョン(2						
学習内容	14. カラーテレビジ	100					
	15. カラーテレビジ	(ヨン(2)					
	16. 前期末試験(1)	17	1/2 mm (a)	47 CE 700 H	5 14 de 3 77 de 1.	_	
	17. フーリエ級数,	ノーリエ後	· 澳,DFT(2	合 種 変 想	異技術を習得す	ବ	D2:1-3
	18. DFT (2)	-0 h t n //					
	19. DFT と周波数ス	ヘクトルし	2)				
	20. FFT (2)	11.7% HG (0)					
	21. DCT, アダマー			THE LAN OF M	4.所 部在十分	+, m Av 7	D0.1
	22. 画像の統計的性	100000000000000000000000000000000000000		四 13 (7)	性質,評価方法	で理解する	D2:1
	 23. 視覚特性, 画質 24. 後期中間試験(1) 						
	25. 画像の空間的処			(株) 大> ii	画像処理技術を	羽俎十2	D2:1-3
	26. 画像の空間的処			国中なり	国家心里IXM で	日はする	D2.1-3
	27. 2 値画像の符号			ハフマ	/符号, ファク	シミリを押値	する D 4:2
	28. 2 値画像の符号				19 7 7 7 7	マヘノで牡肝	7 W 11-2
	29. 2 値画像の符号			画像のも	代表的な符号化	方法を理解す	る D 4:2
	30. 画像の高能率符			E4 BK V 2 1	137 HJ 10 10 10 10	WIN CENTY	J DT.2
	31. 画像の高能率符						
	32. 学年末試験(1)	7 14 (2)					
評価方法	定期試験 100%で	評価する。		<u> </u>			
関連科目	通信工学,応用数	学					
教材	教科書:電子情報	通信学会編	吹抜敬彦	著「画像・メラ	ディア工学」コ	ロナ社	
	8						
備考							

(出典 平成 18 年度シラバス)

工学実験のホームページ





(出典 工学実験ホームページ)

教員が自作した実験教材の Web ページ

Assist シミュレータ

Assistとは

Assist(1,昭和60年ごろ本校情報工学科の今井慈郎先生(現在,香川大学工学部)を中心に,「簡単な構造を有する計算 機を設計・製作する能力を養成する実験システム」として今井研究室のメンバーとともに設計・製作された計算機です。

シミュレータ

- Windows版Assist ダウンロード(2006.05.22) 説明 シミュレーション中のイメージ
 Java Applet版 Assist(2001.4.5) 説明 ダウンロード
 Java Assist(2002.4.19 新規登録) 情報工学科(平成15年3月卒) 北岡伸也 君 作

Assistの命令一覧

命令コード	ニーモニック	動作
0	LIO	ACCに0をロードする(Load Immediate 0)
1	SM	ACC ← M-ACC
2	SA	ACC ← ACC-M
3	ADD	ACC ← ACC+M
4	EOR	ACC ← ACCとMの排他的論理和
5	OR	ACC ← ACCとMの論理和
6	AND	ACC ← ACCとMの論理積
7	HLT	計算機の実行停止
8	JC	c(キャリーフラグ)がオンのとき分岐
9	JO	o(オーバーフローフラグ)がオンのとき分岐

(URL http://www.di.takuma-ct.ac.jp/~miyatake/open/assist.html)

M 源内CAD 源内CADは、高専や大学におけるディジタル回路の設計演習に使用することを目的にして、開発されたCADシステムです。組合せ回路、順序回路、計算機の設計検証を行うことができます。 キーワード:論理回路、ディジタル回路、組合せ回路、順序回路、CAD、教育、実験 システム構成 回路図エディタ ● 波形エディタと論理シミュレータ シンボルエディタ ● 組合せ回路 ● 順序回路 ● 計算機 質問コーナー ● CADを用いた授業風景 実行プログラムとそのソース ● <u>源内CADの実行プログラム</u>(guen204.exe) インストールプログラム付き 源内CADの実行プログラム インストールプログラムなし ● <u>源内CADのソースプログラム</u> (guen201 m.zip) バグ情報 [詫間高専] 8178 お問い合わせはこちらに matusita@di.takuma-ct.ac.jp

(URL http://www.di.takuma-ct.ac.jp/~matusita/GuenCAD/top/)

(出典 情報工学科)

専攻科生の学外発表例

社団法人 情報処理学会 研究報告 IPSJ SIG Technical Report

2006 - ITS - 24 (4) 2006 / 3 / 6

交通事故の危険度を予測するための 交通シミュレータの開発

歩行者,自転車,乗用車などが歩道や車道を走行しているときに起こす交通事故の危険度を予測するための交通シミュレーションプログラムを開発中である。交通事故が起きる原因には道路形状などの物理的側面と運転手の「だろう」行動に代表される行動的側面がある。本システムでは道路の2次元形状を交通シミュレータに直接反映させるために,道路を2次元の凸多角形の集合で表現する。また,歩行者や車両の行動モデルとして,行動計画モデルを提案する。さらに,歩行者や車両の危険幅を定義し,安全指標として,危険錯綜指標を用いる。

キーワード 交通事故,交通シミュレーション,行動モデル,安全指標

Development of Traffic Simulator

for Estimating the Risk of the Traffic Accidents

Daisuke Kubota[†] Tomohiro Nishimoto[†] Hiroaki Matsushita[†]
† Takuma National College of Technology
551 Koda, Takuma-cho, Mitoyo, Kagawa 769-192 Japan
E-mail: †{a05604@sr1, a16191@sr1, matusita@di}.takuma-ct.ac.jp

We have been developing a traffic simulation program for estimating the risk of the traffic accidents caused by the pedestrians and/or the vehicles. The traffic accidents occur due to the trouble of the road and carelessness of the pedestrians and/or the drivers. In this system, the roads are expressed in sets of convex polygons to find a potential dangerous part on the road. Moreover, we propose the action plan model as a behavior model of the pedestrians and the vehicles. In addition, a dangerous width in the pedestrians and the vehicles is defined and the dangerous conflict indicator is used as a safety indicator.

Key words traffic accident, traffic simulation, behavior model, safety indicator

1. はじめに

交通事故が起きる原因には道路形状などの物理的側面と運転手の「だろう」行動に代表される行動的側面があり、それらが複雑に絡まっている。そのため、交通事故の原因と結果の因果関係はあいまいになりやすく、安全対策を採りにくくしている。

学校児童や高齢者の交通事故防衛策として,

最近ヒヤリハット地図の作成が多くなっている [1]。ヒヤリハット地図は歩行者,自転車利用者, 車両運転手など道路を利用する者が自らのヒヤ リとした体験やハッとした体験を地図上に記録 するものである。ヒヤリハット地図の作成は, 作成する作業自体が効果的な安全教育であり, さらにその成果としてのヒヤリハット地図は交 通事故ハザードマップとして交通安全のさまざ まな対策に利用することができる。

-23 -

(出典 情報処理学会 研究報告)

(分析結果とその根拠理由)

科学研究費補助金や卒業研究・特別研究により教材が作成され、その成果は講義や工学実験に取り 入れられている。また、学生の学会発表への参加にも取り組んでおり、研究活動が教育の質の改善に 寄与しているといえる。

観点9-2-①: ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

文部科学省主催の新任教員研修会や高専教員研修会、FD研修会に参加し、本校においても新任教員の研修会を開催している(資料 9-2-(1-1,2)。また、本校教職員を対象に、学外から講師を迎えた講演会を開催している(資料 9-2-(1-3)。

平成13年度より校長裁量経費(教育研究活性化経費)によるプロジェクト研究等を推進し(資料 9 -2-①-4),年度末には報告会を開催している(資料 9-2-①-5)。

平成16年度からマルチメディアを利用した公開授業を実施している。学科から1名選出し、前もって実施日時等を全教員に連絡している。授業担当者は授業内容を記録し、授業参観した教員は評価を記録することになっている(資料9-2-①-6, 7)。評価結果は授業担当者にフィードバックされ、授業改善に反映されている。平成17年度から、年1回保護者など学外の人を対象とした授業参観日を設け、アンケートにより評価を行っている(資料9-2-①-8)。

内地・在外研究員制度で過去5年間に1名が内地に1名が在外研究員として勤務した。高専教員交流制度では、平成18,19年度に各1名の教員が転出し、平成18年度に1名の教員を受け入れた。

資料 9-2-①-1

研修会(講習会)への教員の参加状況

開始日	研修会名称	主催	日数	参加人数	概要
H17.6.3	新任教員研修会	本校	1	4	校務や授業等のガイダンス
H17.7.28	香川県教育センター研修講座	香川県教育センター	2	1	生徒指導研修講座
H17.8.1	香川県教育センター研修講座	香川県教育センター	1	1	学級経営研修講座
H17.8.22	高等専門学校新任教員研修会	高専機構	3	2	新任教員に対する研修
H17.9.13	高等専門学校教員研修	高専機構	3	1	クラス経営・生活指導研修会
H18.6.5	新任教員研修会	本校	2	5	校務や授業等のガイダンス
H18.7.21	香川県教育センター研修講座	香川県教育センター	2	2	学校運営・ありかた
H18.8.3	香川県教育センター研修講座	香川県教育センター	2	1	学校運営・ありかた
H18.11.22	平成19年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する自己評価担当者等に対する研修会	独立行政法人大学評価·学位記授与機構	1	5	学校運営・ありかた

(出典 総務課人事係データより作成)

FD研修会プログラム (1/3)

平成18年度四国地区高等専門学校 FD 研修会(数学科)プログラム

8月10日(木)

13:00~13:20 受付

13:20~13:30 開会挨拶 新居浜高専校長 水 野 豊

13:30~14:10 参加者自己紹介 1分スピーチ

14:10~14:40 講演1 田 上 隆 徳 (阿南髙専) 習熟度クラス編成に関する考察

14:40~15:10 講演2 南 貴之(詫間電波高専)

2年微分積分学における習熟度別授業について

(補習・教材開発を中心に)

15:10~15:40 講演3 古城 克也(新居浜高専)

実用数学技能検定への取り組みと結果の分析について

15:50~17:00 テーマ別グループ討議

(1)学習支援:補習・自学自習等

(2)授業方法:教材開発・コンピュータ利用等

(3)達成度評価:統一試験•定期試験等

18:00~ 懇親会

8月11日(金)

9:00~ 9:30 講演4 藤 井 清 治 (弓削商船高専)

学寮における学習支援

9:30~10:00 講演5 後 藤 章 (高知高専)

高知高専における補習学習支援およびコンピュータ利用

について

10:00~10:30 講演6 高橋宏明(高松高専)

高松高専数学科による教育改善の取り組みの報告

10:40~11:10 グループ討議報告

11:10~12:00 全体計議

FD研修会プログラム (2/3)

8/10	13:00~13:30	受付		
o,10 (木)	13:30~13:40	開会挨拶	担当校挨拶 高知高専 藤田正憲校長	
(/1/)	13:40~13:45	移動		
	13:45~14:05	講演①	1.物理授業のためのビデオ教材の収集と活用	
	15,45 14.05	HA134G)	端平雄	
			2.マークシートを用いた毎時間小テストの試み	高知
	14:05~14:15	質疑応答	~リアルタイムでの理解度確認~	
	14,05	347AC/G/ III	尾崎 信一	
	14:15~14:35	講演②	一般化学授業における水溶液の電離と電気分解に関	
			する学生の理解度	新居浜
	14:35~14:45	質疑応答	柴田 亮	
	14:45~14:55		休 憩 (10分)	
	14:55~15:15	講演③	「弓削高専における理科授業改善の取組みと課題」	
				弓削
	15:15~15:25	質疑応答	濱中 俊一	
	15:25~15:45	講演④	継続的実験による化学指導	
				詫間
	15;45~15:55	質疑応答	笠井 健吉	
	15:55~16:05		休 憩(10分)	
	16:05~16:25	講演⑤	「物理の授業における授業改善の取り組みについて」	
				高松
	16:25~16:35	質疑応答	加藤 清考	(LI) 1/2X
	16:35~16:50		討 論 会	
	17:00	移動		
	18:00	情報交換会		
8/11	9:00~ 9:20	講演⑥	教育改善の試み-授業参観, 試験問題検討, PBL 型実	
(金)			験の導入	阿南
	9:20~ 9:30	質疑応答	中村 厚信	
	9:30~ 9:50	講演⑦	Minute Paper (毎時間授業評価) による授業改善の試	
			み	高知
	9:50~10:00	質疑応答	島内 功光	
	10:00~10:10		休 憩(10分)	
	10:10~10:30	講演⑧	能動型学生実験への取組み(セルフプランニング実験	
			の導入と課題)	新居浜
	10:30~10:40	質疑応答	堤 主計	
			理科教員 工業化学	系教員
	1	教科懇談会		

F D 研修会プログラム (3/3)

四国地区高専共同事業 制御情報系 FD 研修会プログラム

8/10	13:00~13:30	受付		
(木)	13:30~13:40	開会挨拶	担当校挨拶 高知高専 藤田正憲校長	
	13:40	移動		
	13:45~14:10	講演①	高松高専制御情報工学科のモノづくり	
			教育プログラム	高松
	14:10~14:30	質疑応答	十河 宏行	
	14::30~14:40		休 憩 (10分)	
	14:40~15:05	講演②	詫間電波高専情報工学科における創造教育の一例 ・	
	15:05~15:25	質疑応答	松下 浩明	詫間
	15:25~15:35		休 憩 (10分)	
	15:35~16:00	講演③	制御情報工学科の実験実習とロボット 製作実習について	阿南
	16:00~16:20	質疑応答	一 岡本 浩行	L.1 1.13
	16:20~16:50		討 論 会	
	17:00	移動		
	18:00	情報交換会		
8/11 (金)	9:00~ 9:25	講演④	「専門科目講義と練習船実習を連携した教育効果の 向上について」	— vievi
	9:25~ 9:45	質疑応答	土井 正好	弓削
	9:45~9:55		休 憩 (10分)	
	9:55~ 10:20	講演⑤	低学年導入教育用教材の製品化による授業改善	
	10:20~10:40	質疑応答	出口 幹雄	新居浜
	10:40~10:50		休 憩 (10分)	
	10:50~11:15	講演⑥	低学年生のスタディスキルを向上させるための 双方向型授業支援システムの構築と試み	高知
	11:15~11:35	質疑応答	松内 尚久	
	11:35~11:50		討 論 会	L

(出典 平成 18 年度四国地区高等専門学校 F D 研修会 実施記録)

FDに関する講演会の状況

講演日	演 題	講演者(所属)	参加教職員数 (人)
H16.11.5	FDその1つの試み	荒木光彦助教授(京都大学大学院工学研究科長)	50
H16.12.21	工学系高等専門学校専攻科への期待	神谷 武志 学位審査研究部長(大学評価・学位授与機構)	51
H17.3.11	PBLの方法と効果について	荒川 雅生 助教授 (香川大学)	60
H18.2.23	小中学校教育の現状と課題	大西 宏 助教授 (鳴門教育大学)	52
H18.12.7	高等専門学校機関別認証評価について	青木恭介教授((独)大学評価·学位授与機構)	82

(出典 総務課人事係データより作成)

資料 9-2-①-4

校長裁量経費申請要領

平成18年度校長裁量経費申請要領

1. 経費の趣旨及び目的

本経費は、平成18年度学内予算配分の基本方針のひとつである「選択と集中を考慮する」ことに基づき配分された校長裁量経費(教育研究活性化経費)で、各教員の教育研究にインセンティブを与えることを目的とする経費である。

2. 経費の申請様式等について

, ,_,	1 1111111111111111111111111111111111111	
区分	申請項目及び申請対象者	申 請 額
1	〇プロジェクト研究費 特別なプロジュクト研究を申請しようとす る者(共同,単独)	1件あたり、原則として、1、000千円 を上限とする。
2	○現代GP推進経費 現代GPの推進を申請しようとする 者)	1件あたり、原則として、1、000千円 を上限とする。
3	○教育方法改善経費教育方法の改善を申請しようとする者(共同,単独)	1件あたり,原則として,500千円を上限とする。

3. 経費の申請

上記の経費の申請項目に応じ,「別紙様式1」により申請すること。

4. 申請の審査及び配分決定

- (ア)申請のあったものについて、特別経費審査会において、本学の教育研究に資するものであるかの観点から審査を行い、審査結果を校長に報告する。
- (イ)校長は、審査結果を踏まえて予算額の範囲内で、教育研究の実施に必要な予算配分額を 決定する。
- (ウ) その結果を企画運営委員会で報告し、申請者の所属する各学科長宛に予算配分額を通知する。

5. 実施報告書の提出

経費の予算配分を受けた教員は、事業年度終了後30日以内に、総務課企画係まで実施報告書を提出すること。

なお、様式等の詳細については、別途通知する。

6. 申請にあたっての留意事項

- (ア)単なる研究室の備品の充実などは、本経費の対象外とする。
- (イ)本経費の事業年度は単年度とする。

(出典 総務課企画係)

咨判 Q	- 2 -	<u> </u>	יר

2006年プロジェクト研究発表会	控制電波工業高等専門学校 地域交流室 2006年7月24日 (月) 14:00~16:15 詫間電波工業高等専門学校 専攻科棋 1 階共同利用実験室			10 ~ 14.25 FPGAによるベクトル量子化器の実現について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	25 ~ 14:45 携帯電話の WEB 閲覧機能を利用した 小テスト成績閲覧・学習意欲向上システムの構築 ・・・3 ○スエãタ樹	\$	9	80	55~ 16:10 仮想木彫システムのためのワイヤー式空間位置センサーの試作 ○巻永修一	
N X X	P LA法を用いた透明導電談の作製 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4 層基板における CMOSIC のピン浮き発生時電源電流特性 ○月本 功, 高木正夫	黒鉛シートを用いたギャップフィルターの研究 ○三崎辛典、荒川真暉、三河通男、廣煮寿明、福川敏広	線幅 100mm パタン実現を目指した機細化プロセスに関する研究 ○長岡史郎, 河田 嶋	Feasbility Study on TMS High-Energy Neutron Detector Using PHITS	プレゼンゲーション方法の改善 ·· ○棄 和蹇,森 孝宏,富土原申弘,御谷	答案等自動採点・集計及びJABEE 関連文書管理データベー O&核考之, 固井洋臣	かたちプロジェクト2005 in O情本竜太	Javaを用いた授業理解を深めるための支援ソフトの作成 O主 尽人, 吉田曲香利	
	リコン発光層の作製	淳老 発生時電源電流特性	/カーの研究si 明, 福川順広	微細化プロセスに関する研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	y Neutron Detector Using PHITS19	谷 守, 内田由墾子, 平周禎一	関連文書管理データベースシステムの構築 ・・・・・22	%	5の支援ソフトの作成	

マルチメディアを利用した授業実施報告書 (1/3)

マルチメディアを利用した授業実施報告書

1. 担当教員: 辻 琢人

2. 実施日: 平成17年7月11日(火) 3. 実施時間: 4時間目(11:35~12:20)

4. 授業科目:電子工学 I

5. 対象学級:情報通信工学科第4学年

6. 実施場所: 高度情報教育ラボ

7. 目 的: (授業でマルチメディアを利用した狙いを記入)

動的にさまざまな現象を描画可能なプログラムを自作することによって,マンガやアニメに慣れている学生の理解を深める。

8. 実施方法:

半導体中の物理現象を描画する Java アプレットを用いて、学生が実際にパラメータを変更しながら、現象の変化を確かめる。

9. その他: (授業を実施した上で気付いた改善点等を記入)

授業を開始するまでに時間がかかった。 (学生全員がパソコンを起動し使用できるようになるのに 15 分程度)

プロジェクトに映した説明の文字が小さすぎた。

今回実施したマルチメディア授業は、電子工学においては効果的と考える。しかし、 科目ごとに Java アプレットを自作しなければならないため、他の授業科目への反映は困難である。

添付資料: (授業に用いた資料やスナップショットなど)

使用ソフトウェア

自作 Java アプレット

伝導帯、価電子帯中の電子・正孔濃度分布 pn 接合ダイオードのエネルギーバンド図

npn バイポーラトランジスタのエネルギーバンド図

金属-半導体接触のエネルギーバンド図

工夫した点

操作する者が温度、キャリア濃度、及び電圧などを直接変化させることが出来るようにした。

それらの値の変化に対して、物理現象が動的に描画できるようにした。

マルチメディアを利用した授業実施報告書 (2/3)

半導体の様々な物理現象を描画する Java アプレット

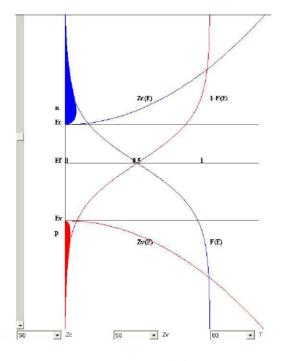
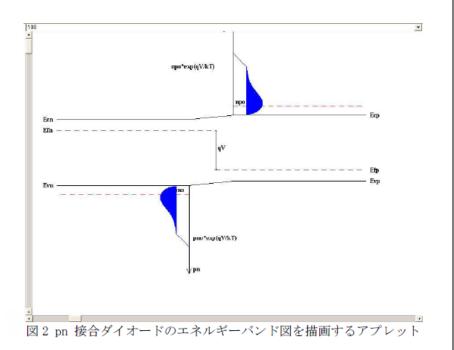


図1 伝導帯、価電子帯中の電子・正孔濃度分布を描画するアプレット



マルチメディアを利用した授業実施報告書 (3/3)

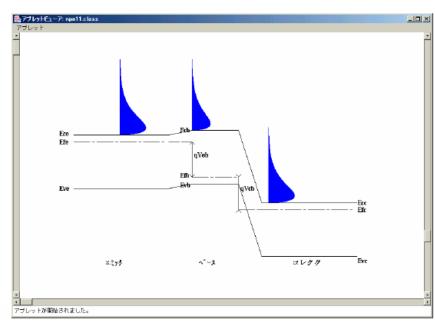


図3 npn バイポーラトランジスタのエネルギーバンド図を描画するアプレット



図4金属-半導体接触のエネルギーバンド図を描画するアプレット

(出典 学生課教務係)

公開授業の授業評価および自己チェックアンケートの集計結果

アンケート(公開授業用)	
	こ兄ろしていない。
正夕	
	(4) 色の工夫が欲しい。
年月日 2005.7.11 時限 4	(5) スクリーン前の電灯は消した方がもっとスクリーンが見やすくなったと思う。
	(6) 学生の準備に時間がかかったように思えます。
	(7) プリンタを使えばどうか。バンド図だけで授業が終わってしまった。内容があまり進めず残念。
□やや劣っている(2) □劣っている(0)	(8) 学生に教材を作らせるのはおもしろい。板書された電圧電流特性が画面上に表示されれば一層効
- か。 一 やや劣っている(3)	果的と思われる。
	○自己チェック
□ややわかりにくい(4) □わかりにくい(0)	1. 参観してよかったですか。
おやおっている(1) 一名っている(0)	□非常によかった(2) □よかった(17) □その他(普通2) ○ プロへへな数判7 [日間 キコントしばられると、占する、 / 強製 [日外正]
	 ムロガン3米にXXのよるしてが、こと、ソトナが。(核效日を17) □すべに □少し準備すれば(10) □できそうになべ(11)
□あまり感じられない(0) □感じられない(0)	点をご自分の授業に反映させたい。
	(1) Java アプレットを用いた教材
□やや散漫(0) □散漫(0)	(2) 学生を集中させる点
	(3) マルチメディア授業を行う際の, Java の利用, Web の利用
	(4) 視聴覚器材の活用
oた。最後にそれを言われたのが, もう少し強調	(5) マルチメディア型授業は準備に時間がかかる割には効果が疑問である。しかし、板書の時間が省
	略できるため,多くの内容を盛り込め,授業時間中の疲労も少なくてすむという利点がある。学
/ ア利用授業の欠点であり, 工夫の余地がある。 	生の集中力を特続できるマルチメディア教材の作成がネックとなる。
きも同じなのだが。	(6) 授業内容(科目内容)が異なるため,自分の座学では今後どのように反映できるか考えてみたい。
全員に同時刻でパソコンを扱わせるのは難しい	ただし, 工学実験などでの事前説明には, メディアを使った説明 (アニメーション etc) は, 大
- ルが動いてほしかった。	変有効と感じた。
製でる。	(7) 優れたアニメーションツールを自作している。作成に時間がかかりそうであるが、是非見習いた
A MAT AND 10 to 10 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	°\2
め、誤解があるかも知れないが、Java アブレッ	(8) Java を使って英文法指導。
生に伝わっているか疑問である。	(9) 表示画面の動き。
中している。)	(10) 複雑なネットワーク図の説明にパワーポイントをこのように活用したい。
Lp)エネルギー準位の不連続が学生に誤解を与	(11) コンピュータの利用。漫画のように見せる工夫。
が1つのものだけであった点。アプレット中の	
7 . 2 . 3 .	備考
、エントンル。 れば、もう少し分かりやすいように思う。	1)5名以上の参観教員を事前に割り当てる。 9)参組教員に海業参組後木アンケートを教務係に専用する

□感じられる(14)

 学生たちは集中できているようでしたか。 □非常に集中している(6) □集中している(16)

□優れている(17)

5. 熱意が感じられましたか。

□非常に優れている(4)

□非常に感じられる(8)

2. 機器類または黒板等の使い方は適切でしたか。

□優れている(11)

□非常に優れている(9)

1. 内容に工夫は感じられましたか。

□優れている(17)

□非常にわかりやすい(2) □わかりやすい(16)

3. わかりやすい授業でしたか。

□非常に優れている(2)

4. 話し方、態度等は優れていますか

塚人

过

担当教員

電子工学

授業評価および自己チェックアンケート(公開授業用)

(12) バイアスの順逆について I-V の線図が連動していれば、もう少し分かりやすいように思う。 (11)操作指示が若干速めで、学生が間に合っていないようだった。

8. その他、お気づきの点をお書き下さい。

(1) バイアスの変化による図の変化を想像させながら授業すると更によいと思う。要点、重要な点を

プロジェクタと照明がよくないので、文字型テキストは不適である。ホワイトボードは多分全員 強調した授業とすると更に良い

(出典 学生課教務係)

総括的な話を何時されるのかなと気が気でなかった。最後にそれを言われたのが、もう少し身

授業が始まるまでに 15 分かかった。マルチメディア利用授業の欠点であり,工夫の余地がある

された方がよく分かるのではないかと思われた。

(2) (£)

7. 気になった点を挙げて下さい。

コンピュータの起動に時間がかかる。どの授業でも同じなのだが

授業の内容に入るまでに 15 分弱かかった。学生全員に同時刻でパソコンを扱わせるのは難1

と感じた。バイアスを掛けたときに、電子やホールが動いてほしかった。

口癖「エット」「エート」が多い。早口であると感じる。

進行ペースが少し遅い気がした。

(2)

(7)

短縮 45 分授業では、授業の流れが分からないため、誤解があるかも知れないが、Java アプレ

トプログラムで何を計算して見せているかが、学生に伝わっているか疑問である。

内容が非常に高度だと感心した。(学生もよく集中している。)

(8)

接合近くの電位分布が直線になっていること。(BP)エネルギー準位の不連続が学生に誤解を

(10)2 つのプロジェクタに対して、ポインタで指すのが1 つのものだけであった点。アプレット9

線, 文字が小さい。

授業参観に関するアンケート結果 (1/2)

	授業科目名(授業科目名をご記入下さい)		か1つに×を記入 F 10 3年 6		5年 3	合計84
	学科(学科単位の授業の場合、いずれか1つ	組 (組単位の)授業(※主に1年	生の授業)の場	<u></u> 場合、いず	
	に×を記入して下さい) 通信 9 電子 21 制御 13 情報 17		を記入して下さい) 且 16 3組 17			
	授業参観に関するア	ンケート	(平成19	年度)		
!	◆1から12の質問は5段階評価です。「どちらとも言えない」 を普通程度として、5つの枠のいずれか1つだけに×をつけ	良い例	悪い		リ 悪い例 ぎ)(中央でない)	Ţ ¦
į	て下さい。	X	×	· \		į
<u>〇授</u>	業参観全般に関する質問					
1	授業参観の時期はいかがですか。	適切である 57	どちらともい 16 10		適切でない	
2	授業参観は今後も必要ですか。	必要である 60	どちらともい 15 7		必要ない 1	
3	授業参観に満足しましたか。	満足である 30	25525V		不満である 5	
	質問1で1または2とお答えになられた方はご意見 をお願いします。			<u>, 111</u>		
	質問2で1または2とお答えになられた方はご意見 をお願いします。					-
	質問3で1または2とお答えになられた方はご意見 をお願いします。					
○±4						
<u></u> 4	<u>は員の授業に関する質問</u> 教員に意欲・熱意を感じますか。	感じる	どちらともい	えない	全く感じない	
	# 目の※ 明 2 明 2 時 6 月 2 写みよ	39 聞き取り易い	29 13 どちらともい		0 全く分からない	
5	教員の説明は聞き取り易いですか。	相き取り易い 40	34 6		主く分からない	
6	黒板の使い方は適切ですか。	適切である 39	255524V 27 13		適切でない 0	
〇学	生の授業態度に関する質問					
7		聞いている 46	25525V		聞いていない 4	
8	居眠りをしていますか。	ない	どちらともい	ヽえない	非常に多い	
9	私語をしていますか。	45 たい	19 11 どちらともい		非常に多い	
_		45	22 9	3	2	
10	授業中ノートをとっていますか。	よくとっている 32	どちらともい 31 13		全くとっていない 1	
〇授	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・					
11	教室・実験室の設備はよいですか。	良い 22	どちらともい 26 24	. —	悪い 1	
12	教室・実験室の広さは十分ですか。	十分である 32	どちらともい 14 15		+分でない 11	
○授	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・					
	授業参観に関するご意見をご自由にお書き下さい	0				7
	別紙のとお					

授業参観に関するアンケート結果 (2/2)

(同様内容他2名)

・校舎が古いせいか清掃が行き届いていない

ガラスが割れたまま危ない

・ゴミのマナーが悪い

駐車スペースが少ない

・もう少し照明が明るくてもいいと思った

・室内が暑く感じた

受業参観に関するアンケート(平成19年度)

学校の雰囲気を感じることが出来て良かった。 普段の授業風景を見ることが出来て良かった

・高校生活を見ることができありがたい

普段の様子が分かり安心した

・得意科目は生き生きしていた

授業内容が難しそうで心配

○授業参観に関する意見

窓を開けてもらいたい (同様内容他10名)

中の様子が見えない

(自分の) 子どものクラス以外の様子が見ることが出来なくて残念

・ドアも生徒が閉めるため参観しにくい状態だった

(後ろのドアを開けたらすぐ閉められてしまった)

前の授業の黒板を先生が消していた。週番か誰か生徒が消すべき

義務教育でないので高い授業料を払って授業を受けているのだという認識が生 ・始業時間より5分遅れで先生が来て始まるのが気になった。 ・バラバラでわかりにくい(早く帰っている子どももいれば,休憩室でカードゲ ・教室の前からしか入ることができず行きづらい (1年4組) (同様内容他1名)

ームをやっている子もいる)

勉強させていただいているという感謝の気持ちが欠けている 徒保護者に無いように思う

好きなところを見られるのはいいが、時間が長すぎて人が少なく、教室に入り

中学生と違い服装とか行動とかに個人差が目立った

・先生も自信を持って強い態度で臨んで下さい

人数の割合からすると教室が狭く感じられる

にくい雰囲気がある

ノートは皆熱心にとっていた

プログラミングを熱心にしていた

半分より前の生徒は良く聞いていた

・丁寧にゆっくり進んでくださっていてよかった(同様内容他1名)

熱心に授業を受けていて安心した

1年生はほぼ真面目に授業を聞いていたけど、2・3年生は少しくだけてしま 教室は狭く感じるが, 教員の声は良く聞き取れると思う

っていた。4・5年生の実習実験は楽しそうに学んでいた。

もっと授業を大切にしてほしい (子どもに対して)

携帯を見ている生徒が2名程気になった

・3組より落ち着きのないクラスに思えた (1年2組の保護者より)

・授業中携帯が鳴ったりメールしている人が目に付いた (同様内容他2名)

・子どもの授業時間・時間割が解っていればその時間に合わせてこられるので助

(同様内容他1名)

・これからも土日に参観してほしい ・休日だったので参加しやすかった

かる。(同様内容他3名)

11日中フリーでどの授業も参観できるのでよい

・授業はもっと真面目に全体的に取り組まないと内容的に難しくなると思うので

1時間ずっと寝ている生徒(2名)がいた

寝ている学生や教科書を出していない学生を放置するのはいかがなものか。 生懸命授業されていることは評価できるだけに残念です

先生一人に生徒の数が多いと思う。後ろの席の人は聞き取りにくかったりさぼ 授業を受ける人数が40名以上だったので指導が行き届きにくいかと思った

・時間の都合により、参観できなかったクラスがあり残念でした

学科別授業が見たかった

部活動の参観もあればいいと思います

球技大会の参観希望

寮に入っているため、子どもの様子が解らず不安だったが、この時期に参観で きてとても安心した

(同様内容他1名)

真面目に取り組んでいる姿が見られてよかった

- 2 -

(出典 (平成19年度) 集計結果) 教務係 授業参観に関するアンケート

(分析結果とその根拠理由)

研修会への参加やFD講演会の開催を行っている。校長裁量経費によるプロジェクト研究では、多くのグループや個人による研究が遂行され、年度末には報告書の発行や報告会により研究成果を公開している。公開授業や授業参観による授業評価、人事交流も行っており、ファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されている。

観点9-2-②: ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

平成18年度四国地区高専共同事業FD研修会において3名の教員が発表した(資料9-2-2-1)。 校長裁量経費によるプロジェクト研究の成果として、 Webを利用した教育環境整備ツールが開発・ 運用されており学習意欲向上が期待される(資料9-2-2-2)。 また各種イベントなどを通じて、学生のボランティア活動を支援しており、コミュニケーション能力等の育成に寄与している(資料9-2-2-2)。

マルチメディアを利用した公開授業では、例えば平成17年度年報において社会科(歴史)でオンラインゲームを用いた授業の実施についての報告があり、平成18年に公開授業を行い再度評価している(資料 9-2-2-4, 5)。

教員交流等による成果としては、在外研究員時の研究を論文としてまとめている(資料 9-2-2 -6)。

FD研修会での発表概要 (1/2)

講演テーマ(数学科)

提出校_詫間電波工業高等専門学校

·テーマ名

「2年微分積分学における習熟度別授業について(補習・教材開発を中心に)」

・発表者 南 貴之

•内 容(要旨)

詫間電波高専の2年微分積分学において実施している習熟度別授業の内容について、以下のように述べる。

- (1) 習熟度別授業の目的とその実施方法
 - ・三年次における学力差の解消を目指す。
 - ・クラス分けの方法や各クラスの違い。
 - ・教科書、定期試験、、補習、成績評価について。
- (2)各クラスにおける授業での工夫や問題点
 - ・各クラス (α, β, γ) における問題点やその解決策など。
 - ・小テストの扱い、問題点。
- (3)補習について
 - ・補習参加者を増やすための対応策。
- (4)マルチメディア機器の活用 γクラスにおけるマルチメディアを利用した授業について。
- (5)まとめ。

④ 継続的実験による化学指導

笠井 健吉 (詫間電波高専)

要旨

単発的実験は、その教育的効果は少ない。

2 学年後半にそれまでの学習知識の確認、再認識を目的として、長期: 一ヶ月に渡る陽イオン分析を少人数 (2 人一組) で実施させる。

10種の陽イオンを検出させるのであるが、時間配分を考慮したイオン種を選択している。 各回毎の理想的進度を示して実験させる。

失敗、反復が可能なため、学生達の理解度はそれなりに期待される。

FD研修会での発表概要 (2/2)

② 詫間電波高専情報工学科における創造教育の一例

松下 浩明 (詫間電波高専)

要旨

詫間電波高専では、創造教育は、まだ充分に機能しているとは言い難いが、幾つかの試みが始まりつつある。

本発表では、詫間電波高専情報工学科での試みのうち、情報処理入門科目(1年)、実験(4年) 等の試みを述べる。

(出典 平成18年度四国地区高等専門学校FD研修会 実施記録)

プロジェクト研究報告会 講演論文集 (1/2)

詫間電波工業高等専門学校 平成18年度プロジェクト研究報告会 講演論文集

携帯電話のWEB閲覧機能を利用した 小テスト成績閲覧・学習意欲向上システムの構築

〇天造秀樹

1. まえがき

電気回路や数学などの理系科目は演習が重要である。当校では一回 100 分の講義なので集中力の維持が問題になっていた。 そこで、筆者は今年度から講義の最初と最後に小テストを行うことにした。講義の最後に行うテストは、講義中に内容をいったんは把握できるようにするためであり、テストの内容は講義中に教えた基礎的な法則、定理を知っていれば答えられるレベルである。ノートを見ても構わないことにしている。これにより授業中に渡ってノートをしっかり書く学生や講義中に質問する学生が去年度までより増えている。講義の最初に小テストをするのは先週習った範囲を次の講義までにしっかりと復習しているかどうかを本人に自覚させるためである。内容は応用レベルである。授業の最初にすることで先週の自分の未熟な部分を思い出し、反省させることと、先週の復習の時間をかねている。

小テストを毎回行うことは演習重視の科目にとって非常に有意 義ではあり、その正答率を記録し、学習者が何の分野を十分でな いかを意識させることは重要である。そこで、頻繁に行われる小テストの成績を管理し、集計・閲覧できる機能を持つアプリケーションを開発することにした。これにより、学生の学習意欲向上に結びつけ、演習の効果を高めることが本研究の目的である。2006 年 5 月から本格的に運用を開始した。システムを利用して、学生のアンケートをとって、システムの有用性の検証を行った。

2. システムの概要

システムの全体構成を図 1に示す。学生は携帯電話から WEB 経由でアクセスし、その成績、順位を閲覧することができる。教員はパソコンクライアントによりWEB経由で成績管理を行うことができる。データベースには JET データベースを採用した。サーバーは Windows2003、WEB サーバーとして ASP. NET を実行可能な IIS6.0 を採用した。開発には Visual Studio、NET2003 を使用した。以降、この WEB アプリケーションを「Score、NET」と称することとする。

教員は図 2のフローチャートに従って画面遷移する。これらの画面遷移中に故意、もしくは偶発的に不正な遷移を行おうとした場合には、エラーページに遷移する。成績入力フォームを図3に示す。WEB経由で成績の入力、編集が可能となっている。

成績閲覧

開発用携帯電話のエミュレーターには Openwave SDK6.2.2

HTTP を用いた。学生はユーザーIDを埋め込んだリンクからアクセスすると図 4の左に示す画面にアクセスする。ユーザーはグループ単位で管理されている。リンクとIDは予め別のフォームで学年と科目を選択することで取得できる。認証後は選択フォームに遷移する。点数をクリックすると図 4の右画面に遷移する。これまでの小テストの点数と正答率、総合順位を見ることができます。選択フォームでランキングをクリックすると順位ごとにソートされたグループ内の全員の点数が表示される。

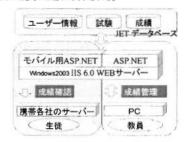


図 1 システムの概略

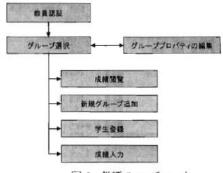


図 2 教師フローチャート

4. 結果

筆者が担当している基礎電気工学、電気回路の科目を受講している3クラス133人に対してシステムの検証を手伝っていただいた。 これらのうち、2クラス89人にはScore.NETを利用した。2006年5 月2日から2006年6月2日までの4週にわたって4回の小テストを行った。アクセスしたクライアントの種類別に集計すると88%が携帯電話のWEB機能を利用してアクセスしていることがわかった。 また、閲覧時間も早朝から深夜まで幅広い時間にアクセスしている。

正答率の標準偏差の変化を集計したのが図 5である。

プロジェクト研究報告会 講演論文集 (2/2)

詫間電波工業高等専門学校 平成18年度プロジェクト研究報告会 講演論文集

Score.NET を利用していないクラスは徐々に点数分布が広がっていくのに対し、導入している2クラスは維持している。これは小テストに対する、意識や集中力が最初の高いレベルを維持していることを示していると考えられる。

クラス1に対してアンケートを行った。「学習に適したスタイルとは」という問に対する回答結果を図 6に、「テスト2回の有効性について」の問いに対する集計結果を図7に示す。学生は2回小テスト制に意義を感じているようである。Sore.NET の有効性についての回答を図8に示す。当初の目的どおりの結果が確認できた。Sore.NET の特徴についての質問においても好印象を持って利用していることがわかった。



図 3 成績入力



図 4 学生認証画面

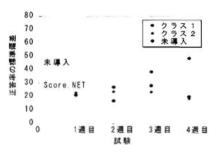


図 5 正答率の標準偏差の変化

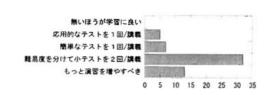


図 6 学習に適したスタイルとは

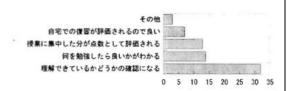


図 7 テスト2回の有効性について

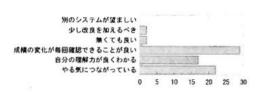


図 8 Score.NET の有効性

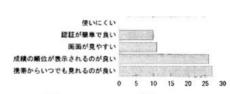


図 9 Score.NET の特徴

5. まとめ

2005 年度に携帯電話のWEB閲覧機能を利用した Score. NET を開発と試験運用をはじめ、2006 年5月から本 格運用を開始した。現在のところ、バグの報告は受けてい ない。アンケート結果から二回/講義は学習評価、理解力 確認に有効であることがわかった。また、Score. NET はアン ケート結果、正答率の標準偏差からやる気を維持さえること に効果があるともいえる。Score. NET ではレポートの提出管 理にも使えるシステムである。特にWEB経由で点数の入 力が可能なので複数の教員で採点し学生に知らせるのに 適している。アンケートでは他の科目でも小テストの要望が あることを知った。

(出典 平成 18 年度プロジェクト研究報告会 講演論文集)

学生活動活性化プロジェクト報告書 (1/2)

別紙様式2

平成17年度 学生活動活性化プロジェクト報告書

申請者又は代表者	三崎 幸典	学	科長	福永 哲也				
題目	ボラ	ンティア活動	による学生	活動の活性化				
分担者氏名	所属学科	所属学科 職 名 分 担						
三崎 幸典	電子工学科	助教授	学生指導・	企画				
天造 秀樹	電子工学科	助手	イベント補	前・学生指導				
村上 浩	学生課実習係	技官	イベント補	助・イベント材料作製				
				ール」「わくわくキッズラン				
				D学生の参加などボランティ				
目 的	ア活動を通して学	生の活性化をは	かる。					
	今年度行った主要	カキのを示す						
	7年及行うに主安	なものを示す。						
内容及び成果	○2005年06月17	В						
TTI IZO MAR			グラム 「ロ	1ボットで遊ぼう!」				
	○2005年07月30	日						
	穴吹工務店 操業	100周年記念	事業					
	夏休み! わくわ・	く未来工房~	未来を体験す	「る~				
	○2005年08月15	я						
	学習院セミナーエ							
	10000	TO 6 5 5 5 5 5 5 5						
	○2005年10月2	1日~23日						
	地域 ICT 未来フ	エスタ in 香川						
	4							
	ľ							

[※] 写真5~6枚をA4サイズ1枚にまとめ、簡単な説明を付けて提出してください。

学生活動活性化プロジェクト報告書 (2/2)



平成17年6月17日 SPP 詫間小学校·大浜小学校



平成17年7月30日 夏休み! わくわく未来工房 ~ 未来を体験する ~

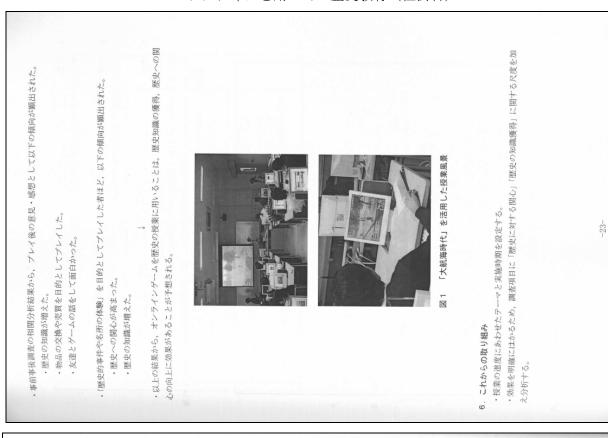


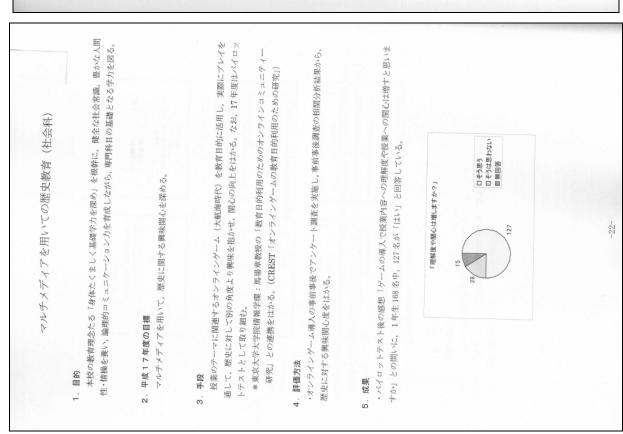


平成16年12月17日 学習院セミナーエジソンクラブ

(出典 平成17年度 学生活動活性化プロジェクト報告書)

マルチメディアを用いての歴史教育(社会科)





(出典 平成17年度年報 22,23頁)

授業評価および自己チェックアンケート集計結果

14	ームが)としてはおもしろいと思いました。
强 7	学生はおもしろいと思いますが勉強になっているかどうかはこれから評価されるのではないでしょうか。
22	如此
22	①非常によかった ③よかった □その他(2. ご自分の授業に反映させることができそうですか。(複数回答可)
2 < 22	□すぐに □少心準備すれば ⑤できそうにない 3. どんな点をご自分の授業に反映させたいですか。(具体的に)
25	・すぐに準備ができることなどとても想像できない。 ・専門分野 (技術) の歴史について学ばせる導入教育。 ユガニ・・エロコーン・レントをはする
れない	・ますケームを理解することから考えます。
	編表(また)、人名英格里 日本市当下省 10 光子 2
573 ? RV3.	1) 3石以上の今覧状員で書削に割り当しる。 2) 参観教員は授業参観後本アンケートを教務係に提出する。
は難しいだろ	
三一人では 対	
り時間がかか	
かるべき事	
こって見ります。	
当主的な)学	
0易いか分かきる素材 (ゲ	

実際の授業では、このテーマ、この時代だけに多大な時間を割けない。やるべき事 学生は非常に集中していたようなので、操作を覚えた後は効率的な(自主的な)等 今回はアシスタントが沢山おられたので質問に答えられていたが、教員一人では対 興味をもって学生は取り組んでいるので、受身の授業に比べるとはるかに優れてい 今回は数名の助手的指導者が居た。実際の授業では1人で指導するのは難しいだろ ゲームの操作を覚える時間が必要であるので、実際の授業に入るまでの時間がかえ 申訳ありませんがゲーム自体あまりやらないので、どんな感じで分かり易いか分れ ただ授業に利用できる素材 □わかりにくい □殿いったない ・ゲループの課題なのか個人の課題なのかの明示はどのようにしているのか? □劣っている □劣っている □劣っている ・ガループごとに作業のまとまり具合に差があるように見えるのが興味深い。 ・あらかじめマニュアルを読ませておいてもらうと良かったかもしれない。 参観人員6名 2006.7.7 □あまり感じられない ?ややわかりにくい □やや劣っている □やや劣っている ?やや劣っている 氏名 (グループ内でモニターの画面が揃っているかなど) ・画像から色々な知識を吸収することができるのかな。 担当教員 | 内田由理子 | 年月日 りにくいか?有効か有効でないかよく分かりません。 ②集中している □やや散漫 ・テクニカルサポートが多いのがうらやましい。 ・画像は歴史の史実に合致しているのですよね。 2. 機器類または黒板等の使い方は適切でしたか。 6. 学生たちは集中できているようでしたか。 その他、お気づきの点をお書き下さい。 4一般 じられる □非常にわかりやすい ?②わかりやすい 3億れている ③優れている ? ③優れている 4. 話し方、態度等は優れていますか 1. 内容に工夫は感じられましたか。 7. 気になった点を挙げて下さい。 3. わかりやすい授業でしたか。 習が出来るのかもしれない。 5. 熱意が感じられましたか。 っているように感じた。 応が難しいのでは? ②非常に集中している □非統に優れている □非純に限じられる ①非常に優れている ①非常に優れている は山ほどある。 (コメント) 歴史

授業評価および自己チェックアンケート(公開授業用)

(出典 授業評価および自己チェックアンケート集計結果 平成18年7月7日)

在外研究員の研究論文



Available online at www.sciencedirect.com

ScienceDirect

Electronic Notes in DISCRETE MATHEMATICS

Electronic Notes in Discrete Mathematics 26 (2006) 131-138

www.elsevier.com/locate/endm

On d-dual hyperovals in PG(d(d+3)/2, 2)

Hiroaki Taniguchi

Takuma National Collage of Technology, 551 takuma, kagawa, 769-1192, Japan

Abstract

In PG(d(d+3)/2, 2), there are three known families of dual hyperovals; Huybrechts's dual hyperovals ([3]), Veronesean dual hyperovals ([6] and [7]), and the family constructed by Buratti and Del Fra ([1] and [2]) based on Huybrechts's dual hyperovals. In this note, we construct a family of dual hyperovals based on Veronesean dual hyperovals. We also prove that our dual hyperovals are not isomorphic to the Veronesean dual hyperovals and do not satisfy Property (T). Hence, we have a new family of dual hyperovals in PG(d(d+3)/2, 2).

Keywords: dual hyperoval

1 Introduction

Let d, m be integers with $d \ge 2$ and m > d. Let PG(m, 2) be an n-dimensional projective space over the binary field GF(2).

Definition 1.1 A family S of d-dimensional subspaces of PG(m,2) is called a d-dimensional dual hyperoval in PG(m,2) if it satisfies the following conditions;

- (i) any two distinct members of S intersect in a projective point,
- (ii) any three mutually distinct members of S intersect in the empty projective set,
- (iii) all members of S generate PG(m, 2), and
- (iv) there are exactly 2^{d+1} members of S.

Known family of dual hyperovals in PG(d(d+3)/2, 2) are Huybrechts's dual hyperovals ([3]), Veronesean dual hyperovals ([6] and [7]), and the dual hyperovals constructed by Buratti and Del Fra ([1] and [2]) based on Huybrechts's

1571-0653/\$ – see front matter © 2006 Elsevier B.V. All rights reserved. doi:10.1016/j.endm.2006.08.023

(出典 Sience Direct (elsevier) electronic notes in Discrete Mathematics 26 (2006) pp. 131-138 より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

FD研修会での発表やプロジェクト研究での成果から、ファカルティ・ディベロップメントが教育の質の向上や授業の改善に結びつくことが期待される。また公開授業や参観日において収集された参観者の意見などが授業担当者にフィードバックされており、教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教育の実態を示すデータや資料として、講義日誌、試験答案等が適切に収集され、学科ごとに相互 チェックするシステムが整備されている。学生による授業評価アンケートの集計結果を図書館で公開 し、教育等の取り組みを年報にまとめ、教育改善活動状況を学校として把握するよう努めている。教 員の開発したソフトウェアを工学実験に使用するなど、多くの研究成果が教育の質の改善に寄与して いる。ファカルティ・ディベロップメントでは、公開授業や授業参観の実施、講演会の開催など多く の取り組みがなされている。公開授業や授業参観日には、参観者の意見が収集され授業担当者にフィードバックされているため、教育の質の向上・改善に結び付いている。

(改善を要する点)

非常勤の担当する科目の試験答案のデータは蓄積されているが、講義日誌や成績評価に関するデータの蓄積が不完全である。また学生の満足度評価がなされていない。これらは早急に対処する必要がある。

(3) 基準9の自己評価の概要

本校では、平成17年度から教務委員会の下部組織として教育改善専門部会を設け、教育改善のためのガイドライン作りなどを進めてきた。当初部会員は、各科からそれぞれ1名程度ずつ選出していたが、作業の円滑化を図るため、平成18年度からは各科2名程度に増やした。

教育改善専門部会で検討されたガイドラインに従って、教育の実態を示すデータや資料の収集・蓄積が行われ、また部会員や教務係員によりデータ・資料の管理が行われている。

学生や卒業生,企業,学外の有識者からの意見を聴取する機会を設け,聴取した意見や学校としての対応状況は報告書としてまとめている。また授業評価アンケートの集計結果は,図書館の閲覧室で公開しており,誰でも見ることができるようにしている。

各科では、年数回教育改善のための会議を開催し、それまでの教育活動の実態を示すデータや資料を相互チェックしている。また年度末の会議では、各教員が担当科目等の今年度の問題点や次年度への改善点をまとめ、教育の質の向上を図っている。また公開授業も行っており、教科や学科を越えた教育方法の改善が期待できる。

ファカルティ・ディベロップメントとして、校長裁量経費によるプロジェクト研究を推進しており、 教育改善の報告もなされている。また毎年学外の有識者による教育改善に関する講演会も開催してい る。公開授業や授業参観によって、自己と他者の両面から評価を行い教育の質の向上に努めており、 ファカルティ・ディベロップメントは適切に行われ、教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-1: 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。 また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

平成19年3月末日現在における資産現在額は、資産一覧表のとおりである。

建物,構築物,建物附属設備等については,平成16年4月に独立行政法人化されるにあたり,国立学校特別会計に所属の本校国有財産を,独立行政法人国立高等専門学校機構に全て出資財産として受け渡しされたものが,そのまま資産として形成されている。また,平成17年度に専攻科棟を新設し,教育研究設備の整備・充実をはかった(資料10-1-①-1)。

また、債務における固定負債については、平成16年度の長期借入金は420、237千円であるが、国からの返還計画に基づき相殺され、平成17・18年度の借入金はない。流動負債(未払金等)については、翌年度に支払いするもので問題はない(資料10-1-10-10。

資料10-1-①-1

詫間電波工業高等専門学校資産一覧表(平成19年3月末現在)

区 分	面積又は数量	価 額
土地	121,092.62m ²	1,126,100,000 円
建物	33,723 m ²	2,249,414,921 円
工作物	1式	205,061,061 円
立木竹	186本	1,422,910 円
船舶	9隻	479,916 円
物品(車両運搬具含む。)	65品	67,752,766 円
合	計	3,650,231,574 円

(出典 総務課財務係)

貸借対照表(1/9)

(平成16年度)

 事業年度:
 16年度

 支部:
 42_此間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 プッジェ外:
 総括

 tヴァ外:
 総括

貸借対照表 平成16年4月1日~平成17年3月31日

(単位:円)

資 産	0	部	连进产生	負	債	及	び	資	本	の	部
科目		金	額		科	ZZI AN	目		(44)	金	額
[資産の部]			4, 003, 020, 827	[負債の部]							632, 363, 754
流動資産			134, 936, 484	流動負債							157, 984, 290
現金及び預金			134, 708, 747	運営費交付	金債務						0
現金			0	授業料債務							0
当座預金			0	承継剰余金	:債務						0
普通預金			134, 708, 747	預り施設費							0
定期預金			0	預り補助金	等						0
その他預金			0	預り寄附金							4, 458, 253
有価証券			0	前受受託研	究費等						0
有価証券			0	前受受託事	業費等						0
受取手形			0	短期借入金							0
受取手形			0	1年以内返	済予定長	期借入金		*			0
未収学生納付金収入			0	未払金							142, 800, 048
未収学生納付金収入			0	未払消費税	等						0
棚卸資産			0	未払費用							10, 693, 855
未成研究支出金			0	給与							2, 730, 045
未成事業支出金			0	法定福利	費				1		0
貯蔵品			0	賃借料							1, 012, 865
未収入金			2, 107	水道光熱	費						2, 865, 926
未収入金			2, 107	未払利息							0
前渡金			0	その他未	払費用						4, 085, 019
前渡金			0	前受金							0
前払費用			178, 194	預り金							32, 134
前払費用			178, 194	科学研究	費						0
法定福利費			158, 379	社会保険	料						0
未経過賃借料			0	源泉所得	税等						31, 388

1 / 6

 事業年度: 16年度

 支部: 42_詫間電波工業高等専門学校

 会計区分: 国立高専機構

 部署: 総括

 プッジュ外: 総括

 セグ・シト: 総括

貸 借 対 照 表 ^{平成16年 4月 1日} ~ ^{平成17年 3月31日}

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
未経過保険料	19, 815	職員宿舎貸付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	746
その他の前払費用	0	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0
その他の流動資産	49, 543	修繕引当金	0
仮払金	0	損害補償損失引当金	0
仮払消費税	0	その他の引当金	0
旅費仮払	0	その他の流動負債	0
立替金	49, 543	仮受金	0
その他流動資産	0	その他の流動負債	0
徵収不能引当金	0	固定負債	474, 379, 464
徽収不能引当金	0	资産見返負債	54, 112, 464
貸倒引当金	-2, 107	資産見返運営費交付金等	8, 860, 248
貸倒引当金	-2, 107	資産見返運営費交付金	8, 860, 248
固定資産	3, 868, 084, 343	資産見返授業料	0
有形固定資産	3, 867, 814, 587	資産見返補助金等	0
建物	2, 622, 837, 116	資産見返寄附金	8, 822, 723
建物	1, 838, 207, 123	資産見返物品受贈額	36, 429, 493
建物附属設備	784, 629, 993	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
建物減価償却累計額	-215, 882, 662	建設仮勘定見返運営費交付金	0
構築物	325, 820, 315	建設仮勘定見返授業料	0
構築物減価償却累計額	-58, 033, 137	建設仮勘定見返施設費	0
機械装置	0	建設仮勘定見返補助金等	0

貸借対照表 (2/9)

 事業年度:
 16年度

 支部:
 42.発開電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 ブッジ*ェクト:
 総括

 対*がト:
 総括

貸 借 対 照 表 ^{平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日}

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
機械装置減価償却累計額	0	建設仮勘定見返寄付金	0
船舶	2, 333, 364	特許権仮勘定見返運営費交付金等	0
船舶減価償却累計額	-1, 224, 889	長期預り金補助金等	0
車両運搬具	4, 973, 843	長期預り金寄附金	30,000
車両運搬具減価償却累計額	-1, 141, 262	長期前受受託研究費等	0
工具器具備品	90, 574, 476	長期前受受託事業費等	0
工具器具備品減価償却累計額	-28, 542, 577	長期借入金	420, 237, 000
土地	1, 126, 100, 000	長期未払金	0
建設仮勘定	0	引当金	0
その他の有形固定資産	0	退職給付引当金	0
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	追加退職給付引当金	0
無形固定資産	264, 000	その他の引当金	0
特許權	0	その他の固定負債	0
借地権	0	[資本の部]	3, 370, 207, 181
実用新案権	0	資本金	3, 453, 182, 313
意匠権	0	政府出資金	3, 453, 182, 313
ソフトウェア	0	その他出資金	0
電話加入権	264, 000	資本剰余金	-82, 975, 132
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	202, 549, 400
著作権	0	資本剰余金施設費	9, 093, 400
特許権仮勘定	0	資本剰余金運営費交付金	0
投資その他の資産	5, 756	資本剰余金授業料	0
投資有価証券	0	資本剩余金補助金等	193, 192, 000
長期貸付金	0	資本剩余金寄附金	0
長期前払費用	5, 756	資本剰余金目的積立金	0
未収財源措置予定額	0	資本剰余金譲与	264, 000

3 / 6

 事業年度: 16年度

 支部: 42_終間電波工業高等専門学校会計区分: 国立高専機構部署: 総括プッジェクト: 総括 せが かト: 総括

貸 借 対 照 表 平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
敷金・保証金	0	その他の資本剰余金	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順	0	报益外減価償却累計額	-283, 976, 159
その他の投資その他の資産	0	損益外固定資産除売却差額	-1, 548, 373
[本支店勘定]	-265, 942	利益剰余金	0
[本支店]函館工業高専	0	前中期目標期間繰越積立金	0
[本支店]苫小牧工業高専	0	目的積立金	0
[本支店]釧路工業高専	0	目的積立金	0
[本支店]旭川工業高専	0	目的積立金	0
[本支店]八戸工業高専	0	目的積立金	0
[本支店]一関工業高専	0	積立金	0
[本支店]宮城工業高専	0	当期未処分利益	0
[本支店]仙台電波工業高専	0	繰越欠損金	0
[木支店]秋田工業高専	0	当期未処理損失	0
[本支店]鶴岡工業高専	0	その他の有価証券評価差額金	0
[本支店]福島工業高専	0		
[本支店]茨城工業高専	0		
[本支店]小山工業高専	0		
[本支店]群馬工業高専	0		
[本支店]木更津工業高専	0		
[本支店]東京工業高専	0		
[本支店]長岡工業高専	0		
[本支店]富山工業高専	0		
[本支店]富山商船高専	0		
[本支店]石川工業高専	0	,	
[本支店]福井工業高専	0		
[本支店]長野工業高専	0		

貸借対照表 (3/9)

貸借対照 平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日

 事業年度:
 16年度

 支部:
 42_詫間電波工業高等専門学校会計区分:

 国立高専機構
 部署: 総括 ブ゚ロジエクト: 総括 セグメント: 総括

(単位:円)

資産	の	部		負	債	及	び	資	本	の	部	
科目		金	額		科		目		100	金		額
[本支店]岐阜工業高専			0									
[本支店]沼津工業高専			0									
[本支店]豐田工業高専			0									
[本支店]鳥羽商船高専			0									
[本支店]鈴鹿工業高専			0									
[本支店]舞鶴工業高専			0									
[本支店]明石工業高専			0									
[本支店]奈良工業高専			0									
[本支店]和歌山工業高専			0									
[本支店]米子工業高専			0									
[本支店]松江工業高専			0									
[本支店]津山工業高専			0									
[本支店]広島商船高専			0									
[本支店]呉工業高専			0									
[本支店]徳山工業高専			0									
[本支店]宇部工業高専			0									
[本支店]大島商船高専			0									
[本支店]阿南工業高専			0									
[本支店]高松工業高専			0									
[本支店]詫間電波工業高専			0									
[本支店]新居浜工業高専			0									
[本支店]弓削商船高専			0									
[本支店]高知工業高専			0									
[本支店]久留米工業高専			0									
[本支店]有明工業高専			0									
[本支店]北九州工業高専			0									

5 / 6

 事業年度:
 16年度

 支部:
 42_詫間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構
 部署: 総括 プロジェクト: 総括 セグ・メント: 総括

貸借対照表 平成16年4月1日~平成17年3月31日

(単位:円)

資	産	の	部	MINTE DE	負	債	及	び	資	本	の	部	31.30
科	目	To Got	金	額		科		目			金		額
[本支店]佐世保工業高専				0							4		
[本支店]熊本電波工業高專	厚			0									
[本支店]八代工業高専				0									
[本支店]大分工業高専				0									
[本支店]都城工業高専				0									
[本支店]鹿児島工業高専				0									
[本支店]沖縄工業高専				0									
[本支店]機構本部				-265, 942						- A			
	¥1												
									-				
					74								
合	計			4, 002, 754, 885		合		計				4,00	2, 570,

貸借対照表(4/9)

(平成17年度)

 事業年度: 17年度

 支部: 42_乾間電波工業高等専門学校

 会計区分: 国立高事機構

 部署: 途括

 プップェ外: 総括

 tがメル: 総括

貸借対照表 平成17年4月1日~平成18年3月31日

(単位:円)

										(単位:円
資 産	か 部		負	債	及	び	資	本	0	部
科目	金	額		科		目			金	額
[資産の部]		4, 176, 297, 814	[負債の部]							382, 388, 01
流動資産		314, 086, 615	流動負債							336, 866, 349
現金及び預金		313, 886, 016	運営費交付	金債務						(
現金		0	授業料債務							(
当座預金		0	承継剰余金	債務						
普通預金		313, 886, 016	預り施設費							(
定期預金 .		0	預り補助金	等						
その他預金		0	預り寄附金		-					5, 139, 79
有価証券		0	前受受託研	究費等						
有価証券		0	前受受託事	業費等						(
受取手形		0	短期借入金							
受取手形		0	1年以内返	済予定長	期借入:	金				
未収学生納付金収入		0	未払金							322, 840, 60
未収学生納付金収入		0	未払消費税	等						(
棚卸資産		0	未払費用							8, 754, 08
未成研究支出金		0	給与							2, 006, 91
未成事業支出金		0	法定福利	費						76, 03
貯藏品		0	賃借料							750, 40
未収入金		190, 622	水道光熱	費						1, 731, 73
未収入金		190, 622	未払利息							
前渡金		0	その他未	払費用						4, 188, 99
前渡金		0	前受金							
前払費用		12, 056	預り金							131, 86
前払費用		12, 056	科学研究	費						
法定福利費		0	社会保険	料						27, 69
未経過賃借料		0	源泉所得	税等						

1 / 6

 事業年度: 17年度

 支部: 42_詫間電波工業高等専門学校

 会計区分: 国立高専機構

 部署: 総括

 プップェ外: 総括

 17・シブェ外: 総括

貸 借 対 照 表 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
未経過保険料	12,056	職員宿舎貸付料	0
未経過支払利息	0	その他預り金	104, 172
その他の前払費用	0	前受収益	0
未収収益	0	前受利息	0
未収収益	0	その他前受収益	0
短期貸付金	. 0	引当金	0
短期貸付金	0	賞与引当金	0
その他の流動資産	0	修繕引当金	0
仮払金	0	損害補償損失引当金	0
仮払消費税	0	その他の引当金	0
旅費仮払	0	その他の流動負債	(
立替金	0	仮受金	(
その他流動資産	0	その他の流動負債	(
徵収不能引当金	0	固定負債	45, 521, 669
徽収不能引当金	0	資産見返負債	45, 241, 669
貸倒引当金	-2,079	資産見返運営費交付金等	18, 373, 507
貸倒引当金	-2,079	資産見返運営費交付金	18, 373, 507
固定資産	3, 862, 211, 199	資産見返授業料	(
有形固定資産	3, 861, 947, 199	資産見返補助金等	(
建物	2, 873, 217, 534	資産見返寄附金	6, 825, 126
建物	1, 992, 003, 170	資産見返物品受贈額	20, 043, 036
建物附属設備	881, 214, 364	建設仮勘定見返運営費交付金等	(
建物減価償却累計額	-432, 670, 190	建設仮勘定見返運営費交付金	(
構築物	364, 635, 734	建設仮勘定見返授業料	(
構築物減価償却累計額	-117, 063, 548	建設仮勘定見返施設費	(
機械装置	0	建設仮勘定見返補助金等	(

貸借対照表 (5/9)

 事業年度:
 17年度

 支部:
 42_蛇間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 ブッジ*ェクト:
 総括

 セグ*ルト:
 総括

貸 借 対 照 表 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位:円)

資産の	部	負債及び資本	の部
科目	金額	科目	金 額
機械装置減価償却累計額	0	建設仮勘定見返寄付金	
角 台角白	2, 333, 364	特許権仮勘定見返運営費交付金等	
船舶減価償却累計額	-1,661,484	長期預り金補助金等	
車両運搬具	4, 973, 843	長期預り金寄附金	280, 00
車両運搬具減価償却累計額	-2, 282, 524	長期前受受託研究費等	
工具器具備品	99, 304, 500	長期前受受託事業費等	
工具器具備品減価償却累計額	-54, 940, 030	長期借入金	
土地	1, 126, 100, 000	長期未払金	
建設仮勘定	0	引当金	
その他の有形固定資産	0	退職給付引当金	
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	追加退職給付引当金	
無形固定資産	264, 000	その他の引当金	
特許権	0	その他の固定負債	
借地權	0	[資本の部]	3, 793, 447, 58
実用新案権	0	資本金	3, 453, 182, 31
意匠権	0	政府出資金	3, 453, 182, 31
ソフトウェア	0	その他出資金	
電話加入権	264, 000	資本剰余金	340, 265, 27
その他の無形固定資産	0	資本剰余金	908, 909, 31
著作権	0	資本剩余金施設費	295, 216, 31
特許権仮勘定	0	資本剰余金運営費交付金	
投資その他の資産	0	資本剰余金授業料	
投資有価証券	0	資本剩余金補助金等	613, 429, 00
長期貸付金	0	資本剩余金寄附金	
長期前払費用	0	資本剰余金目的積立金	
未収財源措置予定額	0	資本剩余金譲与	264,00

3 / 6

 事業年度:
 17年度

 支部:
 42.発問電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 プップ・タト:
 総括

 セガ・ルト:
 総括

貸 借 対 照 表 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
敷金・保証金	0	その他の資本剰余金	
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順	0	損益外減価償却累計額	-566, 738, 24
その他の投資その他の資産	0	損益外固定資産除売却差額	-1, 905, 80
[本支店勘定]	-449, 892	利益剰余金	
[本支店]函館工業高専	0	前中期目標期間繰越積立金	
[本支店]苫小牧工業高専	0	目的積立金	
[本支店]釧路工業高専	0	教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	
[本支店]旭川工業高専	0	目的積立金	
[本支店]八戸工業高専	0	目的積立金	
[本支店]一関工業高専	0	積立金	
[本支店]宮城工業高専	0	当期未処分利益	
[本支店]仙台電波工業高専	0	繰越欠損金	
[本支店]秋田工業高専	0	当期未処理損失	
[本支店]鶴岡工業高専	0	その他の有価証券評価差額金	
[本支店]福島工業高専	0		
[本支店]茨城工業高専	0		
[本支店]小山工業高専	0	(4)	
[本支店]群馬工業高専	0		
[本支店]木更津工業高専	0		
[本支店]東京工業高専	0		
[本支店]長岡工業高専	0		
[本支店]富山工業高専	0		
[本支店]富山商船高専	0		
[本支店]石川工業高専	0		4
[本支店]福井工業高専	0		
[本支店]長野工業高専	0		

貸借対照表 (6/9)

貸 借 対 照 表 平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

 事業年度:
 17年度

 支部:
 42. 詫間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 プロジェクト:
 総括

 おびがたた:
 総括

(単位:円)

資	産	の	部	KING SEX	負	債	及	び	資	本	の	部	
科	目		金	額		科		目		The state of	金		額
[本支店]岐阜工業高専				0									
[本支店]沼津工業高専				0									
[本支店]豊田工業高専				0									
[本支店]鳥羽商船高専				0									
[本支店]鈴鹿工業高専				0									
[本支店]舞鶴工業高専				0									
[本支店]明石工業高専				0									
[本支店]奈良工業高専				0									
[本支店]和歌山工業高専				0									
[本支店]米子工業高専				0									
[本支店]松江工業高専				0									
[本支店]津山工業高専				0									
[本支店]広島商船高専				0									
[本支店]呉工業高専				0									
[本支店]徳山工業高専				0									
[本支店]宇部工業高専				0									
[本支店]大島商船高専				0									
[本支店]阿南工業高専				0									
[本支店]高松工業高専				0									
[本支店]詫間電波工業高専				0									
[本支店]新居浜工業高専				0									
[本支店]弓削商船高専				0									
[本支店]高知工業高専				0									
[本支店]久留米工業高専				0									
[本支店]有明工業高専				0									
[本支店]北九州工業高専				0									

5 / 6

| 安米干皮: 17年度 | 支部: 42 院間電波工業高等専門学校 | 会計区分: 国立高専機構 | 部署: 総括 | プロジェクト: 総括 | 対・おト: 総括

貸借対照表

平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日

(単位:円)

資	産	の	部		負	债	及	び	資	本	の	部	3
科	目		金	額		科		目			金	客	頁
本支店]佐世保工業高専				0									
本支店]熊本電波工業高専				0									
本支店]八代工業高専				0									
本支店]大分工業高専				0									
本支店]都城工業高専				0									
本支店]鹿児島工業高専				0									
本支店]沖縄工業高専				0									
本支店]機構本部				-449, 892									
					7-1								
合	24			4, 175, 847, 922		合		計				4, 175, 8	35,

6 / 6

貸借対照表 (7/9)

(平成18年度)

貸 借 対 照 表 平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位:円)

資	産	の	部		負	债	及	び	資	本	の	部
科	目		金	額		科		目			金	額
[資産の部]				3, 826, 240, 109	[負債の部]					-		283, 618, 11
流動資産				149, 236, 671	流動負債							171, 304, 46
現金及び預金				148, 488, 897	運営費交付	金債務						
現金				0	授業料債務							(
当座預金		-		: 0	承継剰余金	債務						(
普通預金				148, 488, 897	預り施設費							(
定期預金				0	預り補助金	等						
その他預金				0	預り寄附金							6, 135, 95
有価証券				0	前受受託研	究費等						(
有価証券				0	前受受託	研究費						4
受取手形				0	国又は	地方公共	団体					
受取手形				0	その他							-
未収学生納付金収入				0	前受共同	研究費						
未収学生納付金収入				0	国又は	地方公共	団体					
棚卸資産				0	その他							
未成研究支出金				0	前受受託事	業費等						
未成事業支出金				0	国又は地	方公共団	体					
貯蔵品				0	その他							
未収入金				177, 652	短期借入金							
未収入金				177, 652	1年以内返	済予定長	期借入	金				
前渡金				0	未払金							157, 883, 60
前渡金				0	退職金							63, 356, 16
前払費用				570, 654	リース債	務						
前払費用				570, 654	その他未	払金						94, 527, 43
法定福利費				533, 520	未払消費税	等						
未経過賃借料				0	未払費用							7, 280, 86

1 / 6

 事業年度:
 18年度

 支部:
 42_蛇間電波工業高等専門学校 全計区分:

 監書:
 総括

 プロデント:
 総括

 かかり:
 総括

貸 借 対 照 表

平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
未経過保険料	37, 134	給与	2, 327, 54
未経過支払利息	0	法定福利費	
その他の前払費用	0	賃借料	205, 72
未収収益	0	水道光熱費	1, 893, 663
未収収益	0	未払利息	
短期貸付金	0	その他未払費用	2, 853, 94
短期貸付金	0	前受金	
その他の流動資産	1, 520	預り金	4, 03
仮払金	0	科学研究費	
仮払消費税	0	社会保険料	
旅費仮払	0	源泉所得税等	3, 37
立替金	1,520	職員宿舎貸付料	
その他流動資産	0	その他預り金	66
徽収不能引当金	0	前受収益	
徵収不能引当金	0	前受利息	
貸倒引当金	-2, 052	その他前受収益	
貸倒引当金	-2, 052	引当金	
固定資産	3, 677, 003, 438	賞与引当金	
有形固定資産	3, 676, 888, 578	修繕引当金	
建物	2, 888, 411, 326	損害補償損失引当金	
建物	1, 992, 003, 170	その他の引当金	
建物附属設備	896, 408, 156	その他の流動負債	
建物減価償却累計額	-638, 996, 405	仮受金	
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	
構築物	364, 635, 734	固定負債	112, 313, 65
構築物減価償却累計額	-158, 151, 763	資産見返負債	85, 129, 46

2 / 6

貸借対照表(8/9)

 事業年度:
 18年度

 支部:
 42. 詫間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構
 部署: 総括 ブロジェクト: 総括 セケ・メント: 総括

貸借対照表 平成18年4月1日~平成19年3月31日

(単位:円)

資 産 の	部	負債及び資本	の部
科目	金額	科目	金 額
構築物減損損失累計額	0	資産見返運営費交付金等	69, 869, 765
機械装置	0	資産見返運営費交付金	56, 307, 729
機械装置減価償却累計額	0	資産見返授業料	13, 562, 036
機械装置減損損失累計額	0	資産見返補助金等	3, 426, 021
船舶	2, 333, 364	資産見返寄附金	4, 827, 529
船舶減価償却累計額	-1, 853, 448	資産見返物品受贈額	7, 006, 150
船舶減損損失累計額	0	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
車両運搬具	7, 297, 613	建設仮勘定見返運営費交付金	0
車両運搬具減価償却累計額	-3, 318, 283	建設仮勘定見返授業料	0
車両運搬具減損損失累計額	0	建設仮勘定見返施設費	0
工具器具備品	167, 591, 459	建設仮勘定見返補助金等	0
工具器具備品減価償却累計額	-77, 161, 019	建設仮勘定見返寄付金	0
工具器具備品減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返運営費交付金等	0
土地	1, 126, 100, 000	特許権仮勘定見返補助金等	0
建設仮勘定	0	長期預り金補助金等	0
その他の有形固定資産	0	長期預り金寄附金	500, 000
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	長期前受受託研究費等	0
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	長期前受受託研究費	0
無形固定資産	72,000	国又は地方公共団体	0
特許権	0	その他	0
借地権	0	長期前受共同研究費	0
商標権	0	国又は地方公共団体	0
実用新案権	0	その他	0
意匠権	0	長期前受受託事業費等	0
ソフトウェア	0	国又は地方公共団体	0
電話加入権	72,000	その他	0

3 / 6

貸借対照表 平成18年4月1日~平成19年3月31日

 事業年度:
 18年度

 支部:
 42. 院間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構

 部署:
 総括

 プロジェ外:
 総括

 対プルト:
 総括

(単位:円)

資産の	部	負債及び資本	の部
科目	金 額	科目	金 額
その他の無形固定資産	0	長期借入金	0
著作権	0	長期未払金	26, 684, 185
特許權仮勘定	0	引当金	0
投資その他の資産	42,860	退職給付引当金	0
投資有価証券	0	追加退職給付引当金	0
長期貸付金	0	その他の引当金	0
長期前払費用	15, 340	その他の固定負債	0
未収財源措置予定額	0	[資本の部]	3, 541, 652, 166
敷金・保証金	0	資本金	3, 453, 182, 313
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに順	0	政府出資金	3, 453, 182, 313
その他の投資その他の資産	27, 520	その他出資金	0
[本支店勘定]	-462, 209	資本剰余金	88, 469, 853
[本支店]函館工業高専	. 0	資本剰余金	908, 909, 319
[本支店]苫小牧工業高専	0	資本剩余金施設費	295, 216, 319
[本支店]釧路工業高専	0	資本剰余金運営費交付金	0
[本支店]旭川工業高専	0	資本剰余金授業料	0
[本支店]八戸工業高専	0	資本剩余金補助金等	613, 429, 000
[本支店]一関工業高専	0	資本剰余金寄附金	0
[本支店]宮城工業高専	. 0	資本剩余金目的積立金	0
[本支店]仙台電波工業高専	0	資本剰余金譲与	264, 000
[本支店]秋田工業高専	0	その他の資本剰余金	0
[本支店]鶴岡工業高専	0	損益外減価償却累計額	-817, 512, 453
[本支店]福島工業高専	0	損益外減損損失累計額	-192,000
[本支店]茨城工業高専	0	損益外固定資産除売却差額	-2, 735, 013
[本支店]小山工業高専	0	利益剰余金	0
[本支店]群馬工業高専	0	前中期目標期間繰越積立金	0

4 / 6

貸借対照表 (9/9)

 事業年度:
 18年度

 支部:
 42_詫間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構
 部署: 総括 プロジzクト: 総括 セク゚メント: 総括

貸 借 対 照 表 ^{平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日}

(単位:円)

資産	部	負債及び資本	の部
科目	金額	科目	金 額
[本支店]木更津工業高専	0	目的積立金	
[本支店]東京工業高専	0	教育研究・福利厚生・地域貢献充実積立金	
[本支店]長岡工業高専	0	目的積立金	
[本支店]富山工業高専	0	目的積立金	
[本支店]富山商船高専	0	積立金	
[本支店]石川工業高専	0	当期未処分利益	
[本支店]福井工業高専	0	繰越欠損金	
[本支店]長野工業高専	0	当期未処理損失	
[本支店]岐阜工業高専	0	その他の有価証券評価差額金	
[本支店]沼津工業高専	0		
[本支店]豊田工業高専	0		
[本支店]鳥羽商船高專	0		
[本支店]鈴鹿工業高専	0		
[本支店]舞鶴工業高専	0		
[本支店]明石工業高専	0		
[本支店]奈良工業高専	0		
[本支店]和歌山工業高専	0		
[本支店]米子工業高専	0		
[本支店]松江工業高専	0		
[本支店]津山工業高専	0		
[本支店]広島商船高専	0		
[本支店]呉工業高専	0		
[本支店]徳山工業高専	0		
[本支店]宇部工業高専	0		
[本支店]大島商船高専	0		
[本支店]阿南工業高専	0		

 事業年度:
 18年度

 支部:
 42.終間電波工業高等専門学校

 会計区分:
 国立高専機構
 部署: 総括 ブロジェクト: 総括 セケーメント: 総括

貸 借 対 照 表 平成18年 4月 1日 ~ 平成19年 3月31日

(単位:円)

資 産	の部	負	債	及	び	資	本	の	部
科目	金額		科		目			金	額
[本支店]高松工業高専	0								
[本支店]詫間電波工業高専	. 0								
[本支店]新居浜工業高専	0	1							
[本支店]弓削商船高專	0								
[本支店]高知工業高専	0								
[本支店]久留米工業高専	0								
[本支店]有明工業高専	0								
[本支店]北九州工業高専	0								
[本支店]佐世保工業高専	0								
[本支店]熊本電波工業高専	0								
[本支店]八代工業高専	0								
[本支店]大分工業高専	0								
[本支店]都城工業高専	. 0								
[本支店]鹿児島工業高専	0								
[本支店]沖縄工業高専	0								
[本支店]機構本部	-462, 209								
					-				
					E				
合 計	3, 825, 777, 900	台	1		81				3, 825, 270

6 / 6

(出典 総務課財務係)

学校施設等資産は、高等専門学校設置基準を満たしており、本校の目的に沿った教育活動等を安定して遂行できる資産を有している。また、債務については、借入金はなく、固定負債は、法律上の負債ではなく会計上の負債として計上したものであり、流動負債についても十分な支払い能力を有している。

観点10-1-②: 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

本校の経常的収入については、高専機構から交付される運営費交付金及び施設整備費補助金の外、 自己収入として授業料、入学料、入学検定料、講習料、財産貸付料等がある。また、外部資金として、 共同研究料、受託研究料、寄附金、補助金等の収入がある。

本校における過去 5 年間の収入については、収入の確保等状況のとおり、授業料、入学料、入学検定料収入は安定している(資料10-1-2-1)。外部資金についても、増加傾向にある(資料10-1-2-2)。

資料10-1-2-1

収入金の確保等状況

収入金の確保等状況

科 目	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	計
授業料	169,284,000	175,110,000	158,529,600	193,017,150	191,199,000	887,139,750
入学料	14,551,200	14,720,400	17,850,600	16,497,000	15,735,600	79,354,800
検定料	4,422,000	3,877,500	4,207,500	4,174,500	3,877,500	20,559,000
講習料	313,200	106,200	188,400	309,800	430,200	1,347,800
産学連携等研究収入	1,500,000	312,000	4,122,000	5,728,000	2,910,600	14,572,600
学校財貸付料	820,791	751,931	728,395	706,365	740,960	3,748,442
職員宿舎使用料	2,736,050	2,744,163	3,041,553	2,894,559	2,644,452	14,060,777
寄宿料	1,573,900	1,540,900	1,587,000	1,663,300	1,621,300	7,986,400
寄附金収入	6,850,000	5,962,637	6,570,150	8,750,000	8,050,000	36,182,787
補助金収入	0	0			17,486,000	17,486,000
雑入	0	0	355,194	123,260		478,454
学校財産処分収入	0	4,320,000	0	0	0	4,320,000
計	202,051,141	209,445,731	197,180,392	233,863,934	244,695,612	1,087,236,810

(出典 総務課財務係)

資料10-1-2-2

外部資金受入れ状況

単位(円)

		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
受託研究	件数	1	1	1	1	2
文乱训九	金額	1,500,000	312,000	3,822,000	728,000	1,073,000
共同研究	件数	0	0	1	7	4
共间训九	金額	0	0	300,000	5,000,000	1,837,000
寄附金	件数	9	7	5	10	9
台 門 並	金額	6,850,000	5,962,637	6,570,000	8,750,000	8,050,000
補助金	件数	0	0	0	0	2
州功立	金額	0	0	0	0	17,486,000
利耳弗	件数	4	5	6	6	6
科研費	金額	3,910,000	5,900,000	4,070,000	4,600,000	3,620,000
科研費分担金(他校)	件数	1	2	2	4	2
行则复力担重(他伙)	金額	600,000	1,150,000	250,000	1,000,000	400,000

(出典 総務課財務係)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、毎年学生定員は充足しており、収入金の確保等の状況のとおり安定して経常収入は確保できている。また、外部資金は、年度により多少の変動はあるが、増加傾向にある。

以上のことから、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保できている。

観点10-2-①: 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

収入・支出予算に関しては、中期計画に基づいた予算が機構本部から配分され、それに基づき、以下のとおり本校の予算配分方針を策定している。

- 1.分かり易く,透明な経理とする。
- 2.「学生中心主義」をモットーに予算執行に当たる。
- 3.「選択と集中」を考慮する。

この基本方針に基づき予算配分案を作成し、企画運営委員会において審議の上決定している(訪問調査時に資料提示)。

予算執行に当たっては、各部署からの要望を踏まえ、総合的に審議を行っている。また、決定された予算は、学内予算配分書により関係者に周知され、各部署において配分された予算について、財務係へ執行計画を提出している(訪問調査時に資料提示)。

年度予算の収支に関わる計画及び配分に対する審議体制が整っており、関係者への周知も行われている。

観点10-2-2: 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

本校の支出は,運営費交付金・施設整備費補助金及び自己収入等の範囲内に限られ,損益計算書のとおり,当期純利益は平成16年度183,950円,平成17年度12,317円,平成18年度507,622円で支出超過は全くない(資料10-2-②-1)。

資料10-2-2-1

損益計算書(抜粋)

事業年度: 16年度 支部: 42_詫間電波工業高等専	損益計算書	
会計区分: 国立高専機構	平成16年 4月 1日 ~ 平成17年 3月31日	
部 署: 総括		
プロジェクト: 総括		
セケ・メント:		
		(単位:円)
[臨時利益] 合計		0
[当期純利益(純損失)]		183, 950
[目的積立金取崩額]		0
[当期総利益 (総損失)]		183, 950

事業年度: 17年度	損益	計算書		5 1 1
支部: 42_詫間電波工業高等専	1月 1二			
会計区分: 国立高専機構	平成17年 4月 1日	~ 平成18年 3月31日		
部 署: 総括	2	3 44 5		11.20
プロジェクト: 総括			597	
セク・メント:				37
				2 2 2
				(単位:円)
[臨時利益]その他引当金戻入			\$ XX	0
				0
[臨時利益]その他の臨時利益・				· ·
[臨時利益] 合計				. 0
		0.00		12, 317
[当期純利益(純損失)]		500		
[目的積立金取崩額]			1.5	0
[当期総利益(総損失)]			3	12, 317

事業年度: 18年度 支部: 42 詫間電波工業高等専	損 益	計	算	書			
会計区分: 国立高専機構	平成18年 4月 11	~	平成1	9年 3月31日			
部 署: 総括 アロジェクト: 総括							
セク・メント:							
[臨時利益]貸倒引当金戻入						(単位:円)	0
[臨時利益]徵収不能引当金戻入							0
[臨時利益]退職給付引当金戻入							0
「臨時利益」資産見返負債戻入							
資産見返運営費交付金等戻入					0		
資産見返補助金等戻入					0		
資産見返寄附金戻入					0		
資産見返物品受贈額戻入					0		0
[臨時利益]その他引当金戻入							0
[臨時利益]その他の臨時利益							0
[臨時利益] 合計						2	0
[当期純利益(純損失)]						507, 62	22
[目的積立金取崩額]							0
[当期総利益 (総損失)]						507, 62	22

(出典 総務課財務係)

以上のことにより、収支の状況において、過大な支出超過となっていない。

観点10-2-③: 学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む) に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

本校の学内予算配分事項は、教員教育研究経費、校長裁量経費、特別教育経費、学生支援経費、校内共通経費、予備費である。「教員教育研究経費」は学科等を維持していくための必要経費、「校長裁量経費」は教育研究にインセンティブを与える経費、「特別教育経費」は附属施設等を管理運営するために必要な経費、「学生支援経費」は学生の支援を行うために必要な経費、「校内共通経費」は管理運営を行うための必要な経費、「予備費」は新規事業及び不測の事態に対応するための経費である。「教員教育研究経費」の内訳は、平成19年5月1日現在の各学科等所属教員数及び学生数を基に配分している。「校長裁量経費」の内訳は、教育研究活性化経費、教育研究設備充実経費及び教育研究環境充実経費として配分している(訪問調査時に資料提示)。

「教育研究活性化経費」はプロジェクト研究費及び教育研究改善経費等として、教員及び各学科等からの申請書の提出により特別経費審査会において審査を行い、配分を決定している(資料 9-2-1-4、資料10-2-3-1)。また、翌年度には目的の達成状況等、研究活動に対して報告書の提出を義務づけている。「特別教育経費」は、各附属施設等の要求を基に、前年度の実績を考慮のうえ配分している(訪問調査時に資料提示)。

資料10-2-3-1

詫間電波工業高等専門学校特別経費審査会内規

(設置)

第1条 詫間電波工業高等専門学校に、特別経費の採択を的確に行うため、詫間電波工業高等専門学校特別経費審査会(以下「審査会」という。)を設置する。

(構成)

- 第2条 審査会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 副校長
 - 二 専攻科長
 - 三 各学科長及び一般教科長
 - 四 事務部長
 - 五 委員長が指名した者 若干名

(審査事項)

- 第3条 審査会は、次に掲げる特別経費の申請内容について、別に定める審査要項に基づき審査 し、採択を行う。
 - 一 校長裁量経費(教育研究活性化経費)
 - 二 その他審査を必要とする特別経費

(委員長)

- 第4条 審査会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
- 2 委員長は、審査会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(報告)

第5条 審査会は、審査の結果を校長に報告する。

(事務)

第6条 審査会の事務は、総務課財務係において処理する。

附則

この内規は、平成17年6月16日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

教育研究活動に対する資源配分は、教育経費、研究経費とも、教員数及び学生数を基に、前年度実績を考慮のうえ、企画運営委員会で審議された適切なものである。「校長裁量経費」については、学内配分に係る基本方針にある「選択と集中」に基づき、特別経費の採択を的確に行うため、特別経費審査会を設置するなど適切なものである。

観点10-3-①: 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

全国55高専を統括する独立行政法人国立高等専門学校機構は、独立行政法人通則法第38条第4項の 適用をうけ、機構全体として財務諸表を官報に公表している。

(分析結果とその根拠理由)

機構本部により, 適切に公表がなされている。

観点10-3-②: 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人通則法第39条により、会計監査人による監査が規定されているとともに、高専機構会計規則第45条の規定に基づき、本校においても内部監査実施規程を制定し実施している(資料10-3-2-1, 2)。

また、平成16年度に監査法人による期首監査及び期中監査を受検、平成17年度においては、四国地区高専間での相互監査を弓削商船高専と2月に実施し、平成18年度には高知高専と12月に実施した(資料10-3-②-3)。

詫間電波工業高等専門学校内部会計監査実施規程

詫間電波工業高等専門学校内部会計監査実施規程

(趣旨)

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構内部監査規則(平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第62号)の規定により実施する詫間電波工業高等専門学校内部会計監査(以下「内部監査」という。)は、この規程の定めるところによる。

第2条 内部監査は、会計経理について事務の適正を期し、もって会計事務執行上の 改善向上を図ることを目的とする。

(内部監査の実施責任者)

第3条 内部監査の実施責任者は、事務部長とする。

(監査員)

第4条 内部監査に従事する職員(以下「監査員」という。)は、総務課所属職員のうちから校長が命ずる。ただし、必要があると認められるときは、総務課以外の事務部所属職員に監査員を命ずることができる。

第5条 内部監査は、毎会計年度1回行うものとする。ただし、会計職員の交替並び にその他必要があると認めるときは、臨時に行うことができる。

第6条 内部監査を行う場合は、監査の日時、監査員の氏名等をあらかじめ通知する ものとする。

(監査の事項)

- (監査の事項) 第7条 監査員は、次の各号に掲げる事項について、監査を行うものとする。 (1) 会計経理に関する法令等の適用に関する事項 (2) 予算決算に関する事項 (3) 収入支出に関する事項 (4) 債権に関する事項 (5) 物品に関する事項 (6) 不動に関する事項

 - (7)
 - (8)
 - (9)
 - 不動産に関する事項 契務に関する事項 務付金に関する事項 寄付研究費補助金に関する事項 科学研究証拠書類に関する事項 (10)
- (11)
- (12) その他校長が必要と認める事項

(監査の要領)

- 第8条 校長は、内部監査のつど実施細目を定め、これにより監査を実施させるもの とする。
- 監査員は、備付の帳簿及び書類につき監査し、必要があるときは、担当職員に説 明を求め、調書を提出させることができる。

(監査の立会)

第9条 内部監査の際は、関係職員がこれに立ち会うものとする。

(監査の報告)

第10条 監査員は、内部監査したときは、別紙様式1により報告書を校長に提出しなければならない。

(是正改善の措置)

第11条 校長は、内部監査の結果、会計経理に関し是正改善の措置をとる必要がある と認めたときは、直ちにその措置をとるものとし、措置した結果について報告を求 めるものとする。

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

内部会計監査結果報告書(1/2)

別紙様式1

内部会計監查結果報告書

平成18年7月27日

詫間電波工業高等専門学校長 殿

監查員 総務課課長補佐(総務担当) 奈良 薫



監査員 総務課課長補佐(財務担当) 河村 義幸

監査実施年月日	平成18年 7月26日 ~ 平成18年 7月27日
監査対象期間	平成17年 4月 1日 ~ 平成18年 3月31日
立会者	財務係長 大場 眞二郎 契約係長 馬渕 正信
	報告
監査事項及び 監査実施細目	報 告 事 項
血且关ル和日	適・否 記 事
別紙 (内部監査チェックリスト) の とおり	

内部監査結果報告書(2/2)

内部監査チェックリスト

監査員 奈良 薫・ 河村義幸

監査事項	監査項目	適用規定等	適 用 条 項	監査結果	備考(立会者,指示事項等)
①予算決算に関する事 項	予算実施計画の作 成の有無	[会計規則]	第17条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理上なければならない。 2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。	適	
		[会計事務取 扱規則]	第10条 理事長は,会計規則第17条第1項の規定に基づく予算実施計画を作成したときは,収支計画及び資金計画を併せて作成するものとする。		
	予算実施計画に基 づく契約担当役及 び出納命令役への 通知		第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。	適	
	予算の執行	[会計規則]	第19条 機構は、年度計画に基づいて、効率的、効果的かつ適正な予算の 執行を図るものとする。 2 契約担当役は、予算差引を把握するものとする。	適	
	予算の配分		学内への予算配分について、正確に配分されているか。また、財務会計システムに正確に登録されているか。	適	
	月次決算	扱規則]	第43条 出納命令役は、毎月月末において総勘定元帳を締め切り、月次の財政状況を明らかにするため、合計残高試算表を作成し、翌月15日までに理事長に提出しなければならない。 第17条 出納命令役は、会計規則第43条の規定による合計残高試算表を提出する場合は、予算執行集計表を添付しなければならない。 2 出納命令役は、月次決算にあたり、次の各号の事項を実行しなければならない。 2 出納命令役は、月次決算にあたり、次の各号の事項を実行しなければならない。 一 預金残高、借入金残高について、通帳等の残高と預金出納帳等の残高との場合を行う。 二 固定資産について、資産管理システムと財務会計システムのデータの配合を行い、取得、売却、廃棄及び異動等の処理が適切になされていることの検証を行う。 三 連営費交付金債務及び授業科債務については、収益化の基準により処理を行う。	適	
	年度末決算	[会計規則] [会計事務取 扱規則]	第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産評の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定に手続きに従って決算数値を確定しなけらばならない。2 理事長は、前項の整理を行ったと後、翌事業年度5月末日までに次に掲げる事類を作成しなけらばならない。 一、賃借対照表 二、損益計算書 三、キャッシュワー計算書 四、利益の処分又は損失の処理に関する書類 五、行政サービス実施コスト計算書 六条18条 出納命令役は、毎事業年度末における資産、負債及び資本並びに収益及び費用について、次の各号に掲げるところにより年度末決算を行わなければならない。 一 預金残高及び借入金残高について、金融機関等から残高証明書を取り寄せ、残高を確かめ、預金出納帳等と照合する。差異があるときは、銀行等勘定調整表を作成し、必要に応じて修正する。	適	

監査事項	監査項目	適用規定等	適 用 条 項	監査結果	備考(立会者,指示事項等)
			三 債却を要すべき固定資産については、定額法を採用するものとし、毎 事業年度において途価債却資産の耐用年数等に関する省令別表を考慮の うえ減価債却を行うものとする。 四 経過勘定項目について、必要に応じた計算を行い、振替伝票により決 裁を受けるものとする。 五 運営費交付金債務及び授業料債務については、収益化の基準により 処理を行う。	適	
			六 その他決算整理に関する修正処理について、振替伝票により決裁を受けるものとする。		
②収入・支出に関する 事項	預金口座の名義	[会計規則]	第20条 取引金融機関等(郵便局を含む。以下同じ。)は、理事長が指定するものとする。 2 取引金融機関等に預金口座又は貯金口座を設ける場合は、出納命令役 名義により行うものとする。	適	
	収入金の調査決定	[会計規則]	第21条 出納命令役は、収入金を収納しようとするときは、収入の内容を調査決定するとともに、債務者に対して納付すべき金額、期限及び場所を明らかにし、納入の請求をしなければならない。ただし、業務上直もに収入金の収納を必要とするときは、収入金の収納後においてその内容を調査決定するとができる。 2 出納命令役は、前項の規定に基づき債務者に対して納入の請求をしたときは、出納役に対して収納命令を発しなければならない。 3 出納役は、前項の規定による収納命令に基づき収納金を収納するものする。ただし、業務上直ちに収入金の収納を必要とするときは、収納命令前に収納することができる。	適	出納役交替(H17年10月)による引継書なし(機構会計事務 取扱規則第3条)
	収納方法	[会計規則]	第22条 出納役は、現金、金融機関における口座振春又は口座振込のほか、次の各号に掲げる小切手又は証書をもって収入金を収納することができる。 - 小切手(理事長が指定するものに限る) - 新便為替証書 - 郵便振替の支払証書 2 出納役は、収入金を収納したときは、領収証書を交付するものとする。この場合、出納役は遅落なくその旨を出納命令役に報告しなければならない。	適	,
	収入金の収納即支払いへの充当の有	[会計規則]	第23条 出納役は、収入金を収納したときは、原則として支払いに充てること なく、取引金融機関等に預け入れなければならない。	適	
	預金・預金通帳等 の保管状況	[出納事務取 扱規則]	第4条 田納役は、現金、預金通帳、貯金通帳、信託証書、預かり証書その 他これらに準ずる証書及び取引金融機関等に登録した印鑑を、厳重に保管 しなければならない。	適	
		[出納事務取 扱規則]	第6条 出納命令役は、債務者に対して納付させる金額を請求をするときは、 原則として、請求書により行うものとする。 2 出納役は、収入金を収納したときは、受入先及び内容を確認のうえ、領収 証書を納入者に交付するものとする。ただし、金融機関における口座振管及 び口座振込による収納をしたときは、領収証書の発行を省略することができ る。 3 収入金の納入期限は、請求書発行の日の翌日から起算して20日以内の 日とする。 4 収入金の収納場所は、原則として取引金融機関等とする。	適	æ

(出典 総務課財務係)

四国6高専相互監査事項一覧

四国6高専相互監査事項一覧

宿舍規則	宿舎選考基準の有無	[☑ 有	□ 無	口その他() 1	11条	委任事項
	宿舎貸与の申請及び承認手続き状況	【回適	ㅁ 종	口その他() 1	14条	委任事項
	明波猶予宿舎の有無及び措置状況	【回適	□ 종	口その他()]	19条・20条	委任事項
	•宿舎現況記録の備付の有無及びその状況	【図適	□ 중	□その他() 1	23条	委任事項
会計規則	総勘定元帳等の整理状況	【回適	口否	口その他() 1	13条·会計事務取扱規則第8条	
	総勘定元帳及び補助簿における関係勘定科目の残高との照合	【図適	ㅁ 좀	口その他() 1	14条	
	予算実施計画の作成の有無	[回適	ㅁ종	□その他() 1	17条・会計事務取扱規則第10条	委任事項
	・予算実施計画に基づく契約担当役及び出納命令役への通知	[図 適	口否	口その他()]	18条	委任事項
	預金口座又は貯金口座の名義(出納命令役)	[回適	ㅁ 좀	口その他() 1	19条	
	・収入金の収納即支払いへの充当の有無	[口有	図 無	□その他()]	23条	
	・収納金の払い込みに対する督促状況	[回適	口否	口その他() 1	24条·出納事務取扱規則第8条	
	・不良債権の処理状況	[口適	口否	口その他() 1	25条·出納事務取扱規則第9条	
	・支払金の領収証書及びその他の証拠書類の徴収・整理状況	[日適	□ 종	口その他()]	27条·会計事務取扱規則第7条	
	前金払いの適否(前払い可能な経費等)	[回適	口否	口その他()1	28条·会計事務取扱規則第15条	
	・仮払いの適否(仮払い可能な経費等)	[図適	口否	口その他()]	29条·会計事務取扱規則第16条	
	固定資産の管理状況	【回適	口否	口その他() 1	31条	
	・契約方法の適否(一般競争・指名競争・随意契約)	[図 有	口無	口その他() 1	32条~34条·契約取扱規則6条~149	<u>&</u>
	・予定価格の適切な算定	【回適	口 否	口その他() 1	36条·契約事務取扱規則16条~17条	
会計事務取扱規則	・事務の引継ぎの状況	【回適	口否	口その他()]	3条	
	・科目等の訂正の状況	[四頭	口否	口その他() 1	14条	

出納事務取扱規則	・口座開設・廃止の手続き状況	【回通	ㅁ 증	口その他()]	3条	委任事項
	・現金, 預金通帳等の保管状況	【回適	口否	□その他()]	4条	
	・収入金の請求、領収、収納場所の状況	[図 適	口否	口その他(0.1	6条	
	・小切手の取扱状況	【口有	区無	口その他(0.1	12条	
	・証拠書類の編纂、保管状況(日付順・番号順)	【日適	ㅁ 종	口その他()]	16条	
不動産管理規則	・不動産の登記又は登録の状況	【図適	ㅁ 종	口その他() 1	13条	
	・不用の決定の状況	[四海	ㅁ 좀	口その他() 1	15条	委任事項
	・不動産の貸付手続き状況(貸付目的・使用料算定等)	[[37 38]	ㅁ 종	口その他(0.1	20条	委任事項
	・無償貸付の状況	[四/適	ㅁ 종	口その他() 1	21条	
	- 不動産の検査の状況	[四/適	ㅁ죵	口その他(0.1	25条	
	・固定資産台帳の整理状況	[图 有	口無	口その他(0.1	26条	
物品管理規則	有償貸付の状況	(日)適	ㅁ종	口その他() 1	26条	
	・無償貸付の状況	[团 適	口否	口その他() 1	27条	
	・不用の決定の状況	[回道	ㅁ죵	口その他()]	28条~30条	委任事項
	・資産管理台長・物品管理台帳・図書管理台帳等の整理状況	【図有	口無	口その他() 1	32条	
	検査の状況	【四道	□ 중	口その他()]	35条	委任事項
契約事務取扱規則	見積書の徴取の状況	[口適	ㅁ 좀	口その他()]	18条	
	入札の公告の状況	[回適	ㅁ 좀	口その他()]	19条	
	・検査調書の作成の状況	【回有	口無	口その他()]	45条	
	代価の支払の約定の状況	[図 適	ㅁ죵	口その他(.)1	54%	

大型設備の調達に	仕様策定委員会の設置の状況	[日/適	口否	口その他()]	3条
係る仕様策定等に	仕様策定委員会の構成員の状況	[区 有	□ 無	口その他()]	5条
関する取扱規則	・委員の委嘱の状況	[区 適	口否	口その他(0.1	6条
機種選定規則	・委員会の設置の状況	【図適	ㅁ 종	口その他() 1	3条
	・委員会の構成員の状況	【図有	□ 無	口その他()]	4条
金庫管守規則	・1号金庫の保管中の書類等の状況	[図 適	口否	口その他()]	4条
	・1号金庫の鍵の保管の状況	[12/30	口否	□その他(0.1	5条
	・手提金庫の鍵の保管の状況	[図 有	口無	□その他()]	6条
	- 金庫閉鎖点検確認簿の状況	[四/適	口香	口その他() 1	8条

平成18年12月19日

標記のことについて、別紙のとおり監査した結果、適正に執行されていたことを報告いたします。

高知工業高等専門学校会計課 出納係長 岡林

高知工業高等専門学校会計課 総務保主任 山本 栄

(出典 総務課財務係)

平成16年度に、監査法人による期首監査及び期中監査の受検、また、四国地区6高専による相互監査も行われており、財務に対して、会計監査等が適正に行われている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

予算配分において、まず、3つの基本方針を策定し予算配分を行っていること、また、教育研究に インセンティブを与える経費として「校長裁量経費」を整備し、競争的な環境を醸成することで教育 研究の活性化を図っている。

(改善を要する点)

今後,運営費交付金の減額及び中期計画における効率化に対応するため,外部資金の確保が重要になってくる。競争的研究資金の獲得,受託研究,共同研究及び寄附金の受入の増加及び科学研究費補助金の採択率を上げること等を検討する必要がある。

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために,必要な土地・ 校舎・設備等の資産を有している。債務に関しては,借入金はない。

収入については、授業料・入学検定料・入学料等の自己収入及び運営費交付金も安定した動きを示している。受託研究・共同研究・寄附金等の外部資金も増加傾向となっている。

予算配分に関しては、企画運営委員会において策定された配分方針により、関係部署に適切に配分されている。また、限られた予算を効果的、競争的に配分するため、校長のリーダーシップの下で、申請により「校長裁量経費」として、教育研究費を重点配分している。

支出については、計画的に適正な経理がなされている。

また、財務諸表については、機構本部で取りまとめの上、公表及び監査報告されており、本校に おいても、会計事務処理の内部監査を実施している。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①: 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点に係る状況)

校長の役割は、学校教育法第70条の7に、各主事の役割は、学校教育法施行規則第72条の3及び本校学則第9条に明確に定められている(資料 11-1-1-1)。委員会の役割は、各委員会規程の(目的)にそれぞれ明確に定められている(資料 11-1-1-1)。

本校内部組織規程に、事務組織を除く内部組織について重要な事項が定められ(資料 11-1-① -3),校長のリーダーシップの下、学校の教育等の諸活動が効果的に行われる組織体制になっている(資料 11-1-①-4)。本校では、校長が副校長に教務主事を、校長補佐に学生主事、寮務主事を任命し、副校長が校長を補佐し、校長補佐が学校運営に係る特命事項について校長を補佐することにより、校長がより円滑にリーダーシップをとることができる体制になっている。各主事の下には、副主事、主事補を配置し、機動性ある組織としている。

必要な委員会が設置され、委員には、学科長あるいは各学科から 1 名が構成員となり(資料 11-1-1-5)、審議において各科の意見を十分汲み取り、審議結果を周知しやすいしくみとなっている。ほとんどの各種委員会の委員長は、校長、副校長または主事であり、また、各種委員会での議事内容は、各委員会規程に定められたとおり、毎月 1 回開催される企画運営委員会に報告されるため、校長が学校全体を把握できる体制となっている。校長、副校長及び校長補佐、専攻科長、各学科長及び一般教科長、事務部長で構成される企画運営委員会は本校の最高審議機関であり、学校運営に係る重要事項が審議されている(資料 11-1-1-1-6)。

資料 11-1-1-1

詫間電波工業高等専門学校学則

第9条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するもの を除く。)を掌理する。
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、寄宿舎における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典 平成19年度学生便覧)

委員会規程例

詫間電波工業高等専門学校安全衛生委員会規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員安全衛生管理規則(以下「規則」という。)並びに詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、安全衛生委員会(以下「委員会」という。)について、必要な事項を定めるものとする。 (目的)
- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査審議する。
 - 教職員の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること
 - 二 教職員の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること
 - 三 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること
 - 四 前3号に掲げるもののほか、教職員の健康障害の防止及び健康の保持増進に関する重要事項
 - 五 教職員の危険を防止するための基本となるべき対策に関すること
 - 六 労働災害の原因及び再発防止対策で、安全に係るものに関すること
 - 七 前2号に掲げるもののほか、教職員の危険の防止に関する重要事項
 - 八 安全・環境教育に関すること
 - 九 学生の安全確保に関すること
 - 十 前2号に掲げるもののほか、学生の安全に関する重要事項 (構成)
- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 副校長及び校長補佐
 - 二 専攻科長
 - 三 各学科長及び一般教科長
 - 四 図書館長、情報処理センター長、集積回路実験室長及び地域交流室長
 - 五 事務部長
 - 六 衛生管理者
 - 七 安全管理者
 - 八 総務課長及び学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に,第2条第1号から第4号までに関する専門的事項を審議するために衛生専門 部会を,第2条第5号から第7号までに関する専門的事項を審議するために安全専門部会を置き、その他必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。
- 3 専門部会に関し必要な事項は、別に定める。

(委員以外の者の出席)

- 第6条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を出席させることができる。 (報告)
- 第7条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)
- 第8条 委員会の事務は、学生課の協力を得て総務課財務係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

- この規程は、平成17年4月1日から施行する。 附 則
- この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程(1/2)

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第11条の規定に基づき、事務組織を除く内部組織について必要な事項を定めるものとする。 (副校長)

- 第2条 副校長を置く。
- 2 副校長は、教授の中から校長が任命する。
- 3 副校長は、校長の命を受け、校長を補佐する。 (校長補佐)
- 第3条 校長補佐を置く。
- 2 校長補佐は、教授又は准教授の中から校長が任命する。
- 3 校長補佐は、校長の命を受け、学校運営に係る特命事項について校長を補佐する。 (専攻科長及び副専攻科長)
- 第4条 学則第38条に定める専攻科に専攻科長及び副専攻科長を置く。
- 2 専攻科長は、教授の中から校長が任命する。
- 3 副専攻科長は、教授又は准教授の中から校長が任命する。
- 4 専攻科長は、専攻科の教育・研究及び運営に関し、連絡調整に当たる。
- 5 副攻科長は、専攻科長を補佐する。 (学科等)
- 第5条 学則第7条に定める学科のほか,一般教科を置く。
- 2 学則第8条に定める教授, 准教授, 講師, 助教及び助手(以下「教員」という。) は, 学則 第7条に定める学科及び一般教科(以下「学科等」という。) のいずれかに属するものとする。

(学科長等)

- 第6条 学科に学科長を置き、一般教科に一般教科長(以下「学科長等」という。)を置く。
- 2 学科長等は、当該学科等に所属する教授の中から校長が任命する。
- 3 学科長等は、当該学科等の教育・研究及び運営に関し、連絡調整に当たる。 (副主事)
- 第7条 学則第9条に定める教務主事,学生主事及び寮務主事の下に,それぞれ教務副主事,学生副主事及び寮務副主事(以下「副主事」という。)を置くことができる。
- 2 副主事は、教員の中から校長が任命する。
- 3 副主事は、必要に応じて当該主事の職務を行う。 (主事補)
- 第8条 学則第9条に定める教務主事,学生主事及び寮務主事の下に,それぞれ教務主事補,学生主事補及び寮務主事補(以下「主事補」という。)を置く。
- 2 主事補は、教員の中から校長が任命する。
- 3 主事補は、当該主事の職務を補佐する。 (専攻主任)
- 第9条 学則第40条に定める専攻に専攻主任を置く。
- 2 専攻主任は、教員の中から校長が任命する。
- 3 専攻主任は、当該専攻の運営及び学生の指導に当たる。 (学級担任及び学級副担任)
- 第10条 学則第7条に定める各学級に学級担任及び学級副担任を置く。
- 2 学級担任及び学級副担任は、教員の中から校長が任命する。
- 3 学級担任は、当該学級の運営及び学生の指導に当たる。
- 4 学級副担任は、当該学級担任を補佐する。 (進路指導室)
- 第11条 学生の進路指導を行うため、進路指導室を置く。

詫間電波工業高等専門学校内部組織規程(2/2)

2 進路指導室に関し必要な事項は,別に定める。 (学生相談室)

- 第12条 学生の相談にあたるため、学生相談室を置く。
- 2 学生相談室に関し必要な事項は、別に定める。

(環境マネジメント室)

- 第13条 環境に配慮した取り組みを行うため、環境マネジメント室を置く。
- 2 環境マネジメント室に関し必要な事項は、別に定める。 (任期)
- 第14条 第4条,第6条,第8条及び第9条に定める者の任期は1年,第7条に定める者の任期は2年とし、それぞれ再任を妨げない。

ただし, 欠員が生じた場合の任期は, 前任者の残任期間とする。

(共同利用施設)

- 第15条 図書館,情報処理センター,集積回路実験室及び地域交流室(以下「共同利用施設」 いう。)を置く。
- 2 共同利用施設に関し必要な事項は、別に定める。 (委員会等)
- 第16条 次の委員会等を置く。
 - 一 教員会議
 - 二 企画運営委員会
 - 三 各種委員会
 - 四 学科長会議
- 2 委員会等に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

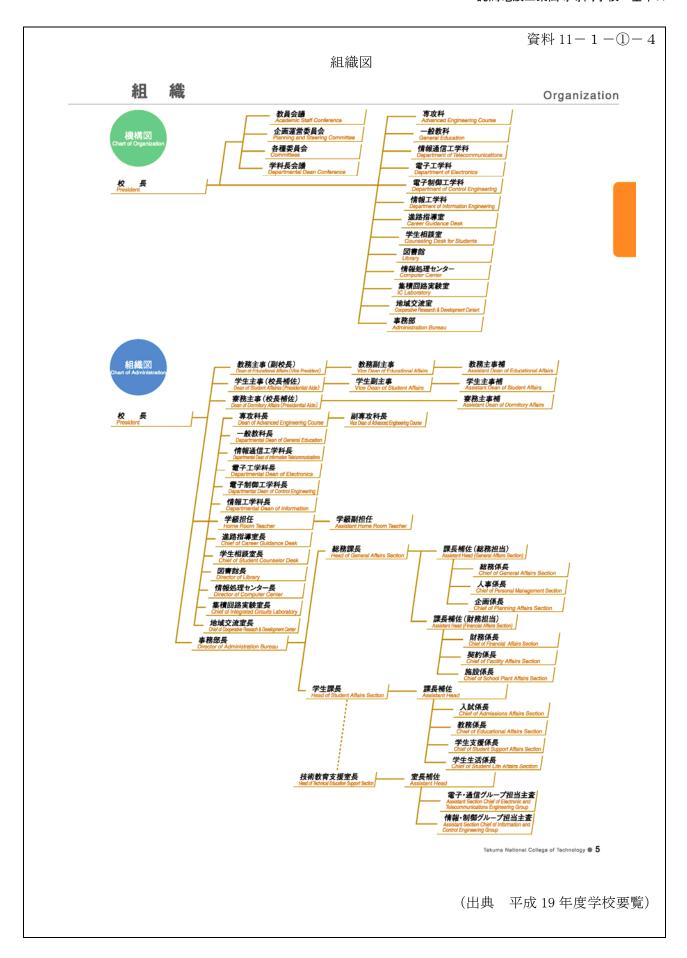
附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)



平成 19 年度校務分担表

各種委員会等

	王 94	. 甘立.	13																															
教		員		会		議	◎ 校		長	専	任 教	員	事	務	部;	Ę		_			_			_			_			_			_	
企	迪	運	営	委	員	会	◎ 校		長	副	校	長	校	長	補1	左専	. IJ	女科	長	— я́	皮教	科長	通信	工生	4科長	電子	工学	科長	制御	II.	学科長	情報	工学	卢科县
						Ī	事	務部	3 長	ļ		1				1				†			†	_		†			†	_		T	_	
点	検	評	価	委	員	会	◎ 校		長	副	校	長	校	長	補	左専	. I	女科	長	一 角	设教 :	科長	通信	工当	4科長	電子	工学	科長	制御	工章	学科長	情報	工学	2科長
						ı	図	書館	7 長	せ	ノター	- 長	集和	1 回	路室	長地	域?	交流	3長	進路	指導	室長	事	務	郭 長	総	務調	1 長	学	生	課 長	!	_	
人		事	委		1	슾	<u>一</u>			_	校	_				_			_	_			-			-			_		部長	-	_	
_	シュ	アル・			`	_			_	-	校					-		多部	_	-	_	112	1077	_	1110	1	_	112	1	_	HP 1	\vdash	_	
学	_	科	長	会			<u></u> ② 校			_	校	_	-				_		-	-	十二学	科長	雷二	- 丁当	经利用	制作	1丁学	科長	情報	3 T 5		車	※ 章	邦 長
	凒	改			<u></u> 員	$\overline{}$	○ 区○ 副			_	長補	$\overline{}$	_			_				-			_			-			_			_	書食	
~-				-				ンター																					÷	_				<u> </u>
17.	報	• 1	事 報	丢	昌	슾				_	長補	_				_			_	-			-			_			-	7 /	光科長	[27] :	主 台	治 長
,,,,	TIX		H TIX	. 24.	,,,			ンター		 		+				+				 			+			 			+					<u> </u>
安	수	衛	生	委	吕	<u></u>		校		-	長補	i				-			_	-			-			-			•	7 6	美利.	[27] ·	聿 6	治 巨
×	+	. 1441	т.	y	只	五.																				÷					一个汉	[의]	R	i K
<u>fran</u>	H.	1 日十	a##	禾	B	\triangle		ンター		_		_				$\overline{}$	_		_	-			-			-			-		*	40	<u></u>	H F
知国	_			委委	員	$\overline{}$	◎ 副◎ 副			_	攻 科	$\overline{}$				_			_	-			_			-			_			-		
国	防	* 文	ŧЛС	安	貝	=				 														- T	一个大	制位	1上字	科技	育報	. Д. 🤄	产科技	争 ?) 方	沙 天
40		₹.fer	æ		,	$\overline{}$		田由耳	_			_				_		引史	_	•			-			.005		~ T	4.122			14.70		7 401 =
教		務	委	員	Į	会		務主			外副 3	E事	教?	撈王	手	油 男	. 1/3	又 朴	長	— A	党 教	科長	迪信	5 I (科長	電子	-工学	科長	制領	II.	学科長	情報	: 工字	5科長
L.,								生調				 				_				<u> </u>			Ļ			ļ			ļ			ļ		
		長 が					南		てこ	井	上忠	照	矢	木	正	和 福	間	· 一	巳	Ξ	河走	 	宮	武り	明 義	畐-	上原任	申弘	徊	田	純	<u> </u>	_	
入	学	試	験	委	員	会.	() i																											
L						_	4		. , .			-			_	+							-					-					=	=
_		: 補		委		$\overline{}$		生主		_		_				-			_	•			•			•			: -			•	生記	果 長
寮		務	委	丿	`	$\overline{}$		務主	_	_		_				-			_	-			•			-			. 			•	_	
専	j	文 1	斗 氢	委	員	会	◎ 専	攻利	長	副耳	事攻禾	斗長	電子	通信	専攻主	任情	級制	御専攻	主任	鳥	越り	多知	森	本	敦 文	福	永 乜	5 也	田	嶋	眞 一	野	中着	青 孝
							教	務主	: 事	学	生 課	長		_	-	┸		_		<u> </u>	_			_		<u> </u>	_			_		辶	_	
進	路	指	導	委	員	会	◎ 進	路指導	室長	教	務主	事	学	生	主:	事一	般	教和	長	通信	工学	科長	電子	工生	4科長	制御	工学	科長	情報	工生	学科長	5学年	丰学 翁	級担任
							学	生課	長		_			_	-	┸		_		L	_			_		L	_			_		L	_	
学	生	相	談室	重 委	員	会	◎ 学:	生相談	室長	細	谷	守	青	海	惠:	さ木	7	マ 敏	治	田	嶋貞	į –	野	中间	青 孝	学	生 諆	長	三口	崎	保子	L	_	
	書		记 要					書館																						Ξ		L		
情	報	処 理	セン:	ターネ	委 員	会	⊚ t	ンター	長	副	校	長	副	セン	ター	長谷	: F	1 浩	朗	三	河道	1 男	森:	宗太	一郎	自	石尼	<u> </u>	高	城	秀之	学:	生記	果 長
集	積	回路	実 験	室	委員	会	◎ 集	積回路	室長	副	校	長	集和	恒路	各副室	長長	谷	部一	気	辻	聂	豕 人	田	嶋	<u> </u>	河	田	純	学	生	課 長			
地	域	交	流 室	图 委	員	会	◎ 地:	域交流	室長	地域	交流室副	室長	畑		伸!	與 草	. 間	目裕	介	増	田	隆	田	嶋貞	頁 一	Ш	染 勇	多人	総	務	課 長		_	
七	宝	記	念飾	季	員	슾	② 森	本部	文文	須	那	聰	Ξ	河	通 :	男三	, he	寄 幸	典	徳	永信	≶ 一	金	澤月	啓 三	学	生調	長		_			_	
同	和	教育	推	進委	員	会	⑤ 内	田由耳	里子	教	務主	事	学	生	主	事寮	彩	ぎ 主	事	— A	受 教	科長	通信	工当	科長	電子	工学	科長	制御	II.	学科長	情報	工学	卢科長
1						Ī	社会	会科担当	教官	事	務部	長			-	7		_		Γ	_		Γ			Γ	_		Γ	_			_	
レ	クリ	エー	- ショ	レダ	委 員	会	◎ 事	務部	『長	東	田洋	次	塩	沢	隆 ,	広 月	4		功	雛	元洋	¥ —	松	下音	告 明	総	務講	! 長	学:	生	課 長	西市	す富	美子
1						ı		西惠								1				Ι			T			T			T			T		
環:	境 ~	マネシ	^ブ メン	ト室	委員	会			_	副	校	長	専	攻	科 -	Ę –	般	教科	·長	通信	工学	科長	電	二工台	4科長	制御	工学	科長	情報	I I.	学科長	図	書館	這 長
1								ンター				••••••											† ⁻			†			†			†		
さた	ر الم	外行政	サービ	*ス推?	生委 [会		務 剖											-	-	終 存	系 長	入	試(系長	\vdash	_			_		\vdash	_	
						_		務 剖				$\overline{}$				$\overline{}$				-			-			-	補佐白	学生)		_		\vdash	_	
-		報化排				-		323 н 1		_	満色	-	_	_	_	-			_	-			-			-			大,	畑	正樹	#:	- F	和孝
7 13	in IH	ine imil	L^= 3K.	~ ~ ~	- 1 1 E	~ ~~		 : 水 良		 							- 1	人 技艺	<u> </u>	 ^ *	勿興	1/13	1		兄	 -	<u>ш 11</u>	H J	 ^	· 144	- 1의	屵二	<u>+ 1</u>	H 4
_							≖	小区	(百	įИ	건나 4년	子	141	Н	[P] :	4	_						_			<u>. </u>				_		Щ		

(注)◎:委員長または議長 ただし, 教員会議の議事進行は 教務主事が行う。

通信工学科長: 情報 通信 工学 科長 センター長: 情報 処理 センター 長 制御工学科長: 電子 制御 工学 科長 副センター長: 情報 処理副センター長 電子通信専攻主任:電子通信システム工学専攻主任 情報制御専攻主任: 情報制御システム工学専攻主任

課長補佐(総務): 総務課課長補佐 (総務担当) 課長補佐(財務): 総務課課長補佐(財務担当)

^{集積回路室長:} 集 積 回 路 実 験 室 長 **集積回路副室長: 集積回路実験室副室長**

課長補佐(学生): 学生課課長補佐

(出典 本校グループウェア総務課人事係)

詫間電波工業高等専門学校企画運営委員会規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16号第2項の規定に基づき、 企画運営委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)
- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 学則及び規程の制定、改廃に関すること
 - 二 組織の改廃に関すること
 - 三 教育・研究及び学校運営の目標・計画に関すること
 - 四 概算要求事項に関すること
 - 五 予算配分に関すること
 - 六 将来計画に関すること
 - 七 その他学校運営に係る重要事項に関すること (構成)
- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長及び校長補佐
 - 三 専攻科長
 - 四 各学科長及び一般教科長
 - 五 事務部長

(会議)

第4条 委員会は、原則として月1回開催する。

ただし,必要がある場合は,随時開催することができる。

(委員長)

- 第5条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第6条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第7条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第8条 委員会の事務は、総務課総務係において処理する。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。 附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

最高責任者である校長の職務を副校長が補佐し、校長の命により教務主事、学生主事、寮務主事の 3主事が学校運営に係る特命事項について、校長を補佐している。各主事を補佐するため副主事及び 主事補を置き、効果的な意志決定が行える。各主事、各委員会等の役割が規程に定められ明確になっ ている。主要な各種委員会の委員長は、校長、副校長又は3主事が務め、その他も校長が任命した者 によるため、校長の運営方針等が具体的施策に反映できる。各委員会は各学科の代表者を含む構成と なっており、学科の意見を汲み取り効果的な意志決定ができる。各種委員会での決定事項は、企画運 営委員会にて報告され、校長が学校全体の教育等諸活動を把握しリーダーシップをとれる体制となっ ている。

以上のことから、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、効果的な意思決定が行える 体制となっているといえる。

観点11-1-②: 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度には、審議内容及び委員構成が類似している委員会・専門部会の統合・再配置を行う方針により、委員会数を 31 から 26 に整理統合し、併せて各種委員会の審議内容の見直しを行った(資料 11-1-2-1)。平成 18 年度には機能性を考えて広報・情報委員会を広報・情報委員会と事務情報化推進委員会に分割した(資料 11-1-2-2)。

事務組織は、平成 18 年度からそれまでの庶務課、会計課、学生課の3課体制から総務課、学生課の2課体制に移行し、係名称も改め、事務分掌についても見直しを行い、事務の効率化を図った(資料 11-1-2-3、4)。

			委員会の	統廃合移行	行図	(宏)			
		(現 行)	XRAV	A/L//C E1 19	I I E		(改 正 案)		
委	員会数 31(専門	門部会数 6)			-	委員会数 26			_
長	.委員	委員会名	審議内容		-	審議内容	委員会名	委員	5
校長	校長 専任教員 事務部長	(庶務課庶務係)	教育目標達成 学生の進級及び卒業判定 学生の処分 その他校長が必要と認める事項			教育目標達成 学生の進級及び卒業判定 学生の処分 その他校長が必要と認める事項	教員会議 (庶務課庶務係)	校長 専任教員 事務部長	お長
	校長 3主事 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 6 5 6 5 6 5	企画運営委員会 学校改善推進専門部会 (庶務課庶務條)	学則及び規程の制定、改廃 組織の改廃 教育・研究及び学校運営の目標 ・計画 概算要求事項 予算配分 その他学校運営に係る重要事項		*	学則及び規程の制定、改廃 組織の改廃 教育・研究及び学校運営の目標 ・計画 概算要求事項 予算配分 特米計画 その他学校運営に係る重要事項	企画運営委員会 (庶務課庶務係)	校長 3 事 4 事 4 長 5 事 5 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6 等 6	
	校長 3 事 3 事 3 事 3 事 3 事 3 等 5 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	将来計画委員会 JABEE 対応専門部会 (庶務課専門職員)	組織の将来計画 教育・研究及び学校運営の中期 目標・中期計画 施設整備の将来計画 その他将来計画		1	教育・研究及び学校運営(施設 教育・研究及び学校運営(施設 の有効利用を含む)に関する点 検・評価の実施計画の策定及び 実施	点検評価委員会 (庶務課専門職員)	校長主事 長主 事 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	
	校長 教務主事 各学科長 事務部長	人事委員会 (庶務課人事係)	教員の採用及び昇任選考 非常勤講師の採用 その他教員人事		1	その他点検・評価		情報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報報	
	校長 3主事 等 等 等 等 等 等 長 長 と 書 館 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	自己点検・評価委員会 (庶務課専門職員)	自己点検・評価の実施計画の策 定及び実施 自己点検・評価結果の公表 その他自己点検・評価	/ /	/ [教員の採用及び昇任選考 非常動講師の採用 その他教員人事	人事委員会 (庶務課人事係)	校長 教務主事 各学科長 事務部長	
	情報処理センター長 集積実験室長、 地域交流室長 事務部長 3課長					セクハラ防止対策の策定 " に関する相談及び救済 " 防止に関する研修実施 その他セクハラの防止及び排除	セクシュアが・ハラスメント防止委員会 (庶務課人事係)	校長 3主事 事務部長	
	校長 3主事 專攻科長 区書記	情報セキュリティ委員会 情報セキュリティボリシー策定部会 情報セキュリティ評価部会 (会計課出納係)	セキュリティボ リシー 情報セキュリティ対策 その他情報セキュリティ	\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		教育・研究及び学校運営に関す る重要事項について、校長が意 見を聴く	学科長会議 (庶務課庶務係)	校長 長務 中 長 務 中 子 等 務 子 子 務 子 長 務 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	
	情報処理センター長、 集報実施 事務 事務 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表	効率的施設利用委員会	施設の有効利用			教育・研究及び学校運営の改善 (教育に関するものを除く。)	運営改善委員会 (庶務課専門職員)	3主事 専攻手長 会響を受ける 情報処理なカー長 集積実室長、	副校長
	コート コート コート コート コート コート コート コート	(会計課総務係)			\	学校要覧及び校報の編集・発行 ホームページによる情報公開 セキョリティド	広報・情報委員会	地域交流室長 事務長 3 主事 専攻長	
	校長 3主事 事務部長	セクシュアル・ハラスメント防止委員会 (庶務課人事係)	セクハラ防止対策の策定 "に関する相談及び救済 "防止に関する研修実施 その他セクハラの防止及び排除		1	情報セキュリティ対策 ネットワークの運営方針 */* */* */* */* */* */* */* */* */* */*	(庶務課庶務係) (会計課出納係)	各学科長 図書館理センター長 集積実変室 集域交部長 事務の表 事務の表 事務の表 事務の表 事務の表 事務の表 事務の表 事務の表	
	校長 教務攻 等 等 等 等 等 等 等 等 等 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	学科長会議 (庶務課庶務係)	教育・研究及び学校運営に関する重要事項について、校長が意 見を聴く		/ 1	事務情報化の基盤整備 事務部ホームページの基本方針 その他広報、情報セキリティ、情報 キットワーク、事務情報化 健康障害防止の基本対策	安全衛生委員会	3 課長	
教務主事	教務主事 教務主事補 各学科 各学生課長	教務委員会 (学生課教務係)	教育課程の編成及び改廃 授業時間の編成 学生の課修 学業成績の評価等 教院に関する学校行事 その他教務			健康保持増進の基本対策 労災の原因及び再発防止対策 守衡生に関する制度等防止 に記り外で機能関する事事事項 危険防止の基本対策 が労災の原因及び再発防止対策で 安保持増進に基本対策 が労災の原因及び再発防止対策で で安全に関するもの で安全に関するもの	安全專門部会 衛生專門部会 (会計課総務係)	専攻科長 長 会事報 の 事報 の 事報 の 事報 変 実 表 う を と と と を を り を と り を り を り を し を り を し を り を し を し を り を し を り を り	
	教務主事 学生主事 教務主事補 各学学課長	入学試験委員会 (学生課教務係)	入学志願者の募集 募集要項及び入学案内の編集及 び発行 入学試験の実施 入学者の選抜 その他入学試験			こ五、六字取外で合映防止に関する 東東東東東 安全・環境教育 学生の安全確保 九以外で学生の安全に関す る重要事項		衛生管理者 安全管理者 庶務、学生課長	
	3主事 専攻学事長 各営書処理センター長 集積実験室長	情報ネットワーク委員会 (会計課出納係)	ネァトワークの運営方針 利用 ルを利用した学内共通の情報化 その他情報ネットワーク			発明等の新規性 出額の価値 その他知的財産	知的財産委員会 (庶務課専門職員)	教務主事 專攻科長 各学科 地域交流室 底務課長	
	地域交流室長 3課長 3主事 専攻科長	広報委員会	学校要覧及び校報の編集・発行 ホームページによる情報公開	/	1	学生の国際交流 学術の国際交流 その他国際交流	国際交流委員会 (庶務課庶務係)	教務主事 專攻科長 事務部長 整務部長 校長指名者	
	各図情報積域路務長 學書級上於一長、 學書級與東交指導 等數項或路務部長 等。	(庶務課庶務係)	その他広報		$\ \ $	教育課程の編成及び改廃 授業時間の編成 字学集成額の評価等 教務・研算との学校行事 教務・研算との学校で書きの改善 (教育に関するものに限る) その他教務・	教務委員会 (学生課教務係)	教務主事 教務副主事 教務副主事補 専攻科長 学科長 校長指名の者 (断音改養 学習	教務主事
	3主事 專攻学書 長長 國書報 與實交部 集積 域等 交部 長 長 里 段 三 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 大 章 会 等 成 た 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長 長	安全衛生委員会 安全専門部会 衛生専門部会 (会計課総務係)	健康障害防止の基本対策 健康保持増進の基本対策 労災の原因及び再分防止対策 守衛生に関するもの 上記以外で健康等防止、健康 保護・企業を発生を 発生を 発生を 発生を 発生を 発生を 発生を を を を を を を			入学志願者の募集 募集要項及び入学案内の編集及 び発行 入学者の選抜	入学試驗委員会 (学生課教務係)	支援、FD) 学生主事 教務主事 学生主副主事 等等等等 等等等等。 第一次 等等。 等等等。 等等等。 等等。 等等。 等等。 等等。 等等。 等等。	

委員会の統廃合図(2/2)

	衛生管理者 安全管理者 庶務、学生課長		で安全に関するもの 五、六以外で危険防止に関する 重要事項 安全・環境教育 学生の安全確保 入、九以外で学生の安全に関す る重要事項
	教務主事 專攻科長 各学科長 地域発長 旅務課長	知的財産委員会 (庶務課専門職員)	発明等の新規性 出願の価値 その他知的財産
学生主事	学生主事 学生主事補 各学科 各 1 名 学生課長	厚生補導委員会 (学生課学生係)	学生会及び学生団体 学生の生活及び掲示 学生の出版及び掲示 学生の實際別活動 学生の解験別活動 学生の科及び入学等との 受学の が変更が表示。 学生の科及び の が を の が の が の が の が の が の が の が の が の
寮務主事	寮務主事 寮務主事補 各学科 各1名 学生課長	寮務委員会 (学生課寮務係)	学生の入寮及び退寮 寮生の生活指導 寮生の保健衛生 寮生の稲務 家生の他寮務
専攻科長	專政科長 副專攻科長 長 各等科主 各等科 事 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等	専攻科委員会 (学生課教務係)	專攻科運営
	教務主事 専攻科科長 事務長長 校長指名者	国際交流委員会 (庶務課庶務係)	学生の国際交流 学術の国際交流 その他国際交流
進路指導室長	教務主事 学生主事 進路指長 各学科長 5 学年課長 5 学年課長	進路指導委員会 (学生課学生保)	学生の進路指導 就職及び進学の推薦 放職に各学校紹介及び広報 就職等院業務 その他進路指導
相談室長	学生相談室長 各学科 各1名 学生課長 補助相談員	学生相談室委員会 (学生課学生係)	学生相談室の事業計画及び運営 の施設及び設備 学生相談の研修会及び講演会 その他学生相談室
図書館長	図書館長 各学科 各1名 庶務課長	図書館委員会 (庶務課図書係)	図書館の運営方針 " の業務計画 " の利用 利用案内及び図書館だよりの 編集発行 その他図書館の運営
	図書館長 各学科 各1名 庶務課長	研究紀要編集委員会 (庶務課図書係)	掲載論文の募集及び選定 研究紀要の編集及び発行 その他研究紀要
情報処理長	教務主事 情報処理センター長 及び副センター長 各学科 各1名 学生課長	情報処理センター委員会 (情報処理センタ-)	情報処理センターの運営方針 の業務計画 の利用 その他情報処理センターの運営
集積回路長	教務主事 集積回路実験室 長及び副室長 各学科 各1名 学生課長	集積回路実験室委員会 (集積回路実験室)	集積回路実験室の運営方針 の業務計画 の利用 その他集積回路実験室の運営
地城交流	地城交流室長及 び副室長 各学科 各1名 庶務課長	地域交流室委員会 (庶務課専門職員)	地域交流室の運営方針 の業務計画 その他地域交流室の運営
校長が指	各学科 各1名 校長指名者1名 学生課長	七宝記念館委員会 (学生課教務係)	七宝記念館の運営方針 の業務計画 その他七宝記念館の運営管理
定	教務主事 学生主事 寮務主事 学各学科担当 社会科担当 事務部長	同和教育推進委員会 (学生課教務係)	同和教育推進に必要な事項 同和関係の講習会、研修会参加
事務部長	各学科 各1名 事務部長 3課長 各課職員各1名	レクリェーション委員会 (庶務課庶務係)	レクリェーション事業計画の策定 "の業務計画 その他レクリェーション
	事務部長 3課長 3専門職員 会計課出納係長	事務情報化推進委員会 (会計課出納係)	事務情報化推進計画の策定 事務情報化の基整整備 事務部ホームページの基本方針 その他事務情報化の推進
	事務部長 3課長 庶務、総務、教 務係長	さわやか行政サービス推進委員会 (庶務課庶務係)	行政サービス推進計画の策定 その他行政サービス推進

		学生課長	
学生会及び学生団体 学生の生活指導 学生の自動 のでは、 学生の関制 が生生の保健性 学生生の保健性 教授なび、 学年で解析性 教学学生を解放なび、 学科の減免 要等である。 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、 のでは、	厚生補導委員会 (学生課学生係)	学生主事 学生主事 学生主事 各学科 各1名 学生課長	学生主事
学生の入寮及び退寮 寮生の生活指導 寮生の保健衛生 寮生の福利厚生 その他寮務	寮務委員会 (学生課寮務係)	察務主事 察務主事補 各学科 各1名 学生課長	察務主事
專攻科運営	専攻科委員会 (学生課教務係)	專攻科長 專攻科長 各學科 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等 等	専攻科長
学生の進路指導 就職及び進学の推薦 就職に係る学校紹介及び広報 就職斡旋業務 その他進路指導	進路指導委員会 (学生課学生係)	教務主事 学進路長 各学科學長 5学年學長 5学年課長	進路指導室長
学生相談室の事業計画及び運営 の施設及び設備 学生相談の研修会及び講演会 その他学生相談室	学生相談室委員会 (学生課学生係)	学生相談室長 各学科 各1名 学生課長 補助相談員	相談室長
図書館の運営方針 "の業務計画 "の利用 利用案内及び図書館だよりの 編集発行 損載範文の募集及び選定 研究起更の編集及び発行 での他図書館の運営、研究紀要	図書・紀要委員会 (庶務課図書係)	図書館長 各学科 各1名 庶務課長	図書館長
情報処理センターの運営方針 の業務計画 の利用 その他情報処理センターの運営	情報処理センター委員会 (情報処理センター)	教務主事 情報処理センター長 及び副センター長 各学科 各1名 学生課長	情報処理長
集積回路実験室の運営方針 の業務計画 の利用 その他集積回路実験室の運営	集積回路実験室委員会 (集積回路実験室)	教務主事 集積回路実験室 長及び副 各1名 学生課長	集積回路長
地域交流室の運営方針 の業務計画 その他地域交流室の運営	地域交流室委員会 (庶務課専門職員)	地域交流室長及 び副室長 各学科 各1名 庶務課長	地域交流
七宝記念館の運営方針 の業務計画 その他七宝記念館の運営管理	七宝記念館委員会 (学生課教務係)	各学科 各1名 校長指名者1名 学生課長	校長が指
同和教育推進に必要な事項 同和関係の講習会、研修会参加	同和教育推進委員会 (学生課教務係)	教務主事 学生主事 等務主事事 學名 等 各 等 各 等 科 担 当 事 務 的 等 科 担 当 等 表 等 科 的 等 的 。 日 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的 的	定
レウリェーション事業計画の策定 "の業務計画 その他レクリェーション	レクリェーション委員会 (庶務課庶務係)	各学科 各1名 事務部長 3課長 各課職員各1名	事務部長
行政サービス推進計画の策定 その他行政サービス推進	さかか行政サービス推進委員会 (庶務課庶務係)	事務部長 3課長 庶務、総務、教 務係長	

(出典 平成17年2月17日企画運営委員会資料)

-2-

広報・情報委員会の体制について

平成18年度第2回広報·情報委員会議事要録

日 時 平成18年11月1日(水)16時45分から18時05分

場 所 第1会議室

出 席 者 副校長, 寮務主事, 専攻科長, 一般教科長, 情報通信工学科長, 電子工学科長,

電子制御工学科長、情報工学科長、図書館長、情報処理センター長、地域交流

室長,進路指導室長,総務課長,

欠 席 者 学生主事,集積回路実験室長,事務部長,学生課長

陪 席 者 総務課課長補佐(総務担当),企画係長,企画係主任(記),企画係員

資 料 1-1 詫間電波工業高等専門学校広報・情報委員会規程

1-2 広報・情報委員会の体制について (案) 1-3 詫間電波工業高等専門学校広報・情報委員会規程 (案)

1-4 詫間電波工業高等専門学校事務情報化推進委員会規程(案)

1-5 詫間電波工業高等専門学校ホームページの管理運用に関する規程(案)

2 コンピュータソフトウェアの適正な運用・管理の徹底についての改善計画

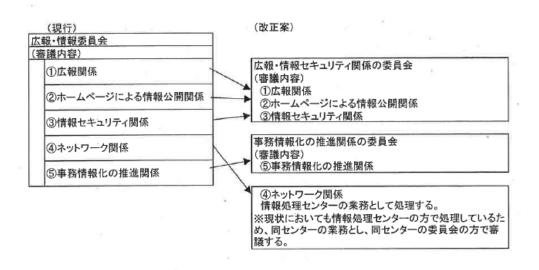
議事

2. 広報・情報委員会の体制について

委員長から,資料1-2に基づき広報・情報委員会の体制の説明,資料1-3,1-4に基づき委員会規程(案)の説明があり,審議の結果,事務情報化推進委員会を切り離すこと,ネットワーク関係を情報処理センターの業務とすることが了承された。

資料 1-2平成18年11月1日広報・情報委員会

広報・情報委員会の体制について(案)



(出典 平成18年11月1日広報・情報委員会議事要録及び資料)

資料 11-1-2-3 詫間電波高専事務組織再編 (業務内容) 課長補佐 (総務担当) 係員 事務部長一 総務課長 総務係長 庶務業務, 情報公開 人事係長 係員 人事, 給与計算, 共済業務 研究協力, 地域貢献·連携, 評価, 外部資金受入.広報, 公開講座、事務情報化 企画係長 係員 予算・決算, 財産管理処分, 内部監査, 財会システム, 出納業務, 旅費計算 課長補佐 財務係長 係員 (財務担当) 用度業務 契約係長 係員 施設係長 係員 施設業務 学生課長 課長補佐 入試係長 係員 入試 教務係長 係員 カリキュラム、学籍、成績処理、JABEE、 学生支援係長 係員 学生の課外活動. 就職,進学,図書 学生の保健衛生, 寮務, 授業料免除, 奨学金, 留学生 学生生活係長 係員 室長補佐 (主査兼任) 技術専門職員 技術職員 技術教育支援室長 (学生課長兼任) 電子・通信グループ担当主査 技術専門職員 (物理·化学) 情報・制御グループ担当主査 (出典 平成18年3月16日 企画運営委員会資料)

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(1/5)

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第 10条第3項及び詫間電波工業高等専門学校学則(平成16年4月1日制定)第11条の規定 に基づき、詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)における事務組織、職制及び 事務分掌に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第2章 事務組織

(事務組織)

第2条 本校事務部に、事務部長、総務課及び学生課を置く。

(職制)

- 第3条 事務部長は、上司の命を受け、事務部の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 2 総務課及び学生課に課長を置く。
- 3 課長は、上司の命を受け、当該課の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 4 課に課長補佐を置くことができる。
- 5 総務課に置くことができる課長補佐は、総務担当及び財務担当とする。
- 6 課長補佐は、上司の命を受け、課長を助け、課の事務を整理する。
- 7 係に係長を置く。
- 8 係長は、上司の命を受け、当該係の事務を処理する。
- 9 事務部に専門職員を、係に主任を置くことができる。
- 10 専門職員は、上司の命を受け、事務部の事務のうち専門的事項を処理する。
- 11 主任は、上司の命を受け、係長を補佐し、当該係の事務のうち特定の事項を処理する。
- 12 学生課に、技術専門職員を置き、技術専門員を置くことができる。
- 13 技術専門員は、極めて高度の専門的な技術を有し、上司の命を受け、技術教育支援に関する業務を処理する。
- 14 技術専門職員は、高度の専門的な技術を有し、上司の命を受け、技術教育支援に関する業務を処理する。

第3章 事務分掌

(総務課の所掌事務)

- 第4条 総務課に、次の2課長補佐及び6係を置く。
 - 一 課長補佐 (総務担当)
 - 二 課長補佐 (財務担当)
 - 三 総務係
 - 四 人事係
 - 五 企画係
 - 六 財務係
- 2 課長補佐(総務担当)においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 本校の事務に関し、連絡調整すること。
 - 二 中期目標・中期計画に関すること。
 - 三 各種評価に関すること。
 - 四情報公開に関すること。
 - 五 労務管理に関すること。
 - 六 組織に関すること。
- 3 課長補佐(財務担当)においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 財務に関する企画及び分析に関すること。

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程 (2/5)

- 二 予算要求に関すること。
- 三 予算及び決算に関すること。
- 四 施設設備の整備に関すること。
- 五 会計検査及び監査に関すること。
- 4 総務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 機密に関すること。
 - 二 儀式その他の会議(他の係の所掌に属するものを除く。)
 - 三 学則その他諸規程の制定及び改廃に関すること。
 - 四渉外に関すること。
 - 五 公印の制定、改廃及び管守に関すること。
 - 六 文書類の接受、発送、編集及び整理保存に関すること。
 - 七 教職員の福祉厚生に関すること。
 - 八 教職員の出張に関すること。
 - 九 校内の警備及び取締に関すること。
 - 十 沿革史等の編さん及び保存に関すること。
 - 十一 個人情報保護及び情報公開に関すること。
 - 十二 自動車の配車及び運行に関すること。
 - 十三 秘書業務に関すること。
 - 十四 後援会との連絡調整に関すること。
 - 十五 職員集会所に関すること。
 - 十六 指定統計並びに所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十七 その他他の課、係の所掌に属さない事項に関すること。
- 5 人事係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 教職員の任免、懲戒及び服務に関すること。
 - 二 教職員の人員管理に関すること。
 - 三 教職員の給与及び手当に関すること。
 - 四 教職員の研修に関すること。
 - 五 教職員の勤務評価に関すること。
 - 六 教職員の栄典及び表彰に関すること。
 - 七 教職員の健康管理に関すること。
 - 八 教職員の業務災害及び通勤災害に関すること。
 - 九 教職員の人事記録に関すること。
 - 十 教職員の勤務時間及び休暇に関すること。
 - 十一 教職員の身分証明、その他諸証明に関すること。
 - 十二 教職員退職手当に関すること。
 - 十三 共済組合に関すること。
 - 十四 労働組合及び過半数代表者会議に関すること。
 - 十五 海外渡航に関すること。
 - 十六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十七 その他人事に関すること。
- 6 企画係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 中期目標・中期計画に関すること。
 - 二 認証評価に関すること。
 - 三 自己点検・評価及び外部評価に関すること。
 - 四 産学連携及び地域連携に関すること。
 - 五 受託研究及び共同研究に関すること。
 - 六 寄付金に関すること。
 - 七 科学研究費補助金に関すること。
 - 八 各種研究員及び研究助成に関すること。
 - 九 発明及び知的財産に関すること。

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程 (3/5)

- 十 学術団体等との連絡調整に関すること。
- 十一 専攻科の再審査に関すること。
- 十二 広報に関すること。(学生課所掌に属するものを除く。)
- 十三 国際交流に関すること。(学生課所掌に属するものを除く。)
- 十四 公開講座に関すること。
- 十五 事務情報化に関すること。
- 十六 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 十七 その他企画に関すること。
- 7 財務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 予算及び決算に関すること。
 - 二 予算要求に関すること。
 - 三 資産の管理に関すること。
- 四 土地、建物の借入れ及び処分に関すること。
- 五 支出契約決議(他の係の所掌に属するものを除く。)に関すること。
- 六 教職員の安全管理に関すること。
- 七 防災に関すること。
- 八職員宿舎に関すること。
- 九 会計検査及び監査に関すること。
- 十 会計の諸規程に関すること。
- 十一 収入及び支出に関すること。
- 十二 債権の管理に関すること。
- 十三 旅費及び謝金等の支出決議に関すること。
- 十四 給与の支給に関すること。
- 十五 所得税等の徴収に関すること。
- 十六 有価証券に関すること。
- 十七 外部資金(科学研究費補助金等)の経理に関すること
- 十八 所掌事務に関する統計調査及び報告に関すること。
- 十九 その他他の係の所掌に属しない総務課財務関係の事項に関すること。
- 8 契約係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 資産(物品)の管理(図書館資料を除く。)に関すること。
 - 二 資産(図書を含む。)、役務等の支出契約決議に関すること。
 - 三 物品(図書館資料を除く。)の寄付受入に関すること
 - 四 構内の清掃に関すること
 - 五 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 六 その他契約に関すること。
- 9 施設係においては、次の事務をつかさどる。
 - 施設の整備計画及び環境整備に関すること。
 - 二 施設関係の予算要求資料の作成に関すること。
 - 三 営繕工事及び施設管理に係る役務の支出契約決議に関すること。
 - 四 土地、建物及び工作物等の整備、復旧及び維持保全に関すること。
 - 五 教職員の安全管理(施設)に関すること。
 - 六 資産(不動産)の管理に関すること。
 - 七 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 八その他施設に関すること。

(学生課の所掌事務)

- 第5条 学生課に、次の1課長補佐、4係長及び1室を置く。
 - 一 課長補佐
 - 二入試係
 - 三 教務係
 - 四 学生支援係

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程 (4/5)

- 五 学生生活係
- 六 技術教育支援室
- 2 課長補佐においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生課の事務に関し、連絡調整すること。
 - 二 JABEEに関すること。
 - 三 学生課所掌の広報に関すること。
 - 四 留学生及び学生の海外派遣に関すること。
- 3 入試係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の募集に関すること。
 - 二 専攻科の入試に関すること。
 - 三 入学者の選抜に関すること。
 - 四 編入学に関すること。
 - 五 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 六 その他入試に関すること。
- 4 教務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の修学指導に関すること
 - 二 JABEEに関すること。
 - 三 教育課程の編成及び実施に関すること。
 - 四 学位申請に関すること。
 - 五 資格取得に関すること。
 - 六 学生の校外実習等の課外教育、広報及び学校行事に関すること。
 - 七 学籍及び学業成績の記録、保存に関すること。
 - 八 学生の入学、退学、転学及び卒業に関すること。
 - 九 学生並びに卒業生の学籍及び成績等の証明に関すること。
 - 十 学生の出欠に関すること。
 - 十一 留学生及び学生の海外派遣に関すること。
 - 十二 教科書その他教材に関すること。
 - 十三 教室の管理に関すること。
 - 十四 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十五 その他教務に関すること。
- 5 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生及び学生団体の指導監督に関すること。
 - 二 学生の団体、集会、掲示及びその他行事に関すること。
 - 三 学生会に関すること。
 - 四 学生の課外活動に関すること。
 - 五 学生の規律及び賞罰に関すること。
 - 六 学生の厚生施設の管理運営及び厚生事業に関すること。
 - 七 学生の保健衛生及び保健施設の管理運営に関すること。
 - 八 日本スポーツ振興センターに関すること。
 - 九 入学料の免除に関すること
 - 十 授業料の免除、月割分納及び徴収猶予に関すること。
 - 十一 奨学生に関すること。
 - 十二 学生の生活相談に関すること
 - 十三 就職指導及び就職あっ旋に関すること。
 - 十四 学生の進学に関すること。
 - 十五 学生の旅客運賃割引及び通学証明に関すること。
 - 十六 図書館資料の管理に関すること。
 - 十七 図書館資料の選定に関すること。
 - 十八 図書館資料の閲覧及び貸出に関すること。
 - 十九 図書館資料の分類及び目録の作成に関すること。

詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程(5/5)

- 二十 図書館資料の寄付受入れに関すること。
- 二十一 研究紀要に関すること。
- 二十二 参考奉仕(検索指導、読書相談、文献の調査等)に関すること。
- 二十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
- 二十四 その他学生支援及び学生生活(学寮に係るものを除く。)に関すること。
- 6 学生生活係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 寄宿料の免除に関すること。
 - 二 学寮の管理運営に関すること。
 - 三 寮生の生活指導に関すること。
 - 四 寮生の集会及び諸行事に関すること。
 - 五 学寮の生活環境の整備に関すること。
 - 六 寮費等の経理に関すること。
 - 七 寮費等の出納事務に関すること。
 - 八 学生の入寮及び退寮に関すること。
 - 九 学寮の衛生管理に関すること。
 - 十 学寮の給食及び栄養管理に関すること。
 - 十一 学寮指導当直に関すること。
 - 十二 寮生の郵便物の接受及び配布に関すること。
 - 十三 所掌事務に関する調査統計及び報告に関すること。
 - 十四 その他学生生活(学寮に係るものに限る。)に関すること。
- 7 技術教育支援室に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校グループウェア規程集)

(分析結果とその根拠理由)

平成 17・18 年度に委員会を見直し、委員会を整理統合することにより効果的に活動できるようになった。事務組織も、平成 18 年度の組織再編により、近年の業務の変化に応じた機能的な組織となり、効果的に活動できる体制となった。

内部組織規程,各種委員会規程,事務組織等に関する規程により適切に役割分担され効果的に活動 している。

観点11-1-3: 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

組織については学則及び内部組織規程,各種委員会については各委員会規程,事務組織の所掌事務については事務分掌規程においてそれぞれ規定されており,管理運営の諸規定が整備されている(資料 11-1-3-1)。

資料 11-1-3-1

規程集目次から抜粋

第1章 規程・内規 第1節 学 則

· 詫間電波工業高等専門学校学則

第2節 組織・運営

- ・詫間電波工業高等専門学校の事務組織等に関する規程
- · 詫関電波工業高等専門学校内部組織規程
- · 詫間電波工業高等専門学校企画運営委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校点検評価委員会規程
- ・詫関電波工業高等専門学校教員会議規程
- · 詫関電波工業高等専門学校学科長会議規程
- · 詫間電波工業高等専門学校人事委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校セクシュアル・ハラスメント防止委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校運営改善委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校広報 · 情報委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校安全衛生委員会規程
- 詫間電波工業高等専門学校知的財産委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校国際交流委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校教務委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校入学試験委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校厚生補導委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校厚生補導委員会規程に関する申合せ
- · 詫間電波工業高等専門学校寮務委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校専攻科委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校進路指導委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校学生相談委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校図書・紀要委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校情報処理センター委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校集積回路実験室委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校地域交流室委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校七宝記念館委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校同和教育推進委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校レクリエーション委員会規程・詫間電波工業高等専門学校環境マネジメント室委員会規程
- ・詫間電波工業高等専門学校さわやか行政サービス推進委員会規程
- · 詫間電波工業高等専門学校技術教育支援室要項
- ・詫間電波工業高等専門学校事務情報化推進委員会規程
- 詫間電波工業高等専門学校建設工事競争参加資格等審査委員会規程

(出典 総務課総務係)

管理運営に関する諸規定が整備されている。これらは本校グループウェアで確認することができるようになっている。

観点11-2-①: 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

平成12年7月外部評価委員会規程を制定し、平成12年10月26日に外部評価委員会を開催した。 教育理念・目標、教育課程及び教育活動、研究活動、組織管理運営、入試広報活動、地域交流・地域 貢献、国際交流・貢献、専攻科の設置について評価を受けた。これに対する本校の取り組む姿勢及び 状況は、平成15年1月発刊の点検評価報告書(第3版)で発表した。

平成16年10月に学外有識者による助言を求め、学校改善に資することを目的に運営懇話会要項を制定し(資料11-2-①-1)、第1回運営懇話会を平成16年12月16日に行った。教育理念、中期目標・中期計画、地域連携等について説明し、意見を伺った(資料11-2-①-2)。平成17年3月には報告書を発刊し配布した。

平成 17 年度は、平成 17 年 9 月 21 日に開催し、前年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応 (資料 11-2-(1)-3) と本校の養成すべき人材像について説明し、意見を伺った (資料 11-2-(1)-4)。 平成 17 年 12 月には報告書を各方面に配布した。

平成 18 年度は、平成 18 年 9 月 29 日に開催し、前年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応(資料 11-2-1-5)と本校の自己点検の状況について説明し、意見を伺った(資料 11-2-1-6)。平成 18 年 12 月には報告書を各関係方面に配布した。

本校は、平成 16 年度から毎年運営懇話会を開催し、学外の委員の方々からいただいた意見を管理 運営に反映し、その改善に努めている。

資料 11-2-①-1

詫間電波工業高等専門学校運営懇話会要項

(設置)

第1条 詫間電波工業高等専門学校(以下「本校」という。)に運営懇話会を置く。

(目的)

第2条 本校の教育・研究及び学校運営等について、学外の有識者による助言を広く求めることにより、本校の学校改善に資することを目的とする。

(委員)

第3条 懇話会の委員は、人格見識が高く、かつ、本校の振興発展に関心と理解のある学 外者のうちから、校長が委嘱する。

(任期)

- 第4条 委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
- 2 前項の委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(座長)

- 第5条 懇話会に、座長を置き、校長が指名する。
- 2 座長に事故あるときは、校長が指名する委員がその職務を代行する。

(開催)

第6条 懇話会は、必要に応じて校長が招集する。

(事務)

第7条 懇話会の事務は、総務課において処理する。

附則

- 1 この要項は、平成16年10月20日から施行する。
- 2 この要項の施行により最初に委嘱された委員の任期については、第4条の規定にかか わらず、平成17年3月31日までとする。

附則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

(出典 平成18年度運営懇話会報告書)

資料 11-2-(1)-2

詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

2. 詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

1. 目的

本校の教育・研究及び学校運営等について、学外の有識者による助言 を広く求めることにより、本校の学校改善に資することを目的とする。

2. 実施時期

平成16年12月16日 (木) 14:00~17:00

- 3. 次 第
- (1) 開 会
- (2) 校長あいさつ
- (3) 出席者紹介

(4)議事

- ① 高専制度と詫間電波高専の教育理念
- ② 詫間電波高専の中期目標・中期計画の概要
- ③ 詫間電波高専の中期目標・中期計画と教育の現状
- ④ 地域連携及び進路指導の中期目標・中期計画と現状
- ⑤ 財務運営の中期目標・中期計画と現状
- ⑥ JABEE受審への取組み
- ⑦ 詫間電波高専の中期目標・中期計画全般

(5) 閉 会

※ 懇話会開催に先立ち、学内施設を視察する。

(出典 平成 16 年度運営懇話会報告書)

資料 11-2-(1)-3

平成16年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応(1/4)

昨年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応

1 中期計画関連

(ご意見)

この中期計画には、生徒の考え方が感じられない。特に、学科目標には生徒の意見を反映す<u>べきではないか</u>お客様(学生)の意見を尊重することが大事ではないかと思う。また、計画の遂行に当たっては、教員、職員、生徒が一体となって、ベクトルを合わせて今後の詫間電波高専を構築してほしい。(本田委員)

(本校の対応)

本校の学生は年齢が若くて学科目標に意見を述べるだけの見識や専門知識並びに経験が十分に備わっていないとも考えられるが、学生の意見反映及び学科目標の教職員、学生への浸透をどう図っていくのかを検討したい。

2 教育関連

(ご意見)

JABEE の計画は、従来の教育に則った方針である。<u>就職先企業モデルに合わせた時、これで良いのかをもっと考えて欲しい。</u>社会の要請を充分把握しているのか。就職した人の評価がどうだったかを、ここへ取入れればもっと良いものができる。例えば、計画・立案能力、管理能力とか。進路先企業にサービス業が増えているのだから、その業種で必要な能力を加味したら良い。(織田委員)

(本校の対応)

本校同窓会七宝会総会においてアンケート調査を行い、本校の教育目的、学習・教育目標について意見を伺った。どの項目も技術者として必要であり卒業時までに身に付けておくべきものであるという回答がほとんどで、非常に高い評価を受けた。

(第53回七宝会総会(17年7月30日,回答者92名))

また、学生が就職した企業や先輩等を対象として、時代に即応した養成すべき人材像とはどのようなものか、企業等の側から見た求める人材の資質・能力とはどのようなものかについて、アンケート調査を実施し、その結果を教育内容に反映することも検討したい。

(ご意見)

私どもの分野 (情報通信)と詫間高専が重なる部分が多いのであえて言うが、この分野は技術進歩が特に早く、企業内では教えてくれる人がいなくなる。<u>自学自習できる学生を育てることが非常に大切である。</u>社会に出ても頭が良いというのは 勉学ができている人であり、彼らは柔軟に対応出来ている。一所懸命勉強させてほしい。(古賀委員)

(本校の対応)

- 1. 学習教育目標として「技術者としての基礎知識を身につけ、高度な関連技術を修得し、広い視野を持って技術の発展に対応できるようになる。」(自学自習できる能力)ことを設定し、特に卒業研究をとおして教育を行っている。
- 2. 自学自習による国家試験資格取得の手助けとして、学年末休業期間中の補講、授業時における各資格の紹介、説明等を行っている。
 - また,取得時には資格に応じて単位を認定するなどして,資格取得(自学自習)を推進している。
- 3. 機会をとらえては, CPD (Continuing Professional Development) の重要性を説明している。

資料 11-2-(1)-3

平成16年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応(2/4)

3 進路指導関連

(ご意見)

電波高専は特殊なエリアであるから、<u>学生をいろいろな場に積極的に参加させるべきである。</u> 企業訪問とか。また、かがわ産業支援財団では、ビジネスマッチングイン 香川を開催しているので積 極的に参加してほしい。(横井委員)

(本校の対応)

4年生終了時に研修旅行として、学科ごとで希望に応じて、工場見学を行い、先端技術にふれる機会をもっている。併せて、インターンシップも実施している。また、ビジネスマッチングイン香川には、地域交流室が中心となって毎年参加させていただいている。

(参考)

- ①インターンシップ
 - 4年生62人が34社へ(16年は57人が41社へ)
- ②工場見学(16年度参加学生 計72人)
- ③地元企業と学生の面談会(17年3月15日)
 - ・県内の企業31社
 - ・本科4年生, 専攻科1年生全員が参加

(ご音見)

企業が何を求めているかを早く把握する体制を作ってほしい。JABEE は企業でいえば ISO である。品質や環境を、Plan, Do, Check, Action できる人材を養成しなければいけない。日本人のグローバル化に今必要なものはこれである。(中略)人材養成が大切である。(織田委員)

(本校の対応)

社会が求めている人材像を素早くキャッチし、教育にフィードバックできる体制の構築を早 急に行いたい。

また,人材養成については,学習教育目標として「与えられた課題を達成する手段を設計し, 粘り強く問題解決に取り組むことができるようになる。」ことを設定し,工学実験や卒業研究 で教育を行っている。

4 地域連携関連

(ご音見)

市町村合併がいま差し迫っているが、詫間町単独で行くという選択肢もある。その時には、 詫間町は改革的な町にならなければならず、地域力を付けなければならない。その時は詫間電 波高専は軸であり、行政と高専が一体であるとの認識を持ちたい。<u>高専が社会とより密着する</u> のなら、行政、産業界とも関係を深めてほしい。(横山委員)

(本校の対応)

- 1. 本年6月3日に詫間町と連携協力に関する協定書を締結した。内容は、地域の発展に係る 共同研究の推進、産業振興の推進、教育の推進、生涯学習の推進等に関することであり、7 月26日には第1回連携協力推進会議を開催し、連携協力の在り方や具体的連携事項につい て協議を行った。将来的には地元産業界にも参加願い、地域の活性化に貢献できればと考え ている。
- 2.2005年プロジェクト研究報告会を開催(17年6月2日)した。詫間町地域産業振興協議会へも案内し、2件の研究報告があった。
- 3. サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業「教育連携講座」を開催(17年6月17日)した。(詫間町教育委員会との連携)

詫間小学校5年生、大浜小学校全校生徒が参加し、16年度全国ロボコン大会出場ロボットの操縦およびレゴ社のマインドストームを使ってロボット製作を体験した。

平成16年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応(3/4)

(ご意見)

高専が地域社会と密着な関係を図るうえで、テレビ番組「先輩いらっしゃい」のように外部 講師を招いて実社会で指導的立場にあるトツブの実体験を聞く機会を設けてはどうか。中学生 になれば人生について考えているのではないか。大倉工業、四国化成、加ト吉などのトップの 人格(オーラ)に触れるだけでも刺激になり、職業感や社会参加意識等が醸成されると思う。 お願いするのであれば、私が代わってお願いしても差し支えない。それらを通じて、地元企業 側も「詫間電波高専」をもっと意識するのではないか。相乗効果が期待出来る。また、行政シ ステムのソフト開発や役場との交流も頻繁にお願いしたい。(横山委員)

(本校の対応)

- 1. 詫間町の横山町長のご尽力により、 による講演会を開催するこ とができた。(17年5月10日)

- 演題「がんばれば、ここまでやれる」
- 全校生対象
- 2. 平成17年度は、本校卒業生である る講演会を開催する予定である。

(情報通信工学科卒)によ

3. 今後も関係の方々のご協力を賜り、社会の第一線で活躍されている方を講師にお迎えして 講演会を開催し、おおいに学生、教職員の意識変革の場としていきたい。今後ともご協力を お願いしたい。

5 外部資金関連

(ご意見)

新しい事業の創出支援として、「地域プラツトホーム事業」があり、県下の産学官の皆さん に協力願っている。地域連携について、詫間高専は特異な分野の学校のため難しいのだろうが、 何かテーマがあれば、また、こんなことがやりたいという時は、ぜひ相談願いたい。財団では 研究の支援も含めていろんな補助金等も揃っている。(横井委員)

(本校の対応)

本校は、西讃地域における高等教育研究機関として「地域プラットホーム」に加えていただ いている。高等教育研究機関としての使命を果たすとともに、17 年度は、かがわ産業支援財 団で公募された補助金申請に「産学官技術シーズ調査事業」2件、「産学官共同研究開発事業」 1件を応募させていただいた。今後も積極的に応募していきたい。

(ご意見)

金融庁は、金融再生プログラムの中で、地域とのリレーションシップの重要性を説いている。 地域との連携を深めるように指導もあり、産学官を中心に地域貢献をしたい。高専は専門性が 強く、連携の接点がなかなか見出し難い。電波高専には、長年資金面でお世話になっているが、 本体的交流が出来ておらずこれを機会に一層深めていきたい。学校側から提案いただく方が、 銀行としては入って行きやすい。(本田委員)

(本校の対応)

銀行は、金融機関としての一面を持つ反面、地元情報の集積拠点としての面もあるように思 われる。具体的にお願いできる状況にはまだないが、多種多様な企業ニーズと本校の持つ研究 成果を効果的に結びつけるリエゾン機能としての役割をお願いしたいと考えている。

(ご意見)

外部資金の導入が大切である。このままでは、学校はつぶれてしまう。金融機関等との連携 はどうか。(木内委員)

(本校の対応)

同上

平成16年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応(4/4)

(ご意見)

財務面では中期計画の終了時に、かなり破綻するのではないか。外部資金をかなり入れなければ教員の研究費はマイナスになり、給料をカットしなければいけないような時代が来るのではないか。この打開策の提案としては、金融機関等にどの企業が有望か教えてもらうとともに、その企業との結び付けを依頼する。そして、企業と高専が共同で連携できるものを見つける。その企業が詫間町内にあれば、町に受託研究をお願いし共同研究を助成してもらう。そして成長すれば、かがわ産業支援財団に支援をお願いしてコンソーシアムに仕上げる。そうすると詫間高専を中核とした研究が広がっていくことになる。まず、情報を持っている金融機関等に仕掛けを願ったらどうか。5年先は研究費がゼロになるおそれがあるので、今の内から手を打たなければいけない。(木内委員)

(本校の対応)

詫間町との連携協力を具体的な形で推進し、三豊市に合併移行してもこの形態を継続・発展していきたいと考えている。

まずは、共同研究、受託研究等レベルからの連携を推進し、将来的には、恒常的な連携協力体制が構築できればと考えている。

本校としては、法人化以後、効率化という名目で毎年着実に運営費交付金が削減されている 現状があり、如何にして資金を外部から導入するかが今後の生き残りのための重要課題となっ ている。

今後とも、連携協力を推進し、技術開発に努力していきたい。

(参考)

平成17年8月24日現在外部資金導入実績

- 1. 寄附金 5件で6,300,000円
- 2. 共同研究 4 件で 1,300,000 円
- 3. 科学研究費補助金 38件申請した内から4件が採択された。 新規 4件 3,500,000円 継続 2件 1,100,000円

(出典 平成17年度運営懇話会報告書)

詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

2. 詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

1. 目的

本校の教育・研究及び学校運営等について、学外の有識者による助言を広く求めることにより、本校の学校改善に資することを目的とする。

2. 実施時期

平成17年9月21日(水) 14:00~17:30

- 3. 次 第
- (1) 開 会
- (2) 校長あいさつ
- (3) 出席者紹介
- (4)議事
 - ① 昨年度の運営懇話会における意見に対する本校の対応
 - ② 養成すべき人材像について -本校の教育目的とその取組み状況について-
- (5)閉会

(出典 平成17年度運営懇話会報告書)

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況(1/5)

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況

1 目的・目標関連

(ご意見)

学校の目標・目的についても、激減する社会情勢の中にあって、定期的に見直し、時流に沿ったものに修正してほしい。

社会が要望するカリキュラムを積極的に取り入れるとともに、進歩している技術も積極的に取り入れて欲しい。(真鍋委員)

(本校の対応)

趣旨と少し違うが、平成 19 年度に受審する機関別認証評価のために平成 14 年に制定した学習教育目標を見直し、新たに「F:運動能力の維持向上に努め、規律正しい団体行動がとれるようになる」という学習教育目標とそれによる学習成果、達成度基準を設けた。

(ご意見)

昨年の運営懇話会の資料に比べ今年は、非常に中身の濃い系統だったものに仕上がっている と思う。この取り組みを継続するとともに年度末で達成度等を検証して欲しい。掲げる目標も 漠然としたものではなく、数値目標であればさらに良いと思う。(織田委員)

平成17年度初めに計画された目標にそって取り組んでいただきたい。重要なことは目標に対して取り組んだ結果がどうだったかを反省し、改善に向けて着実に実施することである。 (織田委員)

(本校の対応)

昨年度の始めに各部署で平成 17 年度に取り組んで達成する目標を,昨年度の運営懇話会で発表させて頂いた。その目標達成のための取り組みと,その結果報告を取りまとめて平成 17 年度の年報を作成した。年報には,目標,取り組み,結果,評価と次年度の取り組みを記している。

年報は今回が初版であり、教育改善という趣旨の徹底が不十分、公表資料としての質のレベルが低い、様式の統一ができていない、などの反省がなされました。年度毎にPDCAを回して、その年度の記録として年報を今後も作成し、教育改善に役立てて行きたい。

2 評価関連

(ご意見)

期待する教育内容について卒業生等にアンケートを行う際には、年代別に分けるとか、企業 用又は大学用に分けた質問をすることで、それぞれのニーズがつかみやすくなるのではないか。 (織田委員)

(本校の対応)

Webによるアンケートシステムを作成し、立ち上げた。卒業生に、本校が教育すべき能力である学習教育目標についてこれでよいか、卒業時にこれらの能力がどの程度身に付いていたか、本校で教育すべき能力として他にどんな能力が必要か、等を尋ねるアンケート調査に協力をお願いした。今後、企業に対しても、本校の卒業生の能力、企業が卒業生に求める能力等についてのアンケート調査に協力をお願いしようと進路指導室長と相談している。

第一線で活躍する卒業生を招いて講演をしていただくことにした。昨年度は、世界で最軽量のノート型パソコンを開発したチームの一員である、星野央行氏に講演していただいた。

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況(2/5)

(ご意見)

評価の作業にあたっては、データを蓄積していく必要があるが、詫間電波高専ではデータベースシステムによるコンピュータ管理が行われているのか。(木内委員)

組織的にデータベースシステムを整備する等,多角的に利用できるシステムをぜひ作成してもらいたい。(山崎座長)

(本校の対応)

提言いただきました、組織的なデータベースシステムを構築しコンピュータによるデータ管理を行うことは着手できていない。現段階でのデータベースは、成績処理を行う教務システムのみである。答案用紙等を電子ファイル化して保存することは行ったが、データベースと言えるものではない。平成19年度の次の認証評価までには整備が必要と考えている。

3 教育関連

(ご意見)

一般教育についての説明に、技術者としての倫理を教育するという説明があり、これはぜひ 進めてもらいたいし、大切にしていただきたいと思った。(織田委員)

(本校の対応)

技術者倫理については、専攻科でしか教育していない。平成 17 年度から、集中講義で「環境と人間」の選択科目を開講した。 人間活動に起因する環境問題を取り上げ、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨のメカニズムについて理解を深め、国内における大気汚染、水質汚染、土壌汚染の現状、発生メカニズム、影響、対応策について学び、さまざまな化学物質による環境汚染問題を理解させている。今後、必修科目での開講が課題である。

(ご意見)

理科離れが指摘され、その対応に出前授業や興味ある実験等を実施するなどしている。理科 は非常に大切であり、日本の技術力はまだまだ低いものではない。技術力はあるので高めてい くことが大事である。企業は、優秀な技術者を求めている。少子化の中で志願者が減少してい るが、今後とも優秀な技術者を育成していただきたい。(古賀委員)

(本校の対応)

工学の楽しさを教えるために、小学校や中学校へ出前授業を行った。工学の楽しさを知って もらい、理科離れを防ぎ、資質の高い中学生に本校を志望していただくことが、学生募集にも っとも効果があると考えている。

(ご音見)

留学生に対して日本人学生による個人毎のサポート制度を取り入れてはどうか。日本語と英語でコミュニケーションをとり、各種手続等を行う際にサポートすれば日本人学生は語学(英語等)の実践教育ができる。(織田委員)

日本人学生による個人ごとのサポート制度を寮生活にも取り入れ、その際は、サポート役の学生を、学生生活のサポート役以外の人にして実施してはどうか。この制度により、年間8人程度の留学生に対し、16人程度の日本人学生の語学研修を実施することができる。(織田委員)

(本校の対応)

留学生が減少し、組織的に提言頂いたようなサポートシステムを立ち上げることはできていない。

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況(3/5)

4 寮生活関連

(ご意見)

今の時代に求められている礼儀等をきっちり身に付けさせて社会に送り出すことが重要であり、ぜひ、取り組んで欲しい。(遠山委員)

(本校の対応)

学寮では、社会人として集団生活に適応できる学生を育成することを目的としている。平成 17年度の重点目標の一つに「規則正しい生活と寮内における挨拶を徹底させる。」を掲げ、 取り組んだ結果、寮委員(学生)及び教員が評価を行った結果、概ね良好との意見が多かった。 今後も規則正しい生活の意義と効用を理解させ、規則正しい生活ができるよう働きかける。

5 進路指導関連

(ご意見)

地元企業との就職面談会を継続して実施され、地元企業してありがたい。ぜひ、継続・拡大 してほしい。(真鍋委員)

地元企業への就職が年々増えているとの説明があったが、世界に羽ばたくのも大事だが地元 で活躍する先輩がいることも大きなアピールになるので、地元就職についてもさらにご尽力願 いたい。(藤田委員)

(本校の対応)

昨年度に引き続き平成18年度卒業予定者に対して、平成18年3月2日企業面談会を実施した。参加企業数は36社で、学生にとっては企業を知る良い機会となった。近年、地元に就職を希望する学生が増えている。本社の所在地と採用先で異なる場合が多く正確な数は把握できないが、平成17年度卒業者の地元就職者は約3割であると考えられる。

(ご意見)

現在半数の学生が進学し、半数が就職しているようだが、詫間電波高専の顧客は大学であり、 また、企業である。当然学生に対するニーズも異なると思うが、その点を今後どのように教育 改善に繋げていくのか検討されたい。(織田委員)

(本校の対応)

進路指導室では、教員1名の体制を2名に増やし、より多くの企業と接すること及び学生への対応時間を増やすことが可能になった。また、平成18年1月から来校された企業や求人票、希望調査の集計をWEBに掲載し、学内のパソコンから随時情報を得ることができるようにした。

平成17年度卒業生には、豊橋・長岡技術科学大学の大学説明会を開催した。平成18年度は、地元大学や希望者が多い企業のOB等を通じて説明会を依頼し開催する予定である。

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況(4/5)

6 地域連携関連

(ご意見)

詫間町は、今後とも密接な関係を持って支え支えられる関係を保ちたい。地域としては、詫間電波高専が大切であり重要な拠点であるので、このような会議を通して各界のご意見を聴き、さらに充実していくことを願う。(横山委員)

(本校の対応)

平成18年3月に三豊市と連携協力協定を締結した。この協定は、平成17年度6月に詫間町と締結していた連携協力協定を、市町村合併により、承継するものである。地域の振興、発展、教育研究の充実及び人材育成に寄与することを目的にし、その内容は、①共同研究②産業振興、③教育④生涯学習の推進のために連携し、協力を行うものである。具体的な内容については、今後推進会議により決定する。

また、文部科学省の平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラムにおいて、「地域活性化への貢献(地元密着型)」のテーマに申請し、取組名称「ものづくり」による地域連携プログラムが選定された。現在「地域再生計画」と連動していないものの、今後連携協力により、地域と連携した創造性教育を実現していくこととなる。

(ご意見)

地域との協力協定を結ばれてやっておられるが、この目標は、学校自体が地域と連携するのか。あるいはその中に学生に関与させるのか。地域との関わりを学生に知って貰うことが大事だと思う。学生のプレゼンテーション能力とかコミュニケーション能力の向上のため工夫されているが、プロジェクト研究会やサイエンス・パートナーシップ等の地域連携関係行事に学生を参加させることが重要であると思う。電子制御工学科の説明にあったが、技術相談に学生を参加させるといったような取り組みはぜひやってもらいたい。(横井委員)

(本校の対応)

地域との連携に対し、学生が関与する取り組みを実践している。サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業において、地元小学生の参加児童約180名に、学生10名が簡単なロボット作製を指導した。また、技術相談においては、詫間町のホームページのトップページ更新に情報工学科学生が参加した。

(ご意見)

町と学校との連携に加え、知に関しては、何でも相談できる知の窓口となるようなネットワークづくりを是非実現して欲しい。それがますますの地域貢献に繋がる。(真鍋委員)

(本校の対応)

現在,地域交流室を中心に本校のサービスメニュー(出前授業,イベントの出し物,技術講座等)を作成したいと考えている。

他高専,他大学との連携協力により,知の窓口となるネットワークづくりを検討していく必要がある。

平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況(5/5)

7 国際交流関連

(ご意見)

国際化に向けてのビジョン,国際交流を学生の人材育成にどう活用しようとしているのか。 (木内委員)

(本校の対応)

国際交流協定を締結した東洋工業専門大学との交流に対する基本的な姿勢は、次のとおりである。

- (1)「健全な心身を持ち、チャレンジ精神に富んだ、国際的に活躍できる技術者」を育成する教育環境の1つとして東洋工業専門大学との交流を位置づけ、教育に活用する。
- (2)「技術の発展に対応できる技術者を育成する。」べく努力している本校と同じような状況にある東洋工業専門大学の教育方法等を参考にして、本校の教育に活用する。 期待される教育効果は、文化や伝統、考え方が異なる「外国の方々と心のこもった交流ができること。」が国際的に活躍できる技術者の大切な資質であり、実践の場でこの資質を育むことができる。

今年度は、平成18年7月31日から平成18年8月5日の期間で、東洋工業専門大学の教員3名と学生4名の訪問を受け入れて研修を行った。研修プログラムの内容は(1)集積回路設計、(2)集積回路製作実習、(3) FMワイヤレス・マイクロホンの製作実習で、実習では本校の5年生がティーチング・アシスタントを務めた。他に、専攻科生が研究概要の発表を英語で行った。今回の交流によって、専攻生と補助学生は英会話できる語学力の必要性を痛感した。彼等の勉学意欲が湧いたことだけでも交流の意義はあったと思われる。

8 外部資金関連

(ご意見)

科学研究費補助金について大学では全員が必ず申請するよう努力させている。徳島大学においては多くの科学研究費補助金を獲得しているので、詫間電波高専においてもぜひ努力してほしい。(山崎座長)

(本校の対応)

科学研究費補助金の採択に向け、平成17年度に、徳島大学木内教授の講演を行った。平成18年度採択状況は45件新規申請し、継続3件、新規(奨励研究)3件、総額3,620千円採択された。科学研究費補助金の獲得に向け、今後も努力していかなければならない。

現在,受託研究は2件,共同研究は3件,寄附金は5件で,昨年の同時期と比べほぼ同数であるが,今後さらなる共同研究の受入れも予定されており,昨年と同程度の獲得が見込める模様である。(参考 平成17年度科研6件,受託研究1件,共同研究7件,寄附金9件)

本校では地域交流室が、地域産業の振興及び地域社会との連携・協力の推進拠点として技術相談、地域協力等の地域交流活動を展開している。(技術相談、出前授業、産学官交流会、イベントへの出展等)

(ご意見)

かがわ産業技術支援財団の支援事業にひき続き申請願いたい。(横井委員)

(本校の対応)

本年度も産学官技術シーズ調査事業に申請を行った結果,テーマ「呼吸モニターを用いた居眠り防止・無呼吸探知システム」が選定され,1,000千円交付決定された。

(出典 平成18年度運営懇話会報告書)

詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

2. 詫間電波工業高等専門学校運営懇話会実施要領

1. 目的

本校の教育・研究及び学校運営等について、学外の有識者による助言 を広く求めることにより、本校の学校改善に資することを目的とする。

2. 実施時期

平成18年9月29日(金) 14:00~17:30

- 3. 次 第
- (1) 開 会
- (2) 校長あいさつ
- (3) 出席者紹介

(4)議事

- ① 平成17年度の運営懇話会での提言に対するその後の状況
- ② 自己点検の状況について
- (5)閉会

(出典 平成 18 年度運営懇話会報告書)

(分析結果とその根拠理由)

運営懇話会での有識者による意見は、企画運営委員会で報告され、具体的な改善策をとりまとめ、 本校の施策へフィードバックするための努力がなされている。対応状況は、翌年度の運営懇話会で 説明している。

観点11-3-①: 自己点検・評価(や第三者評価)が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

自己点検の実施組織は、各学科及び一般教科、事務部のほか点検評価委員会が指定する委員会である。平成 5 年以降実施し、報告書等を発行している(資料 11-3-①-1)。点検評価項目は、点検・評価規程に規定され本校の教育理念及び目標、教育活動、研究活動、施設設備等 9 項目にわたる総合的な内容である(資料 11-3-①-2, 3)。

報告書は、文部科学省、全高専、県教育委員会、中学校長会等教育関係団体、地元地方自治体、新聞社、放送局報道機関等に送付し、公表している。

平成17年度からは、部署毎に年度初めに目標を立て、1年をかけて実行し、年度末に点検評価して、それらをまとめて年報として公表することとした(資料 $11-3- \mathbb{Q}-4$, 5)。

資料 11-3-①-1

報告書作成履歴

・平成 5年11月 詫間電波工業高等専門学校の現状 (第1集)

・平成 8年12月 詫間電波工業高等専門学校の現状(第2集)

・平成12年 2月 混合学級の現状と課題

・平成12年 6月 自己点検・評価報告書(学生による授業評価 中間報告)

・平成13年 3月 自己点検・評価報告書(平成12年度 学生による授業評価)

·平成13年 3月 外部評価報告書

-豊かな人間性と創造性を育む魅力ある高専をめざして-

・平成15年 1月 点検・評価報告書(第3版)

第1部 現状と課題

第2部 外部評価への取り組み

·平成18年 9月 平成17年度年報

平成19年 4月 平成18年度年報

(出典 総務課企画係)

詫間電波工業高等専門学校点検・評価規程

(趣旨)

第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校の教育研究活動状況等の点検・評価に関して必要な事項を定めるものとする。

(自己点検・評価実施組織)

- 第2条 自己点検・評価を行う組織は、次のとおりとする。
 - 一 各学科及び一般教科
 - 二 自己点検・評価委員会が指定する各種委員会
 - 三 事務部

(自己点検・評価事項)

- 第3条 自己点検・評価を行う事項は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - 一 基本理念及び目標に関すること
 - 二 教育活動に関すること
 - 三 研究活動に関すること
 - 四 国際交流に関すること
 - 五 地域及び社会との連携に関すること
 - 六 施設設備に関すること
 - 七 学校運営に関すること
 - 八 自己評価体制に関すること
 - 九 その他自己点検・評価委員会が定める事項に関すること

(自己点検・評価の実施)

- 第4条 自己点検・評価は、毎年又は3年ごとに実施する。
- 2 自己点検・評価を行った組織は、その結果を自己点検・評価委員会に報告するものとする。 (外部評価委員会の設置)
- 第5条 学外の有識者による評価を行う組織(以下「外部評価委員会」という。)を必要に応じ 設置する。

(外部評価委員会の構成等)

- 第6条 外部評価委員会は、委員長及び若干名の委員をもって構成する。
- 2 外部評価委員会の委員長及び委員は、校長が委嘱する。
- 3 外部評価委員会の委員長及び委員の任期は,評価の実施に必要な期間とする。 (外部評価報告)
- 第7条 外部評価委員会は、評価結果を校長に報告するものとする。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

点検評価報告書(1/4)

目 次

まえがき	1
第1部 現状と課題	
本校の概況	2
I 教育理念・目標等	3
1 全学的な基本理念及び目標	3
2 全学的な教育理念(校訓)	- 1
4 全学的な今後の課題	4
5 全学的な将来構想	8
6 各学科における教育目標,課題,将来構想	10
II 教育活動	20
1 学生の受入れ	20
1・1 学生募集・入学者選抜の方針と実施状況	20
1・2 編入生の受入れ方針と実施状況	23
1・3 留学生, 研究生, 聴講生, 科目等履修生の受入れ方針と実施状況	24
1・4 今後の課題	24
2 カリキュラムの編成	25
2・1 カリキュラムの編成方針と教育理念・目標との関係	25
2・2 一般教育の内容とカリキュラム全体における位置付け	26
2・3 専門教育の内容とカリキュラム全体における位置付け	30
2・4 カリキュラムの編成及び見直しの方法・体制	43
2・5 今後の課題	43
3 教育指導の在り方	44
3・1 シラバス (授業計画)の作成状況	44
3・2 カリキュラム・ガイダンスの実施状況	44
3・3 クラスの指導方針と実施状況	45
	46
3・5 混合学級の実施状況	46
	46
	47
	49
- Company of the Same Asia	58
	59
	59
	62 72
	72
and the second s	75
	77

点検評価報告書(2/4)

	4	教授方法の工夫・研究	83
	4	・1 教授方法の工夫・研究のための取り組み状況と成果	83
	4	2 教育活動に対する評価の工夫状況	88
	4	·3 学生による授業評価	90
	4	・4 今後の課題	100
	5	成績評価,単位認定	103
	5	1 成績評価,単位認定の在り方・基準	103
		2 今後の課題	104
	6	厚生補導	105
	6	1 学生指導	105
	6	· 2 課外活動	108
	6	・3 福利厚生	109
	6	· 4 研修状況	111
	6	5 講演会	111
	6	6 今後の課題	112
	7	学生寮	113
	7	・ 1 学生寮の運営状況	113
	7	· 2 寮生活の指導 ·	115
		3 女子寮	116
	7	4 留学生への対応	116
	7	・5 今後の課題	116
	8	進路指導	117
		1 進路指導の方針と状況	117
	8	・2 就職状況及び進学状況	117
	8	・3 今後の課題	120
I		究活動	121
	1	研究成果の発表状況	121
	2	学会活動への寄与及び参加状況	123
	3	科学研究費補助金申請・採択状況	127
	4	外部資金の受入れ状況	128
		・ 1 奨学寄附金	128
		2 受託研究	129
		- 3 民間等との共同研究	129
	5	研究員の派遣状況	130
	6	学位の取得状況	130
	7	研究紀要の編集方法と発行状況	132
	· F	 陸 な流	199
I		100	133
	1	H 1 TOXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	133
			133
	_	・2 留学生の指導状況	134 135
	3	国際会議への参加状況	135
	4	海外の教育機関との交流状況	138
	5	今後の課題	138
	9	/ ISK Y / ISK KO	100

点検評価報告書(3/4)

V	莲	崔学連携等地域との連携	139
	1	地域交流室の設置	139
	2	地域交流室の活動	139
	2	・ 1 広報活動	139
	2	・ 2 地域共同テクノセンター構想と概算要求	141
	2	・ 3 地域企業との連携をめざしての取り組み	141
	3	公開講座の開設状況	143
	4	社会の生涯学習事業に対する連携協力状況	144
	5	地域社会等への協力参加状況	144
	6	学校施設の開放の方針と実施状況	145
	7	今後の課題	145
VI	ħ	色設設備	147
	1	施設設備の整備状況	147
	2	共同利用施設の運用状況	151
	2	・ 1 情報処理センター	151
	2	・ 2 集積回路実験室	156
	2	・3 七宝記念館	156
	3		157
	3	・ 1 施設設備の整備,運用状況	157
		・2 図書館の利用状況	159
	3	・3 学術情報システムの整備活用状況	160
	3	・4 学生の図書館活動の現状	161
	4	今後の課題	162
VII	4	学校運営	164
	1	校務活動状況	164
	2	財務状況	168
	3	人事交流状況	168
	4	広報活動状況	169
	5	安全対策状況	170
	6	事務組織	170
	6	- 1 庶務課	170
	6		171
	6	· 3 学生課	171
	7	保護者との連携状況	172
	8	今後の課題	173
VII		自己評価体制	174
	1	評価をフィードバックするための仕組み	174
	2	詫間電波工業高等専門学校点検・評価規程	174
	3	占焓,輕価悉員会悉員名簿	175

点検評価報告書(4/4)

第2部 外部評価への取り組み

I	夘	部評価実施の経過	176
	1	外部評価委員会の発足と実施	176
	2	外部評価委員会委員	176
	3	実施方法	176
	3.	1 日時・場所	176
	3.	2 出席者リスト	176
	3.	3 日程	177
	4	外部評価の公表	178
П	外	部評価委員による提言に対する本校の取り組み	178
Ш	外	部評価委員の提言に対する本校の取り組む姿勢	178
	1	設置理由	178
	2	教育理念・目標	179
	3	教育課程及び教育活動	179
	3.	1 教育課程	179
	3.	2 教育活動	181
	3.	3 学生の進路指導	181
	3.	the design of the second secon	181
	3.	5 学生活動	182
	3.	6 学生寮	182
	4	研究活動	182
	5	組織・管理運営	182
	6	入試広報活動	183
	7	地域交流・貢献	183
	8	国際交流・貢献	184
	9	専攻科の設置	184
	10	広報活動	184
	-	then find and	
あ	とが	(*	185
		-	

(出典 点検評価報告書(第3版)平成15年1月発行)

平成17年度年報(1/4)

目 次

まえがき

I	教育活動

1. 学生	の受け入れ	
1. 1	入学志願者数の確保(教務)	1
2. 学生		
2. 1	交通指導(学生)	
2. 2	学生会活動(学生)	
2. 3	風紀 (学生)	
2. 4	学生の意見の反映 (学生)	8
3. 寮生	活	
3. 1	規則正しい生活と挨拶 (寮務)	9
3. 2	清掃 (寮務)	10
4. 教育	支援	
4. 1	成績不振者対策(教務)	12
4. 2	マルティメディア (英語科)	14
4. 3	英語合宿(英語科)	15
4. 4	資格試験(英語科)	
4. 5	コミュニケーション能力の向上(国語科)	
4. 6	社会的な常識の育成及び思考の訓練(社会科)	20
4. 7	マルチメディアを用いての歴史教育(社会科)	22
4.8	新入生の基礎学力の向上(数学科)	24
4. 9	微分積分学における学力差の解消(数学科)	26
4.10	学生の学力の定着・向上 (数学科)	28
4.11	学生の学力の定着・向上 (数学科)	30
4.12	実験の方法とデータの読み取り方の定着(理科)	31
4.13	運動能力と体力の維持向上(体育科)	32
4.14	人間性・情操教育(芸術)	33
4.15	授業内容の開発(情報通信工学科)	34
4.16	モデル授業の公開(情報通信工学科)	36
4.17	工学実験テーマの開発・導入(情報通信工学科)	38
4.18	資格関係 (情報通信工学科)	40
4.19	工学実験の充実(電子工学科)	42
4.20	卒業研究の充実(電子工学科)	44
4.21	研究ノートの活用 (電子制御工学科)	46
4.22	工学実験へのPBLの導入(電子制御工学科)	48
4.23	資格取得の奨励(電子制御工学科)	49
4.24	教育内容の改善(情報工学科)	50
4.25	主体的学習能力の涵養(情報工学科)	52
4.26	技術者倫理教育の充実(専攻科)	
4.27		56
4.28	コミュニケーション能力の涵養 (専攻科)	62
4.29		64
4.30	設備の Web 上での公開(集積回路実験室)	
4.31	設備取り扱い講習会の実施(集積回路実験室)	67
4.32	共同研究の実施(集積回路実験室)	69
	TO THE PARTY OF TH	195

平成17年度年報(2/4)

6. 進路指導 6.1 就職・進学情報の幅広い提供(進路指導室) 75 II 研究成果 81 2. 学外からの研究費の受入れ 91 III 施設・設備の整備及び運用 9 2 3 1.2 教育環境の整備(図書館) 93 1.2 教育環境の整備(図書館) 95 1.3 専攻科 99 IV 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 109 2. 地域交流室の活動 2.1 教員総覧の作成 100 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 111 2.5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 連営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VI 管理運営及び組織 1. 広程圧動	5. FD 5.1 マルチメディアを利用した授業実践(英語)70 5.2 教授方法の改善(電子工学科)73
1. 研究成果 81 2. 学外からの研究費の受入れ 91 III 施設・設備の整備及び運用 1. 施設・設備の整備 1.1 自習室の整備 (図書館) 93 1.2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95 1.3 専攻科 99 IV 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 1. 最近5年間の活動状況と平成17年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前投業・理科教室 111 2.4 出前投業・理科教室 111 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135	
2. 学外からの研究費の受入れ 91 III 施設・設備の整備及び運用 1. 施設・設備の整備 1.1 自習室の整備 (図書館) 93 1.2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95 1.3 専攻科 99 IV 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 1. 最近5年間の活動状況と平成17年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 111 2.4 出前授業・理科教室 111 2.5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VII 管理運営及び組織	II 研究成果
 Ⅲ 施設・設備の整備及び運用 1. 施設・設備の整備(図書館) 93 1. 2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95 1. 3 専攻科 99 Ⅳ 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 1. 最近5年間の活動状況と平成17年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 111 2.5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 Ⅵ 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 Ⅷ 管理運営及び組織 	1. 研究成果 81
1. 施設・設備の整備 1. 1 自習室の整備(図書館) 93 1. 2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95 1. 3 専攻科 99 IV 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 1. 最近 5 年間の活動状況と平成 1 7 年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2. 1 教員総覧の作成 110 2. 2 技術相談 110 2. 2 技術相談 110 2. 3 公開講座 111 2. 4 出前授業・理科教室 111 2. 4 出前授業・理科教室 111 2. 5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135	2. 学外からの研究費の受入れ 91
1. 1 自習室の整備(図書館) 93 1. 2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95 1. 3 専攻科 99 IV 国際交流 1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 1. 最近5年間の活動状況と平成17年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 111 2.4 出前授業・理科教室 111 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VI 管理運営及び組織	Ⅲ 施設・設備の整備及び運用
1. 東洋工業専門大学との交流 105 V 産学連携等地域との連携 109 2. 地域交流室の活動 109 2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 114 2.5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VI 管理運営及び組織	1.1 自習室の整備(図書館) 93 1.2 教育環境の整備・技術支援(情報処理センター) 95
V 産学連携等地域との連携 109 1. 最近 5 年間の活動状況と平成 1 7 年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 110 2. 1 教員総覧の作成 110 2. 2 技術相談 110 2. 3 公開講座 111 2. 4 出前授業・理科教室 114 2. 5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VII 管理運営及び組織	IV 国際交流
1. 最近 5 年間の活動状況と平成 1 7 年度の目標 109 2. 地域交流室の活動 2. 1 教員総覧の作成 110 2. 2 技術相談 110 2. 3 公開講座 111 2. 4 出前授業・理科教室 114 2. 5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135	1. 東洋工業専門大学との交流105
2. 地域交流室の活動 2. 1 教員総覧の作成	V 産学連携等地域との連携
2. 1 教員総覧の作成 110 2. 2 技術相談 110 2. 3 公開講座 111 2. 4 出前授業・理科教室 114 2. 5 プロジェクト研究報告会 115 3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118 VI 外部評価 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VI 管理運営及び組織	1. 最近5年間の活動状況と平成17年度の目標 109
VI 外部評価 1. 運営懇話会 123 2. 学習教育目標に対するアンケート 135 VII 管理運営及び組織 135	2.1 教員総覧の作成 110 2.2 技術相談 110 2.3 公開講座 111 2.4 出前授業・理科教室 114
 1. 運営懇話会	3. 三豊市及び香川銀行との連携協力 118
2. 学習教育目標に対するアンケート	VI 外部評価
VII 管理運営及び組織	1. 運営懇話会 123
	2. 学習教育目標に対するアンケート 135
1 广规汗動 120	VII 管理運営及び組織
1. /公報伯勤	
2. 事務の2課体制 148	1. 広報活動 139
	VI 外部評価 1. 運営懇話会

平成17年度年報 (3/4) 入学志願者数の確保 (教務)

1. 目的

アドミッションポリシーに沿って適切な学生を選抜し、入学定員数だけ受け入れる。

2. 平成17年度の目標

入学試験の志願者数が定員数を下回らないようにする。

3. 手段

- ・ 中西讃地区, 高松地区, 徳島県西部地区に重点を置いた募集活動を行った。
- (1) 中西讃の中学校を4月~7月の期間に、年間スケジュール、体験入学の案内を兼ねて2回訪問。
- (2) 徳島県, 岡山県, 愛媛県での合同説明会はやめ, 代わりに中学校を個別に訪問した。
- (3) 広島県の中学校訪問を取りやめて、高松地区、東讃地区、徳島県西部地区の中学校を訪問した。
- ・ 本校での募集説明会を、マルチメディアラーニングラボで、校長、教務主事、学科長の説明に加え、 後半は学生による学校説明を行ない、学校の現状を伝える努力を行なった。
- ・ 中西讃地区中学校の学校説明会に加え、湯口塾が催す学校説明会にも2回参加した。
- 体験入学、オープンキャンパスの充実に力を注いだ。

4. 評価方法

体験入学の参加者数

平成 17 年 8 月 20 日 (土), 21 日(日)に実施された体験入学では、中学生の参加者数は過去 5 年間で最も多かった。表 1 から分かるように体験入学の参加者数と入試の志願者数に相関があるだけに、大幅の志願者増が期待された。

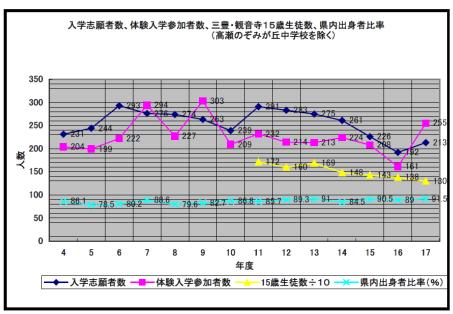


図1 体験入学の参加者数の推移

平成17年度年報(4/4)

・ 地域ごとの入学志願者数の変化 (近県の志願者数) 県外からの志願者数は、表2に示すように減る傾向にあり、特に岡山県、広島県は激減している。

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
香川県	220	204	250	255	252	225	205	171	195
愛媛県	13	10	14	9	11	18	7	8	10
徳島県	2	10	16	6	7	10	7	9	5
高知県	1	1	0	1	1	0	0	1	0
小計	236	225	280	271	271	253	219	189	210
岡山県	15	10	5	7	4	5	4	3	1
広島県	6	1	4	2	0	1	0	0	1
小計	21	11	9	9	4	6	4	3	2
その他	6	3	2	3	0	2	3	0	1
合計	263	239	291	283	275	261	226	192	213

表 1 県別志願者数

5. 成果

- ・ 体験入学参加者が増加した。これは、4月~7月の中学校訪問とそのときに持参したポスターがよかったことによる成果である。ただ、体験入学参加者数の割には、入試受験者数は伸びなかった。
- ・ 平成 18 年度の入学試験志願者数は、15 歳人口減少の中で定員割れすることなく、昨年より 21 名増加した。高松地区の志願者は、平成 17 年度 9 名から 18 年度 13 名と 4 名増加した。

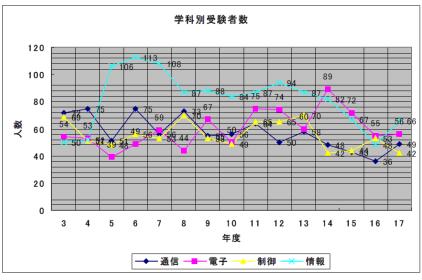


図2 学科別受験者数の推移

6. これからの取り組み

- ・ 中西讃地区の15歳人口の減少する中で、中西讃地区中学校からの志願者数の確保を図る。
- (1) 中学校の先生、保護者の期待を裏切らないように、質の高い教育を行なう。
- ・ 高松地区の志願者増を図る。
 - (1) 広島県、愛媛県の中南予地区の中学校訪問を取りやめ、高松地区の訪問回数を増やす。
 - (2) 高松地区で体験入学、オープンキャンバスのような催しを開催する。

(出典 平成17年度年報)

平成18年度年報(1/2)

目 次

まえがき

-	1
т	教育活動
	郊 日 (山里)

1
3
5
8
9
11 13
13
15
17
19
21
23
24
26
28
30
32
33
34
35
37
39
41
43
45
47
48
50
52
5 <u>4</u>
56
58
63
66
68
69

資料11-	3 - (1) - 5

平成18年度年報	(2	/	2)
----------	----	---	----

平成18年度年報(2/2)
5. FD 5.1 教授方法の改善(電子工学科) 71 5.2 教授方法の改善(情報工学科) 73
6. 教育実践活動 6.1 教育実践シンポジウムの開催 75
7. 進路指導 6.1 進路満足度調査(進路指導室) 95
Ⅱ 研究成果
1. 研究論文等 97
2. 学外からの研究費の受入れ 104
Ⅲ 施設・設備の整備及び運用
1. 施設・設備の整備 1.1 教育研究用図書の整理(図書館) 107 1.2 システムの更新(情報処理センター) 108
IV 国際交流
1. 東洋工業専門大学との交流(夏季研修受入実施報告書) 111
V 産学連携等地域との連携
1. 最近 5 年間の活動状況 125
2. 平成 18 年度の活動記録 125
VI 外部評価
1. 運営懇話会 139

(出典 平成18年度年報)

(分析結果とその根拠理由)

本校の自己点検・評価は本校の活動の総合的な項目について行われており、評価結果についても、報告書として公表されている。

観点11-3-②: 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度運営懇話会において,前年度の懇話会での意見に対して,自学自習,学生の社会見学・体験,行政との連携,企業トップの体験談,財団の研究助成への応募等々,改善状況を説明した。平成 18 年度運営懇話会において,前年度の懇話会で意見された,年度目標を立て1年ごとの PDCA サイクルを回すこと,卒業生に対するアンケートの実施,企業や大学のニーズ把握,優秀な技術者育成等に関して,改善状況を説明した。

本校では,運営改善委員会が,各部署に具体的年度目標を作成するよう指示し,各部署は実行の後,自己点検・評価して点検評価委員会に報告する。点検評価委員会では,自己点検に対する評価を行って企画運営委員会に報告を行う。企画運営委員会では,報告をもとに運営上の調整をした後,学校の組織目標・計画を定めて運営改善委員会に具体的改善策の策定を付託するとともに,各部署の年度目標を検討させることで改善を図るしくみとしている。教育に限定されるものは教務委員会で審議される(資料 11-1-10-6,資料 $11-3-20-1\sim4$)。

資料 11-3-2-1

詫間電波工業高等専門学校運営改善委員会規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 運営改善委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)
- 第2条 委員会は、教育・研究及び学校運営の改善について審議する。 (構成)
- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 副校長及び校長補佐
 - 二 専攻科長
 - 三 各学科長及び一般教科長
 - 四 図書館長、情報処理センター長、集積回路実験室長及び地域交流室長
 - 五 進路指導室長
 - 六 事務部長
 - 七 総務課長及び学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、副校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (報告)
- 第7条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)
- 第8条 委員会の事務は、総務課企画係において処理する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

資料 11-3-2-2

詫間電波工業高等専門学校点検評価委員会規程

(趣旨)

- 第1条 この規程は、詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき、 点検評価委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)
- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 教育・研究及び学校運営(施設の有効利用を含む。)に関する点検・評価の実施計画の策定及び実施に関すること
 - 二 点検・評価結果の公表に関すること
 - 三 その他自己点検・評価に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 校長
 - 二 副校長及び校長補佐
 - 三 専攻科長
 - 四 各学科長及び一般教科長
 - 五 進路指導室長
 - 六 図書館長,情報処理センター長,集積回路実験室長及び地域交流室長
 - 七 事務部長
 - 八 総務課長及び学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (専門部会)
- 第5条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。 (委員以外の者の出席)
- 第6条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (事務)
- 第7条 委員会の事務は、総務課企画係において処理する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附具

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

資料 11-3-2-3

詫間電波工業高等専門学校教務委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は, 詫間電波工業高等専門学校内部組織規程第16条第2項の規定に基づき, 教務委員会(以下「委員会」という。)について必要な事項を定めるものとする。 (目的)

- 第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。
 - 一 教育課程の編成及び改廃に関すること
 - 二 授業時間の編成に関すること
 - 三 学生の履修に関すること
 - 四 学業成績の評価等に関すること
 - 五 教務に係る学校行事に関すること
 - 六 教育・研究及び学校運営の改善(教育に関するものに限る。)に関すること
 - 七 その他教務に関すること

(構成)

- 第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。
 - 一 教務主事
 - 二 教務副主事
 - 三 教務主事補
 - 四 専攻科長
 - 五 各学科長及び一般教科長
 - 六 校長指名の者(教育改善、学習支援、FD) 若干名
 - 七 学生課長

(委員長)

- 第4条 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。 (任命)
- 第5条 第3条第6号に規定する委員は、校長が任命する。

(任期)

第6条 第3条第6号に規定する委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専門部会)

- 第7条 委員会に必要に応じ専門部会を置くことができる。
- 2 専門部会は、その審議内容を委員会に報告するものとする。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員長は、必要があるときは委員以外の者を出席させることができる。 (報告)

第9条 委員長は、必要に応じ委員会の審議結果を企画運営委員会に報告するものとする。 (事務)

第10条 委員会の事務は、学生課教務係において処理する。

附 則

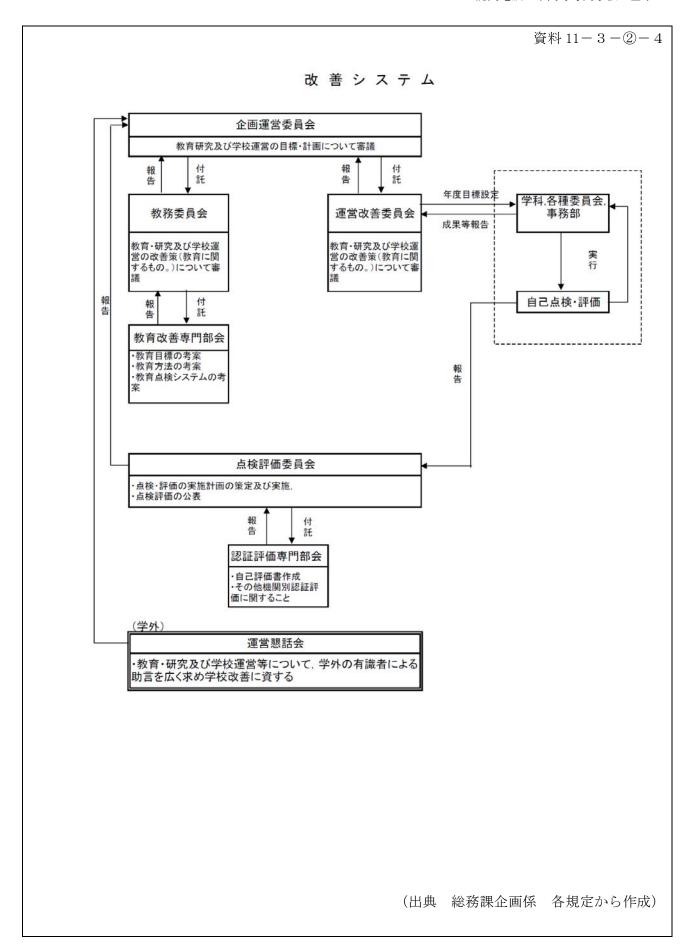
この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。



(分析結果とその根拠理由)

平成16年度の運営懇話会の開催以来,本校は外部有識者の意見を採り入れ,改善状況を説明してきた。また,平成17年度からは運営改善委員会を設置し,学校運営の改善に力を入れている。学科・共同利用施設等の実施組織と点検評価委員会と運営改善委員会の活動によりPDCAサイクルを回しスパイラルアップを目指した努力を継続していこうとしている。

評価結果がフィードバックされ, 高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるような システムが整備され, 有効に運営されている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・学外有識者による運営懇話会を開催し、そこで提案された意見等をフィードバックするための継 続的な努力を行っている。
- ・委員会の統合整理を行い、より円滑な意思決定が行えるシステムづくりに努力している。

(改善を要する点)

・中期的な点検評価報告書の作成について検討する。

(3) 基準11の自己評価の概要

本校では、各主事及び各委員会の役割が学則、内部組織規程、各種委員会規程により明確に定められている。各種委員会の委員は概ね各学科から1名選出され、各種委員会の議事内容は、毎月1回開催される企画運営委員会で報告される体制となっており、校長が学校全体の状況を把握している。重要な議題は、企画運営委員会で審議されるが、併せて、校長補佐会議、学科長会議などを開催して、効果的で迅速な意思決定が行われる体制となっている。

また、学外の有識者の意見を伺い、本校の運営に役立てるために、平成 16 年度より毎年運営懇話会を開催しており、そこでの提案や意見については企画運営委員会で報告され、取り組みを検討し、対応状況を次年度に報告している。学外の意見を学校運営のためにフィードバックするシステムが構築されている。

また、点検評価委員会において、1年間の取り組みに対する自己点検が行われ、それについて運営 改善委員会で教育研究や管理運営の改善について審議され、評価結果が確実にフィードバックされて 改善に結びつくシステムになっている。また、評価結果は報告書等で公表されている。